久留米市
障害者（児）実態調査
調査報告書

平成 18 年 3 月
久留米市

目　次

第１章　調査の概要

１．調査の目的 …… 1
２．調査設計と回収結果 …… 1
３．調査票の記入者 …… 2
４．調査の実施主体と集計分析機関 …… 2
５．調査結果の見方 …… 2

第２章　調査結果の概要

１．基本属性等 …… 3
（１）性別 …… 3
（２）年齢 …… 3
（３）障害を受けた時期 …… 4
（４）家族構成 …… 4
（５）身体障害者の基本属性 …… 5
（６）知的障害者の基本属性 …… 5
（７）精神障害者の基本属性 …… 5
２．生活自立度や外出の状況について …… 6
（１）日常生活動作の自立度 …… 6
（２）外出 …… 6
３．就労について …… 7
（１）就労状況 …… 7
（２）月収 …… 8
（３）仕事での悩み、仕事をする上で必要な条件整備 …… 9
４．福祉サービス等について …… 10
（１）福祉サービスの利用意向 …… 10
（２）精神障害者に必要な支援 …… 10
５．障害児の保育・教育について（身体・知的障害児） …… 11
（１）入学（園）について …… 11
（２）先生や友人の理解について …… 11
（３）教育に関する要望 …… 12
６．災害対策について …… 12
（１）災害時に頼れる人 …… 12
（２）災害時に心配なこと …… 13
７．生活全般について …… 13
（１）困っていることや将来に対する不安・悩み …… 13
（２）地域活動に参加するときに妨げとなること …… 14

８．将来の暮らし方について ・・・

５．福祉サービスについて ・・・

（４）福祉施設入所者の満足度 …… 113
（５）福祉施設入所者が希望する将来の暮らし方 …… 114
（６）福祉施設入所者が地域生活に移行するために必要な条件 …… 115
（７）在宅生活者の同居家族 …… 117
（８）在宅生活者の主な介助者 …… 119
（９）在宅生活者の主な介助者が介助できなくなった場合の対処方法 …… 120
（１０）住まいの改造希望 …… 122
（１１）在宅生活者が希望する将来の暮らし方 …… 123
３．就労について …… 124
（１）就労状況 …… 124
（２）仕事の種類 …… 125
（３）仕事を見つけた方法 …… 126
（４）月収 …… 127
（５）仕事上の悩みや困っていること …… 128
（６）仕事をしていない理由 …… 130
（７）仕事をする上で必要な条件整備 …… 132
４．外出について …… 134
（１）外出の状況 …… 134
（２）外出時の移動手段 …… 135
（３）外出時に不便や困難を感じること …… 136
５．福祉サービスについて …… 138
（１）福祉サービスの利用状況・利用意向 …… 138
（２）ホームヘルプの利用状況・利用意向 …… 140
（３）外出支援の利用状況・利用意向 …… 140
（４）デイサービス・デイケアの利用状況・利用意向 …… 141
（５）ショートステイの利用状況・利用意向 …… 141
（６）権利擁護関連制度の認知度・利用意向 …… 142
６．情報収集について …… 144
（１）福祉に関する情報入手先 …… 144
（２）福祉に関する情報の入手状況 …… 146
（３）インターネットの利用状況・利用内容 …… 147
７．災害対策について …… 149
（１）災害時に頼れる人 …… 149
（２）災害時に心配なこと …… 150
８．生活全般について …… 152
（１）困っていることや将来に対する不安・悩み …… 152
（２）困っていることや将来に対する不安・悩みの相談先 …… 154
（３）地域の人とのつきあい …… 156
（４）地域活動に参加するときに妨げとなること …… 158
（５）差別的な扱いを受けたり、いやな思いをした経験の有無 …… 160
９．福祉全般について …… 162
（１）ノーマライゼーションのまちづくり …… 162
（２）障害者福祉施策として重点的に進めるべきこと …… 163
１０．障害児の保育・教育等について …… 166
（１）障害の診断・判定 …… 166
（２）今後の生活等についての希望 …… 168
（３）日中の過ごし方（就学先） …… 169
（４）学校等への入学（園）について …… 170

（５）入学時の条件の有無 …… 171
（６）先生の理解 …… 172
（７）友達の理解 …… 173
（８）教育に関する要望 …… 174
（９）子育てで困っていることや将来に対する不安・悩み …… 176

第３節　精神障害者調査

１．基本属性 …… 178
（１）性別・年齢 …… 178
（２）同居家族 …… 179
（３）生活費の状況 …… 181
（４）現在の住まい …… 182
（５）精神科・神経科の初診時期 …… 183
（６）精神科・神経科の入院経験・入院期間 …… 184
（７）精神科・神経科の現在の受診回数 …… 185
２．心身状況及び生活状況 …… 186
（１）現在の症状 …… 186
（２）急に支援が必要になった場合の相談先 …… 187
（３）日常生活動作 …… 188
（４）日中の過ごし方 …… 190
（５）将来の日常生活に望むこと …… 192
３．就労について …… 194
（１）就労状況 …… 194
（２）仕事の種類 …… 195
（３）仕事を見つけた方法 …… 196
（４）月収 …… 197
（５）仕事上の悩みや困っていること …… 198
（６）仕事をしていない理由 …… 200
（７）仕事をする上で必要な条件整備 …… 202
４．外出について …… 204
（１）外出の状況 …… 204
（２）外出時の移動手段 …… 205
５．福祉サービスについて …… 206
（１）精神障害者保健福祉手帳の有無 …… 206
（２）精神障害者保健福祉手帳を持っていない理由 …… 207
（３）福祉サービスの利用状況・利用意向 …… 209
（４）ホームヘルプの利用状況・利用意向 …… 211
（５）外出支援の利用状況・利用意向 …… 211
（６）デイサービス・デイケアの利用状況・利用意向 …… 212
（７）ショートステイの利用状況・利用意向 …… 212
（８）充実した生活を送るために必要な支援 …… 213
（９）権利擁護関連制度の認知度・利用意向 …… 215
６．情報収集について …… 217
（１）福祉に関する情報入手先 …… 217
（２）福祉に関する情報の入手状況 …… 219
（３）インターネットの利用状況・利用内容 …… 220
７．災害対策について …… 222

（1）災害時に頼れる人 …… 222
（2）災害時に心配なこと …… 223
8．生活全般について …… 225
（1）困っていることや将来に対する不安・悩み …… 225
（2）困っていることや将来に対する不安・悩みの相談先 …… 227
（3）希望する将来の暮らし方 …… 229
（4）地域の人とのつきあい …… 230
（5）地域活動に参加するときに妨げとなること …… 231
（6）差別的な扱いを受けたり、いやな思いをした経験の有無 …… 233
9．福祉全般について …… 235
（1）ノーマライゼーションのまちづくり …… 235
（2）障害者福祉施策として重点的に進めるべきこと …… 236

第４章　考察

1．年齢 …… 239
2．障害の種類･程度 …… 240
3．居住形態と同居家族 …… 240
4．経済状況 …… 241
5．日常生活の自立度と外出状況 …… 242
6．就労 …… 243
7．福祉施設入所（利用）者 …… 244
8．介護者 …… 245
9．福祉サービスの利用状況と利用意向 …… 246
１０．情報収集と災害時対策 …… 246
１１．行政に望むこと …… 247

参考資料

1．身体障害者（児）調査票 …… 251
2．知的障害者（児）調査票 …… 262
3．精神障害者調査票 …… 273

第１章　調査の概要

第１章　調査の概要

１．調査の目的

本調査は、平成 18 年度に行う「久留米市障害者福祉長期行動計画（仮称)」策定の基礎資料とするために実施した。

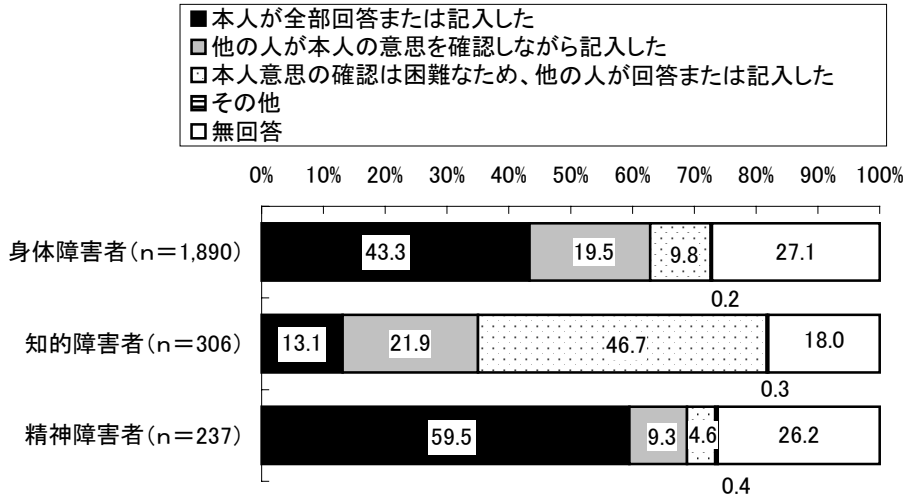
調査の対象は、身体・知的・精神のすべての障害者であり、その意識や生活実態、福祉サービスの利用状況・利用意向や、行政に対する要望等を把握することにより、障害者施策における課題を整理し、今後の施策の検討に活用するものである。

２．調査設計と回収結果

	身体障害者（児）調査	知的障害者（児）調査	精神障害者調査
調査対象	久留米市内に居住する身体障害者手帳所持者	久留米市内に居住する療育手帳所持者	久留米市内に居住する通院医療費公費負担制度利用者
抽出方法	無作為抽出	無作為抽出	無作為抽出
調査方法	郵送調査	郵送調査	郵送調査
標本数	3,000 サンプル	500 サンプル	500 サンプル
有効回収数	1,890 サンプル	306 サンプル	237 サンプル
有効回収率	63.0%	61.2%	47.4%
調査期間	平成 18 年 1 月 6 日（金）～平成 18 年 1 月 31 日（火）		

３．調査票の記入者

各調査の調査票記入者は下記のとおりである。



４．調査の実施主体と集計分析機関

【実　　施　　主　　体】久留米市　健康福祉部　障害者福祉課
【分析監修と課題の考察】鬼﨑　信好（福岡県立大学　教授）
【集　　計】株式会社サーベイリサーチセンター九州事務所

５．調査結果の見方

（１）　回答は、原則として各質問の調査数を基数（ｎ）とした百分率（%）で表し、小数第 2 位を四捨五入している。このため、百分率の合計が 100%にならない場合がある。また、2 つ以上の回答ができる複数回答の質問では、回答比率の合計が 100%を超える場合がある。

（２）　クロス集計の表側に使用している「性別」「年齢」等の基本属性では、副問（サブクエスチョン）等の回答者が限定される質問もあるため、図表中の表側項目の調査数を合計しても、必ずしも調査の有効回答数にならない場合がある。

（３）　クロス集計等において、基数（ｎ）となる調査数が少数となる場合は参考までに数値を見る程度に留め、結果の利用には注意を要する。

（４）　本文または図表中の質問文及び回答選択肢については、省略して表記している場合があるため、詳細は巻末の「調査票」を参照のこと。

第２章　調査結果の概要

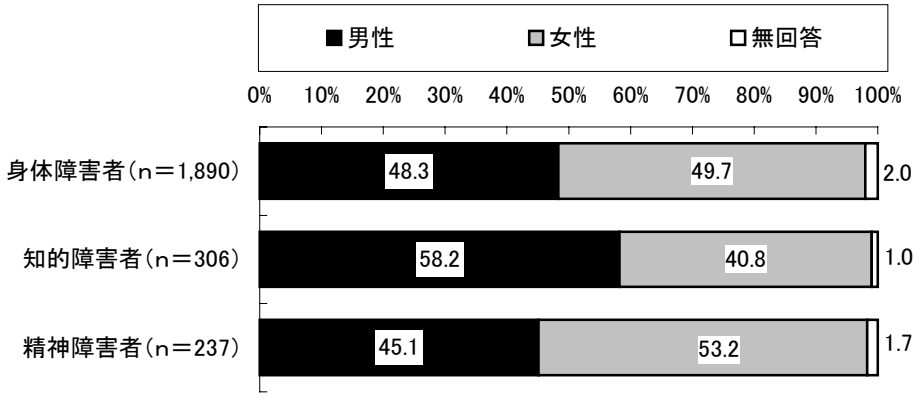
第２章　調査結果の概要

１．基本属性等

（１）性別

○　身体障害者では男女がほぼ半数ずつであるが、知的障害者では「男性」（58.2%）、精神障害者では「女性」（53.2%）がやや多い。【→図表Ⅱ-1、19 頁、100 頁、178 頁】

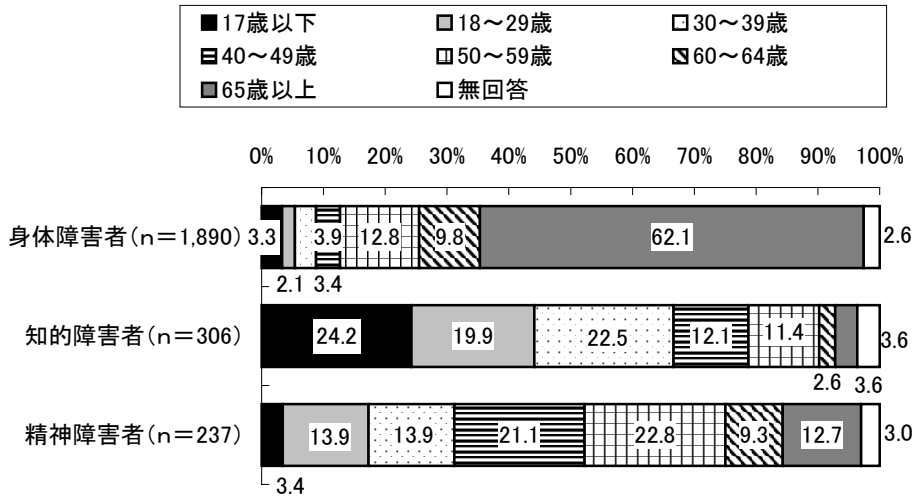
【図表Ⅱ-1　性別】



（２）年齢

○　身体障害者の 6 割強（62.1%）は 65 歳以上の高齢者である。知的・精神障害者は、身体障害者に比べて 64 歳以下の若い年齢層の割合が高く、知的障害者では 20 歳代以下の若年層が 4 割強（44.1%）を占めている。精神障害者では 40・50 歳代が 4 割強（43.9%）を占めている。【→図表Ⅱ-2、19 頁、100 頁、178 頁】

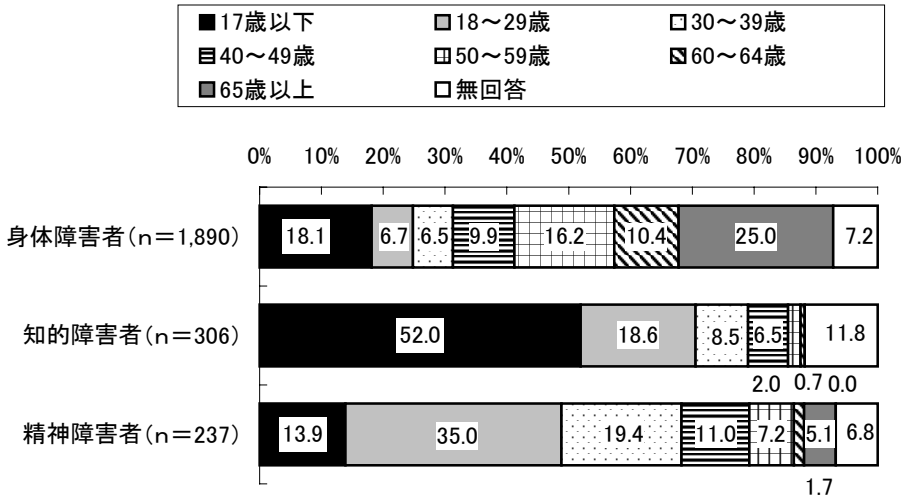
【図表Ⅱ-2　年齢】



（３）障害を受けた時期

○　障害を受けた時期（知的障害者は療育手帳交付時期、精神障害者は精神科・神経科の初診時期）をみると、知的障害者では「17 歳以下」（52.0%）が半数強を占めて最も多い。また、身体障害者では「65 歳以上」（25.0%）、精神障害者では「18～29 歳」（35.0%）が最も多い。**【→図表Ⅱ-3、29 頁、103 頁、183 頁】**

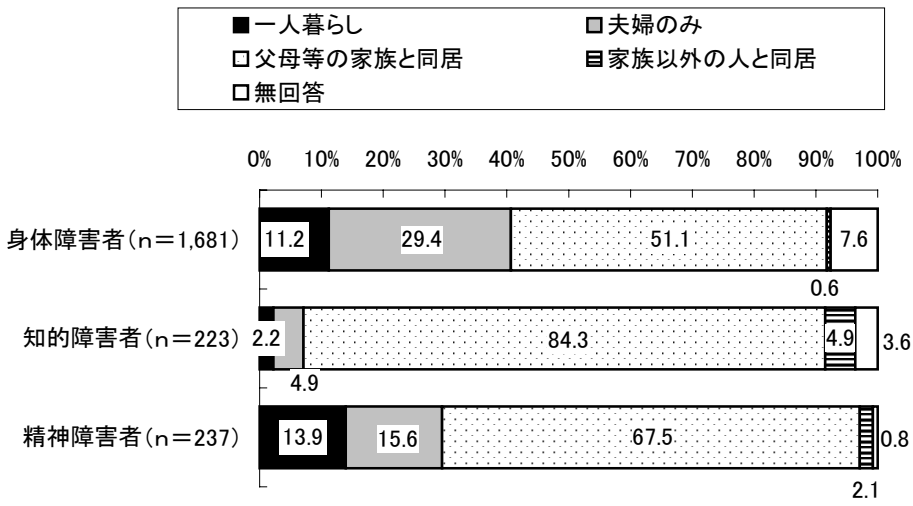
【図表Ⅱ-3　障害を受けた時期】



（４）家族構成

○　在宅で生活している障害者の家族構成は、3 障害ともに「父母等の家族と同居」が過半数を占めて最も多く、若年層が多い知的障害者では 8 割を超えている。65 歳以上の高齢者が多い身体障害者では他に比べて「夫婦のみ」（29.4%）の割合が高い。**【→図表Ⅱ-4、40～41 頁、117～118 頁、179～180 頁】**

【図表Ⅱ-4　家族構成】



（５）身体障害者の基本属性

○　身体障害者の半数弱（47.2%）は重度障害者（身体障害者手帳１・２級）であり、17 歳以下では７割（69.9%）が重度障害者である。【→20～21 頁】

○　身体障害者の主な障害の部位は、『肢体不自由』（44.9%）が最も多く、次いで『内部障害』（24.8%）、『聴覚・平衡機能』（11.5%）である。【→22～23 頁】

○　身体障害者の４割（38.5%）は主な障害以外にも重複する身体障害がある。【→27～28 頁】

○　療育手帳所持者は 15.8%である。【→30 頁】

○　40 歳以上の人のうち、介護保険の要介護認定を受けている人は 35.4%である。【→31 頁】

○　施設入所者は 8.2%である。【→34 頁】

（６）知的障害者の基本属性

○　知的障害者の障害の程度は、療育手帳Ａが６割弱（57.5%）、療育手帳Ｂが４割弱（37.6%）となっている。【→101～102 頁】

○　知的障害の内容（診断名）は、「精神発達遅滞」（41.5%）が最も多く、次いで「自閉症」（18.3%）、「てんかん」（18.3%）となっている。【→107 頁】

○　知的障害者の３割（30.7%）は身体障害があり、その半数強（54.2%）は重度（身体障害者手帳１・２級）の身体障害である。【→104 頁】

○　福祉施設入所者は 24.5%である。【→111 頁】

（７）精神障害者の基本属性

○　精神障害者の６割弱（57.8%）は精神科・神経科に入院したことがある。【→184 頁】

○　現在の精神科・神経科の受診回数は「月に 2～3 回」（39.2%）が最も多い。【→185 頁】

○　現在の症状では、回復傾向にある人が半数（49.0%）を占めて最も多い。その他、悪化傾向にある人が 5.9%、症状が不安定な人が 14.8%、症状に変化がない人が 27.0%となっている。【→186 頁】

○　精神障害者保健福祉手帳所持者は３割弱（28.3%）である。【→206 頁】

２．生活自立度や外出の状況について

（１）日常生活動作の自立度

○　外出等の日常生活上の動作等に介助（援助）を要する人の割合をみると、身体・知的障害者では「外出」や「文字（書類）の記入」、「入浴」等が共通して上位にあがっている。精神障害者は、身体・知的障害者とは異なる項目で自立度を質問したが、「食事のしたく」や「健康管理」等で援助を要する割合が高い。**【→図表Ⅱ-5、32～33 頁、109～110 頁、188～189 頁】**

【図表Ⅱ-5　日常生活動作に介助（援助）を要する人の割合（上位 5 項目）】

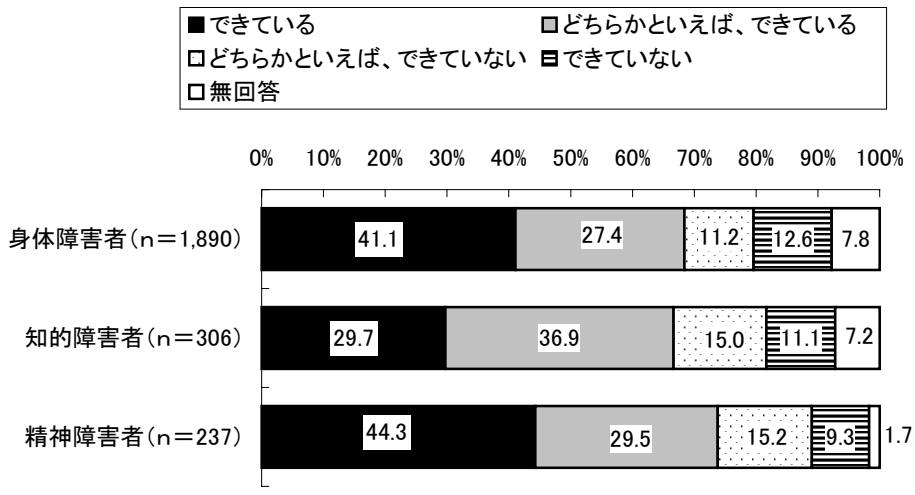
	身体障害者（ｎ＝1,890）	知的障害者（ｎ＝306）	精神障害者（ｎ＝237）
第１位	外出（37.0%）	文字の記入（62.4%）	食事のしたく（37.1%）
第２位	文字・書類の記入（32.0%）	外出（59.5%）	健康管理（33.3%）
第３位	車の乗降（29.7%）	意思の伝達（53.3%）	金銭管理（24.9%）
第４位	入浴（28.1%）	入浴（37.3%）	買い物（21.9%）
第５位	着替え（22.0%）	歯磨き（29.4%）	掃除・整理整とん（20.3%）

※質問した日常生活動作の項目は障害ごとに異なる。

（２）外出

○　外出の状況（外出したいと思うところに外出できているか）については、3 障害とも「できている」「どちらかといえば、できている」をあわせると 6～7 割を占めている。**【→図表Ⅱ-6、57 頁、134 頁、204 頁】**

【図表Ⅱ-6　外出】



○　外出時に不便や困難を感じることは、身体障害者では「歩道や建物に階段、段差が多い」（38.4%）、知的障害者では「まわりの人の目が気になる」（17.0%）が最も多い。また、「歩道や建物に階段、段差が多い」や「歩道や横断歩道などで危険を感じる」、「外出に経費がかかりすぎる」などが共通して上位にあがっている。**【→図表Ⅱ-7、59～60 頁、136～137 頁】**

【図表Ⅱ-7　外出時に不便や困難を感じること（上位５項目）】

	身体障害者（ｎ＝1,890）	知的障害者（ｎ＝306）
第１位	歩道や建物に階段、段差が多い（38.4%）	まわりの人の目が気になる（17.0%）
第２位	障害者用トイレが少ない（17.2%）	歩道や建物に階段、段差が多い（14.4%）
第３位	歩道や横断歩道などで危険を感じる（15.1%）	歩道や横断歩道などで危険を感じる（12.7%）
第４位	外出に経費がかかりすぎる（11.7%）	付き添いをする人がいない（12.1%）
第５位	駐車場が少ない（10.9%）	外出に経費がかかりすぎる（11.4%）

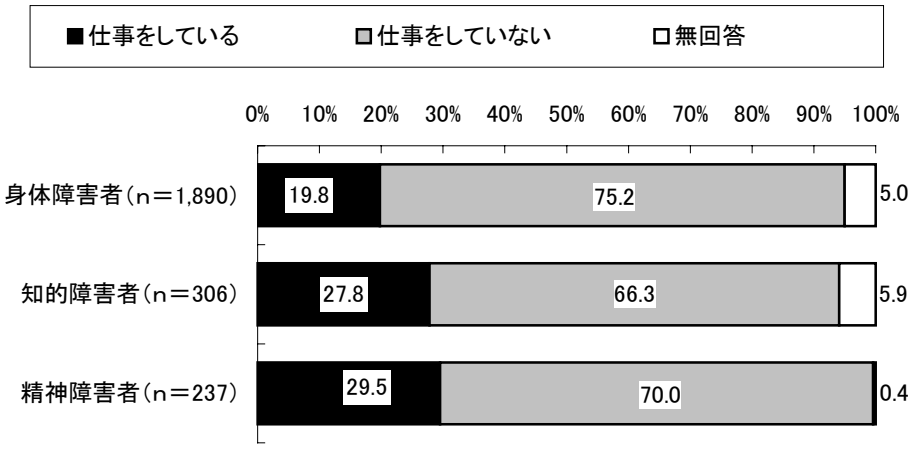
※「その他」「特にない」等除く。

３．就労について

（１）就労状況

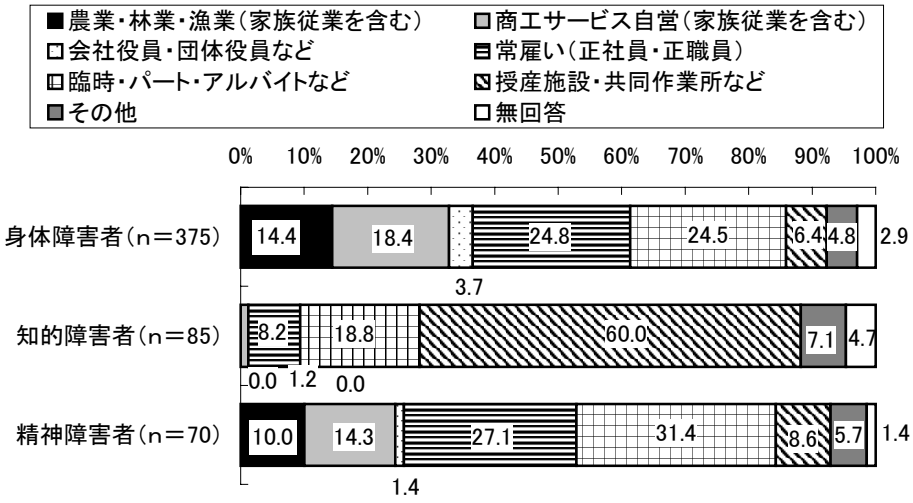
○　就労率（「仕事をしている」の割合）は、3 障害とも 2～3 割程度であり、高齢層が多い身体障害者でやや低い。**【→図表Ⅱ-8、47 頁、124 頁、194 頁】**

【図表Ⅱ-8　就労状況】



○　就労者の仕事の種類（内容）は、身体・精神障害者では「常雇い」や「臨時・パート・アルバイトなど」が多いが、知的障害者では「授産施設・共同作業所など」（60.0%）が 6 割を占めて最も多い。**【→図表Ⅱ-9、48 頁、125 頁、195 頁】**

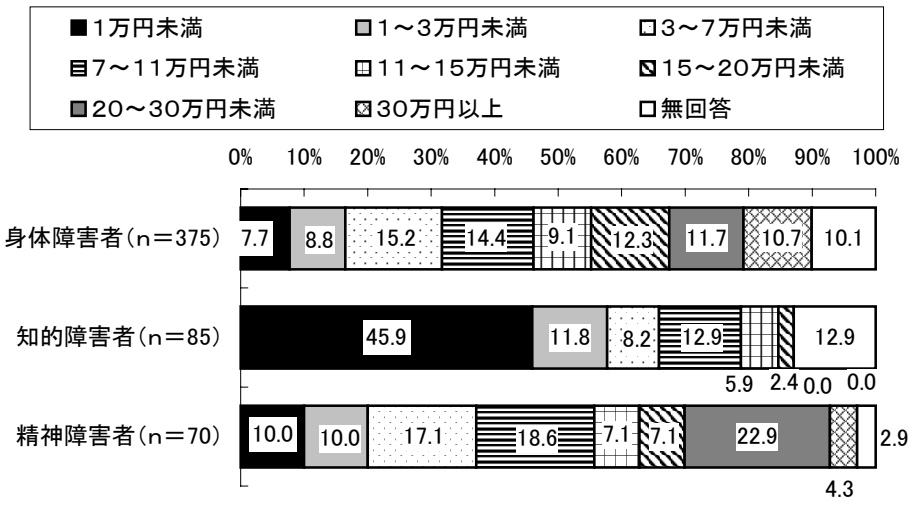
【図表Ⅱ-9　仕事の種類】



（２）月収

○　仕事で得る月収をみると、身体・精神障害者では各収入層が概ね 1～2 割ずつに分散しており、「常雇い」の割合が高い精神障害者では「20～30 万円未満」（22.9%）の高収入層の割合も高い。一方、就労者の 6 割が授産施設・共同作業所などで働いている知的障害者では、「1 万円未満」（45.9%）が半数弱を占めて最も多い。**【→図表Ⅱ-10、50 頁、127 頁、197 頁】**

【図表Ⅱ-10　月収】



（３）仕事での悩み、仕事をする上で必要な条件整備

○　仕事上の悩みや困っていることは、「収入が少ない」が 3 障害に共通して最も多い。【→図表Ⅱ-11、51～52 頁、128～129 頁、198～199 頁】

【図表Ⅱ-11　仕事上の悩みや困っていること（上位 5 項目）】

	身体障害者（ｎ＝375）	知的障害者（ｎ＝85）	精神障害者（ｎ＝70）
第１位	収入が少ない（34.7%）	収入が少ない（37.6%）	収入が少ない（55.7%）
第２位	通院や病気・障害を理由に休みを取ることが難しい（7.2%）	職場でのコミュニケーションがうまくとれない（18.8%）	通院や病気・障害を理由に休みを取ることが難しい（22.9%）
第３位	障害がない人と比べて、仕事の内容や昇進などに差がある（5.3%）	障害への理解が得にくく、人間関係がむずかしい（14.1%）	職場までの通勤がたいへん（20.0%）
第４位	職場までの通勤がたいへん（5.1%）	職場までの通勤がたいへん（10.6%）	仕事の内容が難しく、覚えるのがたいへん（12.9%）
第５位	障害への理解が得にくく、人間関係がむずかしい（4.8%）	仕事の内容が難しく、覚えるのがたいへん（7.1%） 障害がない人と比べて、仕事の内容や昇進などに差がある（7.1%）	職場でのコミュニケーションがうまくとれない（11.4%）

※「その他」「特にない」等除く。

○　仕事をする上で必要な条件整備では、「障害にあった仕事であること」や「周囲が自分を理解してくれること」等が 3 障害に共通して上位にあがっている。このほか、身体障害者では「自宅で仕事ができること」や「通勤手段があること」等の職場までのアクセスに関する項目の割合が高く、知的障害者では「職場によい指導者や先輩がいること」や「ジョブコーチなど職場に慣れるまで援助してくれる制度があること」等の職場環境や就労継続支援に関する項目の割合が高い。【→図表Ⅱ-12、55～56 頁、132～133 頁、202～203 頁】

【図表Ⅱ-12　仕事をする上で必要な条件整備（上位 5 項目）】

	身体障害者（ｎ＝1,890）	知的障害者（ｎ＝306）	精神障害者（ｎ＝237）
第１位	障害にあった仕事であること（20.8%）	障害にあった仕事であること（42.8%）	周囲が自分を理解してくれること（37.1%）
第２位	周囲が自分を理解してくれること（16.7%）	周囲が自分を理解してくれること（41.2%）	通院などの保障があること（30.8%） 職場によい指導者や先輩がいること（30.8%）
第３位	自宅で仕事ができること（12.4%）	職場によい指導者や先輩がいること（33.0%）	勤務時間や日数の短縮（27.0%）
第４位	通院などの保障があること（9.9%）	ジョブコーチなど職場に慣れるまで援助してくれる制度があること（29.1%）	賃金が妥当であること（22.8%）
第５位	通勤手段があること（7.4%）	共同作業所や授産施設など福祉的就労の場を確保すること（25.8%）	障害にあった仕事であること（21.9%）

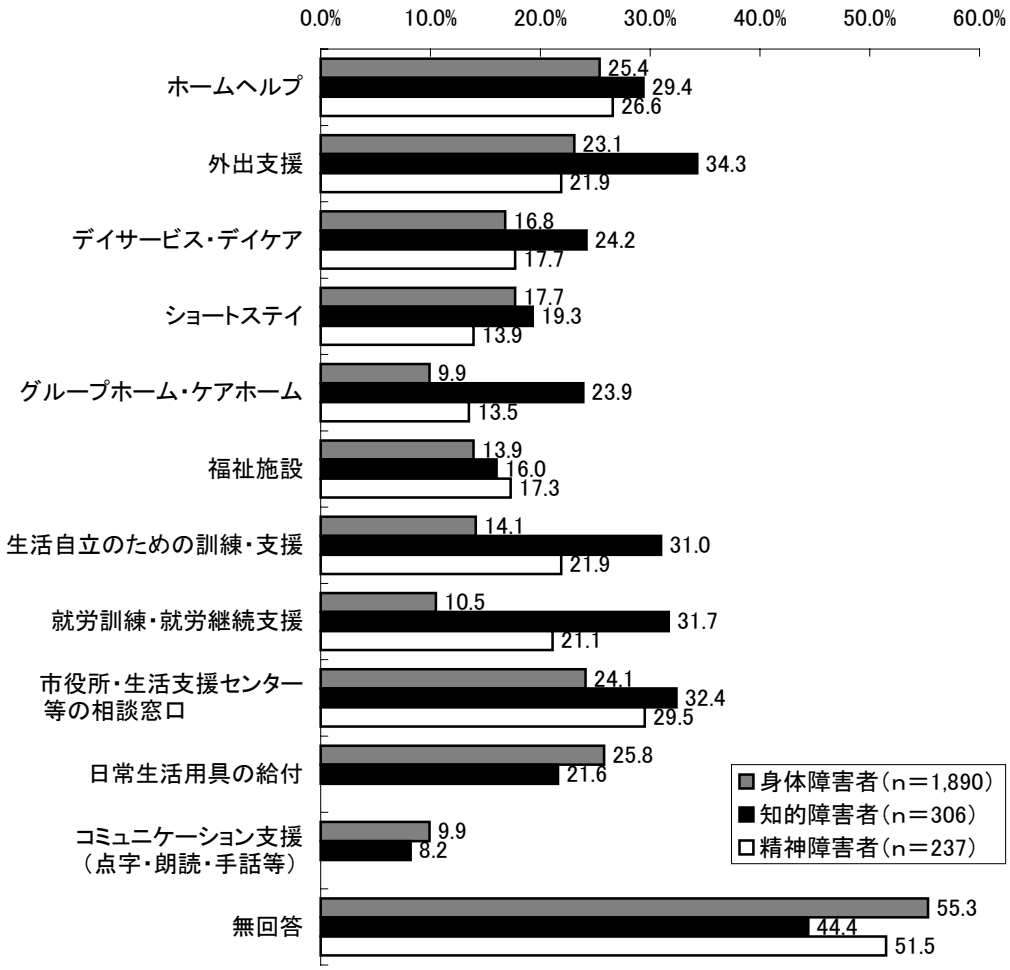
※「その他」「特にない」等除く。

４．福祉サービス等について

（１）福祉サービスの利用意向

○　現在実施されている、もしくは、今後、障害者自立支援法により新たに導入される予定の福祉サービスの利用意向（「近いうちに利用したい」「将来、必要なときがきたら利用したい」の割合）についてたずねた。**【→図表Ⅱ-13、61～62 頁、138～139 頁、209～210 頁】**
身体障害者では「日常生活用具の給付」や「ホームヘルプ」、知的障害者では「外出支援」や「市役所・生活支援センター等の相談窓口」、精神障害者では「市役所・生活支援センター等の相談窓口」や「ホームヘルプ」の利用意向が高く、「市役所・生活支援センター等の相談窓口」は 3 障害に共通して利用意向が高い。
また、「生活自立のための訓練・支援」や「就労訓練・就労継続支援」等の自立生活に関わる訓練等のサービスは、身体障害者に比べて知的・精神障害者で利用意向が高い。

【図表Ⅱ-13　福祉サービスの利用意向】



※「日常生活用具の給付」「コミュニケーション支援（点字・朗読・手話等）」は身体障害者・知的障害者のみの選択肢

（２）精神障害者に必要な支援

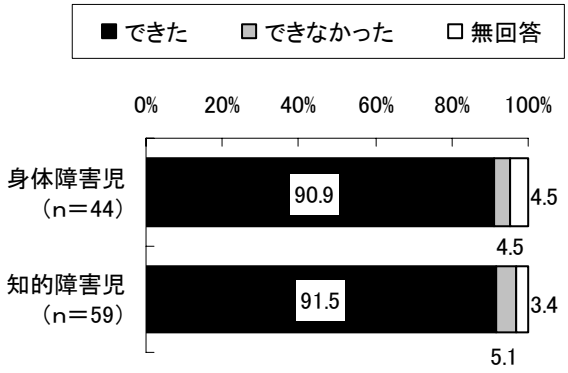
○　精神障害者が充実した生活を送るために必要な支援は、「24 時間いつでも相談できる体制や身近な相談相手」（28.7%）が最も多く、次いで「公営住宅への優先入居や家賃の減額・免除制度」（24.1%）、「昼間の行き場所（デイケア・当事者グループの集まりなど）」（16.5%）、「配食提供サービス」（16.0%）となっている。**【→213～214 頁】**

５．障害児の保育・教育について（身体・知的障害児）

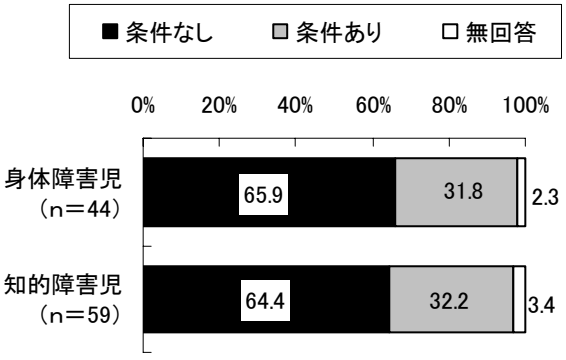
（１）入学（園）について

○　身体・知的障害児の 9 割は、希望どおりの学校や園に入学（入園）できているが、できなかった人も 5.0%程度いる。**【→図表Ⅱ-14、92 頁、170 頁】**　また、入学時に条件があった人が 3 割強となっている。**【→図表Ⅱ-15、93 頁、171 頁】**

【図表Ⅱ-14　入学（園）について】



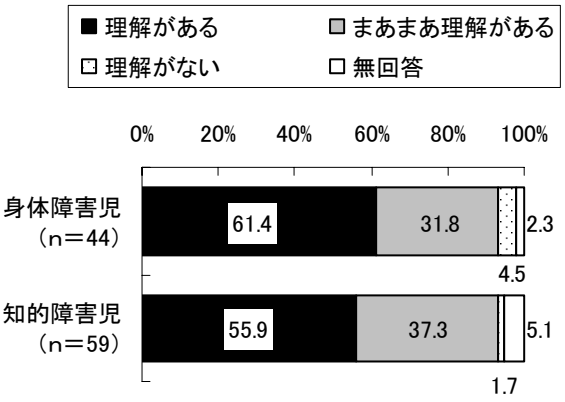
【図表Ⅱ-15　入学時の条件の有無】



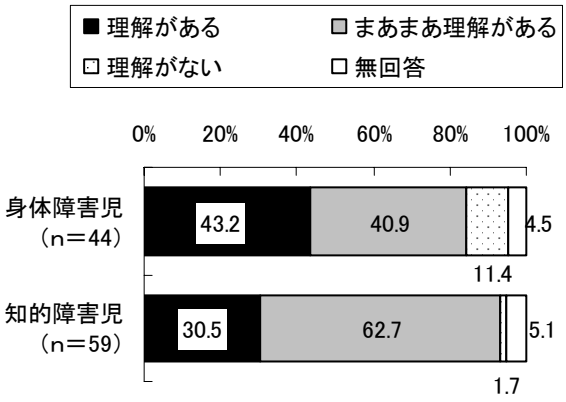
（２）先生や友人の理解について

○　身体・知的障害児ともに、過半数は先生の理解があったと回答しているが**【→図表Ⅱ-16、94 頁、172 頁】**、友人の理解は先生の理解よりも低く、3～4 割台と半数未満に留まる。**【→図表Ⅱ-17、95 頁、173 頁】**

【図表Ⅱ-16　先生の理解】



【図表Ⅱ-17　友人の理解】



（３）教育に関する要望

○　教育に関する要望では、「専門知識を持った教職員の加配」「障害に関する理解向上」が共通して１・２位にあがっている。【→図表Ⅱ-18、96～97 頁、174～175 頁】

【図表Ⅱ-18　教育に関する要望（上位５項目）】

	身体障害児（ｎ＝44）	知的障害児（ｎ＝59）
第１位	専門知識を持った教職員の加配（56.8%）	専門知識を持った教職員の加配（64.4%）
第２位	障害に関する理解向上（43.2%）	障害に関する理解向上（37.3%）
第３位	本人が希望する学校に入れるなど、個人のニーズに応じた教育（31.8%）	学校教育におけるノーマライゼーションの推進（33.9%）
第４位	学校への訪問看護師の派遣（27.3%）	本人が希望する学校に入れるなど、個人のニーズに応じた教育（27.1%） 職業教育の充実（27.1%）
第５位	学校教育におけるノーマライゼーションの推進（25.0%）	障害児学級の教員配置の見直し（25.4%）

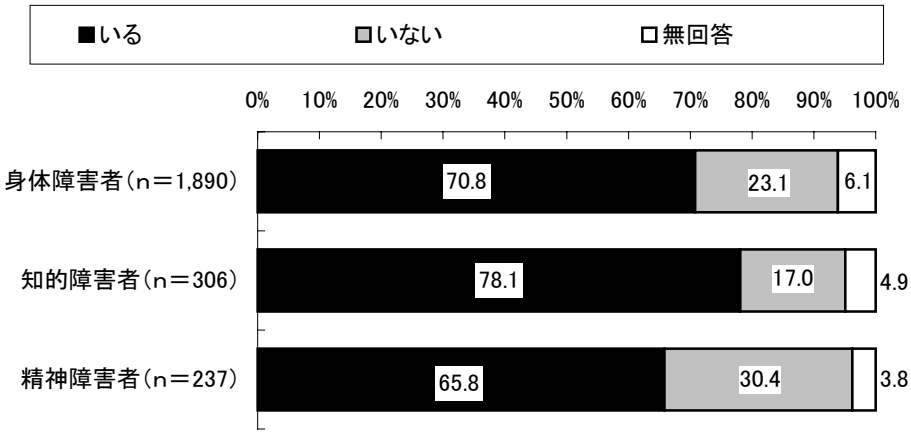
※「その他」「特にない」等除く。

６．災害対策について

（１）災害時に頼れる人

○　３障害とも６割以上の人は災害時に頼れる人がいるが、いない人も 2～3 割前後おり、精神障害者では３割（30.4%）と高い。【→図表Ⅱ-19、70～71 頁、149 頁、222 頁】

【図表Ⅱ-19　災害時に頼れる人の有無】



（２）災害時に心配なこと

○　災害時に心配なことは、身体障害者では「安全なところまで、すぐ避難することができない」、知的障害者では「避難所で障害にあった対応をしてくれるか心配である」、精神障害者では「必要な薬が手に入らない、治療を受けられない」が最も多い。【→図表Ⅱ-20、72～73 頁、150～151 頁、223～224 頁】

【図表Ⅱ-20　災害時に心配なこと（上位 5 項目）】

	身体障害者（ｎ＝1,890）	知的障害者（ｎ＝306）	精神障害者（ｎ＝237）
第１位	安全なところまで、すぐ避難することができない（30.7%）	避難所で障害にあった対応をしてくれるか心配である（29.7%）	必要な薬が手に入らない、治療を受けられない（32.1%）
第２位	避難所で障害にあった対応をしてくれるか心配である（28.0%）	まわりの人とのコミュニケーションがとれない（28.8%）	被害状況や避難所の場所、物資の入手方法等がわからない（26.2%）
第３位	正確な情報がなかなか流れてこない（21.2%）	安全なところまで、すぐ避難することができない（22.5%）	正確な情報がなかなか流れてこない（25.3%）
第４位	必要な薬が手に入らない、治療を受けられない（16.6%）	被害状況や避難所の場所、物資の入手方法等がわからない（16.3%）	救助を求めてもすぐ来てくれる人がいない（18.6%）
第５位	被害状況や避難所の場所、物資の入手方法等がわからない（15.4%）	救助を求めることができない（16.0%）	避難所で障害にあった対応をしてくれるか心配である（16.5%）

※「その他」「特にない」等除く。

７．生活全般について

（１）困っていることや将来に対する不安・悩み

○　日常生活において困っていることや将来に対する不安・悩みは、「障害や健康上の心配、悩み」や「経済的な不安」、「将来の生活が不安」等が 3 障害に共通して上位にあがっている。このほか、身体・知的障害者では「身辺の世話がかかる」という介護・介助の問題、精神障害者では生きがいや結婚等の社会生活に関する問題があがっている。【→図表Ⅱ-21、74～75 頁、152～153 頁、225～226 頁】

【図表Ⅱ-21　困っていることや将来に対する不安・悩み（上位 5 項目）】

	身体障害者（ｎ＝1,890）	知的障害者（ｎ＝306）	精神障害者（ｎ＝237）
第１位	障害や健康上の心配、悩み（51.4%）	将来の生活が不安（39.5%）	経済的な不安（57.0%）
第２位	経済的な不安（38.9%）	障害や健康上の心配、悩み（35.9%）	将来の生活が不安（46.4%）
第３位	将来の生活が不安（26.6%）	経済的な不安（35.6%）	障害や健康上の心配、悩み（41.8%）
第４位	身辺の世話がかかる（10.8%）	身辺の世話がかかる（15.7%）	生きがいを見いだせない（14.8%）
第５位	住まいの不満、悩み（8.9%）	仕事の不満または働く場がない（10.1%） 友達がいない（10.1%）	結婚問題の不安、悩み（11.4%）

※「その他」「特にない」等除く。

（２）地域活動に参加するときに妨げとなること

○　地域での活動に参加するときに妨げとなることは、「健康や体力に自信がない」や「コミュニケーションが難しい」、「どのような活動が行われているか知らない」等が 3 障害に共通して上位にあがっている。**【→図表Ⅱ-22、80～81 頁、158～159 頁、231～232 頁】**

【図表Ⅱ-22　地域活動に参加するときに妨げとなること（上位 5 項目）】

	身体障害者（ｎ＝1,890）	知的障害者（ｎ＝306）	精神障害者（ｎ＝237）
第１位	健康や体力に自信がない（33.1%）	コミュニケーションが難しい（33.0%）	健康や体力に自信がない（32.9%）
第２位	どのような活動が行われているか知らない（12.4%）	気軽に参加できる活動が少ない（17.6%）	どのような活動が行われているか知らない（27.4%）
第３位	気軽に参加できる活動が少ない（9.6%） 参加したくなるようなものがない（9.6%）	一緒に活動する友人・仲間がいない（17.0%）	一緒に活動する友人・仲間がいない（24.9%）
第４位	一緒に活動する友人・仲間がいない（9.4%）	どのような活動が行われているか知らない（15.4%）	コミュニケーションが難しい（18.6%）
第５位	コミュニケーションが難しい（7.4%）	周囲の理解がない（14.7%）	参加したくなるようなものがない（16.0%）

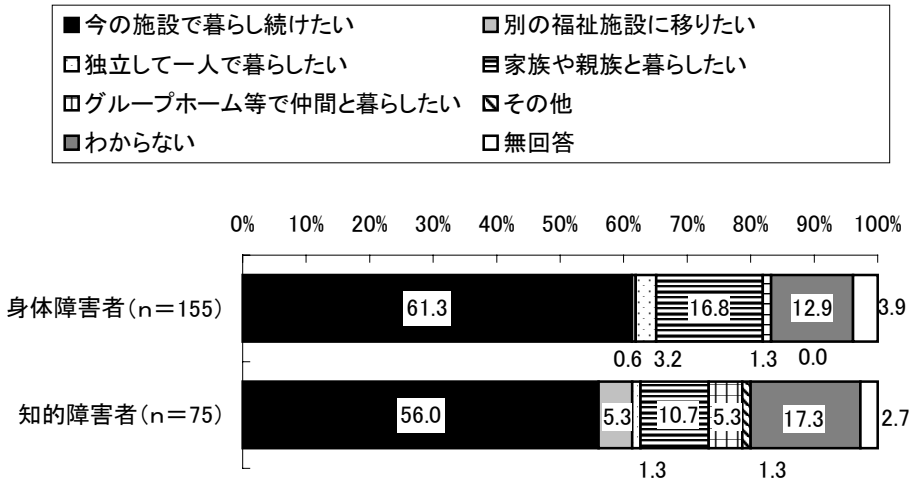
※「その他」「特にない」等除く。

８．将来の暮らし方について

（１）福祉施設入所者が希望する将来の暮らし方（身体・知的障害者）

○　福祉施設に入所している身体・知的障害者が希望する将来の暮らし方では、「今の施設で暮らし続けたい」が過半数を占めて最も多い。「独立して一人で暮らしたい」「家族や親族と暮らしたい」「グループホーム等で仲間と暮らしたい」をあわせた『地域生活移行希望者』は 2 割前後となっている（身体：21.3%、知的：17.3%）。**【→図表Ⅱ-23、37 頁、114 頁】**

【図表Ⅱ-23　福祉施設入所者が希望する将来の暮らし方】



○　福祉施設に入所している身体・知的障害者が地域生活に移行するために必要な条件では、「昼間の介護を頼める人がいること」や「食事の心配をしなくていいこと」等が共通して上位にあがっている。【→図表Ⅱ-24、38～39 頁、115～116 頁】

【図表Ⅱ-24　福祉施設入所者が地域生活に移行するために必要な条件（上位 5 項目）】

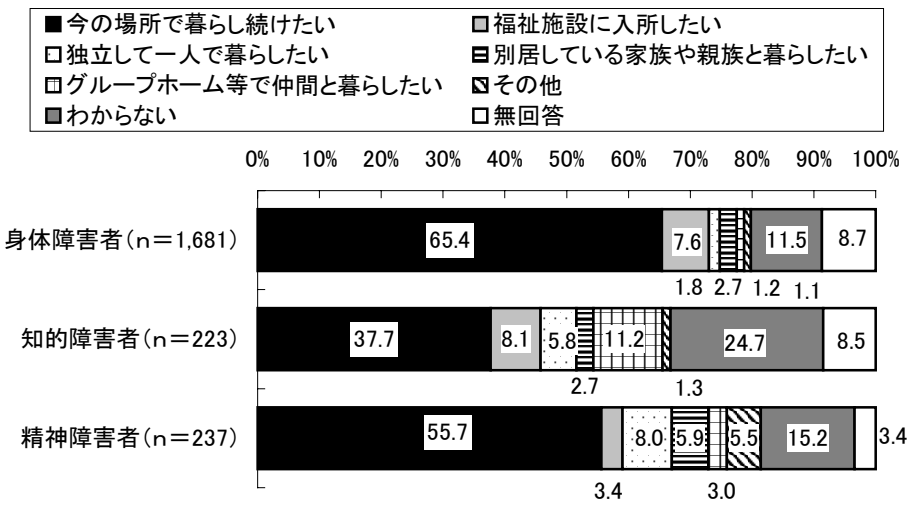
	身体障害者（ｎ＝155）	知的障害者（ｎ＝75）
第１位	昼間の介護を頼める人がいること（29.0%）	食事の心配をしなくていいこと（33.3%）
第２位	夜間の介護を頼める人がいること（28.4%）	昼間の介護を頼める人がいること（21.3%）
第３位	食事の心配をしなくていいこと（25.8%）	掃除や洗濯等の家事の手伝いを頼める人がいること（18.7%） 生活するのに十分な収入があること（18.7%）
第４位	主治医や医療機関が近くにあること(21.9%)	家族と同居できること（14.7%）
第５位	掃除や洗濯等の家事の手伝いを頼める人がいること（15.5%） 生活するのに十分な収入があること(15.5%)	夜間の介護を頼める人がいること（12.0%） デイサービスや共同作業所等に通えること（12.0%） 主治医や医療機関が近くにあること（12.0%） グループホーム等の仲間と共同生活できる場があること（12.0%）

※「その他」「特にない」等除く。

（２）在宅生活者が希望する将来の暮らし方

○　在宅で生活している身体・知的・精神障害者が希望する将来の暮らし方では、3 障害いずれにおいても「今の場所で暮らし続けたい」が最も多く、身体・精神障害者では過半数を占めている。【→図表Ⅱ-25、46 頁、123 頁、229 頁】

【図表Ⅱ-25　在宅生活者が希望する将来の暮らし方】

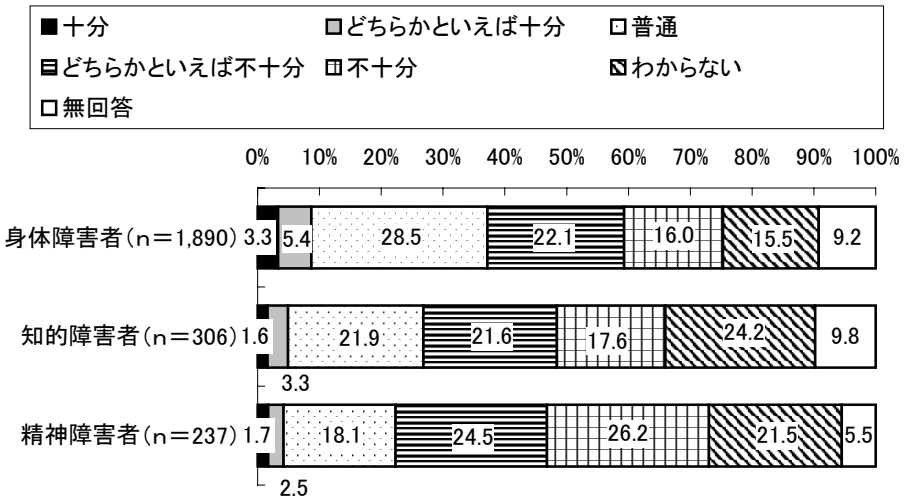


９．久留米市の福祉施策について

（１）福祉に関する情報の入手状況

○　福祉に関する情報の入手状況（福祉に関する情報を十分に入手できているか）については、『十分』（「十分」「どちらかといえば十分」）との回答は、3 障害とも 1 割に満たず（身体：8.7%、知的：4.9%、精神：4.2%）、『不十分』（「どちらかといえば不十分」「不十分」）が 4 割弱～5 割（身体：38.1%、知的：39.2%、精神：50.7%）を占めている。**【→図表Ⅱ-26、67 頁、146 頁、219 頁】**

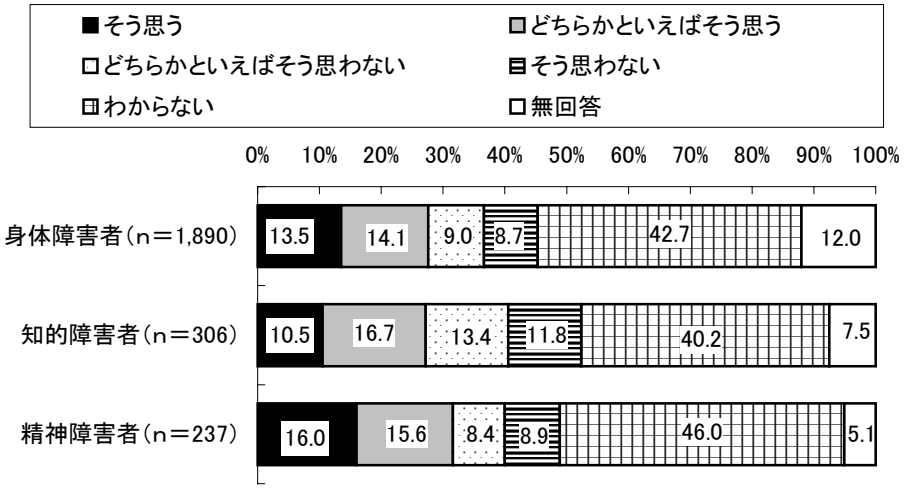
【図表Ⅱ-26　福祉に関する情報の入手状況】



（２）ノーマライゼーションのまちづくり

○　久留米市がノーマライゼーションを活かしたまちづくりをしているかという問に対しては、3 障害ともに「わからない」との回答が 4 割を超えて最も多い。
ノーマライゼーションを活かしたまちづくりをしていると思う人（「そう思う」「どちらかといえばそう思う」）と、そう思わない人（「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」）の割合を比較すると、身体障害者では 27.6%:17.7%、知的障害者では 27.2%:25.2%、精神障害者では 31.6%：17.3%となっており、知的障害者ではほぼ同率であるが、身体・精神障害者では、ノーマライゼーションを活かしたまちづくりをしていると思う人が思わない人を上回っている。**【→図表Ⅱ-27、84 頁、162 頁、235 頁】**

【図表Ⅱ-27　ノーマライゼーションのまちづくり】



（３）障害者福祉施策として重点的に進めること

○　障害者福祉施策として久留米市が重点的に進めることでは、3 障害ともに「年金や手当などの充実」が第 1 位となっており、このほかにも「通院・治療のための医療費の助成」や「障害者に対する社会全体の理解を深めるための啓発や教育の充実」等が 3 障害に共通して上位に上がっている。**【→図表Ⅱ-28、85～87 頁、163～165 頁、236～238 頁】**
また、身体障害者では「障害者にやさしいまちづくりの推進」や「緊急時や災害時の支援体制の充実」などの住環境整備や災害対策等の要望が高く、知的・精神障害者では就労対策（就労支援の充実）の要望が高い。

【図表Ⅱ-28　障害者福祉施策として重点的に進めること（上位 5 項目）】

	身体障害者（ｎ＝1,890）	知的障害者（ｎ＝306）	精神障害者（ｎ＝237）
第１位	年金や手当などの充実（48.3%）	年金や手当などの充実（53.3%）	年金や手当などの充実（54.9%）
第２位	通院・治療のための医療費の助成（31.1%）	就労支援の充実（35.0%）	通院・治療のための医療費の助成（41.8%）
第３位	障害者にやさしいまちづくりの推進（25.4%）	障害者に対する社会全体の理解を深めるための啓発や教育の充実（30.4%）	障害者に対する社会全体の理解を深めるための啓発や教育の充実（30.8%）
第４位	障害者に対する社会全体の理解を深めるための啓発や教育の充実（23.8%）	障害の種類や程度に応じた障害児保育・教育の充実（25.2%）	就労支援の充実（27.8%）
第５位	緊急時や災害時の支援体制の充実（20.3%）	通院・治療のための医療費の助成（21.6%）	障害者に対する情報提供や相談窓口の充実（19.4%）

※「その他」「特にない」等除く。

第３章　調査結果

第３章　調査結果

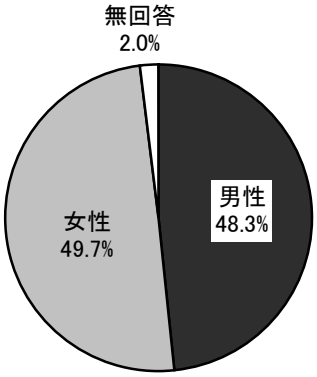
第１節　身体障害者（児）調査

１．基本属性

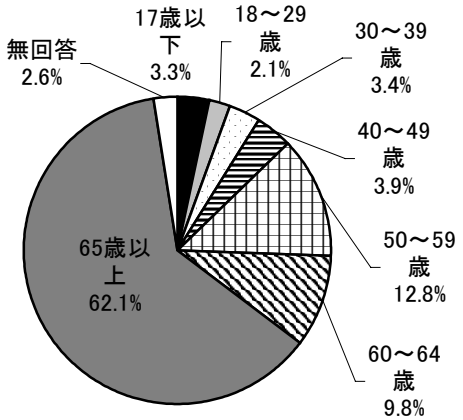
（１）性別・年齢

問１　あなたの性別、年齢についておたずねします。

【図表 3-1-1　性別】（ｎ＝1,890）



【図表 3-1-2　年齢】（ｎ＝1,890）

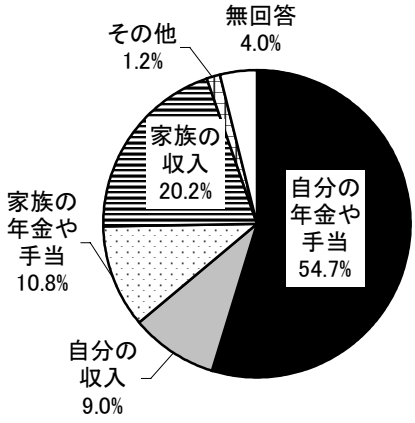


性別は、「男性」（48.3%）・「女性」（49.7%）がほぼ半数ずつとなっている。
年齢は、「65 歳以上」（62.1%）が最も多く、次いで「50～59 歳」（12.8%）となっている。

（２）生活費の状況

問２　あなたの生活費は、主に、次のどれによってまかなわれていますか。（○は１つだけ）

【図表 3-1-3　生活費の状況】（ｎ＝1,890）



生活費は、「自分の年金や手当」（54.7%）が最も多く、次いで「家族の収入」（20.2%）となっている。

年齢別にみると、20 歳代以下では「家族の収入」が過半数を占めて最も多いが、30～40 歳代になると「自分の収入」が最も多くなり、50 歳代以上では「自分の年金や手当」が最も多くなり、特に 60 歳代以上では 6 割前後を占めている（60～64 歳：57.8%、65 歳以上：66.4%）。

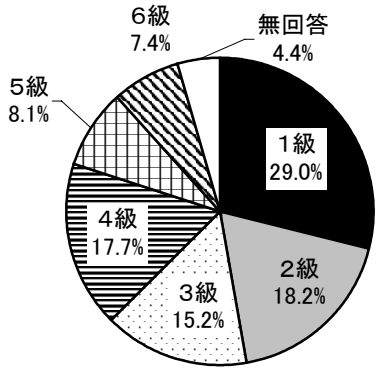
【図表 3-1-4　年齢別　生活費の状況】（%）

		調査数［ｎ］（人）	自分の年金や手当	自分の収入	家族の年金や手当	家族の収入	その他	無回答
全　体		1,890	54.7	9.0	10.8	20.2	1.2	4.0
年齢別	１７歳以下	63	6.3	－	4.8	85.7	－	3.2
	１８～２９歳	40	22.5	15.0	－	62.5	－	－
	３０～３９歳	64	39.1	39.1	6.3	14.1	－	1.6
	４０～４９歳	73	27.4	34.2	1.4	31.5	2.7	2.7
	５０～５９歳	242	32.6	27.3	8.3	27.7	2.1	2.1
	６０～６４歳	185	57.8	14.6	10.8	11.9	1.6	3.2
	６５歳以上	1,174	66.4	1.9	13.0	15.2	1.1	2.4
	無回答	49	22.4	－	8.2	6.1	－	63.3

（３）障害の程度（身体障害者手帳の等級）

問３　あなたの障害の程度は、「身体障害者手帳」では何級でしょうか。（○は１つだけ）

【図表 3-1-5　障害の程度（身体障害者手帳の等級）】（ｎ＝1,890）



障害の程度は、重度障害者（1・2 級）が 47.2%、中度障害者（3・4 級）が 32.9%、軽度障害者（5・6 級）が 15.5%となっている。

年齢別にみると、すべての年齢層で「1 級」が最も多いが、17 歳以下では 54.0%と過半数を占めており、重度障害者（1・2 級）が 7 割（69.9%）となっている。

障害の部位別にみると、視覚や内部障害では、他の障害に比べて重度障害者（1・2 級）の割合が高く（視覚：68.1%、内部障害：58.6%）、特に内部障害では 1 級が 56.2%と半数を超えている。一方、聴覚・平衡機能では、他の障害に比べて軽度障害者（5・6 級）の割合が高い（29.4%）。

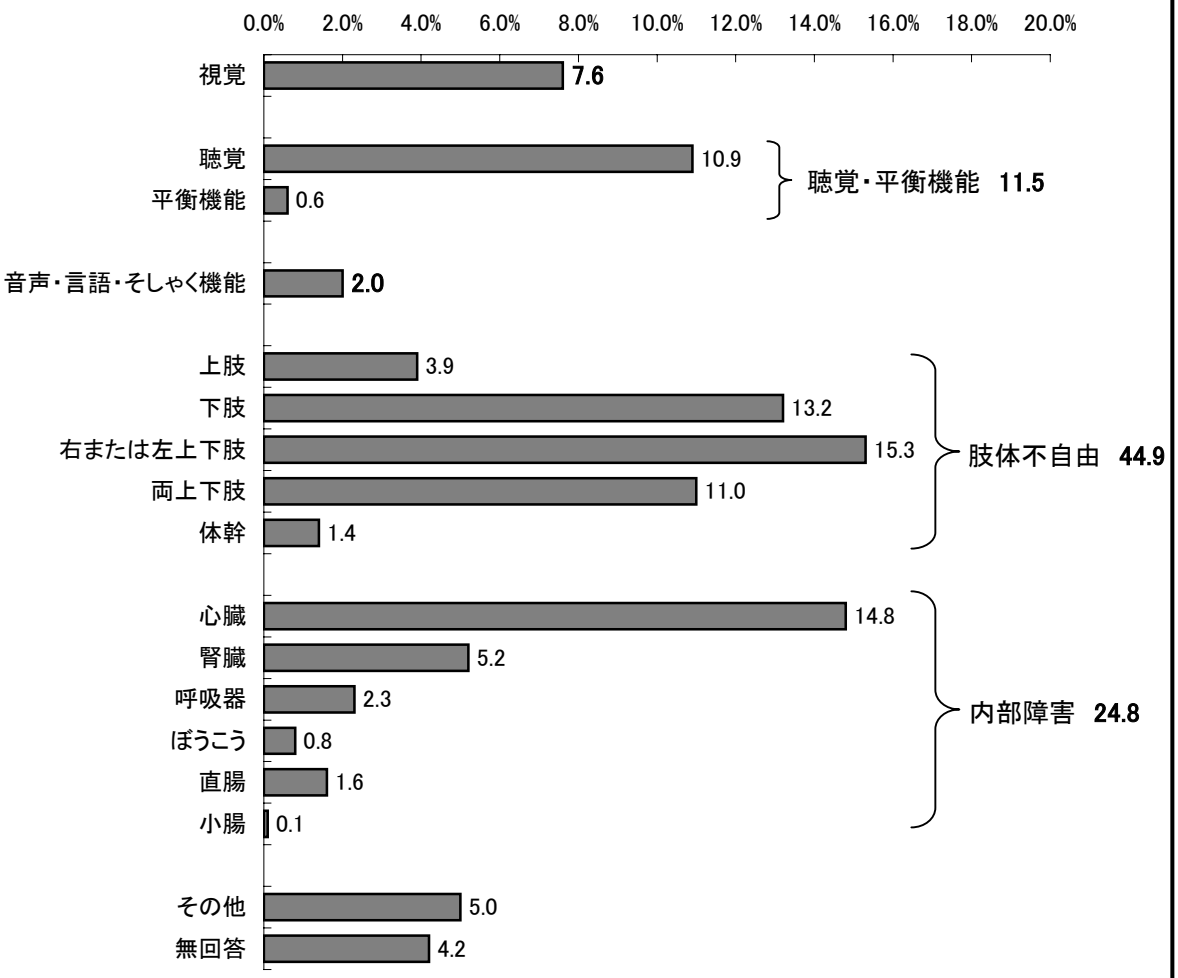
【図表 3-1-6　年齢別・障害の部位別　障害の程度（身体障害者手帳の等級）】（%）

		調査数［n］（人）	1級	2級	3級	4級	5級	6級	無回答
全　体		1,890	29.0	18.2	15.2	17.7	8.1	7.4	4.4
年齢別	１７歳以下	63	54.0	15.9	12.7	6.3	3.2	4.8	3.2
	１８～２９歳	40	32.5	30.0	20.0	10.0	2.5	5.0	－
	３０～３９歳	64	34.4	9.4	15.6	20.3	7.8	9.4	3.1
	４０～４９歳	73	31.5	23.3	12.3	19.2	8.2	4.1	1.4
	５０～５９歳	242	31.0	18.6	13.2	19.8	11.2	5.4	0.8
	６０～６４歳	185	29.2	20.0	13.5	18.4	9.2	7.0	2.7
	６５歳以上	1,174	27.4	18.3	16.5	18.3	7.8	8.3	3.4
	無回答	49	10.2	4.1	4.1	4.1	8.2	4.1	65.3
障害の部位別	視覚	144	37.5	30.6	11.1	4.9	6.3	7.6	2.1
	聴覚・平衡機能	218	11.9	29.4	12.8	12.8	2.8	26.6	3.7
	音声・言語・そしゃく機能	38	26.3	13.2	26.3	13.2	2.6	13.2	5.3
	肢体不自由	848	20.9	22.5	15.7	21.3	12.1	5.5	1.9
	内部障害	468	56.2	2.4	17.1	17.9	2.6	0.4	3.4
	その他	95	9.5	18.9	16.8	21.1	15.8	15.8	2.1
	無回答	79	11.4	13.9	6.3	11.4	8.9	1.3	46.8

（４）主な障害の部位

問４　あなたの身体障害者手帳に記載されたもののうち、主な障害はどれですか。（○は１つだけ）

【図表 3-1-7　主な障害の部位】（ｎ＝1,890）



主な障害の部位（大分類）は、『肢体不自由（上肢・下肢・右または左上下肢・両上下肢・体幹)』(44.9%）が最も多く、次いで『内部障害（心臓・腎臓・呼吸器・ぼうこう・直腸・小腸)』(24.8%)、『聴覚・平衡機能』(11.5%）となっている。詳細にみると、『肢体不自由』では「右または左上下肢」(15.3%)、「下肢」(13.2%）が多く、『内部障害』では「心臓」(14.8%）が多い。

年齢別にみると、すべての年齢層で『肢体不自由』が最も多いが、17 歳以下では他の年齢層に比べて割合が高く、71.4%を占めている。

障害の程度別にみると、最重度の１級では『内部障害』(48.0%）が最も多いが、2～5 級では『肢体不自由』が最も多く、最軽度の 6 級では『聴覚・平衡機能』(41.7%）が最も多い。

【図表 3-1-8　年齢別・障害の程度別　主な障害の部位】（%）

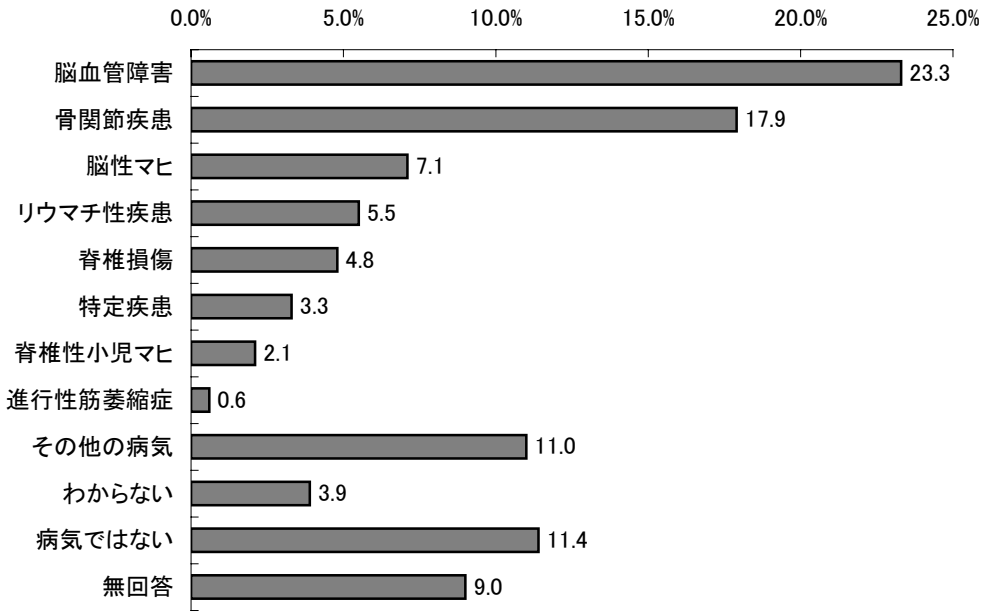
		調査数［ｎ］（人）	視覚	聴覚・平衡機能	聴覚	平衡機能	音声・言語・そしゃく機能	肢体不自由	上肢	下肢	右または左上下肢	両上下肢	体幹
全　体		1,890	7.6	11.5	10.9	0.6	2.0	44.9	3.9	13.2	15.3	11.0	1.4
年齢別	１７歳以下	63	1.6	12.7	12.7	－	－	71.4	7.9	6.3	7.9	42.9	6.3
	１８～２９歳	40	2.5	25.0	25.0	－	－	40.0	2.5	7.5	10.0	20.0	－
	３０～３９歳	64	9.4	12.5	12.5	－	1.6	48.4	10.9	9.4	6.3	15.6	6.3
	４０～４９歳	73	5.5	11.0	11.0	－	2.7	43.8	5.5	9.6	16.4	9.6	2.7
	５０～５９歳	242	7.4	8.3	7.9	0.4	1.7	52.1	3.3	22.3	17.8	7.9	0.8
	６０～６４歳	185	9.2	4.9	4.3	0.5	3.2	47.0	2.2	16.8	20.0	7.6	0.5
	６５歳以上	1,174	8.2	12.9	12.1	0.9	2.0	42.6	3.7	12.0	15.4	10.4	1.1
	無回答	49	2.0	6.1	6.1	－	4.1	22.4	4.1	6.1	8.2	2.0	2.0
障害の程度別	１級	548	9.9	4.7	4.6	0.2	1.8	32.3	1.6	2.9	11.3	15.0	1.5
	２級	344	12.8	18.6	17.4	1.2	1.5	55.5	3.5	9.3	25.3	15.4	2.0
	３級	288	5.6	9.7	9.0	0.7	3.5	46.2	6.9	10.4	15.6	11.5	1.7
	４級	334	2.1	8.4	7.8	0.6	1.5	54.2	4.8	28.7	14.4	6.3	－
	５級	153	5.9	3.9	2.0	2.0	0.7	67.3	6.5	27.5	19.6	9.2	4.6
	６級	139	7.9	41.7	41.7	－	3.6	33.8	3.6	19.4	10.1	0.7	－
	無回答	84	3.6	9.5	9.5	－	2.4	19.0	2.4	7.1	4.8	4.8	－

		調査数［ｎ］（人）	内部障害	心臓	腎臓	呼吸器	ぼうこう	直腸	小腸	その他	無回答
全　体		1,890	24.8	14.8	5.2	2.3	0.8	1.6	0.1	5.0	4.2
年齢別	１７歳以下	63	11.1	9.5	－	－	1.6	－	－	1.6	1.6
	１８～２９歳	40	25.0	17.5	5.0	－	－	2.5	－	5.0	2.5
	３０～３９歳	64	18.8	14.1	4.7	－	－	－	－	6.3	3.1
	４０～４９歳	73	31.5	15.1	9.6	2.7	1.4	2.7	－	4.1	1.4
	５０～５９歳	242	26.0	12.8	10.3	1.7	－	0.8	0.4	4.1	0.4
	６０～６４歳	185	24.3	10.8	8.6	2.2	0.5	2.2	－	8.6	2.7
	６５歳以上	1,174	25.9	16.4	3.8	2.8	1.1	1.8	－	4.9	3.5
	無回答	49	8.2	8.2	－	－	－	－	－	2.0	55.1
障害の程度別	１級	548	48.0	28.1	17.2	2.7	－	－	－	1.6	1.6
	２級	344	3.2	1.5	0.3	1.2	－	0.3	－	5.2	3.2
	３級	288	27.8	20.8	－	5.2	0.3	1.0	0.3	5.6	1.7
	４級	334	25.1	11.7	－	2.1	4.5	6.9	－	6.0	2.7
	５級	153	7.8	5.9	－	0.7	－	1.3	－	9.8	4.6
	６級	139	1.4	0.7	－	0.7	－	－	－	10.8	0.7
	無回答	84	19.0	14.3	3.6	－	－	1.2	－	2.4	44.0

（５）肢体不自由の原因となった傷病

問４－１　（主な障害が 5～9 までの方へ）障害の原因となった傷病名は何でしょうか。（○は１つだけ）

【図表 3-1-9　肢体不自由の原因となった傷病】（ｎ＝848）



主な障害が『肢体不自由（上肢・下肢・右または左上下肢・両上下肢・体幹)』である人に、その原因となった傷病についてたずねたところ、「脳血管障害」(23.3%)が最も多く、次いで「骨関節疾患」(17.9%）となっている。

障害の発症時期別にみると、17 歳以下の時に障害が発症した人では「脳性マヒ」(26.0%）や「その他の病気」(20.9%）が多く、18 歳～30 歳代では「病気ではない」(18～29 歳：25.7%、30～39 歳：25.0%）が最も多い。40 歳代以上では「脳血管障害」が最も多いが、加齢とともにその割合は高まり、65 歳以上では 4 割強（43.5%）を占めている。

障害の程度別にみると、重度障害者（１・2 級）では「脳血管障害」(1 級：42.4%、2 級：35.6%）が最も多いが、4・5 級の中・軽度の障害者では「骨関節疾患」(4 級：37.6%、5 級：33.0%）が最も多い。

障害の部位（肢体不自由）別にみると、上肢では「病気ではない」(32.4%)、下肢では「骨関節疾患」(34.9%）が最も多い。右または左上下肢では「脳血管障害」(49.7%）が半数を占めて最も多いが、両上下肢では 16.3%に留まり、「脳性マヒ」(13.5%）等のその他の疾患の割合が高くなっている。体幹では「脳性マヒ」(25.9%）や「脊椎損傷」(25.9%）が多く、他の障害に比べても割合が高い。

【図表 3-1-10　障害の発症時期別・障害の程度別・障害の部位（肢体不自由）別
肢体不自由の原因となった傷病】（%）

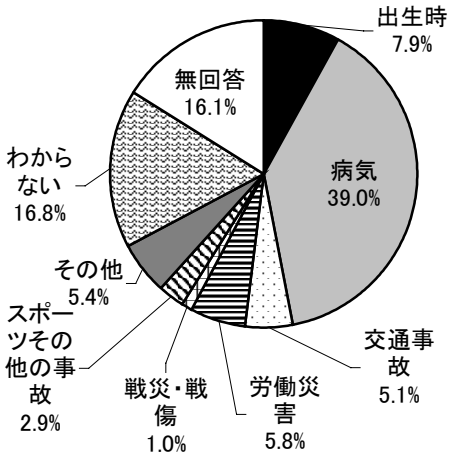
		調査数［n］（人）	脳血管障害	骨関節疾患	脳性マヒ	リウマチ性疾患	脊椎損傷	特定疾患
全　体		848	23.3	17.9	7.1	5.5	4.8	3.3
障害の発症時期別	１７歳以下	177	3.4	14.1	26.0	0.6	1.1	0.6
	１８～２９歳	74	6.8	24.3	－	13.5	5.4	4.1
	３０～３９歳	60	10.0	18.3	1.7	11.7	6.7	5.0
	４０～４９歳	85	23.5	17.6	2.4	7.1	5.9	8.2
	５０～５９歳	151	30.5	19.9	2.6	9.9	4.0	5.3
	６０～６４歳	82	37.8	17.1	1.2	4.9	3.7	2.4
	６５歳以上	186	43.5	18.3	2.2	1.6	8.1	1.6
	無回答	33	9.1	15.2	6.1	3.0	6.1	3.0
障害の程度別	１級	177	42.4	1.1	18.6	4.5	5.6	4.0
	２級	191	35.6	2.6	4.7	10.5	8.4	3.7
	３級	133	17.3	22.6	3.8	4.5	3.8	5.3
	４級	181	6.1	37.6	2.2	4.4	2.8	2.8
	５級	103	8.7	33.0	5.8	3.9	3.9	1.0
	６級	47	23.4	17.0	4.3	－	2.1	－
	無回答	16	6.3	31.3	6.3	6.3	－	6.3
障害の部位（肢体不自由）別	上肢	74	6.8	12.2	6.8	9.5	1.4	－
	下肢	249	5.2	34.9	2.0	3.2	4.4	3.2
	右または左上下肢	290	49.7	9.7	5.2	2.1	0.7	1.4
	両上下肢	208	16.3	13.0	13.5	12.5	9.6	6.3
	体幹	27	7.4	3.7	25.9	－	25.9	11.1
	無回答	－	－	－	－	－	－	－

		調査数［n］（人）	脊椎性小児マヒ	進行性筋萎縮症	その他の病気	わからない	病気ではない	無回答
全　体		848	2.1	0.6	11.0	3.9	11.4	9.0
障害の発症時期別	１７歳以下	177	10.2	－	20.9	6.8	11.3	5.1
	１８～２９歳	74	－	－	9.5	1.4	25.7	9.5
	３０～３９歳	60	－	－	6.7	3.3	25.0	11.7
	４０～４９歳	85	－	－	3.5	3.5	16.5	11.8
	５０～５９歳	151	－	2.0	10.6	4.0	3.3	7.9
	６０～６４歳	82	－	－	14.6	2.4	8.5	7.3
	６５歳以上	186	－	0.5	6.5	2.2	8.1	7.5
	無回答	33	－	3.0	6.1	9.1	6.1	33.3
障害の程度別	１級	177	0.6	0.6	12.4	1.7	4.5	4.0
	２級	191	3.1	0.5	13.6	2.6	6.3	8.4
	３級	133	1.5	2.3	10.5	3.8	13.5	11.3
	４級	181	2.8	－	6.1	6.1	13.8	15.5
	５級	103	1.9	－	9.7	4.9	23.3	3.9
	６級	47	4.3	－	19.1	6.4	14.9	8.5
	無回答	16	－	－	6.3	6.3	18.8	12.5
障害の部位（肢体不自由）別	上肢	74	2.7	1.4	14.9	1.4	32.4	10.8
	下肢	249	4.4	1.2	12.9	4.0	14.1	10.4
	右または左上下肢	290	1.0	－	6.6	3.8	10.0	10.0
	両上下肢	208	1.0	0.5	13.0	5.3	3.4	5.8
	体幹	27	－	－	14.8	－	7.4	3.7
	無回答	－	－	－	－	－	－	－

（６）障害の原因

問５　問４で回答した障害の主な原因は何ですか。（○は１つだけ）

【図表 3-1-11　障害の原因】（ｎ＝1,890）



障害の原因は、「病気」（39.0%）が最も多く、次いで「わからない」（16.8%）となっている。

性別にみると、男女ともに「病気」が最も多いが、「労働災害」や「戦災・戦傷」は女性より男性で割合が高い。また、「わからない」は男性（13.4%）より女性（20.7%）で割合が高い。

障害の発症時期別にみると、17 歳以下では「出生時」（33.5%）が最も多いが、18 歳以上では「病気」が最も多い。「交通事故」は 18～29 歳（16.7%）で、「労働災害」は 18～29 歳（15.9%）や 30 歳代（18.0%）で他の年齢層に比べて割合が高い。

障害の部位別にみると、いずれの障害においても「病気」が最も多いが、聴覚・平衡機能や音声・言語・そしゃく機能は、他に比べて「出生時」や「わからない」の割合が高い。また、肢体不自由では、他の障害に比べて「交通事故」（8.5%）や「労働災害」（8.6%）、「スポーツその他の事故」（4.5%）の割合が高い。

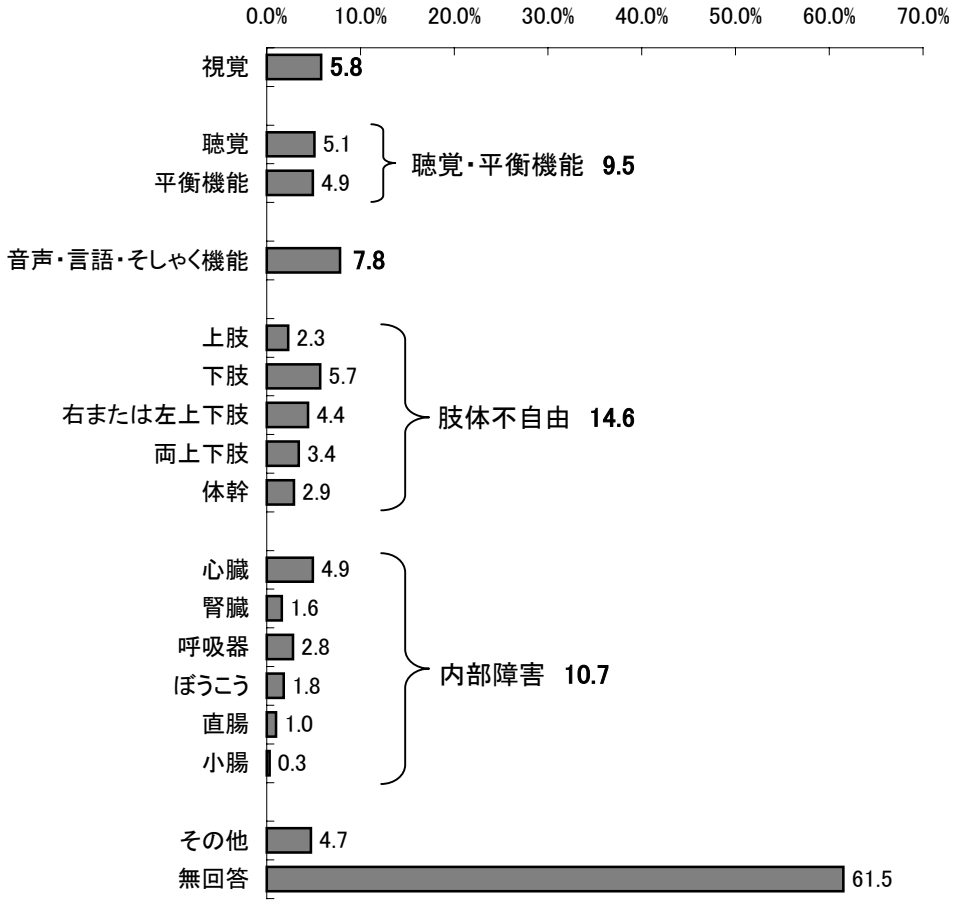
【図表 3-1-12　性別・障害の発症時期別・障害の部位別　障害の原因】（%）

		調査数［ｎ］（人）	出生時	病気	交通事故	労働災害	戦災・戦傷	スポーツその他の事故	その他	わからない	無回答
全　体		1,890	7.9	39.0	5.1	5.8	1.0	2.9	5.4	16.8	16.1
性別	男性	912	7.7	39.4	5.6	8.6	1.8	3.4	5.2	13.4	15.1
	女性	940	8.5	39.7	4.6	3.2	0.2	2.4	5.7	20.7	14.9
	無回答	38	－	13.2	5.3	5.3	2.6	－	2.6	2.6	68.4
障害の発症時期別	１７歳以下	343	33.5	30.6	3.8	0.6	0.3	5.2	4.7	12.0	9.3
	１８～２９歳	126	－	24.6	16.7	15.9	9.5	4.0	7.1	14.3	7.9
	３０～３９歳	122	4.1	35.2	5.7	18.0	0.8	3.3	6.6	15.6	10.7
	４０～４９歳	188	3.2	43.1	5.3	5.3	0.5	2.7	4.3	20.7	14.9
	５０～５９歳	306	1.6	50.0	3.6	7.2	－	1.3	2.0	20.3	14.1
	６０～６４歳	196	1.0	46.9	5.6	6.1	－	3.1	5.1	15.8	16.3
	６５歳以上	473	0.2	44.6	4.4	3.6	0.2	2.5	8.5	18.0	18.0
	無回答	136	11.8	15.4	1.5	3.7	2.2	－	3.7	16.9	44.9
障害の部位別	視覚	144	8.3	35.4	2.1	2.1	－	1.4	4.9	19.4	26.4
	聴覚・平衡機能	218	14.7	26.1	0.5	3.2	3.2	2.3	8.7	23.9	17.4
	音声・言語・そしゃく機能	38	15.8	34.2	2.6	5.3	－	－	2.6	31.6	7.9
	肢体不自由	848	8.4	40.2	8.5	8.6	0.9	4.5	5.0	18.2	5.8
	内部障害	468	3.2	51.7	0.6	1.9	0.2	－	5.3	11.3	25.6
	その他	95	10.5	24.2	11.6	14.7	1.1	7.4	5.3	13.7	11.6
	無回答	79	5.1	12.7	6.3	2.5	2.5	2.5	3.8	7.6	57.0

（７）重複する障害

問６　問４で回答した障害の他に、「重複する障害」がありますか。（○はあてはまるものすべて）

【図表 3-1-13　重複する障害】（ｎ＝1,890）



※この質問は複数回答であり、重複障害の大分類は、小分類のいずれか１つ以上を選択している人の割合である。このため、小分類の合計は大分類の値を超える。

主な障害以外の重複する障害については「無回答（重複する障害はない）」（61.5%）が６割強を占めており、回答者の４割（38.5%）は重複する障害がある。重複する障害（大分類）では『肢体不自由』（14.6%）が最も多く、次いで『内部障害』（10.7%）となっている。

主な障害の部位別にみると、主な障害が視覚や内部障害の場合は重複障害がある人は少なく、「無回答（重複する障害はない）」が７割を超えている。

一方、主な障害が音声・言語・そしゃく機能や肢体不自由の場合は、重複障害がある人が４割強と多い。肢体不自由の重複障害では『肢体不自由』（17.7%）が最も多く、次いで『聴覚・平衡機能』（13.3%）、『音声・言語・そしゃく機能』（12.9%）となっている。音声・言語・そしゃく機能の重複障害では『肢体不自由』（26.3%）が最も多い。

【図表 3-1-14　障害の部位別　重複する障害】（%）

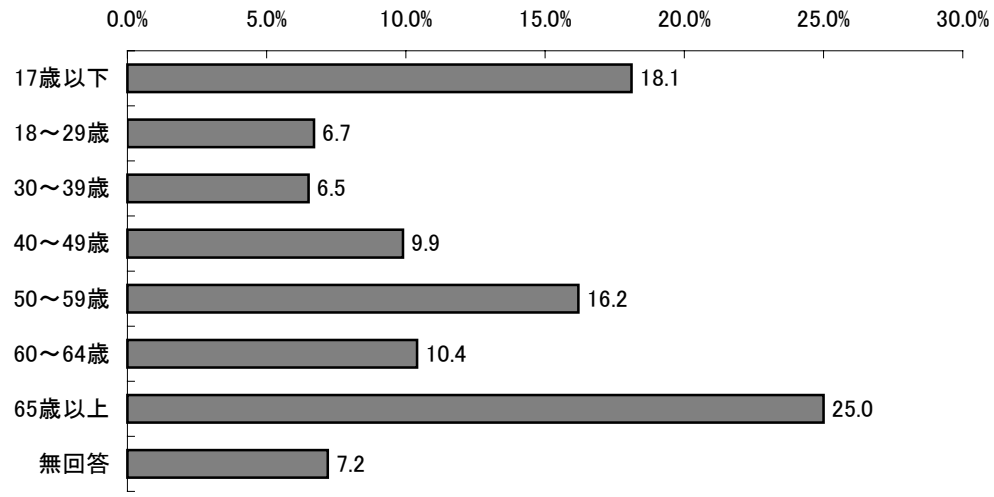
		調査数［n］（人）	視覚	聴覚・平衡機能	聴覚	平衡機能	音声・言語・そしゃく機能	肢体不自由	上肢	下肢	右または左上下肢	両上下肢	体幹
全　体		1,890	5.8	9.5	5.1	4.9	7.8	14.6	2.3	5.7	4.4	3.4	2.9
障害の部位別	視覚	144	－	13.2	11.8	1.4	2.1	11.1	0.7	6.3	4.9	0.7	－
	聴覚・平衡機能	218	8.3	5.0	0.9	4.1	8.3	13.8	0.9	8.7	3.7	2.3	1.4
	音声・言語・そしゃく機能	38	7.9	15.8	10.5	5.3	－	26.3	5.3	5.3	10.5	7.9	5.3
	肢体不自由	848	6.7	13.3	6.3	7.9	12.9	17.7	3.7	5.0	4.8	4.4	5.1
	内部障害	468	5.3	4.3	3.4	1.3	1.3	9.0	0.6	5.3	2.6	1.9	0.4
	その他	95	3.2	8.4	3.2	5.3	8.4	17.9	3.2	5.3	6.3	6.3	4.2
	無回答	79	5.1	2.5	1.3	2.5	3.8	13.9	2.5	6.3	6.3	3.8	－

		調査数［n］（人）	内部障害	心臓	腎臓	呼吸器	ぼうこう	直腸	小腸	その他	無回答
全　体		1,890	10.7	4.9	1.6	2.8	1.8	1.0	0.3	4.7	61.5
障害の部位別	視覚	144	10.4	4.2	4.9	2.8	－	0.7	－	2.8	70.1
	聴覚・平衡機能	218	13.8	8.7	0.5	4.6	1.4	0.9	－	3.2	62.4
	音声・言語・そしゃく機能	38	2.6	－	－	2.6	－	－	－	7.9	55.3
	肢体不自由	848	11.1	5.3	1.2	2.2	2.8	0.7	0.5	5.1	53.7
	内部障害	468	11.3	3.4	2.6	3.4	1.1	1.7	0.2	3.2	72.0
	その他	95	8.4	5.3	－	2.1	1.1	1.1	－	12.6	55.8
	無回答	79	2.5	1.3	1.3	1.3	1.3	－	－	5.1	75.9

（８）障害を受けた時期

問７　あなたが障害を受けた時期はいつですか[最初に障害が発生したときの満年齢をお答えください。疾患の場合は発病時を意味します]。

【図表 3-1-15　障害を受けた時期】（ｎ＝1,890）



障害を受けた時期は、「65 歳以上」（25.0%）が最も多く、次いで「17 歳以下」（18.1%）、「50～59 歳」（16.2%）となっている。

障害の部位別にみると、視覚や聴覚・平衡機能は「17 歳以下」が最も多く、音声・言語・そしゃく機能や内部障害は「65 歳以上」が最も多い。また、肢体不自由は「17 歳以下」（20.9%）や「65 歳以上」（21.9%）がそれぞれ 2 割を占めて多い。

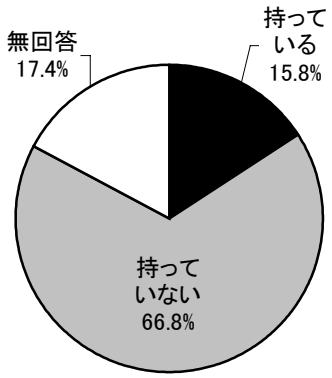
【図表 3-1-16　障害の部位別　障害を受けた時期】（%）

		調査数［ｎ］（人）	17歳以下	18～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65歳以上	無回答
全　体		1,890	18.1	6.7	6.5	9.9	16.2	10.4	25.0	7.2
障害の部位別	視覚	144	21.5	9.0	6.3	10.4	18.1	6.9	18.1	9.7
	聴覚・平衡機能	218	33.9	4.6	4.6	5.5	10.6	7.3	25.2	8.3
	音声・言語・そしゃく機能	38	21.1	－	2.6	5.3	15.8	10.5	34.2	10.5
	肢体不自由	848	20.9	8.7	7.1	10.0	17.8	9.7	21.9	3.9
	内部障害	468	5.1	4.3	7.7	12.4	16.7	15.4	33.5	4.9
	その他	95	24.2	9.5	5.3	10.5	17.9	9.5	20.0	3.2
	無回答	79	7.6	－	1.3	7.6	6.3	3.8	21.5	51.9

（９）療育手帳の有無

問８　「療育手帳」は持っていますか。

【図表 3-1-17　療育手帳の有無】（ｎ＝1,890）



療育手帳所持者（「持っている」と回答した者）は 15.8%である。

年齢別にみると、「17 歳以下」では療育手帳所持者の割合が 44.4%と高い。

障害の部位別にみると、主な障害が音声・言語・そしゃく機能である場合、他の障害に比べて療育手帳所持者の割合が高く、3 割（28.9%）を占めている。

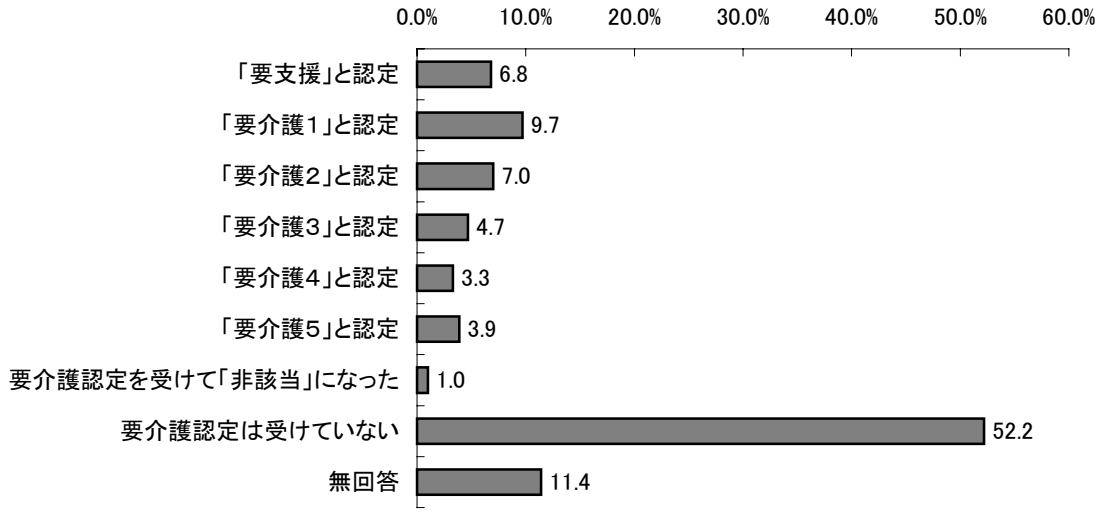
【図表 3-1-18　年齢別・障害の部位別　療育手帳の有無】（%）

		調査数［ｎ］（人）	持っている	持っていない	無回答
全　体		1,890	15.8	66.8	17.4
年齢別	１７歳以下	63	44.4	55.6	－
	１８～２９歳	40	22.5	70.0	7.5
	３０～３９歳	64	23.4	70.3	6.3
	４０～４９歳	73	12.3	82.2	5.5
	５０～５９歳	242	9.9	83.1	7.0
	６０～６４歳	185	14.1	71.9	14.1
	６５歳以上	1,174	15.7	63.5	20.9
	無回答	49	8.2	32.7	59.2
障害の部位別	視覚	144	11.8	71.5	16.7
	聴覚・平衡機能	218	11.0	72.0	17.0
	音声・言語・そしゃく機能	38	28.9	52.6	18.4
	肢体不自由	848	16.3	70.5	13.2
	内部障害	468	17.7	64.5	17.7
	その他	95	14.7	61.1	24.2
	無回答	79	15.2	31.6	53.2

（１０）　要介護認定の有無

【40 歳以上の方のみお答えください】
問９　介護保険の要介護認定を受けていますか。（○は１つだけ）

【図表 3-1-19　要介護認定の有無】（ｎ＝1,674）



40歳以上の回答者のうち､介護保険の要介護認定で要支援～要介護5と認定された人は35.4%となっている。

年齢別にみると、40・50 歳代や 60 代前半では 7 割以上が要介護認定を受けていないが、65 歳以上になると認定を受けている人が 44.6%と、受けていない人（41.7%）を上回っている。

【図表 3-1-20　年齢別　要介護認定の有無】（%）

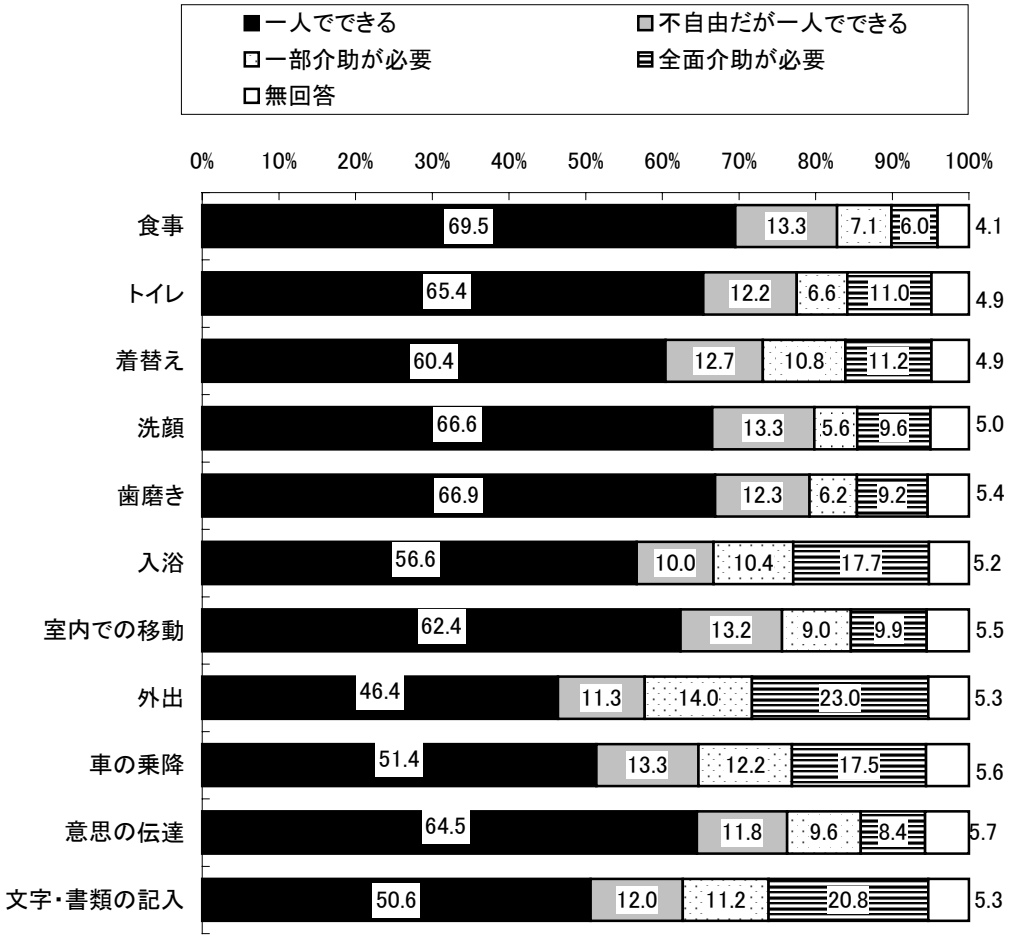
		調査数［ｎ］（人）	「要支援」と認定	「要介護1」と認定	「要介護2」と認定	「要介護3」と認定	「要介護4」と認定	「要介護5」と認定	要介護認定を受けて「非該当」になった	要介護認定は受けていない	無回答
全　体		1,674	6.8	9.7	7.0	4.7	3.3	3.9	1.0	52.2	11.4
年齢別	４０～４９歳	73	1.4	2.7	－	－	－	1.4	－	79.5	15.1
	５０～５９歳	242	2.1	4.1	3.3	1.2	1.2	0.8	－	81.0	6.2
	６０～６４歳	185	2.7	5.9	3.8	3.8	0.5	1.1	1.1	70.3	10.8
	６５歳以上	1,174	8.8	11.9	8.7	5.8	4.3	5.1	1.3	41.7	12.4
	無回答	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－

２．生活状況

（１）日常生活動作

問１０　あなたは、次のような動作が一人でできますか。それぞれの項目について、あてはまるものに１つずつ○をつけてください。※補装具を使用した状態でお答えください。

【図表 3-1-21　日常生活動作】（ｎ＝1,890）



11 項目の日常生活動作について自立度をたずねたところ、いずれの項目においても「一人でできる」「不自由だが一人でできる」との回答が過半数を占めているが、「一部介助が必要」「全面介助が必要」をあわせた要介助の割合は『外出』（37.0%）が最も高く、次いで『文字・書類の記入』（32.0%）、『車の乗降』（29.7%）、『入浴』（28.1%）となっており、これらの動作については介助を必要とする人が比較的多いことがわかる。

障害の部位別に、要介助の割合（「一部介助」＋「全面介助」）をみると、視覚では『文字・書類の記入』（63.9%）や『外出』（55.6%）、『車の乗降』（40.3%）で要介助の割合が高く、それぞれ４割を超えている。聴覚・平衡機能や音声・言語・そしゃく機能でも『外出』や『文字・書類の記入』の割合が高いが、これに加えて『意思の伝達』の割合も高くなっている。

肢体不自由は、全項目において、要介助の割合が高いが、中でも『外出』（43.9%）や『入浴』（39.5%）、『車の乗降』（39.2%）では４割前後と特に高い。一方、内部障害では、他の障害に比べて、要介助の割合が低く、日常生活動作については比較的自立している人が多いといえる。

【図表 3-1-22　障害の部位別　日常生活動作に介助を要する人（「一部介助」「全面介助」の合計値）】

（%）

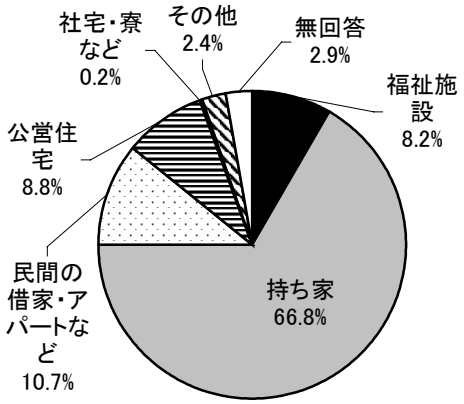
		調査数［n］（人）	食事	トイレ	着替え	洗顔	歯磨き	入浴
全　体		1,890	13.1	17.6	22.0	15.2	15.4	28.1
障害の部位別	視覚	144	14.6	11.8	12.5	7.6	9.0	23.6
	聴覚・平衡機能	218	5.5	9.2	12.8	8.3	9.6	18.3
	音声・言語・そしゃく機能	38	26.3	21.1	26.3	18.4	23.7	26.3
	肢体不自由	848	19.6	25.8	33.3	23.6	22.5	39.5
	内部障害	468	3.6	6.4	8.1	4.9	5.1	12.0
	その他	95	9.5	15.8	16.8	11.6	13.7	27.4
	無回答	79	16.5	29.1	30.4	21.5	25.3	39.2

		調査数［n］（人）	室内での移動	外出	車の乗降	意思の伝達	文字・書類の記入	無回答
全　体		1,890	18.9	37.0	29.7	18.0	32.0	54.0
障害の部位別	視覚	144	13.9	55.6	40.3	13.9	63.9	31.3
	聴覚・平衡機能	218	9.6	33.0	21.1	27.5	30.3	55.0
	音声・言語・そしゃく機能	38	26.3	39.5	28.9	47.4	50.0	34.2
	肢体不自由	848	26.7	43.9	39.2	21.5	36.1	46.9
	内部障害	468	7.3	19.0	10.9	4.3	12.2	76.9
	その他	95	18.9	35.8	32.6	16.8	34.7	49.5
	無回答	79	35.4	46.8	41.8	30.4	40.5	48.1

（２）現在の住まい

問１１　あなたの現在のお住まいは次のどれですか。（○は１つだけ）

【図表 3-1-23　現在の住まい】（ｎ＝1,890）



現在の住まいは、「持ち家」（66.8%）が７割弱を占めて最も多く、次いで「民間の借家・アパートなど」（10.7%）となっている。また、「福祉施設」は8.2%となっている。

年齢別にみると、すべての年齢層で「持ち家」が最も多いが、18～29 歳では他の年齢層に比べて福祉施設入所者の割合が高く、15.0%となっている。

障害の程度別にみると、福祉施設入所者の割合は、重度障害者（1・2 級）で高く、それぞれ１割を超えている（1 級：12.2%、2 級：12.8%）。

障害の部位別にみると、福祉施設入所者の割合は、音声・言語・そしゃく機能（15.8%）や肢体不自由（11.1%）で高く、それぞれ１割を超えている。

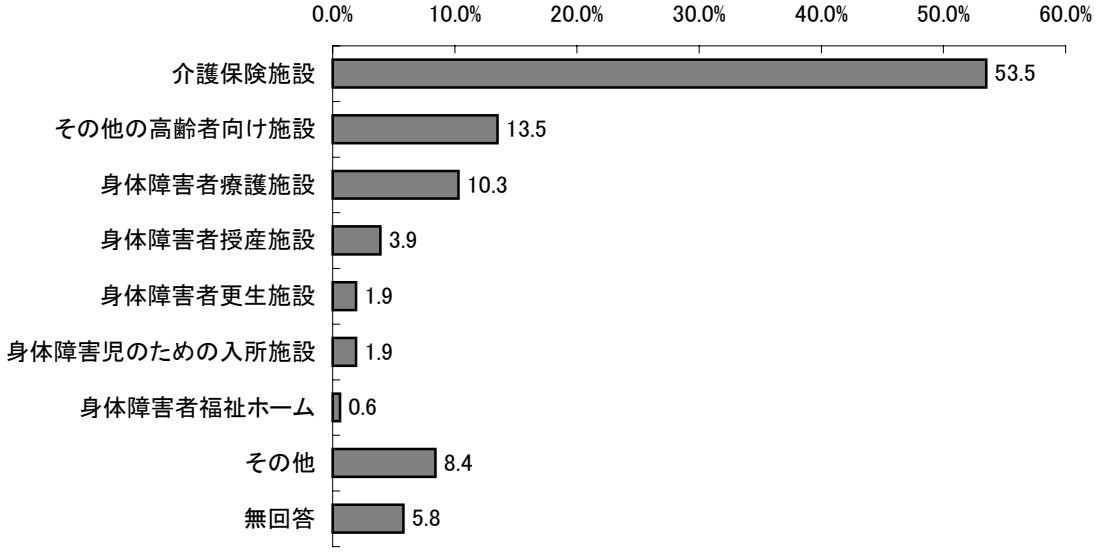
【図表 3-1-24　年齢別・障害の程度別・障害の部位別　現在の住まい】（%）

		調査数［ｎ］（人）	福祉施設	持ち家	民間の借家・アパートなど	公営住宅	社宅・寮など	その他	無回答
全　体		1,890	8.2	66.8	10.7	8.8	0.2	2.4	2.9
年齢別	１７歳以下	63	4.8	60.3	23.8	7.9	1.6	－	1.6
	１８～２９歳	40	15.0	60.0	17.5	5.0	－	－	2.5
	３０～３９歳	64	7.8	46.9	20.3	20.3	1.6	1.6	1.6
	４０～４９歳	73	5.5	63.0	16.4	9.6	1.4	2.7	1.4
	５０～５９歳	242	4.5	63.6	18.2	11.6	0.4	1.2	0.4
	６０～６４歳	185	5.4	64.9	14.1	11.4	－	2.7	1.6
	６５歳以上	1,174	9.5	70.4	6.9	7.4	－	2.6	3.2
	無回答	49	8.2	51.0	10.2	6.1	－	8.2	16.3
障害の程度別	１級	548	12.2	59.9	13.5	7.1	0.4	3.6	3.3
	２級	344	12.8	58.4	11.9	10.5	0.3	2.0	4.1
	３級	288	5.2	71.5	9.0	10.1	－	1.7	2.4
	４級	334	3.0	74.9	9.9	9.9	0.3	0.9	1.2
	５級	153	3.9	78.4	9.2	5.2	－	3.3	－
	６級	139	3.6	77.7	5.8	9.4	－	2.2	1.4
	無回答	84	9.5	59.5	8.3	9.5	－	2.4	10.7
障害の部位別	視覚	144	6.9	66.0	14.6	10.4	－	1.4	0.7
	聴覚・平衡機能	218	7.8	67.4	6.9	11.0	0.5	2.3	4.1
	音声・言語・そしゃく機能	38	15.8	65.8	－	2.6	－	10.5	5.3
	肢体不自由	848	11.1	65.8	10.3	7.5	0.1	2.7	2.5
	内部障害	468	2.1	72.0	13.5	8.8	0.4	1.3	1.9
	その他	95	8.4	64.2	10.5	13.7	－	－	3.2
	無回答	79	12.7	50.6	8.9	10.1	－	6.3	11.4

（３）福祉施設入所者の入所先

問１２から問１５は、福祉施設に入所している方のみお答えください。
問１２　現在入所している施設の種類は次のどれですか。（○は１つだけ）

【図表 3-1-25　福祉施設入所者の入所先】（ｎ＝155）



福祉施設入所者の入所先は、「介護保険施設」（53.5%）が過半数を占めて最も多く、次いで「その他の高齢者向け施設」（13.5%）、「身体障害者療護施設」（10.3%）となっている。

年齢別にみると、65 歳以上では「介護保険施設」（66.1%）が最も多く、次いで「その他の高齢者向け施設」（18.8%）となっており、これらをあわせると高齢障害者の 84.9%は介護保険施設等の高齢者福祉施設に入っている。

一方、18～64 歳では、知的障害者更生施設等の「その他」（25.0%）が最も多く、次いで「身体障害者療護施設」（19.4%）となっている。

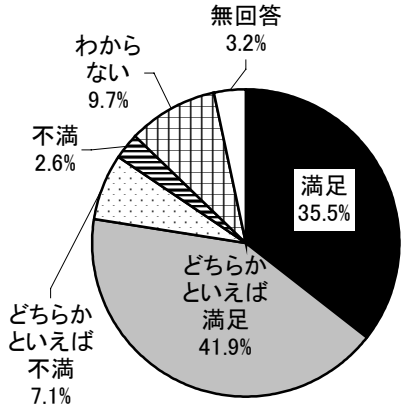
【図表 3-1-26　年齢別　福祉施設入所者の入所先】（%）

		調査数［ｎ］（人）	介護保険施設	その他の高齢者向け施設	身体障害者療護施設	身体障害者授産施設	身体障害者更生施設	身体障害児のための入所施設	身体障害者福祉ホーム	その他	無回答
全　体		155	53.5	13.5	10.3	3.9	1.9	1.9	0.6	8.4	5.8
年齢別	１７歳以下	3	－	－	－	－	－	100.0	－	－	－
	１８～６４歳	36	16.7	－	19.4	13.9	5.6	－	2.8	25.0	16.7
	６５歳以上	112	66.1	18.8	7.1	0.9	0.9	－	－	3.6	2.7
	無回答	4	75.0	－	25.0	－	－	－	－	－	－

（４）福祉施設入所者の満足度

問１３　現在入所している施設での生活に満足していますか。（○は１つだけ）

【図表 3-1-27　福祉施設入所者の満足度】（ｎ＝155）



福祉施設入所者の入所施設に対する満足度は、「どちらかといえば満足」（41.9%）が最も多く、次いで「満足」（35.5%）となっており、これらをあわせると『満足層』が 77.4%となっている。

一方、「どちらかといえば不満」（7.1%）・「不満」（2.6%）をあわせた『不満層』は 9.7%となっている。

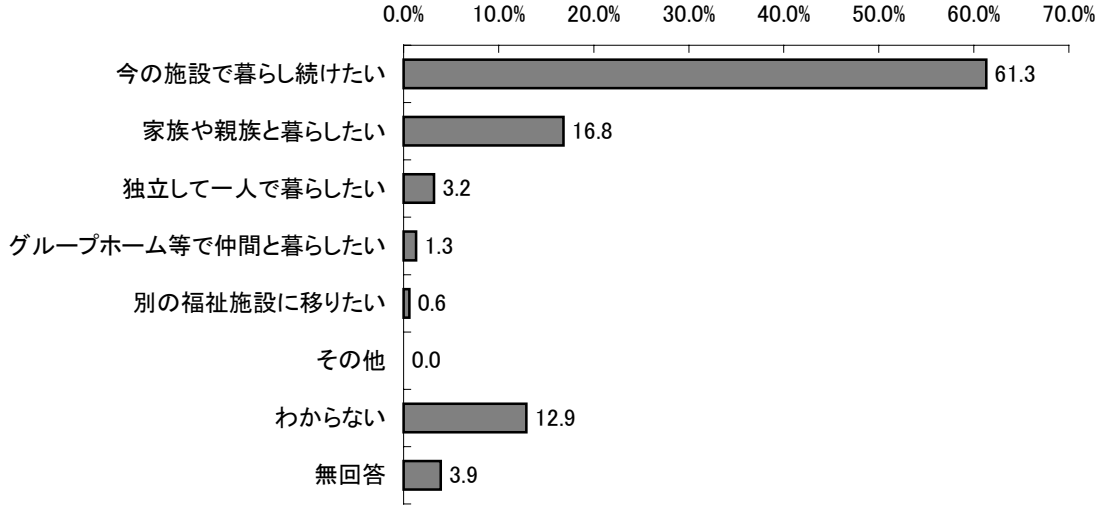
【図表 3-1-28　入所施設別　福祉施設入所者の満足度】（%）

		調査数［ｎ］（人）	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	わからない	無回答
全　体		155	35.5	41.9	7.1	2.6	9.7	3.2
入所施設別	身体障害者療護施設	16	31.3	37.5	6.3	6.3	18.8	－
	身体障害者更生施設	3	33.3	66.7	－	－	－	－
	身体障害者授産施設	6	33.3	66.7	－	－	－	－
	身体障害者福祉ホーム	1	－	100.0	－	－	－	－
	身体障害児のための入所施設	3	33.3	33.3	33.3	－	－	－
	介護保険施設	83	31.3	44.6	8.4	2.4	10.8	2.4
	その他の高齢者向け施設	21	47.6	47.6	4.8	－	－	－
	その他	13	46.2	23.1	－	－	23.1	7.7
	無回答	9	44.4	11.1	11.1	11.1	－	22.2

（５）福祉施設入所者が希望する将来の暮らし方

問１４　あなたは、将来、どのように暮らしたいですか。（○は１つだけ）

【図表 3-1-29　福祉施設入所者が希望する将来の暮らし方】（ｎ＝155）



福祉施設入所者が希望する将来の暮らし方は、「今の施設で暮らし続けたい」（61.3%）が 6 割を超えて最も多く、次いで「家族や親族と暮らしたい」（16.8%）、「わからない」（12.9%）となっている。また、「家族や親族と暮らしたい」「独立して一人で暮らしたい」「グループホーム等で仲間と暮らしたい」をあわせた『地域生活移行希望者』は 21.3%となっている。

年齢別にみると、18～64 歳では他の年齢層に比べて「独立して一人で暮らしたい」（11.1%）の割合が高い。

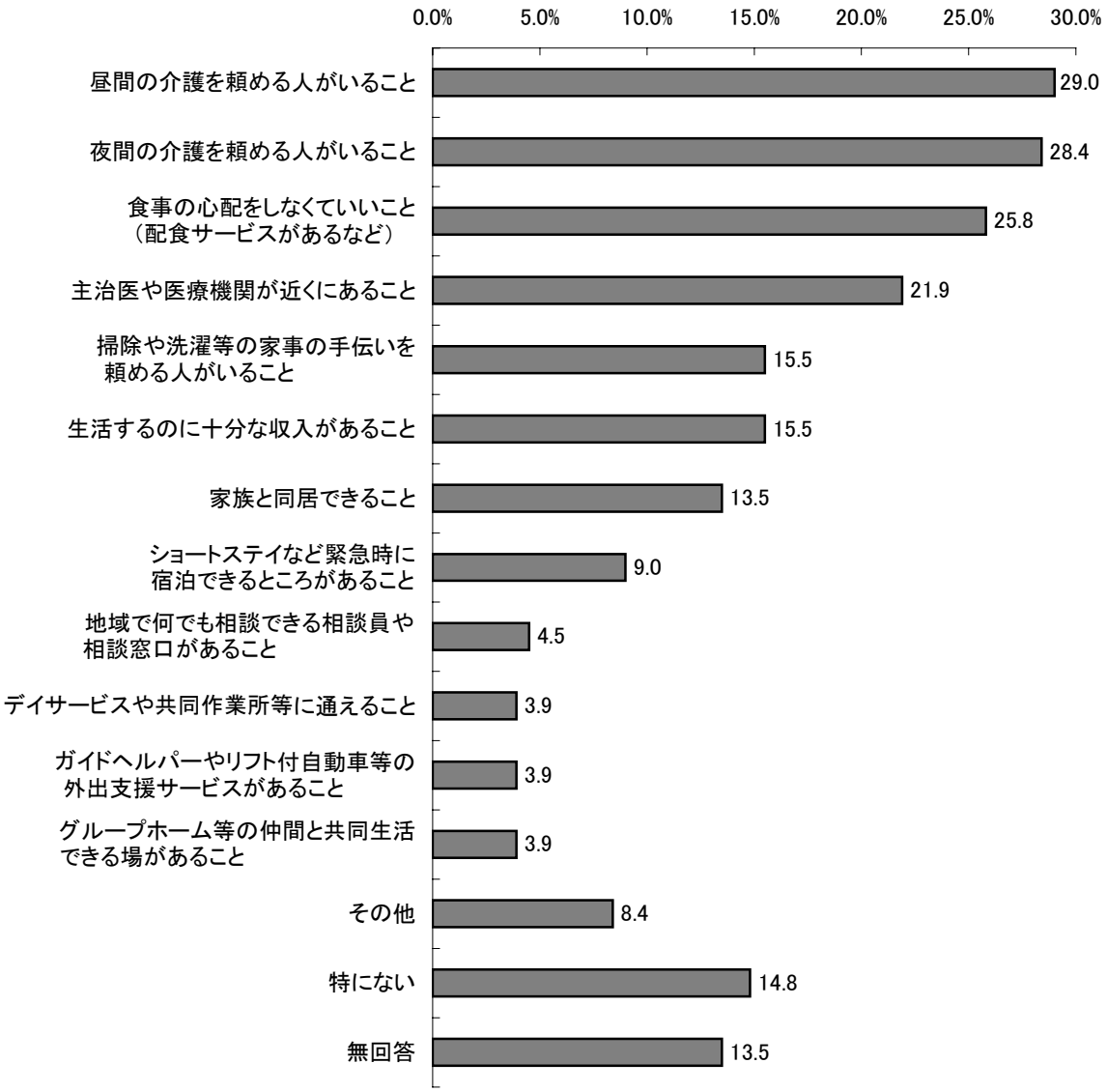
【図表 3-1-30　年齢別・入所施設別　福祉施設入所者が希望する将来の暮らし方】（%）

		調査数［ｎ］（人）	今の施設で暮らし続けたい	家族や親族と暮らしたい	独立して一人で暮らしたい	グループホーム等で仲間と暮らしたい	別の福祉施設に移りたい	その他	わからない	無回答
全　体		155	61.3	16.8	3.2	1.3	0.6	－	12.9	3.9
年齢別	１７歳以下	3	－	66.7	－	－	－	－	33.3	－
	１８～６４歳	36	63.9	11.1	11.1	2.8	－	－	8.3	2.8
	６５歳以上	112	62.5	17.9	0.9	0.9	0.9	－	12.5	4.5
	無回答	4	50.0	－	－	－	－	－	50.0	－
入所施設別	身体障害者療護施設	16	50.0	18.8	12.5	－	－	－	18.8	－
	身体障害者更生施設	3	66.7	－	33.3	－	－	－	－	－
	身体障害者授産施設	6	83.3	－	－	－	－	－	16.7	－
	身体障害者福祉ホーム	1	－	－	－	－	－	－	100.0	－
	身体障害児のための入所施設	3	－	66.7	－	－	－	－	33.3	－
	介護保険施設	83	60.2	20.5	1.2	1.2	1.2	－	13.3	2.4
	その他の高齢者向け施設	21	76.2	14.3	4.8	－	－	－	－	4.8
	その他	13	69.2	－	－	－	－	－	23.1	7.7
	無回答	9	55.6	11.1	－	11.1	－	－	－	22.2

（６）福祉施設入所者が地域生活に移行するために必要な条件

問１５　あなたは、どのような条件が整えば、自宅や地域で生活できると思いますか。（○は３つまで）

【図表 3-1-31　福祉施設入所者が地域生活に移行するために必要な条件】（ｎ＝155）



福祉施設入所者が自宅や地域で生活するために必要な条件は、「昼間の介護を頼める人がいること」（29.0%）が最も多く、次いで「夜間の介護を頼める人がいること」（28.4%）、「食事の心配をしなくていいこと(配食サービスがあるなど)」（25.8%）、「主治医や医療機関が近くにあること」（21.9%）となっている。

障害の程度別にみると、最重度の１級では「昼間の介護を頼める人がいること」（37.3%）や「夜間の介護を頼める人がいること」（38.8%）などの在宅介護支援に関する項目の割合が高い。一方、3・4 級の中度層では、他に比べて「家族と同居できること」（3 級：26.7%、4 級：40.0%）の割合が高い。

【図表 3-1-32　障害の程度別・入所施設別　福祉施設入所者が地域生活に移行するために必要な条件】

（%）

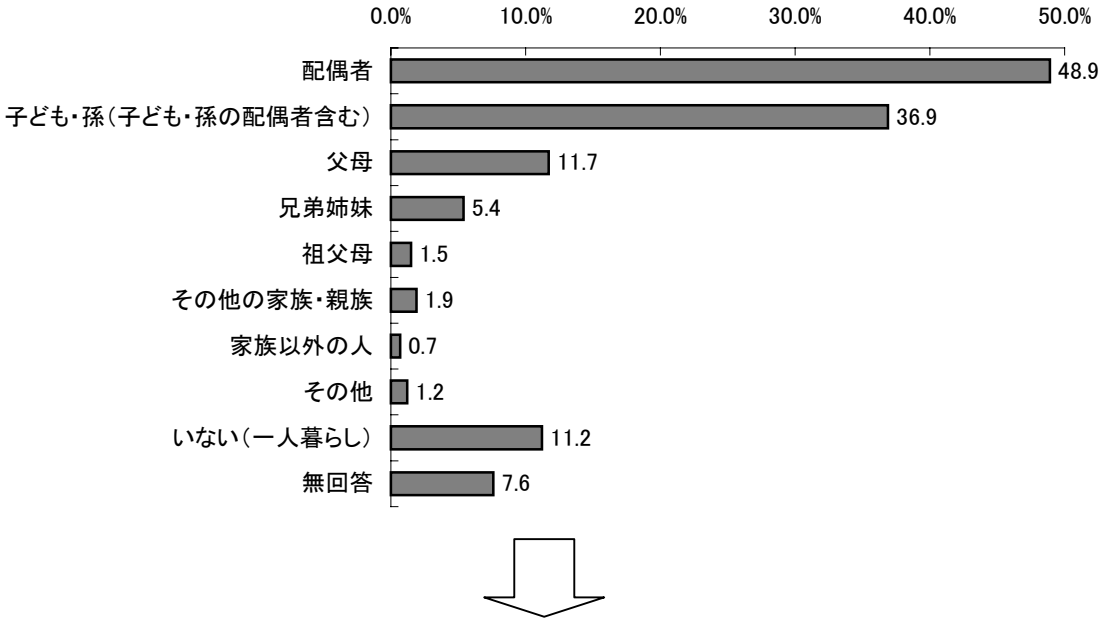
		調査数［n］（人）	昼間の介護を頼める人がいること	夜間の介護を頼める人がいること	食事の心配をしなくていいこと（配食サービスがあるなど）	主治医や医療機関が近くにあること	掃除や洗濯等の家事の手伝いを頼める人がいること	生活するのに十分な収入があること	家族と同居できること
全　体		155	29.0	28.4	25.8	21.9	15.5	15.5	13.5
障害の程度別	１級	67	37.3	38.8	14.9	23.9	11.9	13.4	10.4
	２級	44	20.5	18.2	36.4	20.5	11.4	13.6	9.1
	３級	15	33.3	33.3	26.7	13.3	33.3	26.7	26.7
	４級	10	10.0	10.0	20.0	20.0	20.0	30.0	40.0
	５級	6	16.7	16.7	33.3	16.7	16.7	16.7	－
	６級	5	40.0	20.0	60.0	40.0	60.0	－	20.0
	無回答	8	25.0	25.0	37.5	25.0	－	12.5	12.5
入所施設別	身体障害者療護施設	16	50.0	50.0	18.8	31.3	12.5	12.5	6.3
	身体障害者更生施設	3	－	－	－	33.3	－	33.3	－
	身体障害者授産施設	6	16.7	16.7	83.3	50.0	33.3	50.0	－
	身体障害者福祉ホーム	1	－	－	－	100.0	－	100.0	－
	身体障害児のための入所施設	3	100.0	－	－	－	－	33.3	－
	介護保険施設	83	31.3	30.1	15.7	19.3	10.8	8.4	14.5
	その他の高齢者向け施設	21	14.3	23.8	61.9	23.8	38.1	23.8	23.8
	その他	13	23.1	23.1	46.2	7.7	15.4	30.8	23.1
	無回答	9	11.1	22.2	－	22.2	11.1	－	－

		調査数［n］（人）	ショートステイなど緊急時に宿泊できるところがあること	地域で何でも相談できる相談員や相談窓口があること	デイサービスや共同作業所等に通えること	ガイドヘルパーやリフト付自動車等の外出支援サービスがあること	グループホーム等の仲間と共同生活できる場があること	その他	特にない	無回答
全　体		155	9.0	4.5	3.9	3.9	3.9	8.4	14.8	13.5
障害の程度別	１級	67	11.9	4.5	4.5	4.5	3.0	9.0	11.9	14.9
	２級	44	11.4	4.5	－	6.8	6.8	6.8	15.9	18.2
	３級	15	－	6.7	6.7	－	－	13.3	13.3	6.7
	４級	10	－	－	－	－	－	－	40.0	－
	５級	6	16.7	16.7	－	－	－	－	33.3	16.7
	６級	5	－	－	20.0	－	－	－	－	－
	無回答	8	－	－	12.5	－	12.5	25.0	－	12.5
入所施設別	身体障害者療護施設	16	12.5	6.3	－	18.8	－	－	6.3	12.5
	身体障害者更生施設	3	－	－	－	－	－	－	33.3	33.3
	身体障害者授産施設	6	33.3	16.7	－	－	－	－	－	－
	身体障害者福祉ホーム	1	－	100.0	－	－	－	－	－	－
	身体障害児のための入所施設	3	66.7	－	33.3	－	－	－	－	－
	介護保険施設	83	6.0	2.4	2.4	3.6	2.4	13.3	19.3	14.5
	その他の高齢者向け施設	21	4.8	4.8	4.8	－	9.5	－	4.8	4.8
	その他	13	7.7	7.7	7.7	－	7.7	7.7	23.1	7.7
	無回答	9	11.1	－	11.1	－	11.1	11.1	11.1	44.4

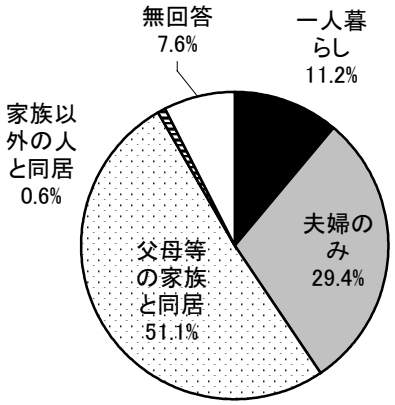
（７）在宅生活者の同居家族

問１６から問１９は、福祉施設以外のところで生活されている方のみお答えください。
問１６　あなたは、現在、どなたと同居していますか。（○はあてはまるものすべて）

【図表 3-1-33　在宅生活者の同居家族】（ｎ＝1,681）



【図表 3-1-34　在宅生活者の家族構成】（ｎ＝1,681）



在宅生活者の同居家族は、「配偶者」（48.9%）が最も多く、次いで「子ども・孫（子ども・孫の配偶者含む）」（36.9%）、「父母」（11.7%）、「いない(一人暮らし)」（11.2%）となっている。

同居家族をもとに家族構成を整理すると、「父母等の家族と同居」（51.1%）が半数を占めて最も多く、次いで「夫婦のみ」（29.4%）、「一人暮らし」（11.2%）となっている。

性別にみると、「一人暮らし」の割合は男性（8.1%）より女性（14.1%）で高く、「夫婦のみ」の割合は女性（23.4%）より男性（35.2%）で高い。

年齢別にみると、すべての年齢層で「父母等の家族と同居」が最も多いが、その割合は加齢とともに低下し、50 歳代以上では 6 割以下となり、かわって「夫婦のみ」の割合が高まっている。

【図表 3-1-35　性別・年齢別　在宅生活者の同居家族】（%）

		調査数［n］（人）	配偶者	子ども・孫（子ども・孫の配偶者含む）	父母	兄弟姉妹	祖父母	その他の家族・親族	家族以外の人	その他	いない（一人暮らし）	無回答
全　体		1,681	48.9	36.9	11.7	5.4	1.5	1.9	0.7	1.2	11.2	7.6
性別	男性	836	60.3	35.5	13.2	4.8	1.7	1.3	0.8	1.1	8.1	6.3
	女性	817	37.3	38.9	10.5	6.1	1.3	2.4	0.5	1.3	14.1	8.7
	無回答	28	46.4	21.4	3.6	－	－	3.6	－	－	21.4	14.3
年齢別	１７歳以下	59	－	－	96.6	50.8	16.9	1.7	－	－	－	3.4
	１８～２９歳	33	21.2	3.0	75.8	39.4	18.2	9.1	3.0	－	－	3.0
	３０～３９歳	58	43.1	34.5	51.7	12.1	6.9	1.7	－	1.7	10.3	1.7
	４０～４９歳	68	54.4	50.0	36.8	7.4	1.5	2.9	1.5	1.5	8.8	－
	５０～５９歳	230	57.4	36.5	19.6	5.7	0.4	2.2	0.4	－	13.9	6.5
	６０～６４歳	172	60.5	33.7	5.2	2.9	1.2	2.9	－	1.7	11.0	7.0
	６５歳以上	1,024	49.2	40.4	0.5	1.6	0.1	1.4	0.8	1.5	11.6	8.6
	無回答	37	35.1	27.0	2.7	2.7	－	2.7	－	－	18.9	24.3

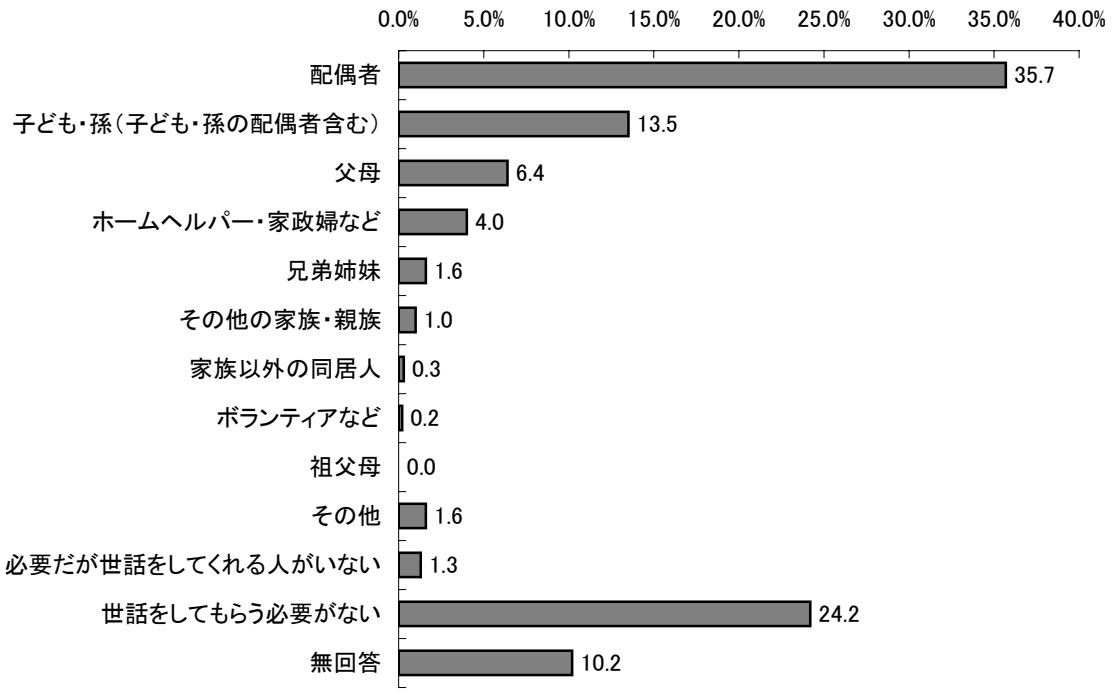
【図表 3-1-36　性別・年齢別　在宅生活者の家族構成】（%）

		調査数［n］（人）	一人暮らし	夫婦のみ	父母等の家族と同居	家族以外の人と同居	無回答
全　体		1,681	11.2	29.4	51.1	0.6	7.6
性別	男性	836	8.1	35.2	49.6	0.7	6.3
	女性	817	14.1	23.4	53.4	0.5	8.7
	無回答	28	21.4	35.7	28.6	－	14.3
年齢別	１７歳以下	59	－	－	96.6	－	3.4
	１８～２９歳	33	－	9.1	84.8	3.0	3.0
	３０～３９歳	58	10.3	6.9	81.0	－	1.7
	４０～４９歳	68	8.8	10.3	79.4	1.5	－
	５０～５９歳	230	13.9	25.2	53.9	0.4	6.5
	６０～６４歳	172	11.0	39.0	43.0	－	7.0
	６５歳以上	1,024	11.6	34.0	45.1	0.7	8.6
	無回答	37	18.9	21.6	35.1	－	24.3

（８）在宅生活者の主な介助者

問１７　あなたは身の回りの世話を、主にどなたにしてもらっていますか。（○は１つだけ）

【図表 3-1-37　在宅生活者の主な介助者】（ｎ＝1,681）



在宅生活者の主な介助者は、「配偶者」（35.7%）が最も多く、次いで「世話をしてもらう必要がない」（24.2%）、「子ども・孫（子ども・孫の配偶者含む）」（13.5%）となっている。

性別にみると、男性では「配偶者」（50.6%）が最も多いが、女性では「世話をしてもらう必要がない」（29.7%）が最も多く、次いで「子ども・孫（子ども・孫の配偶者含む）」（20.1%）、「配偶者」（20.0%）となっている。

年齢別にみると、17 歳以下では「父母」（89.8%）が 9 割を占めて最も多い。18 歳～20 歳代になると「父母」（39.4%）と「世話をしてもらう必要がない」（39.4%）が同率で最も多くなり、30～50 歳代では「世話をしてもらう必要がない」が最も多くなっている。60 歳代以上になると「配偶者」が最も多く、4 割前後を占めている。

【図表 3-1-38　性別・年齢別　在宅生活者の主な介助者】（%）

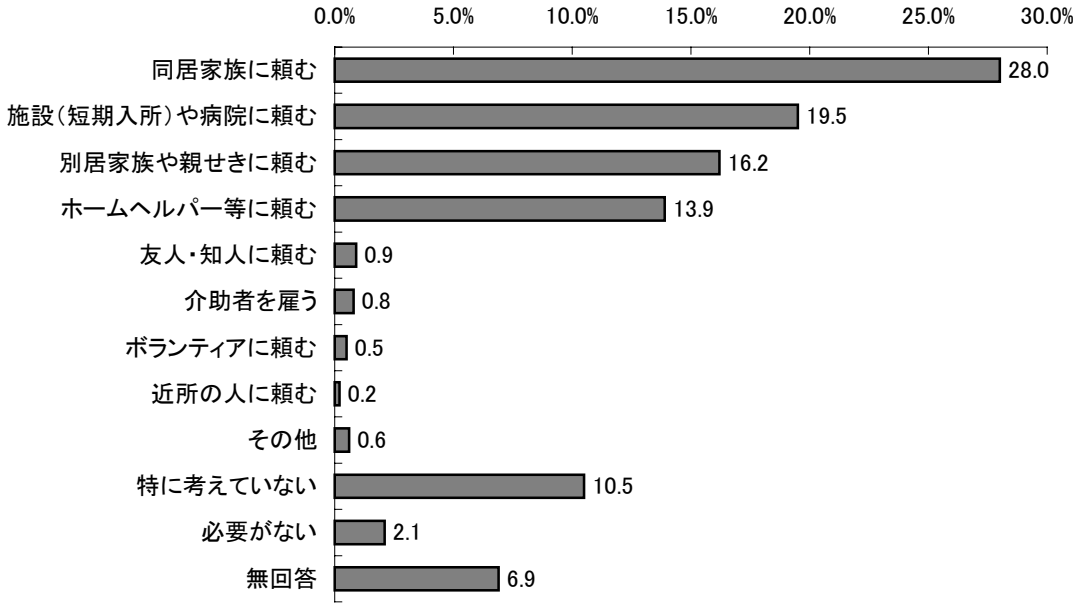
		調査数［n］（人）	配偶者	子ども・孫（子ども・孫の配偶者含む）	父母	ホームヘルパー・家政婦など	兄弟姉妹	その他の家族・親族
全　体		1,681	35.7	13.5	6.4	4.0	1.6	1.0
性別	男性	836	50.6	7.1	7.7	2.4	1.2	0.4
	女性	817	20.0	20.1	5.3	5.5	2.1	1.6
	無回答	28	50.0	14.3	3.6	7.1	－	3.6
年齢別	１７歳以下	59	－	－	89.8	－	－	－
	１８～２９歳	33	18.2	－	39.4	－	－	－
	３０～３９歳	58	19.0	－	31.0	5.2	－	－
	４０～４９歳	68	20.6	1.5	19.1	1.5	－	1.5
	５０～５９歳	230	34.8	3.9	3.5	3.9	3.0	1.3
	６０～６４歳	172	45.9	7.0	－	3.5	2.9	－
	６５歳以上	1,024	38.6	19.5	0.2	4.4	1.4	1.2
	無回答	37	40.5	13.5	2.7	8.1	2.7	2.7

		調査数［n］（人）	家族以外の同居人	ボランティアなど	祖父母	その他	必要だが世話をしてくれる人がいない	世話をしてもらう必要がない	無回答
全　体		1,681	0.3	0.2	－	1.6	1.3	24.2	10.2
性別	男性	836	0.4	0.1	－	1.3	1.7	19.4	7.9
	女性	817	0.2	0.2	－	2.0	1.0	29.7	12.4
	無回答	28	－	－	－	－	－	3.6	17.9
年齢別	１７歳以下	59	－	－	－	－	－	6.8	3.4
	１８～２９歳	33	－	－	－	－	－	39.4	3.0
	３０～３９歳	58	－	－	－	－	1.7	39.7	3.4
	４０～４９歳	68	1.5	－	－	1.5	1.5	51.5	－
	５０～５９歳	230	0.4	－	－	1.7	2.6	37.8	7.0
	６０～６４歳	172	－	－	－	3.5	1.7	25.6	9.9
	６５歳以上	1,024	0.3	0.3	－	1.6	1.1	19.4	12.1
	無回答	37	－	－	－	－	－	2.7	27.0

（９）在宅生活者の主な介助者が介助できなくなった場合の対処方法

問１７―１　（問１７で１～９のいずれかを選んだ方のみお答えください）身の回りの世話をしている方が、万一病気や事故などで、一時的にお世話をすることができなくなったとした場合、どうしますか。（○は１つだけ）

【図表 3-1-39　在宅生活者の主な介助者が介助できなくなった場合の対処方法】（ｎ＝1,054）



在宅生活者の主な介助者が介助できなくなった場合の対処方法は、「同居家族に頼む」（28.0%）が最も多く、次いで「施設（短期入所）や病院に頼む」（19.5%）、「別居家族や親せきに頼む」（16.2%）、「ホームヘルパー等に頼む」（13.9%）となっている。

家族構成別にみると、一人暮らしでは、他に比べて「ホームヘルパー等に頼む」（40.0%）や「友人・知人に頼む」（8.0%）の割合が高い。

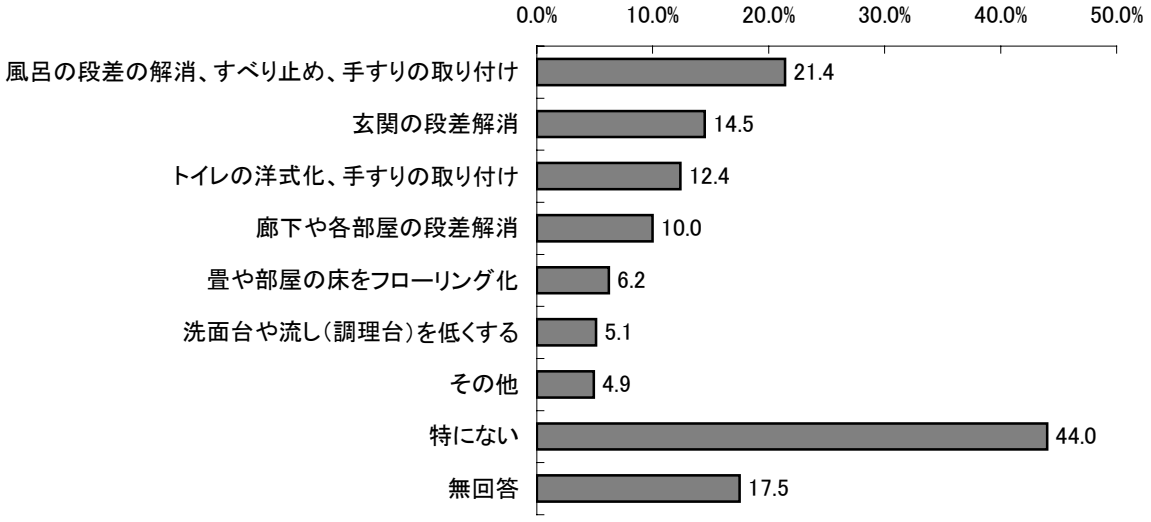
【図表 3-1-40　家族構成別　在宅生活者の主な介助者が介助できなくなった場合の対処方法】（%）

		調査数［ｎ］（人）	同居家族に頼む	施設（短期入所）や病院に頼む	別居家族や親せきに頼む	ホームヘルパー等に頼む	友人・知人に頼む	介助者を雇う	ボランティアに頼む	近所の人に頼む	その他	特に考えていない	必要がない	無回答
全　体		1,054	28.0	19.5	16.2	13.9	0.9	0.8	0.5	0.2	0.6	10.5	2.1	6.9
家族構成別	一人暮らし	75	－	13.3	14.7	40.0	8.0	－	1.3	－	－	10.7	－	12.0
	夫婦のみ	373	15.0	17.7	22.8	18.0	0.3	1.1	0.5	0.5	0.3	14.2	2.4	7.2
	父母等の家族と同居	580	41.0	21.4	12.1	7.9	0.3	0.7	0.2	－	0.7	8.3	2.1	5.3
	家族以外の人と同居	6	－	33.3	16.7	16.7	－	－	－	－	16.7	16.7	－	－
	無回答	20	5.0	20.0	20.0	10.0	－	－	5.0	－	－	5.0	5.0	30.0

（１０）住まいの改造希望

問１８　現在の住まいで、使い勝手が悪いところや、改造したい（してほしい）ところはありますか。（○はあてはまるものすべて）

【図表 3-1-41　住まいの改造希望】（ｎ＝1,681）



現在の住まいで改造したいところについては「特にない」（44.0%）が最も多く、次いで「風呂の段差の解消、すべり止め、手すりの取り付け」（21.4%）、「玄関の段差解消」（14.5%）となっている。

障害の部位別にみると、肢体不自由では、他に比べて、全般的に改造意向が高い。

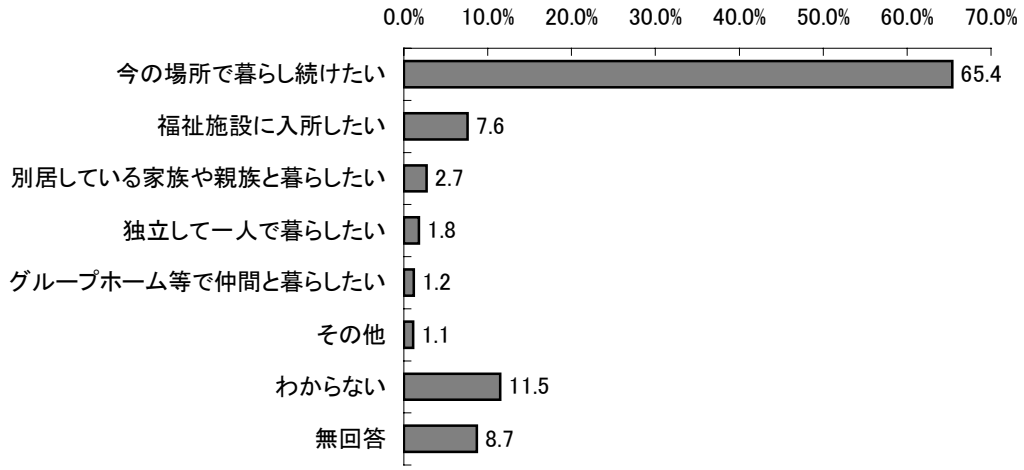
【図表 3-1-42　障害の部位別　住まいの改造希望】（%）

		調査数［ｎ］（人）	風呂の段差の解消、すべり止め、手すりの取り付け	玄関の段差解消	トイレの洋式化、手すりの取り付け	廊下や各部屋の段差解消	畳や部屋の床をフローリング化	洗面台や流し（調理台）を低くする	その他	特にない	無回答
全　体		1,681	21.4	14.5	12.4	10.0	6.2	5.1	4.9	44.0	17.5
障害の部位別	視覚	133	18.0	6.0	13.5	7.5	1.5	3.0	5.3	46.6	18.0
	聴覚・平衡機能	192	21.4	12.5	12.5	7.8	5.2	4.7	5.2	49.0	18.2
	音声・言語・そしゃく機能	30	10.0	－	13.3	3.3	10.0	－	－	43.3	30.0
	肢体不自由	733	23.7	18.7	14.2	12.6	7.9	7.2	7.1	40.4	14.2
	内部障害	449	19.2	12.0	9.1	8.0	5.1	3.6	2.4	49.7	18.9
	その他	84	27.4	19.0	11.9	10.7	8.3	4.8	2.4	40.5	15.5
	無回答	60	15.0	8.3	11.7	8.3	3.3	－	－	30.0	40.0

（１１）在宅生活者が希望する将来の暮らし方

問１９　あなたは、将来、どのように暮らしたいですか。（○は１つだけ）

【図表 3-1-43　在宅生活者が希望する将来の暮らし方】（ｎ＝1,681）



在宅生活者が希望する将来の暮らし方は、「今の場所で暮らし続けたい」（65.4%）が 6 割を超えて最も多く、次いで「わからない」（11.5%）となっている。

「今の場所で暮らし続けたい」「独立して一人で暮らしたい」「別居している家族や親族と暮らしたい」「グループホーム等で仲間と暮らしたい」をあわせると、自宅や地域で生活したいと考えている人が 71.1%を占めており、これに対して福祉施設入所希望者（「福祉施設に入所したい」）は 7.6%となっている。

年齢別にみると、18～29 歳では「わからない」（39.4%）が最も多いが、その他の年齢層では「今の場所で暮らし続けたい」が最も多く、その割合は加齢とともに高まり、65 歳以上では 69.3%となっている。また、20 歳代以下では他の年齢層に比べて「独立して一人で暮らしたい」の割合が高く、特に 18～29 歳では 30.3%と高い。

家族構成別にみると、一人暮らしでは他に比べて福祉施設入所希望者の割合が高く、13.2%となっている。

【図表 3-1-44　年齢別・家族構成別　在宅生活者が希望する将来の暮らし方】（%）

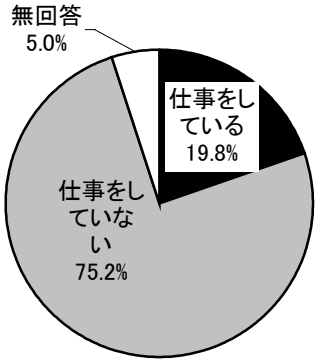
		調査数［ｎ］（人）	今の場所で暮らし続けたい	福祉施設に入所したい	別居している家族や親族と暮らしたい	独立して一人で暮らしたい	グループホーム等で仲間と暮らしたい	その他	わからない	無回答
全　体		1,681	65.4	7.6	2.7	1.8	1.2	1.1	11.5	8.7
年齢別	１７歳以下	59	37.3	5.1	1.7	13.6	3.4	3.4	30.5	5.1
	１８～２９歳	33	18.2	－	－	30.3	3.0	3.0	39.4	6.1
	３０～３９歳	58	55.2	5.2	－	1.7	－	1.7	29.3	6.9
	４０～４９歳	68	61.8	4.4	4.4	4.4	－	－	20.6	4.4
	５０～５９歳	230	65.7	6.1	1.3	1.3	2.6	1.3	13.9	7.8
	６０～６４歳	172	67.4	6.4	2.3	0.6	1.2	1.2	12.8	8.1
	６５歳以上	1,024	69.3	8.9	3.0	0.5	0.9	1.0	7.4	9.0
	無回答	37	56.8	5.4	8.1	－	－	－	2.7	27.0
家族構成別	一人暮らし	189	53.4	13.2	4.8	－	2.1	1.6	18.5	6.3
	夫婦のみ	495	72.7	8.3	4.8	0.6	1.0	1.0	8.9	2.6
	父母等の家族と同居	859	71.0	6.5	1.2	3.1	1.2	1.0	12.5	3.5
	家族以外の人と同居	10	40.0	10.0	－	－	－	10.0	30.0	10.0
	無回答	128	19.5	3.1	1.6	0.8	0.8	0.8	3.1	70.3

３．就労について

（１）就労状況

問２０　あなたは現在仕事をしていますか。

【図表 3-1-45　就労状況】（ｎ＝1,890）



回答者の 19.8%は現在仕事をしている。

仕事をしている人の割合を性別にみると、女性（12.2%）より男性（27.4%）で高い。年齢別にみると、30 歳代（57.8%）・40 歳代（57.5%）で高く、半数を超えている。

障害の程度別にみると、概ね障害の程度が軽いほど仕事をしている人の割合も高く、4～6 級ではそれぞれ 3 割弱～3 割程度が仕事をしている（4 級：26.3%、5 級：30.1%、6 級：26.6%）。

障害の部位別にみると、音声・言語・そしゃく機能は、他の障害に比べて、仕事をしている人の割合が 26.3%とやや高い。

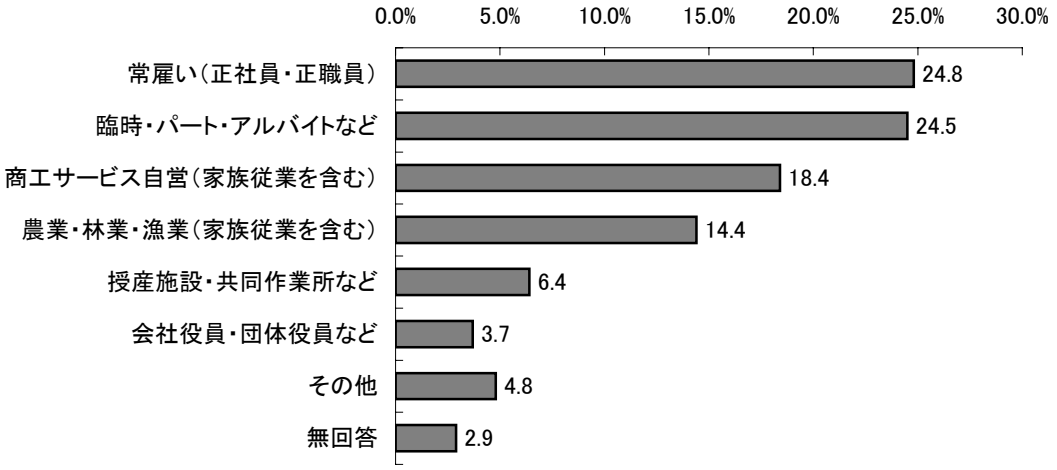
【図表 3-1-46　性別・年齢別・障害の程度別・障害の部位別　就労状況】（%）

		調査数［ｎ］（人）	仕事をしている	仕事をしていない	無回答
全　体		1,890	19.8	75.2	5.0
性別	男性	912	27.4	69.5	3.1
	女性	940	12.2	81.7	6.1
	無回答	38	26.3	50.0	23.7
年齢別	１７歳以下	63	－	96.8	3.2
	１８～２９歳	40	37.5	57.5	5.0
	３０～３９歳	64	57.8	40.6	1.6
	４０～４９歳	73	57.5	41.1	1.4
	５０～５９歳	242	43.8	54.1	2.1
	６０～６４歳	185	30.8	67.0	2.2
	６５歳以上	1,174	9.3	84.8	5.9
	無回答	49	18.4	61.2	20.4
障害の程度別	１級	548	13.9	80.7	5.5
	２級	344	15.1	81.4	3.5
	３級	288	21.9	74.3	3.8
	４級	334	26.3	68.6	5.1
	５級	153	30.1	64.1	5.9
	６級	139	26.6	71.9	1.4
	無回答	84	15.5	69.0	15.5
障害の部位別	視覚	144	20.8	76.4	2.8
	聴覚・平衡機能	218	21.1	74.8	4.1
	音声・言語・そしゃく機能	38	26.3	68.4	5.3
	肢体不自由	848	19.2	76.8	4.0
	内部障害	468	20.7	75.9	3.4
	その他	95	21.1	70.5	8.4
	無回答	79	11.4	62.0	26.6

（２）仕事の種類

問２０－１　（仕事をしている方のみお答えください）あなたはどのような仕事をしていますか。（○は１つだけ）

【図表 3-1-47　仕事の種類】（ｎ＝375）



仕事の種類は、「常雇い（正社員・正職員）」（24.8%）と「臨時・パート・アルバイトなど」（24.5%）が多く、次いで「商工サービス自営（家族従業を含む）」（18.4%）となっている。

性別にみると、男性では「常雇い（正社員・正職員）」（28.8%）が最も多く、女性では「臨時・パート・アルバイトなど」（43.5%）が最も多い。

障害の程度別にみると、障害の程度が最も軽い６級では、「農業・林業・漁業（家族従業を含む）」の割合が高く、32.4%を占めている。

障害の部位別にみると、視覚では「商工サービス自営（家族従業を含む）」（36.7%）、音声・言語・そしゃく機能では「授産施設・共同作業所など」（40.0%）、内部障害では「常雇い（正社員・正職員）」（33.0%）の割合が他に比べて高い。

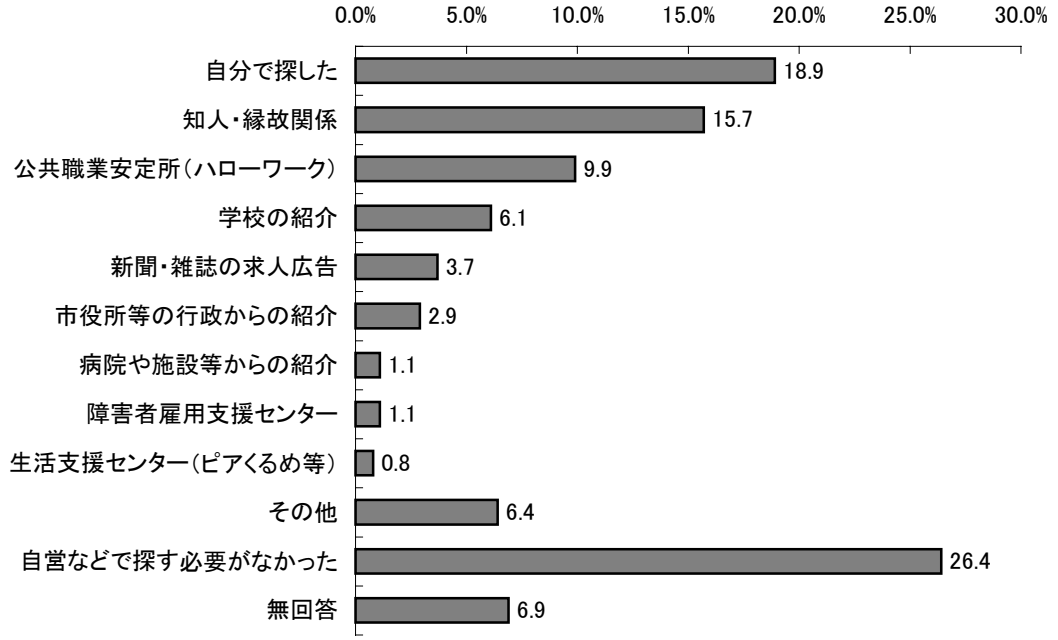
【図表 3-1-48　性別・障害の程度別・障害の部位別　仕事の種類】（%）

		調査数［ｎ］（人）	常雇い（正社員・正職員）	臨時・パート・アルバイトなど	商工サービス自営（家族従業を含む）	農業・林業・漁業（家族従業を含む）	授産施設・共同作業所など	会社役員・団体役員など	その他	無回答
全　体		375	24.8	24.5	18.4	14.4	6.4	3.7	4.8	2.9
性別	男性	250	28.8	16.0	20.8	16.4	6.8	3.6	4.8	2.8
	女性	115	15.7	43.5	13.9	9.6	6.1	4.3	5.2	1.7
	無回答	10	30.0	20.0	10.0	20.0	－	－	－	20.0
障害の程度別	１級	76	28.9	19.7	22.4	6.6	6.6	3.9	9.2	2.6
	２級	52	13.5	30.8	15.4	5.8	23.1	1.9	7.7	1.9
	３級	63	30.2	20.6	19.0	12.7	7.9	3.2	4.8	1.6
	４級	88	27.3	27.3	19.3	17.0	－	5.7	1.1	2.3
	５級	46	28.3	21.7	21.7	15.2	2.2	2.2	4.3	4.3
	６級	37	18.9	29.7	8.1	32.4	－	5.4	2.7	2.7
	無回答	13	7.7	23.1	15.4	30.8	7.7	－	－	15.4
障害の部位別	視覚	30	16.7	16.7	36.7	10.0	3.3	－	16.7	－
	聴覚・平衡機能	46	30.4	30.4	8.7	15.2	4.3	2.2	4.3	4.3
	音声・言語・そしゃく機能	10	－	10.0	20.0	10.0	40.0	－	－	20.0
	肢体不自由	163	21.5	23.9	17.8	17.8	9.2	3.7	3.1	3.1
	内部障害	97	33.0	24.7	20.6	10.3	－	6.2	5.2	－
	その他	20	30.0	30.0	15.0	10.0	－	5.0	5.0	5.0
	無回答	9	11.1	33.3	－	22.2	22.2	－	－	11.1

（３）仕事を見つけた方法

問２０－２　（仕事をしている方のみお答えください）仕事はどのような方法で見つけましたか。（○は１つだけ）

【図表 3-1-49　仕事を見つけた方法】（ｎ＝375）



仕事を見つけた方法は、「自営などで探す必要がなかった」（26.4%）が最も多く、次いで「自分で探した」（18.9%）、「知人・縁故関係」（15.7%）、「公共職業安定所（ハローワーク）」（9.9%）となっている。

障害の部位別にみると、視覚では「学校の紹介」（13.3%）、音声・言語・そしゃく機能では「病院や施設等からの紹介」（10.0%）や「生活支援センター（ピアくるめ等）」（10.0%）などの割合が、他に比べてやや高い。

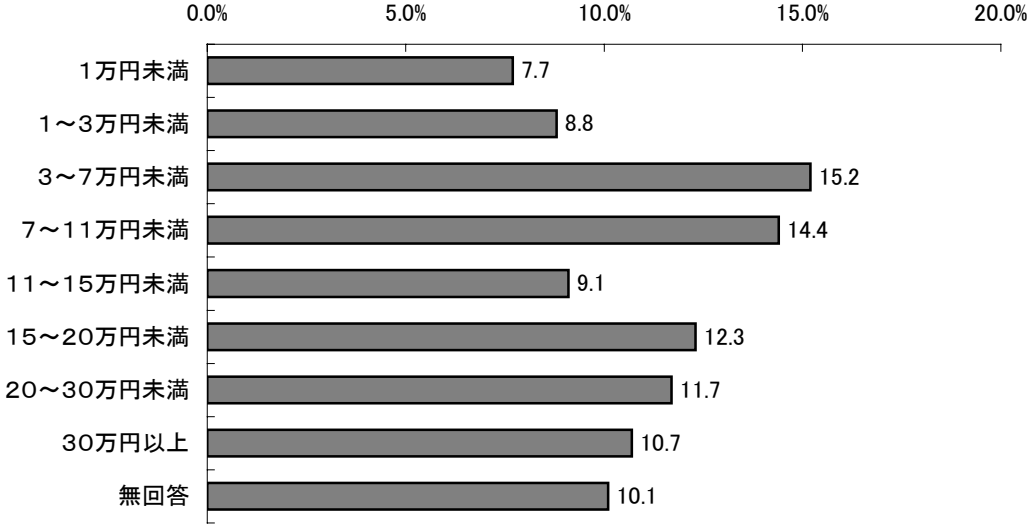
【図表 3-1-50　障害の部位別　仕事を見つけた方法】（%）

		調査数［ｎ］（人）	自分で探した	知人・縁故関係	公共職業安定所（ハローワーク）	学校の紹介	新聞・雑誌の求人広告	市役所等の行政からの紹介	病院や施設等からの紹介	障害者雇用支援センター	生活支援センター（ピアくるめ等）	その他	自営などで探す必要がなかった	無回答
全　体		375	18.9	15.7	9.9	6.1	3.7	2.9	1.1	1.1	0.8	6.4	26.4	6.9
障害の部位別	視覚	30	13.3	10.0	10.0	13.3	3.3	－	－	3.3	－	3.3	33.3	10.0
	聴覚・平衡機能	46	28.3	15.2	15.2	4.3	2.2	－	2.2	－	－	6.5	19.6	6.5
	音声・言語・そしゃく機能	10	10.0	－	－	－	－	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	30.0	10.0
	肢体不自由	163	14.1	15.3	11.7	4.9	3.7	4.3	1.2	1.2	1.2	6.1	28.8	7.4
	内部障害	97	22.7	18.6	8.2	6.2	5.2	2.1	－	－	－	8.2	26.8	2.1
	その他	20	35.0	20.0	－	15.0	－	－	－	－	－	5.0	20.0	5.0
	無回答	9	11.1	22.2	－	－	11.1	11.1	－	－	－	－	－	44.4

（４）月収

問２０－３　（仕事をしている方のみお答えください）あなたが仕事で得る月収は平均しておよそいくらくらいですか。（○は１つだけ）

【図表 3-1-51　月収】（ｎ＝375）



仕事で得る月収は、「3～7 万円未満」（15.2%）が最も多く、次いで「7～11 万円未満」（14.4%）、「15～20 万円未満」（12.3%）となっており、全体の 7 割弱（67.5%）が月収 20 万円未満である。

仕事の種類別にみると、常雇いでは「20～30 万円未満」（31.2%）が最も多く、全体の 8 割弱（78.5%）が 15 万円以上となっている。臨時・パート・アルバイトなどでは、「7～11 万円未満」（32.6%）が最も多く、3～11 万円未満の層が全体の 6 割（59.8%）を占めている。授産施設・共同作業所などでは、「１万円未満」が最も多く、70.8%となっている。

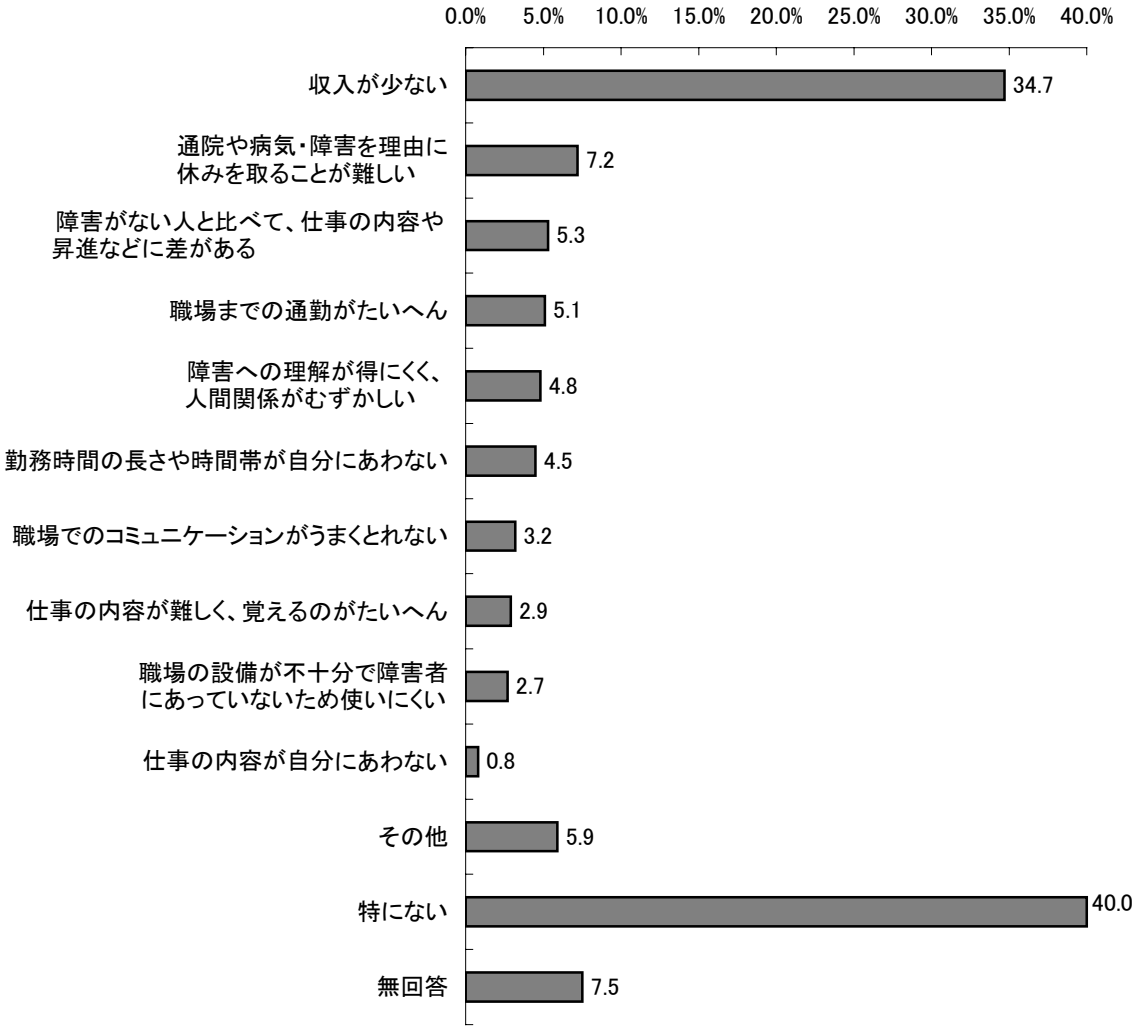
【図表 3-1-52　仕事の種類別　月収】（%）

		調査数［ｎ］（人）	１万円未満	１～３万円未満	３～７万円未満	７～１１万円未満	１１～１５万円未満	１５～２０万円未満	２０～３０万円未満	３０万円以上	無回答
全　体		375	7.7	8.8	15.2	14.4	9.1	12.3	11.7	10.7	10.1
仕事の種類別	農業・林業・漁業（家族従業を含む）	54	3.7	20.4	24.1	5.6	1.9	3.7	1.9	7.4	31.5
	商工サービス自営（家族従業を含む）	69	4.3	5.8	11.6	18.8	10.1	20.3	15.9	7.2	5.8
	会社役員・団体役員など	14	－	－	7.1	7.1	－	28.6	14.3	42.9	－
	常雇い（正社員・正職員）	93	－	－	2.2	5.4	12.9	21.5	31.2	25.8	1.1
	臨時・パート・アルバイトなど	92	5.4	12.0	27.2	32.6	13.0	5.4	1.1	－	3.3
	授産施設・共同作業所など	24	70.8	4.2	4.2	－	4.2	－	－	－	16.7
	その他	18	－	33.3	38.9	11.1	5.6	－	－	5.6	5.6
	無回答	11	18.2	－	－	－	－	9.1	－	－	72.7

（５）仕事上の悩みや困っていること

問２０－４　（仕事をしている方のみお答えください）仕事のことで悩んでいることや困っていることがありますか。（○はあてはまるものすべて）

【図表 3-1-53　仕事上の悩みや困っていること】（ｎ＝375）



仕事上の悩みや困っていることは、「特にない」（40.0%）が最も多く、次いで「収入が少ない」（34.7%）となっている。

障害の程度別にみると、最重度の１級では、他に比べて「通院や病気・障害を理由に休みを取ることが難しい」（14.5%）や「勤務時間の長さや時間帯が自分にあわない」（11.8%）、「職場までの通勤がたいへん」（11.8%）などの勤務時間や通勤等に関する項目の割合が高い。

障害の部位別にみると、聴覚・平衡機能では「職場でのコミュニケーションがうまくとれない」（13.0%）や「障害への理解が得にくく、人間関係がむずかしい」（13.0%）、「障害がない人と比べて、仕事の内容や昇進などに差がある」（10.9%）の割合が高く、内部障害では「通院や病気・障害を理由に休みを取ることが難しい」（12.4%）や「勤務時間の長さや時間帯が自分にあわない」（12.4%）の割合が高い。

仕事の種類別にみると、常雇いでは、「通院や病気・障害を理由に休みを取ることが難しい」（12.9%）や「障害がない人と比べて、仕事の内容や昇進などに差がある」（11.8%）等の割合が高く、臨時・パート・アルバイトなどでは、「収入が少ない」（45.7%）の割合が高い。また、授産施設・共同作業所などでは、他に比べて「職場でのコミュニケーションがうまくとれない」（16.7%）や「仕事の内容が自分にあわない」（8.3%）などの割合が高い。

【図表 3-1-54　障害の程度別・障害の部位別・仕事の種類別　仕事上の悩みや困っていること】（%）

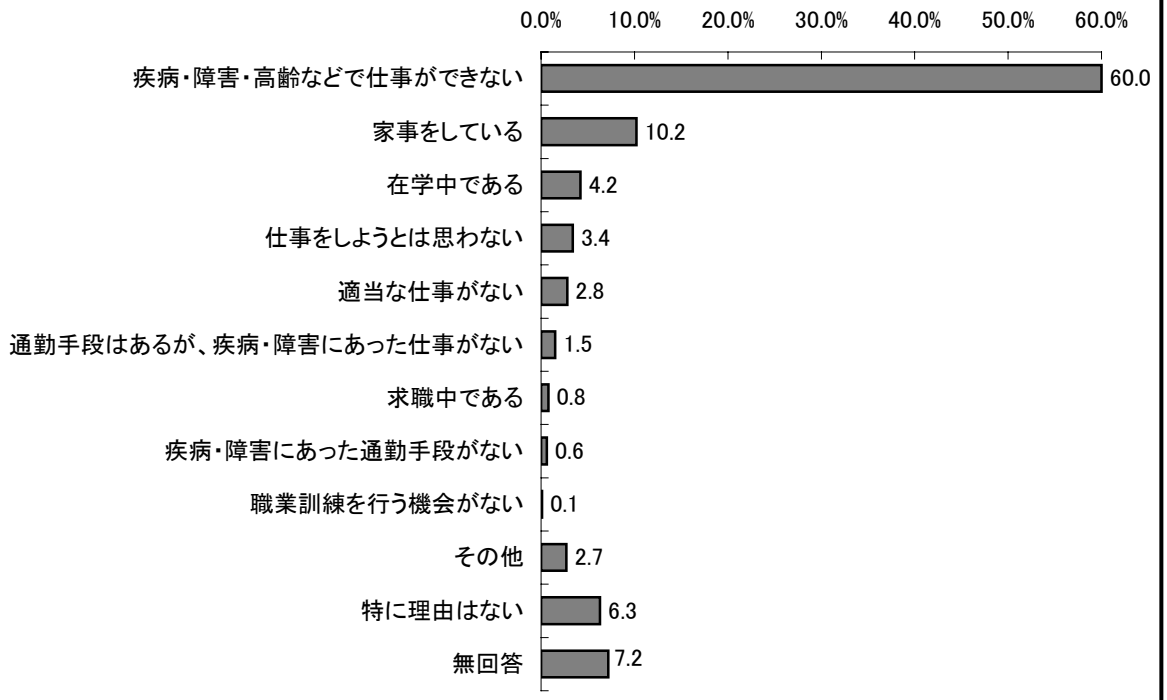
		調査数［n］（人）	収入が少ない	通院や病気・障害を理由に休みを取ることが難しい	障害がない人と比べて、仕事の内容や昇進などに差がある	職場までの通勤がたいへん	障害への理解が得にくく、人間関係がむずかしい	勤務時間の長さや時間帯が自分にあわない
全　体		375	34.7	7.2	5.3	5.1	4.8	4.5
障害の程度別	１級	76	38.2	14.5	7.9	11.8	3.9	11.8
	２級	52	50.0	3.8	3.8	5.8	9.6	－
	３級	63	31.7	6.3	6.3	4.8	6.3	1.6
	４級	88	31.8	9.1	3.4	2.3	5.7	4.5
	５級	46	32.6	4.3	4.3	2.2	－	4.3
	６級	37	24.3	－	5.4	－	2.7	2.7
	無回答	13	23.1	－	7.7	7.7	－	－
障害の部位別	視覚	30	40.0	3.3	－	6.7	－	3.3
	聴覚・平衡機能	46	34.8	4.3	10.9	4.3	13.0	－
	音声・言語・そしゃく機能	10	40.0	－	－	－	－	－
	肢体不自由	163	35.6	7.4	4.9	4.9	4.3	2.5
	内部障害	97	34.0	12.4	4.1	5.2	5.2	12.4
	その他	20	25.0	－	10.0	5.0	－	－
	無回答	9	22.2	－	11.1	11.1	－	－
仕事の種類別	農業・林業・漁業（家族従業を含む）	54	35.2	1.9	3.7	－	1.9	1.9
	商工サービス自営（家族従業を含む）	69	37.7	2.9	－	1.4	－	－
	会社役員・団体役員など	14	14.3	－	－	－	14.3	7.1
	常雇い（正社員・正職員）	93	22.6	12.9	11.8	8.6	10.8	10.8
	臨時・パート・アルバイトなど	92	45.7	13.0	7.6	9.8	4.3	4.3
	授産施設・共同作業所など	24	37.5	－	－	4.2	－	－
	その他	18	44.4	－	－	－	5.6	5.6
	無回答	11	27.3	－	－	－	－	－

		調査数［n］（人）	職場でのコミュニケーションがうまくとれない	仕事の内容が難しく、覚えるのがたいへん	職場の設備が不十分で障害者にあっていないため使いにくい	仕事の内容が自分にあわない	その他	特にない	無回答
全　体		375	3.2	2.9	2.7	0.8	5.9	40.0	7.5
障害の程度別	１級	76	5.3	2.6	2.6	1.3	5.3	28.9	5.3
	２級	52	7.7	3.8	1.9	1.9	5.8	26.9	7.7
	３級	63	4.8	6.3	4.8	1.6	4.8	42.9	1.6
	４級	88	－	1.1	2.3	－	10.2	43.2	8.0
	５級	46	－	2.2	4.3	－	2.2	54.3	6.5
	６級	37	2.7	2.7	－	－	5.4	51.4	13.5
	無回答	13	－	－	－	－	－	38.5	30.8
障害の部位別	視覚	30	－	3.3	－	－	6.7	36.7	6.7
	聴覚・平衡機能	46	13.0	2.2	2.2	－	8.7	32.6	8.7
	音声・言語・そしゃく機能	10	10.0	10.0	－	20.0	－	40.0	10.0
	肢体不自由	163	1.2	1.8	4.9	0.6	5.5	41.7	7.4
	内部障害	97	1.0	3.1	1.0	－	7.2	41.2	4.1
	その他	20	5.0	10.0	－	－	－	50.0	10.0
	無回答	9	11.1	－	－	－	－	22.2	33.3
仕事の種類別	農業・林業・漁業（家族従業を含む）	54	－	1.9	－	－	7.4	35.2	22.2
	商工サービス自営（家族従業を含む）	69	1.4	5.8	4.3	－	4.3	44.9	2.9
	会社役員・団体役員など	14	－	－	－	－	7.1	71.4	7.1
	常雇い（正社員・正職員）	93	3.2	2.2	4.3	1.1	3.2	43.0	1.1
	臨時・パート・アルバイトなど	92	4.3	2.2	3.3	－	7.6	32.6	4.3
	授産施設・共同作業所など	24	16.7	8.3	－	8.3	－	29.2	16.7
	その他	18	－	－	－	－	16.7	44.4	5.6
	無回答	11	－	－	－	－	9.1	45.5	27.3

（６）仕事をしていない理由

問２０－５　（仕事をしていない方のみお答えください）仕事をしていないのは、主にどのような理由によりますか。（○は１つだけ）

【図表 3-1-55　仕事をしていない理由】（ｎ＝1,421）



仕事をしていない理由は、「疾病・障害・高齢などで仕事ができない」（60.0%）が 6 割を占めて最も多く、次いで「家事をしている」（10.2%）となっている。

性別にみると、女性は男性に比べて「家事をしている」（16.3%）の割合が高い。

年齢別にみると、20 歳代以下では「在学中である」が最も多く、30 歳代以上ではすべての年齢層において「疾病・障害・高齢などで仕事ができない」が最も多い。なお、30・40 歳代では他の年齢層に比べて「適当な仕事がない」（30 歳代：11.5%、40 歳代：16.7%）や「通勤手段はあるが、疾病・障害にあった仕事がない」（30 歳代：11.5%、40 歳代：6.7%）の割合が高い。

【図表 3-1-56　性別・年齢別・障害の部位別　仕事をしていない理由】（%）

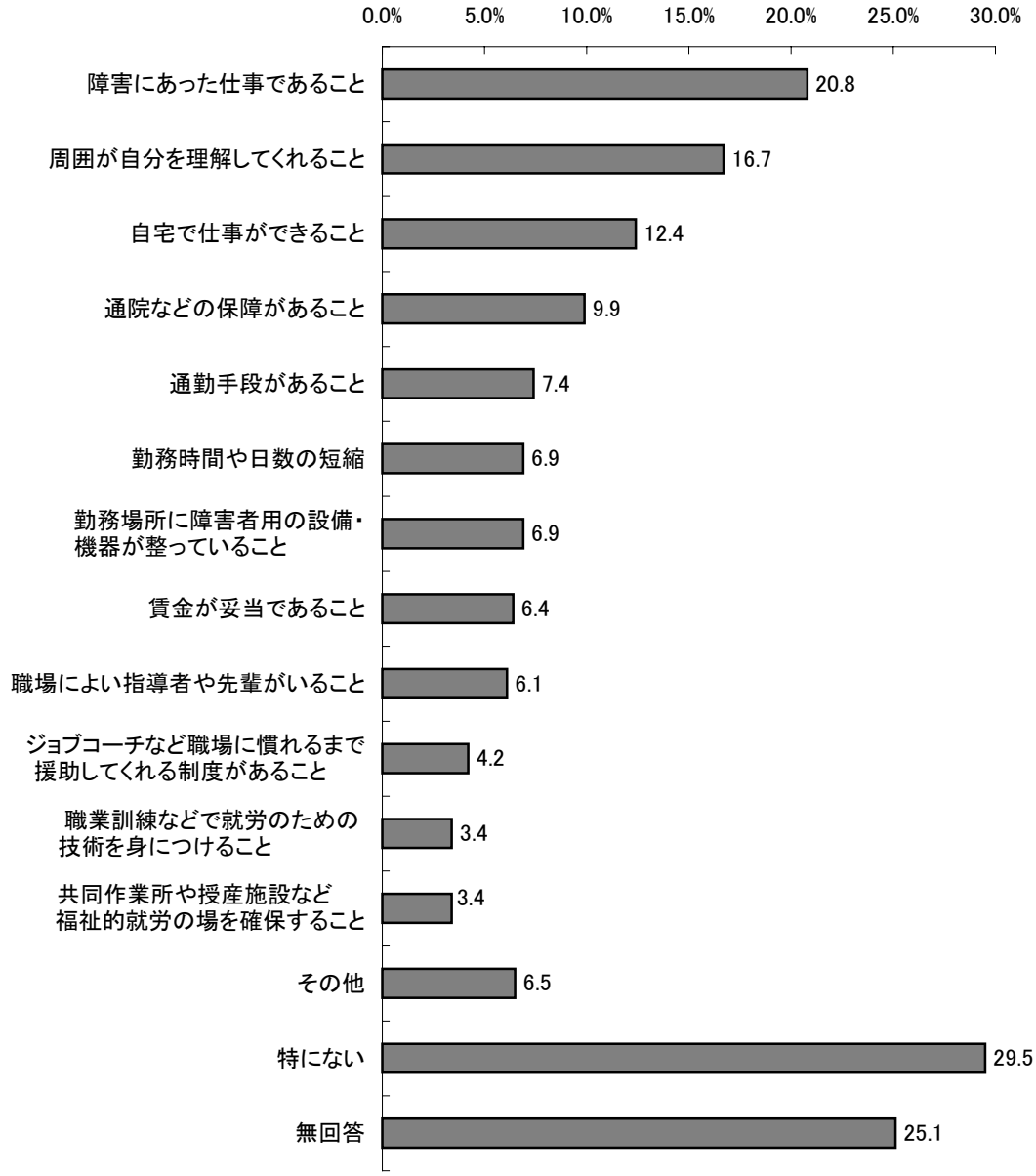
		調査数［n］（人）	疾病・障害・高齢などで仕事ができない	家事をしている	在学中である	仕事をしようとは思わない	適当な仕事がない	通勤手段はあるが、疾病・障害にあった仕事がない
全　体		1,421	60.0	10.2	4.2	3.4	2.8	1.5
性別	男性	634	61.7	2.8	4.4	4.3	4.3	1.9
	女性	768	58.7	16.3	4.0	2.6	1.6	1.3
	無回答	19	57.9	10.5	－	10.5	5.3	－
年齢別	１７歳以下	61	－	－	80.3	－	－	－
	１８～２９歳	23	26.1	4.3	39.1	－	4.3	4.3
	３０～３９歳	26	61.5	3.8	－	－	11.5	11.5
	４０～４９歳	30	30.0	23.3	－	6.7	16.7	6.7
	５０～５９歳	131	57.3	14.5	－	2.3	6.1	5.3
	６０～６４歳	124	58.1	12.9	－	5.6	5.6	3.2
	６５歳以上	996	65.9	10.0	0.1	3.3	1.5	0.5
	無回答	30	63.3	3.3	－	13.3	3.3	－
障害の部位別	視覚	110	72.7	5.5	0.9	2.7	1.8	2.7
	聴覚・平衡機能	163	58.9	12.3	4.3	3.7	3.7	0.6
	音声・言語・そしゃく機能	26	57.7	7.7	－	7.7	3.8	－
	肢体不自由	651	61.1	9.1	6.3	3.5	2.3	1.2
	内部障害	355	54.6	13.5	2.3	3.1	3.9	2.8
	その他	67	58.2	11.9	1.5	3.0	－	－
	無回答	49	63.3	4.1	2.0	4.1	4.1	－

		調査数［n］（人）	求職中である	疾病・障害にあった通勤手段がない	職業訓練を行う機会がない	その他	特に理由はない	無回答
全　体		1,421	0.8	0.6	0.1	2.7	6.3	7.2
性別	男性	634	0.8	0.3	0.2	3.8	7.7	7.9
	女性	768	0.8	0.9	0.1	2.0	5.1	6.6
	無回答	19	5.3	－	－	－	5.3	5.3
年齢別	１７歳以下	61	－	－	－	16.4	1.6	1.6
	１８～２９歳	23	4.3	－	－	13.0	－	4.3
	３０～３９歳	26	－	－	－	7.7	3.8	－
	４０～４９歳	30	3.3	3.3	－	3.3	－	6.7
	５０～５９歳	131	5.3	1.5	1.5	2.3	2.3	1.5
	６０～６４歳	124	－	1.6	－	1.6	2.4	8.9
	６５歳以上	996	0.2	0.4	－	1.7	8.1	8.2
	無回答	30	3.3	－	－	3.3	－	10.0
障害の部位別	視覚	110	1.8	－	0.9	1.8	1.8	7.3
	聴覚・平衡機能	163	0.6	0.6	0.6	2.5	8.0	4.3
	音声・言語・そしゃく機能	26	－	－	－	7.7	11.5	3.8
	肢体不自由	651	1.1	0.6	－	2.6	4.6	7.5
	内部障害	355	0.3	0.8	－	2.8	9.0	6.8
	その他	67	－	1.5	－	3.0	10.4	10.4
	無回答	49	2.0	－	－	4.1	4.1	12.2

（７）仕事をする上で必要な条件整備

問２１　（仕事をしている方もしていない方もお答えください）あなたが仕事をするうえで、どのような条件整備が必要ですか。（○はあてはまるものすべて）

【図表 3-1-57　仕事をする上で必要な条件整備】（ｎ＝1,890）



仕事をする上で必要な条件整備は、「特にない」（29.5%）が最も多いが、具体的な内容では「障害にあった仕事であること」（20.8%）が最も多く、次いで「周囲が自分を理解してくれること」（16.7%）、「自宅で仕事ができること」（12.4%）となっている。

障害の程度別にみると、1・2 級の重度障害者では、他に比べて「通院などの保障があること」（1 級：12.0%、2 級：10.5%）や「障害にあった仕事であること」（1 級：22.3%、2 級：25.9%）、「勤務場所に障害者用の設備・機器が整っていること」（1 級：8.8%、2 級：8.7%）の割合がやや高い。

障害の部位別にみると、聴覚・平衡機能では、他の障害に比べて「周囲が自分を理解してくれること」（23.4%）の割合が高く、内部障害では「勤務時間や日数の短縮」（12.0%）や「通院などの保障があること」（13.9%）の割合が高い。肢体不自由では、「障害にあった仕事であること」（25.4%）や「勤務場所に障害者用の設備・機器が整っていること」（10.1%）、「周囲が自分を理解してくれること」（19.0%）などの割合が高い。

就労状況別にみると、現在仕事をしている人は、仕事をしていない人に比べて「賃金が妥当であること」（11.5%）や「周囲が自分を理解してくれること」（22.4%）、「特にない」（35.2%）などの割合が高い。

【図表 3-1-58　障害の程度別・障害の部位別・就労状況別　仕事をする上で必要な条件整備】（%）

		調査数［n］（人）	障害にあった仕事であること	周囲が自分を理解してくれること	自宅で仕事ができること	通院などの保障があること	通勤手段があること	勤務時間や日数の短縮	勤務場所に障害者用の設備・機器が整っていること
全体		1,890	20.8	16.7	12.4	9.9	7.4	6.9	6.9
障害の程度別	１級	548	22.3	17.7	12.6	12.0	8.2	8.2	8.8
	２級	344	25.9	19.8	11.6	10.5	9.0	7.0	8.7
	３級	288	19.1	16.3	11.5	9.4	6.9	4.9	4.9
	４級	334	18.3	16.2	14.7	9.9	7.8	9.3	5.1
	５級	153	17.0	13.7	11.1	9.8	6.5	4.6	7.2
	６級	139	20.9	12.2	14.4	3.6	2.2	3.6	2.9
	無回答	84	14.3	13.1	8.3	6.0	6.0	6.0	7.1
障害の部位別	視覚	144	18.8	11.8	11.8	7.6	4.9	3.5	4.2
	聴覚・平衡機能	218	19.7	23.4	10.6	6.0	6.9	4.1	5.0
	音声・言語・そしゃく機能	38	15.8	15.8	15.8	－	－	－	5.3
	肢体不自由	848	25.4	19.0	14.7	10.5	9.9	6.8	10.1
	内部障害	468	17.3	14.5	11.1	13.9	6.2	12.0	3.8
	その他	95	15.8	7.4	9.5	6.3	5.3	2.1	3.2
	無回答	79	8.9	6.3	3.8	3.8	－	1.3	5.1
就労状況別	仕事をしている	375	16.0	22.4	13.3	9.3	6.4	9.1	6.7
	仕事をしていない	1,421	23.4	16.0	12.9	10.7	8.2	6.8	7.4
	無回答	94	1.1	3.2	1.1	－	－	－	－

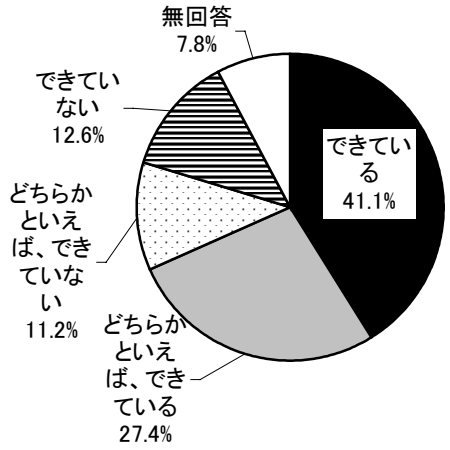
		調査数［n］（人）	賃金が妥当であること	職場によい指導者や先輩がいること	ジョブコーチなど職場に慣れるまで援助してくれる制度があること	職業訓練などで就労のための技術を身につけること	共同作業所や授産施設など福祉的就労の場を確保すること	その他	特にない	無回答
全体		1,890	6.4	6.1	4.2	3.4	3.4	6.5	29.5	25.1
障害の程度別	１級	548	6.8	6.8	5.3	3.8	3.8	7.7	26.6	27.4
	２級	344	5.2	5.8	4.9	4.1	4.9	7.8	25.3	26.2
	３級	288	7.3	5.6	4.2	2.1	2.8	5.2	31.3	22.6
	４級	334	8.1	7.2	3.3	3.6	2.4	5.4	33.8	20.7
	５級	153	6.5	5.2	3.9	3.3	1.3	5.2	32.0	26.1
	６級	139	2.9	5.0	2.2	3.6	2.9	4.3	38.8	18.0
	無回答	84	4.8	4.8	2.4	1.2	4.8	7.1	22.6	41.7
障害の部位別	視覚	144	4.2	2.1	0.7	4.2	1.4	9.7	35.4	25.7
	聴覚・平衡機能	218	6.0	9.2	6.9	4.1	4.1	6.0	29.4	25.7
	音声・言語・そしゃく機能	38	2.6	5.3	5.3	5.3	7.9	－	26.3	34.2
	肢体不自由	848	7.3	7.5	6.4	3.9	4.7	6.1	27.9	22.6
	内部障害	468	7.3	5.3	1.3	3.0	1.3	5.8	32.1	22.6
	その他	95	4.2	1.1	2.1	－	2.1	11.6	31.6	28.4
	無回答	79	1.3	1.3	－	－	2.5	6.3	20.3	54.4
就労状況別	仕事をしている	375	11.5	9.3	1.9	4.3	2.4	1.6	35.2	10.4
	仕事をしていない	1,421	5.4	5.6	5.1	3.4	3.8	8.2	29.9	24.5
	無回答	94	1.1	1.1	－	－	1.1	－	1.1	92.6

４．外出について

（１）外出の状況

問２２　あなたは、ふだん、外出したいと思うところに、外出できていますか。※家族やガイドヘルパー等のつきそい（外出支援）が必要な方は、つきそいがある状態としてお答えください。（○は１つだけ）

【図表 3-1-59　外出の状況】（ｎ＝1,890）



外出したいと思うところに外出できているかという問に対しては、「できている」（41.1%）との回答が最も多く、次いで「どちらかといえば、できている」（27.4%）をあわせると、希望どおりに外出できている人が全体の７割（68.5%）を占めている。一方、「どちらかといえば、できていない」（11.2%）・「できていない」（12.6%）をあわせた、希望どおりに外出できていない人は 23.8%となっている。

障害の程度別にみると、希望どおりに外出できていない人の割合（「どちらかといえば、できていない」「できていない」の合計）は、１級（28.1%）・２級（34.3%）の重度障害者で高く、それぞれ３割前後を占めている。

障害の部位別にみると、希望どおりに外出できていない人の割合は、肢体不自由（29.3%）、視覚（27.1%）、音声・言語・そしゃく機能（26.3%）の順で高い。

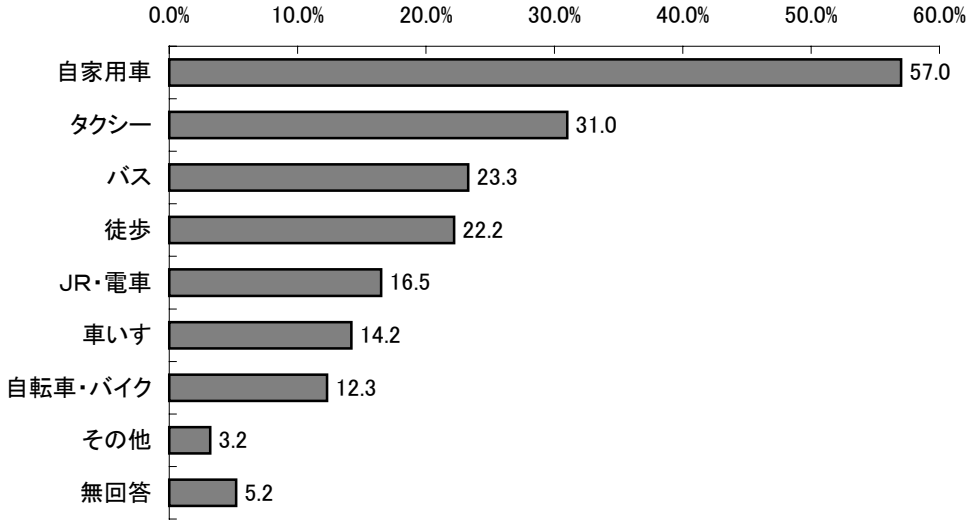
【図表 3-1-60　障害の程度別・障害の部位別　外出の状況】（%）

		調査数［ｎ］（人）	できている	どちらかといえば、できている	どちらかといえば、できていない	できていない	無回答
全　体		1,890	41.1	27.4	11.2	12.6	7.8
障害の程度別	１級	548	36.1	29.0	12.2	15.9	6.8
	２級	344	28.5	31.1	15.4	18.9	6.1
	３級	288	46.9	27.1	10.1	9.4	6.6
	４級	334	51.8	25.1	8.4	6.0	8.7
	５級	153	50.3	21.6	7.8	9.8	10.5
	６級	139	51.8	26.6	10.1	5.0	6.5
	無回答	84	28.6	22.6	9.5	20.2	19.0
障害の部位別	視覚	144	35.4	29.2	13.9	13.2	8.3
	聴覚・平衡機能	218	49.5	27.5	8.3	8.3	6.4
	音声・言語・そしゃく機能	38	36.8	21.1	7.9	18.4	15.8
	肢体不自由	848	35.7	28.8	13.6	15.7	6.3
	内部障害	468	51.9	28.2	7.1	7.7	5.1
	その他	95	36.8	23.2	14.7	11.6	13.7
	無回答	79	29.1	11.4	10.1	17.7	31.6

（２）外出時の移動手段

問２３　外出の時の移動手段は何ですか。（○はあてはまるものすべて）

【図表 3-1-61　外出時の移動手段】（ｎ＝1,890）



外出時の移動手段では、「自家用車」（57.0%）が最も多く、次いで「タクシー」（31.0%）、「バス」（23.3%）、「徒歩」（22.2%）となっている。

障害の程度別にみると、すべての等級において「自家用車」が最も多いが、1・2 級の重度障害者では、他に比べて「タクシー」（1 級：33.6%、2 級：36.6%）や「車いす」（1 級：24.5%、2 級：20.9%）の割合が高い。

障害の部位別にみても、すべての障害において「自家用車」が最も多いが、視覚や聴覚・平衡機能、内部障害などでは、他の障害に比べて「バス」や「JR・電車」などの公共交通機関や「徒歩」等の割合が高い。

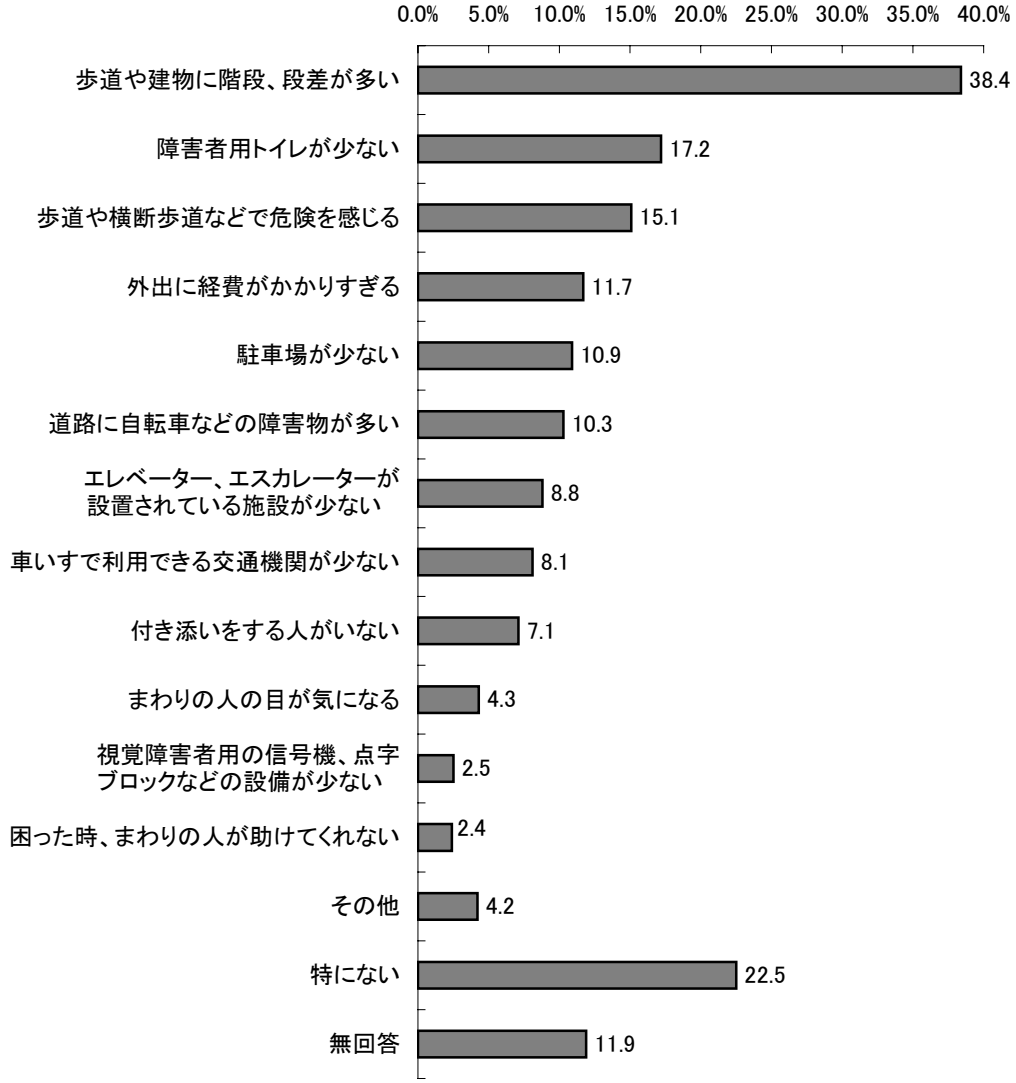
【図表 3-1-62　障害の程度別・障害の部位別　外出時の移動手段】（%）

		調査数［n］（人）	自家用車	タクシー	バス	徒歩	ＪＲ・電車	車いす	自転車・バイク	その他	無回答
全　体		1,890	57.0	31.0	23.3	22.2	16.5	14.2	12.3	3.2	5.2
障害の程度別	１級	548	52.9	33.6	21.0	20.4	15.9	24.5	7.7	5.5	7.3
	２級	344	56.4	36.6	18.3	17.7	12.5	20.9	7.3	2.9	4.1
	３級	288	60.1	27.8	27.1	27.4	19.1	5.9	16.0	2.4	4.2
	４級	334	61.1	29.6	26.9	23.7	18.0	5.7	17.7	1.2	3.0
	５級	153	64.7	24.8	20.9	21.6	18.3	7.8	17.0	2.6	4.6
	６級	139	56.1	26.6	35.3	29.5	21.6	5.8	19.4	2.2	1.4
	無回答	84	47.6	25.0	15.5	17.9	10.7	8.3	9.5	2.4	15.5
障害の部位別	視覚	144	47.2	42.4	34.7	30.6	20.8	7.6	9.0	4.2	3.5
	聴覚・平衡機能	218	50.5	25.2	33.9	35.8	25.2	8.7	22.0	2.8	4.1
	音声・言語・そしゃく機能	38	39.5	13.2	23.7	10.5	5.3	10.5	18.4	－	18.4
	肢体不自由	848	58.5	30.5	17.0	17.6	12.1	21.6	9.2	4.1	4.8
	内部障害	468	64.1	33.8	29.5	27.1	22.4	6.8	15.8	1.7	2.8
	その他	95	57.9	31.6	16.8	10.5	12.6	10.5	7.4	4.2	5.3
	無回答	79	43.0	21.5	11.4	10.1	6.3	12.7	7.6	1.3	22.8

（３）外出時に不便や困難を感じること

問２４　外出するとき、あなたはどのようなことに不便や困難を感じることが多いですか。
（○は３つまで）

【図表 3-1-63　外出時に不便や困難を感じること】（ｎ＝1,890）



外出時に不便や困難を感じることは、「歩道や建物に階段､段差が多い」（38.4%）が最も多く、次いで「障害者用トイレが少ない」（17.2%）、「歩道や横断歩道などで危険を感じる」（15.1%）となっている。また、「特にない」も 22.5%を占めている。

障害の程度別にみると､重度の肢体不自由等が多い２級では､他に比べて「歩道や建物に階段、段差が多い」（45.3%）や「障害者用トイレが少ない」（25.3%）、「歩道や横断歩道などで危険を感じる」（18.9%）などのハード面について不便や困難を感じている人の割合が高い。

障害の部位別にみると、視覚では、他に比べて「歩道や建物に階段、段差が多い」（52.1%）や「歩道や横断歩道などで危険を感じる」（31.9%）、「道路に自転車などの障害物が多い」（26.4%）、「視覚障害者用の信号機、点字ブロックなどの設備が少ない」（22.9%）の割合が高い。また、肢体不自由では、他に比べて「歩道や建物に階段、段差が多い」（45.9%）や「障害者用トイレが少ない」（25.6%）などの割合が高い。

【図表 3-1-64　障害の程度別・障害の部位別　外出時に不便や困難を感じること】（%）

		調査数［ｎ］（人）	歩道や建物に階段、段差が多い	障害者用トイレが少ない	歩道や横断歩道などで危険を感じる	外出に経費がかかりすぎる	駐車場が少ない	道路に自転車などの障害物が多い	エレベーター、エスカレーターが設置されていない施設が少ない
全　体		1,890	38.4	17.2	15.1	11.7	10.9	10.3	8.8
障害の程度別	１級	548	38.3	15.0	14.6	10.0	11.1	12.6	9.3
	２級	344	45.3	25.3	18.9	13.1	9.3	8.4	11.9
	３級	288	34.7	17.7	13.2	13.2	11.5	10.1	9.7
	４級	334	40.4	16.8	16.5	13.8	11.7	9.6	9.3
	５級	153	34.6	16.3	11.8	7.2	13.7	11.1	7.2
	６級	139	35.3	8.6	14.4	11.5	12.9	10.8	2.9
	無回答	84	27.4	15.5	10.7	11.9	2.4	4.8	1.2
障害の部位別	視覚	144	52.1	10.4	31.9	13.2	2.1	26.4	2.1
	聴覚・平衡機能	218	21.6	6.0	19.3	7.8	6.4	11.5	6.4
	音声・言語・そしゃく機能	38	18.4	21.1	7.9	5.3	10.5	5.3	7.9
	肢体不自由	848	45.9	25.6	14.3	12.4	13.4	7.2	11.4
	内部障害	468	31.4	7.3	12.2	11.3	13.0	11.3	7.9
	その他	95	43.2	23.2	12.6	14.7	9.5	8.4	11.6
	無回答	79	25.3	21.5	5.1	13.9	1.3	10.1	2.5

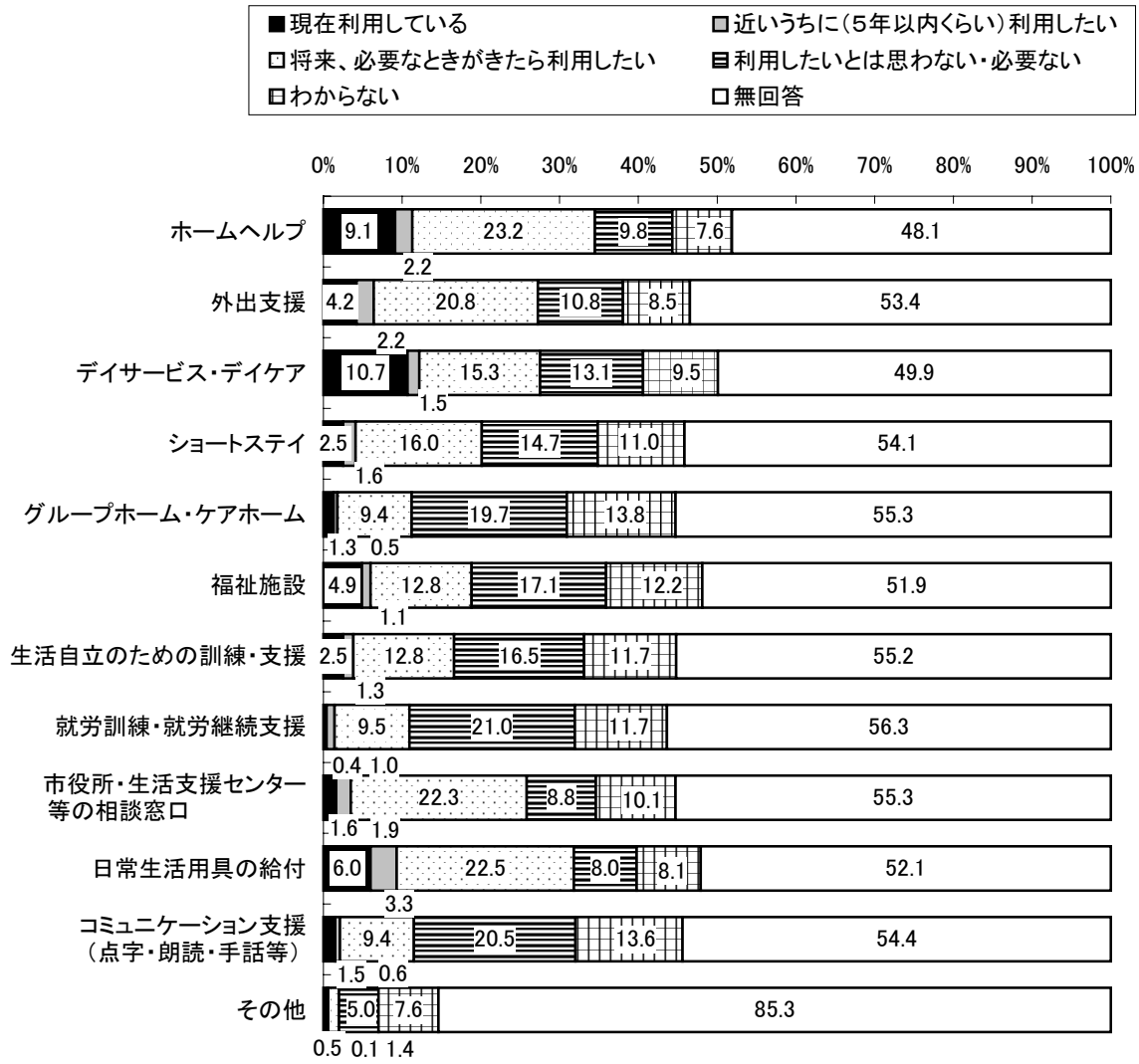
		調査数［ｎ］（人）	車いすで利用できる交通機関が少ない	付き添いをする人がいない	まわりの人の目が気になる	視覚障害者用の信号機、点字ブロックなどの設備が少ない	困った時、まわりの人が助けてくれない	その他	特にない	無回答
全　体		1,890	8.1	7.1	4.3	2.5	2.4	4.2	22.5	11.9
障害の程度別	１級	548	12.8	7.7	3.5	4.4	2.7	4.7	20.1	13.9
	２級	344	10.5	10.2	6.4	3.5	2.6	4.4	14.8	11.3
	３級	288	3.5	6.3	5.6	0.7	1.4	4.2	28.1	9.0
	４級	334	4.2	5.7	3.6	0.9	3.0	3.0	26.0	9.3
	５級	153	6.5	5.2	2.6	1.3	－	3.9	27.5	7.8
	６級	139	3.6	5.0	4.3	0.7	3.6	5.0	27.3	10.8
	無回答	84	9.5	7.1	2.4	3.6	2.4	3.6	19.0	31.0
障害の部位別	視覚	144	3.5	8.3	3.5	22.9	2.8	7.6	10.4	8.3
	聴覚・平衡機能	218	5.0	8.3	5.0	0.9	4.6	6.4	32.6	12.8
	音声・言語・そしゃく機能	38	7.9	－	－	2.6	－	－	39.5	21.1
	肢体不自由	848	11.4	8.7	5.2	0.5	2.2	4.7	15.9	10.3
	内部障害	468	3.6	4.7	1.9	0.9	1.7	2.4	34.6	10.5
	その他	95	11.6	5.3	9.5	1.1	1.1	1.1	20.0	12.6
	無回答	79	11.4	5.1	3.8	2.5	3.8	2.5	10.1	36.7

５．福祉サービスについて

（１）福祉サービスの利用状況・利用意向

問２５　①～⑫の福祉サービスについて、あてはまるものにそれぞれ１つだけ○をつけてください。①～④のサービスで「1（現在利用している）」または「2（近いうちに[5年以内くらい]利用したい）」に○をつけた方は、利用している、または利用したいと思うサービス日数や時間数を記入してください。

【図表 3-1-65　福祉サービスの利用状況・利用意向】（ｎ＝1,890）



現在実施されている、もしくは、今後、障害者自立支援法により新たに導入される予定の福祉サービスについて、利用状況と利用意向をたずねたが、いずれも半数前後が無回答であった。

利用意向（「近いうちに（5 年以内くらい）利用したい」＋「将来、必要なときがきたら利用したい」）は、「日常生活用具の給付」（25.8%）や「ホームヘルプ」（25.4%）、「市役所・生活支援センター等の相談窓口」（24.1%）、「外出支援」（23.1%）等の現在実施されている生活支援関連サービスで高い。

一方、「グループホーム・ケアホーム」や「福祉施設」などの施設・居住系サービスや、「生活自立のための訓練・支援」や「就労訓練・就労継続支援」等の未実施サービスについては、「利用したいとは思わない・必要ない」や「わからない」の割合が高い。

年齢別にみると、17 歳以下は、他の年齢層に比べて全般的に利用意向が高く、特に「市役所・生活支援センター等の相談窓口」（60.3%）や「就労訓練・就労継続支援」（44.4%）、「外出支援」（44.4%）などで高い。18 歳～50 歳代では「市役所・生活支援センター等の相談窓口」や「日常生活用具の給付」の利用意向が高く、60 歳代以上では「ホームヘルプ」や「日常生活用具の給付」の利用意向が高い。

障害の部位別にみると、肢体不自由では、他の障害に比べて全般的に利用意向が高い。また、内部障害では他の障害に比べて「ホームヘルプ」（30.3%）や「デイサービス・デイケア」（20.5%）などの利用意向が高い。

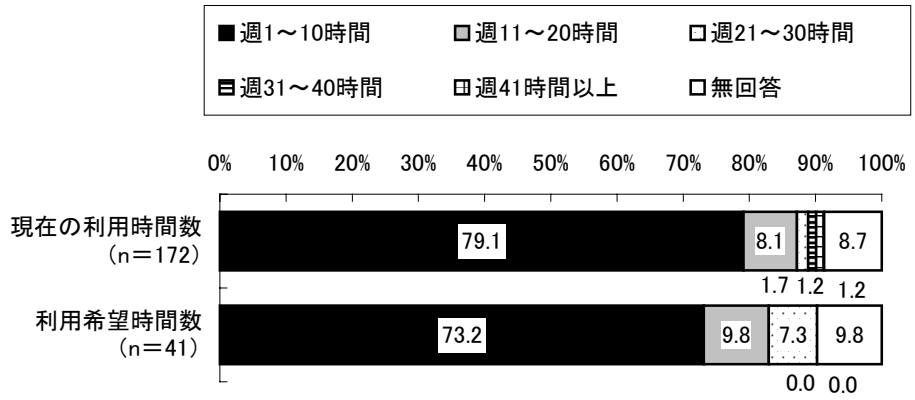
【図表 3-1-66　年齢別・障害の部位別　福祉サービスの利用意向（「近いうちに（5 年以内くらい）利用したい」「将来、必要なときがきたら利用したい」の合計値）】（%）

		調査数［n］（人）	ホームヘルプ	外出支援	デイサービス・デイケア	ショートステイ	グループホーム・ケアホーム	福祉施設
全　体		1,890	25.4	23.1	16.8	17.7	9.9	13.9
年齢別	１７歳以下	63	39.7	44.4	41.3	36.5	25.4	22.2
	１８～２９歳	40	25.0	20.0	12.5	5.0	12.5	5.0
	３０～３９歳	64	23.4	23.4	25.0	23.4	12.5	23.4
	４０～４９歳	73	34.2	34.2	28.8	21.9	15.1	13.7
	５０～５９歳	242	36.0	36.0	28.1	23.6	14.5	16.5
	６０～６４歳	185	29.7	26.5	17.3	18.9	14.1	16.8
	６５歳以上	1,174	21.9	18.6	12.5	15.3	7.2	12.4
	無回答	49	12.2	12.2	6.1	12.2	4.1	10.2
障害の部位別	視覚	144	25.0	26.4	18.1	20.8	13.9	16.0
	聴覚・平衡機能	218	20.2	16.5	12.4	10.6	8.3	12.8
	音声・言語・そしゃく機能	38	21.1	18.4	10.5	13.2	7.9	7.9
	肢体不自由	848	26.7	26.2	17.8	20.3	11.2	15.6
	内部障害	468	30.3	23.1	20.5	18.4	9.4	14.3
	その他	95	17.9	16.8	8.4	10.5	4.2	6.3
	無回答	79	8.9	11.4	7.6	10.1	3.8	5.1

		調査数［n］（人）	生活自立のための訓練・支援	就労訓練・就労継続支援	市役所・生活支援センター等の相談窓口	日常生活用具の給付	コミュニケーション支援（点字・朗読・手話等）	その他	無回答
全　体		1,890	14.1	10.5	24.1	25.8	9.9	1.5	55.3
年齢別	１７歳以下	63	41.3	44.4	60.3	39.7	20.6	4.8	25.4
	１８～２９歳	40	17.5	27.5	40.0	37.5	10.0	2.5	45.0
	３０～３９歳	64	25.0	34.4	34.4	34.4	20.3	3.1	48.4
	４０～４９歳	73	27.4	34.2	47.9	49.3	19.2	2.7	38.4
	５０～５９歳	242	23.1	20.2	38.0	39.3	13.6	0.4	40.1
	６０～６４歳	185	18.9	14.1	24.9	27.6	10.3	0.5	50.3
	６５歳以上	1,174	8.9	3.2	17.1	20.0	7.6	1.4	61.9
	無回答	49	4.1	2.0	12.2	18.4	6.1	4.1	71.4
障害の部位別	視覚	144	11.8	9.7	22.2	27.1	16.7	－	50.0
	聴覚・平衡機能	218	10.1	9.2	19.7	22.9	12.8	0.9	58.3
	音声・言語・そしゃく機能	38	5.3	5.3	18.4	23.7	7.9	7.9	65.8
	肢体不自由	848	17.0	12.3	27.1	29.2	9.2	1.4	52.1
	内部障害	468	15.0	10.3	26.9	24.1	9.4	2.1	54.9
	その他	95	6.3	7.4	11.6	17.9	4.2	－	64.2
	無回答	79	6.3	5.1	8.9	15.2	8.9	1.3	77.2

（２）ホームヘルプの利用状況・利用意向

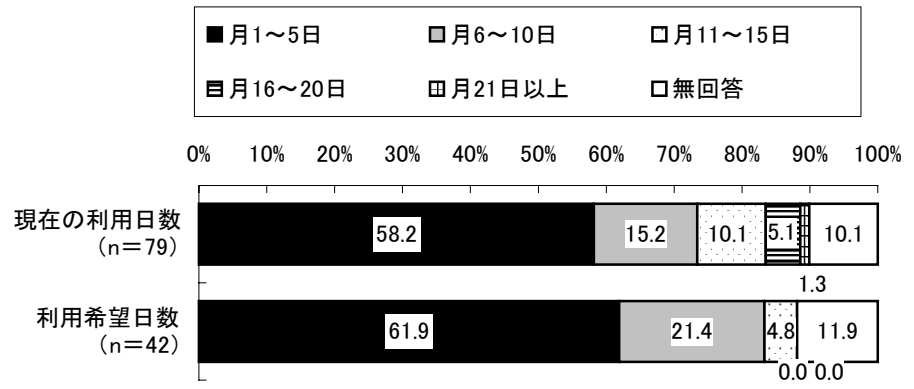
【図表 3-1-67　ホームヘルプの利用時間数・利用希望時間数】



ホームヘルプ利用者の現在の利用時間数は、「週 1～10 時間」（79.1%）が最も多く、利用希望者の希望時間数でも「週 1～10 時間」（73.2%）が最も多い。

（３）外出支援の利用状況・利用意向

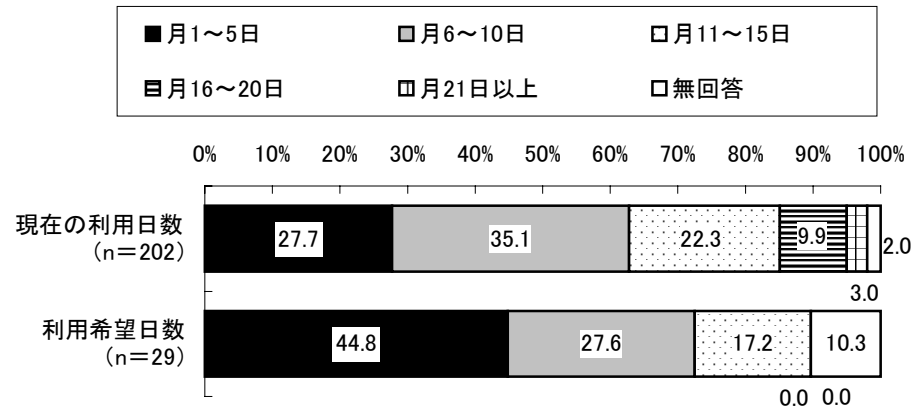
【図表 3-1-68　外出支援の利用日数・利用希望日数】



外出支援利用者の現在の利用日数は、「月 1～5 日」（58.2%）が最も多く、利用希望者の希望日数でも「月 1～5 日」（61.9%）が最も多い。

（４）デイサービス・デイケアの利用状況・利用意向

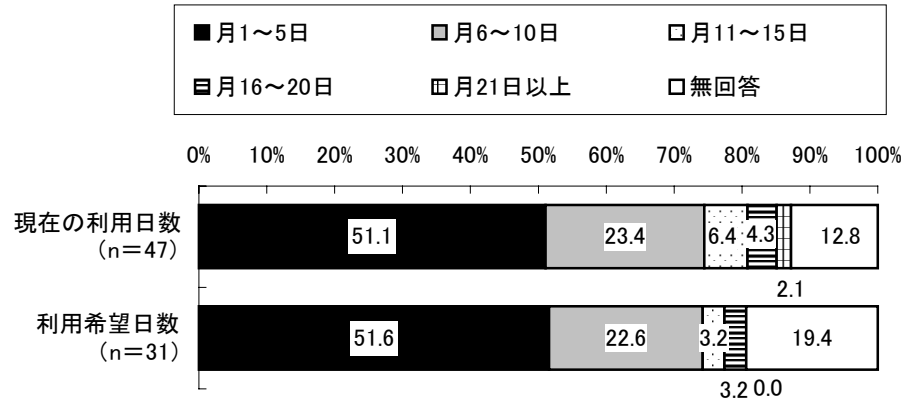
【図表 3-1-69　デイサービス・デイケアの利用日数・利用希望日数】



通所サービス利用者の現在の利用日数は、「月 6～10 日」（35.1%）が最も多く、次いで「月 1～5 日」（27.7%）となっている。利用希望者の希望日数では「月 1～5 日」（44.8%）が最も多い。

（５）ショートステイの利用状況・利用意向

【図表 3-1-70　ショートステイの利用日数・利用希望日数】



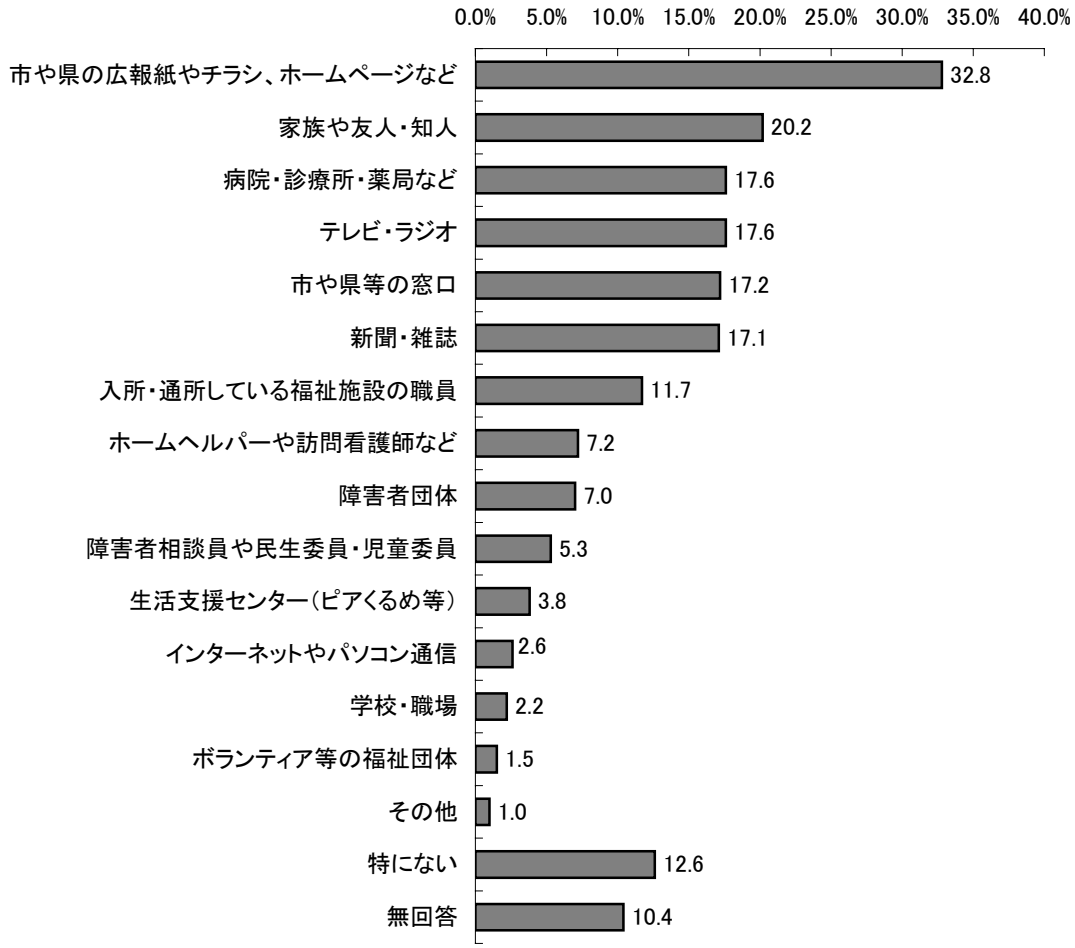
ショートステイ利用者の現在の利用日数は、「月 1～5 日」（51.1%）が最も多く、利用希望者の希望日数でも「月 1～5 日」（51.6%）が最も多い。

６．情報収集について

（１）福祉に関する情報入手先

問２６　福祉サービスや福祉制度の情報をどこから得ていますか。（○はあてはまるものすべて）

【図表 3-1-71　福祉に関する情報入手先】（ｎ＝1,890）



福祉サービスや福祉制度に関する情報の入手先は、「市や県の広報紙やチラシ、ホームページなど」（32.8%）が最も多く、次いで「家族や友人・知人」（20.2%）、「病院・診療所・薬局など」（17.6%）、「テレビ・ラジオ」（17.6%）となっている。

年齢別にみると、30 歳代以下では「家族や友人・知人」が最も多いが、40 歳代以上では「市や県の広報紙やチラシ、ホームページなど」が最も多い。また、「生活支援センター（ピアくるめ等）」や「障害者団体」の割合は 30・40 歳代などで高く、「インターネットやパソコン通信」に割合は 18 歳～30 歳代で高い。

障害の部位別にみると、すべての障害で「市や県の広報紙やチラシ、ホームページなど」が最も多いが、視覚では他の障害に比べて「家族や友人・知人」（29.2%）の割合が高く、肢体不自由では「入所・通所している福祉施設の職員」（16.6%）や「ホームヘルパーや訪問看護師など」（9.9%）の割合が高い。また、内部障害では他の障害に比べて「病院・診療所・薬局など」（25.0%）の割合が高い。

【図表 3-1-72　年齢別・障害の部位別　福祉に関する情報入手先】（%）

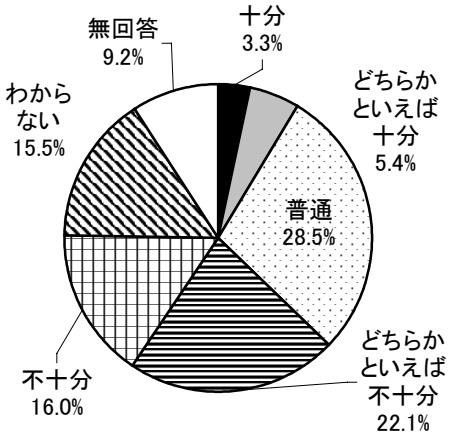
		調査数［ｎ］（人）	市や県の広報紙やチラシ、ホームページなど	家族や友人・知人	病院・診療所・薬局など	テレビ・ラジオ	市や県等の窓口	新聞・雑誌	入所・通所している福祉施設の職員	ホームヘルパーや訪問看護師など
全　体		1,890	32.8	20.2	17.6	17.6	17.2	17.1	11.7	7.2
年齢別	１７歳以下	63	30.2	50.8	28.6	3.2	30.2	15.9	20.6	9.5
	１８～２９歳	40	32.5	45.0	17.5	20.0	20.0	22.5	10.0	－
	３０～３９歳	64	21.9	28.1	7.8	10.9	20.3	12.5	10.9	1.6
	４０～４９歳	73	45.2	15.1	21.9	16.4	23.3	20.5	8.2	2.7
	５０～５９歳	242	39.7	14.0	16.1	18.2	17.4	18.2	6.6	3.7
	６０～６４歳	185	36.2	20.5	15.1	19.5	16.2	21.6	5.4	5.4
	６５歳以上	1,174	31.4	19.2	18.1	18.6	16.0	16.4	13.6	9.0
	無回答	49	16.3	12.2	14.3	10.2	18.4	8.2	10.2	6.1
障害の部位別	視覚	144	33.3	29.2	10.4	19.4	16.7	11.8	10.4	5.6
	聴覚・平衡機能	218	28.0	22.5	11.5	14.7	17.9	20.2	8.7	2.8
	音声・言語・そしゃく機能	38	26.3	7.9	10.5	15.8	13.2	21.1	7.9	7.9
	肢体不自由	848	34.3	21.3	16.7	17.8	16.6	17.3	16.6	9.9
	内部障害	468	37.2	17.5	25.0	18.4	20.5	18.8	4.9	4.5
	その他	95	29.5	13.7	14.7	21.1	12.6	14.7	12.6	6.3
	無回答	79	8.9	15.2	20.3	11.4	11.4	6.3	10.1	11.4

		調査数［ｎ］（人）	障害者団体	障害者相談員や民生委員・児童委員	生活支援センター（ピアくるめ等）	インターネットやパソコン通信	学校・職場	ボランティア等の福祉団体	その他	特にない	無回答
全　体		1,890	7.0	5.3	3.8	2.6	2.2	1.5	1.0	12.6	10.4
年齢別	１７歳以下	63	12.7	－	4.8	6.3	30.2	－	1.6	4.8	3.2
	１８～２９歳	40	5.0	5.0	7.5	20.0	12.5	5.0	2.5	22.5	－
	３０～３９歳	64	12.5	6.3	12.5	10.9	4.7	－	－	25.0	－
	４０～４９歳	73	12.3	－	9.6	8.2	5.5	－	1.4	16.4	1.4
	５０～５９歳	242	9.5	2.9	2.5	3.7	2.1	2.1	1.2	18.6	6.2
	６０～６４歳	185	8.1	4.3	2.7	2.7	1.1	1.1	－	16.2	8.6
	６５歳以上	1,174	5.5	6.6	3.3	0.9	0.3	1.5	1.0	9.9	12.9
	無回答	49	6.1	4.1	2.0	2.0	－	4.1	－	14.3	22.4
障害の部位別	視覚	144	9.7	4.2	4.2	2.1	1.4	2.1	2.8	11.1	9.0
	聴覚・平衡機能	218	6.9	6.9	4.1	3.7	3.7	1.8	0.5	17.0	12.8
	音声・言語・そしゃく機能	38	5.3	－	5.3	2.6	2.6	5.3	－	10.5	21.1
	肢体不自由	848	5.8	5.9	4.4	3.2	2.0	1.4	1.3	12.4	8.7
	内部障害	468	9.4	4.3	2.4	1.7	2.6	0.6	0.2	12.2	8.8
	その他	95	5.3	6.3	5.3	2.1	1.1	1.1	1.1	14.7	11.6
	無回答	79	3.8	5.1	2.5	1.3	1.3	5.1	－	6.3	27.8

（２）福祉に関する情報の入手状況

問２７　福祉に関する情報を十分に入手できていますか。（○は１つだけ）

【図表 3-1-73　福祉に関する情報の入手状況】（ｎ＝1,890）



福祉に関する情報を十分に入手できているかについては、「普通」（28.5%）が最も多く、次いで「どちらかといえば不十分」（22.1%）、「不十分」（16.0%）となっている。情報が十分に入手できていないと感じている人（「どちらかといえば不十分」＋「不十分」）は 38.1%と 4 割弱を占めており、情報を十分に入手できていると感じている人（「十分」＋「どちらかといえば十分」）の 8.7%を大きく上回っている。

年齢別にみると、情報が十分に入手できていないと感じている人（「どちらかといえば不十分」＋「不十分」）の割合は、17 歳以下（66.6%）や 30 歳代（57.9%）で 6 割前後と高く、特に「不十分」がそれぞれ 3 割を超えて高い（17 歳以下：33.3%、30 歳代：31.3%）。

障害の部位別にみると、情報が十分に入手できていないと感じている人（「どちらかといえば不十分」＋「不十分」）の割合は、視覚（43.1%）や肢体不自由（40.7%）で高く、4 割を超えている。

【図表 3-1-74　年齢別・障害の部位別　福祉に関する情報の入手状況】（%）

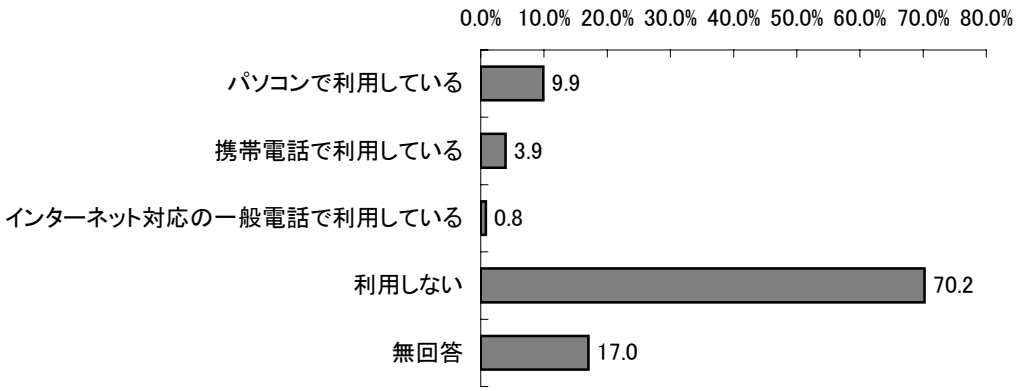
		調査数［ｎ］（人）	十分	どちらかといえば十分	普通	どちらかといえば不十分	不十分	わからない	無回答
全　体		1,890	3.3	5.4	28.5	22.1	16.0	15.5	9.2
年齢別	１７歳以下	63	1.6	1.6	19.0	33.3	33.3	7.9	3.2
	１８～２９歳	40	－	12.5	27.5	17.5	27.5	15.0	－
	３０～３９歳	64	1.6	3.1	25.0	26.6	31.3	12.5	－
	４０～４９歳	73	1.4	8.2	26.0	23.3	24.7	13.7	2.7
	５０～５９歳	242	1.7	3.3	24.4	27.3	17.8	20.7	5.0
	６０～６４歳	185	1.6	4.3	25.4	26.5	18.4	15.7	8.1
	６５歳以上	1,174	4.3	5.8	30.8	20.0	12.7	15.1	11.2
	無回答	49	2.0	10.2	26.5	10.2	14.3	16.3	20.4
障害の部位別	視覚	144	2.8	2.1	28.5	25.7	17.4	16.0	7.6
	聴覚・平衡機能	218	4.6	5.0	26.6	18.8	13.8	21.1	10.1
	音声・言語・そしゃく機能	38	2.6	5.3	26.3	21.1	7.9	21.1	15.8
	肢体不自由	848	2.5	5.7	28.8	22.3	18.4	14.9	7.5
	内部障害	468	3.8	6.0	29.9	24.1	14.3	13.9	7.9
	その他	95	6.3	6.3	27.4	18.9	11.6	17.9	11.6
	無回答	79	2.5	6.3	25.3	13.9	13.9	10.1	27.8

（３）インターネットの利用状況・利用内容

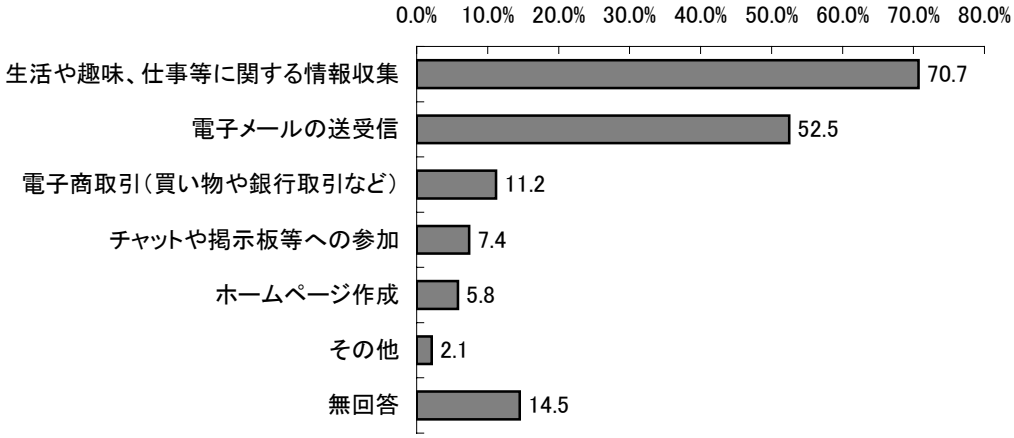
問２８　　家庭や職場などでインターネットを利用することがありますか。（○はあてはまるものすべて）

問２８－１　（問２８で１～３のいずれかを選んだ方のみお答えください）インターネットをどのようなことに利用していますか。（○はあてはまるものすべて）

【図表 3-1-75　インターネットの利用状況】（ｎ＝1,890）



【図表 3-1-76　インターネットの利用内容】（ｎ＝242）



インターネットの利用状況は、「利用しない」（70.2%）が７割を占めて最も多く、次いで「パソコンで利用している」（9.9%）となっている。

また、インターネットの利用内容は、「生活や趣味、仕事等に関する情報収集」（70.7%）が最も多く、次いで「電子メールの送受信」（52.5%）となっている。

年齢別にみると、18～30 歳代では「パソコンで利用している」や「携帯電話で利用している」の割合が高く、他の年代に比べてインターネットを利用している人が多いことがわかる。

【図表 3-1-77　年齢別・障害の部位別　インターネットの利用状況】（%）

		調査数［ｎ］（人）	パソコンで利用している	携帯電話で利用している	インターネット対応の一般電話で利用している	利用しない	無回答
全　体		1,890	9.9	3.9	0.8	70.2	17.0
年齢別	１７歳以下	63	41.3	6.3	－	50.8	4.8
	１８～２９歳	40	52.5	20.0	2.5	37.5	－
	３０～３９歳	64	37.5	20.3	－	48.4	6.3
	４０～４９歳	73	34.2	11.0	1.4	56.2	4.1
	５０～５９歳	242	19.0	5.8	－	71.9	6.6
	６０～６４歳	185	7.0	1.6	－	77.3	14.6
	６５歳以上	1,174	2.7	1.9	1.2	73.3	21.3
	無回答	49	－	2.0	－	59.2	38.8
障害の部位別	視覚	144	5.6	2.8	1.4	79.2	11.8
	聴覚・平衡機能	218	11.5	3.7	0.5	68.8	18.3
	音声・言語・そしゃく機能	38	2.6	－	－	65.8	31.6
	肢体不自由	848	11.3	3.9	1.1	71.3	14.2
	内部障害	468	10.7	4.3	0.4	70.9	15.6
	その他	95	4.2	6.3	1.1	66.3	23.2
	無回答	79	3.8	2.5	1.3	46.8	48.1

【図表 3-1-78　年齢別・障害の部位別　インターネットの利用内容】（%）

		調査数［ｎ］（人）	生活や趣味、仕事等に関する情報収集	電子メールの送受信	電子商取引（買い物や銀行取引など）	チャットや掲示板等への参加	ホームページ作成	その他	無回答
全　体		242	70.7	52.5	11.2	7.4	5.8	2.1	14.5
年齢別	１７歳以下	28	78.6	39.3	3.6	10.7	－	3.6	14.3
	１８～２９歳	25	80.0	64.0	20.0	24.0	12.0	4.0	－
	３０～３９歳	29	89.7	69.0	13.8	10.3	3.4	－	3.4
	４０～４９歳	29	86.2	58.6	10.3	3.4	－	－	3.4
	５０～５９歳	52	78.8	63.5	19.2	1.9	5.8	－	3.8
	６０～６４歳	15	73.3	66.7	－	6.7	13.3	－	6.7
	６５歳以上	63	41.3	31.7	6.3	4.8	7.9	4.8	39.7
	無回答	1	－	－	－	－	－	－	100.0
障害の部位別	視覚	13	53.8	61.5	15.4	7.7	－	－	30.8
	聴覚・平衡機能	28	71.4	71.4	7.1	10.7	14.3	－	－
	音声・言語・そしゃく機能	1	100.0	100.0	－	－	－	－	－
	肢体不自由	123	71.5	49.6	14.6	7.3	5.7	2.4	17.1
	内部障害	63	71.4	50.8	6.3	7.9	1.6	3.2	11.1
	その他	10	80.0	40.0	10.0	－	10.0	－	10.0
	無回答	4	50.0	25.0	－	－	25.0	－	50.0

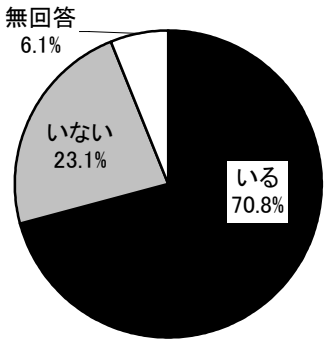
７．災害対策について

（１）災害時に頼れる人

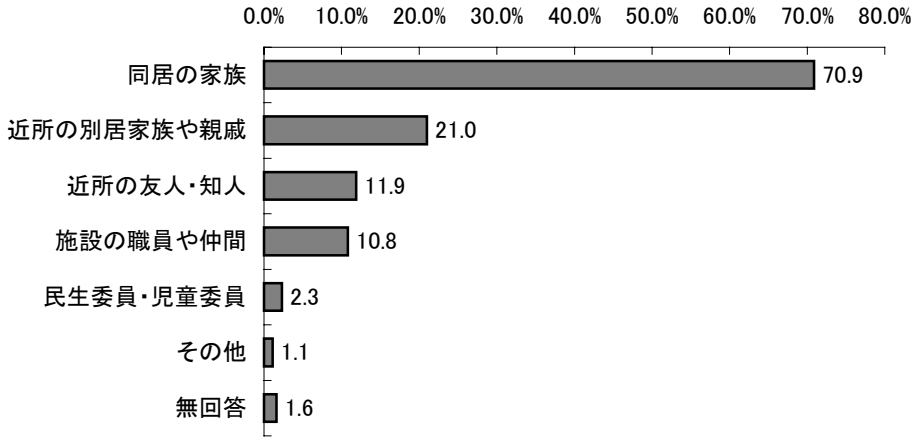
問２９　　地震や台風等の大きな災害が起きた場合に、安全の確保などで頼れる人が身近にいますか。

問２９－１　（問２９で「１.いる」と答えた方のみお答えください）それはどなたですか。（○はあてはまるものすべて）

【図表 3-1-79　災害時に頼れる人の有無】（ｎ＝1,890）



【図表 3-1-80　災害時に頼れる人】（ｎ＝1,339）



回答者の７割（70.8%）は災害時に頼れる人がおり、その内訳では「同居の家族」（70.9%）が最も多く、次いで「近所の別居家族や親戚」（21.0%）などの家族・親族が上位を占めている。

在宅生活者の家族構成別にみると、一人暮らしでは、災害時に頼れる人がいない人（48.1%）の割合が高く、いる人（46.0%）を上回っている。

また、具体的に頼れる人では「近所の別居家族や親戚」（52.9%）といった家族・親族のほかに、「近所の友人・知人」（40.2%）や「民生委員・児童委員」（16.1%）などの割合が高い。

【図表 3-1-81　家族構成別（在宅生活者のみ）　災害時に頼れる人の有無】（%）

		調査数［n］（人）	いる	いない	無回答
全　体		1,681	70.3	24.1	5.7
家族構成別	一人暮らし	189	46.0	48.1	5.8
	夫婦のみ	495	69.3	26.5	4.2
	父母等の家族と同居	859	77.8	18.5	3.7
	家族以外の人と同居	10	70.0	30.0	－
	無回答	128	59.4	16.4	24.2

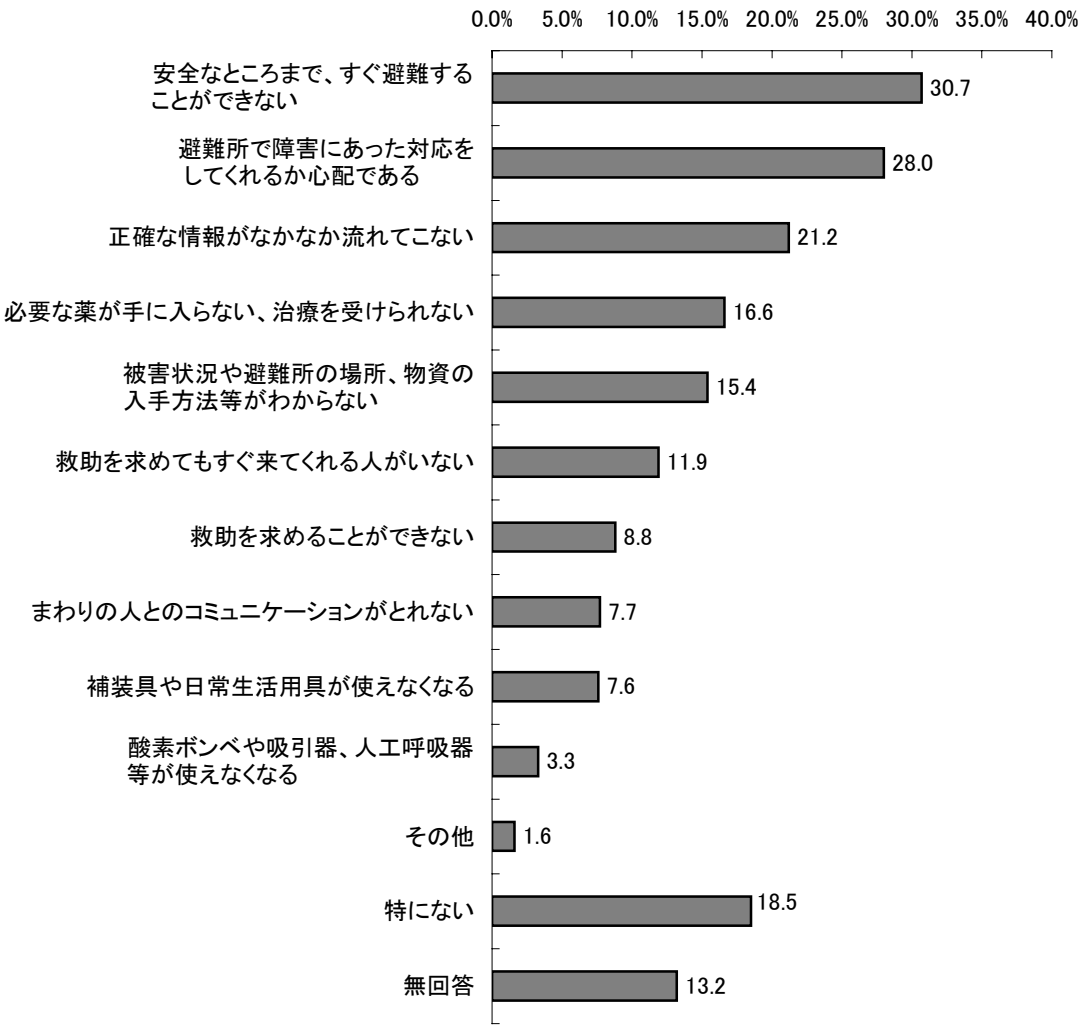
【図表 3-1-82　家族構成別（在宅生活者のみ）　災害時に頼れる人】（%）

		調査数［n］（人）	同居の家族	近所の別居家族や親戚	近所の友人・知人	施設の職員や仲間	民生委員・児童委員	その他	無回答
全　体		1,181	78.2	22.4	13.4	2.0	2.5	1.3	1.6
家族構成別	一人暮らし	87	－	52.9	40.2	2.3	16.1	3.4	4.6
	夫婦のみ	343	74.9	27.4	12.2	0.6	2.0	0.6	1.2
	父母等の家族と同居	668	91.0	17.7	11.2	1.2	0.9	0.9	1.5
	家族以外の人と同居	7	42.9	－	14.3	28.6	－	14.3	－
	無回答	76	72.4	7.9	6.6	13.2	3.9	3.9	1.3

（２）災害時に心配なこと

問３０　地震や台風等の大きな災害が起きた場合、どのようなことが心配ですか。（○は３つまで）

【図表 3-1-83　災害時に心配なこと】（ｎ＝1,890）



災害が起きた場合に心配なことは、「安全なところまで、すぐ避難することができない」（30.7%）が最も多く、次いで「避難所で障害にあった対応をしてくれるか心配である」（28.0%）、「正確な情報がなかなか流れてこない」（21.2%）となっている。

障害の部位別にみると、視覚や肢体不自由では、他の障害に比べて「安全なところまで、すぐ避難することができない」（視覚：36.8%、肢体不自由：40.6%）の割合が高く、聴覚・平衡機能や音声・言語・そしゃく機能では「まわりの人とのコミュニケーションがとれない」（聴覚・平衡機能：20.2%、音声・言語・そしゃく機能：21.1%）の割合が高い。また、内部障害では「必要な薬が手に入らない、治療を受けられない」（27.6%）の割合が高い。

在宅生活者の家族構成別にみると、一人暮らしでは、他の世帯に比べて「安全なところまで、すぐ避難することができない」（36.5%）や「救助を求めてもすぐ来てくれる人がいない」（25.9%）、「救助を求めることができない」（18.0%）などの割合が高く、避難に関する不安感が特に強いことがわかる。

【図表 3-1-84　障害の部位別・家族構成別（在宅生活者のみ）　災害時に心配なこと】（%）

		調査数［n］（人）	安全なところまで、すぐ避難することができない	避難所で障害にあった対応をしてくれるか心配である	正確な情報がなかなか流れてこない	必要な薬が手に入らない、治療を受けられない	被害状況や避難所の場所、物資の入手方法等がわからない	救助を求めてもすぐ来てくれる人がいない
全　体		1,890	30.7	28.0	21.2	16.6	15.4	11.9
障害の部位別	視覚	144	36.8	22.9	25.0	10.4	18.1	11.8
	聴覚・平衡機能	218	17.0	24.3	25.2	11.5	18.3	10.6
	音声・言語・そしゃく機能	38	21.1	15.8	21.1	13.2	5.3	10.5
	肢体不自由	848	40.6	31.3	17.9	14.6	14.5	13.8
	内部障害	468	19.7	27.6	25.6	27.6	17.5	9.2
	その他	95	32.6	30.5	18.9	12.6	10.5	9.5
	無回答	79	19.0	19.0	15.2	5.1	10.1	13.9
家族構成別	一人暮らし	189	36.5	26.5	16.4	18.0	17.5	25.9
	夫婦のみ	495	31.5	31.9	23.6	17.6	14.7	11.7
	父母等の家族と同居	859	29.1	28.2	22.9	17.8	17.1	9.3
	家族以外の人と同居	10	20.0	20.0	40.0	－	10.0	10.0
	無回答	128	21.1	14.8	17.2	8.6	10.9	8.6

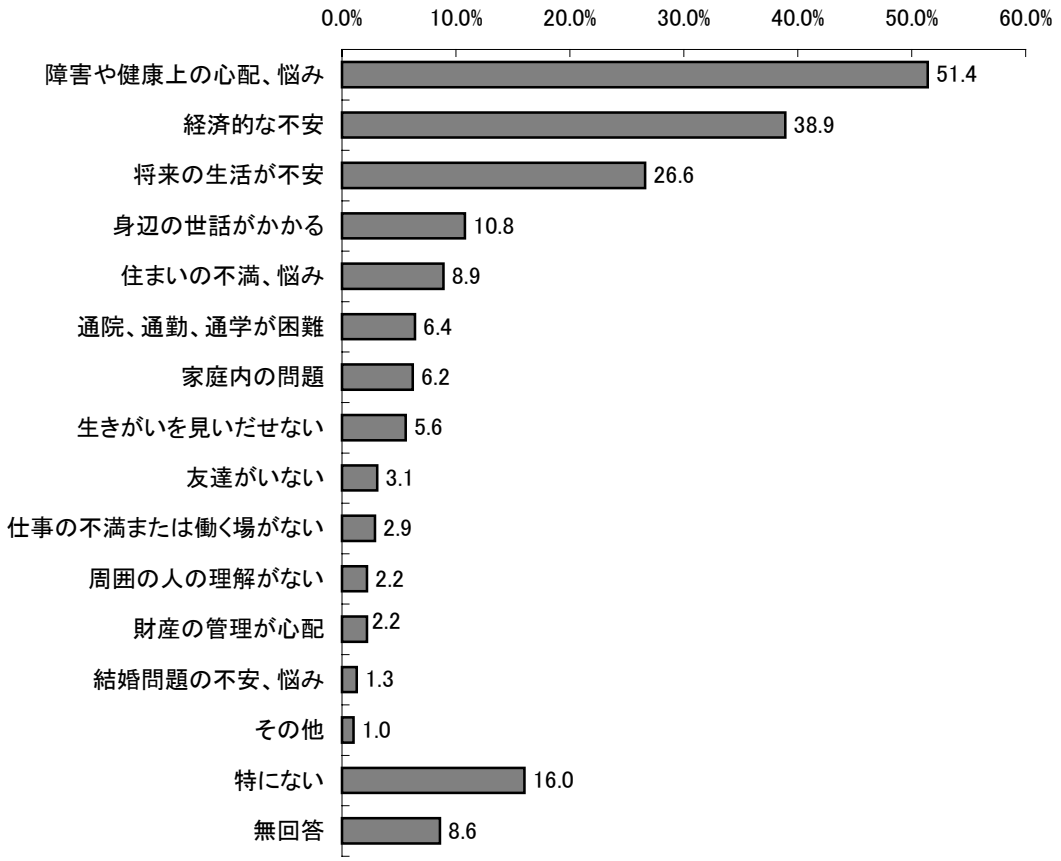
		調査数［n］（人）	救助を求めることができない	まわりの人とのコミュニケーションがとれない	補装具や日常生活用具が使えなくなる	酸素ボンベや吸引器、人工呼吸器等が使えなくなる	その他	特にない	無回答
全　体		1,890	8.8	7.7	7.6	3.3	1.6	18.5	13.2
障害の部位別	視覚	144	11.1	4.9	2.1	－	2.1	23.6	13.9
	聴覚・平衡機能	218	9.2	20.2	9.2	0.5	4.1	22.0	11.9
	音声・言語・そしゃく機能	38	10.5	21.1	10.5	5.3	－	15.8	18.4
	肢体不自由	848	10.0	6.3	9.2	2.1	0.8	18.2	11.2
	内部障害	468	5.8	4.9	6.6	8.1	2.4	18.2	10.7
	その他	95	9.5	4.2	4.2	2.1	1.1	16.8	20.0
	無回答	79	6.3	8.9	3.8	2.5	－	8.9	40.5
家族構成別	一人暮らし	189	18.0	7.9	5.3	2.1	2.6	14.3	12.7
	夫婦のみ	495	6.7	5.9	7.9	3.4	1.2	17.6	11.5
	父母等の家族と同居	859	8.0	8.3	7.2	3.8	1.6	21.2	10.0
	家族以外の人と同居	10	10.0	－	－	－	10.0	20.0	20.0
	無回答	128	3.1	3.9	6.3	1.6	0.8	18.0	33.6

８．生活全般について

（１）困っていることや将来に対する不安・悩み

問３１　現在の生活の中で困っていることや、将来に対する不安・悩みなどはありますか。（○は３つまで）

【図表 3-1-85　困っていることや将来に対する不安・悩み】（ｎ＝1,890）



現在の生活の中で困っていることや将来に対する不安・悩みは、「障害や健康上の心配、悩み」（51.4%）が最も多く、次いで「経済的な不安」（38.9%）、「将来の生活が不安」（26.6%）となっている。

年齢別にみても、すべての年齢層で「経済的な不安」「障害や健康上の心配、悩み」「将来の生活が不安」の３項目が上位を占めているが、30 歳代以下では 40 歳代以上に比べて「仕事の不満または働く場がない」や「結婚問題の不安、悩み」の割合が高くなっている。また、50 歳代では「住まいの不満、悩み」（13.2%）の割合が高く、１割を超えている。

障害の程度別にみると、いずれの場合においても「障害や健康上の心配、悩み」が最も多いが、この割合は重度障害者で特に高い（１級：54.9%、２級：57.3%）。

障害の部位別にみると、いずれの障害においても「障害や健康上の心配、悩み」が最も多いが、音声・言語・そしゃく機能では、他の障害に比べて「周囲の人の理解がない」（10.5%）の割合が高く、１割を超えている。

【図表 3-1-86　年齢別・障害の程度別・障害の部位別　困っていることや将来に対する不安・悩み】

（%）

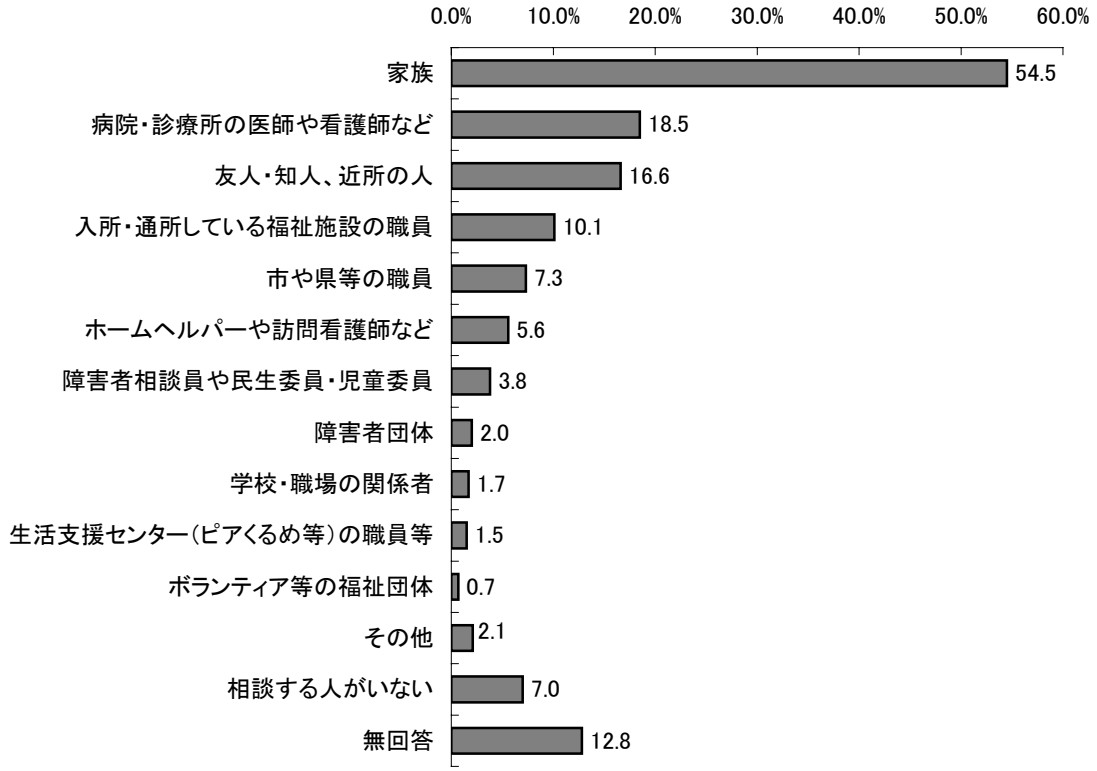
		調査数［ｎ］（人）	障害や健康上の心配、悩み	経済的な不安	将来の生活が不安	身辺の世話がかかる	住まいの不満、悩み	通院、通勤、通学が困難	家庭内の問題	生きがいを見いだせない
全　体		1,890	51.4	38.9	26.6	10.8	8.9	6.4	6.2	5.6
年齢別	１７歳以下	63	47.6	38.1	44.4	17.5	7.9	12.7	1.6	1.6
	１８～２９歳	40	47.5	45.0	57.5	15.0	7.5	－	2.5	5.0
	３０～３９歳	64	35.9	59.4	37.5	3.1	9.4	1.6	7.8	6.3
	４０～４９歳	73	56.2	47.9	31.5	5.5	8.2	2.7	8.2	4.1
	５０～５９歳	242	62.4	54.1	38.4	5.4	13.2	7.0	5.0	3.7
	６０～６４歳	185	52.4	57.3	35.1	8.1	9.7	3.2	5.9	9.7
	６５歳以上	1,174	50.6	31.7	20.6	12.5	8.2	7.2	6.6	5.6
	無回答	49	32.7	22.4	10.2	12.2	4.1	6.1	10.2	6.1
障害の程度別	１級	548	54.9	41.4	29.4	13.9	8.2	7.5	4.7	6.4
	２級	344	57.3	40.7	28.5	13.4	11.9	7.0	6.1	3.8
	３級	288	49.7	41.3	24.7	7.3	6.9	8.0	6.9	7.3
	４級	334	52.1	35.0	28.1	7.8	10.2	5.4	6.0	4.5
	５級	153	41.8	34.6	20.9	8.5	9.2	4.6	9.2	3.3
	６級	139	44.6	44.6	25.2	9.4	7.9	2.9	7.2	9.4
	無回答	84	35.7	20.2	14.3	10.7	3.6	4.8	8.3	4.8
障害の部位別	視覚	144	54.2	41.0	26.4	8.3	8.3	6.3	7.6	7.6
	聴覚・平衡機能	218	43.6	33.0	28.4	11.9	6.9	3.2	9.6	5.5
	音声・言語・そしゃく機能	38	50.0	34.2	31.6	10.5	2.6	－	2.6	－
	肢体不自由	848	52.9	40.6	28.1	14.0	10.6	8.0	6.6	6.3
	内部障害	468	54.1	42.5	25.6	6.2	7.7	5.6	3.4	6.0
	その他	95	53.7	33.7	22.1	8.4	9.5	7.4	7.4	－
	無回答	79	32.9	20.3	15.2	7.6	6.3	5.1	7.6	2.5

		調査数［ｎ］（人）	友達がいない	仕事の不満または働く場がない	周囲の人の理解がない	財産の管理が心配	結婚問題の不安、悩み	その他	特にない	無回答
全　体		1,890	3.1	2.9	2.2	2.2	1.3	1.0	16.0	8.6
年齢別	１７歳以下	63	－	9.5	3.2	－	6.3	－	17.5	6.3
	１８～２９歳	40	2.5	10.0	－	5.0	10.0	2.5	10.0	2.5
	３０～３９歳	64	3.1	9.4	1.6	－	7.8	1.6	12.5	7.8
	４０～４９歳	73	1.4	8.2	11.0	2.7	2.7	1.4	12.3	4.1
	５０～５９歳	242	3.3	7.9	1.7	1.7	1.7	0.4	10.7	3.3
	６０～６４歳	185	2.7	2.7	2.7	2.2	0.5	0.5	12.4	5.9
	６５歳以上	1,174	3.4	0.3	1.7	2.5	0.3	1.2	18.2	9.9
	無回答	49	4.1	8.2	4.1	－	4.1	－	14.3	28.6
障害の程度別	１級	548	2.6	2.2	1.6	1.5	0.9	1.1	12.4	8.8
	２級	344	4.1	2.6	3.2	2.0	0.9	1.2	12.2	6.1
	３級	288	2.8	3.1	2.1	2.8	2.8	1.0	19.8	5.9
	４級	334	4.2	2.7	2.7	3.0	1.2	0.6	17.7	8.4
	５級	153	0.7	3.3	1.3	0.7	0.7	1.3	20.3	13.1
	６級	139	4.3	4.3	2.2	3.6	1.4	0.7	22.3	3.6
	無回答	84	2.4	4.8	2.4	2.4	2.4	1.2	16.7	27.4
障害の部位別	視覚	144	4.9	4.2	2.1	1.4	1.4	0.7	12.5	9.7
	聴覚・平衡機能	218	5.5	2.8	3.2	2.3	2.3	0.5	20.6	6.9
	音声・言語・そしゃく機能	38	2.6	－	10.5	7.9	－	2.6	21.1	2.6
	肢体不自由	848	2.7	3.1	2.4	2.5	1.4	1.3	14.4	6.8
	内部障害	468	2.6	2.8	1.1	1.3	1.1	0.6	17.1	7.1
	その他	95	2.1	－	1.1	2.1	－	－	21.1	14.7
	無回答	79	2.5	3.8	2.5	2.5	1.3	2.5	11.4	34.2

（２）困っていることや将来に対する不安・悩みの相談先

問３２　生活の中で困っていることや、将来に対する不安や悩みを誰（どこ）に相談していますか。（○はあてはまるものすべて）

【図表 3-1-87　困っていることや将来に対する不安・悩みの相談先】（ｎ＝1,890）



困っていることや将来に対する不安・悩みの相談先は、「家族」（54.5%）が最も多く、次いで「病院・診療所の医師や看護師など」（18.5%）、「友人・知人、近所の人」（16.6%）となっている。

年齢別にみると、すべての年齢層において「家族」「病院・診療所の医師や看護師など」「友人・知人、近所の人」が上位を占めている。17 歳以下では他の年齢層に比べて「入所・通所している福祉施設の職員」（22.2%）や「学校・職場の関係者」（27.0%）の割合が高い。また、18 歳～50 歳代では「相談する人がいない」が 1 割を超えている。

在宅生活者の家族構成別にみると、一人暮らしでは、他の世帯に比べて「家族」（28.6%）の割合が低く、「友人・知人、近所の人」（23.3%）や「市や県等の職員」（11.6%）、「ホームヘルパーや訪問看護師など」（11.1%）などの割合が高い。

【図表 3-1-88　年齢別・家族構成別（在宅生活者のみ）
困っていることや将来に対する不安・悩みの相談先】（%）

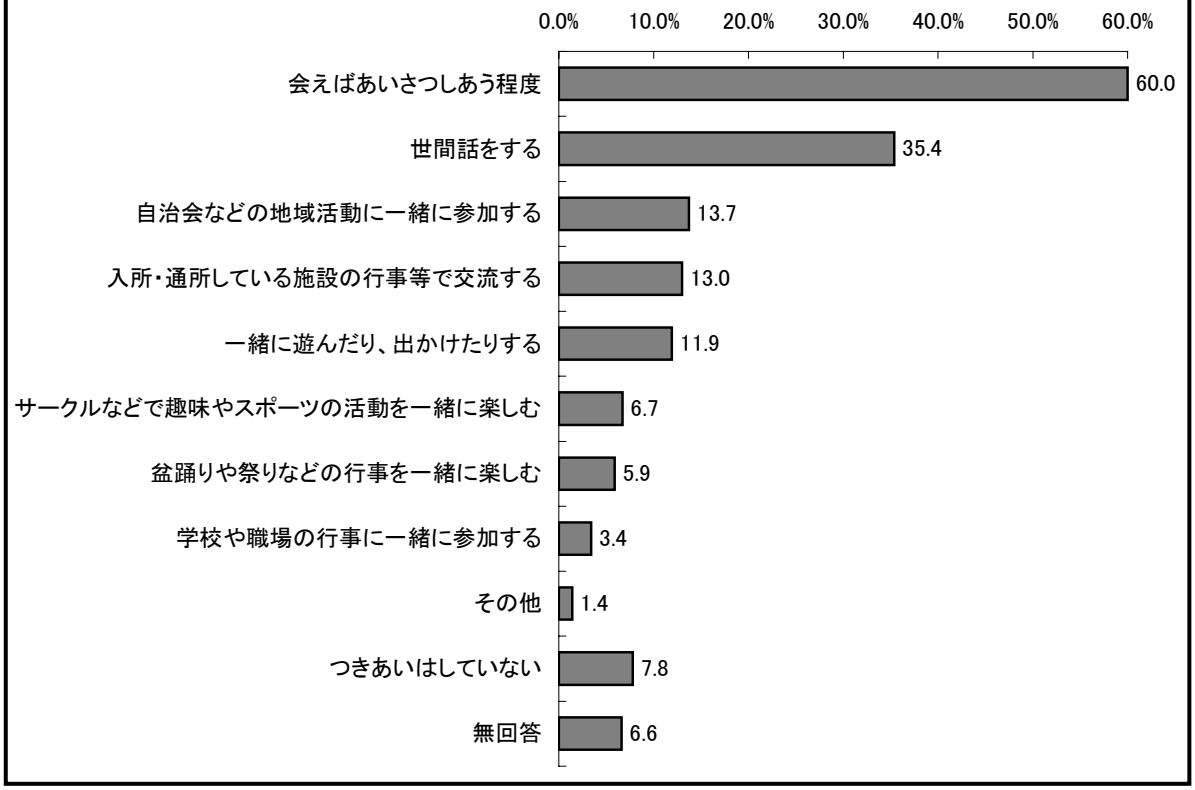
		調査数［n］（人）	家族	病院・診療所の医師や看護師など	友人・知人、近所の人	入所・通所している福祉施設の職員	市や県等の職員	ホームヘルパーや訪問看護師など	障害者相談員や民生委員・児童委員
全　体		1,890	54.5	18.5	16.6	10.1	7.3	5.6	3.8
年齢別	１７歳以下	63	58.7	25.4	30.2	22.2	6.3	4.8	－
	１８～２９歳	40	62.5	17.5	35.0	7.5	2.5	－	2.5
	３０～３９歳	64	48.4	14.1	28.1	12.5	7.8	4.7	－
	４０～４９歳	73	45.2	19.2	21.9	8.2	8.2	2.7	－
	５０～５９歳	242	55.0	14.0	20.2	3.7	7.9	1.7	2.9
	６０～６４歳	185	55.7	18.4	21.1	6.5	8.1	5.9	1.6
	６５歳以上	1,174	55.3	19.5	13.2	11.2	7.3	7.1	4.9
	無回答	49	38.8	12.2	6.1	12.2	4.1	－	4.1
家族構成別	一人暮らし	189	28.6	16.9	23.3	4.8	11.6	11.1	7.9
	夫婦のみ	495	60.4	20.2	16.8	3.6	8.9	6.7	4.2
	父母等の家族と同居	859	63.9	18.6	17.6	7.7	6.4	4.7	2.6
	家族以外の人と同居	10	20.0	20.0	20.0	－	10.0	－	10.0
	無回答	128	35.2	14.8	11.7	4.7	4.7	5.5	2.3

		調査数［n］（人）	障害者団体	学校・職場の関係者	生活支援センター（ピアくるめ等）の職員等	ボランティア等の福祉団体	その他	相談する人がいない	無回答
全　体		1,890	2.0	1.7	1.5	0.7	2.1	7.0	12.8
年齢別	１７歳以下	63	3.2	27.0	－	－	1.6	4.8	7.9
	１８～２９歳	40	2.5	10.0	2.5	－	5.0	17.5	5.0
	３０～３９歳	64	4.7	4.7	3.1	1.6	1.6	12.5	4.7
	４０～４９歳	73	4.1	2.7	4.1	1.4	5.5	13.7	2.7
	５０～５９歳	242	2.1	0.4	0.4	0.4	2.9	11.2	9.1
	６０～６４歳	185	1.1	1.6	1.6	1.1	0.5	8.6	8.6
	６５歳以上	1,174	1.7	0.2	1.4	0.8	2.0	4.9	15.0
	無回答	49	4.1	－	2.0	－	－	8.2	32.7
家族構成別	一人暮らし	189	1.1	0.5	0.5	0.5	3.2	10.6	11.6
	夫婦のみ	495	3.4	0.8	1.6	1.0	1.8	7.1	10.9
	父母等の家族と同居	859	1.7	2.9	1.5	0.3	2.2	6.6	9.9
	家族以外の人と同居	10	－	－	－	－	－	20.0	10.0
	無回答	128	－	0.8	1.6	0.8	3.1	10.2	32.0

（３）地域の人とのつきあい

問３３　あなたは、ふだん地域の方とどのようなおつきあいをしていますか。（○はあてはまるものすべて）

【図表 3-1-89　地域の人とのつきあい】（ｎ＝1,890）



地域の人とのつきあいについては、「会えばあいさつしあう程度」（60.0%）が最も多く、次いで「世間話をする」（35.4%）、「自治会などの地域活動に一緒に参加する」（13.7%）、「入所・通所している施設の行事等で交流する」（13.0%）となっている。

年齢別にみると、すべての年齢層において「会えばあいさつしあう程度」が最も多いが、30歳代以下では「学校や職場の行事に一緒に参加する」、40歳代以上では「自治会などの地域活動に一緒に参加する」の割合が高い。

障害の部位別にみると、聴覚・平衡機能や音声・言語・そしゃく機能では「つきあいはしていない」の割合がやや高く、1割を超えている。

現在の住まい別にみると、福祉施設入所者は、在宅生活者に比べて「入所・通所している施設の行事等で交流する」（50.3%）や「つきあいはしていない」（20.6%）の割合が高い。

【図表 3-1-90　年齢別・障害の部位別・現在の住まい別　地域の人とのつきあい】（%）

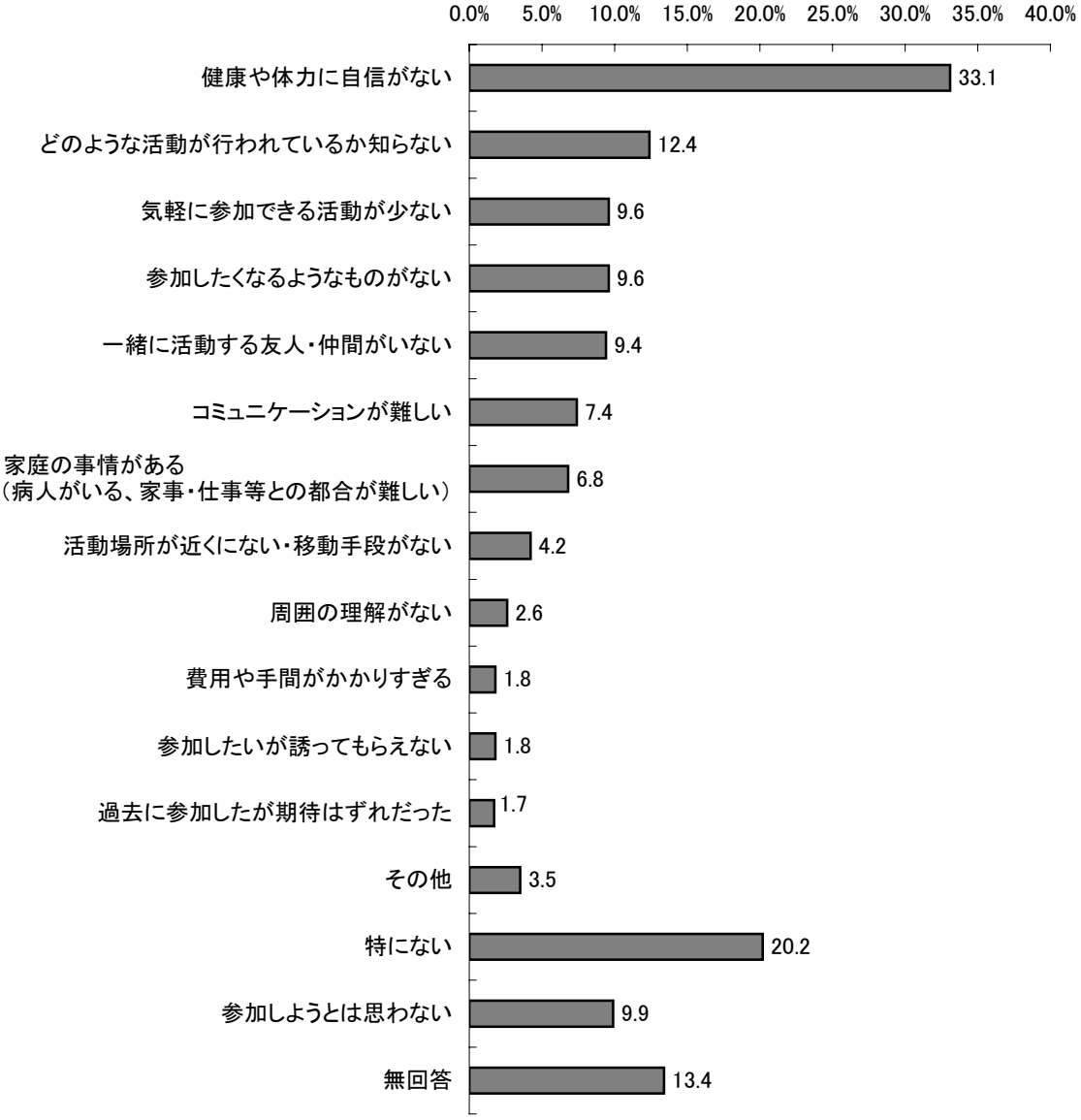
		調査数［ｎ］（人）	会えばあいさつしあう程度	世間話をする	自治会などの地域活動に一緒に参加する	入所・通所している施設の行事等で交流する	一緒に遊んだり、出かけたりする
全　体		1,890	60.0	35.4	13.7	13.0	11.9
年齢別	１７歳以下	63	60.3	12.7	17.5	11.1	19.0
	１８～２９歳	40	67.5	10.0	－	7.5	15.0
	３０～３９歳	64	70.3	21.9	9.4	17.2	10.9
	４０～４９歳	73	71.2	24.7	20.5	5.5	8.2
	５０～５９歳	242	71.1	35.5	17.8	7.9	9.5
	６０～６４歳	185	71.9	38.4	10.3	9.2	11.9
	６５歳以上	1,174	55.6	38.8	13.6	15.3	12.6
	無回答	49	28.6	26.5	10.2	10.2	－
障害の部位別	視覚	144	62.5	39.6	12.5	9.7	11.8
	聴覚・平衡機能	218	59.2	29.4	12.4	13.3	8.7
	音声・言語・そしゃく機能	38	44.7	23.7	7.9	10.5	7.9
	肢体不自由	848	58.7	36.8	12.6	17.7	11.8
	内部障害	468	67.1	38.5	17.3	6.2	15.8
	その他	95	63.2	33.7	15.8	12.6	7.4
	無回答	79	32.9	20.3	10.1	10.1	5.1
現在の住まい別	福祉施設	155	22.6	10.3	2.6	50.3	4.5
	福祉施設以外（持ち家等）	1,681	64.0	38.4	15.1	9.3	12.8
	無回答	54	42.6	16.7	3.7	20.4	3.7

		調査数［ｎ］（人）	サークルなどで趣味やスポーツの活動を一緒に楽しむ	盆踊りや祭りなどの行事を一緒に楽しむ	学校や職場の行事に一緒に参加する	その他	つきあいはしていない	無回答
全　体		1,890	6.7	5.9	3.4	1.4	7.8	6.6
年齢別	１７歳以下	63	4.8	15.9	30.2	1.6	6.3	3.2
	１８～２９歳	40	2.5	5.0	15.0	－	10.0	5.0
	３０～３９歳	64	7.8	10.9	17.2	－	1.6	1.6
	４０～４９歳	73	1.4	8.2	13.7	2.7	4.1	2.7
	５０～５９歳	242	5.0	6.2	3.7	0.8	8.3	2.1
	６０～６４歳	185	5.4	4.9	1.1	1.1	6.5	3.8
	６５歳以上	1,174	7.8	5.4	0.5	1.5	8.2	7.8
	無回答	49	4.1	－	4.1	2.0	14.3	28.6
障害の部位別	視覚	144	4.2	5.6	2.1	0.7	9.0	4.9
	聴覚・平衡機能	218	8.3	3.7	3.2	0.9	10.1	6.4
	音声・言語・そしゃく機能	38	7.9	5.3	－	5.3	15.8	15.8
	肢体不自由	848	5.8	5.8	4.5	1.7	8.5	5.8
	内部障害	468	9.2	7.3	2.6	0.4	4.9	4.1
	その他	95	5.3	7.4	4.2	3.2	4.2	5.3
	無回答	79	2.5	5.1	1.3	2.5	8.9	31.6
現在の住まい別	福祉施設	155	0.6	3.9	1.3	1.3	20.6	12.9
	福祉施設以外（持ち家等）	1,681	7.4	6.3	3.7	1.4	6.5	5.7
	無回答	54	1.9	－	1.9	－	11.1	18.5

（４）地域活動に参加するときに妨げとなること

問３４　あなたが地域の行事や活動に参加しようとした場合、そのさまたげとなることはありますか。（○はあてはまるものすべて）

【図表 3-1-91　地域活動に参加するときに妨げとなること】（ｎ＝1,890）



地域の行事や活動に参加するときに妨げとなることは、「健康や体力に自信がない」（33.1%）が最も多く、次いで「どのような活動が行われているか知らない」（12.4%）となっている。また、「特にない」が 20.2%、「参加しようとは思わない」が 9.9%となっている。

年齢別にみると、「どのような活動が行われているか知らない」の割合は 17 歳以下（22.2%）や 40 歳代（23.3%）で高く、2 割を超えている。

障害の部位別にみると、聴覚・平衡機能では他の障害に比べて「コミュニケーションが難しい」（17.9%）の割合が高い。

現在の住まい別にみると、福祉施設入所者は、在宅生活者に比べて「参加しようとは思わない」（21.3%）の割合が高い。

【図表 3-1-92　年齢別・障害の部位別・現在の住まい別　地域活動に参加するときに妨げとなること】

（%）

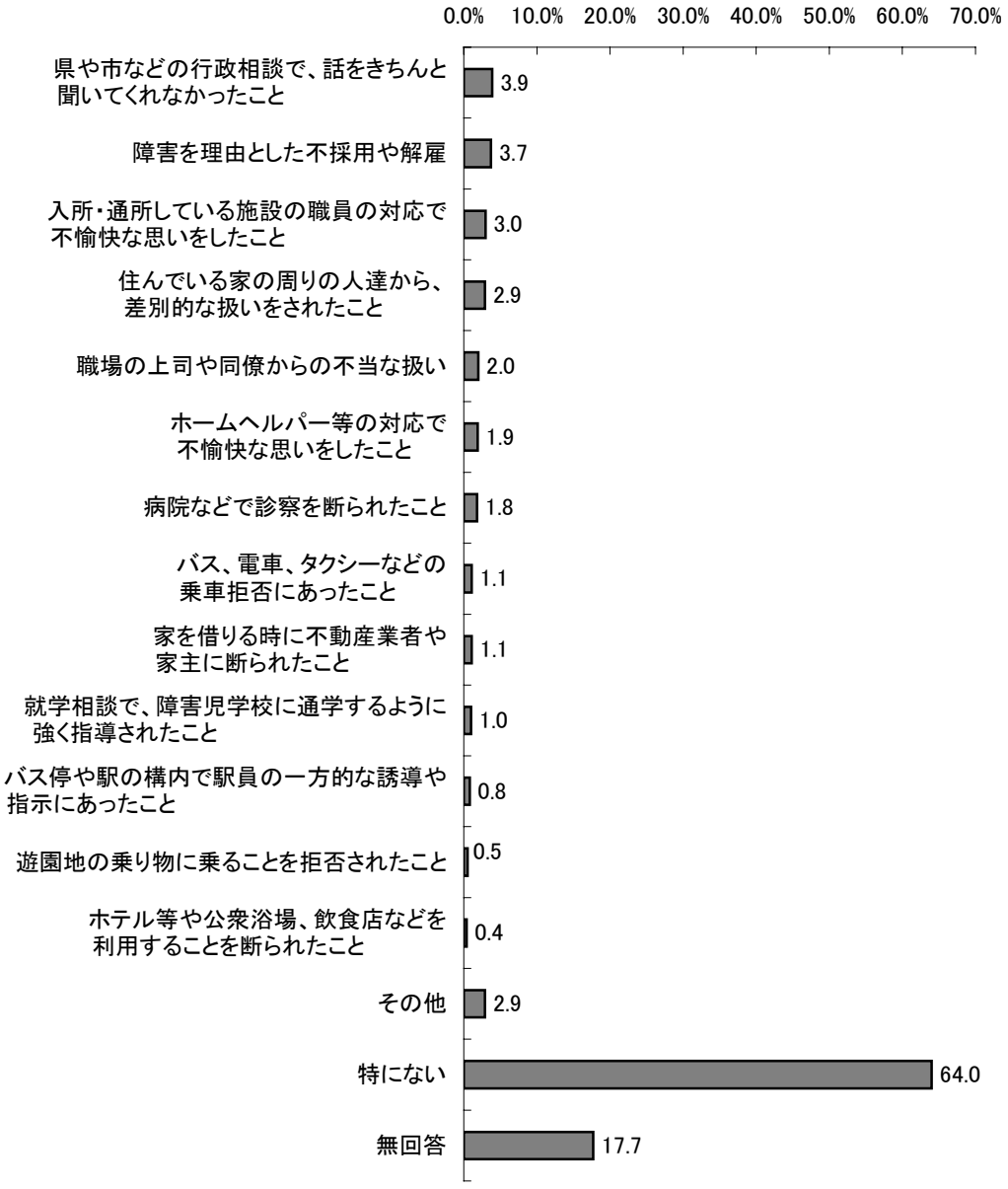
		調査数［n］（人）	健康や体力に自信がない	どのような活動が行われているか知らない	気軽に参加できる活動が少ない	参加したくなるようなものがない	一緒に活動する友人・仲間がいない	コミュニケーションが難しい	家庭の事情がある（病人がいる、家事・仕事等との都合が難しい）	活動場所が近くにない・移動手段がない
全　体		1,890	33.1	12.4	9.6	9.6	9.4	7.4	6.8	4.2
年齢別	１７歳以下	63	19.0	22.2	19.0	9.5	14.3	20.6	15.9	3.2
	１８～２９歳	40	30.0	17.5	7.5	20.0	17.5	17.5	7.5	－
	３０～３９歳	64	15.6	12.5	6.3	9.4	12.5	14.1	12.5	1.6
	４０～４９歳	73	32.9	23.3	11.0	16.4	15.1	15.1	15.1	5.5
	５０～５９歳	242	35.5	19.0	14.9	12.4	12.0	9.1	9.1	5.4
	６０～６４歳	185	33.0	18.4	12.4	11.9	15.1	9.2	4.9	5.9
	６５歳以上	1,174	34.7	8.8	7.6	8.1	6.9	4.9	5.1	4.0
	無回答	49	28.6	10.2	12.2	4.1	8.2	8.2	10.2	4.1
障害の部位別	視覚	144	27.1	15.3	9.7	6.3	12.5	7.6	5.6	4.2
	聴覚・平衡機能	218	22.9	9.2	5.0	7.8	11.0	17.9	8.3	3.2
	音声・言語・そしゃく機能	38	23.7	2.6	5.3	5.3	5.3	7.9	－	2.6
	肢体不自由	848	36.2	14.7	12.1	11.2	9.8	7.3	7.1	5.4
	内部障害	468	38.5	11.5	9.6	10.5	9.0	3.2	7.1	3.4
	その他	95	29.5	6.3	3.2	4.2	2.1	6.3	4.2	2.1
	無回答	79	16.5	7.6	3.8	6.3	7.6	5.1	6.3	2.5
現在の住まい別	福祉施設	155	25.2	9.7	6.5	5.2	5.2	9.0	3.2	7.1
	福祉施設以外（持ち家等）	1,681	34.3	12.6	10.0	10.2	10.0	7.2	7.3	4.0
	無回答	54	20.4	13.0	5.6	3.7	1.9	9.3	1.9	1.9

		調査数［n］（人）	周囲の理解がない	費用や手間がかかりすぎる	参加したいが誘ってもらえない	過去に参加したが期待はずれだった	その他	特にない	参加しようとは思わない	無回答
全　体		1,890	2.6	1.8	1.8	1.7	3.5	20.2	9.9	13.4
年齢別	１７歳以下	63	11.1	1.6	3.2	1.6	4.8	22.2	3.2	3.2
	１８～２９歳	40	7.5	－	－	2.5	－	25.0	12.5	2.5
	３０～３９歳	64	3.1	1.6	3.1	1.6	3.1	32.8	6.3	6.3
	４０～４９歳	73	8.2	2.7	5.5	6.8	2.7	20.5	2.7	5.5
	５０～５９歳	242	3.3	2.1	1.2	0.4	3.3	20.2	7.4	6.6
	６０～６４歳	185	2.7	3.2	6.5	2.2	3.8	20.0	6.5	11.4
	６５歳以上	1,174	1.4	1.4	0.8	1.5	3.5	19.7	11.8	16.1
	無回答	49	4.1	6.1	4.1	4.1	6.1	8.2	12.2	32.7
障害の部位別	視覚	144	0.7	2.1	2.8	3.5	4.9	16.0	16.0	11.8
	聴覚・平衡機能	218	4.1	1.4	0.5	0.5	4.6	23.4	11.9	11.0
	音声・言語・そしゃく機能	38	－	－	－	－	2.6	23.7	15.8	23.7
	肢体不自由	848	3.5	2.0	2.5	1.7	3.3	18.0	10.4	11.4
	内部障害	468	1.5	1.3	1.7	2.1	2.4	23.7	7.5	10.7
	その他	95	3.2	2.1	－	－	8.4	26.3	7.4	15.8
	無回答	79	－	3.8	－	3.8	1.3	11.4	3.8	51.9
現在の住まい別	福祉施設	155	2.6	3.2	1.3	－	4.5	16.8	21.3	18.7
	福祉施設以外（持ち家等）	1,681	2.6	1.6	1.9	1.8	3.5	20.7	8.6	12.6
	無回答	54	3.7	3.7	－	3.7	1.9	13.0	20.4	24.1

（５）差別的な扱いを受けたり、いやな思いをした経験の有無

問３５　あなたはこれまでに次のような差別的な扱いを受けたり、いやな思いをしたことがありますか。（○はあてはまるものすべて）

【図表 3-1-93　差別的な扱いを受けたり、いやな思いをした経験の有無】（ｎ＝1,890）



差別的な扱いを受けたり、いやな思いをした経験については「特にない」（64.0%）が６割を超えて最も多いが、具体的な内容では「県や市などの行政相談で、話をきちんと聞いてくれなかったこと」（3.9%）や「障害を理由とした不採用や解雇」（3.7%）、「入所・通所している施設の職員の対応で不愉快な思いをしたこと」（3.0%）などがあがっている。

年齢別にみても、すべての年齢層で「特にない」が最も多いが、いやな思い等をした内容は、17 歳以下では「就学相談で、障害児学校に通学するように強く指導されたこと」（17.5%）が最も多く、18 歳～50 歳代では「障害を理由とした不採用や解雇」が最も多い。

【図表 3-1-94　年齢別・障害の部位別　差別的な扱いを受けたり、いやな思いをした経験の有無】（%）

		調査数［ｎ］（人）	県や市などの行政相談で、話をきちんと聞いてくれなかったこと	障害を理由とした不採用や解雇	入所・通所している施設の職員の対応で不愉快な思いをしたこと	住んでいる家の周りの人達から、差別的な扱いをされたこと	職場の上司や同僚からの不当な扱い	ホームヘルパー等の対応で不愉快な思いをしたこと	病院などで診察を断られたこと	バス、電車、タクシーなどの乗車拒否にあったこと
全　体		1,890	3.9	3.7	3.0	2.9	2.0	1.9	1.8	1.1
年齢別	１７歳以下	63	6.3	－	6.3	6.3	－	3.2	6.3	－
	１８～２９歳	40	7.5	22.5	2.5	7.5	7.5	－	7.5	2.5
	３０～３９歳	64	4.7	20.3	3.1	6.3	9.4	3.1	－	1.6
	４０～４９歳	73	8.2	15.1	5.5	4.1	4.1	4.1	5.5	2.7
	５０～５９歳	242	4.5	8.3	1.7	3.3	3.7	2.5	1.2	0.8
	６０～６４歳	185	7.0	4.3	4.3	3.2	3.8	3.8	2.2	2.2
	６５歳以上	1,174	2.7	0.7	2.5	2.2	0.6	1.2	1.3	0.9
	無回答	49	2.0	2.0	10.2	2.0	6.1	2.0	2.0	－
障害の部位別	視覚	144	2.8	2.8	2.1	4.9	2.1	2.8	－	1.4
	聴覚・平衡機能	218	3.7	6.4	0.5	4.1	3.7	0.5	0.9	1.4
	音声・言語・そしゃく機能	38	－	2.6	5.3	－	2.6	－	－	－
	肢体不自由	848	5.0	2.8	5.0	3.2	1.7	2.7	2.6	1.7
	内部障害	468	3.6	4.5	0.9	1.7	1.5	1.3	1.3	0.4
	その他	95	2.1	5.3	1.1	3.2	1.1	－	2.1	－
	無回答	79	－	1.3	5.1	1.3	5.1	1.3	2.5	－

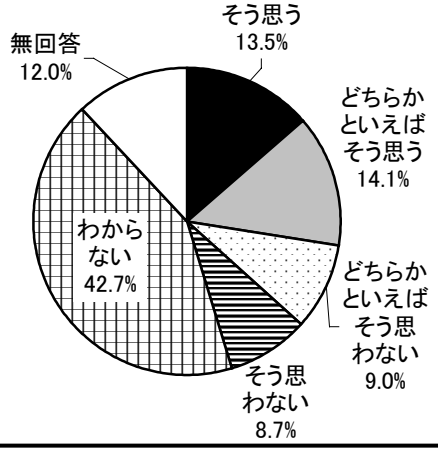
		調査数［ｎ］（人）	家を借りる時に不動産業者や家主に断られたこと	就学相談で、障害児学校に通学するように強く指導されたこと	バス停や駅の構内で駅員の一方的な誘導や指示にあったこと	遊園地の乗り物に乗ることを拒否されたこと	ホテル等や公衆浴場、飲食店などを利用することを断られたこと	その他	特にない	無回答
全　体		1,890	1.1	1.0	0.8	0.5	0.4	2.9	64.0	17.7
年齢別	１７歳以下	63	1.6	17.5	1.6	3.2	－	14.3	58.7	4.8
	１８～２９歳	40	5.0	7.5	2.5	5.0	－	10.0	52.5	－
	３０～３９歳	64	－	3.1	3.1	3.1	3.1	4.7	50.0	6.3
	４０～４９歳	73	5.5	1.4	4.1	4.1	1.4	9.6	56.2	6.8
	５０～５９歳	242	2.5	0.8	1.7	－	0.4	2.9	65.3	10.7
	６０～６４歳	185	0.5	－	0.5	－	0.5	2.7	62.7	10.3
	６５歳以上	1,174	0.6	－	0.3	0.1	0.2	1.5	66.9	22.0
	無回答	49	－	－	－	－	－	2.0	38.8	40.8
障害の部位別	視覚	144	2.1	0.7	0.7	－	－	2.8	64.6	18.8
	聴覚・平衡機能	218	1.8	0.9	0.9	0.5	0.9	1.8	63.8	17.9
	音声・言語・そしゃく機能	38	－	－	－	－	－	－	68.4	21.1
	肢体不自由	848	1.3	1.8	0.9	0.8	0.6	4.1	61.6	15.8
	内部障害	468	0.6	－	0.9	0.4	－	1.5	72.2	15.0
	その他	95	－	－	－	－	－	2.1	65.3	22.1
	無回答	79	－	1.3	－	－	－	2.5	36.7	45.6

９．福祉全般について

（１）ノーマライゼーションのまちづくり

問３６　「障害がある人もない人も、ともに生きていくことができる社会こそ普通の社会である。障害がある人も職場で一緒に働いていたり、地域活動やいろいろな催し物にともに参加し、行動できるような社会にすべきである。」という考え方を一般に『ノーマライゼーション』と呼びます。久留米市は、この『ノーマライゼーション』の考え方を活かしたまちづくりをしていると思いますか。（○は１つだけ）

【図表 3-1-95　ノーマライゼーションのまちづくり】（ｎ＝1,890）



久留米市がノーマライゼーションを活かしたまちづくりをしているかという問に対しては、「わからない」（42.7%）との回答が最も多い。ノーマライゼーションを活かしたまちづくりをしていると思っている人は 27.6%（「そう思う」:13.5%、「どちらかといえばそう思う」:14.1%）、思わない人は 17.7%（「どちらかといえばそう思わない」: 9.0%、「そう思わない」: 8.7%）となっている。

年齢別にみると、すべての年齢層で「わからない」が最も多いが、概ね年齢が若いほど、ノーマライゼーションを活かしたまちづくりをしているとは思わない人の割合が高く、20 歳代以下ではそれぞれ 4 割前後を占めている（17 歳以下：42.8%、18～29 歳：37.5%）。

障害の部位別にみると、肢体不自由では、他の障害に比べて、久留米市がノーマライゼーションを活かしたまちづくりをしているとは思わない人の割合が高い（22.1%）。

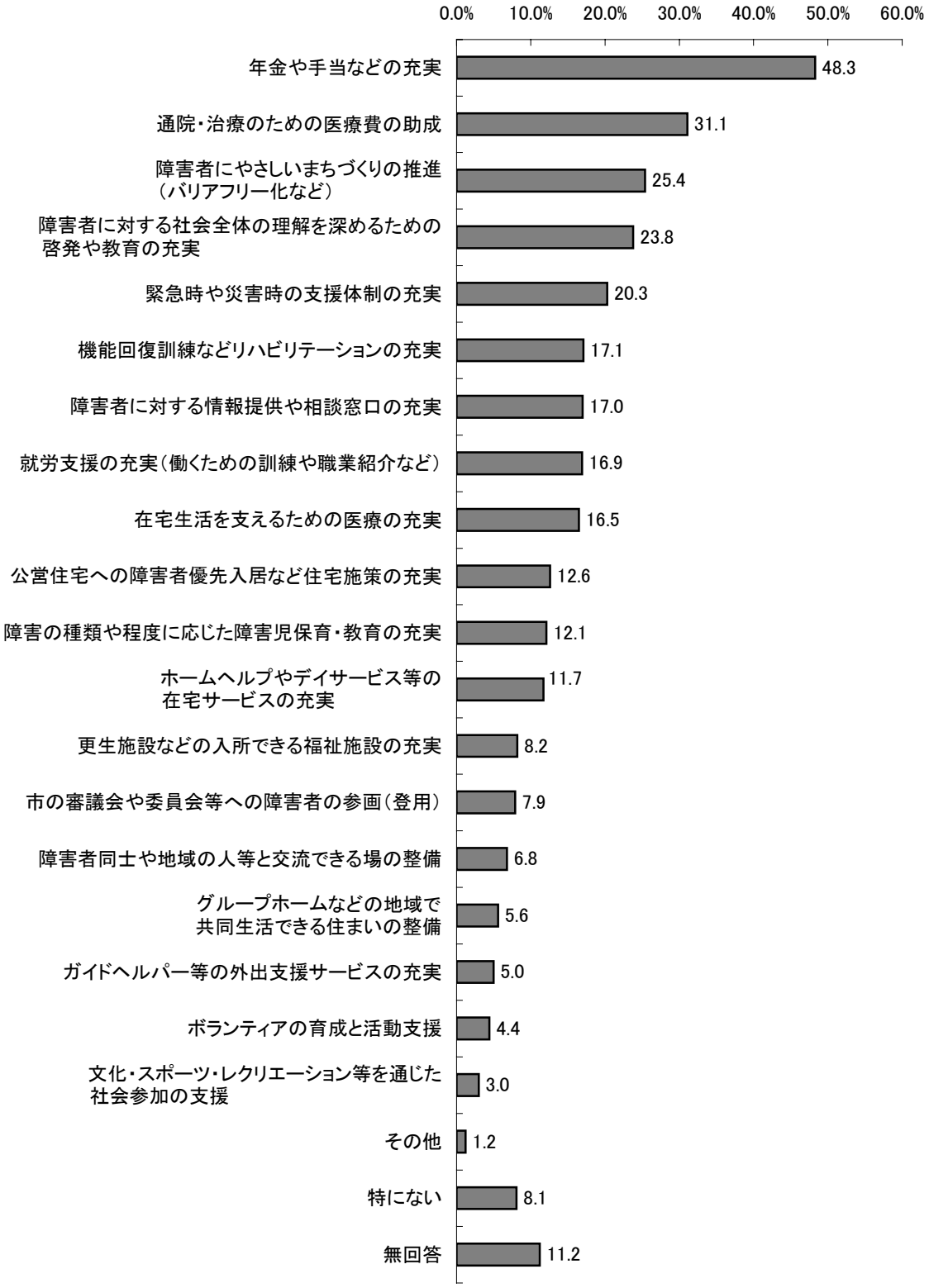
【図表 3-1-96　年齢別・障害の部位別　ノーマライゼーションのまちづくり】（%）

		調査数（人）［n］	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	わからない	無回答
全　体		1,890	13.5	14.1	9.0	8.7	42.7	12.0
年齢別	１７歳以下	63	3.2	22.2	19.0	23.8	28.6	3.2
	１８～２９歳	40	12.5	12.5	22.5	15.0	37.5	－
	３０～３９歳	64	17.2	9.4	12.5	12.5	46.9	1.6
	４０～４９歳	73	8.2	21.9	9.6	16.4	38.4	5.5
	５０～５９歳	242	9.1	16.1	11.2	11.6	45.5	6.6
	６０～６４歳	185	12.4	15.1	8.6	9.2	45.9	8.6
	６５歳以上	1,174	15.5	13.2	7.7	6.3	42.8	14.5
	無回答	49	10.2	6.1	4.1	8.2	36.7	34.7
障害の部位別	視覚	144	16.7	15.3	6.3	9.0	41.0	11.8
	聴覚・平衡機能	218	12.4	15.1	7.8	6.9	45.9	11.9
	音声・言語・そしゃく機能	38	18.4	13.2	－	－	50.0	18.4
	肢体不自由	848	12.1	14.6	11.8	10.3	42.3	8.8
	内部障害	468	15.4	14.5	7.3	8.3	41.7	12.8
	その他	95	15.8	11.6	5.3	5.3	50.5	11.6
	無回答	79	10.1	3.8	7.6	6.3	34.2	38.0

（２）障害者福祉施策として重点的に進めるべきこと

問３７　今後、障害がある人の自立と福祉の向上のための支援として、久留米市はどのようなことを重点的に進めるべきだと考えますか。（○は５つまで）

【図表 3-1-97　障害者福祉施策として重点的に進めるべきこと】（ｎ＝1,890）



障害者福祉施策として久留米市が重点的に進めるべきことは、「年金や手当などの充実」（48.3%）が最も多く、次いで「通院・治療のための医療費の助成」（31.1%）、「障害者にやさしいまちづくりの推進(バリアフリー化など)」（25.4%）、「障害者に対する社会全体の理解を深めるための啓発や教育の充実」（23.8%）となっている。

年齢別にみると、「就労支援の充実（働くための訓練や職業紹介など)」は 40 歳代以下の年齢層で割合が高く、それぞれ 3 割を超えている。また、「公営住宅への障害者優先入居など住宅施策の充実」や「障害者に対する情報提供や相談窓口の充実」、「緊急時や災害時の支援体制の充実」は 30～50 歳代で他の年齢層に比べて割合が高い。

障害の部位別にみると、肢体不自由では、他の障害に比べて「就労支援の充実（働くための訓練や職業紹介など)」（19.3%）や「機能回復訓練などリハビリテーションの充実」（24,5%）、「障害者にやさしいまちづくりの推進（バリアフリー化など)」（28.8%）などの割合が高い。

現在の住まい別にみると、福祉施設入所者は、在宅生活者に比べて「グループホームなどの地域で共同生活できる住まいの整備」（11.6%）や「更生施設などの入所できる福祉施設の充実」（23.2%）などの施設やその他の居住系サービスに関する項目の割合が高い。

ノーマライゼーションを活かしたまちづくりに対する評価別にみると、久留米市がノーマライゼーションを活かしたまちづくりをしているとは思わない人は、そう思う人に比べて「年金や手当などの充実」（59.7%）や「障害者にやさしいまちづくりの推進（バリアフリー化など)」（37.9%）、「障害者に対する情報提供や相談窓口の充実」（24.5%）などの割合が高い。

【図表 3-1-98　年齢別・障害の部位別・現在の住まい別・ノーマライゼーションに対する評価別　障害者福祉施策として重点的に進めるべきこと】（%）

		調査数［n］（人）	年金や手当などの充実	通院・治療のための医療費の助成	障害者にやさしいまちづくりの推進（バリアフリー化など）	障害者に対する社会全体の理解を深めるための啓発や教育の充実	緊急時や災害時の支援体制の充実	機能回復訓練などリハビリテーションの充実	障害者に対する情報提供や相談窓口の充実
全　体		1,890	48.3	31.1	25.4	23.8	20.3	17.1	17.0
年齢別	１７歳以下	63	44.4	25.4	38.1	27.0	20.6	31.7	23.8
	１８～２９歳	40	57.5	30.0	50.0	40.0	20.0	30.0	17.5
	３０～３９歳	64	57.8	34.4	31.3	25.0	28.1	4.7	34.4
	４０～４９歳	73	53.4	30.1	42.5	37.0	28.8	12.3	32.9
	５０～５９歳	242	59.5	35.5	29.3	26.0	26.9	16.5	25.2
	６０～６４歳	185	58.9	36.2	29.7	23.2	20.0	17.8	20.5
	６５歳以上	1,174	43.7	29.9	21.6	22.0	18.2	16.8	12.9
	無回答	49	38.8	24.5	12.2	18.4	16.3	20.4	8.2
障害の部位別	視覚	144	42.4	27.1	27.1	26.4	20.8	6.9	13.2
	聴覚・平衡機能	218	42.7	26.1	24.3	24.8	21.1	9.2	19.3
	音声・言語・そしゃく機能	38	55.3	36.8	5.3	26.3	7.9	15.8	7.9
	肢体不自由	848	48.9	30.9	28.8	22.9	22.1	24.5	17.7
	内部障害	468	52.6	35.9	23.1	25.2	19.7	12.2	19.0
	その他	95	48.4	32.6	23.2	25.3	16.8	16.8	14.7
	無回答	79	38.0	21.5	16.5	13.9	12.7	8.9	6.3
現在の住まい別	福祉施設	155	47.7	30.3	30.3	29.0	18.7	27.7	12.3
	福祉施設以外（持ち家等）	1,681	48.9	31.6	25.5	23.5	20.8	16.4	17.5
	無回答	54	29.6	16.7	9.3	16.7	11.1	9.3	14.8
ノーマライゼーションに対する評価別	思う	522	53.8	37.0	28.2	36.0	23.2	23.0	19.0
	思わない	335	59.7	33.7	37.9	26.3	26.6	23.6	24.5
	わからない	807	46.7	31.7	23.5	18.8	19.6	14.5	16.5
	無回答	226	23.9	11.5	7.5	9.3	7.1	3.5	3.5

		調査数［ｎ］（人）	就労支援の充実（働くための訓練や職業紹介など）	在宅生活を支えるための医療の充実	公営住宅への障害者優先入居など住宅施策の充実	障害の種類や程度に応じた障害児保育・教育の充実	ホームヘルプやデイサービス等の在宅サービスの充実	更生施設などの入所できる福祉施設の充実	市の審議会や委員会等への障害者の参画（登用）
全　体		1,890	16.9	16.5	12.6	12.1	11.7	8.2	7.9
年齢別	１７歳以下	63	34.9	7.9	7.9	55.6	22.2	14.3	12.7
	１８～２９歳	40	37.5	17.5	12.5	30.0	2.5	15.0	5.0
	３０～３９歳	64	40.6	10.9	25.0	10.9	9.4	12.5	6.3
	４０～４９歳	73	34.2	11.0	20.5	13.7	6.8	6.8	15.1
	５０～５９歳	242	29.8	14.5	23.1	12.4	6.6	7.4	10.7
	６０～６４歳	185	17.8	14.1	14.1	11.9	9.7	10.3	10.8
	６５歳以上	1,174	10.2	18.4	9.2	9.5	13.5	7.5	6.4
	無回答	49	12.2	16.3	14.3	4.1	6.1	4.1	8.2
障害の部位別	視覚	144	13.9	16.0	12.5	16.0	11.8	4.9	9.0
	聴覚・平衡機能	218	13.8	12.8	8.3	9.6	10.1	7.8	6.4
	音声・言語・そしゃく機能	38	2.6	15.8	5.3	5.3	13.2	7.9	2.6
	肢体不自由	848	19.3	17.9	13.0	11.6	14.0	9.6	8.3
	内部障害	468	18.2	17.1	14.3	13.2	10.0	7.5	7.7
	その他	95	8.4	15.8	11.6	17.9	6.3	8.4	10.5
	無回答	79	13.9	10.1	15.2	7.6	6.3	5.1	7.6
現在の住まい別	福祉施設	155	12.9	14.8	6.5	9.7	11.6	23.2	6.5
	福祉施設以外（持ち家等）	1,681	17.5	17.1	13.2	12.5	11.9	6.8	8.3
	無回答	54	7.4	3.7	11.1	7.4	5.6	9.3	1.9
ノーマライゼーションに対する評価別	思う	522	21.3	18.4	14.4	18.0	12.3	10.7	10.2
	思わない	335	28.1	19.1	17.3	16.7	16.7	10.7	14.9
	わからない	807	13.3	16.9	11.5	8.9	10.9	7.3	5.0
	無回答	226	3.1	7.1	5.3	3.1	5.8	1.8	3.1

		調査数［ｎ］（人）	障害者同士や地域の人等と交流できる場の整備	グループホームなどの地域で共同生活できる住まいの整備	ガイドヘルパー等の外出支援サービスの充実	ボランティアの育成と活動支援	文化・スポーツ・レクリエーション等を通じた社会参加の支援	その他	特にない	無回答
全　体		1,890	6.8	5.6	5.0	4.4	3.0	1.2	8.1	11.2
年齢別	１７歳以下	63	12.7	9.5	6.3	7.9	1.6	3.2	－	7.9
	１８～２９歳	40	15.0	2.5	10.0	12.5	5.0	－	5.0	－
	３０～３９歳	64	9.4	3.1	4.7	6.3	6.3	6.3	3.1	1.6
	４０～４９歳	73	2.7	2.7	6.8	6.8	4.1	－	5.5	4.1
	５０～５９歳	242	6.2	5.8	5.8	2.5	5.8	0.8	4.5	5.0
	６０～６４歳	185	5.4	8.6	4.9	5.4	3.8	2.2	4.9	5.9
	６５歳以上	1,174	6.7	5.3	4.5	3.9	2.0	0.9	10.4	14.1
	無回答	49	4.1	4.1	4.1	6.1	4.1	2.0	6.1	30.6
障害の部位別	視覚	144	7.6	5.6	9.7	4.9	2.1	1.4	10.4	11.8
	聴覚・平衡機能	218	8.3	7.8	3.2	6.4	7.8	1.8	11.5	12.8
	音声・言語・そしゃく機能	38	2.6	2.6	5.3	5.3	5.3	2.6	7.9	7.9
	肢体不自由	848	7.1	5.8	6.3	4.1	2.2	1.3	7.1	8.7
	内部障害	468	5.8	4.7	3.0	4.1	3.0	0.6	8.1	10.5
	その他	95	4.2	4.2	2.1	4.2	－	1.1	7.4	13.7
	無回答	79	8.9	5.1	2.5	3.8	2.5	1.3	6.3	35.4
現在の住まい別	福祉施設	155	5.2	11.6	6.5	8.4	2.6	0.6	9.7	8.4
	福祉施設以外（持ち家等）	1,681	7.1	5.1	5.0	4.2	3.1	1.3	7.9	10.6
	無回答	54	1.9	1.9	－	1.9	1.9	－	9.3	37.0
ノーマライゼーションに対する評価別	思う	522	8.0	5.2	5.4	4.0	5.2	0.8	5.2	4.2
	思わない	335	11.0	9.3	7.5	7.2	4.2	2.4	2.1	1.5
	わからない	807	5.2	5.3	4.7	4.5	1.6	1.1	12.8	7.9
	無回答	226	3.1	1.8	1.3	1.3	1.3	0.9	7.1	53.5

１０．障害児の保育・教育等について

以降は、障害のある 17 歳以下の児童（63 人）の生活状況や保育・教育に関する状況等について、その保護者に対して行った質問である。

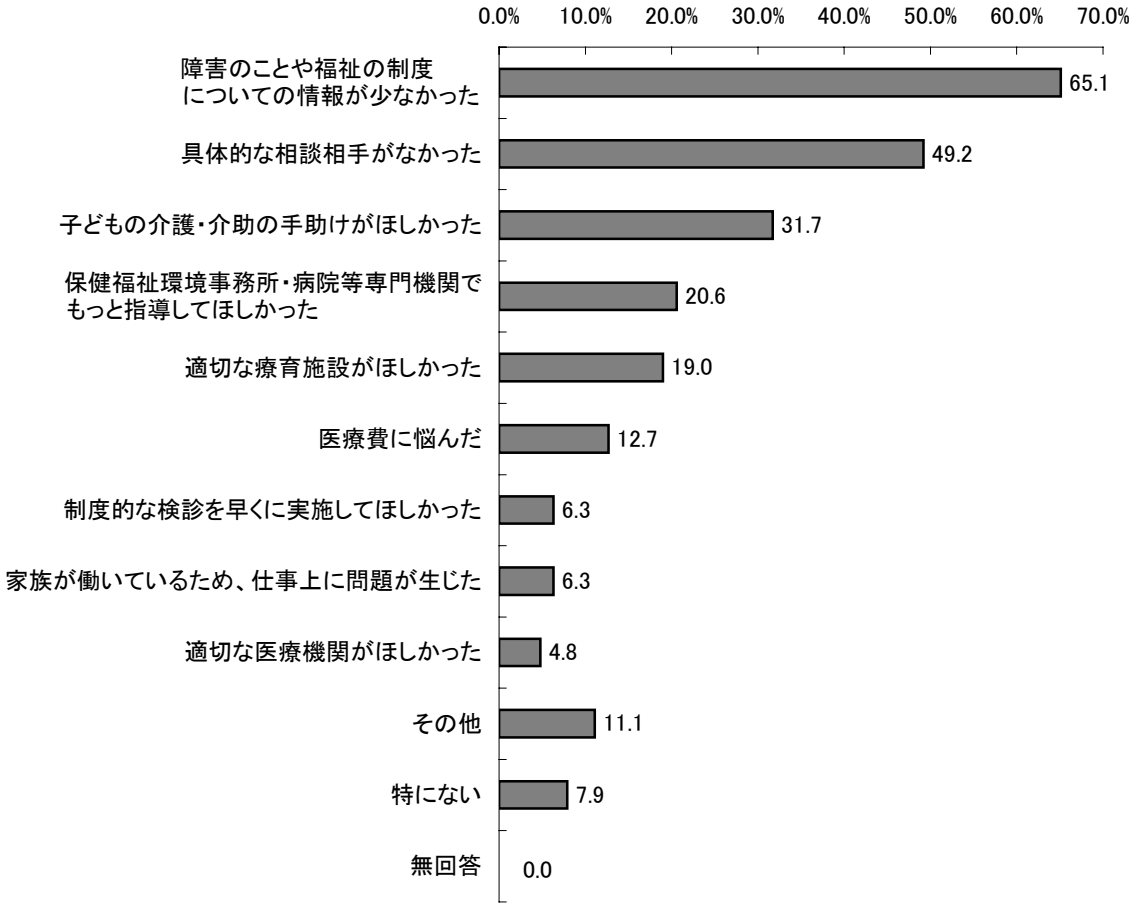
対象となる障害児は、1・2 級の重度障害（69.9%）、障害部位別でみると肢体不自由（71.4%）が大半を占めている。【「１.基本属性」の年齢別分析参照】

（１）障害の診断・判定

問３８　お子さんの障害について、どこで診断・判定を受けてはっきりしたことがわかりましたか。（○は１つだけ）

問３９　お子さんの障害の状況について、診断・判定を受けた頃、ご家族の皆さんには、どんな苦労、悩み、不安がありましたか。（○は３つまで）

【図表 3-1-99　障害の診断・判定を受けた当時の苦労や悩み】（ｎ＝63）



障害のある 17 歳以下の児童（63 人）が障害の判定・診断を受けた場所は、1 人だけが「肢体不自由児施設」で、その他の 62 人は「病院・医院」である。

障害の診断・判定を受けた当時の苦労や悩みは、「障害のことや福祉の制度についての情報が少なかった」（65.1%）が最も多く、次いで「具体的な相談相手がなかった」（49.2%）、「子どもの介護・介助の手助けがほしかった」（31.7%）となっている。

【図表 3-1-100　障害の発症時期別　障害の診断・判定を受けた当時の苦労や悩み】（%）

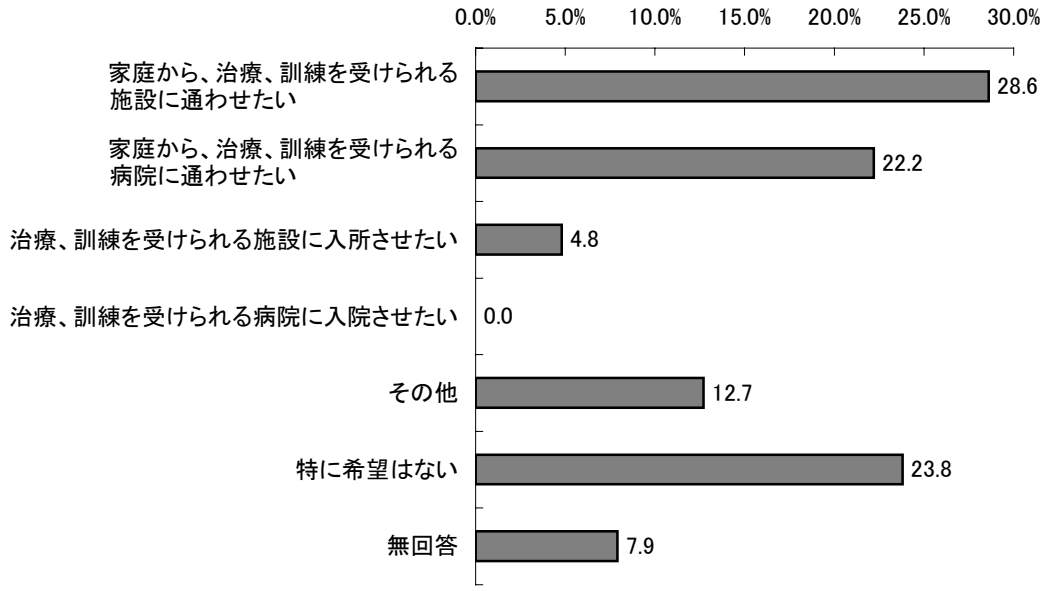
		調査数［ｎ］（人）	障害のことや福祉の制度についての情報が少なかった	具体的な相談相手がなかった	子どもの介護・介助の手助けがほしかった	保健福祉環境事務所・病院等専門機関でもっと指導してほしかった	適切な療育施設がほしかった	医療費に悩んだ
全　体		63	65.1	49.2	31.7	20.6	19.0	12.7
別障害の発症時期	２歳以下	58	67.2	50.0	31.0	20.7	20.7	13.8
	３～５歳	2	50.0	－	－	－	－	－
	６～８歳	2	50.0	100.0	100.0	50.0	－	－
	９～１１歳	1	－	－	－	－	－	－
	１２～１４歳	－	－	－	－	－	－	－
	１５～１７歳	－	－	－	－	－	－	－
	無回答	－	－	－	－	－	－	－

		調査数［ｎ］（人）	制度的な検診を早くに実施してほしかった	家族が働いているため、仕事上に問題が生じた	適切な医療機関がほしかった	その他	特にない	無回答
全　体		63	6.3	6.3	4.8	11.1	7.9	－
別障害の発症時期	２歳以下	58	6.9	6.9	5.2	10.3	6.9	－
	３～５歳	2	－	－	－	－	50.0	－
	６～８歳	2	－	－	－	－	－	－
	９～１１歳	1	－	－	－	100.0	－	－
	１２～１４歳	－	－	－	－	－	－	－
	１５～１７歳	－	－	－	－	－	－	－
	無回答	－	－	－	－	－	－	－

（２）今後の生活等についての希望

問４０　お子さんの今後の生活や療育、訓練について、どのような希望をお持ちですか。（○は１つだけ）

【図表 3-1-101　今後の生活等についての希望】（ｎ＝63）



今後の生活や療育、訓練については、「家庭から、治療、訓練を受けられる施設に通わせたい」（28.6%）が最も多く、次いで「家庭から、治療、訓練を受けられる病院に通わせたい」（22.2%）となっている。また、「特に希望はない」（23.8%）が２割を超えている。

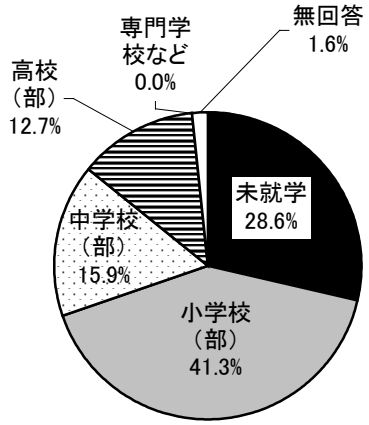
【図表 3-1-102　児童の年齢別　今後の生活等についての希望】（%）

		調査数［ｎ］（人）	家庭から、治療、訓練を受けられる施設に通わせたい	家庭から、治療、訓練を受けられる病院に通わせたい	治療、訓練を受けられる施設に入所させたい	治療、訓練を受けられる病院に入院させたい	その他	特に希望はない	無回答
全　体		63	28.6	22.2	4.8	－	12.7	23.8	7.9
別児童の年齢	５歳以下	15	53.3	26.7	－	－	6.7	6.7	6.7
	６～１１歳	25	32.0	28.0	－	－	12.0	24.0	4.0
	１２～１４歳	13	15.4	23.1	15.4	－	15.4	23.1	7.7
	１５～１７歳	10	－	－	10.0	－	20.0	50.0	20.0
	無回答	－	－	－	－	－	－	－	－

（３）日中の過ごし方（就学先）

問４１　お子さんは、現在、日中どのように過ごしていますか。また、就学されている学校は、次のうちどれにあたりますか。（○は１つだけ）

【図表 3-1-103　日中の過ごし方（就学先）】（ｎ＝63）



日中の過ごし方（就学先）は、「小学校（部）」（41.3%）が最も多く、次いで「未就学」（28.6%）となっている。

就学先別にみると、未就学では「保育園」や「通園施設」が多く、小学校（部）では「普通学級」が最も多い。中学校（部）では「養護学校」、高校（部）では「普通学校」が最も多い。なお、専門学校などへの進学者はいなかった。

【図表 3-1-104　未就学の内訳】

（上段：人、下段：%）

【未就学】	保育園	幼稚園	通園施設	その他	どこにも通わず、自宅にいる
18	6	2	6	1	3
100.0	33.3	11.1	33.3	5.6	16.7

【図表 3-1-105　小学校（部）の内訳】

（上段：人、下段：%）

【小学校（部）】	普通学級	障害児学級	養護学校	盲学校	ろう学校	訪問教育
26	13	7	4	－	1	1
100.0	50.0	26.9	15.4	－	3.8	3.8

【図表 3-1-106　中学校（部）の内訳】

（上段：人、下段：%）

【中学校（部）】	普通学級	障害児学級	養護学校	盲学校	ろう学校	訪問教育
10	3	2	5	－	－	－
100.0	30.0	20.0	50.0	－	－	－

【図表 3-1-107　高校（部）の内訳】

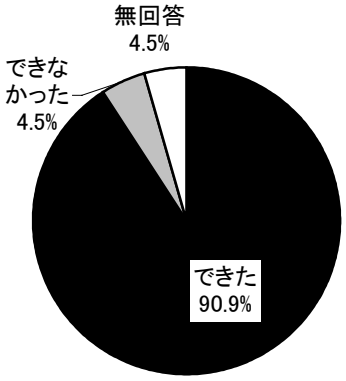
（上段：人、下段：%）

【高校（部）】	普通学校	養護学校	盲学校	ろう学校
8	4	2	－	2
100.0	50.0	25.0	－	25.0

（４）学校等への入学（園）について

問４２　通学中または卒業（卒園）された方におたずねします。
（１）　希望通りの学校や園に入学（入園）できましたか。（○は１つだけ）

【図表 3-1-108　学校等への入学（園）について】（ｎ＝44）



希望通りの学校や園に入学（入園）できた人が 90.9%と大半を占めており、できなかった人は 4.5%となっている。

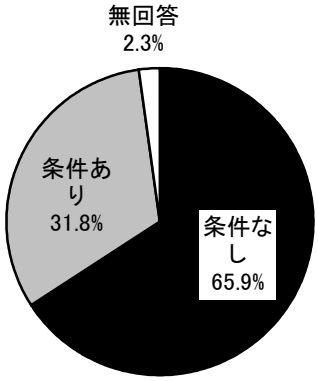
【図表 3-1-109　障害の程度別・障害の部位別・就学先別　学校等への入学（園）について】（%）

		調査数［ｎ］（人）	できた	できなかった	無回答
全　体		44	90.9	4.5	4.5
障害の程度別	１級	21	95.2	4.8	－
	２級	8	75.0	－	25.0
	３級	8	87.5	12.5	－
	４級	3	100.0	－	－
	５級	2	100.0	－	－
	６級	2	100.0	－	－
	無回答	－	－	－	－
障害の部位別	視覚	1	100.0	－	－
	聴覚・平衡機能	5	100.0	－	－
	音声・言語・そしゃく機能	－	－	－	－
	肢体不自由	32	90.6	3.1	6.3
	内部障害	4	100.0	－	－
	その他	1	100.0	－	－
	無回答	1	－	100.0	－
就学先別	未就学	－	－	－	－
	小学校（部）	26	96.2	－	3.8
	中学校（部）	10	100.0	－	－
	高校（部）	8	62.5	25.0	12.5
	専門学校など	－	－	－	－
	無回答	－	－	－	－

（５）入学時の条件の有無

問４２　通学中または卒業（卒園）された方におたずねします。
（２）　入学するにあたって何か条件をつけられましたか。（○は１つだけ）

【図表 3-1-110　入学時の条件の有無】（ｎ＝44）



学校や園に入学（入園）する際に条件があった人が 31.8%を占めており、条件の内容（自由記述）では、「保護者による送迎」や「付き添い、トイレ・昼食等の介護」などがあがっている。

学校や園に入学（入園）する際に条件があった人の割合を障害の部位別にみると、肢体不自由（40.6%）で４割を超えている。

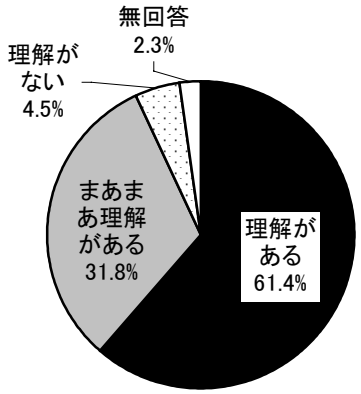
【図表 3-1-111　障害の程度別・障害の部位別・就学先別　入学時の条件の有無】（%）

		調査数［ｎ］（人）	条件なし	条件あり	無回答
全　体		44	65.9	31.8	2.3
障害の程度別	１級	21	66.7	33.3	－
	２級	8	37.5	50.0	12.5
	３級	8	87.5	12.5	－
	４級	3	100.0	－	－
	５級	2	－	100.0	－
	６級	2	100.0	－	－
	無回答	－	－	－	－
障害の部位別	視覚	1	100.0	－	－
	聴覚・平衡機能	5	80.0	20.0	－
	音声・言語・そしゃく機能	－	－	－	－
	肢体不自由	32	56.3	40.6	3.1
	内部障害	4	100.0	－	－
	その他	1	100.0	－	－
	無回答	1	100.0	－	－
就学先別	未就学	－	－	－	－
	小学校（部）	26	57.7	42.3	－
	中学校（部）	10	70.0	30.0	－
	高校（部）	8	87.5	－	12.5
	専門学校など	－	－	－	－
	無回答	－	－	－	－

（６）先生の理解

問４２　通学中または卒業（卒園）された方におたずねします。
（３）　先生の理解はありますか。（○は１つだけ）

【図表 3-1-112　先生の理解】（ｎ＝44）



学校等での先生の理解については、「理解がある」（61.4%）が６割を超えて最も多く、次いで「まあまあ理解がある」（31.8%）となっており、これらをあわせると、保護者の９割強（93.2%）は、先生の理解があると思っている。これに対して、「理解がない」は 4.5%となっている。

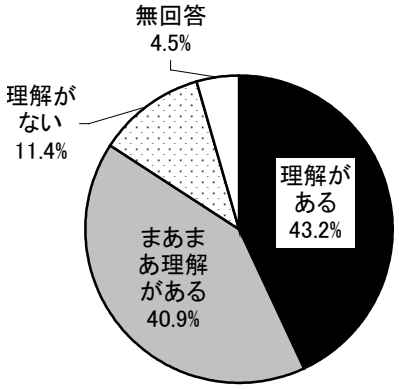
【図表 3-1-113　障害の程度別・障害の部位別・就学先別　先生の理解】（%）

		調査数［ｎ］（人）	理解がある	まあまあ理解がある	理解がない	無回答
全　体		44	61.4	31.8	4.5	2.3
障害の程度別	１級	21	52.4	38.1	9.5	－
	２級	8	62.5	25.0	－	12.5
	３級	8	62.5	37.5	－	－
	４級	3	100.0	－	－	－
	５級	2	50.0	50.0	－	－
	６級	2	100.0	－	－	－
	無回答	－	－	－	－	－
障害の部位別	視覚	1	100.0	－	－	－
	聴覚・平衡機能	5	80.0	20.0	－	－
	音声・言語・そしゃく機能	－	－	－	－	－
	肢体不自由	32	56.3	34.4	6.3	3.1
	内部障害	4	50.0	50.0	－	－
	その他	1	100.0	－	－	－
	無回答	1	100.0	－	－	－
就学先別	未就学	－	－	－	－	－
	小学校（部）	26	57.7	34.6	7.7	－
	中学校（部）	10	60.0	40.0	－	－
	高校（部）	8	75.0	12.5	－	12.5
	専門学校など	－	－	－	－	－
	無回答	－	－	－	－	－

（７）友達の理解

問４２　通学中または卒業（卒園）された方におたずねします。
（４）　友達の理解はありますか。（○は１つだけ）

【図表 3-1-114　友達の理解】（ｎ＝44）



学校等での友達の理解については、「理解がある」（43.2%）・「まあまあ理解がある」（40.9%）がそれぞれ約４割ずつを占めており、これらをあわせると、保護者の８割強（84.1%）は、友達の理解があると思っている。これに対して、「理解がない」は 11.4%となっており、前問の先生の場合と比べて高くなっている。

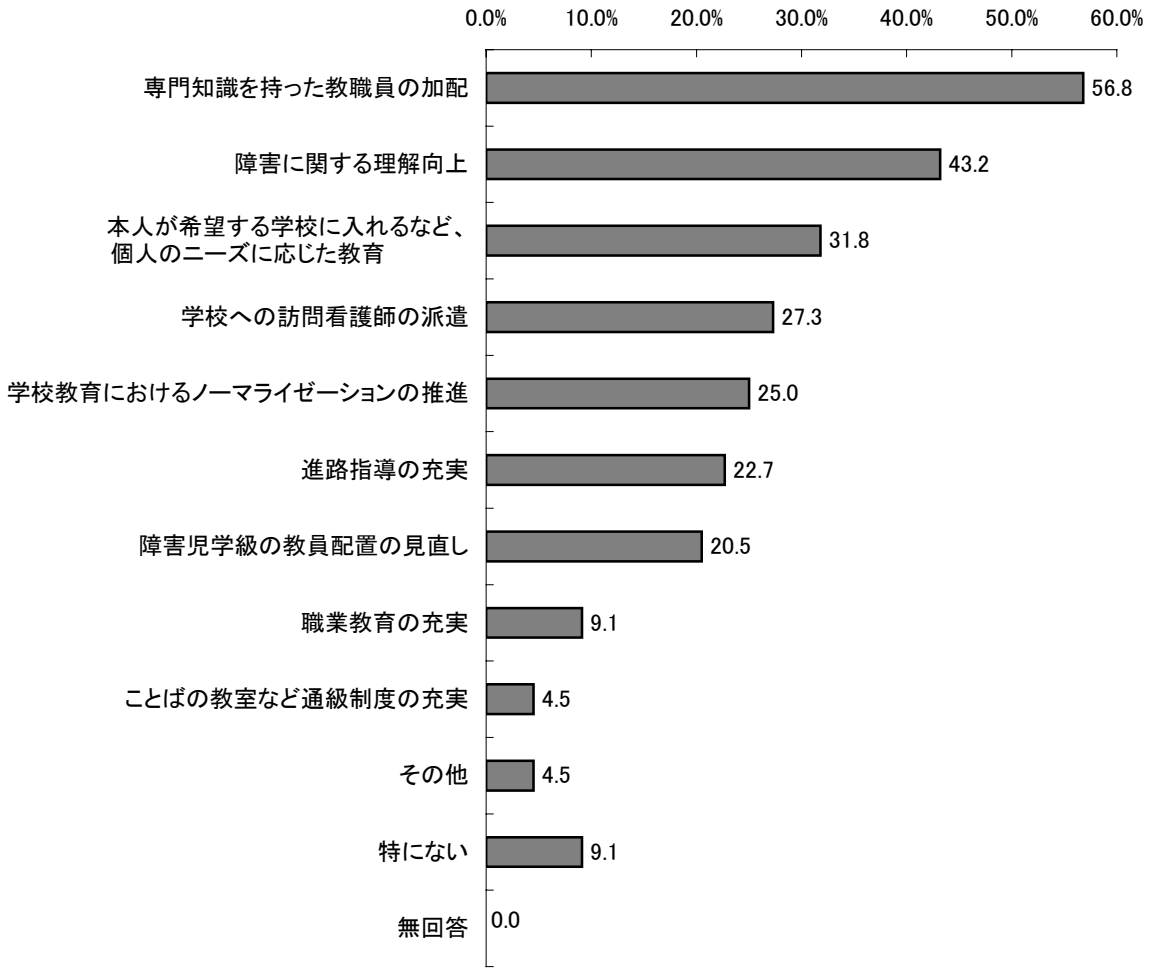
【図表 3-1-115　障害の程度別・障害の部位別・就学先別　友達の理解】（%）

		調査数［ｎ］（人）	理解がある	まあまあ理解がある	理解がない	無回答
全　体		44	43.2	40.9	11.4	4.5
障害の程度別	１級	21	42.9	42.9	9.5	4.8
	２級	8	50.0	25.0	12.5	12.5
	３級	8	25.0	50.0	25.0	－
	４級	3	66.7	33.3	－	－
	５級	2	50.0	50.0	－	－
	６級	2	50.0	50.0	－	－
	無回答	－	－	－	－	－
障害の部位別	視覚	1	100.0	－	－	－
	聴覚・平衡機能	5	60.0	40.0	－	－
	音声・言語・そしゃく機能	－	－	－	－	－
	肢体不自由	32	34.4	46.9	12.5	6.3
	内部障害	4	75.0	－	25.0	－
	その他	1	100.0	－	－	－
	無回答	1	－	100.0	－	－
就学先別	未就学	－	－	－	－	－
	小学校（部）	26	46.2	46.2	3.8	3.8
	中学校（部）	10	50.0	30.0	20.0	－
	高校（部）	8	25.0	37.5	25.0	12.5
	専門学校など	－	－	－	－	－
	無回答	－	－	－	－	－

（８）教育に関する要望

問４２　通学中または卒業（卒園）された方におたずねします。
（５）　次のような教育に関する要望がありますか。（○は３つまで）

【図表 3-1-116　教育に関する要望】（ｎ＝44）



教育に関する要望は、「専門知識を持った教職員の加配」（56.8%）が最も多く、次いで「障害に関する理解向上」（43.2%）、「本人が希望する学校に入れるなど、個人のニーズに応じた教育」（31.8%）となっている。

障害の程度別にみると、最重度の１級では他に比べて「学校への訪問看護師の派遣」（47.6%）の割合が高い。

障害の部位別にみると、肢体不自由では「専門知識を持った教職員の加配」（68.8%）の割合が高い。

【図表 3-1-117　障害の程度別・障害の部位別・就学先別　教育に関する要望】（%）

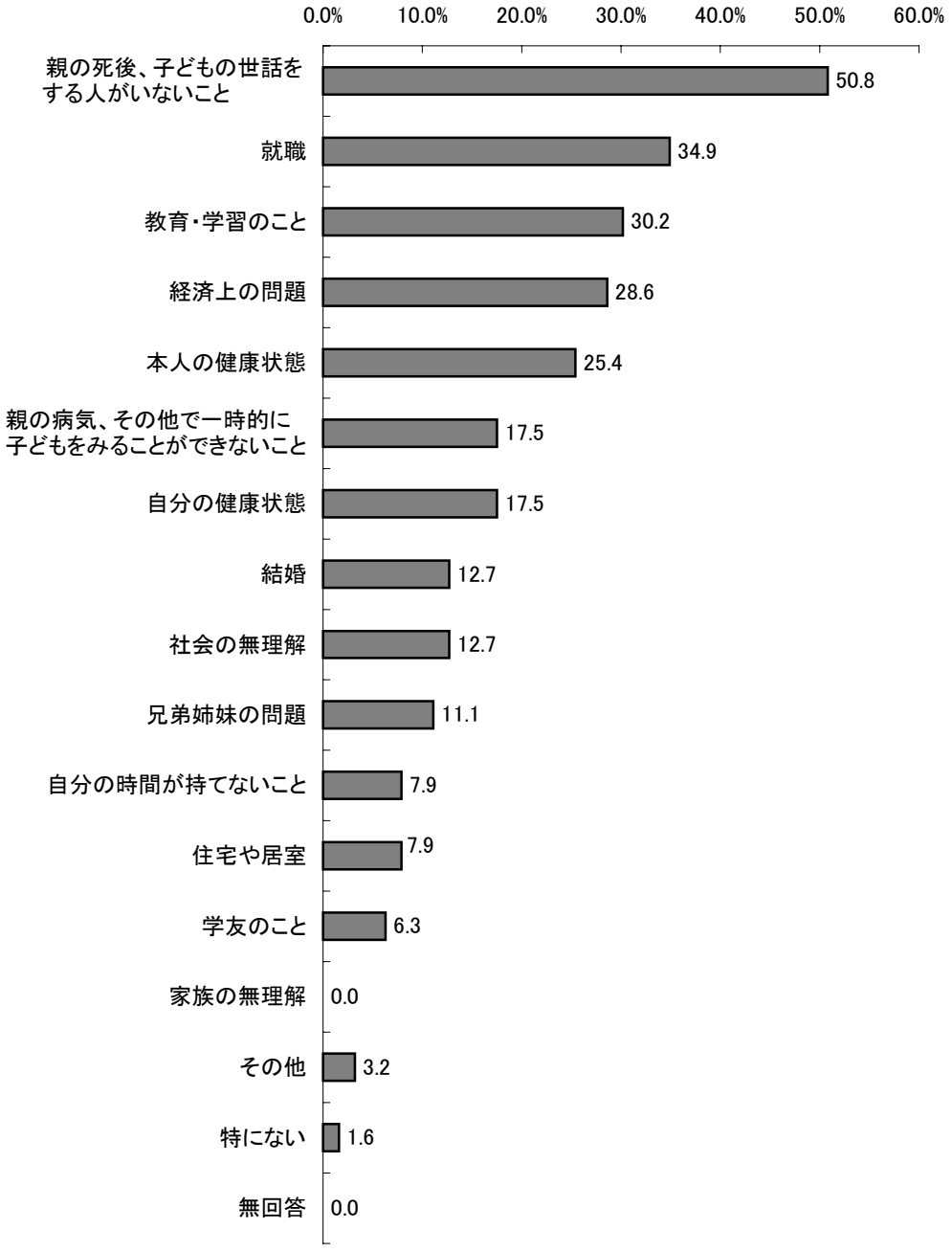
		調査数［n］（人）	専門知識を持った教職員の加配	障害に関する理解向上	本人が希望する学校に入れるなど、個人のニーズに応じた教育	学校への訪問看護師の派遣	学校教育におけるノーマライゼーションの推進	進路指導の充実
全　体		44	56.8	43.2	31.8	27.3	25.0	22.7
障害の程度別	１級	21	61.9	38.1	38.1	47.6	9.5	14.3
	２級	8	50.0	25.0	25.0	12.5	37.5	12.5
	３級	8	37.5	50.0	25.0	12.5	37.5	37.5
	４級	3	33.3	100.0	33.3	－	33.3	66.7
	５級	2	100.0	50.0	50.0	－	－	－
	６級	2	100.0	50.0	－	－	100.0	50.0
	無回答	－	－	－	－	－	－	－
障害の部位別	視覚	1	－	－	－	－	－	－
	聴覚・平衡機能	5	40.0	40.0	20.0	－	60.0	40.0
	音声・言語・そしゃく機能	－	－	－	－	－	－	－
	肢体不自由	32	68.8	43.8	34.4	34.4	21.9	21.9
	内部障害	4	25.0	50.0	25.0	－	25.0	25.0
	その他	1	－	100.0	－	100.0	－	－
	無回答	1	－	－	100.0	－	－	－
就学先別	未就学	－	－	－	－	－	－	－
	小学校（部）	26	53.8	46.2	34.6	34.6	30.8	15.4
	中学校（部）	10	80.0	40.0	30.0	30.0	10.0	50.0
	高校（部）	8	37.5	37.5	25.0	－	25.0	12.5
	専門学校など	－	－	－	－	－	－	－
	無回答	－	－	－	－	－	－	－

		調査数［n］（人）	障害児学級の教員配置の見直し	職業教育の充実	ことばの教室など通級制度の充実	その他	特にない	無回答
全　体		44	20.5	9.1	4.5	4.5	9.1	－
障害の程度別	１級	21	23.8	4.8	－	9.5	4.8	－
	２級	8	37.5	12.5	12.5	－	25.0	－
	３級	8	12.5	12.5	12.5	－	12.5	－
	４級	3	－	－	－	－	－	－
	５級	2	－	50.0	－	－	－	－
	６級	2	－	－	－	－	－	－
	無回答	－	－	－	－	－	－	－
障害の部位別	視覚	1	－	－	－	－	100.0	－
	聴覚・平衡機能	5	－	40.0	－	－	20.0	－
	音声・言語・そしゃく機能	－	－	－	－	－	－	－
	肢体不自由	32	25.0	6.3	6.3	3.1	3.1	－
	内部障害	4	25.0	－	－	25.0	25.0	－
	その他	1	－	－	－	－	－	－
	無回答	1	－	－	－	－	－	－
就学先別	未就学	－	－	－	－	－	－	－
	小学校（部）	26	23.1	7.7	3.8	7.7	7.7	－
	中学校（部）	10	20.0	20.0	－	－	－	－
	高校（部）	8	12.5	－	12.5	－	25.0	－
	専門学校など	－	－	－	－	－	－	－
	無回答	－	－	－	－	－	－	－

（９）子育てで困っていることや将来に対する不安・悩み

問４３　お子さんを育てていくうえで、困っていることや将来に対する不安、悩みなどはありますか。（○は３つまで）

【図表 3-1-118　子育てで困っていることや将来に対する不安・悩み】（ｎ＝63）



子育てで困っていることや将来に対する不安・悩みは、「親の死後、子どもの世話をする人がいないこと」（50.8%）が最も多く、次いで「就職」（34.9%）、「教育・学習のこと」（30.2%）、「経済上の問題」（28.6%）、「本人の健康状態」（25.4%）となっている。

【図表 3-1-119　児童の年齢別・障害の程度別・障害の部位別
子育てで困っていることや将来に対する不安・悩み】（%）

		調査数［n］（人）	親の死後、子どもの世話をする人がいないこと	就職	教育・学習のこと	経済上の問題	本人の健康状態	親の病気、その他で一時的に子どもをみることができないこと	自分の健康状態	結婚
全体		63	50.8	34.9	30.2	28.6	25.4	17.5	17.5	12.7
児童の年齢別	５歳以下	15	53.3	13.3	53.3	33.3	33.3	6.7	6.7	－
	６～１１歳	25	56.0	36.0	28.0	28.0	16.0	28.0	24.0	8.0
	１２～１４歳	13	61.5	30.8	23.1	30.8	15.4	23.1	30.8	7.7
	１５～１７歳	10	20.0	70.0	10.0	20.0	50.0	－	－	50.0
	無回答	－	－	－	－	－	－	－	－	－
障害の程度別	１級	34	61.8	17.6	32.4	32.4	26.5	17.6	26.5	2.9
	２級	10	60.0	30.0	30.0	40.0	10.0	30.0	10.0	10.0
	３級	8	12.5	87.5	12.5	－	50.0	12.5	－	37.5
	４級	4	25.0	75.0	50.0	25.0	25.0	－	25.0	25.0
	５級	2	50.0	－	－	100.0	－	50.0	－	50.0
	６級	3	66.7	66.7	66.7	－	－	－	－	33.3
	無回答	2	－	50.0	－	－	50.0	－	－	－
障害の部位別	視覚	1	－	100.0	100.0	－	－	－	－	－
	聴覚・平衡機能	8	25.0	37.5	62.5	12.5	12.5	12.5	－	25.0
	音声・言語・そしゃく機能	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	肢体不自由	45	62.2	28.9	22.2	28.9	24.4	20.0	24.4	8.9
	内部障害	7	14.3	57.1	42.9	42.9	57.1	14.3	－	14.3
	その他	1	100.0	－	－	－	－	－	－	－
	無回答	1	－	100.0	－	100.0	－	－	－	100.0

		調査数［n］（人）	社会の無理解	兄弟姉妹の問題	自分の時間が持てないこと	住宅や居室	学友のこと	家族の無理解	その他	特にない	無回答
全体		63	12.7	11.1	7.9	7.9	6.3	－	3.2	1.6	－
児童の年齢別	５歳以下	15	13.3	20.0	13.3	13.3	6.7	－	6.7	－	－
	６～１１歳	25	12.0	8.0	8.0	4.0	4.0	－	－	4.0	－
	１２～１４歳	13	15.4	15.4	－	7.7	15.4	－	－	－	－
	１５～１７歳	10	10.0	－	10.0	10.0	－	－	10.0	－	－
	無回答	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
障害の程度別	１級	34	8.8	14.7	8.8	11.8	2.9	－	2.9	－	－
	２級	10	10.0	20.0	20.0	－	10.0	－	－	－	－
	３級	8	12.5	－	－	－	12.5	－	12.5	－	－
	４級	4	－	－	－	25.0	－	－	－	－	－
	５級	2	50.0	－	－	－	－	－	－	－	－
	６級	3	33.3	－	－	－	33.3	－	－	－	－
	無回答	2	50.0	－	－	－	－	－	－	50.0	－
障害の部位別	視覚	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	聴覚・平衡機能	8	25.0	－	12.5	25.0	25.0	－	－	－	－
	音声・言語・そしゃく機能	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	肢体不自由	45	13.3	15.6	6.7	6.7	4.4	－	2.2	2.2	－
	内部障害	7	－	－	14.3	－	－	－	14.3	－	－
	その他	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	無回答	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－

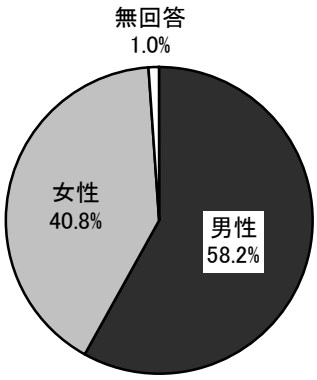
第２節　知的障害者（児）調査

１．基本属性

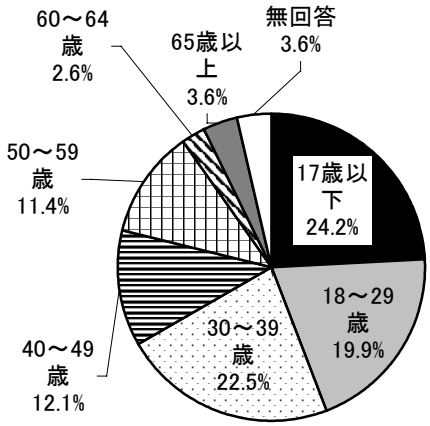
（１）性別・年齢

問１　あなたの性別、年齢についておたずねします。

【図表 3-2-1　性別】（ｎ＝306）



【図表 3-2-2　年齢】（ｎ＝306）



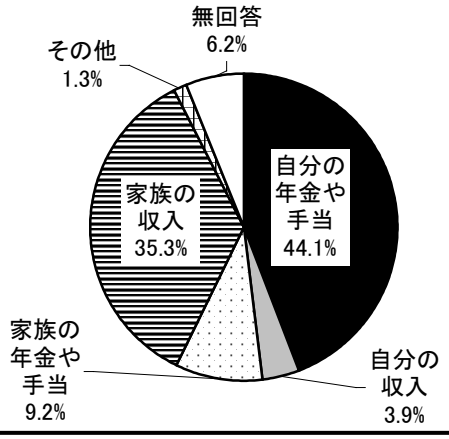
性別は、「女性」（40.8%）より「男性」（58.2%）が多い。

年齢は、「17 歳以下」（24.2%）が最も多く、次いで「30～39 歳」（22.5%）、「18～29 歳」（19.9%）となっており、これらの 30 歳代以下の層で全体の 7 割弱（66.6%）を占めている。

（２）生活費の状況

問２　あなたの生活費は、主に、次のどれによってまかなわれていますか。（○は１つだけ）

【図表 3-2-3　生活費の状況】（ｎ＝306）



生活費は、「自分の年金や手当」（44.1%）が最も多く、次いで「家族の収入」（35.3%）となっている。

年齢別にみると、20 歳代以下では「家族の収入」が最も多く、30 歳代以上では「自分の年金や手当」が最も多くなっている。「自分の収入」は 18～29 歳（11.5%）で 1 割を超えているが、その他の年齢層ではいずれも 1 割以下となっている。

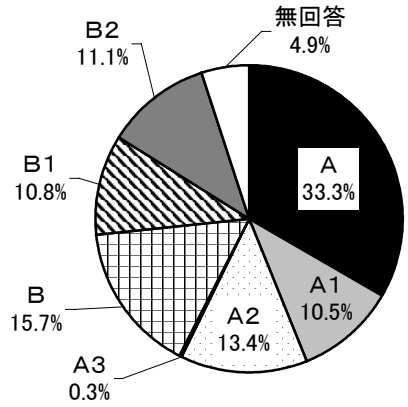
【図表 3-2-4　年齢別　生活費の状況】（%）

		調査数［n］（人）	自分の年金や手当	自分の収入	家族の年金や手当	家族の収入	その他	無回答
全　体		306	44.1	3.9	9.2	35.3	1.3	6.2
年齢別	１７歳以下	74	1.4	－	2.7	89.2	2.7	4.1
	１８～２９歳	61	34.4	11.5	4.9	39.3	1.6	8.2
	３０～３９歳	69	63.8	2.9	14.5	13.0	1.4	4.3
	４０～４９歳	37	62.2	8.1	16.2	8.1	－	5.4
	５０～５９歳	35	71.4	－	14.3	11.4	－	2.9
	６０～６４歳	8	75.0	－	12.5	－	－	12.5
	６５歳以上	11	81.8	－	－	9.1	－	9.1
	無回答	11	54.5	－	9.1	9.1	－	27.3

（３）障害の程度（療育手帳の判定）

問３　あなたの「療育手帳」の判定は、次のどれですか。（○は１つだけ）

【図表 3-2-5　障害の程度（療育手帳の判定）】（ｎ＝306）



障害の程度は、療育手帳Ａ（Ａ・Ａ1・Ａ2・Ａ3）が 57.5%、療育手帳Ｂ（Ｂ・Ｂ1・Ｂ2）が 37.6%となっている。

年齢別にみると、18～29 歳では療育手帳Ａ（46.0%）より療育手帳Ｂ（50.9%）がやや多いが、その他の年齢層ではいずれも療育手帳Ａの方が多く、50 歳代（71.5%）や 65 歳以上（72.7%）では７割を超えている。

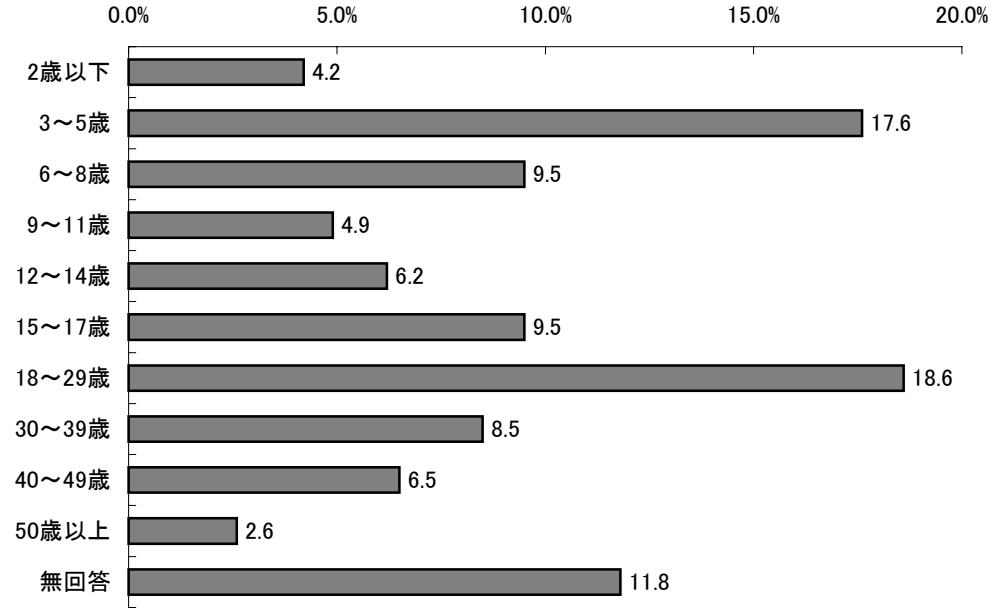
【図表 3-2-6　年齢別　障害の程度（療育手帳の判定）】（%）

		調査数［n］（人）	A	A1	A2	A3	B	B1	B2	無回答
全　体		306	33.3	10.5	13.4	0.3	15.7	10.8	11.1	4.9
年齢別	１７歳以下	74	6.8	20.3	29.7	－	－	21.6	20.3	1.4
	１８～２９歳	61	23.0	16.4	6.6	－	21.3	14.8	14.8	3.3
	３０～３９歳	69	47.8	4.3	10.1	－	20.3	5.8	10.1	1.4
	４０～４９歳	37	43.2	5.4	8.1	－	21.6	10.8	5.4	5.4
	５０～５９歳	35	54.3	－	14.3	2.9	20.0	－	2.9	5.7
	６０～６４歳	8	37.5	25.0	－	－	25.0	－	－	12.5
	６５歳以上	11	72.7	－	－	－	27.3	－	－	－
	無回答	11	36.4	－	－	－	9.1	－	－	54.5

（４）療育手帳の交付時期

問４　あなたが療育手帳の交付を受けたのは何歳のころですか。

【図表 3-2-7　療育手帳の交付時期】（ｎ＝306）



療育手帳の交付を受けた時期は、「18～29 歳」（18.6%）、「3～5 歳」（17.6%）がそれぞれ 1 割を超えて多く、次いで「6～8 歳」（9.5%）、「15～17 歳」（9.5%）となっている。また、17 歳以下が全体の半数強（51.9%）を占めている。

障害の程度別にみると、療育手帳Ａでは「3～5 歳」（22.2%）が最も多く、療育手帳Ｂでは「18～29 歳」（25.2%）が最も多い。

【図表 3-2-8　障害の程度別　療育手帳の交付時期】（%）

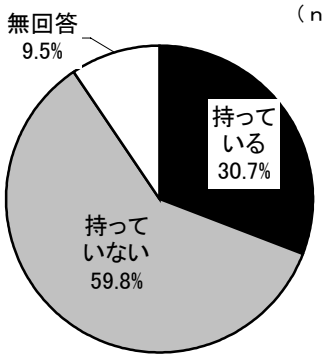
		調査数［ｎ］（人）	2歳以下	3～5歳	6～8歳	9～11歳	12～14歳	15～17歳
全　体		306	4.2	17.6	9.5	4.9	6.2	9.5
程度別の障害	療育手帳Ａ	176	5.7	22.2	11.9	5.7	5.1	5.1
	療育手帳Ｂ	115	2.6	11.3	6.1	4.3	8.7	16.5
	無回答	15	－	13.3	6.7	－	－	6.7

		調査数［ｎ］（人）	18～29歳	30～39歳	40～49歳	50歳以上	無回答
全　体		306	18.6	8.5	6.5	2.6	11.8
程度別の障害	療育手帳Ａ	176	15.9	6.8	7.4	2.8	11.4
	療育手帳Ｂ	115	25.2	12.2	6.1	2.6	4.3
	無回答	15	－	－	－	－	73.3

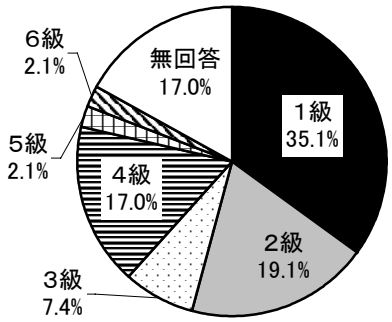
（５）身体障害者手帳の有無

問５　　あなたは「身体障害者手帳」を持っていますか。
問５－１　（身体障害者手帳を持っている方のみお答えください）「身体障害者手帳」による等級は次のどれですか。

【図表 3-2-9　身体障害者手帳の有無】（ｎ＝306）



【図表 3-2-10　身体障害の程度（身体障害者手帳の等級）】（ｎ＝94）



身体障害者手帳所持者（「持っている」と回答した者）は 30.7%である。

身体障害者手帳所持者の身体障害の程度（手帳の等級）は、重度障害者（1・2 級）が 54.2%、中度障害者（3・4 級）が 24.4%、軽度障害者（5・6 級）が 4.2%となっている。

年齢別にみると、身体障害者手帳所持者は概ね加齢とともに増加し、60 歳代以上では半数を超えている。

障害の程度別にみると、身体障害者手帳所持者の割合は、療育手帳Ｂ（18.3%）よりＡ（39.2%）で高く、4 割を占めている。

【図表 3-2-11　年齢別・障害の程度別　身体障害者手帳の有無】（%）

		調査数（人）［ｎ］	持っている	持っていない	無回答
全　体		306	30.7	59.8	9.5
年齢別	１７歳以下	74	25.7	68.9	5.4
	１８～２９歳	61	16.4	77.0	6.6
	３０～３９歳	69	36.2	58.0	5.8
	４０～４９歳	37	32.4	51.4	16.2
	５０～５９歳	35	37.1	51.4	11.4
	６０～６４歳	8	50.0	25.0	25.0
	６５歳以上	11	54.5	36.4	9.1
	無回答	11	45.5	18.2	36.4
度の障別程害	療育手帳Ａ	176	39.2	54.0	6.8
	療育手帳Ｂ	115	18.3	71.3	10.4
	無回答	15	26.7	40.0	33.3

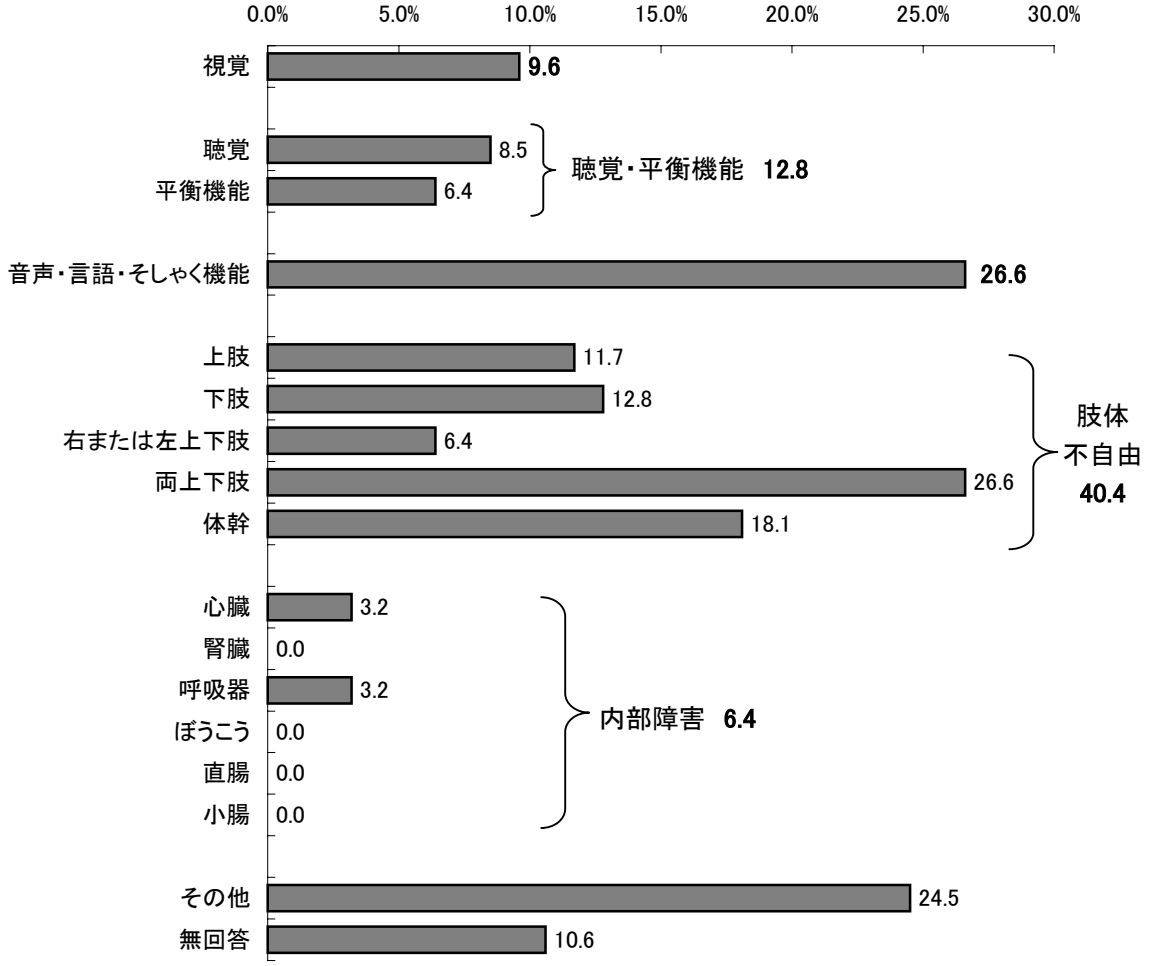
【図表 3-2-12　年齢別・障害の程度別　身体障害の程度（身体障害者手帳の等級）】（%）

		調査数（人）［ｎ］	1級	2級	3級	4級	5級	6級	無回答
全　体		94	35.1	19.1	7.4	17.0	2.1	2.1	17.0
年齢別	１７歳以下	19	73.7	10.5	－	5.3	－	－	10.5
	１８～２９歳	10	50.0	30.0	－	－	－	－	20.0
	３０～３９歳	25	20.0	32.0	－	20.0	－	－	28.0
	４０～４９歳	12	41.7	8.3	16.7	25.0	8.3	－	－
	５０～５９歳	13	15.4	7.7	15.4	38.5	7.7	－	15.4
	６０～６４歳	4	－	50.0	25.0	－	－	－	25.0
	６５歳以上	6	－	16.7	－	16.7	－	33.3	33.3
	無回答	5	40.0	－	40.0	20.0	－	－	－
度の障別程害	療育手帳Ａ	69	43.5	14.5	8.7	20.3	1.4	1.4	10.1
	療育手帳Ｂ	21	9.5	38.1	－	9.5	4.8	4.8	33.3
	無回答	4	25.0	－	25.0	－	－	－	50.0

（６）身体障害の部位

問５－２　（身体障害者手帳を持っている方のみお答えください）どのような障害（障害の部位）ですか。（○はあてはまるものすべて）

【図表 3-2-13　身体障害の部位】（ｎ＝94）



※この質問は複数回答であり、身体障害の大分類は、小分類のいずれか１つ以上を選択している人の割合である。このため、小分類の合計は大分類の値を超える。

身体障害者手帳所持者の身体障害の部位（大分類）は、『肢体不自由』（40.4%）が最も多く、次いで『音声・言語・そしゃく機能』（26.6%）となっている。

【図表 3-2-14　障害の程度別　身体障害の部位】（%）

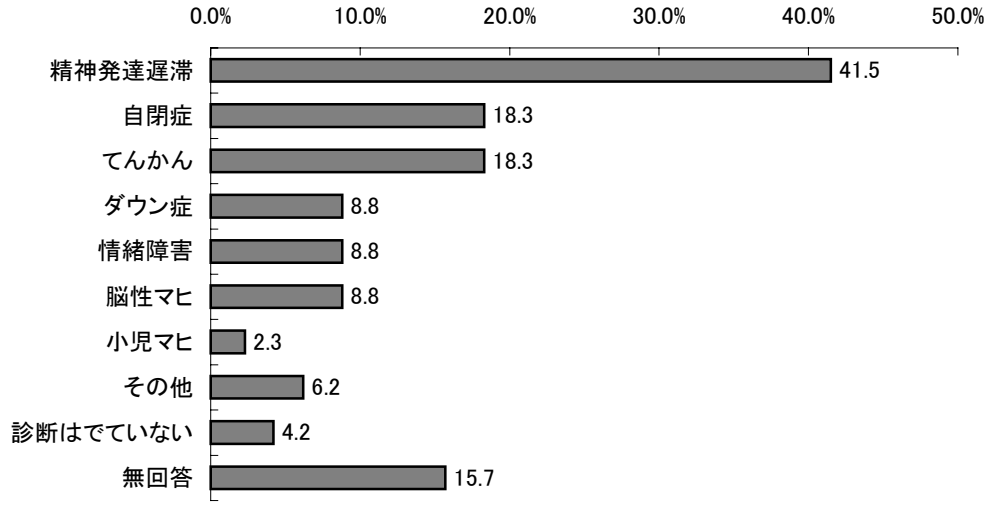
		調査数［n］（人）	視覚	聴覚・平衡機能	聴覚	平衡機能	音声・言語・そしゃく機能	肢体不自由	上肢	下肢	右または左上下肢	両上下肢	体幹
全　体		94	9.6	12.8	8.5	6.4	26.6	40.4	11.7	12.8	6.4	26.6	18.1
度の障別程害	療育手帳Ａ	69	10.1	15.9	10.1	8.7	30.4	50.7	14.5	14.5	7.2	34.8	24.6
	療育手帳Ｂ	21	4.8	4.8	4.8	－	14.3	9.5	－	9.5	－	－	－
	無回答	4	25.0	－	－	－	25.0	25.0	25.0	－	25.0	25.0	－

		調査数［n］（人）	内部障害	心臓	腎臓	呼吸器	ぼうこう	直腸	小腸	その他	無回答
全　体		94	6.4	3.2	－	3.2	－	－	－	24.5	10.6
度の障別程害	療育手帳Ａ	69	8.7	4.3	－	4.3	－	－	－	20.3	4.3
	療育手帳Ｂ	21	－	－	－	－	－	－	－	38.1	28.6
	無回答	4	－	－	－	－	－	－	－	25.0	25.0

（７）知的障害に関わる診断

問６　次の診断を受けたことがありますか。（○はあてはまるものすべて）

【図表 3-2-15　知的障害に関わる診断】（ｎ＝306）



受けたことがある診断は、「精神発達遅滞」（41.5%）が最も多く、次いで「自閉症」（18.3%）、「てんかん」（18.3%）となっている。

障害の程度別にみると、療育手帳Ａ・Ｂいずれにおいても「精神発達遅滞」「自閉症」「てんかん」が上位を占めているが、療育手帳ＡはＢに比べて「脳性マヒ」（14.2%）や「精神発達遅滞」（46.6%）、「ダウン症」（11.9%）などの割合が高い。

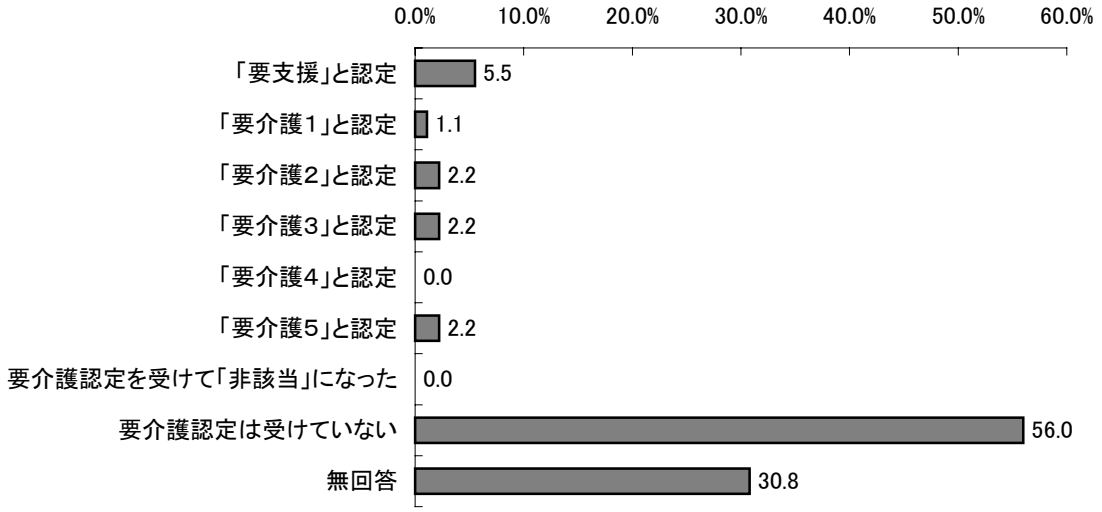
【図表 3-2-16　障害の程度別　知的障害に関わる診断】（%）

		調査数［ｎ］（人）	精神発達遅滞	自閉症	てんかん	ダウン症	情緒障害	脳性マヒ	小児マヒ	その他	診断はでていない	無回答
全　体		306	41.5	18.3	18.3	8.8	8.8	8.8	2.3	6.2	4.2	15.7
程度別の障害	療育手帳Ａ	176	46.6	21.0	21.0	11.9	9.1	14.2	2.8	4.5	1.1	11.9
	療育手帳Ｂ	115	37.4	15.7	15.7	4.3	9.6	0.9	－	8.7	7.8	18.3
	無回答	15	13.3	6.7	6.7	6.7	－	6.7	13.3	6.7	13.3	40.0

（８）要介護認定の有無

【40 歳以上の方のみお答えください】
問７　介護保険の要介護認定を受けていますか。（○は１つだけ）

【図表 3-2-17　要介護認定の有無】（ｎ＝91）



40 歳以上の人に対して、介護保険の要介護認定の認定状況をたずねたところ、要支援から要介護 5 までの認定を受けている人が 13.2%となっている。

【図表 3-2-18　年齢別　要介護認定の有無】（%）

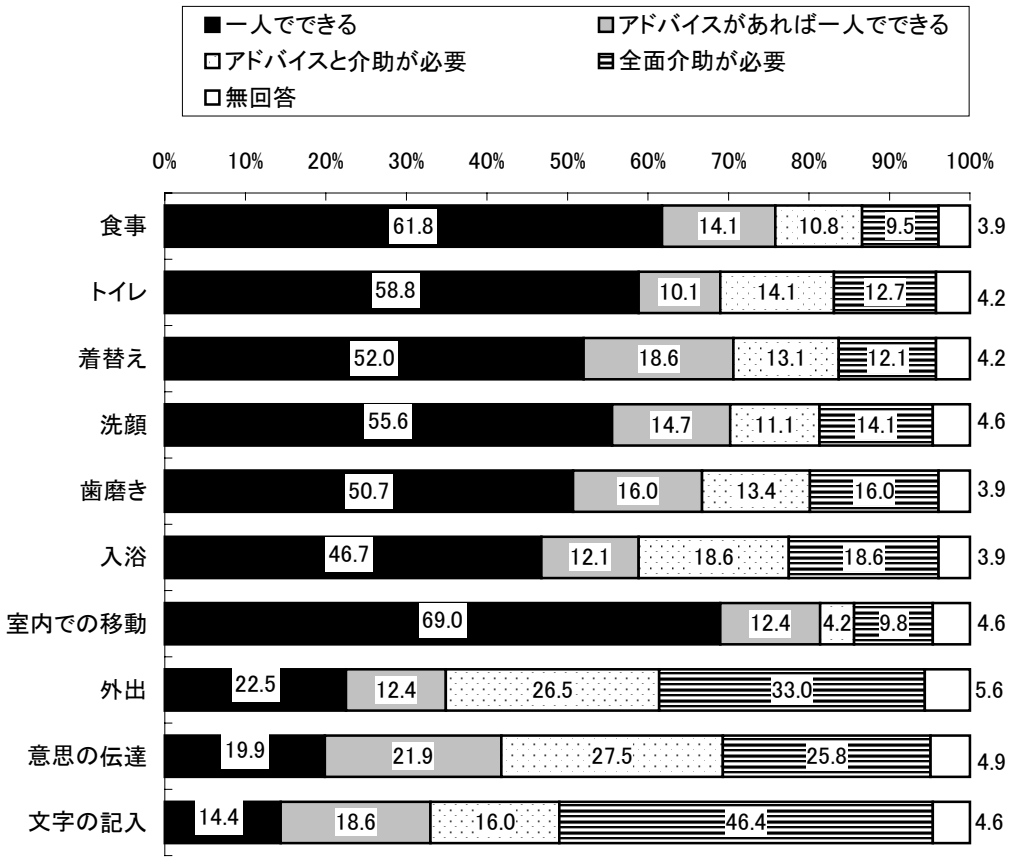
		調査数［ｎ］（人）	「要支援」と認定	「要介護1」と認定	「要介護2」と認定	「要介護3」と認定	「要介護4」と認定	「要介護5」と認定	要介護認定を受けて「非該当」になった	要介護認定は受けていない	無回答
全　体		91	5.5	1.1	2.2	2.2	－	2.2	－	56.0	30.8
年齢別	４０～４９歳	37	10.8	－	－	－	－	－	－	48.6	40.5
	５０～５９歳	35	－	－	－	－	－	－	－	71.4	28.6
	６０～６４歳	8	－	－	－	12.5	－	12.5	－	50.0	25.0
	６５歳以上	11	9.1	9.1	18.2	9.1	－	9.1	－	36.4	9.1
	無回答	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－

２．生活状況

（１）日常生活動作

問８　あなたは、次のような動作が一人でできますか。それぞれの項目について、あてはまるものに１つずつ○をつけてください。※補装具を使用した状態でお答えください。

【図表 3-2-19　日常生活動作】（ｎ＝306）



10 項目の日常生活動作について自立度をたずねたところ、「一人でできる」との回答は、『室内での移動』（69.0%）をはじめ、『食事』（61.8%）や『トイレ』（58.8%）、『洗顔』（55.6%）、『着替え』（52.0%）、『歯磨き』（50.7%）で過半数を占めており、これらの動作の自立度は高いといえる。

一方、「アドバイスと介助が必要」「全面介助が必要」をあわせた要介助の割合は『文字の記入』（62.4%）や『外出』（59.5%）、『意思の伝達』（53.3%）で過半数を占めており、これらの動作については介助を必要とする人が比較的多いことがわかる。

障害の程度別に要介助の割合（「アドバイスと介助が必要」＋「全面介助が必要」）をみると、療育手帳Ａは療育手帳Ｂに比べてすべての項目において要介助の割合が高く、特に『文字の記入』（81.8%）や『外出』（79.0%）で８割前後と高い。

【図表 3-2-20　障害の程度別　日常生活動作に介助を要する人
（「アドバイスと介助」「全面介助」の合計値）】（%）

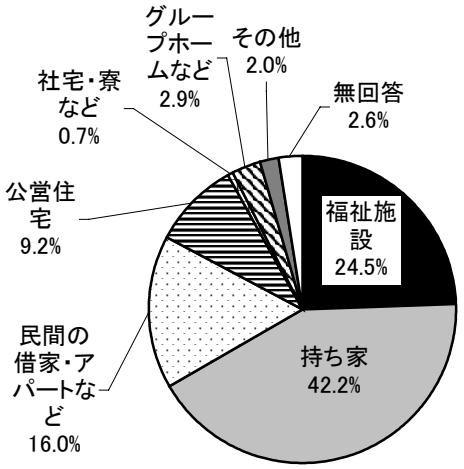
		調査数［n］（人）	食事	トイレ	着替え	洗顔	歯磨き
全　体		306	20.3	26.8	25.2	25.2	29.4
程度別の障害	療育手帳Ａ	176	30.1	40.3	36.9	37.5	44.3
	療育手帳Ｂ	115	6.1	7.8	8.7	7.8	8.7
	無回答	15	13.3	13.3	13.3	13.3	13.3

		調査数［n］（人）	入浴	室内での移動	外出	意思の伝達	文字の記入	無回答
全　体		306	37.3	14.1	59.5	53.3	62.4	30.7
程度別の障害	療育手帳Ａ	176	54.0	21.0	79.0	71.0	81.8	14.2
	療育手帳Ｂ	115	13.0	3.5	31.3	29.6	33.0	55.7
	無回答	15	26.7	13.3	46.7	26.7	60.0	33.3

（２）現在の住まい

問９　あなたの現在のお住まいは次のどれですか。（○は１つだけ）

【図表 3-2-21　現在の住まい】（ｎ＝306）



現在の住まいは、「持ち家」（42.2%）が最も多く、次いで「福祉施設」（24.5%）、「民間の借家・アパートなど」（16.0%）となっている。

障害の程度別にみると、療育手帳Ａ・Ｂいずれにおいても「持ち家」が最も多いが、療育手帳ＡはＢに比べて「福祉施設」（28.4%）の割合が高い。

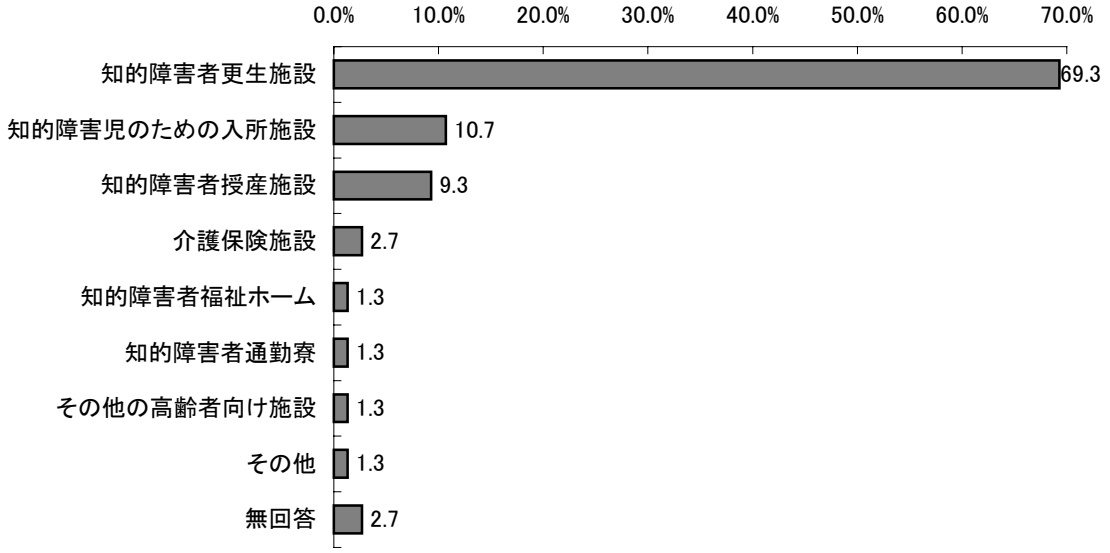
【図表 3-2-22　障害の程度別　現在の住まい】（%）

		調査数［ｎ］（人）	福祉施設	持ち家	民間の借家・アパートなど	公営住宅	社宅・寮など	グループホームなど	その他	無回答
全　体		306	24.5	42.2	16.0	9.2	0.7	2.9	2.0	2.6
程度別の障害	療育手帳Ａ	176	28.4	41.5	11.9	8.5	1.1	2.8	2.8	2.8
	療育手帳Ｂ	115	15.7	45.2	23.5	10.4	－	3.5	0.9	0.9
	無回答	15	46.7	26.7	6.7	6.7	－	－	－	13.3

（３）福祉施設入所者の入所先

問１０から問１３は、福祉施設に入所している方のみお答えください。
問１０　現在入所している施設の種類は次のどれですか。（○は１つだけ）

【図表 3-2-23　福祉施設入所者の入所先】（ｎ＝75）



福祉施設入所者の入所先は、「知的障害者更生施設」（69.3%）が７割を占めて最も多く、次いで「知的障害児のための入所施設」（10.7%）となっている。

障害の程度別にみると、療育手帳Ａ・Ｂいずれにおいても「知的障害者更生施設」が最も多いが、療育手帳ＢはＡに比べて「知的障害者授産施設」（22.2%）や「知的障害者通勤寮」（5.6%）などの割合が高い。

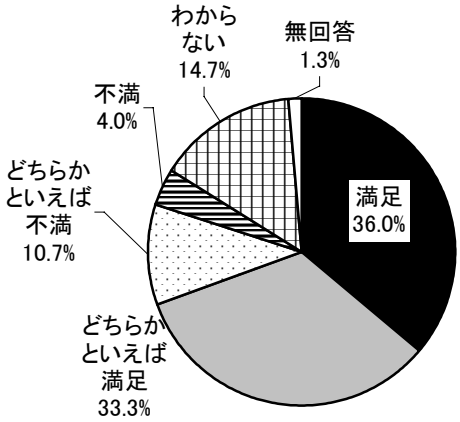
【図表 3-2-24　障害の程度別　福祉施設入所者の入所先】（%）

		調査数［ｎ］（人）	知的障害者更生施設	知的障害児のための入所施設	知的障害者授産施設	介護保険施設	知的障害者福祉ホーム	知的障害者通勤寮	その他の高齢者向け施設	その他	無回答
全　体		75	69.3	10.7	9.3	2.7	1.3	1.3	1.3	1.3	2.7
程度別の	療育手帳Ａ	50	76.0	14.0	2.0	2.0	2.0	－	－	－	4.0
	療育手帳Ｂ	18	66.7	－	22.2	－	－	5.6	5.6	－	－
	無回答	7	28.6	14.3	28.6	14.3	－	－	－	14.3	－

（４）福祉施設入所者の満足度

問１１　現在入所している施設での生活に満足していますか。（○は１つだけ）

【図表 3-2-25　福祉施設入所者の満足度】（ｎ＝75）



福祉施設入所者の入所施設に対する満足度は、「満足」（36.0%）が最も多く、次いで「どちらかといえば満足」（33.3%）となっており、これらをあわせると『満足層』が 69.3%となっている。

一方、「どちらかといえば不満」（10.7%）・「不満」（4.0%）をあわせた『不満層』は 14.7%となっている。

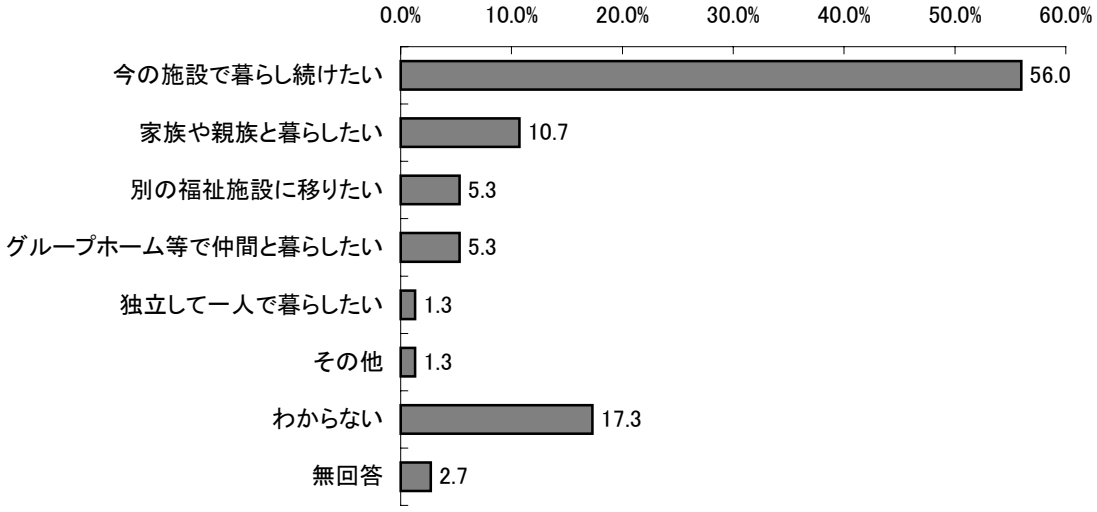
【図表 3-2-26　入所施設別　福祉施設入所者の満足度】（%）

		調査数［ｎ］（人）	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	わからない	無回答
全　体		75	36.0	33.3	10.7	4.0	14.7	1.3
入所施設別	知的障害者更生施設	52	32.7	32.7	9.6	3.8	19.2	1.9
	知的障害者授産施設	7	28.6	14.3	42.9	－	14.3	－
	知的障害者福祉ホーム	1	100.0	－	－	－	－	－
	知的障害者通勤寮	1	－	100.0	－	－	－	－
	知的障害児のための入所施設	8	37.5	50.0	－	12.5	－	－
	介護保険施設	2	50.0	50.0	－	－	－	－
	その他の高齢者向け施設	1	100.0	－	－	－	－	－
	その他	1	100.0	－	－	－	－	－
	無回答	2	50.0	50.0	－	－	－	－

（５）福祉施設入所者が希望する将来の暮らし方

問１２　あなたは、将来、どのように暮らしたいですか。（○は１つだけ）

【図表 3-2-27　福祉施設入所者が希望する将来の暮らし方】（ｎ＝75）



福祉施設入所者が希望する将来の暮らし方は、「今の施設で暮らし続けたい」（56.0%）が半数を超えて最も多く、次いで「わからない」（17.3%）、「家族や親族と暮らしたい」（10.7%）となっている。また、「独立して一人で暮らしたい」「家族や親族と暮らしたい」「グループホーム等で仲間と暮らしたい」をあわせた『地域生活移行希望者』は 17.3%となっている。

障害の程度別にみると、療育手帳Ａ・Ｂいずれにおいても「今の施設で暮らし続けたい」が最も多いが、療育手帳ＡはＢに比べて「わからない」（24.0%）の割合が高く、約４人に１人が「わからない」と回答している。一方、療育手帳ＢはＡに比べて「家族や親族と暮らしたい」（22.2%）や「グループホーム等で仲間と暮らしたい」（11.1%）などの地域生活への移行を希望する人の割合が高い。

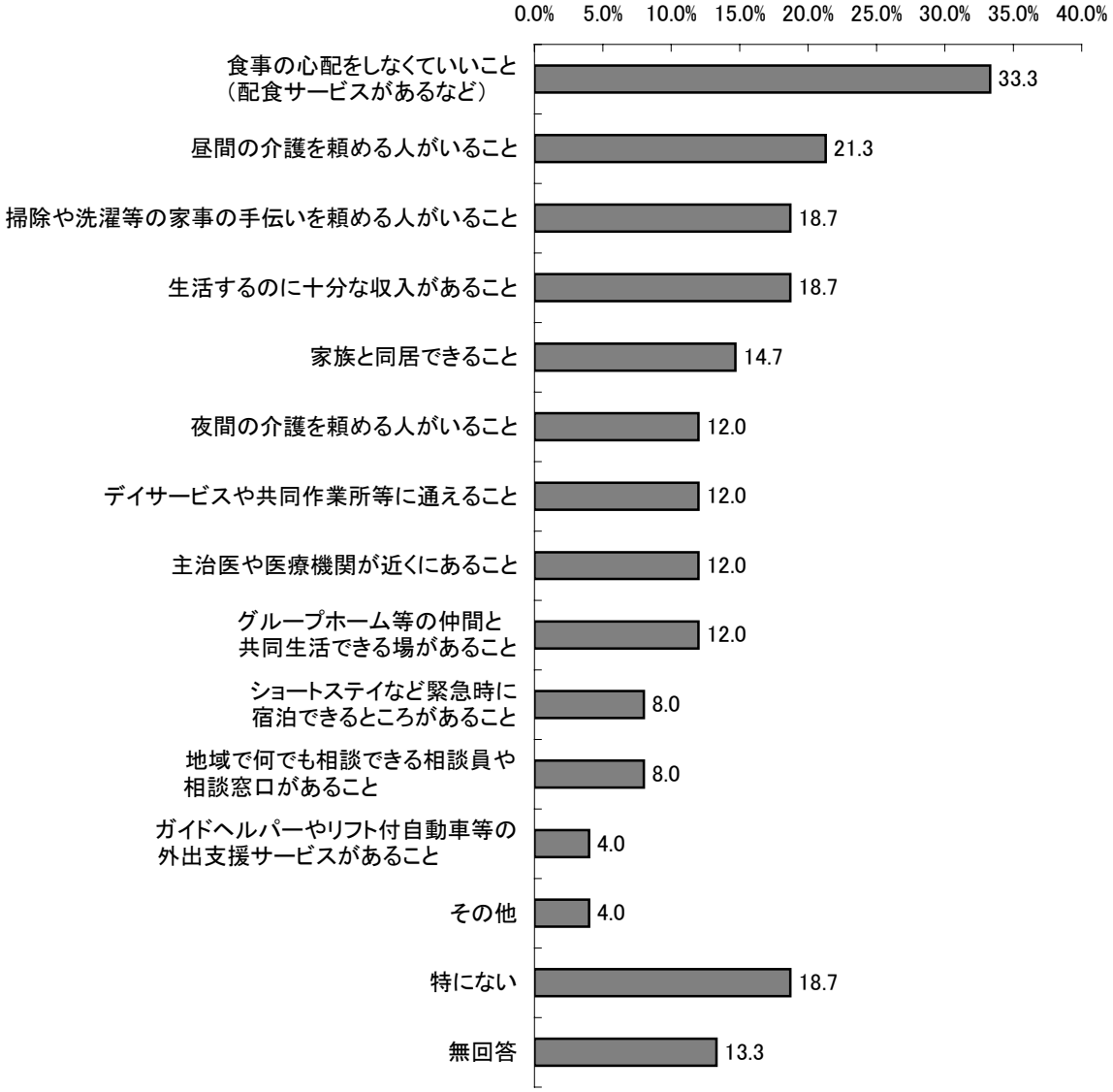
【図表 3-2-28　障害の程度別・入所施設別　福祉施設入所者が希望する将来の暮らし方】（%）

		調査数［ｎ］（人）	今の施設で暮らし続けたい	家族や親族と暮らしたい	別の福祉施設に移りたい	グループホーム等で仲間と暮らしたい	独立して一人で暮らしたい	その他	わからない	無回答
全　体		75	56.0	10.7	5.3	5.3	1.3	1.3	17.3	2.7
程度別の障害	療育手帳Ａ	50	56.0	4.0	8.0	2.0	2.0	－	24.0	4.0
	療育手帳Ｂ	18	55.6	22.2	－	11.1	－	5.6	5.6	－
	無回答	7	57.1	28.6	－	14.3	－	－	－	－
入所施設別	知的障害者更生施設	52	53.8	11.5	5.8	－	－	1.9	23.1	3.8
	知的障害者授産施設	7	57.1	14.3	－	28.6	－	－	－	－
	知的障害者福祉ホーム	1	100.0	－	－	－	－	－	－	－
	知的障害者通勤寮	1	－	－	－	100.0	－	－	－	－
	知的障害児のための入所施設	8	75.0	－	12.5	－	－	－	12.5	－
	介護保険施設	2	100.0	－	－	－	－	－	－	－
	その他の高齢者向け施設	1	－	－	－	100.0	－	－	－	－
	その他	1	－	100.0	－	－	－	－	－	－
	無回答	2	50.0	－	－	－	50.0	－	－	－

（６）福祉施設入所者が地域生活に移行するために必要な条件

問１３　あなたは、どのような条件が整えば、自宅や地域で生活できると思いますか。（○は３つまで）

【図表 3-2-29　福祉施設入所者が地域生活に移行するために必要な条件】（ｎ＝75）



福祉施設入所者が自宅や地域で生活するために必要な条件は、「食事の心配をしなくていいこと（配食サービスがあるなど）」（33.3%）が最も多く、次いで「昼間の介護を頼める人がいること」（21.3%）、「掃除や洗濯等の家事の手伝いを頼める人がいること」（18.7%）、「生活するのに十分な収入があること」（18.7%）となっている。また、「特にない」も 18.7%となっている。

障害の程度別にみると、療育手帳Ａ・Ｂいずれにおいても「食事の心配をしなくていいこと（配食サービスがあるなど）」が最も多いが、その割合は療育手帳Ａ（28.0%）よりＢ（50.0%）で高く、半数を占めている。

また、「主治医や医療機関が近くにあること」（Ａ：8.0%、Ｂ：22.2%）や「グループホーム等の仲間と共同生活できる場があること」（Ａ：8.0%、Ｂ：22.2%）、「地域で何でも相談できる相談員や相談窓口があること」（Ａ：4.0%、Ｂ：16.7%）などもＡよりＢで割合が高い。

【図表 3-2-30　障害の程度別・入所施設別　福祉施設入所者が地域生活に移行するために必要な条件】

（%）

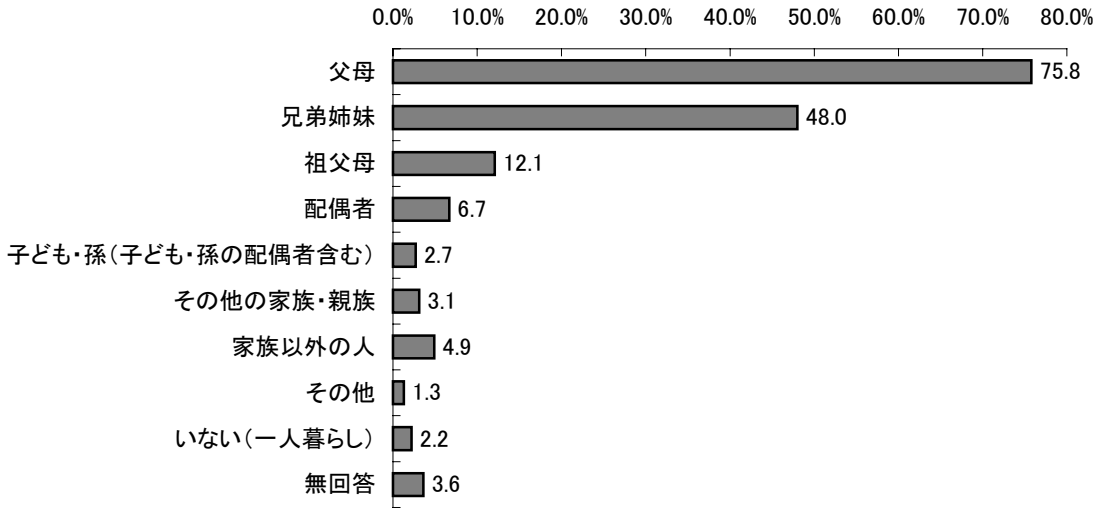
		調査数［n］（人）	食事の心配をしなくていいこと（配食サービスがあるなど）	昼間の介護を頼める人がいること	掃除や洗濯等の家事の手伝いを頼める人がいること	生活するのに十分な収入があること	家族と同居できること	夜間の介護を頼める人がいること	デイサービスや共同作業所等に通えること
全　体		75	33.3	21.3	18.7	18.7	14.7	12.0	12.0
障害程度別の	療育手帳Ａ	50	28.0	22.0	14.0	18.0	14.0	14.0	14.0
	療育手帳Ｂ	18	50.0	22.2	27.8	22.2	11.1	5.6	11.1
	無回答	7	28.6	14.3	28.6	14.3	28.6	14.3	－
入所施設別	知的障害者更生施設	52	34.6	19.2	15.4	17.3	19.2	11.5	13.5
	知的障害者授産施設	7	57.1	14.3	42.9	28.6	－	－	14.3
	知的障害者福祉ホーム	1	－	－	－	－	－	－	－
	知的障害者通勤寮	1	100.0	－	－	－	－	－	－
	知的障害児のための入所施設	8	12.5	25.0	12.5	25.0	－	12.5	－
	介護保険施設	2	－	50.0	－	－	－	50.0	－
	その他の高齢者向け施設	1	100.0	100.0	100.0	－	－	－	－
	その他	1	－	100.0	－	－	100.0	100.0	－
	無回答	2	－	－	50.0	50.0	－	－	50.0

		調査数［n］（人）	主治医や医療機関が近くにあること	グループホーム等の仲間と共同生活できる場があること	ショートステイなど緊急時に宿泊できるところがあること	地域で何でも相談できる相談員や相談窓口があること	ガイドヘルパーやリフト付自動車等の外出支援サービスがあること	その他	特にない	無回答
全　体		75	12.0	12.0	8.0	8.0	4.0	4.0	18.7	13.3
障害程度別の	療育手帳Ａ	50	8.0	8.0	12.0	4.0	4.0	4.0	24.0	14.0
	療育手帳Ｂ	18	22.2	22.2	－	16.7	5.6	5.6	11.1	5.6
	無回答	7	14.3	14.3	－	14.3	－	－	－	28.6
入所施設別	知的障害者更生施設	52	11.5	9.6	5.8	7.7	3.8	5.8	19.2	13.5
	知的障害者授産施設	7	14.3	28.6	14.3	28.6	－	－	－	14.3
	知的障害者福祉ホーム	1	－	－	－	－	－	－	100.0	－
	知的障害者通勤寮	1	－	100.0	－	－	－	－	－	－
	知的障害児のための入所施設	8	25.0	12.5	12.5	－	－	－	37.5	12.5
	介護保険施設	2	－	－	－	－	－	－	－	50.0
	その他の高齢者向け施設	1	－	－	－	－	－	－	－	－
	その他	1	－	－	－	－	－	－	－	－
	無回答	2	－	－	50.0	－	50.0	－	－	－

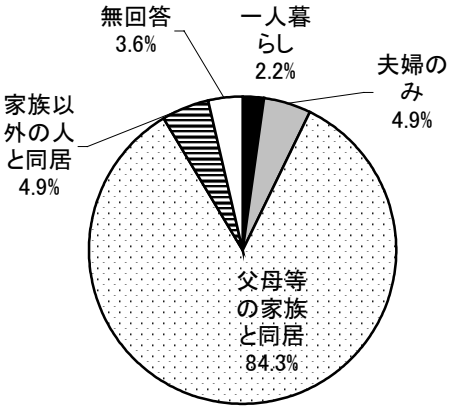
（７）在宅生活者の同居家族

問１４から問１７は、福祉施設以外のところで生活されている方のみお答えください。
問１４　あなたは、現在、どなたと同居していますか。（○はあてはまるものすべて）

【図表 3-2-31　在宅生活者の同居家族】（ｎ＝223）



【図表 3-2-32　在宅生活者の家族構成】（ｎ＝223）



在宅生活者の同居家族は、「父母」（75.8%）が最も多く、次いで「兄弟姉妹」（48.0%）、「祖父母」（12.1%）となっている。

同居家族をもとに家族構成を整理すると、「父母等の家族と同居」（84.3%）が８割を超えて最も多い。

年齢別にみると、すべての年齢層で「父母等の家族と同居」が最も多い。

【図表 3-2-33　年齢別　在宅生活者の同居家族】（%）

		調査数［n］（人）	父母	兄弟姉妹	祖父母	配偶者	子ども・孫（子ども・孫の配偶者含む）	その他の家族・親族	家族以外の人	その他	いない（一人暮らし）	無回答
全　体		223	75.8	48.0	12.1	6.7	2.7	3.1	4.9	1.3	2.2	3.6
年齢別	１７歳以下	73	98.6	80.8	23.3	－	－	4.1	－	－	－	1.4
	１８～２９歳	46	76.1	50.0	19.6	6.5	4.3	－	6.5	－	2.2	2.2
	３０～３９歳	48	72.9	20.8	－	10.4	6.3	4.2	6.3	2.1	－	8.3
	４０～４９歳	23	56.5	17.4	－	4.3	－	4.3	8.7	－	13.0	8.7
	５０～５９歳	19	47.4	26.3	5.3	10.5	－	5.3	15.8	－	5.3	－
	６０～６４歳	3	33.3	66.7	－	33.3	－	－	－	－	－	－
	６５歳以上	6	－	16.7	－	33.3	16.7	－	－	33.3	－	－
	無回答	5	80.0	60.0	－	20.0	－	－	－	－	－	－

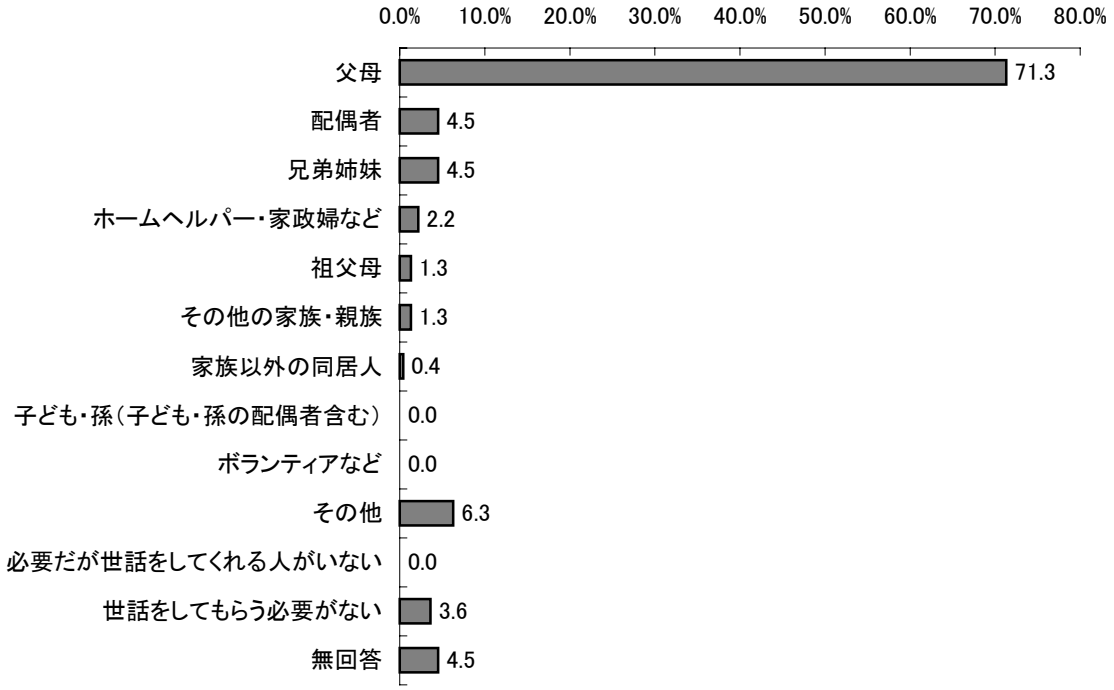
【図表 3-2-34　年齢別　在宅生活者の家族構成】（%）

		調査数［n］（人）	一人暮らし	夫婦のみ	父母等の家族と同居	家族以外の人と同居	無回答
全　体		223	2.2	4.9	84.3	4.9	3.6
年齢別	１７歳以下	73	－	－	98.6	－	1.4
	１８～２９歳	46	2.2	4.3	84.8	6.5	2.2
	３０～３９歳	48	－	6.3	79.2	6.3	8.3
	４０～４９歳	23	13.0	4.3	65.2	8.7	8.7
	５０～５９歳	19	5.3	5.3	73.7	15.8	－
	６０～６４歳	3	－	33.3	66.7	－	－
	６５歳以上	6	－	33.3	66.7	－	－
	無回答	5	－	20.0	80.0	－	－

（８）在宅生活者の主な介助者

問１５　あなたは身の回りの世話を、主にどなたにしてもらっていますか。（○は１つだけ）

【図表 3-2-35　在宅生活者の主な介助者】（ｎ＝223）



在宅生活者の主な介助者は、「父母」（71.3%）が７割を超えて最も多い。

年齢別にみると、17 歳以下では「父母」（94.5%）が９割を占めて最も多いが、この割合は加齢とともに低下し、かわって「兄弟姉妹」の割合が高くなり、50 歳代以上では１割を超えている。

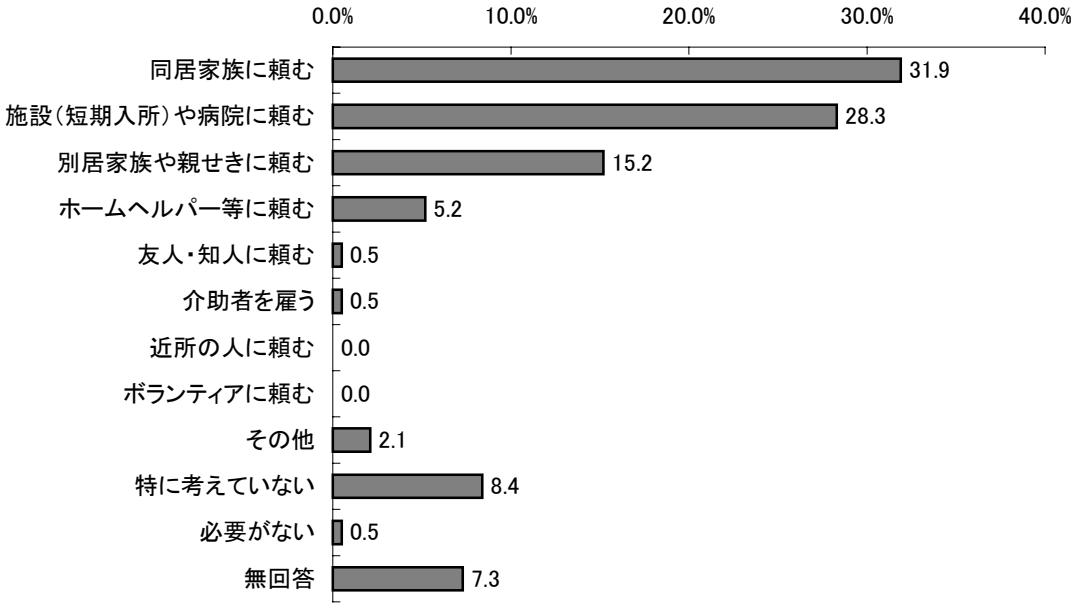
【図表 3-2-36　年齢別　在宅生活者の主な介助者】（%）

		調査数［ｎ］（人）	父母	配偶者	兄弟姉妹	ホームヘルパー・家政婦など	祖父母	その他の家族・親族	家族以外の同居人	子ども・孫（子ども・孫の配偶者含む）	ボランティアなど	その他	必要だが世話をしてくれる人がいない	世話をしてもらう必要がない	無回答
全　体		223	71.3	4.5	4.5	2.2	1.3	1.3	0.4	－	－	6.3	－	3.6	4.5
年齢別	１７歳以下	73	94.5	－	－	－	1.4	－	－	－	－	－	－	1.4	2.7
	１８～２９歳	46	73.9	6.5	2.2	2.2	－	－	－	－	－	6.5	－	4.3	4.3
	３０～３９歳	48	64.6	4.2	2.1	6.3	－	－	2.1	－	－	4.2	－	8.3	8.3
	４０～４９歳	23	52.2	4.3	8.7	－	4.3	8.7	－	－	－	13.0	－	4.3	4.3
	５０～５９歳	19	47.4	－	15.8	5.3	5.3	5.3	－	－	－	15.8	－	－	5.3
	６０～６４歳	3	－	33.3	66.7	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	６５歳以上	6	－	33.3	16.7	－	－	－	－	－	－	50.0	－	－	－
	無回答	5	80.0	20.0	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－

（９）在宅生活者の主な介助者が介助できなくなった場合の対処方法

問１５―１　（問１５で１～９のいずれかを選んだ方のみお答えください）身の回りの世話をしている方が、万一病気や事故などで、一時的にお世話をすることができなくなったとした場合、どうしますか。（○は１つだけ）

【図表 3-2-37　在宅生活者の主な介助者が介助できなくなった場合の対処方法】（ｎ＝191）



在宅生活者の主な介助者が介助できなくなった場合の対処方法は、「同居家族に頼む」（31.9％）が最も多く、次いで「施設（短期入所）や病院に頼む」（28.3％）、「別居家族や親せきに頼む」（15.2％）となっている。

障害の程度別にみると、療育手帳Ａでは「施設（短期入所）や病院に頼む」（37.4％）が最も多く、4割弱を占めている。

家族構成別にみると、一人暮らしや夫婦のみの場合は、他に比べて「ホームヘルパー等に頼む」などの割合が高い。

【図表 3-2-38　障害の程度別・家族構成別
在宅生活者の主な介助者が介助できなくなった場合の対処方法】（%）

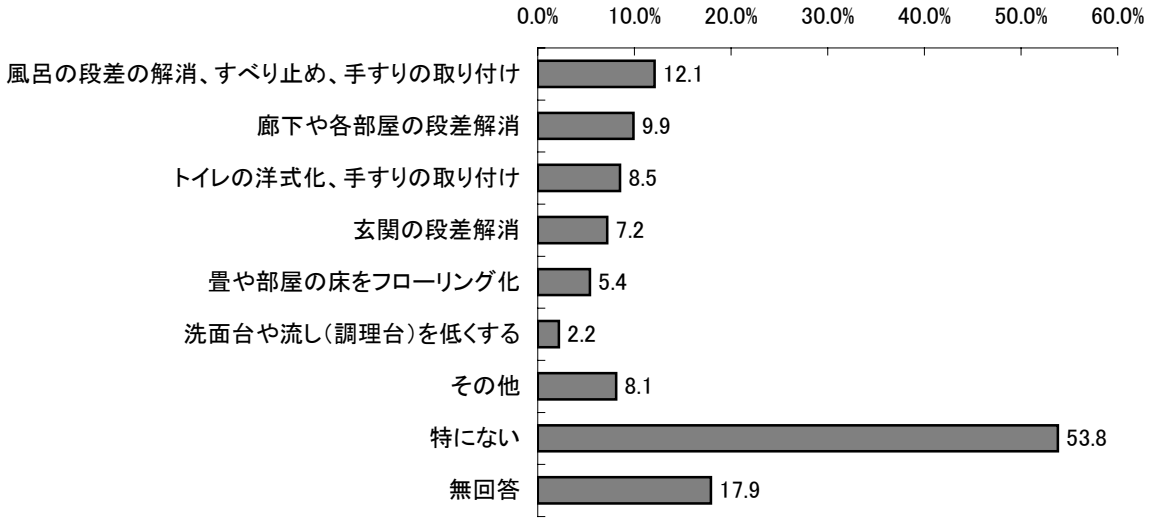
		調査数［n］（人）	同居家族に頼む	施設（短期入所）や病院に頼む	別居家族や親せきに頼む	ホームヘルパー等に頼む	友人・知人に頼む	介助者を雇う
全　体		191	31.9	28.3	15.2	5.2	0.5	0.5
程度別の障害	療育手帳Ａ	107	30.8	37.4	11.2	6.5	－	0.9
	療育手帳Ｂ	78	33.3	17.9	20.5	3.8	1.3	－
	無回答	6	33.3	－	16.7	－	－	－
家族構成別	一人暮らし	4	－	25.0	－	25.0	－	－
	夫婦のみ	11	36.4	9.1	9.1	18.2	－	－
	父母等の家族と同居	173	32.9	30.1	16.2	3.5	0.6	0.6
	家族以外の人と同居	2	－	－	－	50.0	－	－
	無回答	1	－	－	－	－	－	－

		調査数［n］（人）	近所の人に頼む	ボランティアに頼む	その他	特に考えていない	必要がない	無回答
全　体		191	－	－	2.1	8.4	0.5	7.3
程度別の障害	療育手帳Ａ	107	－	－	1.9	5.6	－	5.6
	療育手帳Ｂ	78	－	－	2.6	11.5	－	9.0
	無回答	6	－	－	－	16.7	16.7	16.7
家族構成別	一人暮らし	4	－	－	－	25.0	－	25.0
	夫婦のみ	11	－	－	－	18.2	－	9.1
	父母等の家族と同居	173	－	－	1.7	7.5	0.6	6.4
	家族以外の人と同居	2	－	－	50.0	－	－	－
	無回答	1	－	－	－	－	－	100.0

（１０）住まいの改造希望

問１６　現在の住まいで、使い勝手が悪いところや、改造したい（してほしい）ところはありますか。（○はあてはまるものすべて）

【図表 3-2-39　住まいの改造希望】（ｎ＝223）



現在の住まいで改造したいところについては「特にない」（53.8%）が過半数を占めて最も多く、次いで「風呂の段差の解消、すべり止め、手すりの取り付け」（12.1%）となっている。

障害の程度別にみると、住まいの改造意向は療育手帳ＢよりＡで高く、具体的な改造希望場所についてはいずれの項目においても療育手帳ＡがＢを上回っている。

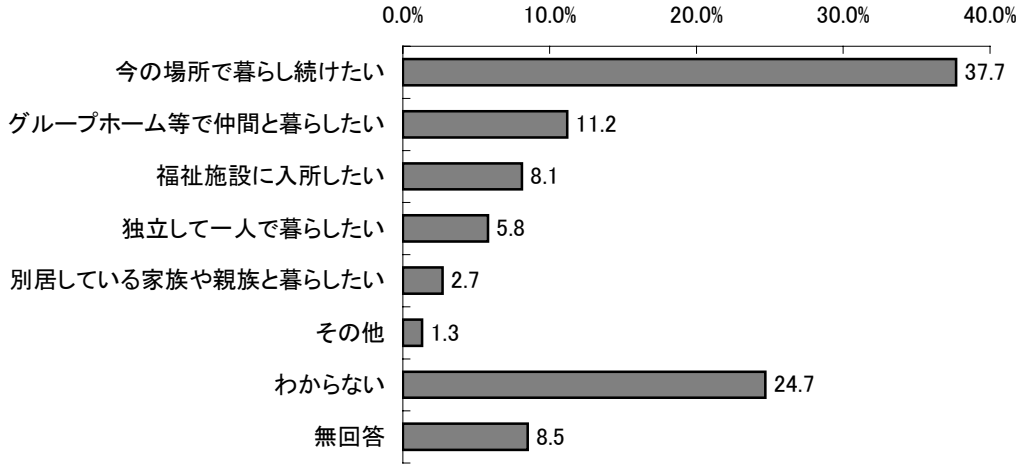
【図表 3-2-40　障害の程度別　住まいの改造希望】（%）

		調査数［ｎ］（人）	風呂の段差の解消、すべり止め、手すりの取り付け	廊下や各部屋の段差解消	トイレの洋式化、手すりの取り付け	玄関の段差解消	畳や部屋の床をフローリング化	洗面台や流し（調理台）を低くする	その他	特にない	無回答
全　体		223	12.1	9.9	8.5	7.2	5.4	2.2	8.1	53.8	17.9
程度別の障害	療育手帳Ａ	121	18.2	16.5	10.7	11.6	5.8	4.1	6.6	44.6	21.5
	療育手帳Ｂ	96	4.2	2.1	6.3	2.1	5.2	－	10.4	64.6	13.5
	無回答	6	16.7	－	－	－	－	－	－	66.7	16.7

（１１）在宅生活者が希望する将来の暮らし方

問１７　あなたは、将来、どのように暮らしたいですか。（○は１つだけ）

【図表 3-2-41　在宅生活者が希望する将来の暮らし方】（ｎ＝223）



在宅生活者が希望する将来の暮らし方は、「今の場所で暮らし続けたい」（37.7%）が最も多く、次いで「わからない」（24.7%）、「グループホーム等で仲間と暮らしたい」（11.2%）となっている。

「今の場所で暮らし続けたい」「独立して一人で暮らしたい」「別居している家族や親族と暮らしたい」「グループホーム等で仲間と暮らしたい」をあわせると、自宅や地域で生活したいと考えている人が 57.4%を占めており、これに対して福祉施設入所希望者（「福祉施設に入所したい」）は 8.1%となっている。

年齢別にみると、17 歳以下では「わからない」（39.7%）が最も多いが、その他の年齢層では「今の場所で暮らし続けたい」が最も多い。また、30 歳代以下では他の年齢層に比べて「独立して一人で暮らしたい」や「グループホーム等で仲間と暮らしたい」の割合が高い。

障害の程度別にみると、療育手帳Ａ・Ｂいずれにおいても「今の場所で暮らし続けたい」が最も多いが、「福祉施設に入所したい」や「グループホーム等で仲間と暮らしたい」などの割合は療育手帳ＢよりＡで高く、「独立して一人で暮らしたい」の割合は療育手帳ＡよりＢで高い。

【図表 3-2-42　年齢別・障害の程度別・家族構成別　在宅生活者が希望する将来の暮らし方】（%）

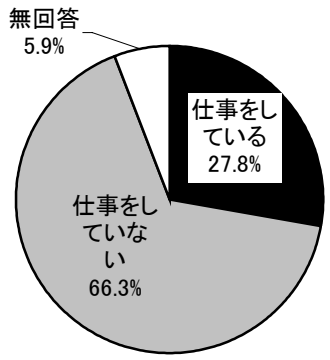
		調査数（人）［ｎ］	今の場所で暮らし続けたい	グループホーム等で仲間と暮らしたい	福祉施設に入所したい	独立して一人で暮らしたい	別居している家族や親族と暮らしたい	その他	わからない	無回答
全　体		223	37.7	11.2	8.1	5.8	2.7	1.3	24.7	8.5
年齢別	１７歳以下	73	30.1	12.3	4.1	4.1	－	－	39.7	9.6
	１８～２９歳	46	39.1	17.4	6.5	10.9	－	2.2	21.7	2.2
	３０～３９歳	48	35.4	14.6	12.5	10.4	2.1	2.1	12.5	10.4
	４０～４９歳	23	56.5	－	8.7	－	8.7	－	21.7	4.3
	５０～５９歳	19	42.1	5.3	10.5	－	5.3	－	21.1	15.8
	６０～６４歳	3	66.7	－	33.3	－	－	－	－	－
	６５歳以上	6	16.7	－	16.7	－	16.7	16.7	16.7	16.7
	無回答	5	60.0	－	－	－	20.0	－	－	20.0
度の障害別程	療育手帳Ａ	121	32.2	16.5	12.4	0.8	3.3	1.7	21.5	11.6
	療育手帳Ｂ	96	42.7	5.2	3.1	12.5	1.0	1.0	29.2	5.2
	無回答	6	66.7	－	－	－	16.7	－	16.7	－
家族構成別	一人暮らし	5	40.0	－	－	－	－	20.0	20.0	20.0
	夫婦のみ	11	36.4	9.1	－	18.2	9.1	－	27.3	－
	父母等の家族と同居	188	39.4	11.7	9.6	4.3	1.6	1.1	26.1	6.4
	家族以外の人と同居	11	27.3	18.2	－	27.3	18.2	－	9.1	－
	無回答	8	12.5	－	－	－	－	－	12.5	75.0

３．就労について

（１）就労状況

問１８　あなたは現在仕事をしていますか。

【図表 3-2-43　就労状況】（ｎ＝306）



回答者の 27.8%は現在仕事をしている。

年齢別にみると、仕事をしている人の割合は、18～29 歳（49.2%）で最も高く、次いで 40 歳代（40.5%）、30 歳代（36.2%）となっている。

障害の程度別にみると、仕事をしている人の割合は、障害の程度が軽い療育手帳Ｂ（36.5%）がＡ（19.9%）を上回っている。

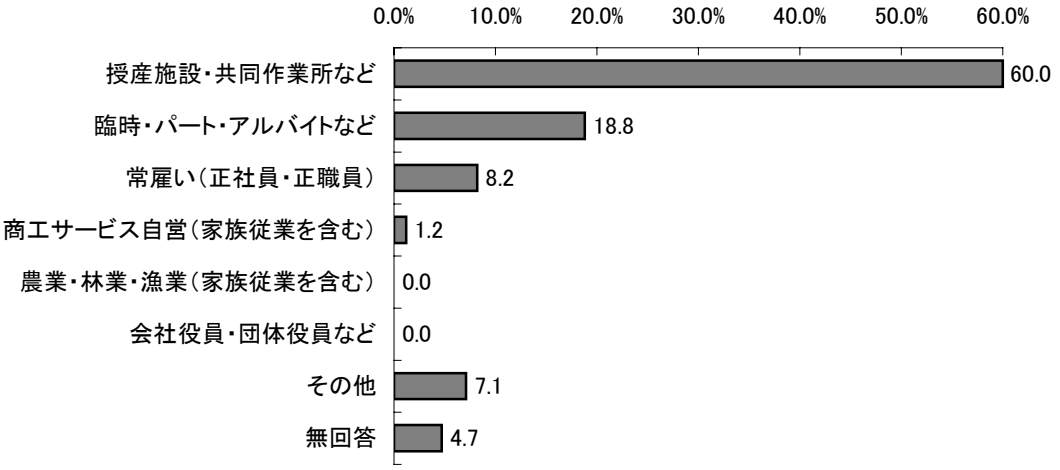
【図表 3-2-44　性別・年齢別・障害の程度別　就労状況】（%）

		調査数［ｎ］（人）	仕事をしている	仕事をしていない	無回答
全　体		306	27.8	66.3	5.9
性別	男性	178	28.1	67.4	4.5
	女性	125	27.2	65.6	7.2
	無回答	3	33.3	33.3	33.3
年齢別	１７歳以下	74	－	98.6	1.4
	１８～２９歳	61	49.2	47.5	3.3
	３０～３９歳	69	36.2	53.6	10.1
	４０～４９歳	37	40.5	56.8	2.7
	５０～５９歳	35	22.9	65.7	11.4
	６０～６４歳	8	25.0	62.5	12.5
	６５歳以上	11	－	90.9	9.1
	無回答	11	45.5	45.5	9.1
程度別の障害	療育手帳Ａ	176	19.9	71.6	8.5
	療育手帳Ｂ	115	36.5	61.7	1.7
	無回答	15	53.3	40.0	6.7

（２）仕事の種類

問１８－１　（仕事をしている方のみお答えください）あなたはどのような仕事をしていますか。（○は１つだけ）

【図表 3-2-45　仕事の種類】（ｎ＝85）



仕事の種類は、「授産施設・共同作業所など」（60.0%）が６割を占めて最も多く、次いで「臨時・パート・アルバイトなど」（18.8%）となっている。

障害の程度別にみると、療育手帳Ａ・Ｂのいずれにおいても「授産施設・共同作業所など」が最も多いが、その割合は療育手帳Ｂ（42.9%）よりＡ（82.9%）で高く、８割を超えている。

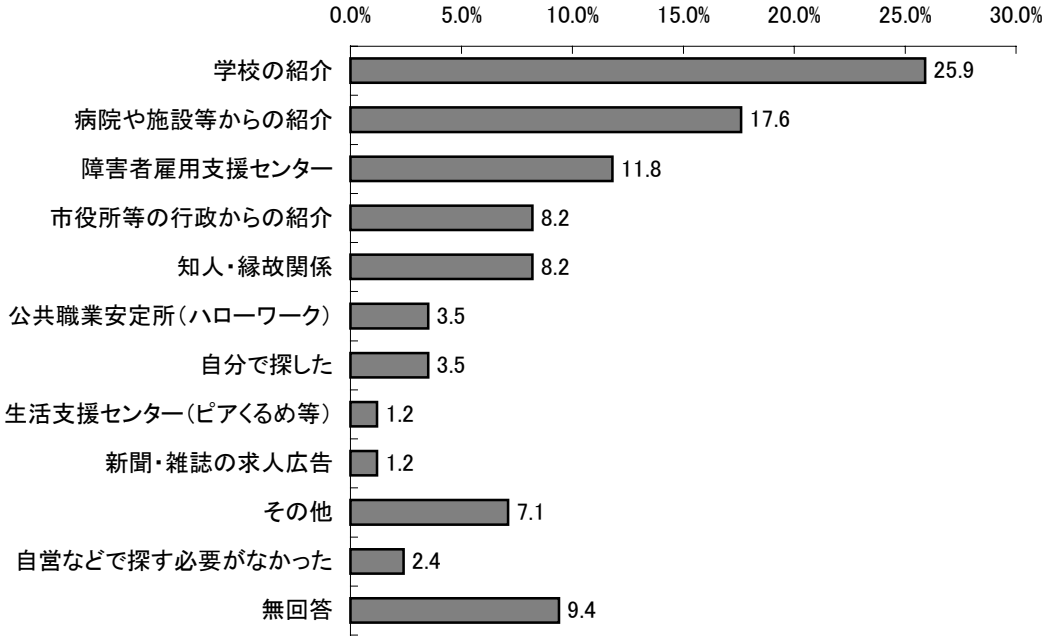
【図表 3-2-46　障害の程度別　仕事の種類】（%）

		調査数［ｎ］（人）	授産施設・共同作業所など	臨時・パート・アルバイトなど	常雇い（正社員・正職員）	商工サービス自営（家族従業を含む）	農業・林業・漁業（家族従業を含む）	会社役員・団体役員など	その他	無回答
全　体		85	60.0	18.8	8.2	1.2	－	－	7.1	4.7
程度別の障害	療育手帳Ａ	35	82.9	8.6	－	－	－	－	2.9	5.7
	療育手帳Ｂ	42	42.9	31.0	14.3	2.4	－	－	9.5	－
	無回答	8	50.0	－	12.5	－	－	－	12.5	25.0

（３）仕事を見つけた方法

問１８－２　（仕事をしている方のみお答えください）仕事はどのような方法で見つけましたか。（○は１つだけ）

【図表 3-2-47　仕事を見つけた方法】（ｎ＝85）



仕事を見つけた方法は、「学校の紹介」（25.9%）が最も多く、次いで「病院や施設等からの紹介」（17.6%）、「障害者雇用支援センター」（11.8%）となっている。

障害の程度別にみると、療育手帳ＡはＢに比べて「市役所等の行政からの紹介」（14.3%）などの割合が高く、療育手帳ＢはＡに比べて「障害者雇用支援センター」（21.4%）などの割合が高い。

【図表 3-2-48　障害の程度別　仕事を見つけた方法】（%）

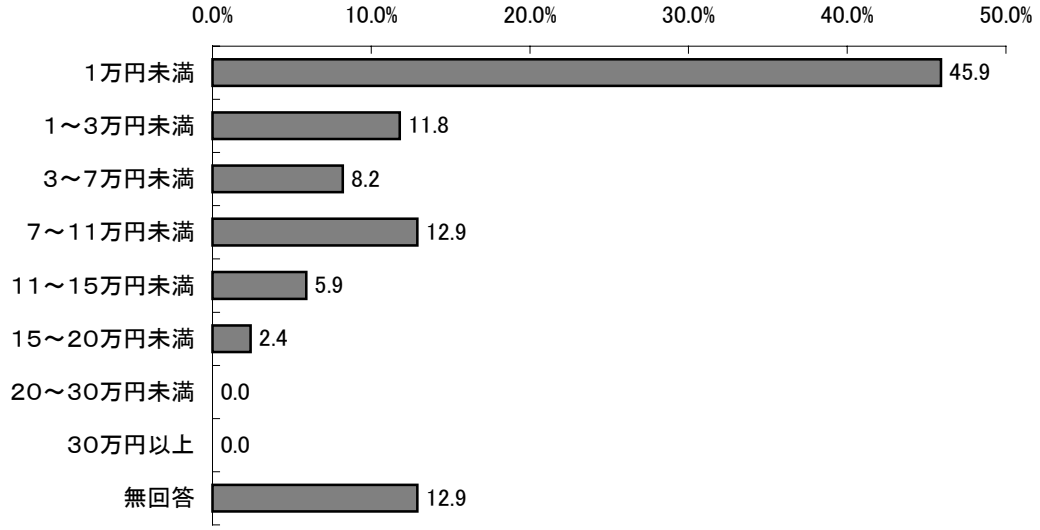
		調査数［ｎ］（人）	学校の紹介	病院や施設等からの紹介	障害者雇用支援センター	市役所等の行政からの紹介	知人・縁故関係	公共職業安定所（ハローワーク）
全　体		85	25.9	17.6	11.8	8.2	8.2	3.5
程度別の障害	療育手帳Ａ	35	31.4	14.3	－	14.3	8.6	－
	療育手帳Ｂ	42	21.4	21.4	21.4	4.8	9.5	4.8
	無回答	8	25.0	12.5	12.5	－	－	12.5

		調査数［ｎ］（人）	自分で探した	生活支援センター（ピアくるめ等）	新聞・雑誌の求人広告	その他	自営などで探す必要がなかった	無回答
全　体		85	3.5	1.2	1.2	7.1	2.4	9.4
程度別の障害	療育手帳Ａ	35	2.9	－	－	5.7	2.9	20.0
	療育手帳Ｂ	42	4.8	2.4	2.4	4.8	2.4	－
	無回答	8	－	－	－	25.0	－	12.5

（４）月収

問１８－３　（仕事をしている方のみお答えください）あなたが仕事で得る月収は平均しておよそいくらくらいですか。（○は１つだけ）

【図表 3-2-49　月収】（ｎ＝85）



仕事で得る月収は、「1 万円未満」（45.9%）が半数弱を占めて最も多く、次いで「7～11 万円未満」（12.9%）、「1～3 万円未満」（11.8%）となっている。月収 20 万円以上の人はおらず、全体の 7 割弱（65.9%）は月収 7 万円未満である。

仕事の種類別にみると、授産施設・共同作業所などでは、「１万円未満」が最も多く、68.6%となっている。

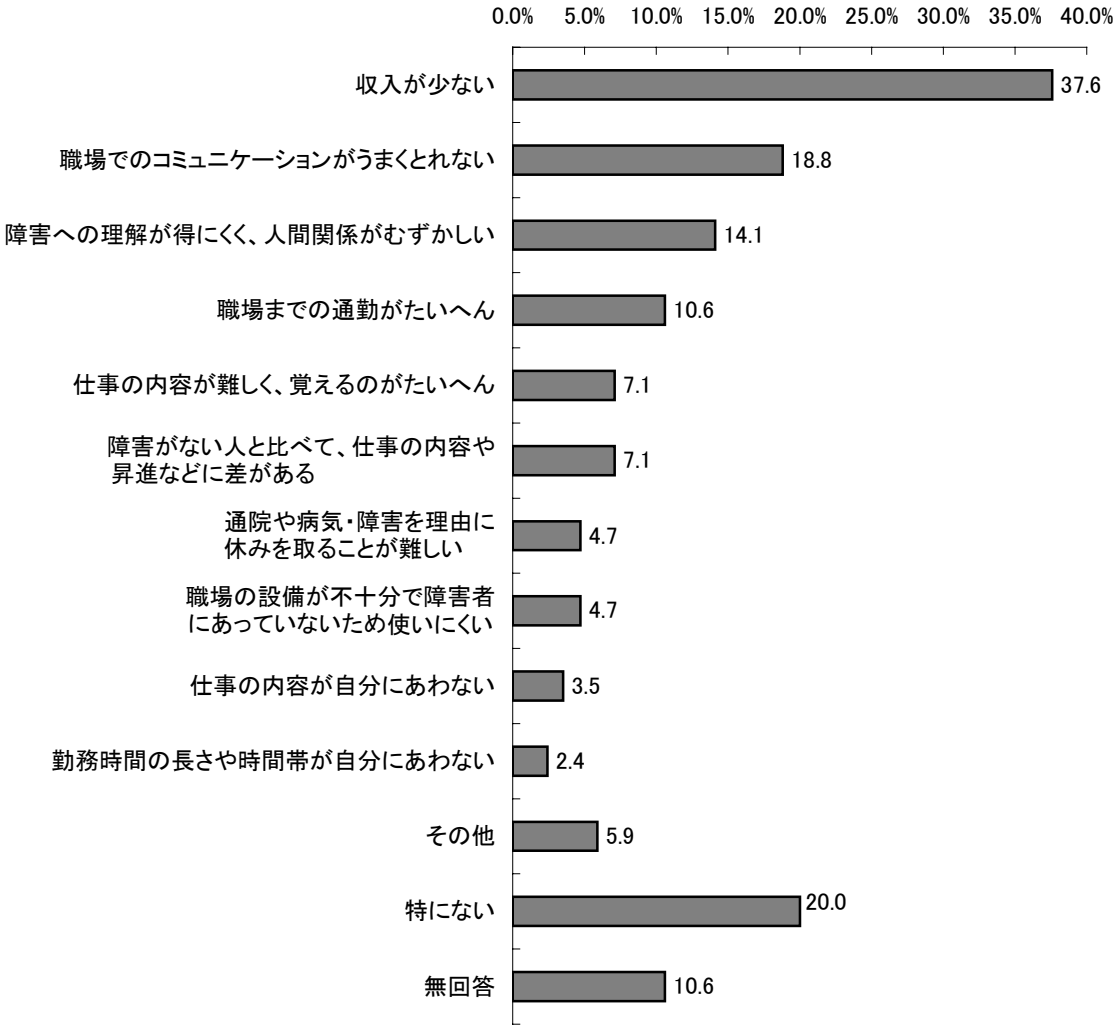
【図表 3-2-50　仕事の種類別　月収】（%）

		調査数［ｎ］（人）	１万円未満	１～３万円未満	３～７万円未満	７～１１万円未満	１１～１５万円未満	１５～２０万円未満	２０～３０万円未満	３０万円以上	無回答
全　体		85	45.9	11.8	8.2	12.9	5.9	2.4	－	－	12.9
仕事の種類別	農業・林業・漁業（家族従業を含む）	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	商工サービス自営（家族従業を含む）	1	－	－	100.0	－	－	－	－	－	－
	会社役員・団体役員など	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	常雇い（正社員・正職員）	7	－	－	14.3	28.6	57.1	－	－	－	－
	臨時・パート・アルバイトなど	16	12.5	12.5	12.5	50.0	6.3	6.3	－	－	－
	授産施設・共同作業所など	51	68.6	15.7	2.0	－	－	－	－	－	13.7
	その他	6	33.3	－	33.3	16.7	－	－	－	－	16.7
	無回答	4	－	－	－	－	－	25.0	－	－	75.0

（５）仕事上の悩みや困っていること

問１８－４　（仕事をしている方のみお答えください）仕事のことで悩んでいることや困っていることがありますか。（○はあてはまるものすべて）

【図表 3-2-51　仕事上の悩みや困っていること】（ｎ＝85）



仕事上の悩みや困っていることは、「収入が少ない」（37.6%）が最も多く、次いで「特にない」（20.0%）、「職場でのコミュニケーションがうまくとれない」（18.8%）、「障害への理解が得にくく、人間関係がむずかしい」（14.1%）となっている。

障害の程度別にみると、療育手帳Ａ・Ｂのいずれにおいても「収入が少ない」が最も多いが、療育手帳ＢはＡに比べて「職場でのコミュニケーションがうまくとれない」（28.6%）や「障害への理解が得にくく、人間関係がむずかしい」（23.8%）などの割合が高い。

仕事の種類別にみると、授産施設・共同作業所などでは「収入が少ない」（41.2%）が最も多いが、常雇いや臨時・パート・アルバイトなどでは「職場でのコミュニケーションがうまくとれない」や「障害への理解が得にくく、人間関係がむずかしい」が最も多い。また、常雇いは他に比べて全般的に悩み・困っていることの割合が高い。

【図表 3-2-52　障害の程度別・仕事の種類別　仕事上の悩みや困っていること】（%）

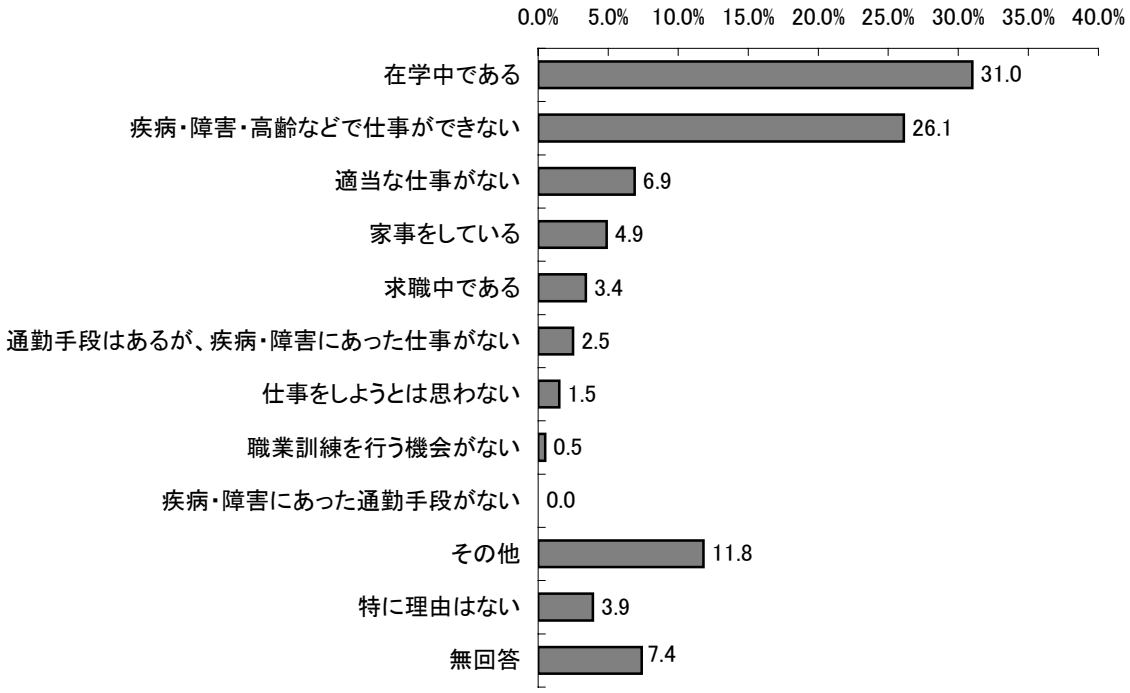
		調査数［n］（人）	収入が少ない	職場でのコミュニケーションがうまくとれない	障害への理解が得にくく、人間関係がむずかしい	職場までの通勤がたいへん	仕事の内容が難しく、覚えるのがたいへん	障害がない人と比べて、仕事の内容や昇進などに差がある
全　体		85	37.6	18.8	14.1	10.6	7.1	7.1
障害の程度別	療育手帳Ａ	35	37.1	8.6	2.9	5.7	5.7	－
	療育手帳Ｂ	42	33.3	28.6	23.8	11.9	7.1	9.5
	無回答	8	62.5	12.5	12.5	25.0	12.5	25.0
仕事の種類別	農業・林業・漁業（家族従業を含む）	－	－	－	－	－	－	－
	商工サービス自営（家族従業を含む）	1	100.0	－	－	－	－	100.0
	会社役員・団体役員など	－	－	－	－	－	－	－
	常雇い（正社員・正職員）	7	28.6	42.9	42.9	28.6	14.3	28.6
	臨時・パート・アルバイトなど	16	25.0	31.3	31.3	6.3	12.5	6.3
	授産施設・共同作業所など	51	41.2	15.7	7.8	9.8	3.9	2.0
	その他	6	50.0	－	－	－	－	16.7
	無回答	4	25.0	－	－	25.0	25.0	－

		調査数［n］（人）	通院や病気・障害を理由に休みを取ることが難しい	職場の設備が不十分で障害者にあっていないため使いにくい	仕事の内容が自分にあわない	勤務時間の長さや時間帯が自分にあわない	その他	特にない	無回答
全　体		85	4.7	4.7	3.5	2.4	5.9	20.0	10.6
障害の程度別	療育手帳Ａ	35	－	2.9	－	－	－	25.7	22.9
	療育手帳Ｂ	42	7.1	7.1	2.4	4.8	11.9	16.7	2.4
	無回答	8	12.5	－	25.0	－	－	12.5	－
仕事の種類別	農業・林業・漁業（家族従業を含む）	－	－	－	－	－	－	－	－
	商工サービス自営（家族従業を含む）	1	100.0	－	－	－	－	－	－
	会社役員・団体役員など	－	－	－	－	－	－	－	－
	常雇い（正社員・正職員）	7	28.6	14.3	－	14.3	－	－	－
	臨時・パート・アルバイトなど	16	6.3	6.3	6.3	6.3	6.3	31.3	－
	授産施設・共同作業所など	51	－	3.9	3.9	－	5.9	17.6	17.6
	その他	6	－	－	－	－	16.7	33.3	－
	無回答	4	－	－	－	－	－	25.0	－

（６）仕事をしていない理由

問１８－５　（仕事をしていない方のみお答えください）仕事をしていないのは、主にどのような理由によりますか。（○は１つだけ）

【図表 3-2-53　仕事をしていない理由】（ｎ＝203）



仕事をしていない理由は、「在学中である」（31.0%）が最も多く、次いで「疾病・障害・高齢などで仕事ができない」（26.1%）となっている。

年齢別にみると、17 歳以下では「在学中である」が最も多く、18 歳以上では 60～64 歳を除いて「疾病・障害・高齢などで仕事ができない」が最も多い。

なお、18 歳～40 歳代では「適当な仕事がない」の割合が高く、それぞれ 1 割を超えている。また、18～29 歳では「求職中である」（10.3%）も 1 割を超えて高い。

【図表 3-2-54　性別・年齢別・障害の程度別　仕事をしていない理由】（%）

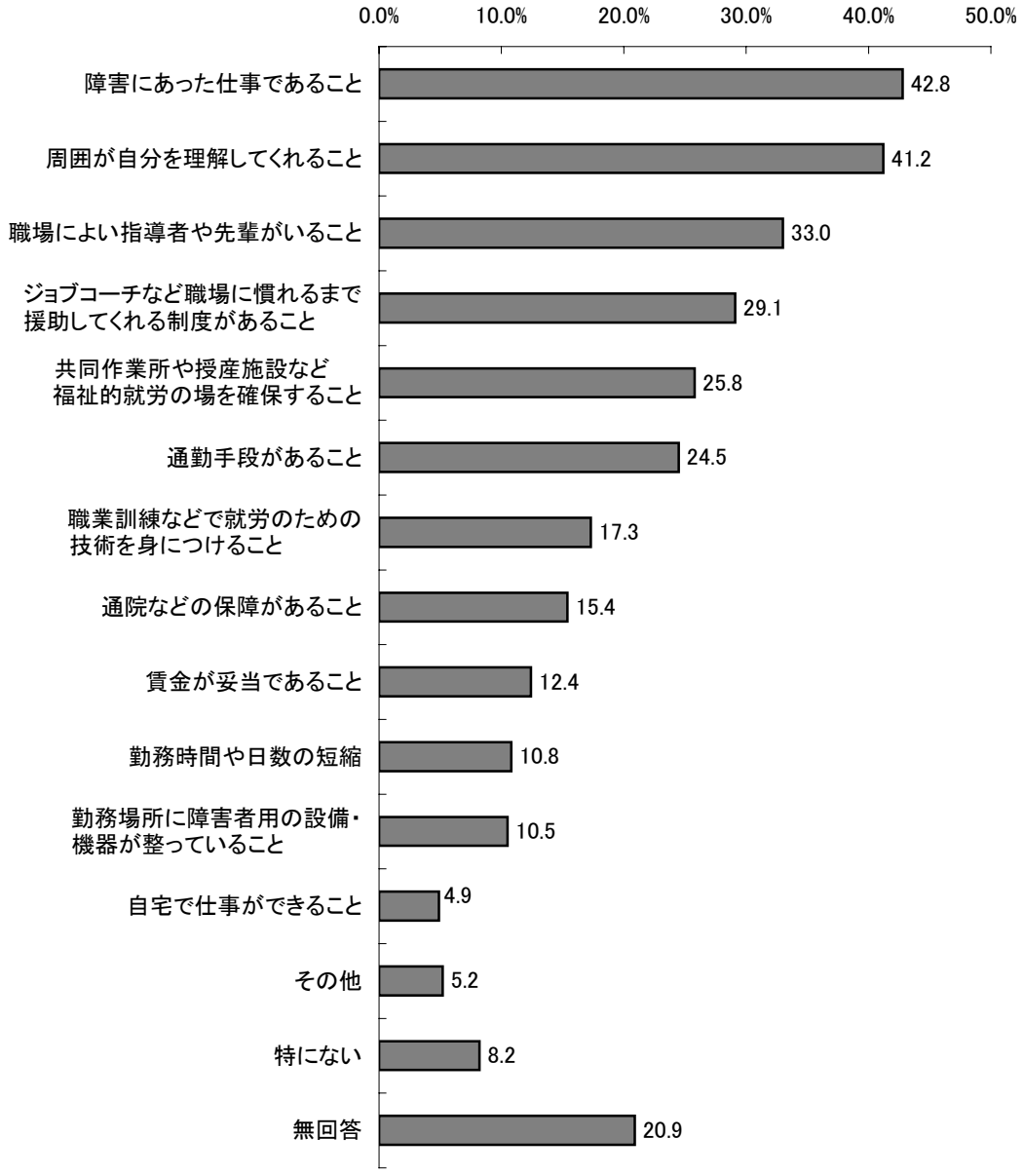
		調査数［ｎ］（人）	在学中である	疾病・障害・高齢などで仕事ができない	適当な仕事がない	家事をしている	求職中である	通勤手段はあるが、疾病・障害にあった仕事がない
全　体		203	31.0	26.1	6.9	4.9	3.4	2.5
性別	男性	120	43.3	19.2	6.7	1.7	4.2	3.3
	女性	82	13.4	36.6	7.3	9.8	2.4	1.2
	無回答	1	－	－	－	－	－	－
年齢別	１７歳以下	73	82.2	－	－	1.4	1.4	－
	１８～２９歳	29	10.3	34.5	13.8	3.4	10.3	3.4
	３０～３９歳	37	－	35.1	13.5	5.4	5.4	2.7
	４０～４９歳	21	－	28.6	19.0	19.0	4.8	－
	５０～５９歳	23	－	52.2	－	8.7	－	8.7
	６０～６４歳	5	－	20.0	－	－	－	20.0
	６５歳以上	10	－	80.0	－	－	－	－
	無回答	5	－	60.0	20.0	－	－	－
程度別の障害	療育手帳Ａ	126	30.2	34.1	4.0	4.0	－	1.6
	療育手帳Ｂ	71	33.8	9.9	9.9	7.0	9.9	4.2
	無回答	6	16.7	50.0	33.3	－	－	－

		調査数［ｎ］（人）	仕事をしようとは思わない	職業訓練を行う機会がない	疾病・障害にあった通勤手段がない	その他	特に理由はない	無回答
全　体		203	1.5	0.5	－	11.8	3.9	7.4
性別	男性	120	2.5	－	－	10.0	5.0	4.2
	女性	82	－	1.2	－	14.6	2.4	11.0
	無回答	1	－	－	－	－	－	100.0
年齢別	１７歳以下	73	－	－	－	13.7	－	1.4
	１８～２９歳	29	－	－	－	13.8	6.9	3.4
	３０～３９歳	37	2.7	2.7	－	8.1	8.1	16.2
	４０～４９歳	21	4.8	－	－	9.5	－	14.3
	５０～５９歳	23	－	－	－	4.3	8.7	17.4
	６０～６４歳	5	－	－	－	40.0	20.0	－
	６５歳以上	10	10.0	－	－	10.0	－	－
	無回答	5	－	－	－	20.0	－	－
程度別の障害	療育手帳Ａ	126	1.6	－	－	11.9	4.8	7.9
	療育手帳Ｂ	71	1.4	1.4	－	12.7	2.8	7.0
	無回答	6	－	－	－	－	－	－

（７）仕事をする上で必要な条件整備

問１９　(仕事をしている方もしていない方もお答えください)あなたが仕事をするうえで、どのような条件整備が必要ですか。(○はあてはまるものすべて)

【図表 3-2-55　仕事をする上で必要な条件整備】（ｎ＝306）



仕事をする上で必要な条件整備は、「障害にあった仕事であること」(42.8%) が最も多く、次いで「周囲が自分を理解してくれること」(41.2%)、「職場によい指導者や先輩がいること」(33.0%)、「ジョブコーチなど職場に慣れるまで援助してくれる制度があること」(29.1%) となっている。

障害の程度別にみると、療育手帳Ａでは「障害にあった仕事であること」(43.8%) が最も多く、Ｂでは「周囲が自分を理解してくれること」(50.4%) が最も多い。また、療育手帳ＡはＢに比べて「共同作業所や授産施設など福祉的就労の場を確保すること」(31.8%) や「勤務場所に障害者用の設備・機器が整っていること」(14.2%) の割合が高く、ＢはＡに比べて「周囲が自分を理解してくれること」(50.4%) や「職場によい指導者や先輩がいること」(42.6%)、「ジョブコーチなど職場に慣れるまで援助してくれる制度があること」(34.8%) などの割合が高い。

就労状況別にみると、現在仕事をしていない人は、仕事をしている人に比べて「障害にあった仕事であること」（49.8%）をはじめ、「職業訓練などで就労のための技術を身につけること」（21.7%）や「ジョブコーチなど職場に慣れるまで援助してくれる制度があること」（34.5%）などの就労支援に関する項目や、「勤務場所に障害者用の設備・機器が整っていること」（13.3%）、「周囲が自分を理解してくれること」（45.8%）などの職場環境の整備に関する項目の割合が高い。

【図表 3-2-56　障害の程度別・就労状況別　仕事をする上で必要な条件整備】（%）

		調査数［n］（人）	障害にあった仕事であること	周囲が自分を理解してくれること	職場によい指導者や先輩がいること	ジョブコーチなど職場に慣れるまで援助してくれる制度があること	共同作業所や授産施設など福祉的就労の場を確保すること	通勤手段があること	職業訓練などで就労のための技術を身につけること
全　体		306	42.8	41.2	33.0	29.1	25.8	24.5	17.3
障害の程度別	療育手帳Ａ	176	43.8	36.4	27.3	26.7	31.8	22.7	15.9
	療育手帳Ｂ	115	43.5	50.4	42.6	34.8	16.5	28.7	20.9
	無回答	15	26.7	26.7	26.7	13.3	26.7	13.3	6.7
就労状況別	仕事をしている	85	31.8	38.8	35.3	22.4	27.1	23.5	10.6
	仕事をしていない	203	49.8	45.8	35.0	34.5	27.1	27.1	21.7
	無回答	18	16.7	－	－	－	5.6	－	－

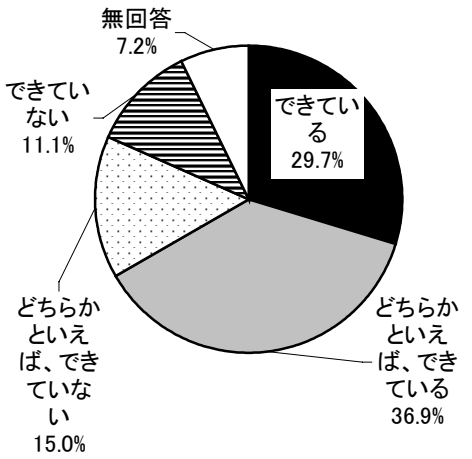
		調査数［n］（人）	通院などの保障があること	賃金が妥当であること	勤務時間や日数の短縮	勤務場所に障害者用の設備・機器が整っていること	自宅で仕事ができること	その他	特にない	無回答
全　体		306	15.4	12.4	10.8	10.5	4.9	5.2	8.2	20.9
障害の程度別	療育手帳Ａ	176	14.2	10.2	10.2	14.2	4.0	6.3	8.5	26.7
	療育手帳Ｂ	115	19.1	16.5	12.2	6.1	6.1	3.5	8.7	10.4
	無回答	15	－	6.7	6.7	－	6.7	6.7	－	33.3
就労状況別	仕事をしている	85	11.8	12.9	12.9	5.9	1.2	3.5	12.9	11.8
	仕事をしていない	203	17.7	13.3	10.8	13.3	6.9	6.4	6.9	19.7
	無回答	18	5.6	－	－	－	－	－	－	77.8

４．外出について

（１）外出の状況

問２０　あなたは、ふだん、外出したいと思うところに、外出できていますか。※家族やガイドヘルパー等のつきそい（外出支援）が必要な方は、つきそいがある状態としてお答えください。（○は１つだけ）

【図表 3-2-57　外出の状況】（ｎ＝306）



外出したいと思うところに外出できているかという問に対しては、「どちらかといえば、できている」（36.9%）との回答が最も多く、次いで「できている」（29.7%）となっており、これらをあわせると、希望どおりに外出できている人が全体の 66.6%を占めている。一方、「どちらかといえば、できていない」（15.0%）・「できていない」（11.1%）をあわせた、希望どおりに外出できていない人は 26.1%となっている。

障害の程度別にみると、療育手帳Ｂでは希望どおりに外出できている人（「できている」＋「どちらかといえば、できている」）が 84.3%と大半を占めているが、療育手帳Ａでは 6 割弱（55.7%）に留まり、希望どおりに外出できていない人（「どちらかといえば、できていない」＋「できていない」）が 35.2%と 3 割を超えている。

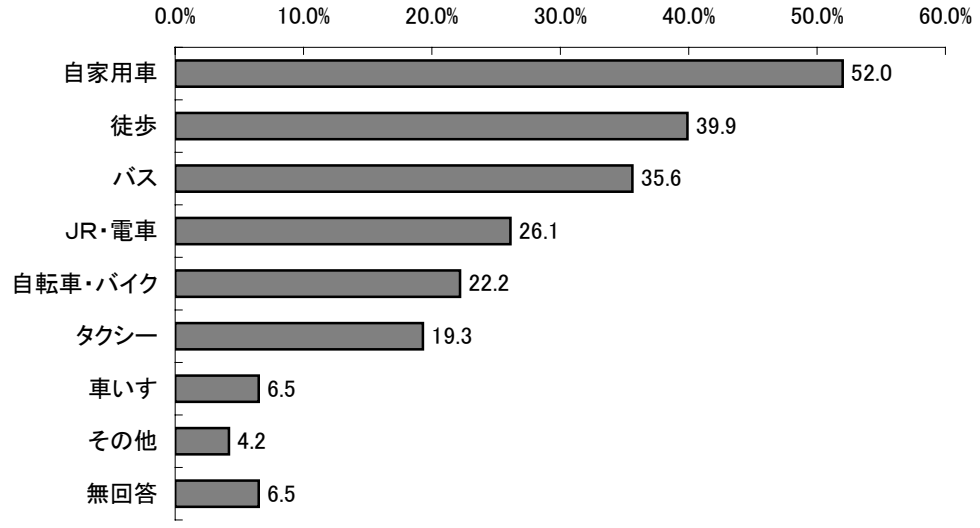
【図表 3-2-58　障害の程度別・身体障害者手帳の有無別　外出の状況】（%）

		調査数［ｎ］（人）	できている	どちらかといえば、できている	どちらかといえば、できていない	できていない	無回答
全　体		306	29.7	36.9	15.0	11.1	7.2
程度別の障害	療育手帳Ａ	176	17.6	38.1	18.2	17.0	9.1
	療育手帳Ｂ	115	47.8	36.5	11.3	1.7	2.6
	無回答	15	33.3	26.7	6.7	13.3	20.0
身体障害者手帳の有無別	持っている	94	21.3	38.3	12.8	14.9	12.8
	持っていない	183	32.2	39.3	16.4	9.3	2.7
	無回答	29	41.4	17.2	13.8	10.3	17.2

（２）外出時の移動手段

問２１　外出の時の移動手段は何ですか。（○はあてはまるものすべて）

【図表 3-2-59　外出時の移動手段】（ｎ＝306）



外出時の移動手段では、「自家用車」（52.0%）が最も多く、次いで「徒歩」（39.9%）、「バス」（35.6%）、「ＪＲ・電車」（26.1%）となっている。

障害の程度別にみると、療育手帳Ａでは「自家用車」（64.8%）、Ｂでは「徒歩」（51.3%）が最も多い。また、障害の程度が軽い療育手帳Ｂでは、Ａに比べて「ＪＲ・電車」（39.1%）や「バス」（49.6%）などの公共交通機関や、「自転車・バイク」（41.7%）、「徒歩」（51.3%）の割合が高い。

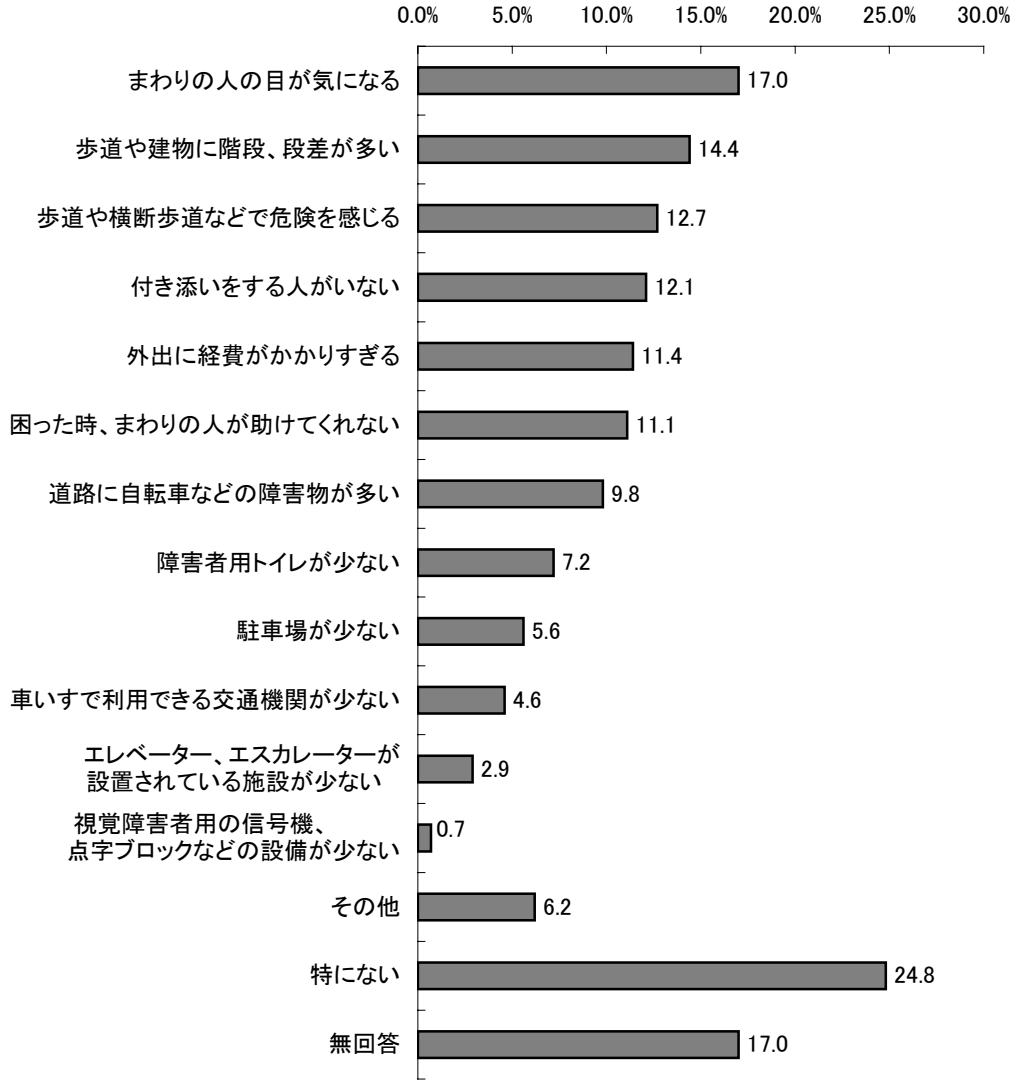
【図表 3-2-60　障害の程度別・身体障害者手帳の有無別　外出時の移動手段】（%）

		調査数［ｎ］（人）	自家用車	徒歩	バス	ＪＲ・電車	自転車・バイク	タクシー	車いす	その他	無回答
全　体		306	52.0	39.9	35.6	26.1	22.2	19.3	6.5	4.2	6.5
程度別の障害	療育手帳Ａ	176	64.8	33.0	26.7	18.2	8.0	20.5	9.1	5.1	9.7
	療育手帳Ｂ	115	36.5	51.3	49.6	39.1	41.7	16.5	1.7	2.6	0.9
	無回答	15	20.0	33.3	33.3	20.0	40.0	26.7	13.3	6.7	13.3
無帳害身別の者体有手障	持っている	94	46.8	21.3	18.1	10.6	12.8	19.1	21.3	6.4	9.6
	持っていない	183	56.3	49.7	43.7	36.1	28.4	20.2	－	2.7	4.4
	無回答	29	41.4	37.9	41.4	13.8	13.8	13.8	－	6.9	10.3

（３）外出時に不便や困難を感じること

問２２　外出するとき、あなたはどのようなことに不便や困難を感じることが多いですか。
（○は３つまで）

【図表 3-2-61　外出時に不便や困難を感じること】（ｎ＝306）



外出時に不便や困難を感じることは、「特にない」（24.8%）が最も多いが、具体的な内容では「まわりの人の目が気になる」（17.0%）が最も多く、次いで「歩道や建物に階段、段差が多い」（14.4%）となっている。

身体障害者手帳の有無別にみると、身体障害がある人（手帳を持っている人）は、身体障害がない人に比べて「歩道や建物に階段、段差が多い」（29.8%）や「車いすで利用できる交通機関が少ない」（12.8%）、「障害者用トイレが少ない」（12.8%）などのハード面について不便や困難を感じている人の割合が高い。

【図表 3-2-62　障害の程度別・身体障害者手帳の有無別　外出時に不便や困難を感じること】（%）

		調査数［n］（人）	まわりの人の目が気になる	歩道や建物に階段、段差が多い	歩道や横断歩道などで危険を感じる	付き添いをする人がいない	外出に経費がかかりすぎる	困った時、まわりの人が助けてくれない	道路に自転車などの障害物が多い
全　体		306	17.0	14.4	12.7	12.1	11.4	11.1	9.8
程度別の障害	療育手帳Ａ	176	15.3	18.8	13.1	14.8	11.4	8.5	8.0
	療育手帳Ｂ	115	20.0	7.8	12.2	8.7	12.2	13.9	13.0
	無回答	15	13.3	13.3	13.3	6.7	6.7	20.0	6.7
無帳別の身体障害者手障	持っている	94	8.5	29.8	10.6	8.5	12.8	6.4	12.8
	持っていない	183	21.3	8.2	14.8	14.2	11.5	13.1	9.8
	無回答	29	17.2	3.4	6.9	10.3	6.9	13.8	－

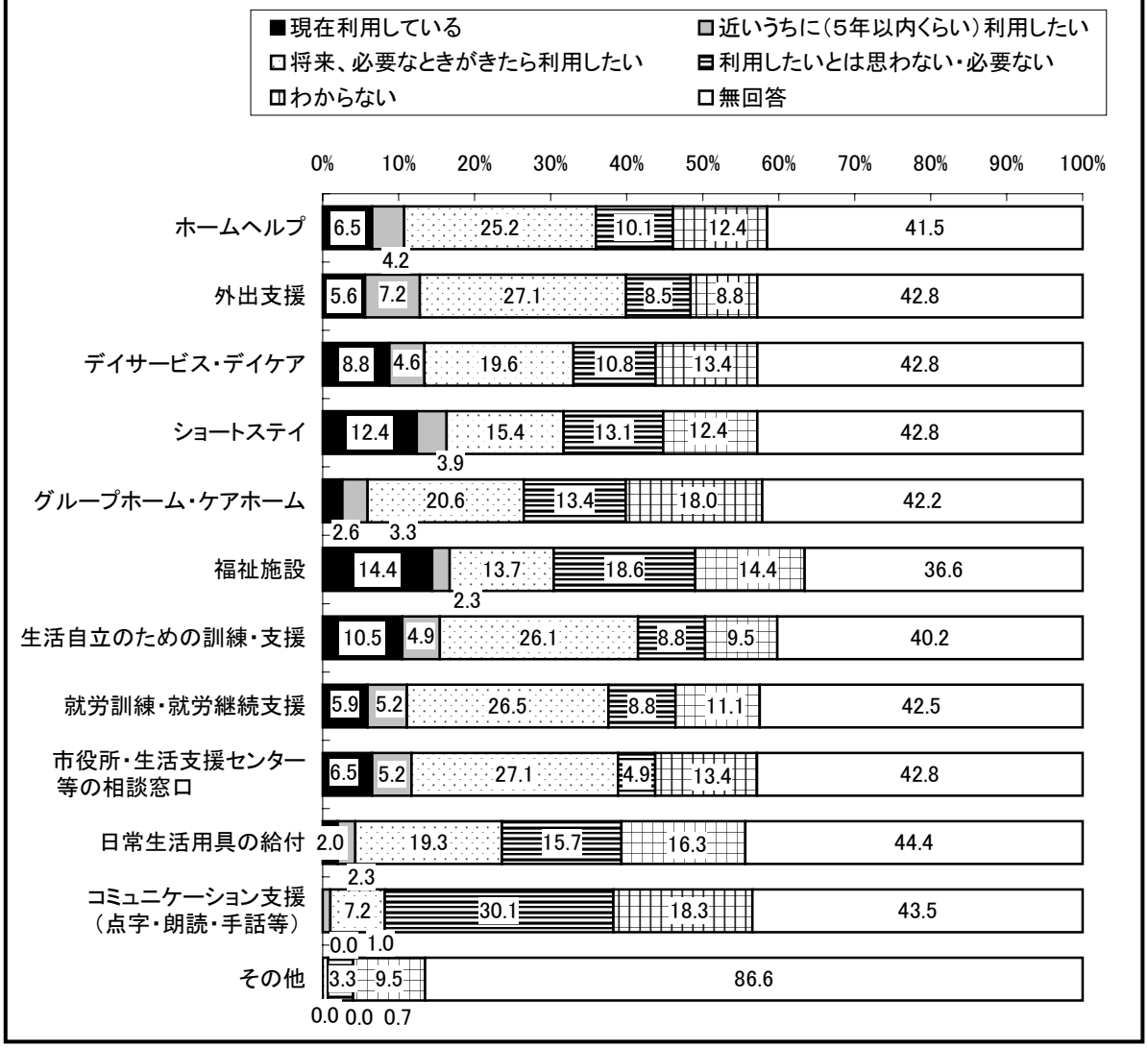
		調査数［n］（人）	障害者用トイレが少ない	駐車場が少ない	車いすで利用できる交通機関が少ない	エレベーター、エスカレーターが設置されている施設が少ない	視覚障害者用の信号機、点字ブロックなどの設備が少ない	その他	特にない	無回答
全　体		306	7.2	5.6	4.6	2.9	0.7	6.2	24.8	17.0
程度別の障害	療育手帳Ａ	176	10.8	6.3	6.3	2.8	0.6	6.3	17.0	22.2
	療育手帳Ｂ	115	2.6	5.2	2.6	2.6	0.9	6.1	36.5	7.8
	無回答	15	－	－	－	6.7	－	6.7	26.7	26.7
無帳別の身体障害者手障	持っている	94	12.8	8.5	12.8	5.3	2.1	6.4	16.0	23.4
	持っていない	183	5.5	4.9	1.1	1.6	－	6.0	29.0	10.9
	無回答	29	－	－	－	3.4	－	6.9	27.6	34.5

５．福祉サービスについて

（１）福祉サービスの利用状況・利用意向

問２３　①～⑫の福祉サービスについて、あてはまるものにそれぞれ１つだけ○をつけてください。①～④のサービスで「1（現在利用している）」または「2（近いうちに[5年以内くらい]利用したい）」に○をつけた方は、利用している、または利用したいと思うサービス日数や時間数を記入してください。

【図表 3-2-63　福祉サービスの利用状況・利用意向】（ｎ＝306）



現在実施されている、もしくは、今後、障害者自立支援法により新たに導入される予定の福祉サービスについて、利用状況と利用意向をたずねたが、いずれも４割前後が無回答であった。

利用意向（「近いうちに（5 年以内くらい）利用したい」＋「将来、必要なときがきたら利用したい」）は、「外出支援」（34.3%）で最も高く、次いで「市役所・生活支援センター等の相談窓口」（32.4%）、「就労訓練・就労継続支援」（31.7%）、「生活自立のための訓練・支援」（31.0%）、「ホームヘルプ」（29.4%）となっている。

年齢別に利用意向をみると、17 歳以下は、他の年齢層に比べて全般的に利用意向が高く、特に「就労訓練・就労継続支援」（67.6%）や「外出支援」（64.9%）、「生活自立のための訓練・支援」（63.5%）で高く、６割を超えている。

障害の程度別に利用意向をみると、重度の療育手帳Ａでは「外出支援」（35.2%）や「ホームヘルプ」（32.4%）等の介護サービスの利用意向が高いが、療育手帳Ｂでは「就労訓練・就労継続支援」（42.6%）や「生活自立のための訓練・支援」（38.3%）などの訓練等を行うサービスの利用意向が高い。

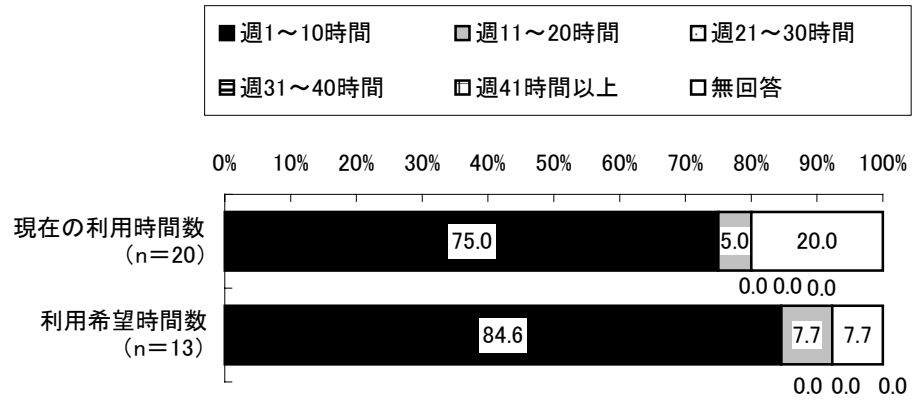
【図表 3-2-64　年齢別・障害の程度別　福祉サービスの利用意向（「近いうちに（5 年以内くらい）利用したい」「将来、必要なときがきたら利用したい」の合計値）】（%）

		調査数［ｎ］（人）	ホームヘルプ	外出支援	デイサービス・デイケア	ショートステイ	グループホーム・ケアホーム	福祉施設
全　体		306	29.4	34.3	24.2	19.3	23.9	16.0
年齢別	１７歳以下	74	55.4	64.9	54.1	33.8	40.5	25.7
	１８～２９歳	61	27.9	34.4	26.2	21.3	32.8	14.8
	３０～３９歳	69	21.7	26.1	15.9	14.5	17.4	14.5
	４０～４９歳	37	24.3	21.6	10.8	8.1	13.5	10.8
	５０～５９歳	35	11.4	11.4	5.7	11.4	5.7	8.6
	６０～６４歳	8	－	12.5	－	12.5	25.0	12.5
	６５歳以上	11	18.2	27.3	－	9.1	－	18.2
	無回答	11	18.2	18.2	9.1	18.2	18.2	9.1
程度別の障害	療育手帳Ａ	176	32.4	35.2	24.4	20.5	26.7	20.5
	療育手帳Ｂ	115	25.2	33.0	24.3	19.1	20.9	11.3
	無回答	15	26.7	33.3	20.0	6.7	13.3	－

		調査数［ｎ］（人）	生活自立のための訓練・支援	就労訓練・就労継続支援	市役所・生活支援センター等の相談窓口	日常生活用具の給付	コミュニケーション支援（点字・朗読・手話等）	その他	無回答
全　体		306	31.0	31.7	32.4	21.6	8.2	0.7	44.4
年齢別	１７歳以下	74	63.5	67.6	59.5	32.4	14.9	－	20.3
	１８～２９歳	61	41.0	44.3	41.0	27.9	13.1	－	23.0
	３０～３９歳	69	24.6	18.8	26.1	20.3	5.8	2.9	55.1
	４０～４９歳	37	5.4	10.8	8.1	2.7	2.7	－	70.3
	５０～５９歳	35	2.9	5.7	14.3	22.9	2.9	－	65.7
	６０～６４歳	8	－	－	25.0	12.5	－	－	62.5
	６５歳以上	11	9.1	－	－	－	－	－	72.7
	無回答	11	18.2	9.1	18.2	9.1	－	－	63.6
程度別の障害	療育手帳Ａ	176	26.7	26.1	30.7	26.7	7.4	0.6	43.8
	療育手帳Ｂ	115	38.3	42.6	35.7	16.5	10.4	0.9	43.5
	無回答	15	26.7	13.3	26.7	－	－	－	60.0

（２）ホームヘルプの利用状況・利用意向

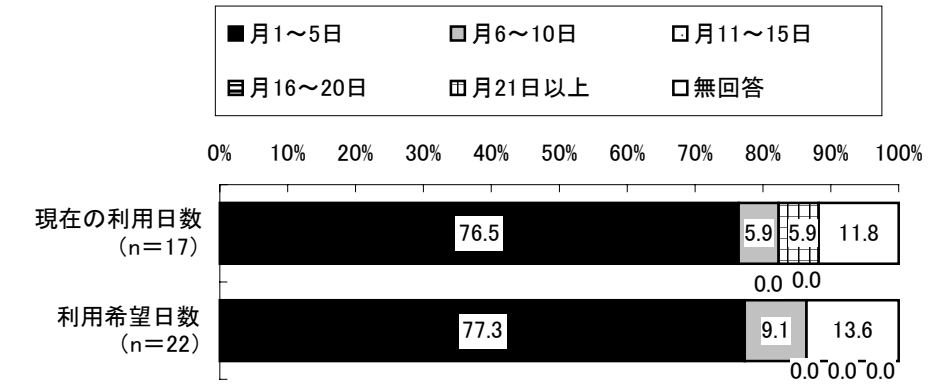
【図表 3-2-65　ホームヘルプの利用時間数・利用希望時間数】



ホームヘルプ利用者の現在の利用時間数は、「週 1～10 時間」（75.0%）が最も多く、利用希望者の希望時間数でも「週 1～10 時間」（84.6%）が最も多い。

（３）外出支援の利用状況・利用意向

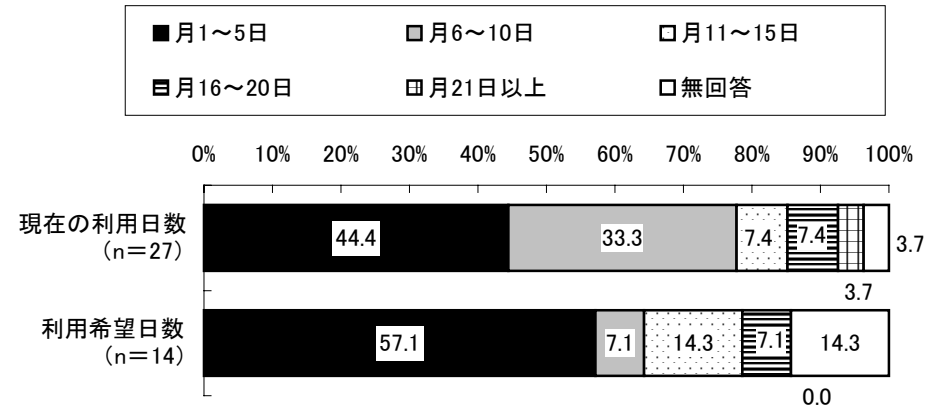
【図表 3-2-66　外出支援の利用日数・利用希望日数】



外出支援利用者の現在の利用日数は、「月 1～5 日」（76.5%）が最も多く、利用希望者の希望日数でも「月 1～5 日」（77.3%）が最も多い。

（４）デイサービス・デイケアの利用状況・利用意向

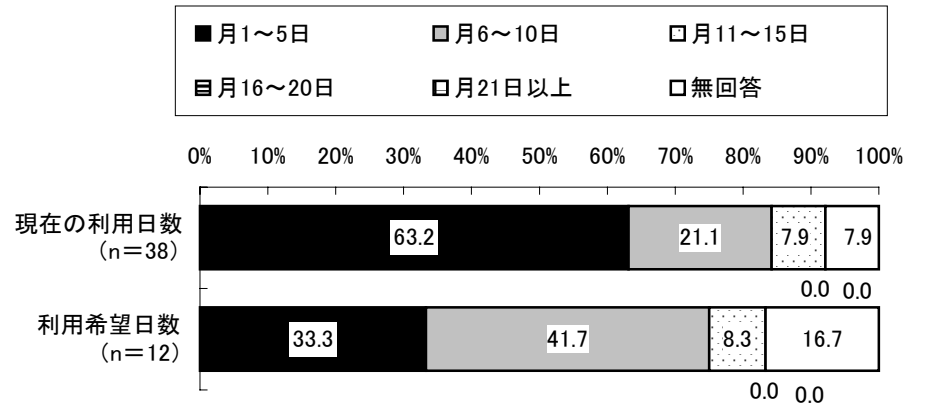
【図表 3-2-67　デイサービス・デイケアの利用日数・利用希望日数】



通所サービス利用者の現在の利用日数は、「月 1～5 日」（44.4%）が最も多く、次いで「月 6～10 日」（33.3%）となっている。利用希望者の希望日数では「月 1～5 日」（57.1%）が最も多い。

（５）ショートステイの利用状況・利用意向

【図表 3-2-68　ショートステイの利用日数・利用希望日数】



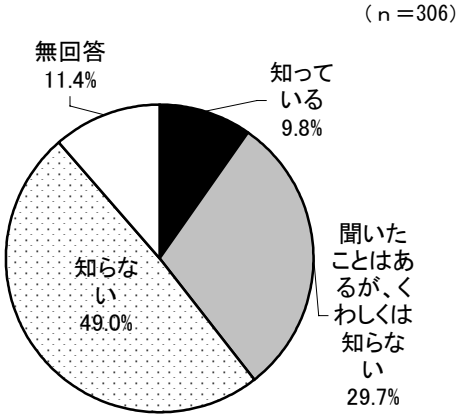
ショートステイ利用者の現在の利用日数は、「月 1～5 日」（63.2%）が最も多く、利用希望者の希望日数では「月 6～10 日」（41.7%）が最も多い。

（６）権利擁護関連制度の認知度・利用意向

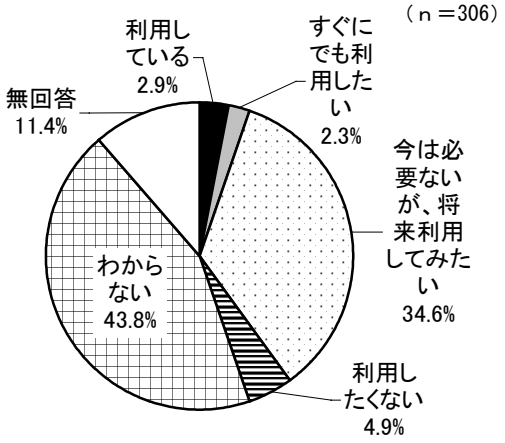
問２４　障害がある方が、地域で自立して生活できるように、ご本人の意思に基づいて、福祉サービスの利用手続きや生活費・財産管理のお手伝いなどをする制度として、「地域福祉権利擁護事業」や「成年後見制度」があります。あなたはこのような制度や事業をご存知ですか。（○は１つだけ）

問２５　「地域福祉権利擁護事業」や「成年後見制度」を利用したいと思いますか。（○は１つだけ）

【図表 3-2-69　権利擁護関連制度の認知度】



【図表 3-2-70　権利擁護関連制度の利用意向】



「地域福祉権利擁護事業」や「成年後見制度」等の判断能力が不十分な知的・精神障害者等の権利擁護に関する制度について、認知度と利用意向をたずねた。

これらの権利擁護関連制度の認知度では、「知らない」（49.0%）が半数を占めて最も多く、次いで「聞いたことはあるが、くわしくは知らない」（29.7%）となっており、「知っている」（9.8%）は１割となっている。

利用意向では「わからない」（43.8%）が最も多く、次いで「今は必要ないが、将来利用してみたい」（34.6%）となっている。また、「利用している」は 2.9%、「すぐにでも利用したい」は 2.3%となっている。

年齢別にみると、認知度（「知っている」の割合）は、30 歳代（15.9%）・40 歳代（16.2%）で他の年齢層に比べてやや高い。

【図表 3-2-71　年齢別・障害の程度別　権利擁護関連制度の認知度】（%）

		調査数［ｎ］（人）	知っている	聞いたことはあるが、くわしくは知らない	知らない	無回答
全　体		306	9.8	29.7	49.0	11.4
年齢別	１７歳以下	74	8.1	29.7	60.8	1.4
	１８～２９歳	61	3.3	47.5	44.3	4.9
	３０～３９歳	69	15.9	24.6	47.8	11.6
	４０～４９歳	37	16.2	24.3	43.2	16.2
	５０～５９歳	35	－	28.6	42.9	28.6
	６０～６４歳	8	12.5	－	75.0	12.5
	６５歳以上	11	9.1	27.3	36.4	27.3
	無回答	11	27.3	9.1	36.4	27.3
程度別の障害	療育手帳Ａ	176	11.9	32.4	40.3	15.3
	療育手帳Ｂ	115	6.1	26.1	63.5	4.3
	無回答	15	13.3	26.7	40.0	20.0

【図表 3-2-72　年齢別・障害の程度別　権利擁護関連制度の利用意向】（%）

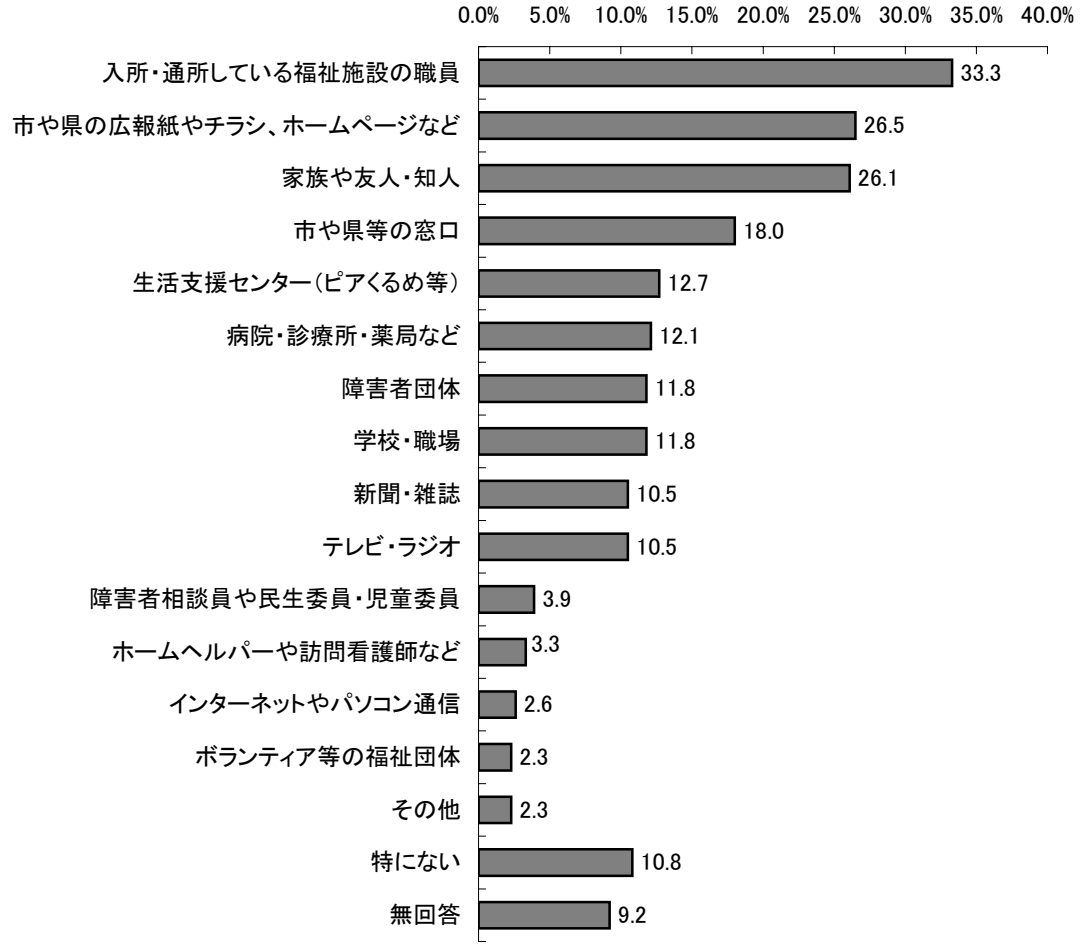
		調査数［ｎ］（人）	利用している	すぐにでも利用したい	今は必要ないが、将来利用してみたい	利用したくない	わからない	無回答
全　体		306	2.9	2.3	34.6	4.9	43.8	11.4
年齢別	１７歳以下	74	－	－	50.0	2.7	43.2	4.1
	１８～２９歳	61	－	－	45.9	6.6	44.3	3.3
	３０～３９歳	69	4.3	7.2	29.0	5.8	40.6	13.0
	４０～４９歳	37	10.8	2.7	24.3	5.4	43.2	13.5
	５０～５９歳	35	2.9	－	14.3	5.7	48.6	28.6
	６０～６４歳	8	－	－	－	－	87.5	12.5
	６５歳以上	11	9.1	9.1	27.3	9.1	27.3	18.2
	無回答	11	－	－	36.4	－	36.4	27.3
障害の程度別	療育手帳Ａ	176	4.5	2.8	36.4	4.5	38.1	13.6
	療育手帳Ｂ	115	0.9	1.7	32.2	6.1	52.2	7.0
	無回答	15	－	－	33.3	－	46.7	20.0

６．情報収集について

（１）福祉に関する情報入手先

問２６　福祉サービスや福祉制度の情報をどこから得ていますか。（○はあてはまるものすべて）

【図表 3-2-73　福祉に関する情報入手先】（ｎ＝306）



福祉サービスや福祉制度に関する情報の入手先は、「入所・通所している福祉施設の職員」（33.3%）が最も多く、次いで「市や県の広報紙やチラシ、ホームページなど」（26.5%）、「家族や友人・知人」（26.1%）、「市や県等の窓口」（18.0%）となっている。

年齢別にみると、17 歳以下では「家族や友人・知人」（48.6%）が最も多いが、18 歳以上では「入所・通所している福祉施設の職員」が最も多い。

障害の程度別にみると、療育手帳Ａ・Ｂともに「入所・通所している福祉施設の職員」が最も多いが、「生活支援センター（ピアくるめ等）」の割合は療育手帳Ａ（9.7%）よりＢ（19.1%）で高い。

【図表 3-2-74　年齢別・障害の程度別　福祉に関する情報入手先】（%）

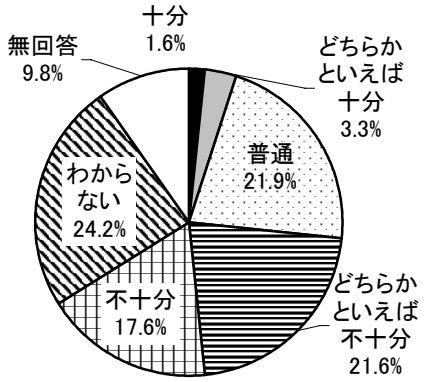
		調査数［n］（人）	入所・通所している福祉施設の職員	市や県の広報紙やチラシ、ホームページなど	家族や友人・知人	市や県等の窓口	生活支援センター（ピアくるめ等）	病院・診療所・薬局など	障害者団体	学校・職場
全　体		306	33.3	26.5	26.1	18.0	12.7	12.1	11.8	11.8
年齢別	１７歳以下	74	17.6	40.5	48.6	18.9	14.9	24.3	17.6	44.6
	１８～２９歳	61	45.9	29.5	26.2	21.3	19.7	6.6	13.1	4.9
	３０～３９歳	69	46.4	20.3	13.0	14.5	10.1	7.2	14.5	－
	４０～４９歳	37	32.4	21.6	21.6	21.6	10.8	10.8	8.1	－
	５０～５９歳	35	25.7	14.3	14.3	17.1	2.9	11.4	－	－
	６０～６４歳	8	50.0	12.5	12.5	12.5	12.5	－	－	－
	６５歳以上	11	18.2	18.2	9.1	－	18.2	18.2	－	－
	無回答	11	18.2	27.3	36.4	27.3	9.1	－	18.2	－
障害の程度別	療育手帳Ａ	176	37.5	27.8	29.5	21.0	9.7	14.2	14.8	10.8
	療育手帳Ｂ	115	27.0	24.3	20.9	12.2	19.1	9.6	7.0	13.0
	無回答	15	33.3	26.7	26.7	26.7	－	6.7	13.3	13.3

		調査数［n］（人）	新聞・雑誌	テレビ・ラジオ	障害者相談員や民生委員・児童委員	ホームヘルパーや訪問看護師など	インターネットやパソコン通信	ボランティア等の福祉団体	その他	特にない	無回答
全　体		306	10.5	10.5	3.9	3.3	2.6	2.3	2.3	10.8	9.2
年齢別	１７歳以下	74	13.5	12.2	2.7	1.4	5.4	4.1	5.4	6.8	2.7
	１８～２９歳	61	16.4	9.8	4.9	6.6	3.3	3.3	1.6	6.6	4.9
	３０～３９歳	69	8.7	5.8	2.9	2.9	1.4	－	1.4	14.5	7.2
	４０～４９歳	37	5.4	13.5	－	2.7	2.7	2.7	－	8.1	13.5
	５０～５９歳	35	5.7	5.7	8.6	2.9	－	－	2.9	17.1	22.9
	６０～６４歳	8	12.5	12.5	－	12.5	－	12.5	－	12.5	12.5
	６５歳以上	11	－	18.2	18.2	－	－	－	－	18.2	18.2
	無回答	11	9.1	27.3	－	－	－	－	－	18.2	18.2
障害の程度別	療育手帳Ａ	176	11.9	9.1	3.4	4.5	2.8	1.7	0.6	8.5	10.2
	療育手帳Ｂ	115	8.7	12.2	3.5	1.7	2.6	3.5	5.2	13.9	6.1
	無回答	15	6.7	13.3	13.3	－	－	－	－	13.3	20.0

（２）福祉に関する情報の入手状況

問２７　福祉に関する情報を十分に入手できていますか。（○は１つだけ）

【図表 3-2-75　福祉に関する情報の入手状況】（ｎ＝306）



福祉に関する情報を十分に入手できているかについては、「わからない」（24.2%）が最も多く、次いで「普通」（21.9%）、「どちらかといえば不十分」（21.6%）、「不十分」（17.6%）となっている。情報が十分に入手できていないと感じている人（「どちらかといえば不十分」＋「不十分」）は 39.2%と 4 割を占めており、情報を十分に入手できていると感じている人（「十分」＋「どちらかといえば十分」）の 4.9%を大きく上回っている。

年齢別にみると、情報が十分に入手できていないと感じている人（「どちらかといえば不十分」＋「不十分」）の割合は、若年層ほど高く、17 歳以下では 63.5%と 6 割を超えている。

【図表 3-2-76　年齢別・障害の程度別　福祉に関する情報の入手状況】（%）

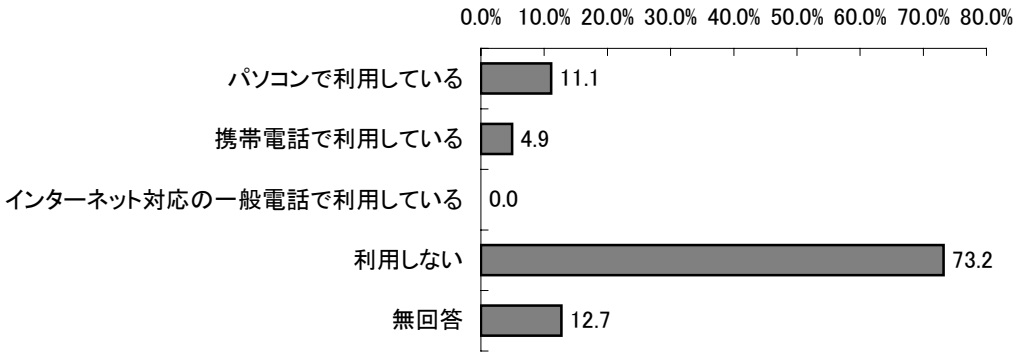
		調査数［ｎ］（人）	十分	どちらかといえば十分	普通	どちらかといえば不十分	不十分	わからない	無回答
全　体		306	1.6	3.3	21.9	21.6	17.6	24.2	9.8
年齢別	１７歳以下	74	－	4.1	16.2	40.5	23.0	12.2	4.1
	１８～２９歳	61	－	－	31.1	31.1	13.1	23.0	1.6
	３０～３９歳	69	1.4	2.9	20.3	15.9	20.3	30.4	8.7
	４０～４９歳	37	8.1	2.7	21.6	2.7	21.6	32.4	10.8
	５０～５９歳	35	2.9	5.7	25.7	8.6	14.3	25.7	17.1
	６０～６４歳	8	－	12.5	12.5	－	12.5	37.5	25.0
	６５歳以上	11	－	－	27.3	－	－	45.5	27.3
	無回答	11	－	9.1	9.1	18.2	9.1	9.1	45.5
程度別の障害	療育手帳Ａ	176	0.6	3.4	24.4	20.5	16.5	22.2	12.5
	療育手帳Ｂ	115	2.6	1.7	20.0	24.3	18.3	27.8	5.2
	無回答	15	6.7	13.3	6.7	13.3	26.7	20.0	13.3

（３）インターネットの利用状況・利用内容

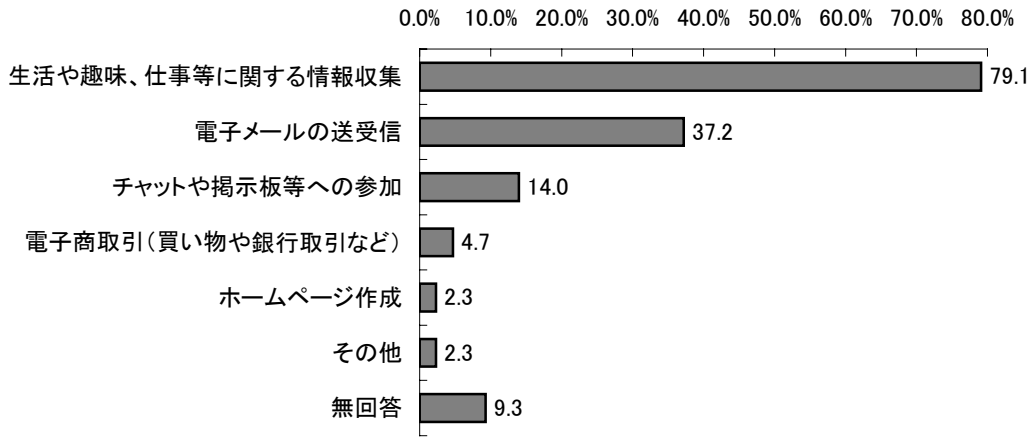
問２８　　家庭や職場などでインターネットを利用することがありますか。（○はあてはまるものすべて）

問２８－１　（問２８で１～３のいずれかを選んだ方のみお答えください）インターネットをどのようなことに利用していますか。（○はあてはまるものすべて）

【図表 3-2-77　インターネットの利用状況】（ｎ＝306）



【図表 3-2-78　インターネットの利用内容】（ｎ＝43）



インターネットの利用状況は、「利用しない」（73.2%）が７割を超えて最も多く、次いで「パソコンで利用している」（11.1%）となっている。

また、インターネットの利用内容は、「生活や趣味、仕事等に関する情報収集」（79.1%）が最も多く、次いで「電子メールの送受信」（37.2%）となっている。

年齢別にみると、「パソコンで利用している」の割合は、17 歳以下（27.0%）や 18～29 歳（11.5%）で高い。一方、「携帯電話で利用している」の割合は 40 歳代（10.8%）で高い。

障害の程度別にみると、療育手帳ＢはＡに比べて「パソコンで利用している」（14.8%）や「携帯電話で利用している」（10.4%）等のインターネットを利用している人の割合が高い。

【図表 3-2-79　年齢別・障害の程度別　インターネットの利用状況】（%）

		調査数［ｎ］（人）	パソコンで利用している	携帯電話で利用している	インターネット対応の一般電話で利用している	利用しない	無回答
全　体		306	11.1	4.9	－	73.2	12.7
年齢別	１７歳以下	74	27.0	5.4	－	64.9	6.8
	１８～２９歳	61	11.5	6.6	－	77.0	4.9
	３０～３９歳	69	4.3	2.9	－	82.6	13.0
	４０～４９歳	37	8.1	10.8	－	64.9	18.9
	５０～５９歳	35	2.9	2.9	－	71.4	22.9
	６０～６４歳	8	－	－	－	87.5	12.5
	６５歳以上	11	－	－	－	81.8	18.2
	無回答	11	－	－	－	63.6	36.4
程度別の障害	療育手帳Ａ	176	9.1	1.1	－	73.9	16.5
	療育手帳Ｂ	115	14.8	10.4	－	72.2	7.0
	無回答	15	6.7	6.7	－	73.3	13.3

【図表 3-2-80　年齢別・障害の程度別　インターネットの利用内容】（%）

		調査数［ｎ］（人）	生活や趣味、仕事等に関する情報収集	電子メールの送受信	チャットや掲示板等への参加	電子商取引（買い物や銀行取引など）	ホームページ作成	その他	無回答
全　体		43	79.1	37.2	14.0	4.7	2.3	2.3	9.3
年齢別	１７歳以下	21	95.2	33.3	14.3	4.8	－	－	－
	１８～２９歳	11	63.6	45.5	9.1	9.1	9.1	－	9.1
	３０～３９歳	3	100.0	66.7	66.7	－	－	－	－
	４０～４９歳	6	50.0	16.7	－	－	－	16.7	33.3
	５０～５９歳	2	50.0	50.0	－	－	－	－	50.0
	６０～６４歳	－	－	－	－	－	－	－	－
	６５歳以上	－	－	－	－	－	－	－	－
	無回答	－	－	－	－	－	－	－	－
程度別の障害	療育手帳Ａ	17	88.2	29.4	11.8	5.9	5.9	－	11.8
	療育手帳Ｂ	24	75.0	41.7	16.7	4.2	－	4.2	4.2
	無回答	2	50.0	50.0	－	－	－	－	50.0

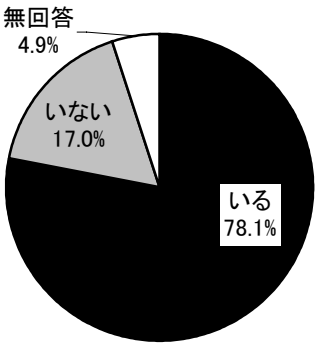
７．災害対策について

（１）災害時に頼れる人

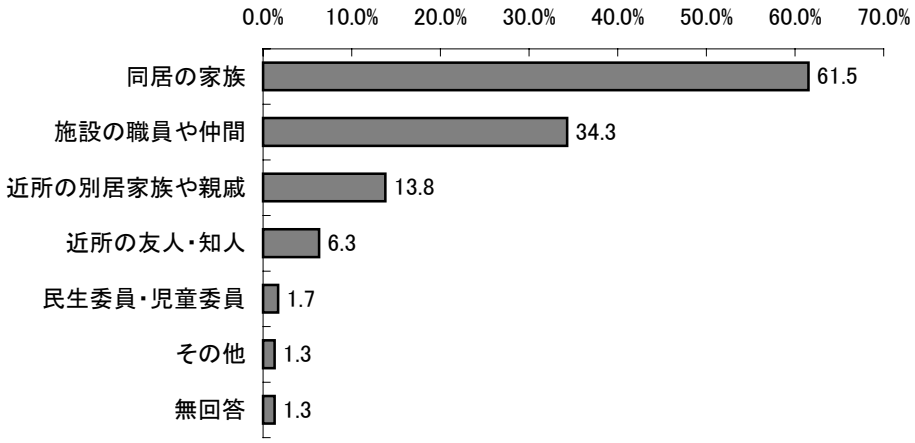
問２９　　地震や台風等の大きな災害が起きた場合に、安全の確保などで頼れる人が身近にいますか。

問２９－１　（問２９で「１.いる」と答えた方のみお答えください）それはどなたですか。（○はあてはまるものすべて）

【図表 3-2-81　災害時に頼れる人の有無】（ｎ＝306）



【図表 3-2-82　災害時に頼れる人】（ｎ＝239）



回答者の８割弱（78.1%）は災害時に頼れる人がおり、その内訳では「同居の家族」（61.5%）が最も多く、次いで「施設の職員や仲間」（34.3%）となっている。

【図表 3-2-83　家族構成別（在宅生活者のみ）　災害時に頼れる人の有無】（%）

		調査数［ｎ］（人）	いる	いない	無回答
全　体		223	78.5	19.7	1.8
家族構成別	一人暮らし	5	80.0	20.0	－
	夫婦のみ	11	63.6	36.4	－
	父母等の家族と同居	188	78.2	20.2	1.6
	家族以外の人と同居	11	100.0	－	－
	無回答	8	75.0	12.5	12.5

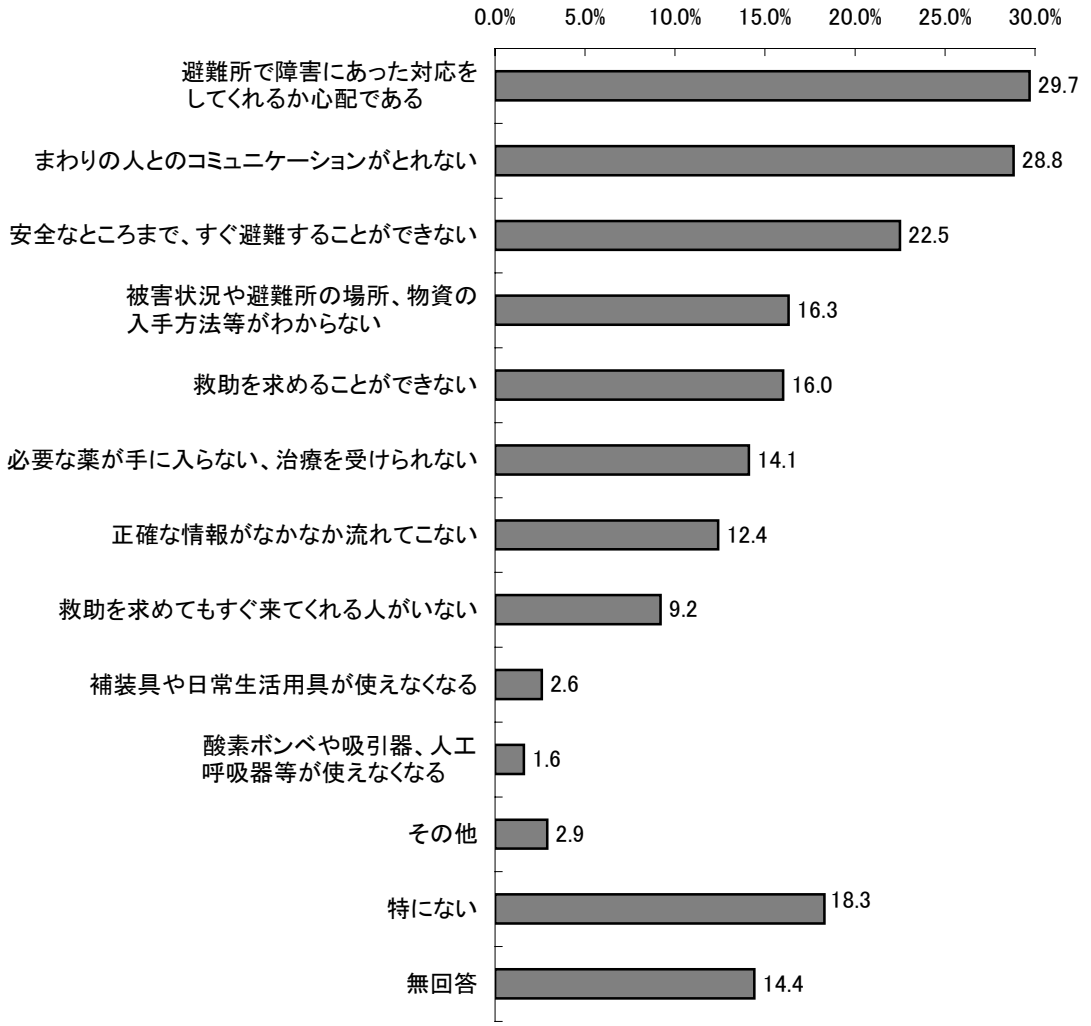
【図表 3-2-84　家族構成別（在宅生活者のみ）　災害時に頼れる人】（%）

		調査数［n］（人）	同居の家族	施設の職員や仲間	近所の別居家族や親戚	近所の友人・知人	民生委員・児童委員	その他	無回答
全　体		175	81.1	14.9	16.0	8.6	1.7	1.7	0.6
家族構成別	一人暮らし	4	－	25.0	50.0	25.0	－	－	－
	夫婦のみ	7	71.4	－	57.1	－	－	－	－
	父母等の家族と同居	147	89.1	9.5	15.0	8.8	2.0	－	0.7
	家族以外の人と同居	11	18.2	81.8	－	－	－	27.3	－
	無回答	6	66.7	33.3	－	16.7	－	－	－

（２）災害時に心配なこと

問３０　地震や台風等の大きな災害が起きた場合、どのようなことが心配ですか。（○は３つまで）

【図表 3-2-85　災害時に心配なこと】（ｎ＝306）



災害が起きた場合に心配なことは、「避難所で障害にあった対応をしてくれるか心配である」（29.7%）が最も多く、次いで、「まわりの人とのコミュニケーションがとれない」（28.8%）、「安全なところまで、すぐ避難することができない」（22.5%）となっている。

障害の程度別にみると、療育手帳Ａでは「避難所で障害にあった対応をしてくれるか心配である」（33.5%）が最も多いが、Ｂでは「特にない」（27.8%）が最も多く、具体的内容では「被害状況や避難所の場所、物資の入手方法等がわからない」（27.0%）が最も多い。

身体障害者手帳の有無別にみると、身体障害がある人（手帳を持っている人）はない人に比べて「安全なところまで、すぐ避難することができない」（31.9%）や「補装具や日常生活用具が使えなくなる」（5.3%）などの割合が高い。

【図表 3-2-86　障害の程度別・身体障害者手帳の有無別・家族構成別（在宅生活者のみ）
災害時に心配なこと】（%）

		調査数［ｎ］（人）	避難所で障害にあった対応をしてくれるか心配である	まわりの人とのコミュニケーションがとれない	安全なところまで、すぐ避難することができない	被害状況や避難所の場所、物資の入手方法等がわからない	救助を求めることができない	必要な薬が手に入らない、治療を受けられない
全　体		306	29.7	28.8	22.5	16.3	16.0	14.1
程度別の障害	療育手帳Ａ	176	33.5	29.5	26.1	10.8	18.8	14.2
	療育手帳Ｂ	115	25.2	29.6	15.7	27.0	11.3	15.7
	無回答	15	20.0	13.3	33.3	－	20.0	－
身体障害者手帳の有無別	持っている	94	31.9	19.1	31.9	13.8	13.8	14.9
	持っていない	183	30.6	35.0	18.0	17.5	16.4	14.8
	無回答	29	17.2	20.7	20.7	17.2	20.7	6.9
家族構成別	一人暮らし	5	20.0	60.0	20.0	40.0	－	20.0
	夫婦のみ	11	9.1	36.4	27.3	27.3	27.3	18.2
	父母等の家族と同居	188	37.8	31.9	25.0	17.0	17.0	17.6
	家族以外の人と同居	11	36.4	18.2	－	27.3	－	9.1
	無回答	8	37.5	12.5	12.5	25.0	25.0	－

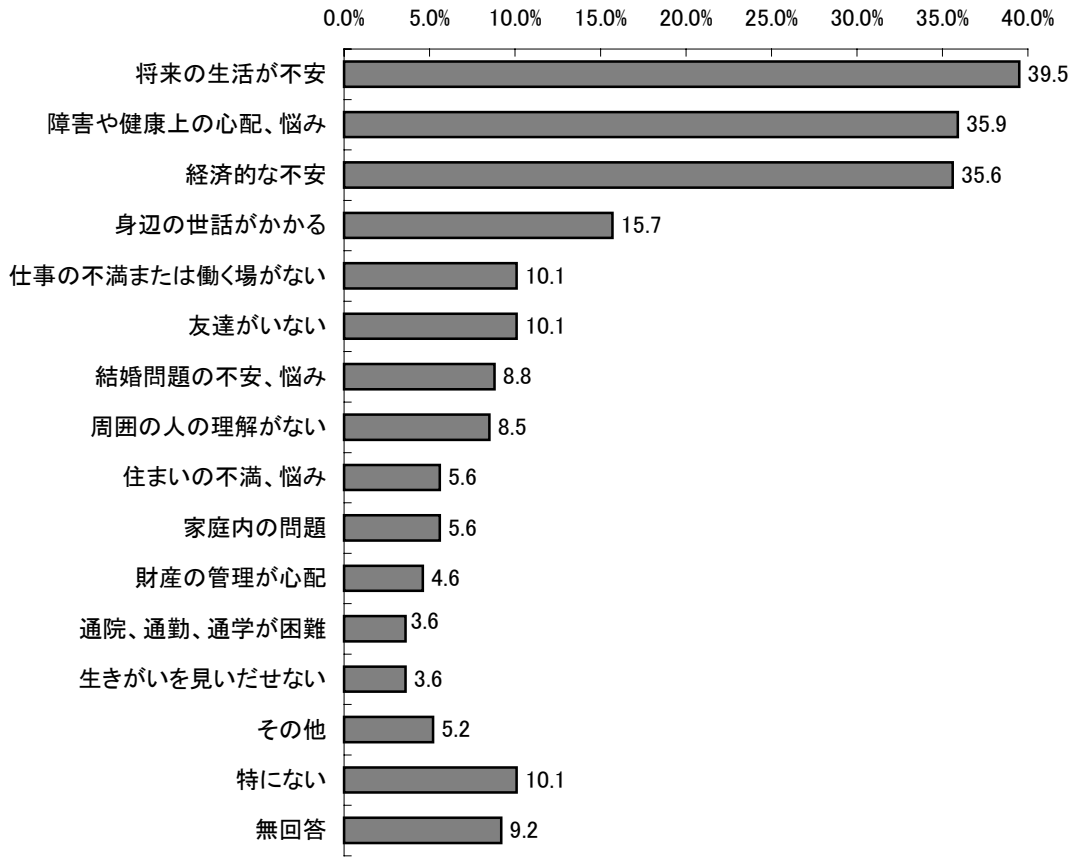
		調査数［ｎ］（人）	正確な情報がなかなか流れてこない	救助を求めてもすぐ来てくれる人がいない	補装具や日常生活用具が使えなくなる	酸素ボンベや吸引器、人工呼吸器等が使えなくなる	その他	特にない	無回答
全　体		306	12.4	9.2	2.6	1.6	2.9	18.3	14.4
程度別の障害	療育手帳Ａ	176	9.1	7.4	3.4	2.8	3.4	12.5	18.8
	療育手帳Ｂ	115	17.4	11.3	1.7	－	2.6	27.8	5.2
	無回答	15	13.3	13.3	－	－	－	13.3	33.3
身体障害者手帳の有無別	持っている	94	12.8	7.4	5.3	3.2	3.2	12.8	22.3
	持っていない	183	12.0	9.3	1.1	1.1	3.3	21.3	9.8
	無回答	29	13.8	13.8	3.4	－	－	17.2	17.2
家族構成別	一人暮らし	5	20.0	－	－	－	－	－	20.0
	夫婦のみ	11	36.4	18.2	－	－	－	9.1	－
	父母等の家族と同居	188	14.4	10.6	4.3	2.1	2.1	18.6	6.9
	家族以外の人と同居	11	9.1	9.1	－	－	9.1	36.4	9.1
	無回答	8	－	12.5	－	－	12.5	－	37.5

８．生活全般について

（１）困っていることや将来に対する不安・悩み

問３１　現在の生活の中で困っていることや、将来に対する不安・悩みなどはありますか。（○は３つまで）

【図表 3-2-87　困っていることや将来に対する不安・悩み】（ｎ＝306）



現在の生活の中で困っていることや将来に対する不安・悩みは、「将来の生活が不安」（39.5%）が最も多く、次いで「障害や健康上の心配、悩み」（35.9%）、「経済的な不安」（35.6%）となっている。

年齢別にみても、すべての年齢層で「経済的な不安」「障害や健康上の心配、悩み」「将来の生活が不安」の 3 項目が上位を占めているが、17 歳以下では他の年齢層に比べて「身辺の世話がかかる」（23.0%）や「周囲の人の理解がない」（17.6%）の割合が高い。また、40 歳代では「仕事の不満または働く場がない」（18.9%）や「結婚問題の不安、悩み」（18.9%）の割合が高い。

障害の程度別にみると、療育手帳ＡはＢに比べて「身辺の世話がかかる」（21.0%）の割合が高く、ＢはＡに比べて「仕事の不満または働く場がない」（19.1%）や「結婚問題の不安、悩み」（15.7%）の割合が高い。

【図表 3-2-88　年齢別・障害の程度別　困っていることや将来に対する不安・悩み】（%）

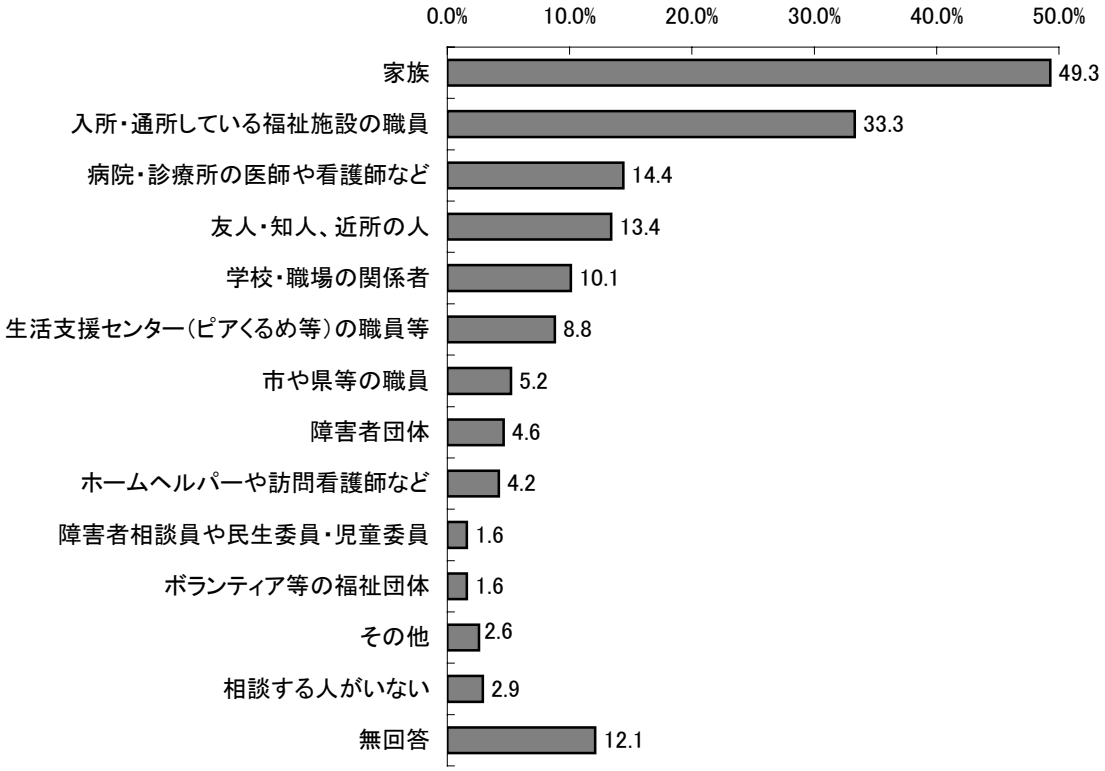
		調査数［ｎ］（人）	将来の生活が不安	障害や健康上の心配、悩み	経済的な不安	身辺の世話がかかる	仕事の不満または働く場がない	友達がいない	結婚問題の不安、悩み	周囲の人の理解がない
全　体		306	39.5	35.9	35.6	15.7	10.1	10.1	8.8	8.5
年齢別	１７歳以下	74	45.9	44.6	33.8	23.0	13.5	10.8	8.1	17.6
	１８～２９歳	61	49.2	44.3	47.5	13.1	6.6	8.2	14.8	8.2
	３０～３９歳	69	36.2	24.6	42.0	11.6	10.1	13.0	4.3	7.2
	４０～４９歳	37	40.5	27.0	35.1	13.5	18.9	16.2	18.9	2.7
	５０～５９歳	35	25.7	40.0	25.7	11.4	8.6	－	2.9	－
	６０～６４歳	8	12.5	25.0	12.5	－	－	12.5	－	－
	６５歳以上	11	18.2	45.5	9.1	9.1	－	9.1	－	9.1
	無回答	11	45.5	18.2	18.2	45.5	－	9.1	9.1	9.1
程度別の障害	療育手帳Ａ	176	37.5	38.6	32.4	21.0	5.1	8.0	2.3	7.4
	療育手帳Ｂ	115	43.5	33.0	40.0	7.0	19.1	12.2	15.7	9.6
	無回答	15	33.3	26.7	40.0	20.0	－	20.0	33.3	13.3

		調査数［ｎ］（人）	住まいの不満、悩み	家庭内の問題	財産の管理が心配	通院、通勤、通学が困難	生きがいを見いだせない	その他	特にない	無回答
全　体		306	5.6	5.6	4.6	3.6	3.6	5.2	10.1	9.2
年齢別	１７歳以下	74	4.1	6.8	5.4	4.1	4.1	5.4	5.4	2.7
	１８～２９歳	61	6.6	4.9	4.9	4.9	3.3	3.3	8.2	1.6
	３０～３９歳	69	2.9	8.7	7.2	5.8	4.3	4.3	11.6	11.6
	４０～４９歳	37	10.8	－	2.7	－	5.4	5.4	10.8	8.1
	５０～５９歳	35	5.7	5.7	－	－	2.9	5.7	17.1	20.0
	６０～６４歳	8	12.5	－	－	－	－	－	37.5	25.0
	６５歳以上	11	9.1	9.1	9.1	9.1	－	9.1	－	36.4
	無回答	11	－	－	－	－	－	18.2	9.1	9.1
程度別の障害	療育手帳Ａ	176	5.7	5.7	4.5	3.4	2.3	5.7	8.0	13.6
	療育手帳Ｂ	115	5.2	6.1	5.2	3.5	6.1	3.5	13.0	2.6
	無回答	15	6.7	－	－	6.7	－	13.3	13.3	6.7

（２）困っていることや将来に対する不安・悩みの相談先

問３２　生活の中で困っていることや、将来に対する不安や悩みを誰（どこ）に相談していますか。（○はあてはまるものすべて）

【図表 3-2-89　困っていることや将来に対する不安・悩みの相談先】（ｎ＝306）



困っていることや将来に対する不安や悩みの相談先は、「家族」（49.3%）が最も多く、次いで「入所・通所している福祉施設の職員」（33.3%）、「病院・診療所の医師や看護師など」（14.4%）、「友人・知人、近所の人」（13.4%）となっている。

年齢別にみると、17 歳以下では他の年齢層に比べて「家族」（60.8%）や「学校・職場の関係者」（37.8%）、「友人・知人、近所の人」（33.8%）、「病院・診療所の医師や看護師など」（25.7%）の割合が高い。

在宅生活者の家族構成別にみると、一人暮らしや夫婦のみの世帯では、他の世帯に比べて「生活支援センター（ピアくるめ等）の職員等」や「ホームヘルパーや訪問看護師など」の割合が高い。

【図表 3-2-90　年齢別・家族構成別（在宅生活者のみ）
困っていることや将来に対する不安・悩みの相談先】（%）

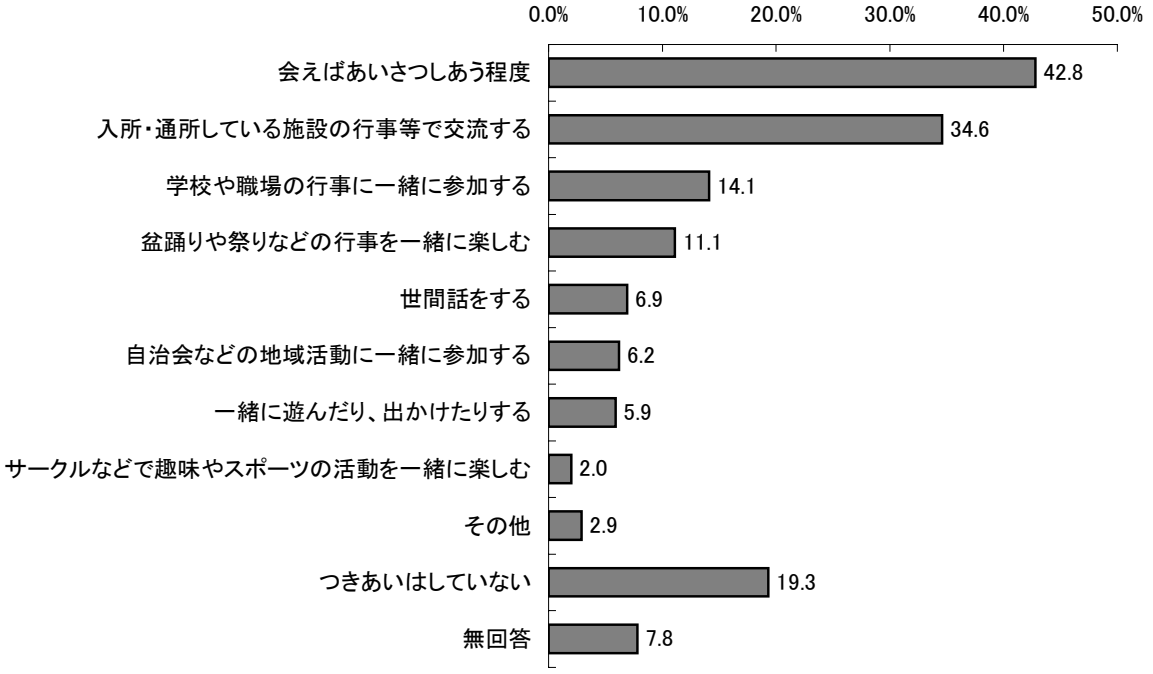
		調査数［n］（人）	家族	入所・通所している福祉施設の職員	病院・診療所の医師や看護師など	友人・知人、近所の人	学校・職場の関係者	生活支援センター（ピアくるめ等）の職員等	市や県等の職員
全　体		306	49.3	33.3	14.4	13.4	10.1	8.8	5.2
年齢別	１７歳以下	74	60.8	16.2	25.7	33.8	37.8	5.4	2.7
	１８～２９歳	61	52.5	45.9	6.6	11.5	4.9	11.5	6.6
	３０～３９歳	69	44.9	34.8	8.7	8.7	－	8.7	5.8
	４０～４９歳	37	45.9	32.4	13.5	－	－	13.5	8.1
	５０～５９歳	35	42.9	40.0	11.4	2.9	－	2.9	5.7
	６０～６４歳	8	12.5	50.0	25.0	25.0	－	12.5	12.5
	６５歳以上	11	45.5	36.4	27.3	－	－	9.1	－
	無回答	11	45.5	36.4	9.1	－	－	18.2	－
家族構成別	一人暮らし	5	20.0	－	20.0	20.0	－	40.0	20.0
	夫婦のみ	11	63.6	－	27.3	－	－	27.3	－
	父母等の家族と同居	188	62.2	23.4	17.6	18.6	16.5	10.6	5.3
	家族以外の人と同居	11	36.4	63.6	18.2	－	－	9.1	9.1
	無回答	8	－	12.5	－	37.5	－	12.5	－

		調査数［n］（人）	障害者団体	ホームヘルパーや訪問看護師など	障害者相談員や民生委員・児童委員	ボランティア等の福祉団体	その他	相談する人がいない	無回答
全　体		306	4.6	4.2	1.6	1.6	2.6	2.9	12.1
年齢別	１７歳以下	74	5.4	4.1	1.4	2.7	5.4	－	5.4
	１８～２９歳	61	1.6	3.3	3.3	3.3	1.6	3.3	6.6
	３０～３９歳	69	8.7	7.2	1.4	1.4	1.4	2.9	20.3
	４０～４９歳	37	－	2.7	－	－	2.7	5.4	13.5
	５０～５９歳	35	－	2.9	2.9	－	－	5.7	17.1
	６０～６４歳	8	－	12.5	－	－	－	－	12.5
	６５歳以上	11	－	－	－	－	－	9.1	18.2
	無回答	11	27.3	－	－	－	9.1	－	9.1
家族構成別	一人暮らし	5	－	40.0	－	－	－	－	－
	夫婦のみ	11	9.1	18.2	－	－	－	27.3	－
	父母等の家族と同居	188	4.3	3.7	2.1	2.7	3.2	1.6	8.0
	家族以外の人と同居	11	－	－	－	－	9.1	－	9.1
	無回答	8	12.5	12.5	－	－	－	12.5	37.5

（３）地域の人とのつきあい

問３３　あなたは、ふだん地域の方とどのようなおつきあいをしていますか。（○はあてはまるものすべて）

【図表 3-2-91　地域の人とのつきあい】（ｎ＝306）



地域の人とのつきあいについては、「会えばあいさつしあう程度」（42.8%）が最も多く、次いで「入所・通所している施設の行事等で交流する」（34.6%）となっている。また、「つきあいはしていない」も 19.3%を占めている。

現在の住まい別にみると、福祉施設入所者は、在宅生活者に比べて「入所・通所している施設の行事等で交流する」（68.0%）が 7 割弱と高く、その他の項目は全般的に低い。

【図表 3-2-92　年齢別・現在の住まい別　地域の人とのつきあい】（%）

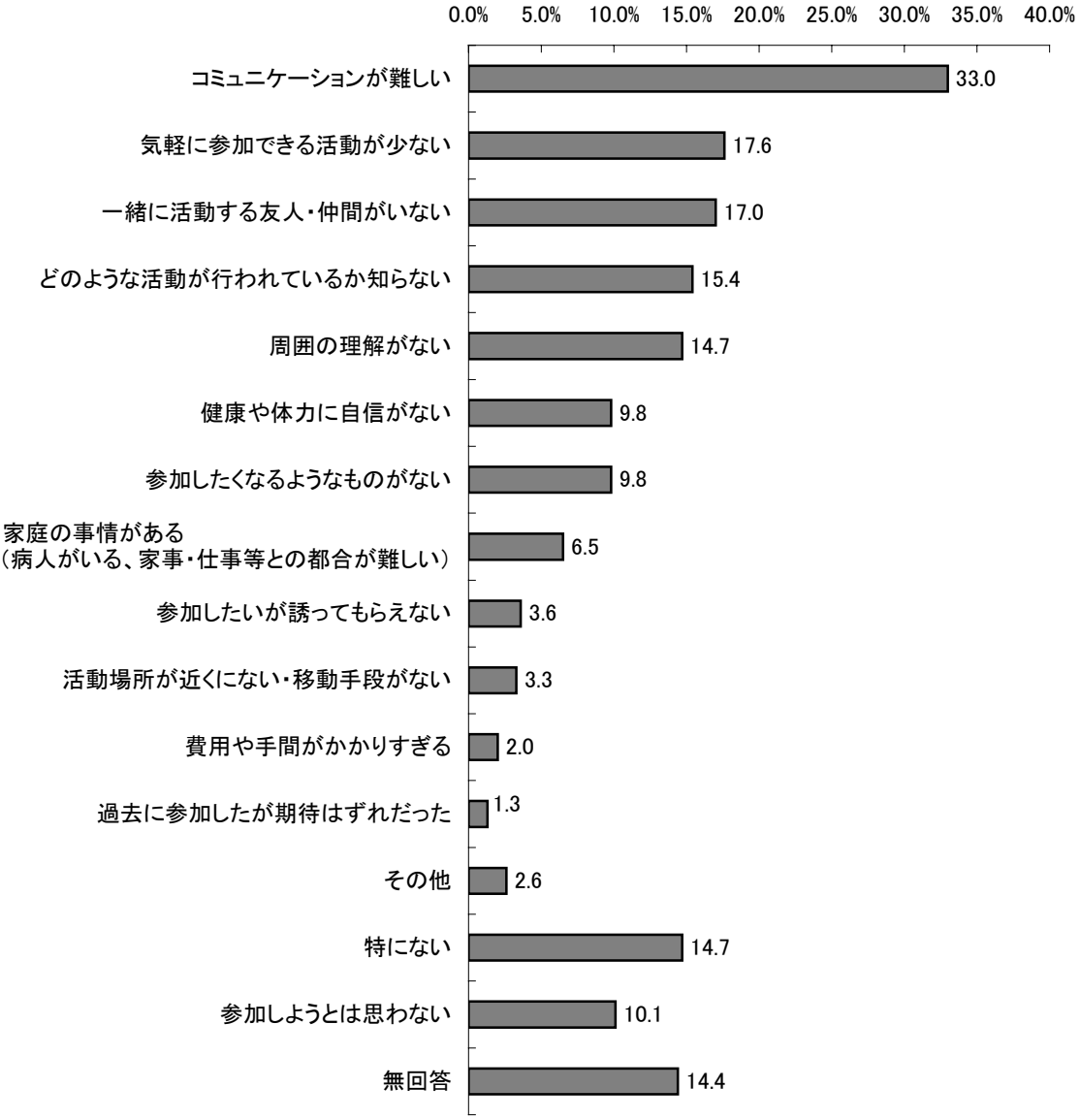
		調査数［n］（人）	会えばあいさつしあう程度	入所・通所している施設の行事等で交流する	学校や職場の行事に一緒に参加する	盆踊りや祭りなどの行事を一緒に楽しむ	世間話をする
全　体		306	42.8	34.6	14.1	11.1	6.9
年齢別	１７歳以下	74	55.4	14.9	40.5	17.6	8.1
	１８～２９歳	61	39.3	45.9	6.6	4.9	1.6
	３０～３９歳	69	44.9	40.6	7.2	8.7	5.8
	４０～４９歳	37	37.8	37.8	2.7	13.5	8.1
	５０～５９歳	35	31.4	45.7	－	11.4	11.4
	６０～６４歳	8	62.5	37.5	－	12.5	－
	６５歳以上	11	27.3	18.2	－	－	9.1
	無回答	11	18.2	36.4	27.3	18.2	18.2
現在の住まい別	福祉施設	75	17.3	68.0	1.3	14.7	1.3
	福祉施設以外（持ち家等）	223	52.5	24.7	18.8	10.3	9.0
	無回答	8	12.5	－	－	－	－

		調査数［n］（人）	自治会などの地域活動に一緒に参加する	一緒に遊んだり、出かけたりする	サークルなどで趣味やスポーツの活動を一緒に楽しむ	その他	つきあいはしていない	無回答
全　体		306	6.2	5.9	2.0	2.9	19.3	7.8
年齢別	１７歳以下	74	14.9	9.5	1.4	5.4	17.6	4.1
	１８～２９歳	61	1.6	1.6	1.6	1.6	18.0	4.9
	３０～３９歳	69	1.4	5.8	1.4	2.9	18.8	8.7
	４０～４９歳	37	2.7	5.4	2.7	－	24.3	8.1
	５０～５９歳	35	8.6	8.6	－	－	20.0	11.4
	６０～６４歳	8	－	－	－	－	－	12.5
	６５歳以上	11	－	－	－	9.1	27.3	27.3
	無回答	11	18.2	9.1	18.2	9.1	27.3	9.1
現在の住まい別	福祉施設	75	1.3	4.0	4.0	2.7	18.7	9.3
	福祉施設以外（持ち家等）	223	8.1	6.7	1.3	3.1	20.2	4.5
	無回答	8	－	－	－	－	－	87.5

（４）地域活動に参加するときに妨げとなること

問３４　あなたが地域の行事や活動に参加しようとした場合、そのさまたげとなることはありますか。（○はあてはまるものすべて）

【図表 3-2-93　地域活動に参加するときに妨げとなること】（ｎ＝306）



地域の行事や活動に参加するときに妨げとなることは、「コミュニケーションが難しい」（33.0%）が最も多く、次いで「気軽に参加できる活動が少ない」（17.6%）、「一緒に活動する友人・仲間がいない」（17.0%）となっている。また、「特にない」が 14.7%、「参加しようとは思わない」が 10.1%となっている。

年齢別にみると、18～29 歳では他の年齢層に比べて「気軽に参加できる活動が少ない」（37.7%）や「一緒に活動する友人・仲間がいない」（24.6%）、「周囲の理解がない」（24.6%）、「参加したくなるようなものがない」（18.0%）などの割合が高い。

現在の住まい別にみると、福祉施設入所者は、在宅生活者に比べて「特にない」（21.3%）や「参加しようとは思わない」（13.3%）の割合が高い。

【図表 3-2-94　年齢別・現在の住まい別　地域活動に参加するときに妨げとなること】（%）

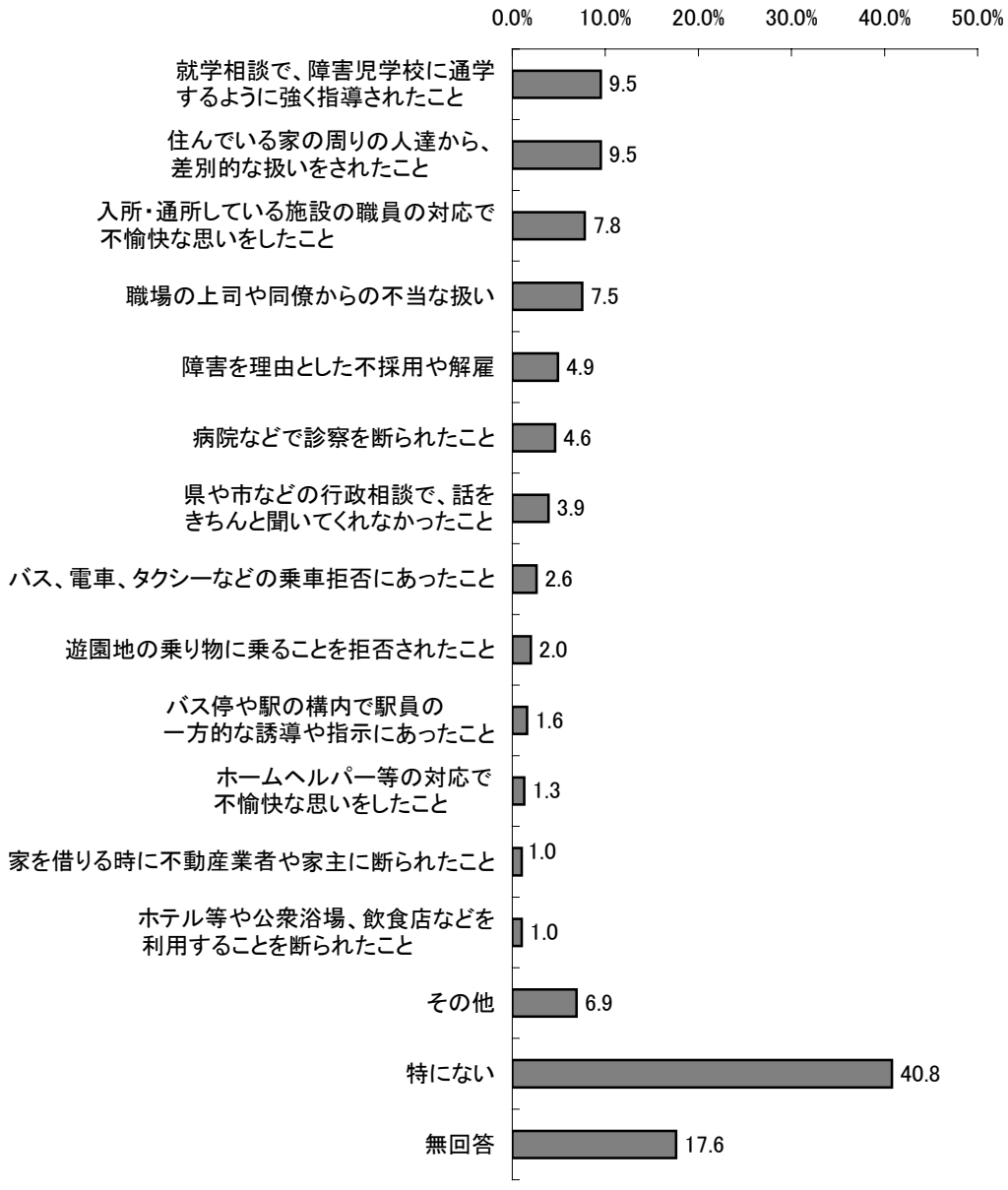
		調査数［ｎ］（人）	コミュニケーションが難しい	気軽に参加できる活動が少ない	一緒に活動する友人・仲間がいない	どのような活動が行われているか知らない	周囲の理解がない	健康や体力に自信がない	参加したくなるようなものがない	家庭の事情がある（病人がいる、家事・仕事等との都合が難しい）
全　体		306	33.0	17.6	17.0	15.4	14.7	9.8	9.8	6.5
年齢別	１７歳以下	74	54.1	17.6	20.3	10.8	17.6	12.2	9.5	8.1
	１８～２９歳	61	42.6	37.7	24.6	9.8	24.6	1.6	18.0	9.8
	３０～３９歳	69	26.1	15.9	18.8	20.3	15.9	11.6	5.8	7.2
	４０～４９歳	37	18.9	16.2	13.5	29.7	2.7	8.1	10.8	2.7
	５０～５９歳	35	14.3	2.9	5.7	5.7	－	17.1	2.9	2.9
	６０～６４歳	8	12.5	－	－	12.5	12.5	－	12.5	－
	６５歳以上	11	9.1	－	9.1	36.4	18.2	18.2	9.1	9.1
	無回答	11	27.3	－	9.1	9.1	18.2	9.1	9.1	－
現在の住まいの別	福祉施設	75	24.0	13.3	6.7	5.3	10.7	6.7	8.0	5.3
	福祉施設以外（持ち家等）	223	37.2	19.7	21.1	19.3	16.6	11.2	10.8	7.2
	無回答	8	－	－	－	－	－	－	－	－

		調査数［ｎ］（人）	参加したいが誘ってもらえない	活動場所が近くにない・移動手段がない	費用や手間がかかりすぎる	過去に参加したが期待はずれだった	その他	特にない	参加しようとは思わない	無回答
全　体		306	3.6	3.3	2.0	1.3	2.6	14.7	10.1	14.4
年齢別	１７歳以下	74	4.1	4.1	2.7	2.7	6.8	14.9	1.4	6.8
	１８～２９歳	61	3.3	6.6	－	－	－	11.5	11.5	6.6
	３０～３９歳	69	7.2	2.9	1.4	2.9	1.4	13.0	13.0	11.6
	４０～４９歳	37	2.7	－	2.7	－	－	13.5	16.2	16.2
	５０～５９歳	35	－	2.9	2.9	－	2.9	17.1	20.0	34.3
	６０～６４歳	8	－	－	－	－	－	37.5	－	37.5
	６５歳以上	11	－	－	－	－	－	18.2	9.1	27.3
	無回答	11	－	－	9.1	－	9.1	18.2	－	27.3
現在の住まいの別	福祉施設	75	－	2.7	1.3	－	1.3	21.3	13.3	22.7
	福祉施設以外（持ち家等）	223	4.9	3.6	2.2	1.8	3.1	13.0	9.0	9.0
	無回答	8	－	－	－	－	－	－	12.5	87.5

（５）差別的な扱いを受けたり、いやな思いをした経験の有無

問３５　あなたはこれまでに次のような差別的な扱いを受けたり、いやな思いをしたことがありますか。（○はあてはまるものすべて）

【図表 3-2-95　差別的な扱いを受けたり、いやな思いをした経験の有無】（ｎ＝306）



差別的な扱いを受けたり、いやな思いをした経験については「特にない」（40.8%）が最も多いが、具体的な内容では「就学相談で、障害児学校に通学するように強く指導されたこと」（9.5%）や「住んでいる家の周りの人達から、差別的な扱いをされたこと」（9.5%）などがあがっている。

年齢別にみても、すべての年齢層で「特にない」が最も多いが、いやな思い等をした内容は、20 歳代以下では他の年齢層に比べて「就学相談で、障害児学校に通学するように強く指導されたこと」や「住んでいる家の周りの人達から、差別的な扱いをされたこと」の割合が高い。また、18 歳～30 歳代では他の年齢層に比べて「職場の上司や同僚からの不当な扱い」の割合が高い。

【図表 3-2-96　年齢別・障害の程度別　差別的な扱いを受けたり、いやな思いをした経験の有無】（%）

		調査数［ｎ］（人）	就学相談で、障害児学校に通学するように強く指導されたこと	住んでいる家の周りの人達から、差別的な扱いをされたこと	入所・通所している施設の職員の対応で不愉快な思いをしたこと	職場の上司や同僚からの不当な扱い	障害を理由とした不採用や解雇	病院などで診察を断られたこと	県や市などの行政相談で、話をきちんと聞いてくれなかったこと	バス、電車、タクシーなどの乗車拒否にあったこと
全　体		306	9.5	9.5	7.8	7.5	4.9	4.6	3.9	2.6
年齢別	１７歳以下	74	16.2	16.2	9.5	1.4	4.1	8.1	6.8	4.1
	１８～２９歳	61	18.0	14.8	6.6	13.1	4.9	8.2	1.6	3.3
	３０～３９歳	69	7.2	7.2	8.7	13.0	8.7	2.9	4.3	1.4
	４０～４９歳	37	2.7	5.4	5.4	5.4	2.7	－	2.7	－
	５０～５９歳	35	－	2.9	5.7	2.9	2.9	2.9	2.9	2.9
	６０～６４歳	8	－	－	12.5	－	－	－	－	12.5
	６５歳以上	11	－	－	－	9.1	－	－	9.1	－
	無回答	11	－	－	18.2	9.1	9.1	－	－	－
程度別の障害	療育手帳Ａ	176	11.4	8.5	8.5	1.1	2.3	5.1	4.0	2.3
	療育手帳Ｂ	115	7.0	10.4	7.0	17.4	7.8	4.3	4.3	3.5
	無回答	15	6.7	13.3	6.7	6.7	13.3	－	－	－

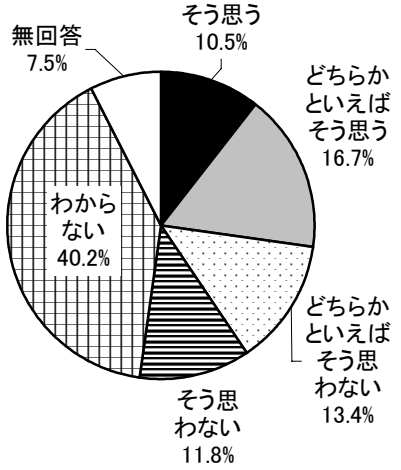
		調査数［ｎ］（人）	遊園地の乗り物に乗ることを拒否されたこと	バス停や駅の構内で駅員の一方的な誘導や指示にあったこと	ホームヘルパー等の対応で不愉快な思いをしたこと	家を借りる時に不動産業者や家主に断られたこと	ホテル等や公衆浴場、飲食店などを利用することを断られたこと	その他	特にない	無回答
全　体		306	2.0	1.6	1.3	1.0	1.0	6.9	40.8	17.6
年齢別	１７歳以下	74	1.4	1.4	1.4	－	2.7	16.2	40.5	9.5
	１８～２９歳	61	3.3	1.6	1.6	1.6	－	4.9	34.4	8.2
	３０～３９歳	69	－	2.9	2.9	1.4	－	2.9	42.0	15.9
	４０～４９歳	37	8.1	－	－	2.7	2.7	2.7	54.1	18.9
	５０～５９歳	35	－	2.9	－	－	－	5.7	45.7	31.4
	６０～６４歳	8	－	－	－	－	－	－	37.5	37.5
	６５歳以上	11	－	－	－	－	－	－	27.3	63.6
	無回答	11	－	－	－	－	－	9.1	27.3	27.3
程度別の障害	療育手帳Ａ	176	2.8	1.7	1.1	1.1	1.7	6.8	41.5	21.0
	療育手帳Ｂ	115	0.9	1.7	1.7	0.9	－	7.0	41.7	10.4
	無回答	15	－	－	－	－	－	6.7	26.7	33.3

９．福祉全般について

（１）ノーマライゼーションのまちづくり

問３６　「障害がある人もない人も、ともに生きていくことができる社会こそ普通の社会である。障害がある人も職場で一緒に働いていたり、地域活動やいろいろな催し物にともに参加し、行動できるような社会にすべきである。」という考え方を一般に『ノーマライゼーション』と呼びます。久留米市は、この『ノーマライゼーション』の考え方を活かしたまちづくりをしていると思いますか。（○は１つだけ）

【図表 3-2-97　ノーマライゼーションのまちづくり】（ｎ＝306）



久留米市がノーマライゼーションを活かしたまちづくりをしているかという問に対しては、「わからない」（40.2%）との回答が最も多い。ノーマライゼーションを活かしたまちづくりをしていると思っている人は 27.2%（「そう思う」:10.5%、「どちらかといえばそう思う」:16.7%）、思わない人は 25.2%（「どちらかといえばそう思わない」: 13.4%、「そう思わない」: 11.8%）であり、ほぼ同率となっている。

年齢別にみると、17 歳以下では「どちらかといえばそう思う」（28.4%）が最も多いが、それ以外の年齢層では「わからない」が最も多い。概ね年齢が若いほど、ノーマライゼーションを活かしたまちづくりをしているとは思わない人の割合が高く、20 歳代以下では 3 割を超えている（17 歳以下：35.2%、18～29 歳：36.1%）。

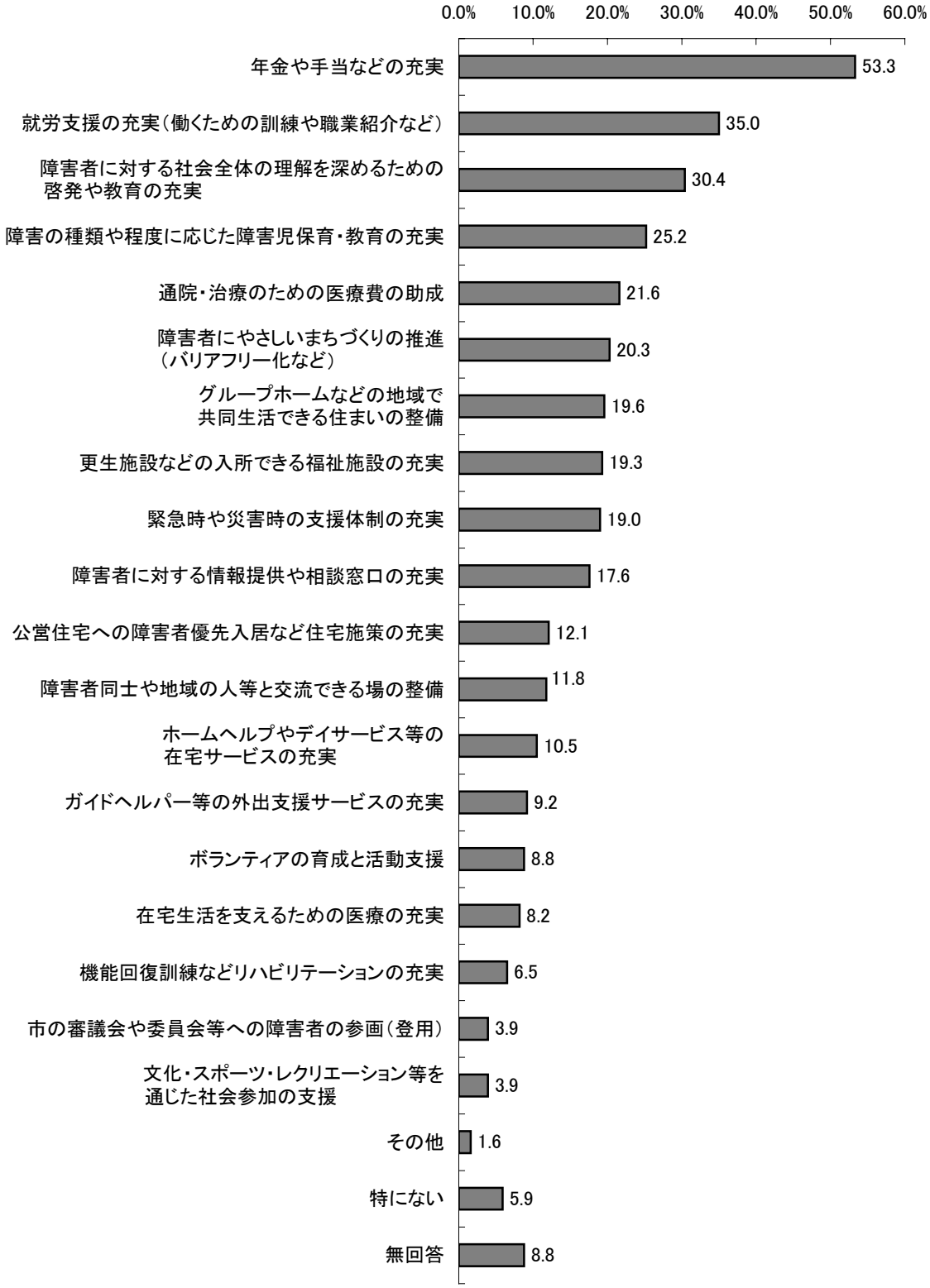
【図表 3-2-98　年齢別・障害の程度別　ノーマライゼーションのまちづくり】（%）

		調査数［ｎ］（人）	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	わからない	無回答
全　体		306	10.5	16.7	13.4	11.8	40.2	7.5
年齢別	１７歳以下	74	6.8	28.4	17.6	17.6	27.0	2.7
	１８～２９歳	61	8.2	19.7	21.3	14.8	32.8	3.3
	３０～３９歳	69	17.4	11.6	7.2	11.6	46.4	5.8
	４０～４９歳	37	18.9	8.1	10.8	10.8	45.9	5.4
	５０～５９歳	35	2.9	11.4	8.6	－	60.0	17.1
	６０～６４歳	8	12.5	12.5	－	－	62.5	12.5
	６５歳以上	11	9.1	－	9.1	－	45.5	36.4
	無回答	11	－	18.2	18.2	18.2	27.3	18.2
程度別の障害	療育手帳Ａ	176	9.7	16.5	14.2	11.9	38.6	9.1
	療育手帳Ｂ	115	13.0	16.5	13.9	10.4	42.6	3.5
	無回答	15	－	20.0	－	20.0	40.0	20.0

（２）障害者福祉施策として重点的に進めるべきこと

問３７　今後、障害がある人の自立と福祉の向上のための支援として、久留米市はどのようなことを重点的に進めるべきだと考えますか。（○は５つまで）

【図表 3-2-99　障害者福祉施策として重点的に進めるべきこと】（ｎ＝306）



障害者福祉施策として久留米市が重点的に進めるべきことは、「年金や手当などの充実」（53.3%）が最も多く、次いで「就労支援の充実（働くための訓練や職業紹介など）」（35.0%）、「障害者に対する社会全体の理解を深めるための啓発や教育の充実」（30.4%）、「障害の種類や程度に応じた障害児保育・教育の充実」（25.2%）となっている。

年齢別にみると、17 歳以下では他の年齢層に比べて割合が高い項目が多く、「就労支援の充実（働くための訓練や職業紹介など）」（59.5%）や「障害の種類や程度に応じた障害児保育・教育の充実」（52.7%）、「障害者に対する社会全体の理解を深めるための啓発や教育の充実」（43.2%）、「ガイドヘルパー等の外出支援サービスの充実」（17.6%）、「機能回復訓練などリハビリテーションの充実」（14.9%）などで顕著である。

障害の程度別にみると、療育手帳Ａ・Ｂいずれにおいても「年金や手当などの充実」が最も多いが、療育手帳ＡではＢに比べて「グループホームなどの地域で共同生活できる住まいの整備」（25.6%）や「更生施設などの入所できる福祉施設の充実」（24.4%）などの施設・居住系サービスに関する項目の割合が高い。一方、療育手帳ＢはＡに比べて「就労支援の充実（働くための訓練や職業紹介など）」（53.9%）や「公営住宅への障害者優先入居など住宅施策の充実」（17.4%）などの割合が高い。

現在の住まい別にみると、福祉施設入所者は、在宅生活者に比べて「更生施設などの入所できる福祉施設の充実」（32.0%）の割合が高い。

ノーマライゼーションを活かしたまちづくりに対する評価別にみると、久留米市がノーマライゼーションを活かしたまちづくりをしているとは思わない人は、そう思う人に比べて「障害の種類や程度に応じた障害児保育・教育の充実」（36.4%）や「障害者にやさしいまちづくりの推進（バリアフリー化など）」（31.2%）、「更生施設などの入所できる福祉施設の充実」（26.0%）、「障害者同士や地域の人等と交流できる場の整備」（19.5%）などの割合が高い。

【図表 3-2-100　年齢別・障害の程度別・現在の住まい別・ノーマライゼーションに対する評価別　障害者福祉施策として重点的に進めるべきこと】（%）

		調査数［n］（人）	年金や手当などの充実	就労支援の充実（働くための訓練や職業紹介など）	障害者に対する社会全体の理解を深めるための啓発や教育の充実	障害の種類や程度に応じた障害児保育・教育の充実	通院・治療のための医療費の助成	障害者にやさしいまちづくりの推進（バリアフリー化など）	グループホームなどの地域で共同生活できる住まいの整備
全　体		306	53.3	35.0	30.4	25.2	21.6	20.3	19.6
年齢別	１７歳以下	74	52.7	59.5	43.2	52.7	24.3	20.3	18.9
	１８～２９歳	61	50.8	42.6	31.1	23.0	19.7	24.6	24.6
	３０～３９歳	69	58.0	26.1	29.0	15.9	24.6	20.3	26.1
	４０～４９歳	37	56.8	32.4	27.0	5.4	21.6	29.7	16.2
	５０～５９歳	35	57.1	14.3	20.0	17.1	20.0	11.4	11.4
	６０～６４歳	8	37.5	－	12.5	12.5	－	－	12.5
	６５歳以上	11	18.2	9.1	18.2	9.1	9.1	－	9.1
	無回答	11	63.6	9.1	18.2	27.3	27.3	27.3	9.1
障害の程度別	療育手帳Ａ	176	54.0	22.7	27.8	26.1	22.7	18.8	25.6
	療育手帳Ｂ	115	50.4	53.9	34.8	24.3	20.0	22.6	12.2
	無回答	15	66.7	33.3	26.7	20.0	20.0	20.0	6.7
現在の住まい別	福祉施設	75	54.7	17.3	29.3	14.7	18.7	13.3	14.7
	福祉施設以外（持ち家等）	223	53.8	42.2	31.4	29.1	23.3	23.3	22.0
	無回答	8	25.0	－	12.5	12.5	－	－	－
ノーマライゼーションに対する評価別	思う	83	60.2	42.2	37.3	25.3	27.7	24.1	22.9
	思わない	77	58.4	39.0	41.6	36.4	19.5	31.2	26.0
	わからない	123	52.0	33.3	22.0	21.1	22.0	13.8	17.1
	無回答	23	17.4	4.3	13.0	8.7	4.3	4.3	－

		調査数［ｎ］（人）	更生施設などの入所できる福祉施設の充実	緊急時や災害時の支援体制の充実	障害者に対する情報提供や相談窓口の充実	公営住宅への障害者優先入居など住宅施策の充実	障害者同士や地域の人等と交流できる場の整備	ホームヘルプやデイサービス等の在宅サービスの充実	ガイドヘルパー等の外出支援サービスの充実
全　体		306	19.3	19.0	17.6	12.1	11.8	10.5	9.2
年齢別	１７歳以下	74	12.2	18.9	20.3	9.5	14.9	13.5	17.6
	１８～２９歳	61	26.2	21.3	21.3	18.0	19.7	8.2	11.5
	３０～３９歳	69	21.7	17.4	13.0	14.5	10.1	8.7	7.2
	４０～４９歳	37	18.9	18.9	10.8	5.4	10.8	16.2	5.4
	５０～５９歳	35	20.0	17.1	25.7	5.7	－	5.7	－
	６０～６４歳	8	25.0	12.5	25.0	25.0	25.0	－	－
	６５歳以上	11	9.1	18.2	9.1	18.2	－	18.2	－
	無回答	11	18.2	27.3	9.1	9.1	－	9.1	9.1
障害程度別の	療育手帳Ａ	176	24.4	17.6	16.5	9.1	8.5	12.5	10.2
	療育手帳Ｂ	115	10.4	20.9	19.1	17.4	16.5	7.8	7.8
	無回答	15	26.7	20.0	20.0	6.7	13.3	6.7	6.7
現在の住まい別	福祉施設	75	32.0	17.3	10.7	8.0	5.3	2.7	2.7
	福祉施設以外（持ち家等）	223	15.7	20.2	20.2	13.5	14.3	13.5	11.7
	無回答	8	－	－	12.5	12.5	－	－	－
シノーマライゼーションに対する価値別の評	思う	83	18.1	20.5	18.1	13.3	7.2	13.3	19.3
	思わない	77	26.0	24.7	19.5	9.1	19.5	14.3	11.7
	わからない	123	17.9	17.1	18.7	12.2	12.2	8.1	2.4
	無回答	23	8.7	4.3	4.3	17.4	－	－	－

		調査数［ｎ］（人）	ボランティアの育成と活動支援	在宅生活を支えるための医療の充実	機能回復訓練などリハビリテーションの充実	市の審議会や委員会等への障害者の参画（登用）	文化・スポーツ・レクリエーション等を通じた社会参加の支援	その他	特にない	無回答
全　体		306	8.8	8.2	6.5	3.9	3.9	1.6	5.9	8.8
年齢別	１７歳以下	74	13.5	6.8	14.9	6.8	5.4	2.7	1.4	1.4
	１８～２９歳	61	9.8	8.2	3.3	1.6	4.9	－	8.2	4.9
	３０～３９歳	69	7.2	8.7	1.4	5.8	4.3	2.9	5.8	10.1
	４０～４９歳	37	5.4	13.5	8.1	－	2.7	2.7	5.4	5.4
	５０～５９歳	35	11.4	5.7	5.7	2.9	2.9	－	8.6	17.1
	６０～６４歳	8	－	－	12.5	－	－	－	25.0	12.5
	６５歳以上	11	－	9.1	－	－	－	－	9.1	45.5
	無回答	11	－	9.1	－	9.1	－	－	－	18.2
障害程度別の	療育手帳Ａ	176	10.8	10.2	6.3	4.0	2.8	2.8	3.4	11.4
	療育手帳Ｂ	115	7.0	6.1	6.1	3.5	5.2	－	9.6	4.3
	無回答	15	－	－	13.3	6.7	6.7	－	6.7	13.3
現在の住まい別	福祉施設	75	9.3	2.7	4.0	1.3	6.7	1.3	10.7	14.7
	福祉施設以外（持ち家等）	223	9.0	10.3	7.2	4.9	3.1	1.8	4.5	4.9
	無回答	8	－	－	12.5	－	－	－	－	62.5
シノーマライゼーションに対する価値別の評	思う	83	10.8	9.6	7.2	6.0	2.4	3.6	4.8	1.2
	思わない	77	11.7	13.0	6.5	6.5	2.6	1.3	2.6	2.6
	わからない	123	7.3	4.1	7.3	0.8	6.5	0.8	9.8	8.1
	無回答	23	－	8.7	－	4.3	－	－	－	60.9

１０．障害児の保育・教育等について

以降は、障害のある 17 歳以下の児童（74 人）の生活状況や保育・教育に関する状況等について、その保護者に対して行った質問である。

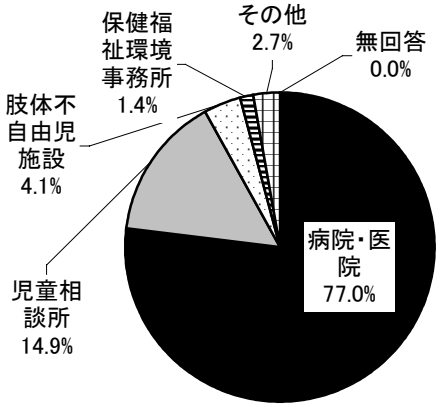
対象となる障害児は、療育手帳Ａ所持者が 56.8%、療育手帳Ｂ所持者が 41.9%となっている。【「１.基本属性」の年齢別分析参照】

（１）障害の診断・判定

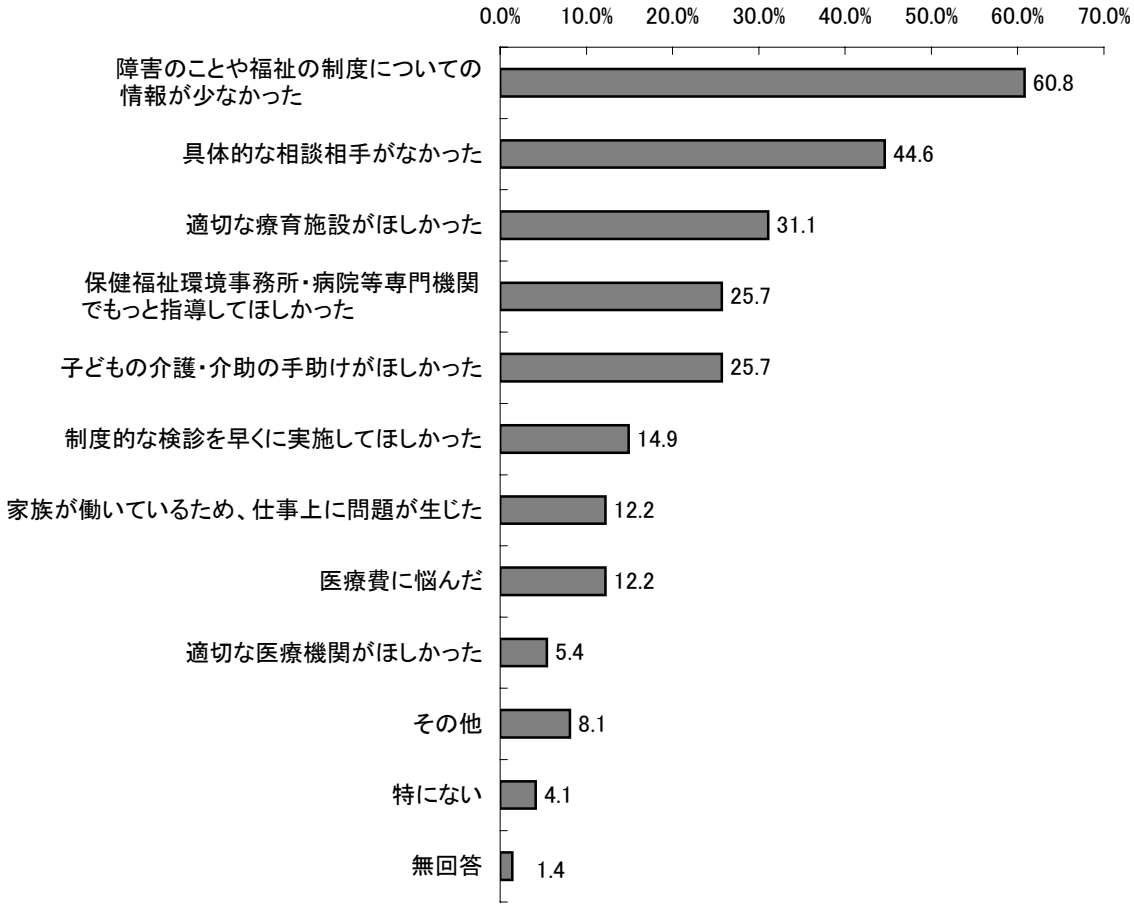
問３８　お子さんの障害について、どこで診断・判定を受けてはっきりしたことがわかりましたか。（○は１つだけ）

問３９　お子さんの障害の状況について、診断・判定を受けた頃、ご家族の皆さんには、どんな苦労、悩み、不安がありましたか。（○は３つまで）

【図表 3-2-101　障害の診断・判定を受けた場所】（ｎ＝74）



【図表 3-2-102　障害の診断・判定を受けた当時の苦労や悩み】（ｎ＝74）



障害のある 17 歳以下の児童（74 人）が障害の判定・診断を受けた場所は、「病院・医院」（77.0%）が最も多く、次いで「児童相談所」（14.9%）となっている。

障害の診断・判定を受けた当時の苦労や悩みは、「障害のことや福祉の制度についての情報が少なかった」（60.8%）が最も多く、次いで「具体的な相談相手がなかった」（44.6%）、「適切な療育施設がほしかった」（31.1%）となっている。

【図表 3-2-103　療育手帳の交付時期別　障害の診断・判定を受けた場所】（%）

		調査数［n］（人）	病院・医院	児童相談所	肢体不自由児施設	保健福祉環境事務所	その他	無回答
全　体		74	77.0	14.9	4.1	1.4	2.7	－
療育手帳の交付時期別	２歳以下	13	100.0	－	－	－	－	－
	３～５歳	36	66.7	19.4	8.3	2.8	2.8	－
	６～８歳	13	92.3	7.7	－	－	－	－
	９～１１歳	5	80.0	20.0	－	－	－	－
	１２～１４歳	5	60.0	40.0	－	－	－	－
	１５～１７歳	2	50.0	－	－	－	50.0	－
	無回答	－	－	－	－	－	－	－

【図表 3-2-104　療育手帳の交付時期別　障害の診断・判定を受けた当時の苦労や悩み】（%）

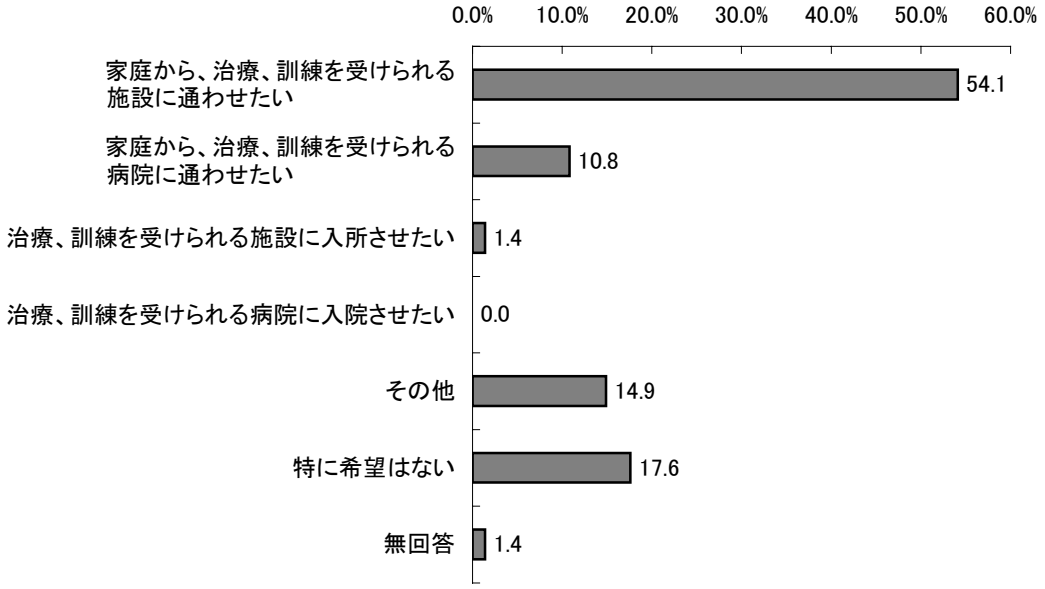
		調査数［n］（人）	障害のことや福祉の制度についての情報が少なかった	具体的な相談相手がなかった	適切な療育施設がほしかった	保健福祉環境事務所・病院等専門機関でもっと指導してほしかった	子どもの介護・介助の手助けがほしかった	制度的な検診を早くに実施してほしかった
全　体		74	60.8	44.6	31.1	25.7	25.7	14.9
療育手帳の交付時期別	２歳以下	13	69.2	38.5	38.5	15.4	38.5	15.4
	３～５歳	36	61.1	41.7	27.8	27.8	30.6	11.1
	６～８歳	13	53.8	53.8	38.5	15.4	－	23.1
	９～１１歳	5	60.0	60.0	－	20.0	40.0	40.0
	１２～１４歳	5	80.0	40.0	40.0	80.0	20.0	－
	１５～１７歳	2	－	50.0	50.0	－	－	－
	無回答	－	－	－	－	－	－	－

		調査数［n］（人）	家族が働いているため、仕事上に問題が生じた	医療費に悩んだ	適切な医療機関がほしかった	その他	特にない	無回答
全　体		74	12.2	12.2	5.4	8.1	4.1	1.4
療育手帳の交付時期別	２歳以下	13	15.4	7.7	－	7.7	－	－
	３～５歳	36	8.3	8.3	2.8	11.1	5.6	2.8
	６～８歳	13	23.1	15.4	23.1	7.7	－	－
	９～１１歳	5	20.0	20.0	－	－	－	－
	１２～１４歳	5	－	20.0	－	－	－	－
	１５～１７歳	2	－	50.0	－	－	50.0	－
	無回答	－	－	－	－	－	－	－

（２）今後の生活等についての希望

問４０　お子さんの今後の生活や療育、訓練について、どのような希望をお持ちですか。（○は１つだけ）

【図表 3-2-105　今後の生活等についての希望】（ｎ＝74）



今後の生活や療育、訓練については、「家庭から、治療、訓練を受けられる施設に通わせたい」（54.1%）が最も多い。また、「特に希望はない」（17.6%）が２割弱を占めている。

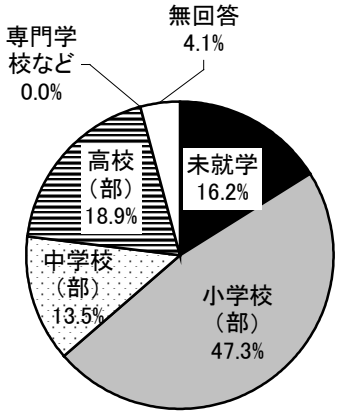
【図表 3-2-106　児童の年齢別　今後の生活等についての希望】（%）

		調査数［ｎ］（人）	家庭から、治療、訓練を受けられる施設に通わせたい	家庭から、治療、訓練を受けられる病院に通わせたい	治療、訓練を受けられる施設に入所させたい	治療、訓練を受けられる病院に入院させたい	その他	特に希望はない	無回答
全　体		74	54.1	10.8	1.4	－	14.9	17.6	1.4
別児童の年齢	５歳以下	10	70.0	10.0	－	－	10.0	10.0	－
	６～１１歳	34	55.9	17.6	－	－	8.8	14.7	2.9
	１２～１４歳	11	54.5	9.1	－	－	36.4	－	－
	１５～１７歳	19	42.1	－	5.3	－	15.8	36.8	－
	無回答	－	－	－	－	－	－	－	－

（３）日中の過ごし方（就学先）

問４１　お子さんは、現在、日中どのように過ごしていますか。または、就学されている学校は、次のうちどれにあたりますか。（○は１つだけ）

【図表 3-2-107　日中の過ごし方（就学先）】（ｎ＝74）



日中の過ごし方(就学先)は、「小学校(部)」(47.3%)が最も多く、次いで「高校(部)」(18.9%)となっている。

就学先別にみると、未就学では「保育園」や「通園施設」が多く、小学校（部）・中学校（部）では「障害児学級」が最も多い。高校（部）は全員「養護学校」であり、専門学校などへの進学者はいなかった。

【図表 3-2-108　未就学の内訳】

（上段：人、下段：%）

【未就学】	保育園	幼稚園	通園施設	その他	どこにも通わず、自宅にいる
12	3	1	3	1	4
100.0	25.0	8.3	25.0	8.3	33.3

【図表 3-2-109　小学校（部）の内訳】

（上段：人、下段：%）

【小学校（部）】	普通学級	障害児学級	養護学校	盲学校	ろう学校	訪問教育
35	6	21	7	－	－	1
100.0	17.1	60.0	20.0	－	－	2.9

【図表 3-2-110　中学校（部）の内訳】

（上段：人、下段：%）

【中学校（部）】	普通学級	障害児学級	養護学校	盲学校	ろう学校	訪問教育
10	2	6	2	－	－	－
100.0	20.0	60.0	20.0	－	－	－

【図表 3-2-111　高校（部）の内訳】

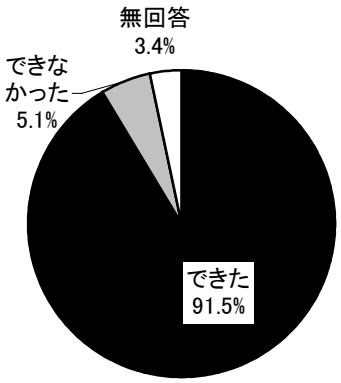
（上段：人、下段：%）

【高校（部）】	普通学校	養護学校	盲学校	ろう学校
14	－	14	－	－
100.0	－	100.0	－	－

（４）学校等への入学（園）について

問４２　通学中または卒業（卒園）された方におたずねします。
（１）　希望通りの学校や園に入学（入園）できましたか。（○は１つだけ）

【図表 3-2-112　学校等への入学（園）について】（ｎ＝59）



希望通りの学校や園に入学（入園）できた人が 91.5%と大半を占めており、できなかった人は5.1%となっている。

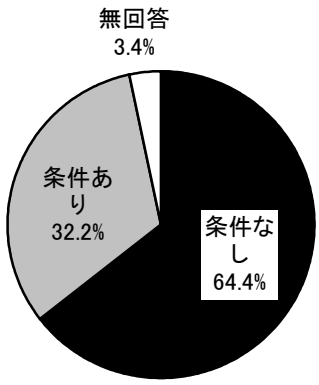
【図表 3-2-113　障害の程度別・就学先別・身体障害者手帳の有無別
学校等への入学（園）について】（%）

		調査数［n］（人）	できた	できなかった	無回答
全　体		59	91.5	5.1	3.4
程度別の障害	療育手帳Ａ	34	91.2	2.9	5.9
	療育手帳Ｂ	24	91.7	8.3	－
	無回答	1	100.0	－	－
就学先別	未就学	－	－	－	－
	小学校（部）	35	94.3	2.9	2.9
	中学校（部）	10	90.0	－	10.0
	高校（部）	14	85.7	14.3	－
	専門学校など	－	－	－	－
	無回答	－	－	－	－
身体障害者手帳の有無別	持っている	15	93.3	－	6.7
	持っていない	41	90.2	7.3	2.4
	無回答	3	100.0	－	－

（５）入学時の条件の有無

問４２　通学中または卒業（卒園）された方におたずねします。
（２）　入学するにあたって何か条件をつけられましたか。（○は１つだけ）

【図表 3-2-114　入学時の条件の有無】（ｎ＝59）



学校や園に入学（入園）する際に条件があった人が 32.2%を占めており、条件の内容（自由記述）では、身体障害児と同じく「保護者による送迎」や「付き添い」などがあがっている。

学校や園に入学（入園）する際に条件があった人の割合は、障害の程度別にみると療育手帳Ｂ（20.8%）より重度のＡ（41.2%）で高く、身体障害者手帳の有無別でみても、身体障害のない児童（29.3%）より身体障害がある児童（40.0%）で高い。

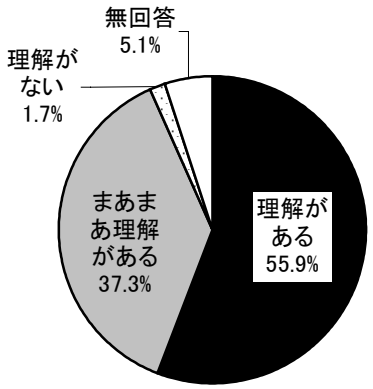
【図表 3-2-115　障害の程度別・就学先別・身体障害者手帳の有無別　入学時の条件の有無】（%）

		調査数［ｎ］（人）	条件なし	条件あり	無回答
全　体		59	64.4	32.2	3.4
程度別の障害	療育手帳Ａ	34	52.9	41.2	5.9
	療育手帳Ｂ	24	79.2	20.8	－
	無回答	1	100.0	－	－
就学先別	未就学	－	－	－	－
	小学校（部）	35	62.9	34.3	2.9
	中学校（部）	10	30.0	60.0	10.0
	高校（部）	14	92.9	7.1	－
	専門学校など	－	－	－	－
	無回答	－	－	－	－
身体障害者手帳の有無別	持っている	15	53.3	40.0	6.7
	持っていない	41	68.3	29.3	2.4
	無回答	3	66.7	33.3	－

（６）先生の理解

問４２　通学中または卒業（卒園）された方におたずねします。
（３）　先生の理解はありますか。（○は１つだけ）

【図表 3-2-116　先生の理解】（ｎ＝59）



学校等での先生の理解については、「理解がある」（55.9%）が過半数を占めて最も多く、次いで「まあまあ理解がある」（37.3%）となっており、これらをあわせると、保護者の９割強（93.2%）は、先生の理解があると思っている。これに対して、「理解がない」は 1.7%となっている。

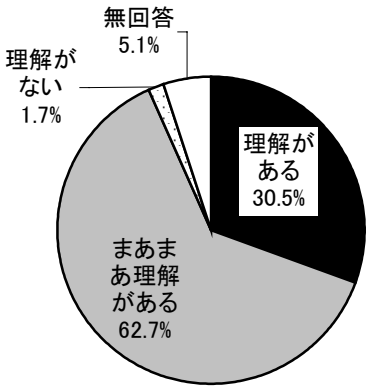
【図表 3-2-117　障害の程度別・就学先別・身体障害者手帳の有無別　先生の理解】（%）

		調査数［ｎ］（人）	理解がある	まあまあ理解がある	理解がない	無回答
全　体		59	55.9	37.3	1.7	5.1
程度別の障害	療育手帳Ａ	34	58.8	29.4	2.9	8.8
	療育手帳Ｂ	24	50.0	50.0	－	－
	無回答	1	100.0	－	－	－
就学先別	未就学	－	－	－	－	－
	小学校（部）	35	65.7	28.6	－	5.7
	中学校（部）	10	30.0	60.0	－	10.0
	高校（部）	14	50.0	42.9	7.1	－
	専門学校など	－	－	－	－	－
	無回答	－	－	－	－	－
身体障害者手帳の有無別	持っている	15	73.3	20.0	－	6.7
	持っていない	41	51.2	43.9	－	4.9
	無回答	3	33.3	33.3	33.3	－

（７）友達の理解

問４２　通学中または卒業（卒園）された方におたずねします。
（４）　友達の理解はありますか。（○は１つだけ）

【図表 3-2-118　友達の理解】（ｎ＝59）



学校等での友達の理解については、「まあまあ理解がある」（62.7%）が６割を超えて最も多く、次いで「理解がある」（30.5%）となっており、これらをあわせると、保護者の９割強（93.2%）は、友達の理解があると思っている。これに対して、「理解がない」は 1.7%となっている。

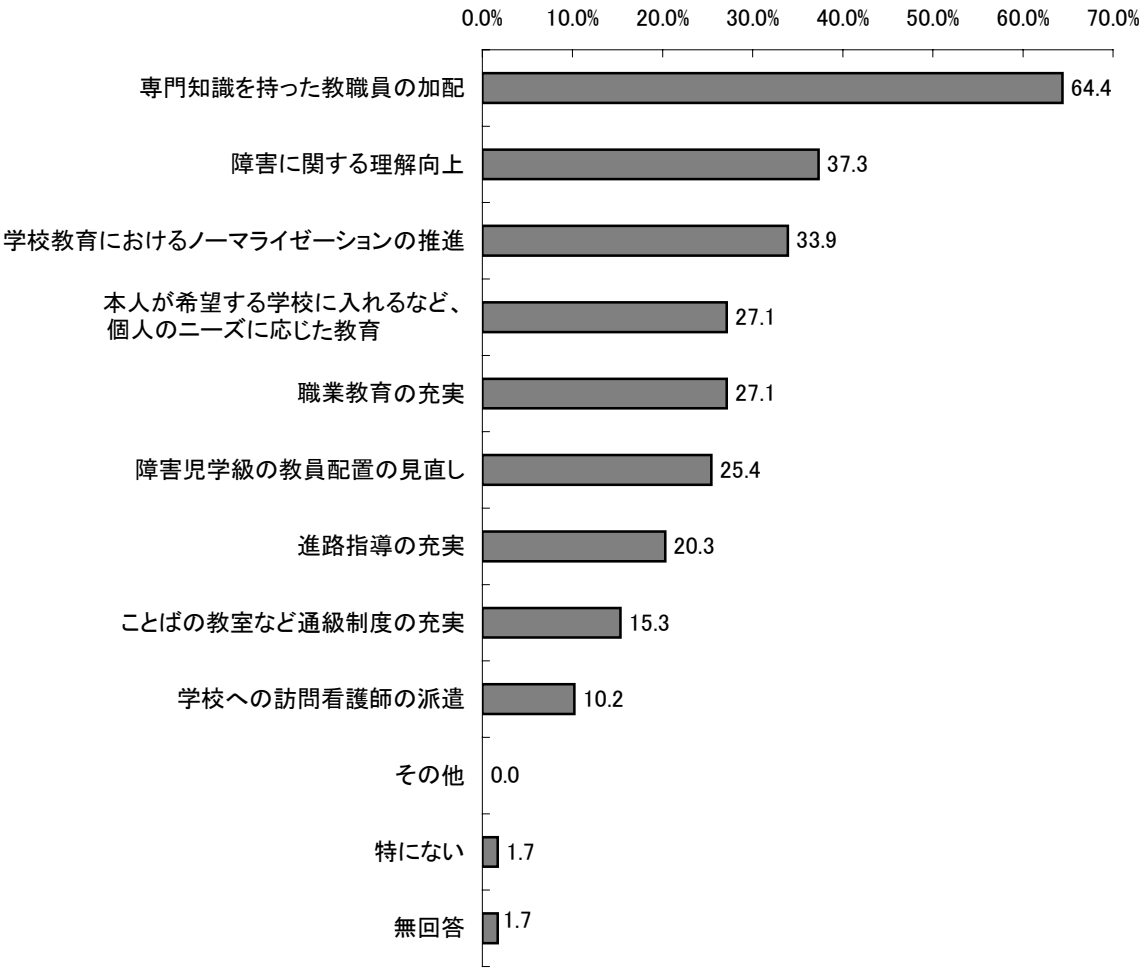
【図表 3-2-119　障害の程度別・就学先別・身体障害者手帳の有無別　友達の理解】（%）

		調査数［ｎ］（人）	理解がある	まあまあ理解がある	理解がない	無回答
全　体		59	30.5	62.7	1.7	5.1
程度別の障害	療育手帳Ａ	34	26.5	64.7	－	8.8
	療育手帳Ｂ	24	37.5	58.3	4.2	－
	無回答	1	－	100.0	－	－
就学先別	未就学	－	－	－	－	－
	小学校（部）	35	37.1	54.3	2.9	5.7
	中学校（部）	10	20.0	70.0	－	10.0
	高校（部）	14	21.4	78.6	－	－
	専門学校など	－	－	－	－	－
	無回答	－	－	－	－	－
身体障害者手帳の有無別	持っている	15	53.3	40.0	－	6.7
	持っていない	41	24.4	68.3	2.4	4.9
	無回答	3	－	100.0	－	－

（８）教育に関する要望

問４２　通学中または卒業（卒園）された方におたずねします。
（５）　次のような教育に関する要望がありますか。（○は３つまで）

【図表 3-2-120　教育に関する要望】（ｎ＝59）



教育に関する要望は、「専門知識を持った教職員の加配」（64.4%）が最も多く、次いで「障害に関する理解向上」（37.3%）、「学校教育におけるノーマライゼーションの推進」（33.9%）となっている。

障害の程度別にみると、療育手帳Ａ・Ｂともに「専門知識を持った教職員の加配」が最も多いが、療育手帳ＡはＢに比べて「障害に関する理解向上」（44.1%）や「学校への訪問看護師の派遣」（17.6%）の割合が高い。一方、療育手帳ＢはＡに比べて「本人が希望する学校に入れるなど、個人のニーズに応じた教育」（33.3%）や「専門知識を持った教職員の加配」（70.8%）の割合が高い。

身体障害者手帳の有無別にみると、身体障害のある児童では「学校への訪問看護師の派遣」（40.0%）の割合が高い。

【図表 3-2-121　障害の程度別・就学先別・身体障害者手帳の有無別　教育に関する要望】（%）

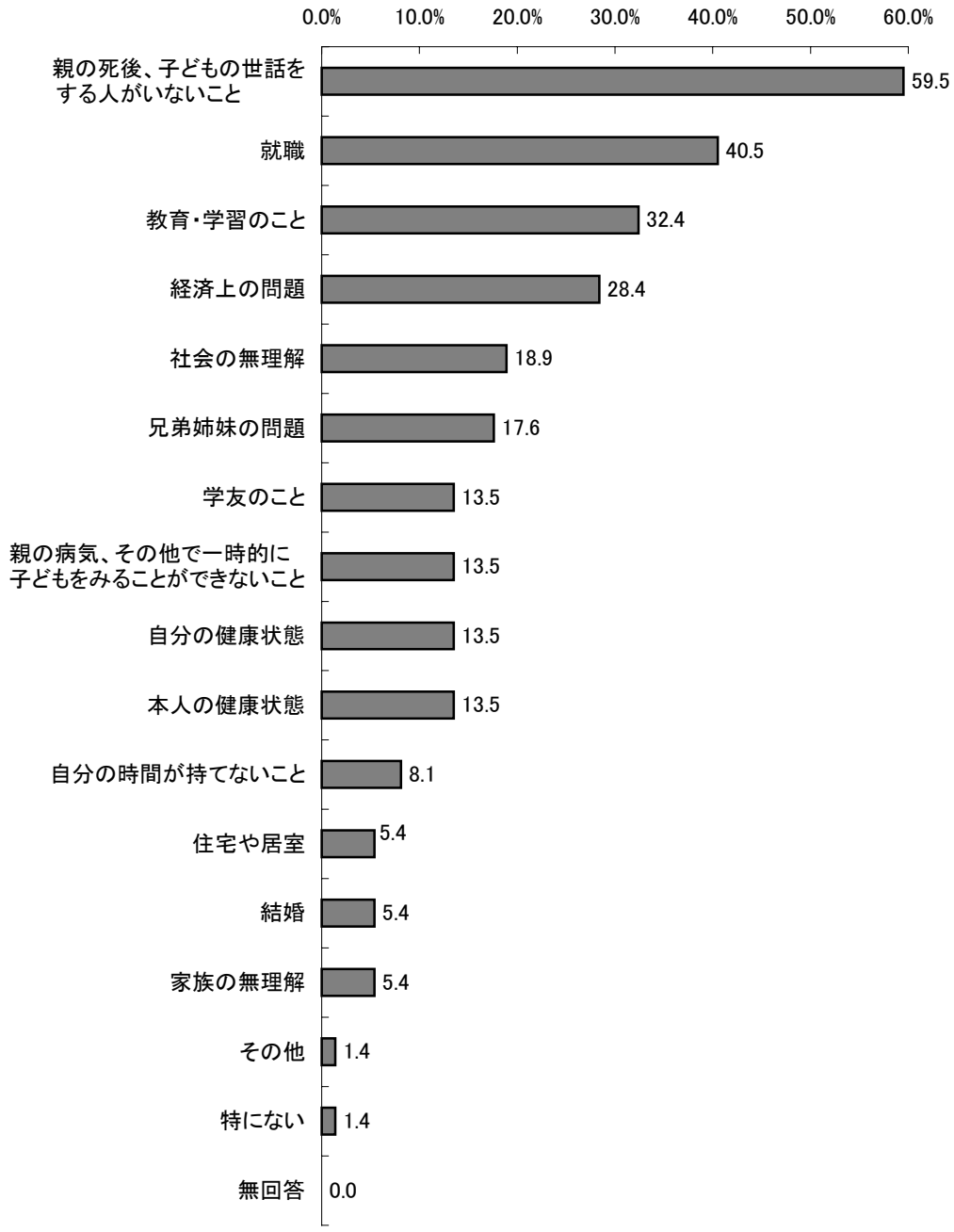
		調査数［n］（人）	専門知識を持った教職員の加配	障害に関する理解向上	学校教育におけるノーマライゼーションの推進	本人が希望する学校に入れるなど、個人のニーズに応じた教育	職業教育の充実	障害児学級の教員配置の見直し
全　体		59	64.4	37.3	33.9	27.1	27.1	25.4
程度別の障害	療育手帳Ａ	34	58.8	44.1	29.4	23.5	23.5	23.5
	療育手帳Ｂ	24	70.8	29.2	37.5	33.3	29.2	29.2
	無回答	1	100.0	－	100.0	－	100.0	－
就学先別	未就学	－	－	－	－	－	－	－
	小学校（部）	35	71.4	25.7	42.9	25.7	31.4	34.3
	中学校（部）	10	60.0	30.0	30.0	60.0	－	30.0
	高校（部）	14	50.0	71.4	14.3	7.1	35.7	－
	専門学校など	－	－	－	－	－	－	－
	無回答	－	－	－	－	－	－	－
無帳害身別の者体有手障	持っている	15	46.7	46.7	26.7	40.0	26.7	26.7
	持っていない	41	70.7	31.7	39.0	19.5	26.8	26.8
	無回答	3	66.7	66.7	－	66.7	33.3	－

		調査数［n］（人）	進路指導の充実	ことばの教室など通級制度の充実	学校への訪問看護師の派遣	その他	特にない	無回答
全　体		59	20.3	15.3	10.2	－	1.7	1.7
程度別の障害	療育手帳Ａ	34	20.6	14.7	17.6	－	－	2.9
	療育手帳Ｂ	24	20.8	16.7	－	－	4.2	－
	無回答	1	－	－	－	－	－	－
就学先別	未就学	－	－	－	－	－	－	－
	小学校（部）	35	8.6	17.1	8.6	－	－	2.9
	中学校（部）	10	30.0	10.0	20.0	－	－	－
	高校（部）	14	42.9	14.3	7.1	－	7.1	－
	専門学校など	－	－	－	－	－	－	－
	無回答	－	－	－	－	－	－	－
無帳害身別の者体有手障	持っている	15	13.3	6.7	40.0	－	－	－
	持っていない	41	24.4	19.5	－	－	2.4	2.4
	無回答	3	－	－	－	－	－	－

（９）子育てで困っていることや将来に対する不安・悩み

問４３　お子さんを育てていくうえで、困っていることや将来に対する不安、悩みなどはありますか。（○は３つまで）

【図表 3-2-122　子育てで困っていることや将来に対する不安・悩み】（ｎ＝74）



子育てで困っていることや将来に対する不安・悩みは、「親の死後、子どもの世話をする人がいないこと」（59.5%）が最も多く、次いで「就職」（40.5%）、「教育・学習のこと」（32.4%）、「経済上の問題」（28.4%）、「社会の無理解」（18.9%）となっている。

障害の程度別にみると、療育手帳Ａでは「親の死後、子どもの世話をする人がいないこと」（76.2%）が最も多いが、Ｂでは「教育・学習のこと」（48.4%）と「就職」（48.4%）が同率で最も多い。

【図表 3-2-123　児童の年齢別・障害の程度別　子育てで困っていることや将来に対する不安・悩み】

（%）

		調査数［n］（人）	親の死後、子どもの世話をする人がいないこと	就職	教育・学習のこと	経済上の問題	社会の無理解	兄弟姉妹の問題	学友のこと	親の病気、その他で一時的に子どもをみることができないこと
全体		74	59.5	40.5	32.4	28.4	18.9	17.6	13.5	13.5
別児童の年齢	５歳以下	10	70.0	20.0	50.0	50.0	10.0	10.0	10.0	－
	６～１１歳	34	58.8	38.2	44.1	23.5	20.6	23.5	23.5	11.8
	１２～１４歳	11	72.7	27.3	18.2	18.2	18.2	18.2	－	36.4
	１５～１７歳	19	47.4	63.2	10.5	31.6	21.1	10.5	5.3	10.5
	無回答	－	－	－	－	－	－	－	－	－
程度別障害の	療育手帳Ａ	42	76.2	33.3	21.4	31.0	26.2	26.2	2.4	11.9
	療育手帳Ｂ	31	38.7	48.4	48.4	25.8	9.7	6.5	25.8	16.1
	無回答	1	－	100.0	－	－	－	－	100.0	－

		調査数［n］（人）	自分の健康状態	本人の健康状態	自分の時間が持てないこと	住宅や居室	結婚	家族の無理解	その他	特にない	無回答
全体		74	13.5	13.5	8.1	5.4	5.4	5.4	1.4	1.4	－
別児童の年齢	５歳以下	10	20.0	20.0	10.0	10.0	－	－	－	－	－
	６～１１歳	34	8.8	8.8	11.8	2.9	2.9	5.9	－	－	－
	１２～１４歳	11	9.1	18.2	－	9.1	－	9.1	9.1	－	－
	１５～１７歳	19	21.1	15.8	5.3	5.3	15.8	5.3	－	5.3	－
	無回答	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
程度別障害の	療育手帳Ａ	42	14.3	16.7	9.5	7.1	2.4	2.4	2.4	－	－
	療育手帳Ｂ	31	12.9	9.7	6.5	3.2	6.5	9.7	－	3.2	－
	無回答	1	－	－	－	－	100.0	－	－	－	－

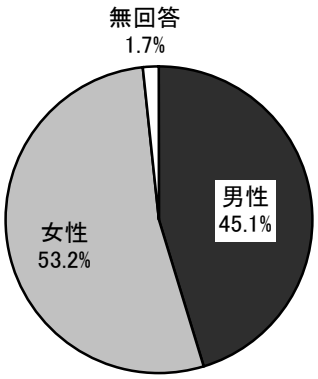
第３節　精神障害者調査

１．基本属性

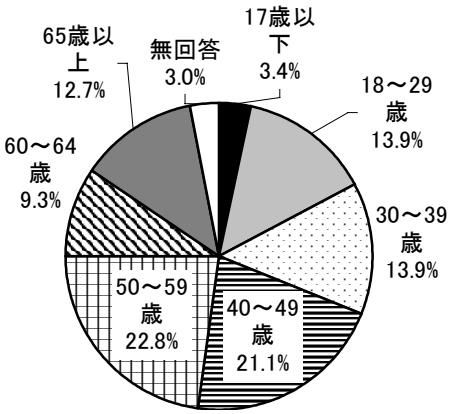
（１）性別・年齢

問１　あなたの性別、年齢についておたずねします。

【図表 3-3-1　性別】（ｎ＝237）



【図表 3-3-2　年齢】（ｎ＝237）



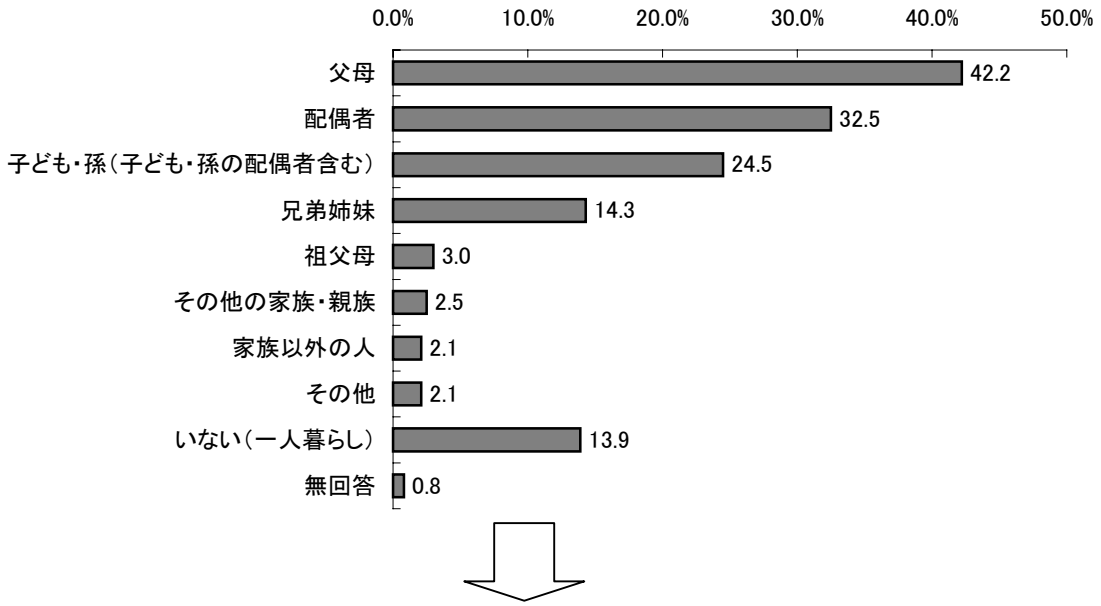
性別は、「男性」（45.1%）より「女性」（53.2%）がやや多い。

年齢は、50 歳代（22.8%）が最も多く、次いで 40 歳代（21.1%）、30 歳代（13.9%）、18～29 歳（13.9%）となっている。

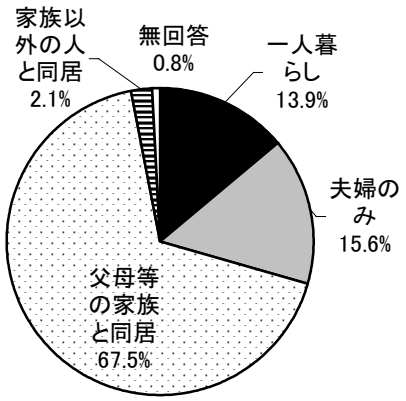
（２）同居家族

問２　あなたは、どなたと同居していますか。（○はあてはまるものすべて）

【図表 3-3-3　同居家族】（ｎ＝237）



【図表 3-3-4　家族構成】（ｎ＝237）



同居家族は、「父母」（42.2%）が最も多く、次いで「配偶者」（32.5%）、「子ども・孫（子ども・孫の配偶者含む）」（24.5%）となっている。また、「いない（一人暮らし）」（13.9%）も 1 割を超えている。

同居家族をもとに家族構成を整理すると、「父母等の家族と同居」（67.5%）が 7 割弱を占めて最も多い。

年齢別にみると、「父母等の家族と同居」の割合は加齢とともに低下し、60 歳代以上ではかわって「夫婦のみ」の割合が高まっている。

また、「一人暮らし」の割合は 50 歳代（24.1%）や 65 歳以上（23.3%）で他の年齢層より高く、2 割を超えている。

【図表 3-3-5　性別・年齢別　同居家族】（%）

		調査数［n］（人）	父母	配偶者	子ども・孫（子ども・孫の配偶者含む）	兄弟姉妹	祖父母	その他の家族・親族	家族以外の人	その他	いない（一人暮らし）	無回答
全　体		237	42.2	32.5	24.5	14.3	3.0	2.5	2.1	2.1	13.9	0.8
性別	男性	107	47.7	31.8	15.0	14.0	4.7	1.9	3.7	1.9	12.1	－
	女性	126	38.9	33.3	32.5	15.1	1.6	3.2	0.8	2.4	15.1	－
	無回答	4	－	25.0	25.0	－	－	－	－	－	25.0	50.0
年齢別	１７歳以下	8	100.0	－	－	100.0	37.5	12.5	－	－	－	－
	１８～２９歳	33	81.8	6.1	9.1	24.2	－	6.1	－	3.0	3.0	－
	３０～３９歳	33	60.6	24.2	15.2	9.1	3.0	3.0	－	－	18.2	－
	４０～４９歳	50	46.0	42.0	38.0	6.0	2.0	2.0	4.0	2.0	4.0	－
	５０～５９歳	54	35.2	35.2	29.6	14.8	1.9	－	1.9	1.9	24.1	－
	６０～６４歳	22	4.5	50.0	31.8	9.1	4.5	－	4.5	4.5	13.6	－
	６５歳以上	30	－	46.7	23.3	－	－	－	3.3	3.3	23.3	－
	無回答	7	28.6	28.6	14.3	28.6	－	14.3	－	－	14.3	28.6

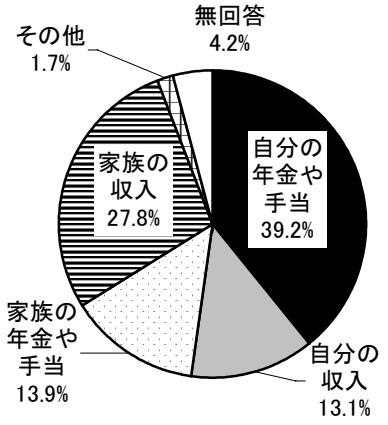
【図表 3-3-6　性別・年齢別　家族構成】（%）

		調査数［n］（人）	一人暮らし	夫婦のみ	父母等の家族と同居	家族以外の人と同居	無回答
全　体		237	13.9	15.6	67.5	2.1	0.8
性別	男性	107	12.1	16.8	67.3	3.7	－
	女性	126	15.1	15.1	69.0	0.8	－
	無回答	4	25.0	－	25.0	－	50.0
年齢別	１７歳以下	8	－	－	100.0	－	－
	１８～２９歳	33	3.0	3.0	93.9	－	－
	３０～３９歳	33	18.2	6.1	75.8	－	－
	４０～４９歳	50	4.0	10.0	82.0	4.0	－
	５０～５９歳	54	24.1	13.0	61.1	1.9	－
	６０～６４歳	22	13.6	31.8	50.0	4.5	－
	６５歳以上	30	23.3	46.7	26.7	3.3	－
	無回答	7	14.3	14.3	42.9	－	28.6

（３）生活費の状況

問３　あなたの生活費は、主に、次のどれによってまかなわれていますか。（○は１つだけ）

【図表 3-3-7　生活費の状況】（ｎ＝237）



生活費は、「自分の年金や手当」（39.2%）が最も多く、次いで「家族の収入」（27.8%）となっている。

性別にみると、男女ともに「自分の年金や手当」が最も多いが、「自分の収入」は女性（5.6%）より男性（22.4%）、「家族の収入」は男性（18.7%）より女性（35.7%）で割合が高い。

年齢別にみると、20 歳代以下では「家族の収入」が最も多いが、30 歳代では「自分の年金や手当」（30.3%）・「自分の収入」（30.3%）が最も多く、40 歳代以上になると「自分の年金や手当」が最も多くなっている。

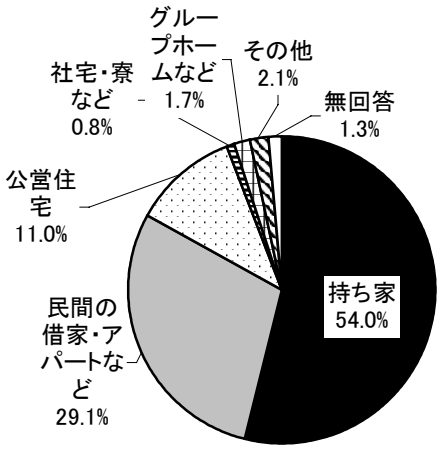
【図表 3-3-8　性別・年齢別　生活費の状況】（%）

		調査数［ｎ］（人）	自分の年金や手当	自分の収入	家族の年金や手当	家族の収入	その他	無回答
全　体		237	39.2	13.1	13.9	27.8	1.7	4.2
性別	男性	107	40.2	22.4	13.1	18.7	0.9	4.7
	女性	126	38.9	5.6	15.1	35.7	2.4	2.4
	無回答	4	25.0	－	－	25.0	－	50.0
年齢別	１７歳以下	8	－	－	－	100.0	－	－
	１８～２９歳	33	18.2	12.1	18.2	45.5	3.0	3.0
	３０～３９歳	33	30.3	30.3	12.1	21.2	－	6.1
	４０～４９歳	50	42.0	12.0	20.0	22.0	2.0	2.0
	５０～５９歳	54	37.0	14.8	13.0	29.6	－	5.6
	６０～６４歳	22	54.5	13.6	9.1	18.2	4.5	－
	６５歳以上	30	76.7	－	13.3	6.7	－	3.3
	無回答	7	14.3	－	－	42.9	14.3	28.6

（４）現在の住まい

問４　あなたの現在のお住まいは次のどれですか。（○は１つだけ）

【図表 3-3-9　現在の住まい】（ｎ＝237）



現在の住まいは、「持ち家」（54.0%）が最も多く、次いで「民間の借家・アパートなど」（29.1%）、「公営住宅」（11.0%）となっている。

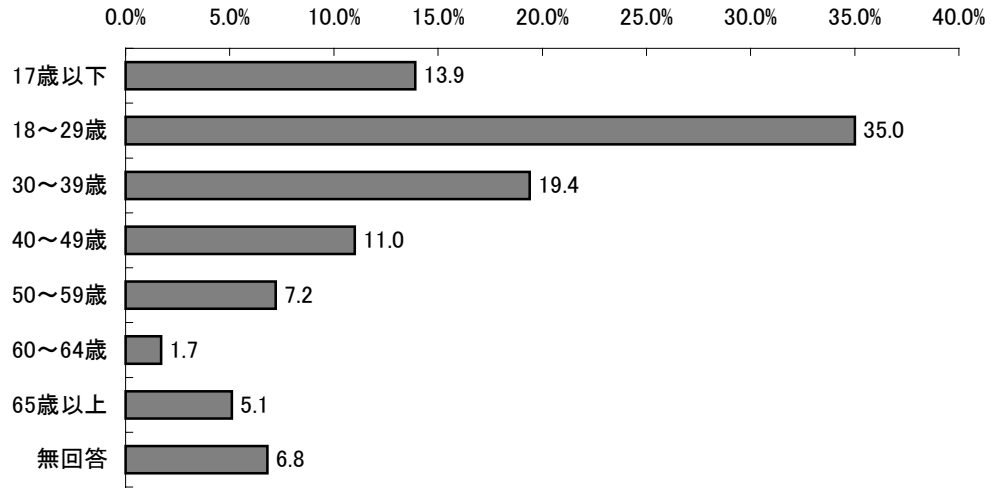
【図表 3-3-10　性別・年齢別　現在の住まい】（%）

		調査数［ｎ］（人）	持ち家	民間の借家・アパートなど	公営住宅	社宅・寮など	グループホームなど	その他	無回答
全　体		237	54.0	29.1	11.0	0.8	1.7	2.1	1.3
性別	男性	107	55.1	31.8	9.3	－	1.9	1.9	－
	女性	126	53.2	27.8	12.7	1.6	1.6	2.4	0.8
	無回答	4	50.0	－	－	－	－	－	50.0
年齢別	１７歳以下	8	75.0	25.0	－	－	－	－	－
	１８～２９歳	33	39.4	39.4	18.2	－	3.0	－	－
	３０～３９歳	33	45.5	51.5	3.0	－	－	－	－
	４０～４９歳	50	48.0	30.0	14.0	2.0	2.0	4.0	－
	５０～５９歳	54	63.0	22.2	11.1	－	－	1.9	1.9
	６０～６４歳	22	63.6	22.7	4.5	－	4.5	4.5	－
	６５歳以上	30	56.7	16.7	16.7	3.3	3.3	3.3	－
	無回答	7	71.4	－	－	－	－	－	28.6

（５）精神科・神経科の初診時期

問５　あなたが初めて精神科・神経科を受診したのは、何歳のころですか。

【図表 3-3-11　精神科・神経科の初診時期】（ｎ＝237）



精神科・神経科を初めて受診した時期は、「18～29 歳」（35.0%）が最も多く、次いで「30～39 歳」（19.4%）、「17 歳以下」（13.9%）となっており、30 歳代以下で全体の 7 割弱（68.3%）を占めている。

性別にみると、男女とも「18～29 歳」が 3 割を超えて最も多いが、男性は女性に比べて「30～39 歳」（27.1%）の割合が高い。一方、女性は男性に比べて 50 歳代以上の割合が高い。

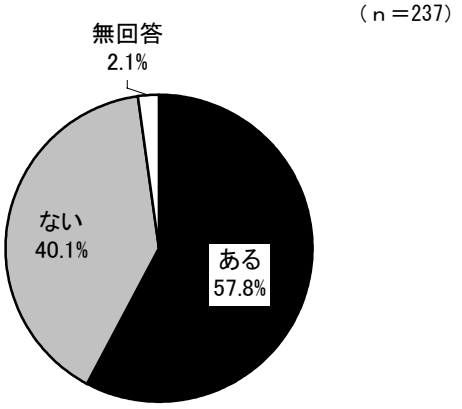
【図表 3-3-12　性別　精神科・神経科の初診時期】（%）

		調査数［ｎ］（人）	17歳以下	18～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65歳以上	無回答
全　体		237	13.9	35.0	19.4	11.0	7.2	1.7	5.1	6.8
性別	男性	107	11.2	35.5	27.1	13.1	3.7	－	1.9	7.5
	女性	126	15.9	35.7	13.5	9.5	10.3	3.2	7.9	4.0
	無回答	4	25.0	－	－	－	－	－	－	75.0

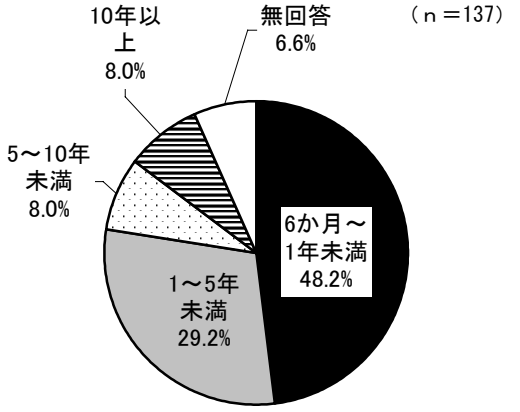
（６）精神科・神経科の入院経験・入院期間

問６　　これまでに精神科・神経科に入院したことがありますか。
問６－１　（精神科・神経科に入院したことがある方のみお答えください）何年くらい入院しましたか。２回以上入院した方はおおよそで結構ですから、合計した入院期間を答えてください。（○は１つだけ）

【図表 3-3-13　精神科・神経科の入院経験】



【図表 3-3-14　精神科・神経科の入院期間】



回答者の６割弱（57.8%）は精神科・神経科に入院したことがある。また、入院経験がある人の入院期間では「6 か月～1 年未満」（48.2%）が最も多く、次いで「1～5 年未満」（29.2%）となっている。

性別・年齢別にみても入院経験に大きな違いは見られない。

【図表 3-3-15　性別・年齢別　精神科・神経科の入院経験】（%）

		調査数（人）［ｎ］	ある	ない	無回答
全　体		237	57.8	40.1	2.1
性別	男性	107	58.9	39.3	1.9
	女性	126	57.9	41.3	0.8
	無回答	4	25.0	25.0	50.0
年齢別	１７歳以下	8	－	100.0	－
	１８～２９歳	33	57.6	42.4	－
	３０～３９歳	33	48.5	48.5	3.0
	４０～４９歳	50	66.0	34.0	－
	５０～５９歳	54	64.8	33.3	1.9
	６０～６４歳	22	59.1	40.9	－
	６５歳以上	30	60.0	36.7	3.3
	無回答	7	42.9	28.6	28.6

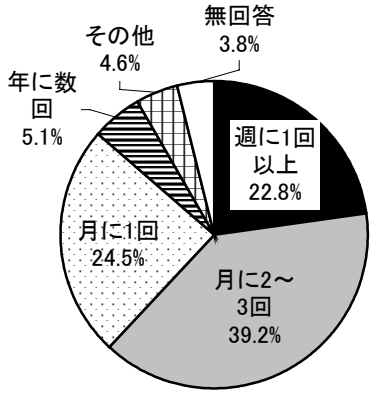
【図表 3-3-16　性別・年齢別　精神科・神経科の入院期間】（%）

		調査数（人）［ｎ］	１６年未満か月～	１年～５年未満	５年～１０年未満	１０年以上	無回答
全　体		137	48.2	29.2	8.0	8.0	6.6
性別	男性	63	52.4	30.2	7.9	9.5	－
	女性	73	43.8	28.8	8.2	6.8	12.3
	無回答	1	100.0	－	－	－	－
年齢別	１７歳以下	－	－	－	－	－	－
	１８～２９歳	19	63.2	36.8	－	－	－
	３０～３９歳	16	68.8	18.8	6.3	－	6.3
	４０～４９歳	33	30.3	36.4	18.2	12.1	3.0
	５０～５９歳	35	40.0	28.6	5.7	11.4	14.3
	６０～６４歳	13	53.8	15.4	7.7	15.4	7.7
	６５歳以上	18	55.6	33.3	－	5.6	5.6
	無回答	3	66.7	－	33.3	－	－

（７）精神科・神経科の現在の受診回数

問７　現在の受診回数は、どれくらいですか。（○は１つだけ）

【図表 3-3-17　精神科・神経科の現在の受診回数】（ｎ＝237）



精神科・神経科の現在の受診回数は、「月に 2～3 回」（39.2%）が最も多く、次いで「月に 1 回」（24.5%）、「週に 1 回以上」（22.8%）となっている。

【図表 3-3-18　性別・年齢別　精神科・神経科の現在の受診回数】（%）

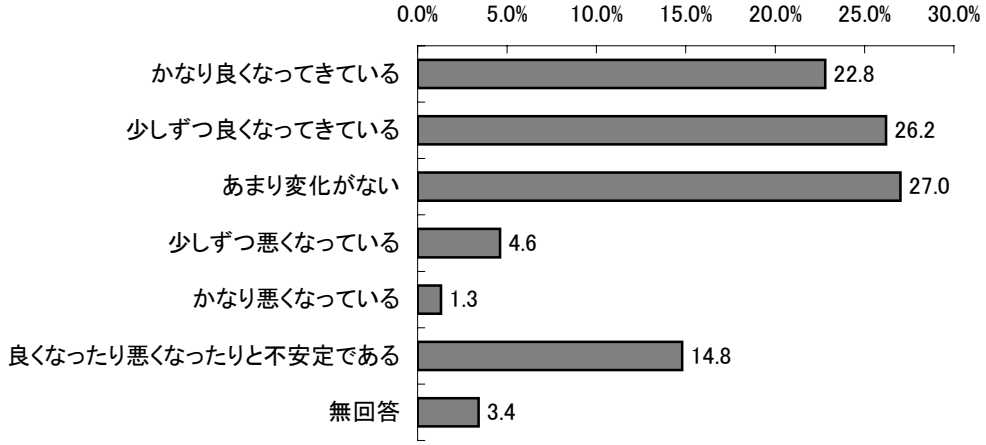
		調査数［ｎ］（人）	週に１回以上	月に２～３回	月に１回	年に数回	その他	無回答
全　体		237	22.8	39.2	24.5	5.1	4.6	3.8
性別	男性	107	19.6	43.0	24.3	5.6	3.7	3.7
	女性	126	25.4	37.3	24.6	4.8	5.6	2.4
	無回答	4	25.0	－	25.0	－	－	50.0
年齢別	１７歳以下	8	－	－	－	87.5	－	12.5
	１８～２９歳	33	36.4	39.4	15.2	3.0	3.0	3.0
	３０～３９歳	33	24.2	33.3	36.4	－	3.0	3.0
	４０～４９歳	50	22.0	40.0	22.0	2.0	12.0	2.0
	５０～５９歳	54	18.5	40.7	35.2	－	3.7	1.9
	６０～６４歳	22	22.7	54.5	9.1	4.5	4.5	4.5
	６５歳以上	30	23.3	46.7	20.0	6.7	－	3.3
	無回答	7	14.3	14.3	42.9	－	－	28.6

２．心身状況及び生活状況

（１）現在の症状

問８　あなたの今の症状はいかがですか。（○は１つだけ）

【図表 3-3-19　現在の症状】（ｎ＝237）



現在の症状は、「あまり変化がない」（27.0%）が最も多く、次いで「少しずつ良くなってきている」（26.2%）、「かなり良くなってきている」（22.8%）となっている。回復傾向にある人（「かなり良くなってきている」＋「少しずつ良くなってきている」）が 49.0%、悪化傾向にある人（「少しずつ悪くなっている」＋「かなり悪くなっている」）が 5.9%となっている。また、「良くなったり悪くなったりと不安定である」との回答も 14.8%と１割を超えている。

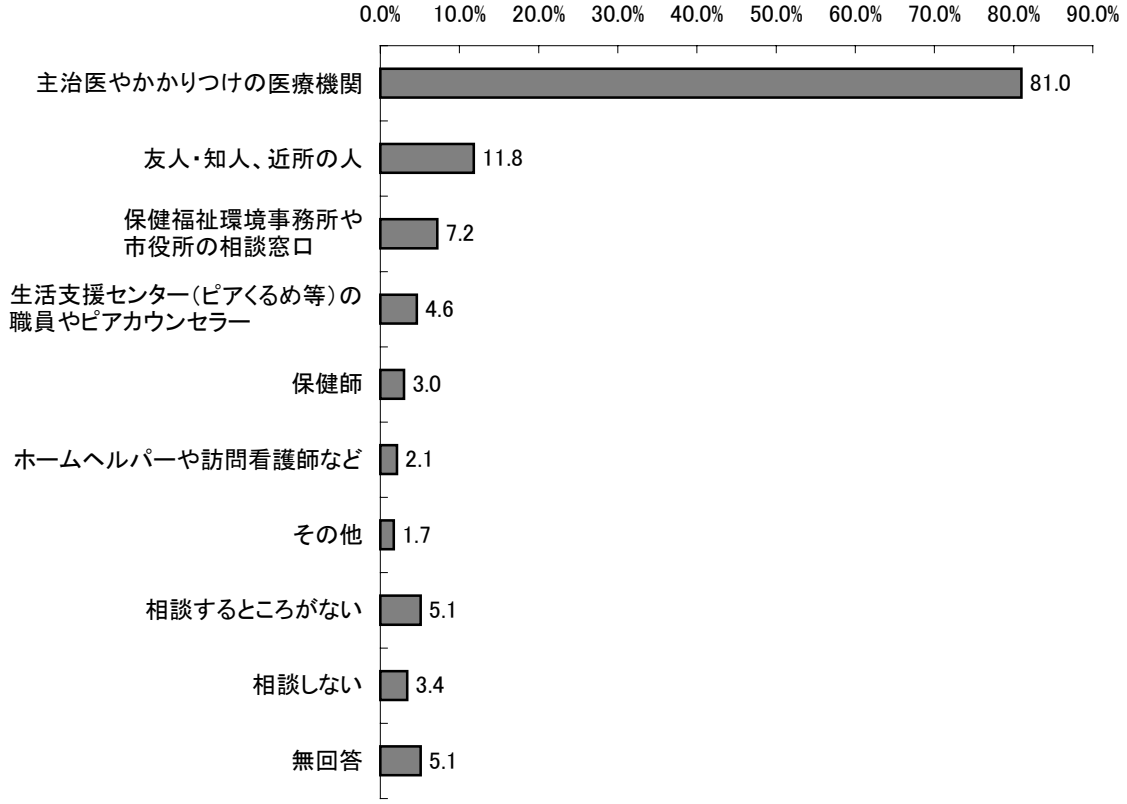
【図表 3-3-20　性別・年齢別　現在の症状】（%）

		調査数［ｎ］（人）	かなり良くなってきている	少しずつ良くなってきている	あまり変化がない	少しずつ悪くなっている	かなり悪くなっている	良くなったり悪くなったりと不安定である	無回答
全　体		237	22.8	26.2	27.0	4.6	1.3	14.8	3.4
性別	男性	107	24.3	26.2	29.9	4.7	0.9	10.3	3.7
	女性	126	22.2	27.0	23.8	4.8	1.6	19.0	1.6
	無回答	4	－	－	50.0	－	－	－	50.0
年齢別	１７歳以下	8	62.5	12.5	25.0	－	－	－	－
	１８～２９歳	33	21.2	33.3	24.2	6.1	－	15.2	－
	３０～３９歳	33	6.1	45.5	33.3	3.0	3.0	6.1	3.0
	４０～４９歳	50	20.0	24.0	30.0	2.0	－	22.0	2.0
	５０～５９歳	54	22.2	24.1	29.6	1.9	3.7	16.7	1.9
	６０～６４歳	22	22.7	18.2	18.2	13.6	－	22.7	4.5
	６５歳以上	30	33.3	20.0	20.0	10.0	－	10.0	6.7
	無回答	7	42.9	－	28.6	－	－	－	28.6

（２）急に支援が必要になった場合の相談先

問９　あなたは、精神的に急に具合が悪くなり、誰かの支援が必要になった場合、家族・親族以外では、誰（どこ）に相談しますか。（○はあてはまるものすべて）

【図表 3-3-21　急に支援が必要になった場合の相談先】（ｎ＝237）



精神的に急に具合が悪くなり、支援が必要になった場合の家族・親族以外の相談先は、「主治医やかかりつけの医療機関」（81.0%）が８割を超えて最も多く、次いで「友人・知人、近所の人」（11.8%）となっている。

年齢別にみると、いずれの年齢層においても、「主治医やかかりつけの医療機関」が最も多いが、18～29 歳では他の年齢層に比べて「友人・知人、近所の人」（21.2%）や「保健師」（9.1%）の割合が高い。また、65 歳以上では「ホームヘルパーや訪問看護師など」（13.3%）の割合が高い。

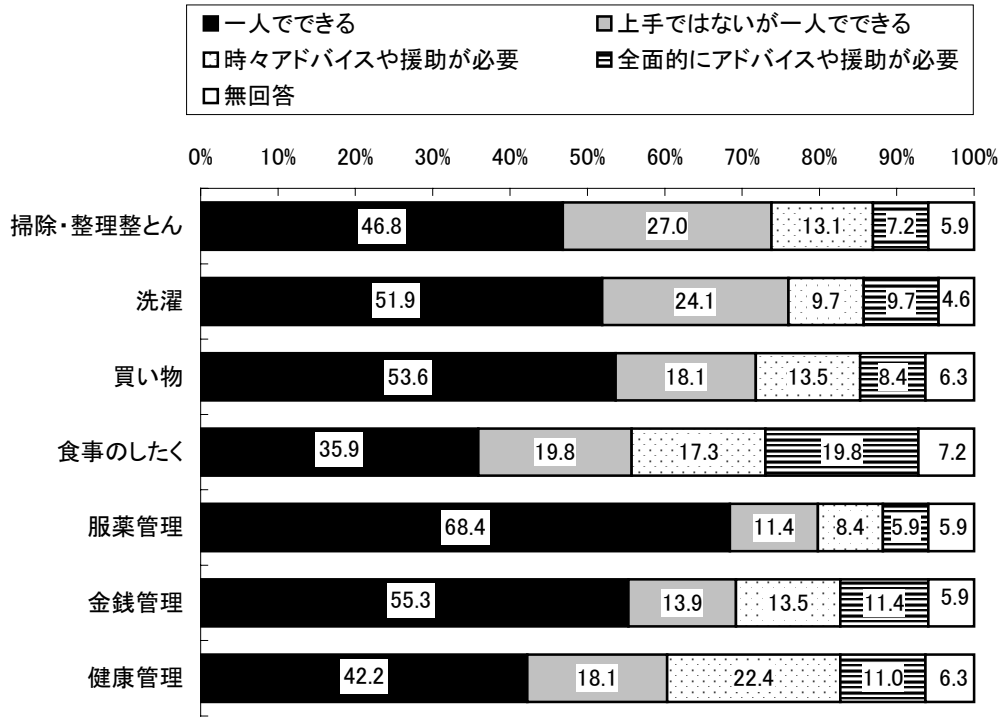
【図表 3-3-22　年齢別　急に支援が必要になった場合の相談先】（%）

		調査数［ｎ］（人）	主治医やかかりつけの医療機関	友人・知人、近所の人	保健福祉環境事務所や市役所の相談窓口	生活支援センター（ピアくるめ等）の職員やピアカウンセラー	保健師	ホームヘルパーや訪問看護師など	その他	相談するところがない	相談しない	無回答
全　体		237	81.0	11.8	7.2	4.6	3.0	2.1	1.7	5.1	3.4	5.1
年齢別	１７歳以下	8	75.0	－	25.0	－	－	－	12.5	12.5	－	12.5
	１８～２９歳	33	78.8	21.2	9.1	6.1	9.1	－	－	6.1	6.1	3.0
	３０～３９歳	33	78.8	15.2	6.1	9.1	3.0	－	3.0	6.1	6.1	3.0
	４０～４９歳	50	86.0	12.0	8.0	6.0	2.0	－	－	4.0	2.0	4.0
	５０～５９歳	54	85.2	11.1	9.3	3.7	3.7	1.9	1.9	3.7	3.7	1.9
	６０～６４歳	22	72.7	4.5	4.5	4.5	－	－	4.5	9.1	4.5	9.1
	６５歳以上	30	83.3	6.7	－	－	－	13.3	－	－	－	6.7
	無回答	7	57.1	14.3	－	－	－	－	－	14.3	－	28.6

（３）日常生活動作

問１０　あなたは、次のようなことが一人でできますか。それぞれの項目について、あてはまるものに１つずつ○をつけてください。

【図表 3-3-23　日常生活動作】（ｎ＝237）



7 項目の日常生活動作について自立度をたずねたところ、「服薬管理」をはじめ、いずれの項目においても「一人でできる」が最も多くなっている。

「時々アドバイスや援助が必要」「全面的にアドバイスや援助が必要」をあわせた要援助の割合は『食事のしたく』（37.1%）や『健康管理』（33.3%）、『金銭管理』（24.9%）などで他の項目に比べて高い。

要援助の割合を性別にみると、『洗濯』や『食事のしたく』は女性より男性で高く、『掃除・整理整とん』や『買い物』、『健康管理』、『服薬管理』などは男性より女性で高い。

年齢別にみると、18～29 歳や 65 歳以上では、他の年齢層に比べて全般的に要援助の割合が高い。

現在の症状別にみると、回復傾向にある人では要援助の割合が低く、『食事のしたく』（25.0%）以外はすべて 1 割台以下である。一方、症状に変化がない人や悪化傾向にある人では要援助の割合が高く、症状に変化がない人では『食事のしたく』（56.3%）、悪化傾向にある人では『健康管理』（85.7%）で高い。また、症状が不安定な人では他に比べて『金銭管理』（45.7%）で要援助の割合が高い。

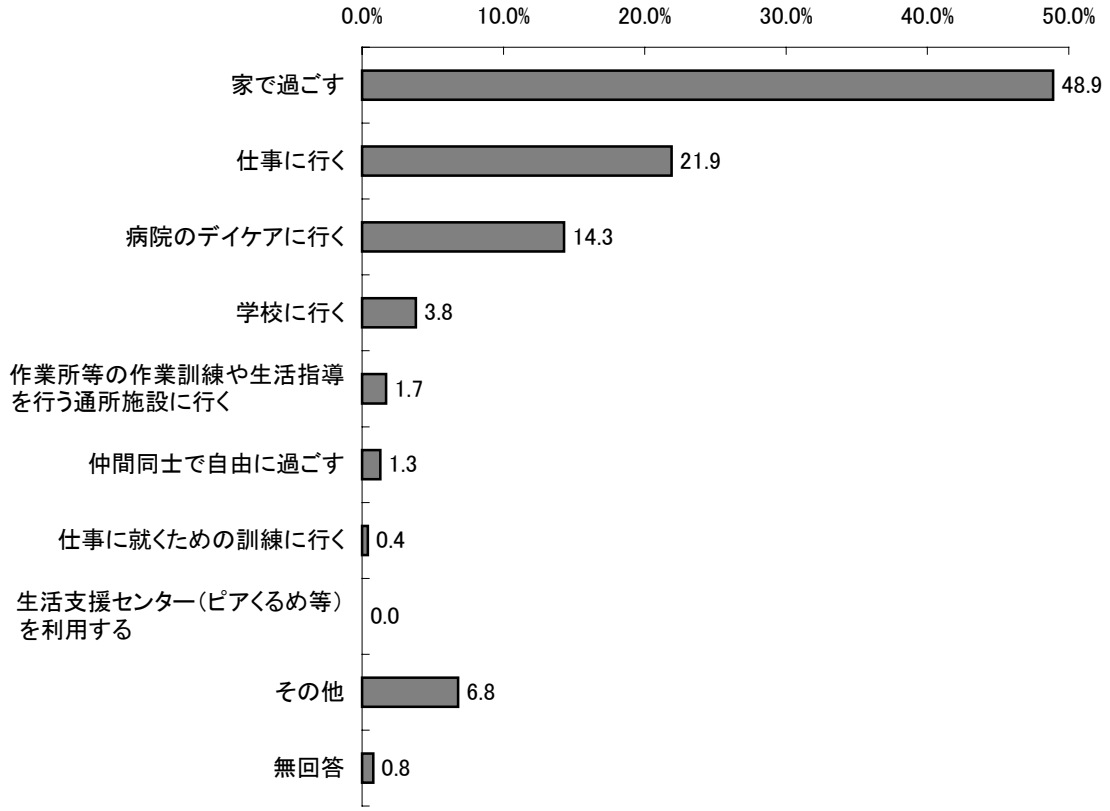
【図表 3-3-24　性別・年齢別・現在の症状別　日常生活動作に援助を要する人
（「時々アドバイスや援助」「全面的にアドバイスや援助」の合計値）】（%）

		調査数［n］（人）	掃除・整理整とん	洗濯	買い物	食事のしたく	服薬管理	金銭管理	健康管理	無回答
全　体		237	20.3	19.4	21.9	37.1	14.3	24.9	33.3	46.8
性別	男性	107	17.8	23.4	15.0	42.1	11.2	23.4	29.9	46.7
	女性	126	22.2	16.7	27.8	33.3	16.7	26.2	36.5	46.0
	無回答	4	25.0	－	25.0	25.0	25.0	25.0	25.0	75.0
年齢別	１７歳以下	8	－	12.5	12.5	25.0	25.0	25.0	25.0	75.0
	１８～２９歳	33	24.2	33.3	24.2	54.5	24.2	27.3	33.3	39.4
	３０～３９歳	33	18.2	21.2	21.2	42.4	9.1	33.3	33.3	36.4
	４０～４９歳	50	24.0	16.0	24.0	38.0	12.0	28.0	30.0	50.0
	５０～５９歳	54	11.1	11.1	11.1	29.6	5.6	14.8	33.3	48.1
	６０～６４歳	22	13.6	13.6	22.7	27.3	13.6	13.6	22.7	59.1
	６５歳以上	30	36.7	33.3	40.0	40.0	26.7	33.3	53.3	40.0
	無回答	7	28.6	－	14.3	14.3	14.3	28.6	14.3	57.1
現在の症状別	回復	116	13.8	13.8	10.3	25.0	6.0	13.8	16.4	60.3
	変化なし	64	25.0	26.6	31.3	56.3	26.6	32.8	48.4	31.3
	悪化	14	50.0	50.0	50.0	50.0	28.6	35.7	85.7	14.3
	症状不安定	35	20.0	14.3	31.4	42.9	14.3	45.7	42.9	37.1
	無回答	8	25.0	12.5	25.0	12.5	12.5	12.5	25.0	75.0

（４）日中の過ごし方

問１１　あなたは主に平日の日中はどのように過ごしていますか。（○は１つだけ）

【図表 3-3-25　日中の過ごし方】（ｎ＝237）



平日の日中の過ごし方は、「家で過ごす」（48.9%）が最も多く、次いで「仕事に行く」（21.9%）、「病院のデイケアに行く」（14.3%）となっている。

性別にみると、男性では「仕事に行く」（33.6%）が「家で過ごす」（32.7%）をやや上回って最も多いが、女性では「家で過ごす」（62.7%）が 6 割を超えて最も多い。

年齢別にみると、30 歳代では他の年齢層に比べて「仕事に行く」（39.4%）の割合が高い。

現在の症状別にみると、いずれの状態においても「家で過ごす」が最も多いが、回復傾向にある人や症状に変化がない人では、これに次いで「仕事に行く」の割合が高く、悪化傾向にある人や症状が不安定な人では「病院のデイケアに行く」の割合が高い。

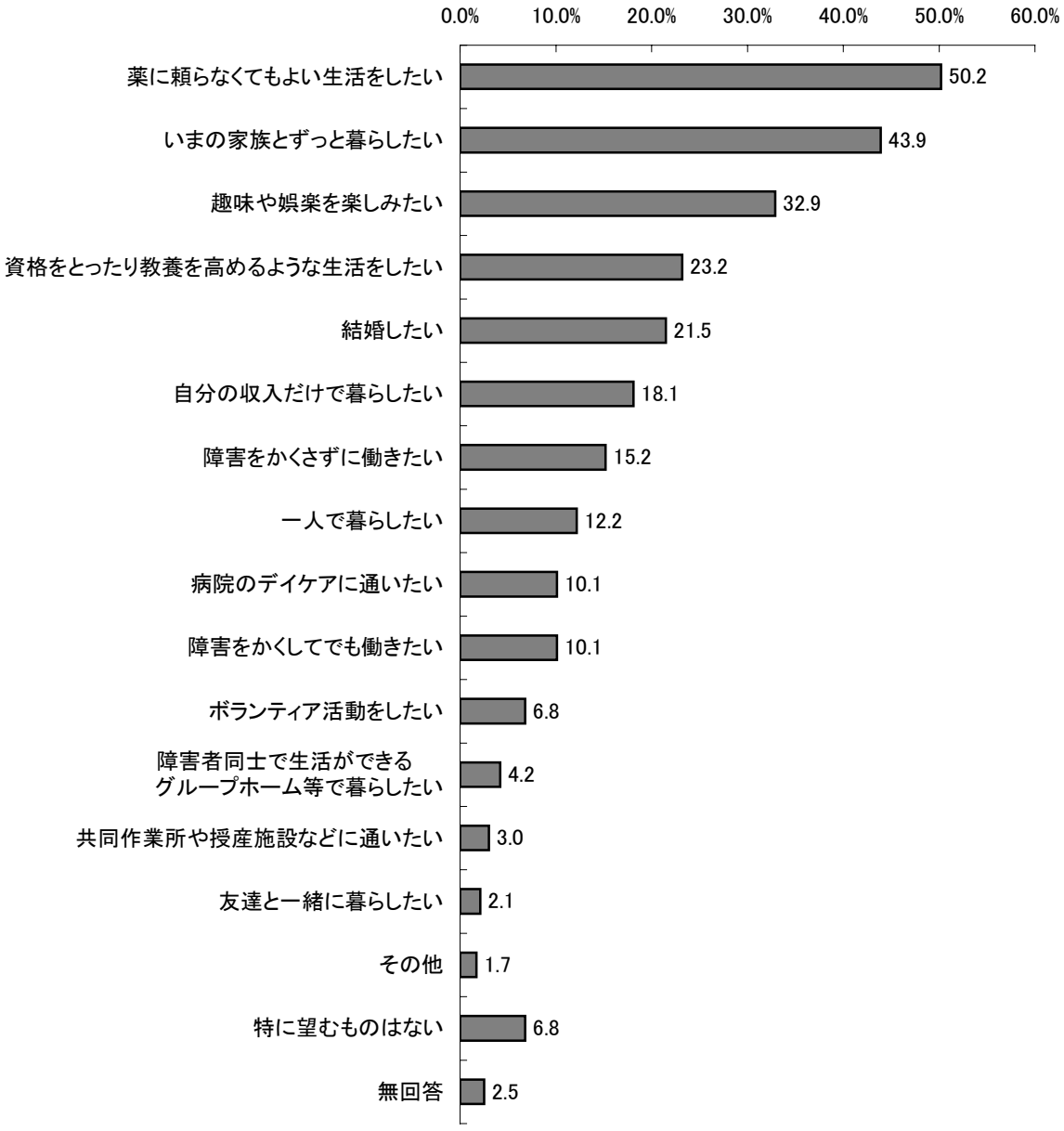
【図表 3-3-26　性別・年齢別・現在の症状別　日中の過ごし方】（%）

		調査数［n］（人）	家で過ごす	仕事に行く	病院のデイケアに行く	学校に行く	作業所等の作業訓練や生活指導を行う通所施設に行く	仲間同士で自由に過ごす	仕事に就くための訓練に行く	生活支援センター（ピアくるめ等）を利用する	その他	無回答
全体		237	48.9	21.9	14.3	3.8	1.7	1.3	0.4	－	6.8	0.8
性別	男性	107	32.7	33.6	16.8	2.8	3.7	1.9	0.9	－	6.5	0.9
	女性	126	62.7	11.9	12.7	4.8	－	0.8	－	－	7.1	－
	無回答	4	50.0	25.0	－	－	－	－	－	－	－	25.0
年齢別	１７歳以下	8	－	－	－	87.5	－	－	－	－	12.5	－
	１８～２９歳	33	54.5	18.2	15.2	6.1	－	－	－	－	6.1	－
	３０～３９歳	33	39.4	39.4	15.2	－	6.1	－	－	－	－	－
	４０～４９歳	50	46.0	24.0	18.0	－	4.0	－	－	－	8.0	－
	５０～５９歳	54	53.7	24.1	13.0	－	－	1.9	1.9	－	5.6	－
	６０～６４歳	22	40.9	31.8	9.1	－	－	4.5	－	－	9.1	4.5
	６５歳以上	30	63.3	－	20.0	－	－	3.3	－	－	13.3	－
	無回答	7	71.4	14.3	－	－	－	－	－	－	－	14.3
現在の症状別	回復	116	46.6	25.9	10.3	6.0	1.7	2.6	0.9	－	6.0	－
	変化なし	64	51.6	23.4	15.6	3.1	－	－	－	－	6.3	－
	悪化	14	50.0	7.1	21.4	－	－	－	－	－	21.4	－
	症状不安定	35	57.1	8.6	22.9	－	5.7	－	－	－	5.7	－
	無回答	8	25.0	37.5	12.5	－	－	－	－	－	－	25.0

（５）将来の日常生活に望むこと

問１２　あなたは将来の日常生活として、どのようなものを望んでいますか。（○はあてはまるものすべて）

【図表 3-3-27　将来の日常生活に望むこと】（ｎ＝237）



将来の日常生活に望むことは、「薬に頼らなくてもよい生活をしたい」（50.2%）が最も多く、次いで「いまの家族とずっと暮らしたい」（43.9%）、「趣味や娯楽を楽しみたい」（32.9%）、「資格をとったり教養を高めるような生活をしたい」（23.2%）となっている。

性別にみると、男女とも「薬に頼らなくてもよい生活をしたい」や「いまの家族とずっと暮らしたい」などが上位に位置し、大きな違いは見られないが、男性は女性に比べて「障害をかくさずに働きたい」（20.6%）や「ボランティア活動をしたい」（11.2%）の割合が高い。

年齢別にみると、18 歳～30 歳代では他の年齢層に比べて「障害をかくしてでも働きたい」や「自分の収入だけで暮らしたい」などの就労に関する項目や、「趣味や娯楽を楽しみたい」や「資格をとったり教養を高めるような生活をしたい」などの割合が高い。

現在の症状別にみると、いずれの状態においても「薬に頼らなくてもよい生活をしたい」「いまの家族とずっと暮らしたい」「趣味や娯楽を楽しみたい」が上位を占めているが、悪化傾向にある人や症状が不安定な人では、他に比べて「障害者同士で生活ができるグループホーム等で暮らしたい」の割合が高く、1割を超えている。

【図表 3-3-28　性別・年齢別・現在の症状別　将来の日常生活に望むこと】（%）

		調査数［n］（人）	薬に頼らなくてもよい生活をしたい	いまの家族とずっと暮らしたい	趣味や娯楽を楽しみたい	資格をとったり教養を高めるような生活をしたい	結婚したい	自分の収入だけで暮らしたい	障害をかくさずに働きたい	一人で暮らしたい
全　体		237	50.2	43.9	32.9	23.2	21.5	18.1	15.2	12.2
性別	男性	107	46.7	45.8	34.6	22.4	25.2	22.4	20.6	15.0
	女性	126	53.2	42.9	31.7	23.8	19.0	15.1	10.3	10.3
	無回答	4	50.0	25.0	25.0	25.0	－	－	25.0	－
年齢別	１７歳以下	8	62.5	25.0	25.0	37.5	50.0	－	－	12.5
	１８～２９歳	33	60.6	39.4	48.5	45.5	60.6	33.3	21.2	12.1
	３０～３９歳	33	60.6	36.4	51.5	33.3	33.3	33.3	30.3	24.2
	４０～４９歳	50	48.0	50.0	22.0	28.0	18.0	14.0	26.0	6.0
	５０～５９歳	54	50.0	35.2	31.5	14.8	9.3	13.0	9.3	14.8
	６０～６４歳	22	40.9	63.6	22.7	4.5	4.5	9.1	－	9.1
	６５歳以上	30	36.7	56.7	30.0	3.3	－	13.3	－	10.0
	無回答	7	42.9	28.6	14.3	28.6	14.3	14.3	14.3	－
現在の症状別	回復	116	51.7	50.0	35.3	29.3	24.1	20.7	10.3	11.2
	変化なし	64	50.0	35.9	34.4	23.4	15.6	20.3	21.9	10.9
	悪化	14	57.1	50.0	42.9	21.4	28.6	21.4	21.4	21.4
	症状不安定	35	48.6	37.1	22.9	8.6	22.9	5.7	20.0	17.1
	無回答	8	25.0	37.5	12.5	－	12.5	12.5	－	－

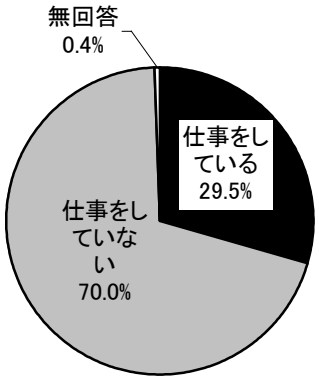
		調査数［n］（人）	病院のデイケアに通いたい	障害をかくしてでも働きたい	ボランティア活動をしたい	障害者同士で生活ができるグループホーム等で暮らしたい	共同作業所や授産施設などに通いたい	友達と一緒に暮らしたい	その他	特に望むものはない	無回答
全　体		237	10.1	10.1	6.8	4.2	3.0	2.1	1.7	6.8	2.5
性別	男性	107	13.1	11.2	11.2	2.8	4.7	0.9	－	7.5	2.8
	女性	126	7.9	8.7	3.2	5.6	1.6	2.4	3.2	6.3	1.6
	無回答	4	－	25.0	－	－	－	25.0	－	－	25.0
年齢別	１７歳以下	8	－	－	－	－	－	12.5	－	25.0	－
	１８～２９歳	33	9.1	27.3	6.1	－	6.1	－	－	6.1	3.0
	３０～３９歳	33	6.1	21.2	9.1	6.1	9.1	－	3.0	3.0	－
	４０～４９歳	50	8.0	6.0	8.0	4.0	4.0	2.0	6.0	8.0	2.0
	５０～５９歳	54	14.8	5.6	7.4	7.4	－	3.7	－	3.7	5.6
	６０～６４歳	22	4.5	－	4.5	4.5	－	－	－	9.1	－
	６５歳以上	30	20.0	3.3	6.7	3.3	－	－	－	6.7	－
	無回答	7	－	14.3	－	－	－	14.3	－	14.3	14.3
現在の症状別	回復	116	5.2	10.3	7.8	2.6	3.4	2.6	1.7	6.9	0.9
	変化なし	64	14.1	9.4	7.8	1.6	1.6	3.1	1.6	9.4	1.6
	悪化	14	21.4	7.1	7.1	14.3	7.1	－	－	7.1	－
	症状不安定	35	14.3	11.4	2.9	11.4	2.9	－	2.9	2.9	5.7
	無回答	8	12.5	12.5	－	－	－	－	－	－	25.0

３．就労について

（１）就労状況

問１３　あなたは現在仕事をしていますか。

【図表 3-3-29　就労状況】（ｎ＝237）



回答者の 29.5%は現在仕事をしている。

仕事をしている人の割合を性別にみると、女性（16.7%）より男性（44.9%）で高い。

年齢別にみると、30 歳代（51.5%）で半数を超えて最も高く、次いで 60～64 歳（36.4%）、18～29 歳（33.3%）となっている。

現在の症状別にみると、仕事をしている人の割合は、悪化傾向にある人（14.3%）や症状が不安定な人（17.1%）で低く、1 割台に留まる。

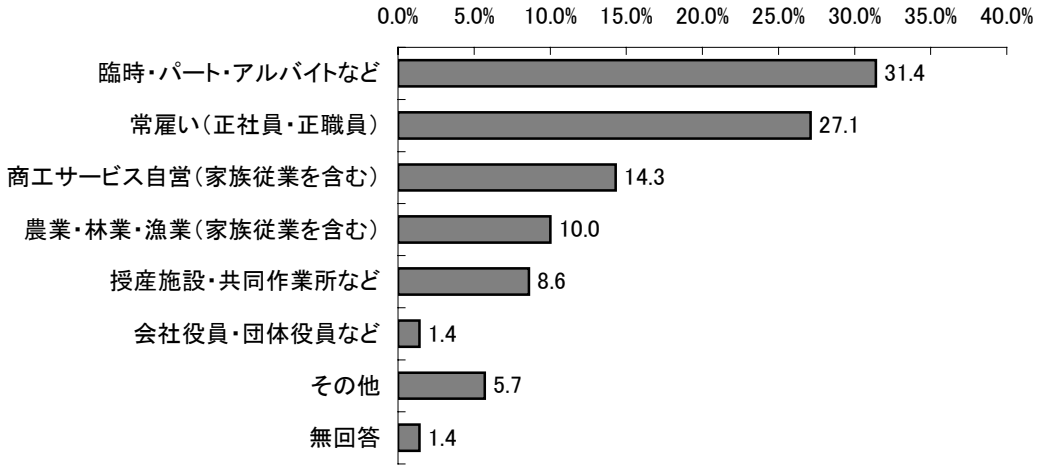
【図表 3-3-30　性別・年齢別・現在の症状別　就労状況】（%）

		調査数［ｎ］（人）	仕事をしている	仕事をしていない	無回答
全　体		237	29.5	70.0	0.4
性別	男性	107	44.9	55.1	－
	女性	126	16.7	83.3	－
	無回答	4	25.0	50.0	25.0
年齢別	１７歳以下	8	－	100.0	－
	１８～２９歳	33	33.3	66.7	－
	３０～３９歳	33	51.5	48.5	－
	４０～４９歳	50	32.0	68.0	－
	５０～５９歳	54	29.6	70.4	－
	６０～６４歳	22	36.4	63.6	－
	６５歳以上	30	3.3	96.7	－
	無回答	7	14.3	71.4	14.3
別現在の症状	回復	116	34.5	65.5	－
	変化なし	64	29.7	70.3	－
	悪化	14	14.3	85.7	－
	症状不安定	35	17.1	82.9	－
	無回答	8	37.5	50.0	12.5

（２）仕事の種類

問１３－１　（仕事をしている方のみお答えください）あなたはどのような仕事をしていますか。（○は１つだけ）

【図表 3-3-31　仕事の種類】（ｎ＝70）



仕事の種類は、「臨時・パート・アルバイトなど」（31.4%）が最も多く、次いで「常雇い（正社員・正職員）」（27.1%）となっている。

性別にみると、男性では「常雇い（正社員・正職員）」（33.3%）が最も多いが、女性では「臨時・パート・アルバイトなど」（57.1%）が最も多い。

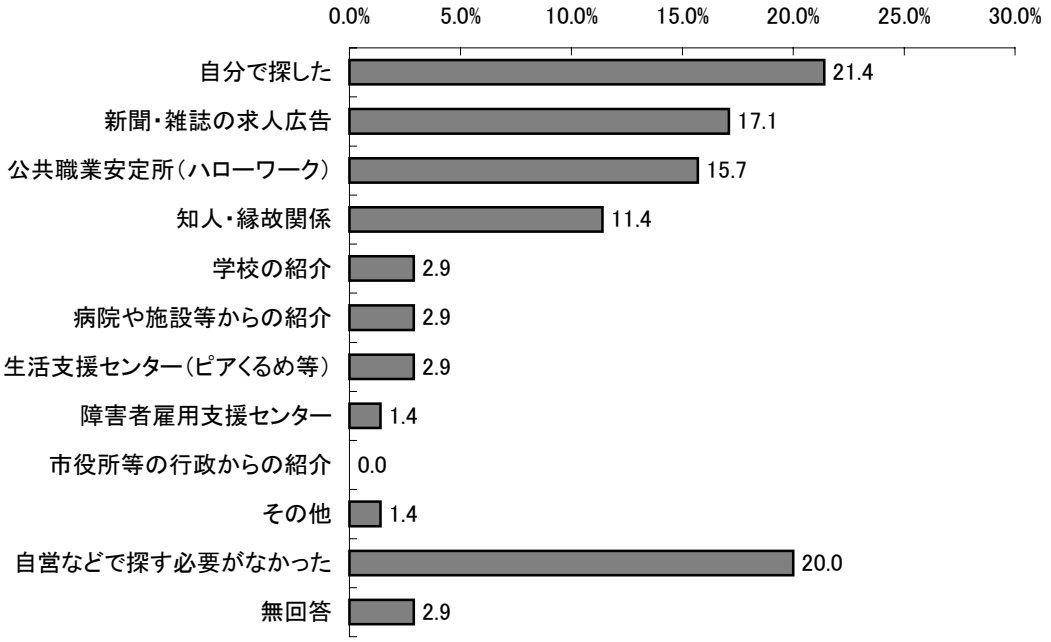
【図表 3-3-32　性別・年齢別・現在の症状別　仕事の種類】（%）

		調査数［ｎ］（人）	臨時・パート・アルバイトなど	常雇い（正社員・正職員）	商工サービス自営（家族従業を含む）	農業・林業・漁業（家族従業を含む）	授産施設・共同作業所など	会社役員・団体役員など	その他	無回答
全体		70	31.4	27.1	14.3	10.0	8.6	1.4	5.7	1.4
性別	男性	48	20.8	33.3	16.7	10.4	10.4	2.1	6.3	－
	女性	21	57.1	14.3	4.8	9.5	4.8	－	4.8	4.8
	無回答	1	－	－	100.0	－	－	－	－	－
年齢別	１７歳以下	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	１８～２９歳	11	72.7	－	18.2	－	9.1	－	－	－
	３０～３９歳	17	29.4	41.2	5.9	5.9	11.8	－	5.9	－
	４０～４９歳	16	25.0	37.5	－	18.8	12.5	6.3	－	－
	５０～５９歳	16	18.8	37.5	18.8	12.5	6.3	－	6.3	－
	６０～６４歳	8	25.0	－	37.5	12.5	－	－	12.5	12.5
	６５歳以上	1	－	－	－	－	－	－	100.0	－
	無回答	1	－	－	100.0	－	－	－	－	－
現在の症状別	回復	40	35.0	22.5	15.0	12.5	7.5	－	7.5	－
	変化なし	19	26.3	47.4	10.5	10.5	－	－	5.3	－
	悪化	2	－	50.0	－	－	50.0	－	－	－
	症状不安定	6	33.3	－	16.7	－	33.3	－	－	16.7
	無回答	3	33.3	－	33.3	－	－	33.3	－	－

（３）仕事を見つけた方法

問１３－２　（仕事をしている方のみお答えください）仕事はどのような方法で見つけましたか。（○は１つだけ）

【図表 3-3-33　仕事を見つけた方法】（ｎ＝70）



仕事を見つけた方法は、「自分で探した」（21.4%）が最も多く、次いで「自営などで探す必要がなかった」（20.0%）、「新聞・雑誌の求人広告」（17.1%）となっている。

【図表 3-3-34　現在の症状別　仕事を見つけた方法】（%）

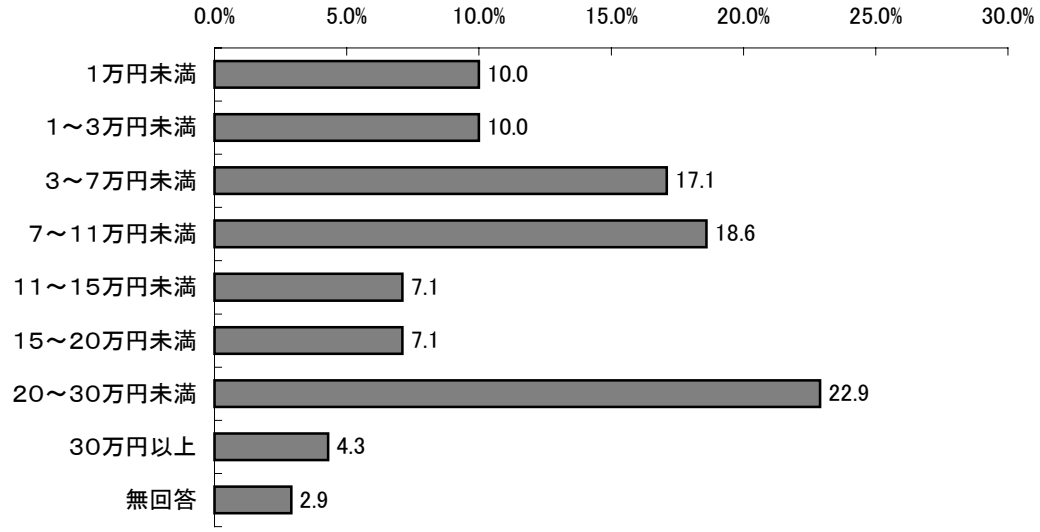
		調査数［ｎ］（人）	自分で探した	新聞・雑誌の求人広告	公共職業安定所（ハローワーク）	知人・縁故関係	学校の紹介	病院や施設等からの紹介
全　体		70	21.4	17.1	15.7	11.4	2.9	2.9
別現在の症状	回復	40	15.0	15.0	20.0	12.5	2.5	5.0
	変化なし	19	31.6	21.1	15.8	10.5	5.3	－
	悪化	2	50.0	－	－	－	－	－
	症状不安定	6	16.7	33.3	－	16.7	－	－
	無回答	3	33.3	－	－	－	－	－

		調査数［ｎ］（人）	生活支援センター（ピアくるめ等）	障害者雇用支援センター	市役所等の行政からの紹介	その他	自営などで探す必要がなかった	無回答
全　体		70	2.9	1.4	－	1.4	20.0	2.9
別現在の症状	回復	40	5.0	－	－	－	25.0	－
	変化なし	19	－	－	－	－	15.8	－
	悪化	2	－	－	－	50.0	－	－
	症状不安定	6	－	16.7	－	－	－	16.7
	無回答	3	－	－	－	－	33.3	33.3

（４）月収

問１３－３　（仕事をしている方のみお答えください）あなたが仕事で得る月収は平均しておよそいくらくらいですか。（○は１つだけ）

【図表 3-3-35　月収】（ｎ＝70）



仕事で得る月収は、「20～30 万円未満」（22.9%）が最も多く、次いで「7～11 万円未満」（18.6%）、「3～7 万円未満」（17.1%）となっている。全体の 7 割（69.9%）が月収 20 万円未満である。

仕事の種類別にみると、常雇いでは「20～30 万円未満」（63.2%）が最も多く、6 割を超えているが、臨時・パート・アルバイトなどや農業・林業・漁業、授産施設・共同作業所などのその他のほとんどの職種では、過半数が月収 20 万円未満となっている。

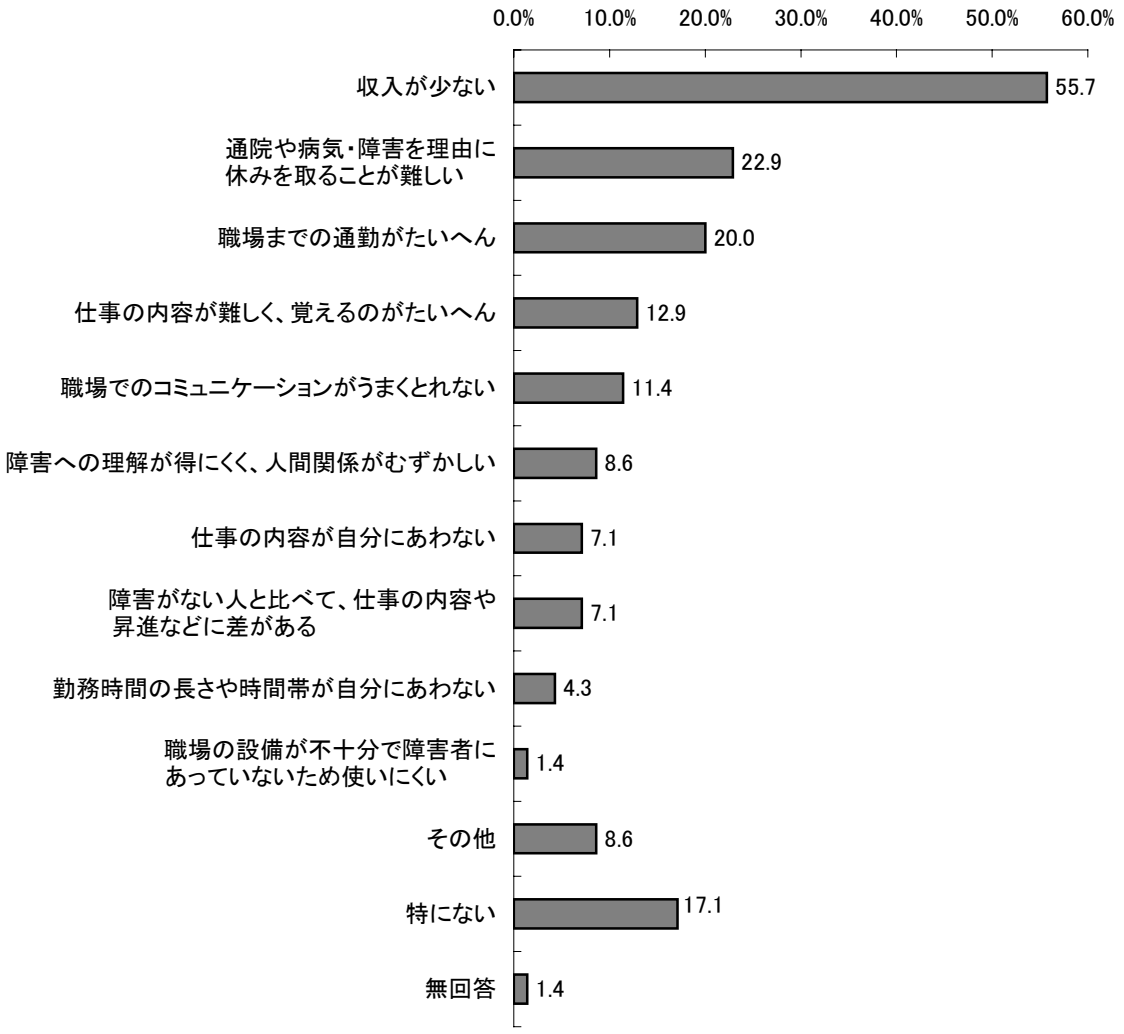
【図表 3-3-36　仕事の種類別　月収】（%）

		調査数［ｎ］（人）	１万円未満	１～３万円未満	３～７万円未満	７～１１万円未満	１１～１５万円未満	１５～２０万円未満	２０～３０万円未満	３０万円以上	無回答
全　体		70	10.0	10.0	17.1	18.6	7.1	7.1	22.9	4.3	2.9
仕事の種類別	農業・林業・漁業（家族従業を含む）	7	14.3	14.3	42.9	－	14.3	14.3	－	－	－
	商工サービス自営（家族従業を含む）	10	－	－	10.0	30.0	10.0	－	30.0	20.0	－
	会社役員・団体役員など	1	－	－	－	－	－	－	100.0	－	－
	常雇い（正社員・正職員）	19	－	－	－	10.5	－	21.1	63.2	5.3	－
	臨時・パート・アルバイトなど	22	13.6	18.2	27.3	31.8	9.1	－	－	－	－
	授産施設・共同作業所など	6	33.3	33.3	16.7	16.7	－	－	－	－	－
	その他	4	25.0	－	25.0	－	25.0	－	－	－	25.0
	無回答	1	－	－	－	－	－	－	－	－	100.0

（５）仕事上の悩みや困っていること

問１３－４　（仕事をしている方のみお答えください）仕事のことで悩んでいることや困っていることがありますか。（○はあてはまるものすべて）

【図表 3-3-37　仕事上の悩みや困っていること】（ｎ＝70）



仕事上の悩みや困っていることは、「収入が少ない」（55.7%）が最も多く、次いで「通院や病気・障害を理由に休みを取ることが難しい」（22.9%）、「職場までの通勤がたいへん」（20.0%）となっている。

仕事の種類別にみると、常雇いでは他に比べて「職場でのコミュニケーションがうまくとれない」（26.3%）や「職場までの通勤がたいへん」（47.4%）などの割合が高い。

【図表 3-3-38　現在の症状別・仕事の種類別　仕事上の悩みや困っていること】（%）

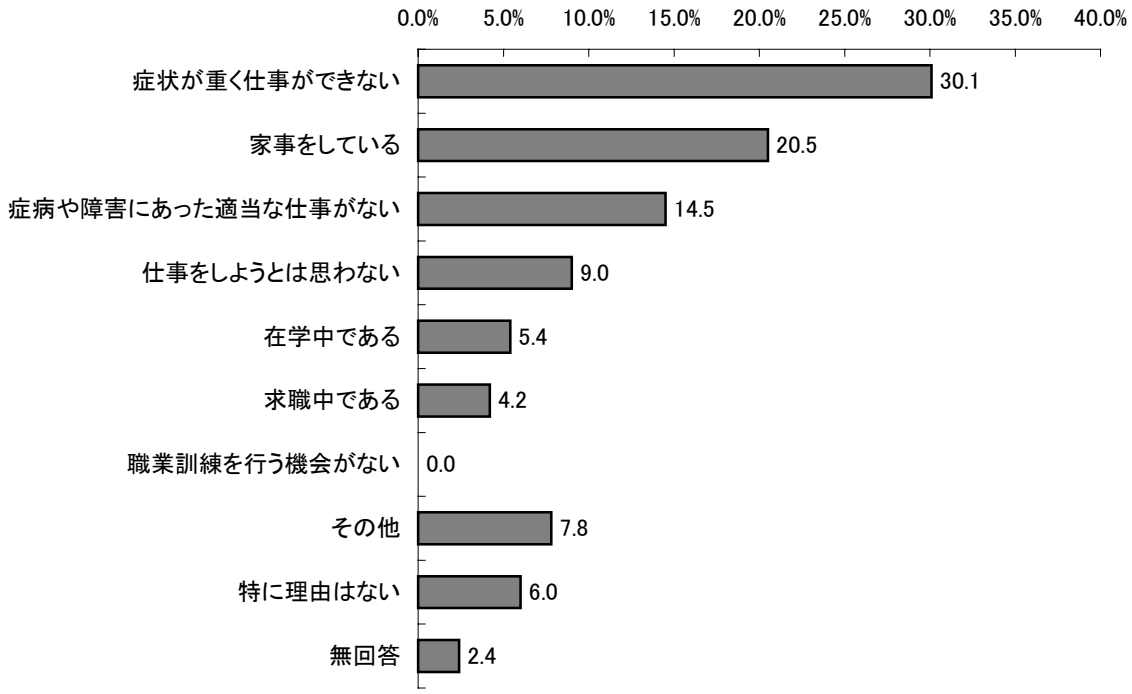
		調査数［n］（人）	収入が少ない	通院や病気・障害を理由に休みを取ることが難しい	職場までの通勤がたいへん	仕事の内容が難しく、覚えるのがたいへん	職場でのコミュニケーションがうまくとれない	障害への理解が得にくく、人間関係がむずかしい
全　体		70	55.7	22.9	20.0	12.9	11.4	8.6
現在の症状別	回復	40	55.0	20.0	15.0	7.5	12.5	7.5
	変化なし	19	52.6	36.8	26.3	15.8	5.3	5.3
	悪化	2	50.0	50.0	100.0	100.0	100.0	50.0
	症状不安定	6	50.0	－	－	16.7	－	16.7
	無回答	3	100.0	－	33.3	－	－	－
仕事の種類別	農業・林業・漁業（家族従業を含む）	7	57.1	14.3	－	42.9	14.3	14.3
	商工サービス自営（家族従業を含む）	10	40.0	20.0	10.0	－	－	20.0
	会社役員・団体役員など	1	100.0	－	100.0	－	－	－
	常雇い（正社員・正職員）	19	42.1	31.6	47.4	10.5	26.3	5.3
	臨時・パート・アルバイトなど	22	59.1	22.7	4.5	13.6	4.5	4.5
	授産施設・共同作業所など	6	83.3	16.7	33.3	16.7	16.7	16.7
	その他	4	100.0	25.0	－	－	－	－
	無回答	1	－	－	－	－	－	－

		調査数［n］（人）	仕事の内容が自分にあわない	障害がない人と比べて、仕事の内容や昇進などに差がある	勤務時間の長さや時間帯が自分にあわない	職場の設備が不十分で障害者にあっていないため使いにくい	その他	特にない	無回答
全　体		70	7.1	7.1	4.3	1.4	8.6	17.1	1.4
現在の症状別	回復	40	5.0	5.0	2.5	－	7.5	25.0	－
	変化なし	19	10.5	10.5	5.3	－	5.3	5.3	－
	悪化	2	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	－	－
	症状不安定	6	－	－	－	－	16.7	16.7	16.7
	無回答	3	－	－	－	－	－	－	－
仕事の種類別	農業・林業・漁業（家族従業を含む）	7	14.3	14.3	－	－	14.3	－	－
	商工サービス自営（家族従業を含む）	10	－	10.0	－	－	10.0	40.0	－
	会社役員・団体役員など	1	－	－	－	－	－	－	－
	常雇い（正社員・正職員）	19	10.5	10.5	10.5	－	5.3	－	－
	臨時・パート・アルバイトなど	22	－	－	－	－	9.1	31.8	－
	授産施設・共同作業所など	6	16.7	16.7	16.7	16.7	16.7	16.7	－
	その他	4	25.0	－	－	－	－	－	－
	無回答	1	－	－	－	－	－	－	100.0

（６）仕事をしていない理由

問１３－５　（仕事をしていない方のみお答えください）仕事をしていないのは、主にどのような理由によりますか。（○は１つだけ）

【図表 3-3-39　仕事をしていない理由】（ｎ＝166）



仕事をしていない理由は、「症状が重く仕事ができない」（30.1%）が最も多く、次いで「家事をしている」（20.5%）、「症病や障害にあった適当な仕事がない」（14.5%）となっている。

性別にみると、男女とも「症状が重く仕事ができない」が最も多いが、男性は女性に比べて「症病や障害にあった適当な仕事がない」（22.0%）や「特に理由はない」（10.2%）の割合が高く、女性は男性に比べて「家事をしている」（29.5%）の割合が高い。

年齢別にみると、40 歳代では「症病や障害にあった適当な仕事がない」（26.5%）が最も多い。

現在の症状別にみると、回復傾向にある人では「家事をしている」が最も多いが、その他の症状の人では「症状が重く仕事ができない」が最も多い。

また、症状に変化がみられない人では他に比べて「疾病や障害にあった適当な仕事がない」（22.2%）の割合が高い。

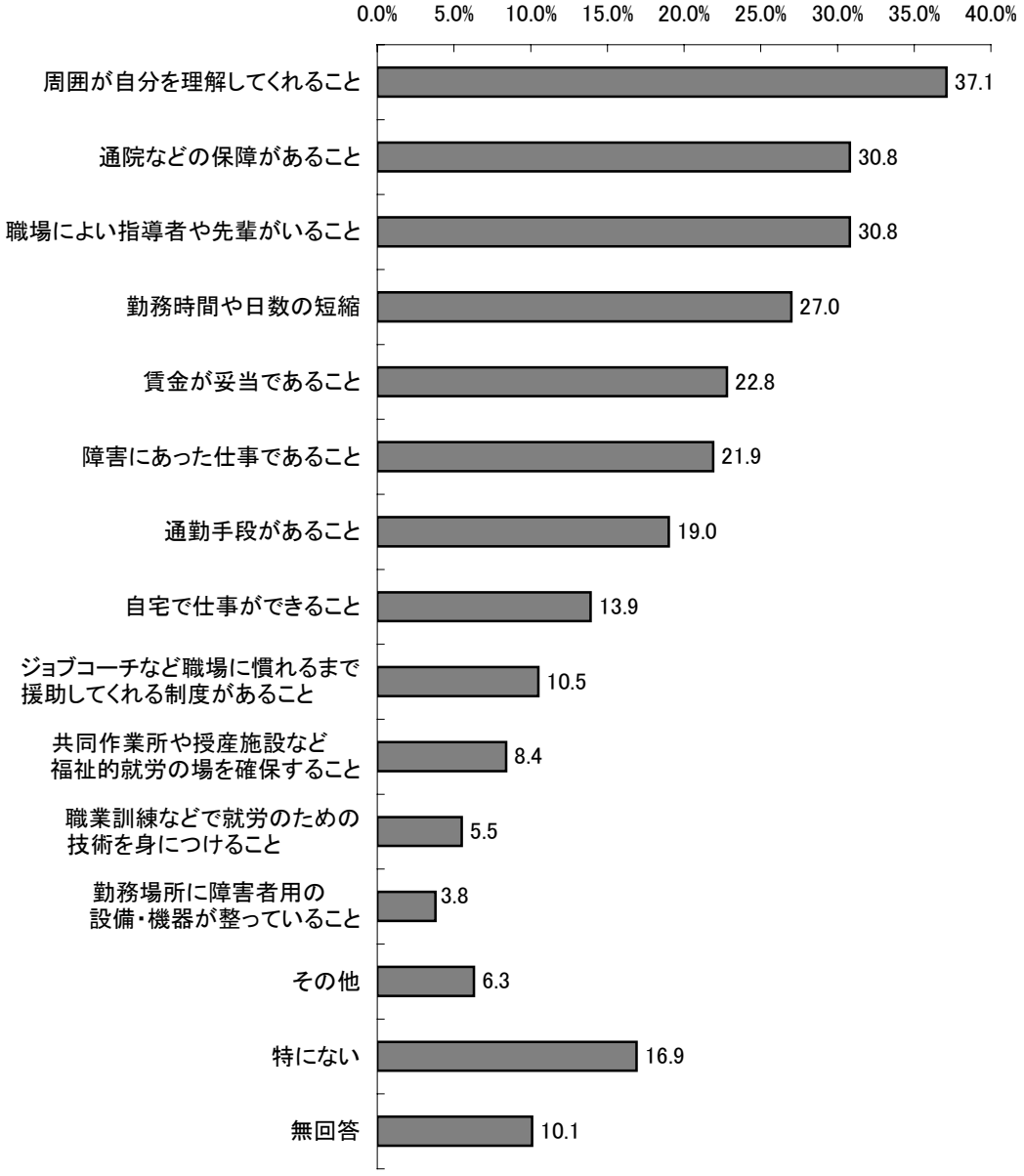
【図表 3-3-40　性別・年齢別・現在の症状別　仕事をしていない理由】（%）

		調査数［ｎ］（人）	症状が重く仕事ができない	家事をしている	症病や障害にあった適当な仕事がない	仕事をしようとは思わない	在学中である	求職中である	職業訓練を行う機会がない	その他	特に理由はない	無回答
全　体		166	30.1	20.5	14.5	9.0	5.4	4.2	－	7.8	6.0	2.4
性別	男性	59	30.5	5.1	22.0	8.5	5.1	3.4	－	8.5	10.2	6.8
	女性	105	30.5	29.5	9.5	8.6	5.7	4.8	－	7.6	3.8	－
	無回答	2	－	－	50.0	50.0	－	－	－	－	－	－
年齢別	１７歳以下	8	－	－	－	－	87.5	－	－	12.5	－	－
	１８～２９歳	22	50.0	9.1	9.1	4.5	9.1	13.6	－	4.5	－	－
	３０～３９歳	16	31.3	25.0	18.8	12.5	－	6.3	－	6.3	－	－
	４０～４９歳	34	20.6	23.5	26.5	11.8	－	5.9	－	5.9	5.9	－
	５０～５９歳	38	36.8	34.2	13.2	10.5	－	－	－	2.6	－	2.6
	６０～６４歳	14	42.9	21.4	14.3	14.3	－	－	－	－	7.1	－
	６５歳以上	29	24.1	10.3	3.4	3.4	－	－	－	24.1	24.1	10.3
	無回答	5	－	20.0	40.0	20.0	－	20.0	－	－	－	－
現在の症状別	回復	76	17.1	22.4	10.5	10.5	9.2	7.9	－	7.9	11.8	2.6
	変化なし	45	40.0	15.6	22.2	6.7	4.4	－	－	6.7	2.2	2.2
	悪化	12	75.0	8.3	8.3	8.3	－	－	－	－	－	－
	症状不安定	29	31.0	27.6	13.8	10.3	－	3.4	－	10.3	－	3.4
	無回答	4	25.0	25.0	25.0	－	－	－	－	25.0	－	－

（７）仕事をする上で必要な条件整備

問１４　(仕事をしている方もしていない方もお答えください)あなたが仕事をするうえで、どのような条件整備が必要ですか。(○はあてはまるものすべて)

【図表 3-3-41　仕事をする上で必要な条件整備】(ｎ＝237)



仕事をする上で必要な条件整備は、「周囲が自分を理解してくれること」(37.1%)が最も多く、次いで、「通院などの保障があること」(30.8%)、「職場によい指導者や先輩がいること」(30.8%)、「勤務時間や日数の短縮」(27.0%) となっている。

現在の症状別にみると、症状に変化が見られない人では他に比べて「通院などの保障があること」(43.8%) の割合が高く、症状が不安定な人では「周囲が自分を理解してくれること」(42.9%) の割合が高い。また、悪化傾向にある人では他に比べて「職業訓練などで就労のための技術を身につけること」(21.4%) や「ジョブコーチなど職場に慣れるまで援助してくれる制度があること」(28.6%)、「共同作業所や授産施設など福祉的就労の場を確保すること」(21.4%) などの割合が高い。

就労状況別にみると、仕事をしている人では「職場によい指導者や先輩がいること」(41.4%) が最も多く、4 割を超えている。

【図表 3-3-42　現在の症状別・就労状況別　仕事をする上で必要な条件整備】（%）

		調査数［n］（人）	周囲が自分を理解してくれること	通院などの保障があること	職場によい指導者や先輩がいること	勤務時間や日数の短縮	賃金が妥当であること	障害にあった仕事であること	通勤手段があること
全　体		237	37.1	30.8	30.8	27.0	22.8	21.9	19.0
現在の症状別	回復	116	37.9	24.1	29.3	25.9	23.3	18.1	19.0
	変化なし	64	39.1	43.8	32.8	32.8	23.4	26.6	20.3
	悪化	14	28.6	35.7	35.7	35.7	21.4	35.7	21.4
	症状不安定	35	42.9	31.4	34.3	22.9	25.7	22.9	17.1
	無回答	8	－	12.5	12.5	－	－	12.5	12.5
就労状況別	仕事をしている	70	38.6	21.4	41.4	22.9	25.7	17.1	11.4
	仕事をしていない	166	36.7	34.9	26.5	28.9	21.7	24.1	22.3
	無回答	1	－	－	－	－	－	－	－

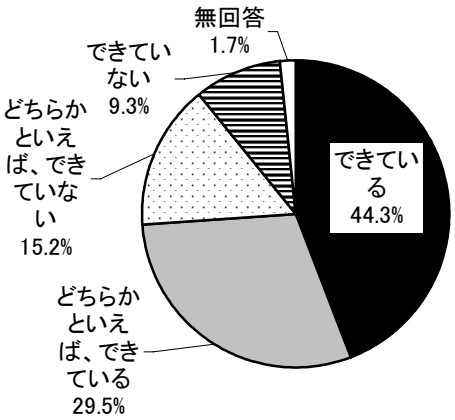
		調査数［n］（人）	自宅で仕事ができること	ジョブコーチなど職場に慣れるまで援助してくれる制度があること	共同作業所や授産施設など福祉的就労の場を確保すること	職業訓練などで就労のための技術を身につけること	勤務場所に障害者用の設備・機器が整っていること	その他	特にない	無回答
全　体		237	13.9	10.5	8.4	5.5	3.8	6.3	16.9	10.1
現在の症状別	回復	116	12.1	7.8	6.9	1.7	2.6	4.3	19.8	8.6
	変化なし	64	14.1	10.9	7.8	4.7	4.7	7.8	12.5	9.4
	悪化	14	21.4	28.6	21.4	21.4	7.1	14.3	35.7	－
	症状不安定	35	17.1	14.3	11.4	11.4	5.7	5.7	11.4	11.4
	無回答	8	12.5	－	－	12.5	－	12.5	－	50.0
就労状況別	仕事をしている	70	8.6	10.0	8.6	7.1	2.9	8.6	15.7	8.6
	仕事をしていない	166	16.3	10.8	8.4	4.8	4.2	5.4	17.5	10.2
	無回答	1	－	－	－	－	－	－	－	100.0

４．外出について

（１）外出の状況

問１５　あなたは、ふだん、外出したいと思うところに、外出できていますか。（○は１つだけ）

【図表 3-3-43　外出の状況】（ｎ＝237）



外出したいと思うところに外出できているかという問に対しては、「できている」（44.3%）が最も多く、次いで「どちらかといえば、できている」（29.5%）となっており、これらをあわせると、希望どおりに外出できている人が全体の７割強（73.8%）を占めている。一方、「どちらかといえば、できていない」（15.2%）・「できていない」（9.3%）をあわせた、希望どおりに外出できていない人は 24.5%となっている。

現在の症状別にみると、回復傾向にある人や症状に変化がない人では「できている」が最も多く、症状が不安定な人では「どちらかといえば、できている」が最も多くなっており、これらの層では、希望どおりに外出できている人（「できている」＋「どちらかといえば、できている」）が６割以上となっている。一方、悪化傾向にある人では「できていない」（57.1%）が半数を超えており、希望どおりに外出できていない人（「どちらかといえば、できていない」＋「できていない」）が８割（78.5%）を占めている。

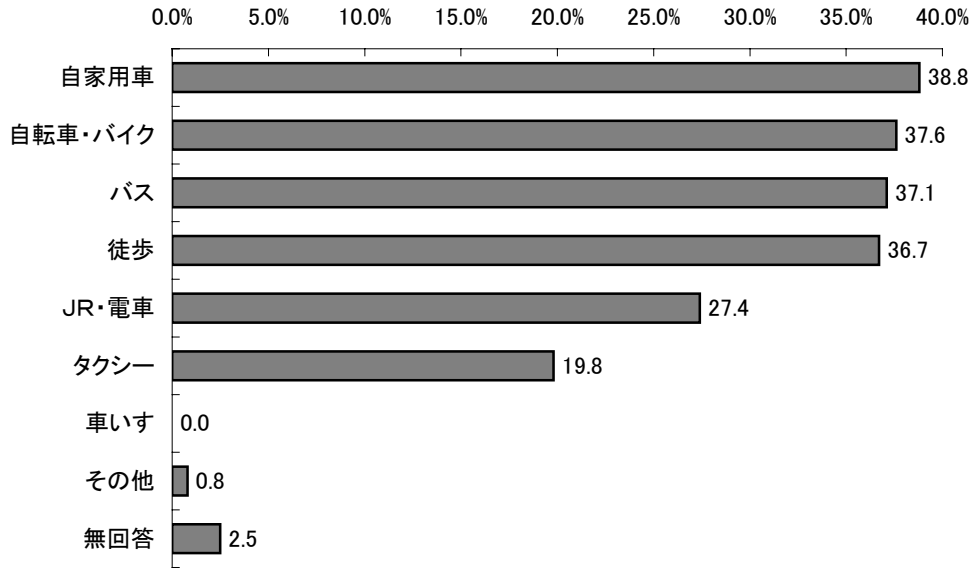
【図表 3-3-44　現在の症状別　外出の状況】（%）

		調査数［ｎ］（人）	できている	どちらかといえば、できている	どちらかといえば、できていない	できていない	無回答
全　体		237	44.3	29.5	15.2	9.3	1.7
別現在の症状	回復	116	62.1	27.6	7.8	1.7	0.9
	変化なし	64	32.8	31.3	21.9	12.5	1.6
	悪化	14	－	21.4	21.4	57.1	－
	症状不安定	35	22.9	40.0	25.7	8.6	2.9
	無回答	8	50.0	12.5	12.5	12.5	12.5

（２）外出時の移動手段

問１６　外出の時の移動手段は何ですか。（○はあてはまるものすべて）

【図表 3-3-45　外出時の移動手段】（ｎ＝237）



外出時の移動手段では、「自家用車」（38.8%）が最も多く、次いで「自転車・バイク」（37.6%）、「バス」（37.1%）、「徒歩」（36.7%）となっている。

【図表 3-3-46　現在の症状別　外出時の移動手段】（%）

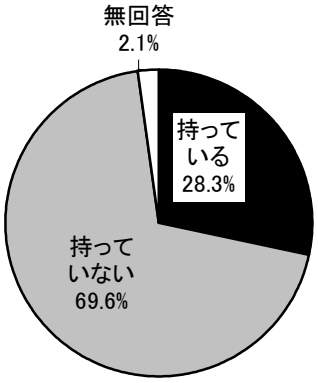
		調査数［ｎ］（人）	自家用車	自転車・バイク	バス	徒歩	ＪＲ・電車	タクシー	車いす	その他	無回答
全　体		237	38.8	37.6	37.1	36.7	27.4	19.8	－	0.8	2.5
別現在の症状	回復	116	45.7	38.8	37.9	37.1	30.2	21.6	－	－	0.9
	変化なし	64	32.8	35.9	40.6	35.9	26.6	12.5	－	1.6	3.1
	悪化	14	50.0	21.4	21.4	21.4	35.7	14.3	－	7.1	－
	症状不安定	35	22.9	45.7	37.1	48.6	20.0	31.4	－	－	2.9
	無回答	8	37.5	25.0	25.0	12.5	12.5	12.5	－	－	25.0

５．福祉サービスについて

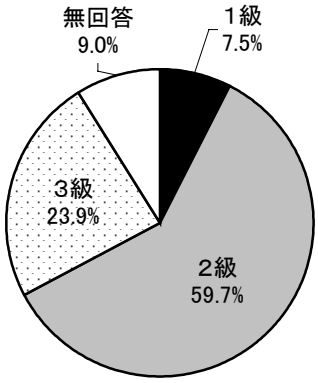
（１）精神障害者保健福祉手帳の有無

問１７　　あなたは「精神障害者保健福祉手帳」を持っていますか。
問１７－１　（精神障害者保健福祉手帳を持っている方のみお答えください）「精神障害者保健福祉手帳」による等級は次のどれですか。

【図表 3-3-47　精神障害者保健福祉手帳の有無】（ｎ＝237）



【図表 3-3-48　精神障害者保健福祉手帳の等級】（ｎ＝67）



精神障害者保健福祉手帳所持者は3割弱(28.3%)である。手帳所持者の等級は「2級」(59.7%)が6割と最も多く、次いで「3級」(23.9%)、「1級」(7.5%)となっている。

年齢別にみると、手帳所持者の割合は40歳代（40.0%）や30歳代（36.4%）で高い。

現在の症状別にみると、手帳所持者の割合は、症状が不安定な人（51.4%）や症状に変化が見られない人（37.5%）で高い。

【図表 3-3-49　性別・年齢別・現在の症状別　精神障害者保健福祉手帳の有無】（%）

		調査数［ｎ］（人）	持っている	持っていない	無回答
全　体		237	28.3	69.6	2.1
性別	男性	107	30.8	67.3	1.9
	女性	126	25.4	73.0	1.6
	無回答	4	50.0	25.0	25.0
年齢別	１７歳以下	8	－	100.0	－
	１８～２９歳	33	15.2	84.8	－
	３０～３９歳	33	36.4	60.6	3.0
	４０～４９歳	50	40.0	56.0	4.0
	５０～５９歳	54	33.3	64.8	1.9
	６０～６４歳	22	31.8	68.2	－
	６５歳以上	30	10.0	90.0	－
	無回答	7	28.6	57.1	14.3
現在の症状別	回復	116	18.1	80.2	1.7
	変化なし	64	37.5	60.9	1.6
	悪化	14	14.3	85.7	－
	症状不安定	35	51.4	45.7	2.9
	無回答	8	25.0	62.5	12.5

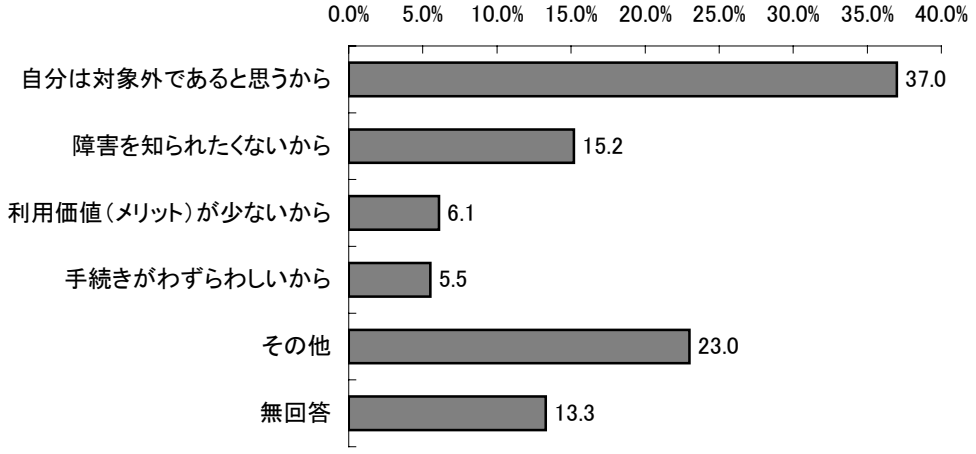
【図表 3-3-50　性別・年齢別・現在の症状別　精神障害者保健福祉手帳の等級】（%）

		調査数［n］（人）	1級	2級	3級	無回答
全　体		67	7.5	59.7	23.9	9.0
性別	男性	33	9.1	48.5	30.3	12.1
	女性	32	6.3	68.8	18.8	6.3
	無回答	2	－	100.0	－	－
年齢別	１７歳以下	－	－	－	－	－
	１８～２９歳	5	－	60.0	20.0	20.0
	３０～３９歳	12	8.3	66.7	25.0	－
	４０～４９歳	20	10.0	70.0	20.0	－
	５０～５９歳	18	5.6	61.1	22.2	11.1
	６０～６４歳	7	14.3	28.6	28.6	28.6
	６５歳以上	3	－	－	66.7	33.3
	無回答	2	－	100.0	－	－
現在の症状別	回復	21	4.8	71.4	23.8	－
	変化なし	24	8.3	54.2	25.0	12.5
	悪化	2	－	50.0	50.0	－
	症状不安定	18	11.1	50.0	22.2	16.7
	無回答	2	－	100.0	－	－

（２）精神障害者保健福祉手帳を持っていない理由

問１７－２　（精神障害者保健福祉手帳を持っていない方のみお答えください）精神障害者保健福祉手帳を持っていない主な理由は何ですか。（○は１つだけ）

【図表 3-3-51　精神障害者保健福祉手帳を持っていない理由】（ｎ＝165）



精神障害者保健福祉手帳を持っていない理由は、「自分は対象外であると思うから」（37.0%）が最も多く、次いで「障害を知られたくないから」（15.2%）となっている。また、「その他」も23.0%を占めており、その回答のほとんどが「手帳があることを知らなかったから」であった。

現在の症状別にみると、回復傾向にある人や症状が不安定な人では他に比べて「自分は対象外であると思うから」の割合が高い。

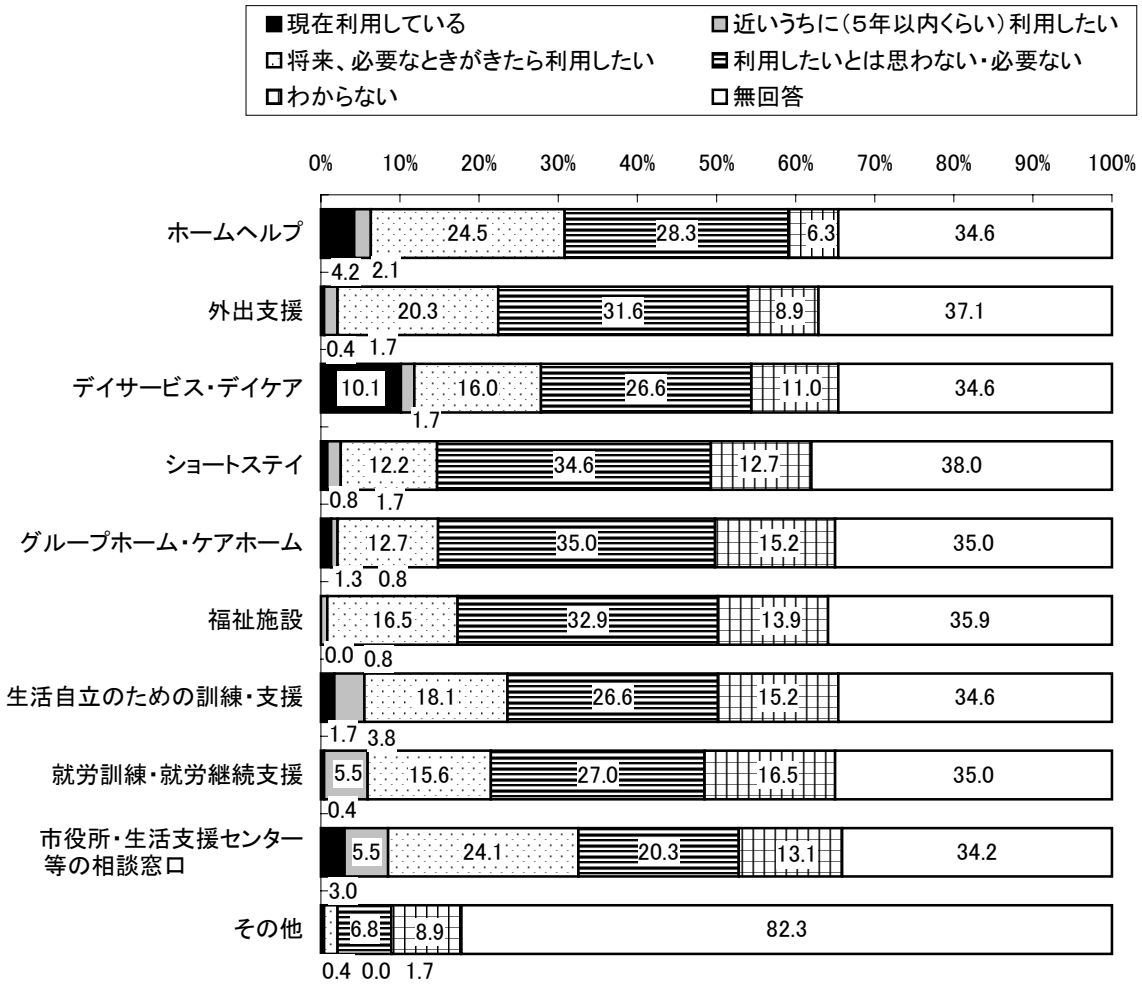
【図表 3-3-52　性別・年齢別・現在の症状別　精神障害者保健福祉手帳を持っていない理由】（%）

		調査数［n］（人）	自分は対象外であると思うから	障害を知られたくないから	利用価値（メリット）が少ないから	手続きがわずらわしいから	その他	無回答
全　体		165	37.0	15.2	6.1	5.5	23.0	13.3
性別	男性	72	33.3	23.6	6.9	9.7	13.9	12.5
	女性	92	40.2	8.7	4.3	2.2	30.4	14.1
	無回答	1	－	－	100.0	－	－	－
年齢別	１７歳以下	8	25.0	－	12.5	－	37.5	25.0
	１８～２９歳	28	28.6	21.4	7.1	7.1	28.6	7.1
	３０～３９歳	20	40.0	15.0	10.0	10.0	5.0	20.0
	４０～４９歳	28	32.1	17.9	7.1	3.6	25.0	14.3
	５０～５９歳	35	45.7	8.6	5.7	2.9	22.9	14.3
	６０～６４歳	15	53.3	20.0	－	－	13.3	13.3
	６５歳以上	27	33.3	14.8	－	11.1	29.6	11.1
	無回答	4	25.0	25.0	25.0	－	25.0	－
現在の症状別	回復	93	43.0	15.1	6.5	4.3	19.4	11.8
	変化なし	39	25.6	15.4	10.3	7.7	25.6	15.4
	悪化	12	16.7	16.7	－	8.3	41.7	16.7
	症状不安定	16	43.8	18.8	－	6.3	25.0	6.3
	無回答	5	40.0	－	－	－	20.0	40.0

（３）福祉サービスの利用状況・利用意向

問１８　①～⑩の福祉サービスについて、あてはまるものにそれぞれ１つだけ○をつけてください。①～④のサービスで「1（現在利用している）」または「2（近いうちに[5年以内くらい]利用したい）」に○をつけた方は、利用している、または利用したいと思うサービス日数や時間数を記入してください。

【図表 3-3-53　福祉サービスの利用状況・利用意向】（ｎ＝237）



現在実施されている、もしくは、今後、障害者自立支援法により新たに導入される予定の福祉サービスについて、利用状況と利用意向をたずねたが、いずれも 3～4 割弱が無回答であった。

利用意向（「近いうちに（5 年以内くらい）利用したい」＋「将来、必要なときがきたら利用したい」）は、「市役所・生活支援センター等の相談窓口」（29.5%）で最も高く、次いで「ホームヘルプ」（26.6%）、「外出支援」（21.9%）、「生活自立のための訓練・支援」（21.9%）、「就労訓練・就労継続支援」（21.1%）となっている。

利用意向を年齢別にみると、18 歳～30 歳代では他の年齢層に比べて「就労訓練・就労継続支援」の割合が高く、3 割を超えている。

現在の症状別にみると、悪化傾向にある人は他の状態像の人に比べて、全項目において利用意向が高い。

【図表 3-3-54　年齢別・現在の症状別　福祉サービスの利用意向（「近いうちに（5 年以内くらい）利用したい」「将来、必要なときがきたら利用したい」の合計値）】（%）

		調査数［n］（人）	ホームヘルプ	外出支援	デイサービス・デイケア	ショートステイ	グループホーム・ケアホーム
全　体		237	26.6	21.9	17.7	13.9	13.5
年齢別	１７歳以下	8	12.5	12.5	12.5	12.5	－
	１８～２９歳	33	21.2	18.2	21.2	18.2	18.2
	３０～３９歳	33	24.2	18.2	15.2	15.2	15.2
	４０～４９歳	50	20.0	18.0	12.0	8.0	4.0
	５０～５９歳	54	27.8	22.2	20.4	13.0	22.2
	６０～６４歳	22	50.0	40.9	27.3	22.7	18.2
	６５歳以上	30	33.3	26.7	13.3	13.3	6.7
	無回答	7	14.3	14.3	28.6	14.3	14.3
現在の症状別	回復	116	22.4	18.1	12.9	10.3	10.3
	変化なし	64	25.0	20.3	14.1	9.4	14.1
	悪化	14	50.0	42.9	50.0	57.1	57.1
	症状不安定	35	34.3	31.4	31.4	17.1	8.6
	無回答	8	25.0	12.5	－	12.5	－

		調査数［n］（人）	福祉施設	生活自立のための訓練・支援	就労訓練・就労継続支援	市役所・生活支援センター等の相談窓口	その他	無回答
全　体		237	17.3	21.9	21.1	29.5	1.7	51.5
年齢別	１７歳以下	8	－	－	－	25.0	12.5	75.0
	１８～２９歳	33	21.2	24.2	36.4	33.3	－	51.5
	３０～３９歳	33	15.2	21.2	33.3	42.4	3.0	36.4
	４０～４９歳	50	6.0	24.0	22.0	22.0	－	64.0
	５０～５９歳	54	18.5	25.9	25.9	24.1	1.9	50.0
	６０～６４歳	22	36.4	36.4	9.1	40.9	－	36.4
	６５歳以上	30	23.3	10.0	－	26.7	3.3	53.3
	無回答	7	14.3	－	－	28.6	－	57.1
現在の症状別	回復	116	11.2	17.2	20.7	29.3	0.9	55.2
	変化なし	64	15.6	20.3	18.8	25.0	3.1	56.3
	悪化	14	57.1	42.9	42.9	57.1	7.1	14.3
	症状不安定	35	22.9	31.4	22.9	28.6	－	40.0
	無回答	8	25.0	25.0	－	25.0	－	75.0

（４）ホームヘルプの利用状況・利用意向

【図表 3-3-55　ホームヘルプの利用時間数・利用希望時間数】（人）

	調査数［n］	週１～１０時間	週１１～２０時間	週２１～３０時間	週３１～４０時間	週４１時間以上	無回答
現在の利用時間数	10	9	1	－	－	－	－
利用希望時間数	5	4	1	－	－	－	－

ホームヘルプ利用者の現在の利用時間数は、「週 1～10 時間」（9 人）が最も多く、利用希望者の希望時間数でも「週 1～10 時間」（4 人）が最も多い。

（５）外出支援の利用状況・利用意向

【図表 3-3-56　外出支援の利用日数・利用希望日数】（人）

	調査数［n］	月１～５日	月６～１０日	月１１～１５日	月１６～２０日	月２１日以上	無回答
現在の利用日数	1	－	－	－	－	－	1
利用希望日数	4	2	1	－	－	1	－

外出支援利用者は 1 人であり。現在の利用日数は無回答であたった。利用希望者の希望日数では「月 1～5 日」（2 人）が最も多い。

（６）デイサービス・デイケアの利用状況・利用意向

【図表 3-3-57　デイサービス・デイケアの利用日数・利用希望日数】（人）

	調査数［n］	月１～５日	月６～１０日	月１１～１５日	月１６～２０日	月２１日以上	無回答
現在の利用日数	24	9	4	－	6	5	－
利用希望日数	4	1	1	1	1	－	－

通所サービス利用者の現在の利用日数は、「月 1～5 日」（9 人）が最も多い。利用希望者の希望日数では「月 1～5 日」「月 6～10 日」「月 11～15 日」「月 16～20 日」がそれぞれ 1 人ずつとなっている。

（７）ショートステイの利用状況・利用意向

【図表 3-3-58　ショートステイの利用日数・利用希望日数】（人）

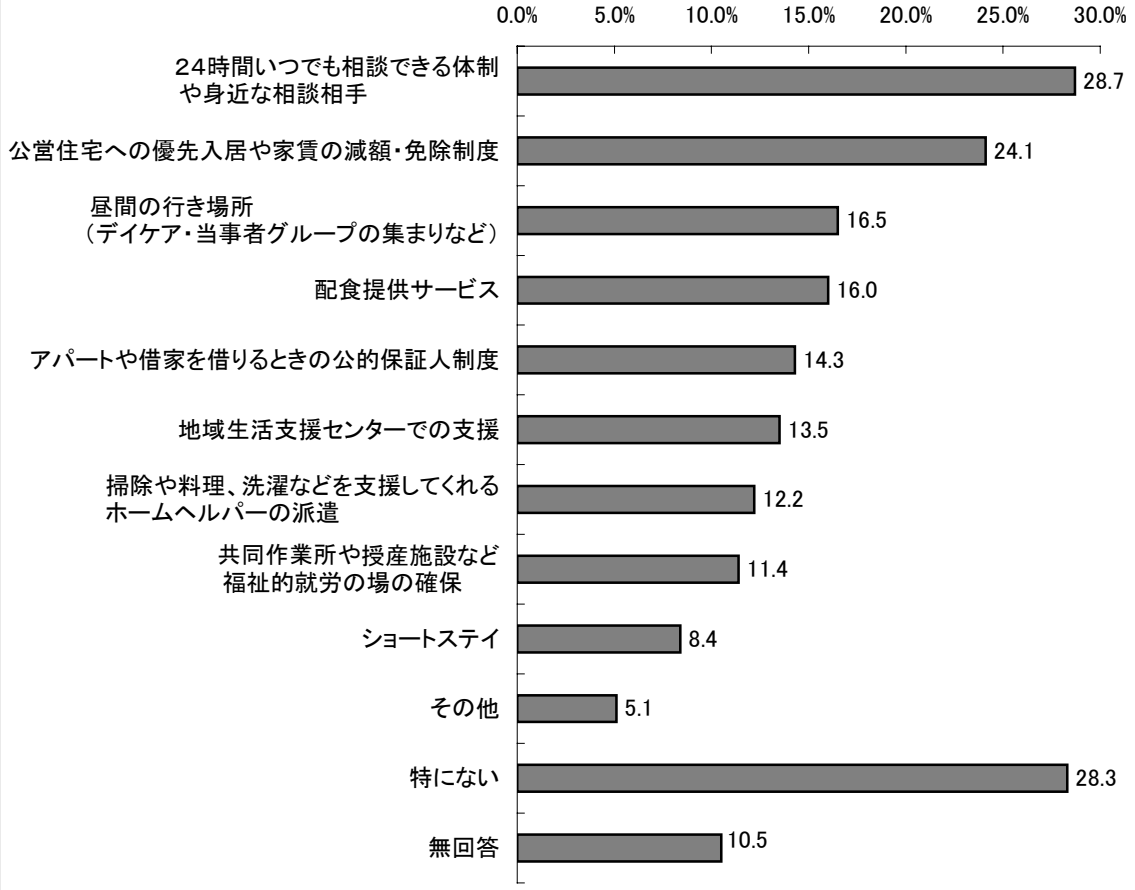
	調査数［n］	月１～５日	月６～１０日	月１１～１５日	月１６～２０日	月２１日以上	無回答
現在の利用日数	2	－	1	1	－	－	－
利用希望日数	4	4	－	－	－	－	－

ショートステイ利用者の現在の利用日数は、「月 6～10 日」「月 11～15 日」であり、利用希望者の希望日数では全員が「月 1～5 日」と回答している。

（８）充実した生活を送るために必要な支援

問１９　今後、あなたがさらに充実した生活を送るためには、どのような支援が必要だと思いますか。（○はあてはまるものすべて）

【図表 3-3-59　充実した生活を送るために必要な支援】（ｎ＝237）



充実した生活を送るために必要な支援は、「24 時間いつでも相談できる体制や身近な相談相手」（28.7%）が最も多く、次いで「公営住宅への優先入居や家賃の減額・免除制度」（24.1%）、「昼間の行き場所（デイケア・当事者グループの集まりなど）」（16.5%）、「配食提供サービス」（16.0%）となっている。また、「特にない」も 28.3%となっている。

年齢別にみると、30 歳代では他の年齢層に比べて「地域生活支援センターでの支援」（21.2%）や「共同作業所や授産施設など福祉的就労の場の確保」（21.2%）の割合が高く、65 歳以上では「昼間の行き場所（デイケア・当事者グループの集まりなど）」（30.0%）や「配食提供サービス」（30.0%）の割合が高い。

現在の症状別にみると、回復傾向にある人では「特にない」（35.3%）が最も多いが、症状に変化が見られない人では「24 時間いつでも相談できる体制や身近な相談相手」（40.6%）が最も多く、悪化傾向にある人では「昼間の行き場所（デイケア・当事者グループの集まりなど）」（57.1%）が最も多い。

また、悪化傾向にある人では他に比べて全般的に割合が高く、「昼間の行き場所（デイケア・当事者グループの集まりなど）」（57.1%）や「アパートや借家を借りるときの公的保証人制度」（35.7%）、「地域生活支援センターでの支援」（35.7%）、「共同作業所や授産施設など福祉的就労の場の確保」（35.7%）などで顕著である。

【図表 3-3-60　性別・年齢別・現在の症状別　充実した生活を送るために必要な支援】（%）

		調査数［ｎ］（人）	２４時間いつでも相談できる体制や身近な相談相手	公営住宅への優先入居や家賃の減額・免除制度	昼間の行き場所（デイケア・当事者グループなど）の集まりなど	配食提供サービス	アパートや借家を借りるときの公的保証人制度	地域生活支援センターでの支援
全　体		237	28.7	24.1	16.5	16.0	14.3	13.5
性別	男性	107	27.1	28.0	18.7	17.8	19.6	14.0
	女性	126	31.0	21.4	15.1	14.3	10.3	13.5
	無回答	4	－	－	－	25.0	－	－
年齢別	１７歳以下	8	12.5	12.5	25.0	12.5	－	12.5
	１８～２９歳	33	36.4	33.3	12.1	15.2	27.3	15.2
	３０～３９歳	33	36.4	33.3	15.2	9.1	18.2	21.2
	４０～４９歳	50	30.0	32.0	16.0	8.0	22.0	8.0
	５０～５９歳	54	27.8	14.8	11.1	16.7	7.4	14.8
	６０～６４歳	22	22.7	22.7	22.7	22.7	9.1	9.1
	６５歳以上	30	20.0	13.3	30.0	30.0	6.7	13.3
	無回答	7	28.6	14.3	－	28.6	－	14.3
現在の症状別	回復	116	21.6	23.3	12.1	14.7	11.2	12.1
	変化なし	64	40.6	23.4	15.6	18.8	15.6	14.1
	悪化	14	42.9	35.7	57.1	21.4	35.7	35.7
	症状不安定	35	28.6	25.7	14.3	11.4	17.1	8.6
	無回答	8	12.5	12.5	25.0	25.0	－	12.5

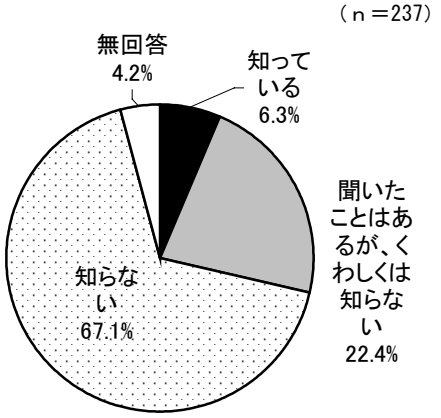
		調査数［ｎ］（人）	掃除や料理、洗濯などを支援してくれるホームヘルパーの派遣	共同作業所や授産施設など福祉的就労の場の確保	ショートステイ	その他	特にない	無回答
全　体		237	12.2	11.4	8.4	5.1	28.3	10.5
性別	男性	107	12.1	15.9	10.3	3.7	28.0	10.3
	女性	126	12.7	7.9	7.1	5.6	28.6	10.3
	無回答	4	－	－	－	25.0	25.0	25.0
年齢別	１７歳以下	8	－	－	25.0	－	75.0	－
	１８～２９歳	33	9.1	15.2	15.2	12.1	24.2	9.1
	３０～３９歳	33	15.2	21.2	9.1	6.1	21.2	15.2
	４０～４９歳	50	10.0	10.0	4.0	2.0	26.0	8.0
	５０～５９歳	54	11.1	13.0	3.7	1.9	31.5	14.8
	６０～６４歳	22	18.2	13.6	4.5	－	40.9	－
	６５歳以上	30	16.7	－	16.7	10.0	20.0	13.3
	無回答	7	14.3	－	－	14.3	14.3	14.3
現在の症状別	回復	116	9.5	11.2	7.8	3.4	35.3	10.3
	変化なし	64	17.2	7.8	9.4	6.3	20.3	7.8
	悪化	14	14.3	35.7	21.4	14.3	14.3	－
	症状不安定	35	8.6	11.4	2.9	5.7	28.6	11.4
	無回答	8	25.0	－	12.5	－	12.5	50.0

（９）権利擁護関連制度の認知度・利用意向

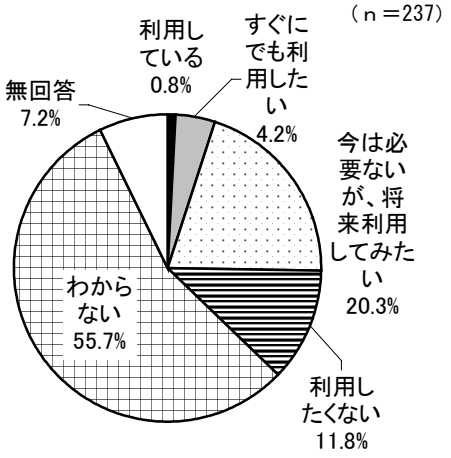
問２０　障害がある方が、地域で自立して生活できるように、ご本人の意思に基づいて、福祉サービスの利用手続きや生活費・財産管理のお手伝いなどをする制度として、「地域福祉権利擁護事業」や「成年後見制度」があります。あなたはこのような制度や事業をご存知ですか。（○は１つだけ）

問２１　「地域福祉権利擁護事業」や「成年後見制度」を利用したいと思いますか。（○は１つだけ）

【図表 3-3-61　権利擁護関連制度の認知度】



【図表 3-3-62　権利擁護関連制度の利用意向】



「地域福祉権利擁護事業」や「成年後見制度」等の判断能力が不十分な知的・精神障害者等の権利擁護に関する制度について、認知度と利用意向をたずねた。

これらの権利擁護関連制度の認知度では、「知らない」（67.1%）が６割を超えて最も多く、次いで「聞いたことはあるが、くわしくは知らない」（22.4%）となっており、「知っている」（6.3%）は１割に満たない。

利用意向では「わからない」（55.7%）が半数を超えて最も多く、次いで「今は必要ないが、将来利用してみたい」（20.3%）となっている。また、「利用している」は 0.8%、「すぐにでも利用したい」は 4.2%となっている。

現在の症状別に利用意向をみると、悪化傾向にある人では他に比べて「すぐにでも利用したい」（14.3%）の割合が高い。

【図表 3-3-63　年齢別・現在の症状別　権利擁護関連制度の認知度】（%）

		調査数［ｎ］（人）	知っている	聞いたことはあるが、くわしくは知らない	知らない	無回答
全　体		237	6.3	22.4	67.1	4.2
年齢別	１７歳以下	8	－	25.0	75.0	－
	１８～２９歳	33	3.0	12.1	81.8	3.0
	３０～３９歳	33	3.0	27.3	63.6	6.1
	４０～４９歳	50	6.0	26.0	60.0	8.0
	５０～５９歳	54	7.4	18.5	72.2	1.9
	６０～６４歳	22	9.1	40.9	50.0	－
	６５歳以上	30	13.3	16.7	66.7	3.3
	無回答	7	－	14.3	71.4	14.3
現在の症状別	回復	116	8.6	20.7	68.1	2.6
	変化なし	64	3.1	23.4	71.9	1.6
	悪化	14	7.1	35.7	57.1	－
	症状不安定	35	2.9	22.9	65.7	8.6
	無回答	8	12.5	12.5	37.5	37.5

【図表 3-3-64　年齢別・現在の症状別　権利擁護関連制度の利用意向】（%）

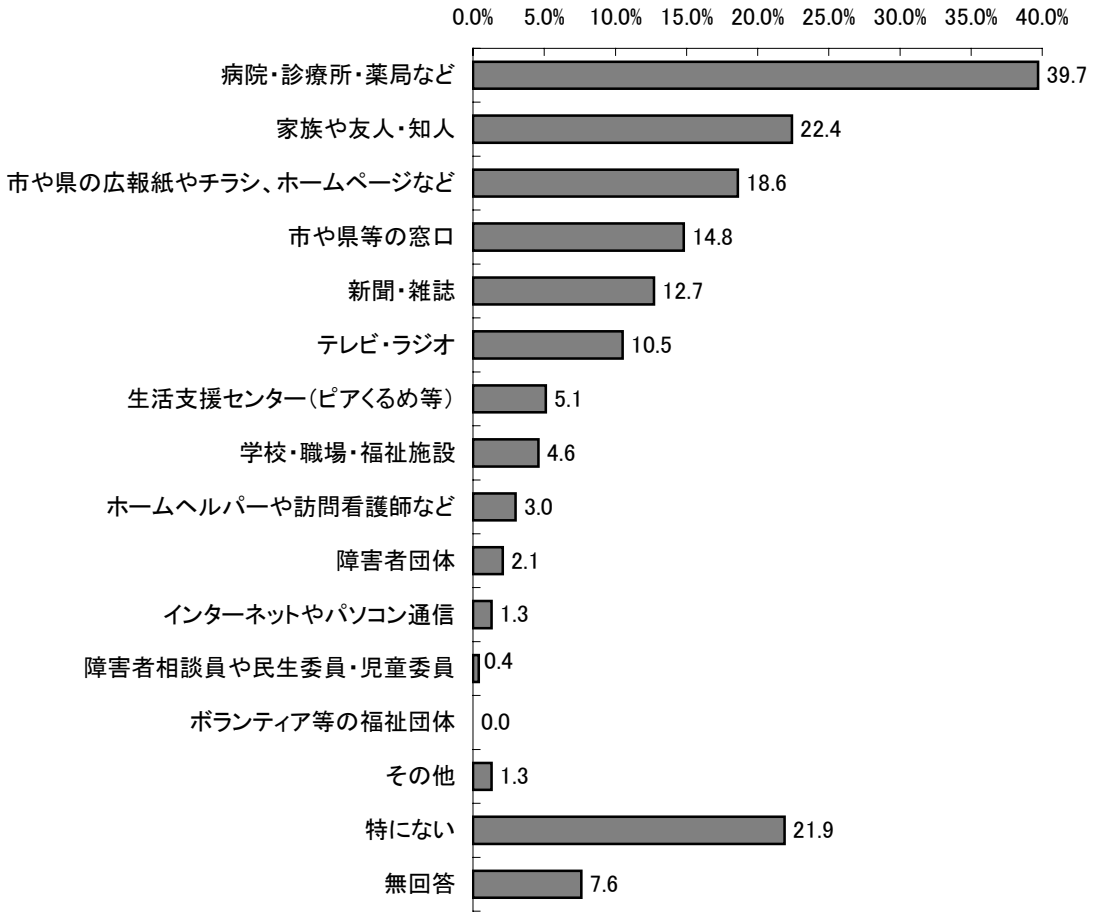
		調査数［ｎ］（人）	利用している	すぐにでも利用したい	今は必要ないが、将来利用してみたい	利用したくない	わからない	無回答
全　体		237	0.8	4.2	20.3	11.8	55.7	7.2
年齢別	１７歳以下	8	－	－	－	25.0	75.0	－
	１８～２９歳	33	－	6.1	12.1	15.2	63.6	3.0
	３０～３９歳	33	3.0	3.0	12.1	3.0	72.7	6.1
	４０～４９歳	50	2.0	6.0	12.0	16.0	54.0	10.0
	５０～５９歳	54	－	5.6	25.9	11.1	50.0	7.4
	６０～６４歳	22	－	－	31.8	22.7	45.5	－
	６５歳以上	30	－	3.3	36.7	3.3	43.3	13.3
	無回答	7	－	－	28.6	－	57.1	14.3
現在の症状別	回復	116	0.9	1.7	19.8	15.5	57.8	4.3
	変化なし	64	1.6	7.8	21.9	10.9	54.7	3.1
	悪化	14	－	14.3	21.4	7.1	57.1	－
	症状不安定	35	－	2.9	17.1	5.7	57.1	17.1
	無回答	8	－	－	25.0	－	25.0	50.0

６．情報収集について

（１）福祉に関する情報入手先

問２２　福祉サービスや福祉制度の情報をどこから得ていますか。（○はあてはまるものすべて）

【図表 3-3-65　福祉に関する情報入手先】（ｎ＝237）



福祉サービスや福祉制度に関する情報の入手先は、「病院・診療所・薬局など」（39.7%）が最も多く、次いで「家族や友人・知人」（22.4%）、「市や県の広報紙やチラシ、ホームページなど」（18.6%）となっている。

年齢別にみると、すべての年齢層において「病院・診療所・薬局など」が最も多いが、18～29歳や 40 歳代では「特にない」との回答も 3 割を超えて多い。

【図表 3-3-66　年齢別　福祉に関する情報入手先】（%）

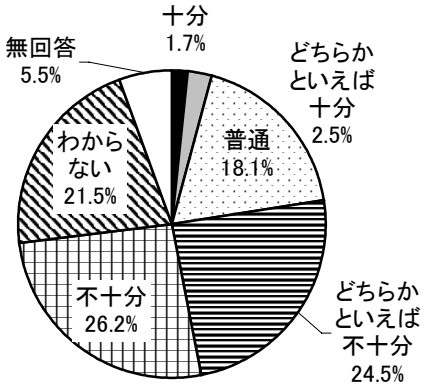
		調査数［ｎ］（人）	病院・診療所・薬局など	家族や友人・知人	市や県の広報紙やチラシ、ホームページなど	市や県等の窓口	新聞・雑誌	テレビ・ラジオ	生活支援センター（ピアくるめ等）	学校・職場・福祉施設
全　体		237	39.7	22.4	18.6	14.8	12.7	10.5	5.1	4.6
年齢別	１７歳以下	8	62.5	37.5	50.0	12.5	12.5	12.5	25.0	37.5
	１８～２９歳	33	39.4	30.3	12.1	18.2	9.1	－	6.1	9.1
	３０～３９歳	33	48.5	21.2	15.2	18.2	12.1	12.1	9.1	6.1
	４０～４９歳	50	38.0	6.0	14.0	6.0	12.0	4.0	－	－
	５０～５９歳	54	37.0	29.6	18.5	27.8	13.0	13.0	9.3	5.6
	６０～６４歳	22	36.4	22.7	22.7	13.6	18.2	13.6	－	－
	６５歳以上	30	36.7	23.3	26.7	3.3	16.7	26.7	－	－
	無回答	7	28.6	28.6	14.3	－	－	－	－	－

		調査数［ｎ］（人）	ホームヘルパーや訪問看護師など	障害者団体	インターネットやパソコン通信	障害者相談員や民生委員・児童委員	ボランティア等の福祉団体	その他	特にない	無回答
全　体		237	3.0	2.1	1.3	0.4	－	1.3	21.9	7.6
年齢別	１７歳以下	8	－	－	－	－	－	－	－	－
	１８～２９歳	33	3.0	6.1	3.0	－	－	－	30.3	3.0
	３０～３９歳	33	3.0	－	－	－	－	－	18.2	6.1
	４０～４９歳	50	6.0	－	－	－	－	－	32.0	10.0
	５０～５９歳	54	1.9	3.7	3.7	－	－	1.9	18.5	3.7
	６０～６４歳	22	－	－	－	－	－	－	13.6	9.1
	６５歳以上	30	3.3	3.3	－	3.3	－	6.7	13.3	16.7
	無回答	7	－	－	－	－	－	－	42.9	14.3

（２）福祉に関する情報の入手状況

問２３　福祉に関する情報を十分に入手できていますか。（○は１つだけ）

【図表 3-3-67　福祉に関する情報の入手状況】（ｎ＝237）



福祉に関する情報を十分に入手できているかについては、「不十分」（26.2%）が最も多く、次いで「どちらかといえば不十分」（24.5%）、「わからない」（21.5%）となっている。

情報が十分に入手できていないと感じている人（「どちらかといえば不十分」＋「不十分」）が50.7%と半数を占めており、情報を十分に入手できていると感じている人（「十分」＋「どちらかといえば十分」）の 4.2%を大きく上回っている。

年齢別にみると、情報が十分に入手できていないと感じている人（「どちらかといえば不十分」＋「不十分」）の割合は、30 歳代（66.6%）や 40 歳代（60.0%）で高く、6 割を超えている。

【図表 3-3-68　年齢別　福祉に関する情報の入手状況】（%）

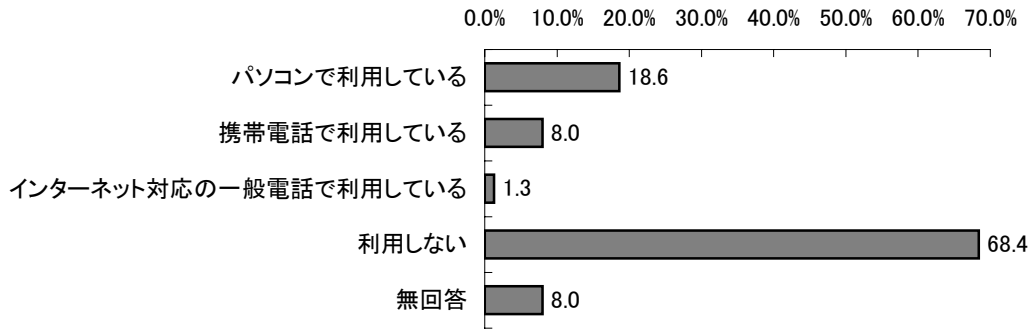
		調査数［ｎ］（人）	十分	どちらかといえば十分	普通	どちらかといえば不十分	不十分	わからない	無回答
全　体		237	1.7	2.5	18.1	24.5	26.2	21.5	5.5
年齢別	１７歳以下	8	－	－	50.0	25.0	－	12.5	12.5
	１８～２９歳	33	－	3.0	18.2	30.3	24.2	21.2	3.0
	３０～３９歳	33	－	3.0	9.1	33.3	33.3	18.2	3.0
	４０～４９歳	50	4.0	2.0	6.0	26.0	34.0	18.0	10.0
	５０～５９歳	54	1.9	1.9	20.4	27.8	22.2	25.9	－
	６０～６４歳	22	4.5	－	40.9	18.2	18.2	18.2	－
	６５歳以上	30	－	6.7	23.3	10.0	23.3	23.3	13.3
	無回答	7	－	－	－	－	42.9	42.9	14.3

（３）インターネットの利用状況・利用内容

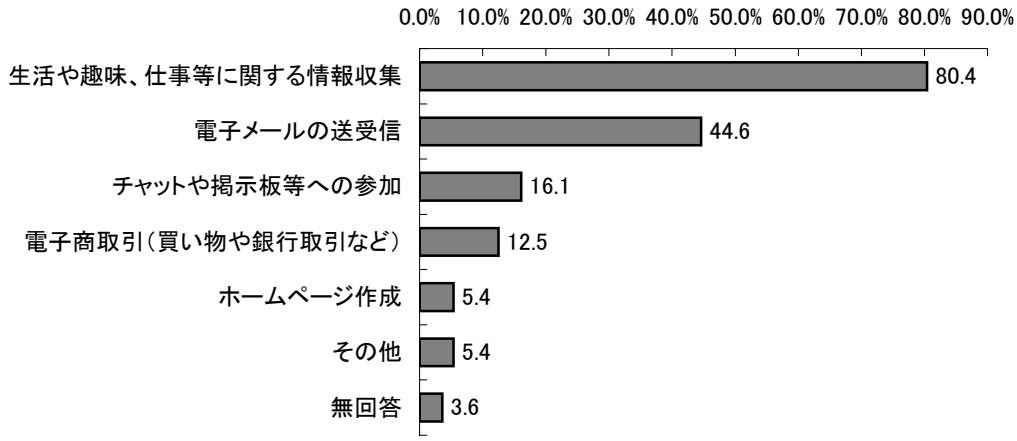
問２４　　家庭や職場などでインターネットを利用することがありますか。（○はあてはまるものすべて）

問２４－１　（問２４で１～３のいずれかを選んだ方のみお答えください）インターネットをどのようなことに利用していますか。（○はあてはまるものすべて）

【図表 3-3-69　インターネットの利用状況】（ｎ＝237）



【図表 3-3-70　インターネットの利用内容】（ｎ＝56）



インターネットの利用状況は、「利用しない」（68.4%）が 7 割弱と最も多く、次いで「パソコンで利用している」（18.6%）となっている。

また、インターネットの利用内容は、「生活や趣味、仕事等に関する情報収集」（80.4%）が最も多く、次いで「電子メールの送受信」（44.6%）となっている。

年齢別にみると、「パソコンで利用している」の割合は、概ね年齢が若いほど高く、「携帯電話で利用している」は 18～29 歳（15.2%）や 30 歳代（15.2%）で高い。

【図表 3-3-71　年齢別　インターネットの利用状況】（%）

		調査数［ｎ］（人）	パソコンで利用している	携帯電話で利用している	インターネット対応の一般電話で利用している	利用しない	無回答
全　体		237	18.6	8.0	1.3	68.4	8.0
年齢別	１７歳以下	8	75.0	－	－	25.0	－
	１８～２９歳	33	30.3	15.2	3.0	51.5	6.1
	３０～３９歳	33	24.2	15.2	3.0	66.7	3.0
	４０～４９歳	50	16.0	6.0	－	70.0	12.0
	５０～５９歳	54	13.0	7.4	－	75.9	5.6
	６０～６４歳	22	18.2	－	－	81.8	－
	６５歳以上	30	－	3.3	3.3	73.3	20.0
	無回答	7	14.3	14.3	－	71.4	14.3

【図表 3-3-72　年齢別　インターネットの利用内容】（%）

		調査数［ｎ］（人）	生活や趣味、仕事等に関する情報収集	電子メールの送受信	チャットや掲示板等への参加	電子商取引（買い物や銀行取引など）	ホームページ作成	その他	無回答
全　体		56	80.4	44.6	16.1	12.5	5.4	5.4	3.6
年齢別	１７歳以下	6	50.0	16.7	33.3	－	－	33.3	－
	１８～２９歳	14	85.7	42.9	14.3	14.3	7.1	－	－
	３０～３９歳	10	90.0	60.0	20.0	－	－	－	－
	４０～４９歳	9	88.9	66.7	11.1	33.3	－	－	－
	５０～５９歳	10	70.0	40.0	20.0	10.0	10.0	10.0	20.0
	６０～６４歳	4	75.0	25.0	－	25.0	25.0	－	－
	６５歳以上	2	100.0	－	－	－	－	－	－
	無回答	1	100.0	100.0	－	－	－	－	－

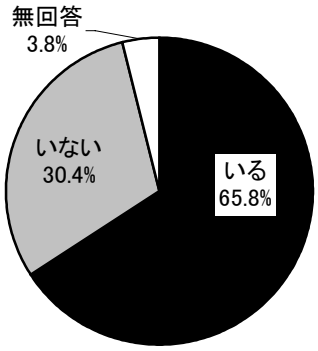
７．災害対策について

（１）災害時に頼れる人

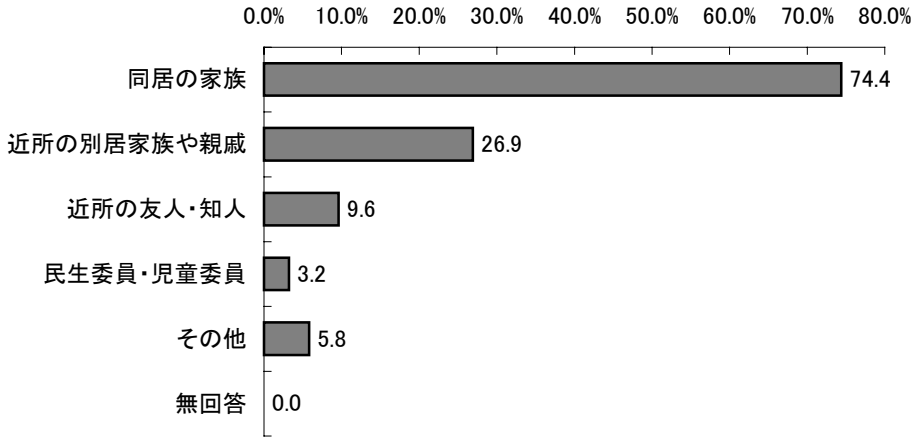
問２５　　地震や台風等の大きな災害が起きた場合に、安全の確保などで頼れる人が身近にいますか。

問２５－１　（問２５で「１.いる」を選んだ方のみお答えください）それはどなたですか。（○はあてはまるものすべて）

【図表 3-3-73　災害時に頼れる人の有無】（ｎ＝237）



【図表 3-3-74　災害時に頼れる人】（ｎ＝156）



回答者の７割弱（65.8%）は災害時に頼れる人がおり、その内訳では「同居の家族」（74.4%）が最も多く、次いで「近所の別居家族や親戚」（26.9%）となっている。

家族構成別にみると、一人暮らしでは、災害時に頼れる人がいない人（54.5%）の割合が高く、いる人（45.5%）を上回っている。

【図表 3-3-75　家族構成別　災害時に頼れる人の有無】（%）

		調査数［ｎ］（人）	いる	いない	無回答
全　体		237	65.8	30.4	3.8
家族構成別	一人暮らし	33	45.5	54.5	－
	夫婦のみ	37	64.9	32.4	2.7
	父母等の家族と同居	160	69.4	26.3	4.4
	家族以外の人と同居	5	100.0	－	－
	無回答	2	50.0	－	50.0

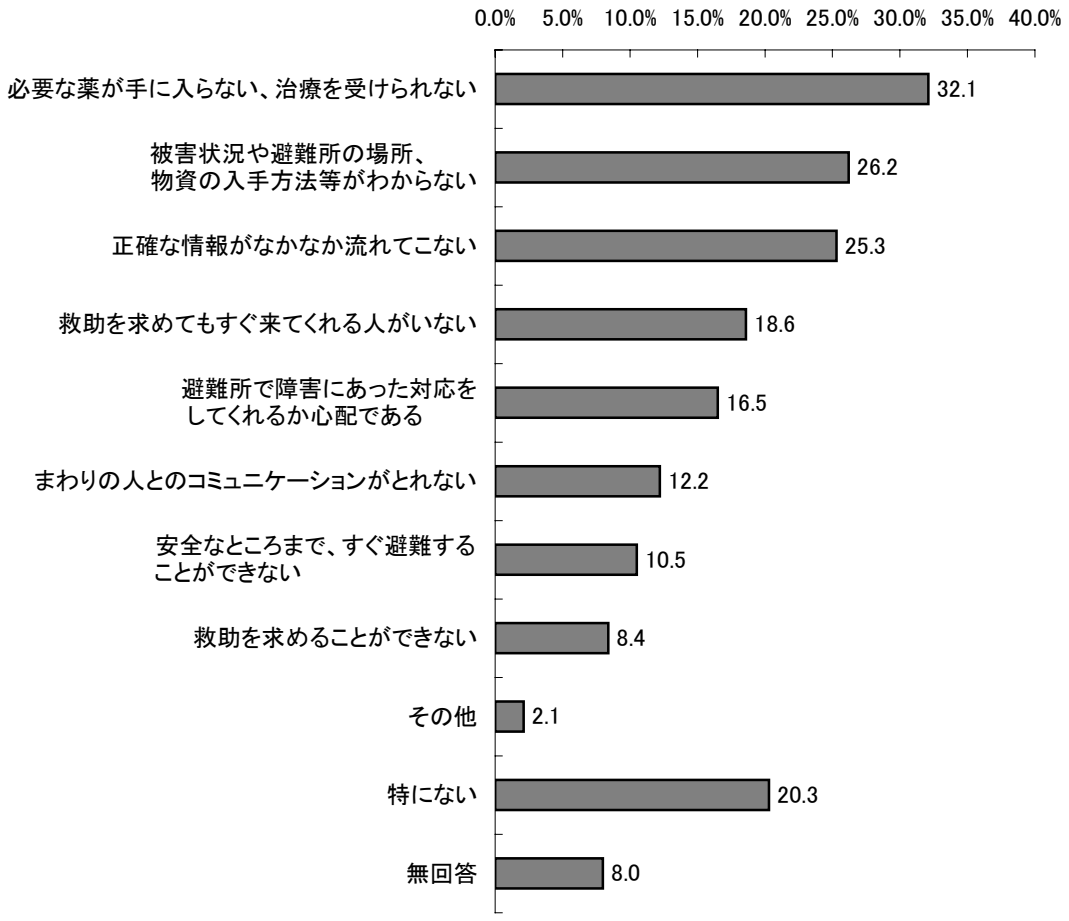
【図表 3-3-76　家族構成別　災害時に頼れる人】（%）

		調査数［ｎ］（人）	同居の家族	近所の別居家族や親戚	近所の友人・知人	民生委員・児童委員	その他	無回答
全　体		156	74.4	26.9	9.6	3.2	5.8	－
家族構成別	一人暮らし	15	－	66.7	20.0	－	13.3	－
	夫婦のみ	24	91.7	8.3	8.3	8.3	－	－
	父母等の家族と同居	111	84.7	24.3	8.1	2.7	4.5	－
	家族以外の人と同居	5	－	40.0	20.0	－	40.0	－
	無回答	1	－	100.0	－	－	－	－

（２）災害時に心配なこと

問２６　地震や台風等の大きな災害が起きた場合、どのようなことが心配ですか。（○は３つまで）

【図表 3-3-77　災害時に心配なこと】（ｎ＝237）



災害が起きた場合に心配なことは、「必要な薬が手に入らない、治療を受けられない」（32.1%）が最も多く、次いで「被害状況や避難所の場所、物資の入手方法等がわからない」（26.2%）、「正確な情報がなかなか流れてこない」（25.3%）となっている。

現在の症状別にみると、悪化傾向にある人や症状が不安定な人では他に比べて「避難所で障害にあった対応をしてくれるか心配である」の割合が高い。また、症状が不安定な人では「まわりの人とのコミュニケーションがとれない」（20.0%）の割合も他に比べて高い。

家族構成別にみると、一人暮らしでは、他の世帯に比べて「救助を求めてもすぐ来てくれる人がいない」（36.4%）や「安全なところまで、すぐ避難することができない」（24.2%）、「救助を求めることができない」（21.2%）などの割合が高く、避難に関する不安感が特に強いことがわかる。

【図表 3-3-78　現在の症状別・家族構成別　災害時に心配なこと】（%）

		調査数［n］（人）	必要な薬が手に入らない、治療を受けられない	被害状況や避難所の場所、物資の入手方法等がわからない	正確な情報がなかなか流れてこない	救助を求めてもすぐ来てくれる人がいない	避難所で障害にあった対応をしてくれるか心配である
全　体		237	32.1	26.2	25.3	18.6	16.5
現在の症状別	回復	116	29.3	21.6	25.9	16.4	17.2
	変化なし	64	40.6	32.8	23.4	31.3	7.8
	悪化	14	28.6	28.6	28.6	7.1	35.7
	症状不安定	35	34.3	31.4	28.6	8.6	25.7
	無回答	8	－	12.5	12.5	12.5	－
家族構成別	一人暮らし	33	30.3	33.3	21.2	36.4	18.2
	夫婦のみ	37	18.9	24.3	29.7	18.9	8.1
	父母等の家族と同居	160	35.0	25.6	25.6	15.6	16.9
	家族以外の人と同居	5	60.0	20.0	20.0	－	60.0
	無回答	2	－	－	－	－	－

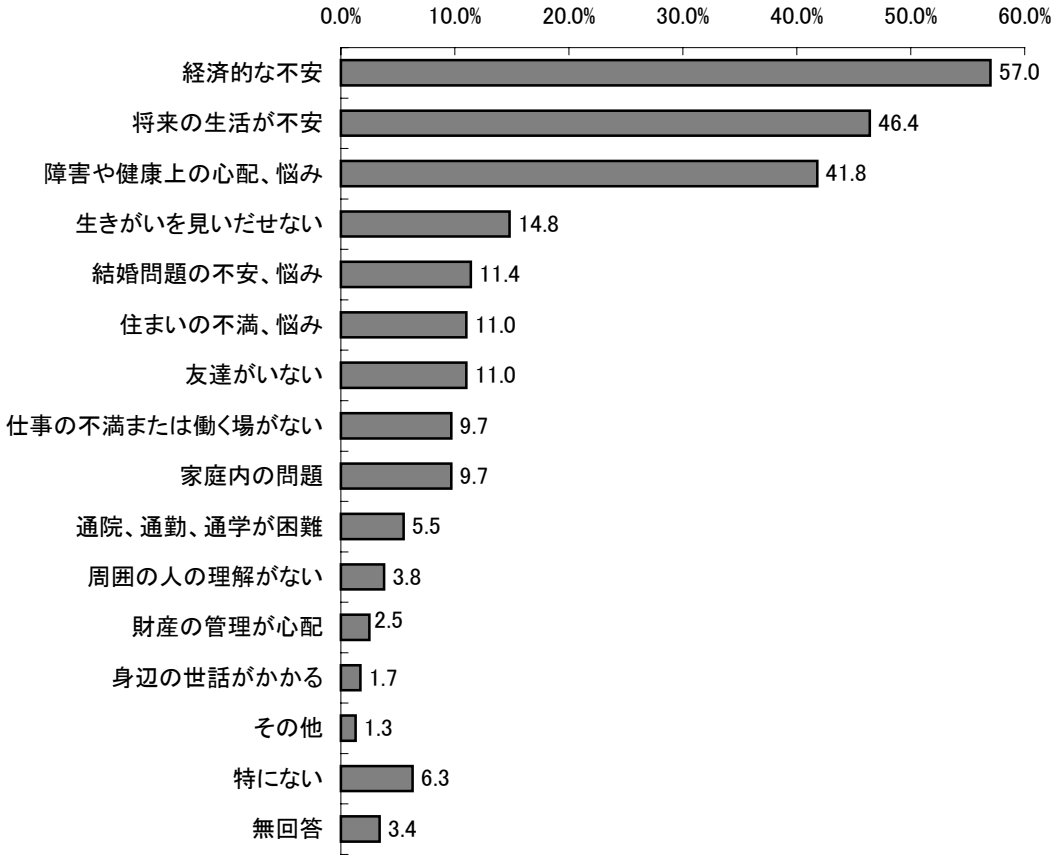
		調査数［n］（人）	まわりの人とのコミュニケーションがとれない	安全なところまで、すぐ避難することができない	救助を求めることができない	その他	特にない	無回答
全　体		237	12.2	10.5	8.4	2.1	20.3	8.0
現在の症状別	回復	116	8.6	12.1	7.8	2.6	24.1	4.3
	変化なし	64	15.6	12.5	10.9	1.6	17.2	6.3
	悪化	14	14.3	14.3	14.3	7.1	28.6	－
	症状不安定	35	20.0	2.9	2.9	－	8.6	17.1
	無回答	8	－	－	12.5	－	25.0	50.0
家族構成別	一人暮らし	33	18.2	24.2	21.2	3.0	9.1	3.0
	夫婦のみ	37	8.1	21.6	8.1	2.7	24.3	13.5
	父母等の家族と同居	160	11.9	4.4	6.3	1.9	21.3	7.5
	家族以外の人と同居	5	20.0	40.0	－	－	20.0	－
	無回答	2	－	－	－	－	50.0	50.0

８．生活全般について

（１）困っていることや将来に対する不安・悩み

問２７　現在の生活の中で困っていることや、将来に対する不安・悩みなどはありますか。（○は３つまで）

【図表 3-3-79　困っていることや将来に対する不安・悩み】（ｎ＝237）



現在の生活の中で困っていることや将来に対する不安・悩みは、「経済的な不安」（57.0%）が最も多く、次いで「将来の生活が不安」（46.4%）、「障害や健康上の心配、悩み」（41.8%）となっている。

年齢別にみると、20 歳代以下では「将来の生活が不安」が最も多いが、30～64 歳までは「経済的な不安」が最も多く、65 歳以上では「障害や健康上の心配、悩み」が最も多くなっている。また、30 歳代では他の年齢層に比べて「仕事の不満または働く場がない」（24.2%）や「生きがいを見いだせない」（30.3%）の割合が高い。

現在の症状別にみると、いずれの状態像においても「経済的な不安」が最も多いが、回復傾向にある人では他に比べて「仕事の不満または働く場がない」（12.9%）や「結婚問題の不安、悩み」（16.4%）の割合が高い。また、悪化傾向にある人では他に比べて「生きがいを見いだせない」（42.9%）の割合が高い。

【図表 3-3-80　年齢別・現在の症状別　困っていることや将来に対する不安・悩み】（%）

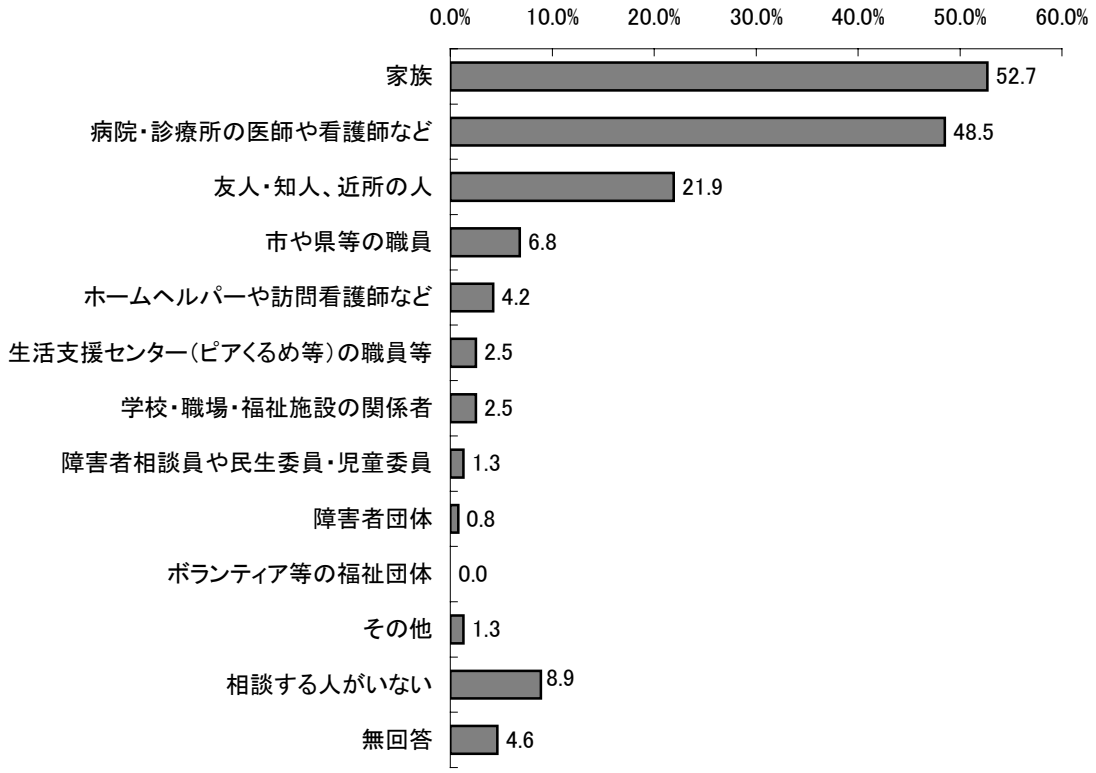
		調査数［ｎ］（人）	経済的な不安	将来の生活が不安	障害や健康上の心配、悩み	生きがいを見いだせない	結婚問題の不安、悩み	住まいの不満、悩み	友達がいない	仕事の不満または働く場がない
全　体		237	57.0	46.4	41.8	14.8	11.4	11.0	11.0	9.7
年齢別	１７歳以下	8	12.5	37.5	25.0	－	12.5	－	－	12.5
	１８～２９歳	33	39.4	54.5	39.4	15.2	30.3	9.1	3.0	15.2
	３０～３９歳	33	72.7	45.5	42.4	30.3	24.2	12.1	12.1	24.2
	４０～４９歳	50	56.0	46.0	34.0	20.0	8.0	14.0	14.0	8.0
	５０～５９歳	54	64.8	61.1	46.3	7.4	3.7	7.4	9.3	5.6
	６０～６４歳	22	68.2	36.4	40.9	13.6	4.5	9.1	18.2	－
	６５歳以上	30	50.0	26.7	56.7	6.7	－	20.0	13.3	－
	無回答	7	57.1	28.6	28.6	14.3	14.3	－	14.3	28.6
現在の症状別	回復	116	51.7	41.4	35.3	11.2	16.4	8.6	6.0	12.9
	変化なし	64	59.4	54.7	48.4	15.6	9.4	12.5	15.6	9.4
	悪化	14	57.1	42.9	50.0	42.9	－	14.3	14.3	7.1
	症状不安定	35	71.4	54.3	48.6	14.3	5.7	14.3	17.1	2.9
	無回答	8	50.0	25.0	37.5	12.5	－	12.5	12.5	－

		調査数［ｎ］（人）	家庭内の問題	通院、通勤、通学が困難	周囲の人の理解がない	財産の管理が心配	身辺の世話がかかる	その他	特にない	無回答
全　体		237	9.7	5.5	3.8	2.5	1.7	1.3	6.3	3.4
年齢別	１７歳以下	8	－	－	12.5	－	－	12.5	37.5	－
	１８～２９歳	33	18.2	12.1	3.0	6.1	3.0	－	3.0	3.0
	３０～３９歳	33	9.1	3.0	3.0	3.0	－	－	－	－
	４０～４９歳	50	8.0	4.0	2.0	－	2.0	－	8.0	6.0
	５０～５９歳	54	7.4	7.4	5.6	3.7	1.9	－	3.7	1.9
	６０～６４歳	22	22.7	4.5	9.1	－	－	4.5	9.1	－
	６５歳以上	30	3.3	3.3	－	－	3.3	3.3	10.0	6.7
	無回答	7	－	－	－	14.3	－	－	－	14.3
現在の症状別	回復	116	12.1	4.3	3.4	2.6	2.6	2.6	11.2	1.7
	変化なし	64	7.8	9.4	3.1	3.1	1.6	－	1.6	3.1
	悪化	14	7.1	7.1	7.1	－	－	－	7.1	－
	症状不安定	35	8.6	2.9	5.7	2.9	－	－	－	5.7
	無回答	8	－	－	－	－	－	－	－	25.0

（２）困っていることや将来に対する不安・悩みの相談先

問２８　生活の中で困っていることや、将来に対する不安や悩みを誰（どこ）に相談していますか。（○はあてはまるものすべて）

【図表 3-3-81　困っていることや将来に対する不安・悩みの相談先】（ｎ＝237）



困っていることや将来に対する不安や悩みの相談先は、「家族」（52.7%）が最も多く、次いで「病院・診療所の医師や看護師など」（48.5%）、「友人・知人、近所の人」（21.9%）となっている。

年齢別にみると、18 歳～40 歳代では他の年齢層に比べて「病院・診療所の医師や看護師など」の割合が高く、過半数を占めている。

家族構成別にみると、一人暮らしでは、他の世帯に比べて「病院・診療所の医師や看護師など」（66.7%）や「ホームヘルパーや訪問看護師など」（15.2%）の割合が高い。

【図表 3-3-82　年齢別・家族構成別　困っていることや将来に対する不安・悩みの相談先】（%）

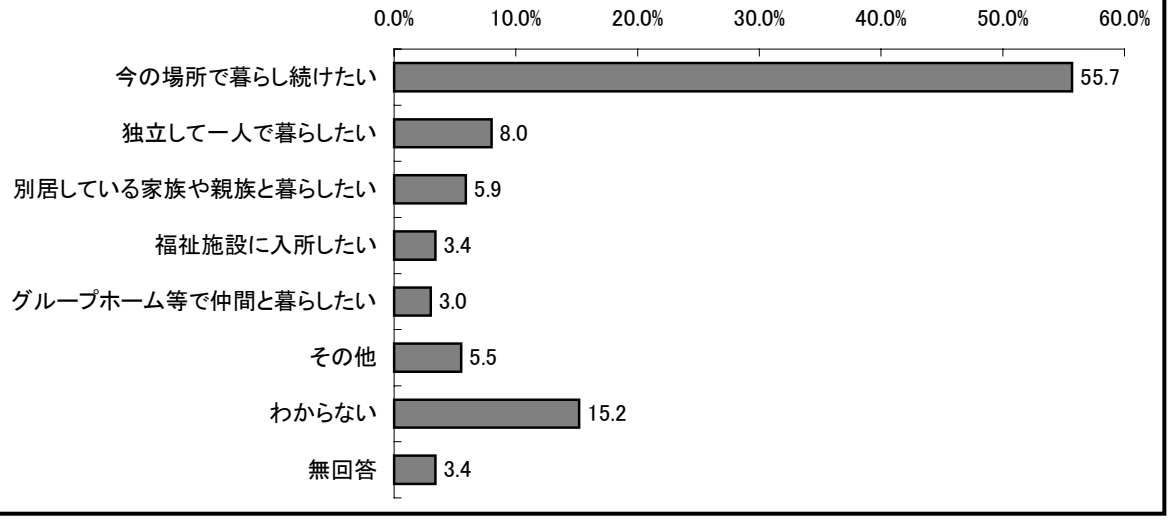
		調査数［ｎ］（人）	家族	病院・診療所の医師や看護師など	友人・知人、近所の人	市や県等の職員	ホームヘルパーや訪問看護師など	生活支援センター（ピアくるめ等）の職員等
全　体		237	52.7	48.5	21.9	6.8	4.2	2.5
年齢別	１７歳以下	8	75.0	25.0	12.5	－	－	－
	１８～２９歳	33	63.6	63.6	33.3	3.0	－	6.1
	３０～３９歳	33	48.5	66.7	30.3	6.1	3.0	9.1
	４０～４９歳	50	36.0	52.0	20.0	6.0	2.0	－
	５０～５９歳	54	50.0	38.9	20.4	11.1	5.6	1.9
	６０～６４歳	22	54.5	45.5	18.2	9.1	4.5	－
	６５歳以上	30	66.7	36.7	13.3	6.7	13.3	－
	無回答	7	71.4	28.6	14.3	－	－	－
家族構成別	一人暮らし	33	21.2	66.7	21.2	15.2	15.2	－
	夫婦のみ	37	67.6	27.0	18.9	8.1	5.4	2.7
	父母等の家族と同居	160	57.5	49.4	22.5	3.8	1.9	3.1
	家族以外の人と同居	5	－	80.0	40.0	40.0	－	－
	無回答	2	50.0	－	－	－	－	－

		調査数［ｎ］（人）	学校・職場・福祉施設の関係者	障害者相談員や民生委員・児童委員	障害者団体	ボランティア等の福祉団体	その他	相談する人がいない	無回答
全　体		237	2.5	1.3	0.8	－	1.3	8.9	4.6
年齢別	１７歳以下	8	－	－	－	－	－	12.5	12.5
	１８～２９歳	33	－	－	－	－	－	6.1	3.0
	３０～３９歳	33	6.1	－	－	－	3.0	－	3.0
	４０～４９歳	50	2.0	－	－	－	－	16.0	8.0
	５０～５９歳	54	5.6	－	1.9	－	1.9	9.3	5.6
	６０～６４歳	22	－	－	－	－	4.5	9.1	－
	６５歳以上	30	－	10.0	3.3	－	－	6.7	－
	無回答	7	－	－	－	－	－	14.3	14.3
家族構成別	一人暮らし	33	－	3.0	－	－	－	3.0	3.0
	夫婦のみ	37	2.7	2.7	2.7	－	－	13.5	－
	父母等の家族と同居	160	2.5	0.6	－	－	1.9	9.4	5.6
	家族以外の人と同居	5	20.0	－	20.0	－	－	－	－
	無回答	2	－	－	－	－	－	－	50.0

（３）希望する将来の暮らし方

問２９　あなたは、将来、どのように暮らしたいですか。（○は１つだけ）

【図表 3-3-83　希望する将来の暮らし方】（ｎ＝237）



希望する将来の暮らし方は、「今の場所で暮らし続けたい」（55.7%）が半数を超えて最も多く、次いで「わからない」（15.2%）となっている。

「今の場所で暮らし続けたい」「独立して一人で暮らしたい」「別居している家族や親族と暮らしたい」「グループホーム等で仲間と暮らしたい」をあわせると、自宅や地域で生活したいと考えている人が 72.6%を占めており、これに対して福祉施設入所希望者（「福祉施設に入所したい」）は 3.4%となっている。

年齢別にみると、17 歳以下では「わからない」（62.5%）が最も多いが、その他の年齢層では「今の場所で暮らし続けたい」が最も多い。また、20 歳代以下では「独立して一人で暮らしたい」が 2 割前後と高い。

現在の症状別にみると、いずれの状態においても「今の場所で暮らし続けたい」が最も多いが、悪化傾向にある人では他に比べて福祉施設入所希望者（21.4%）の割合が高い。

家族構成別にみると、一人暮らしでは他の世帯に比べて福祉施設入所希望者の割合が高く、12.1%となっている。

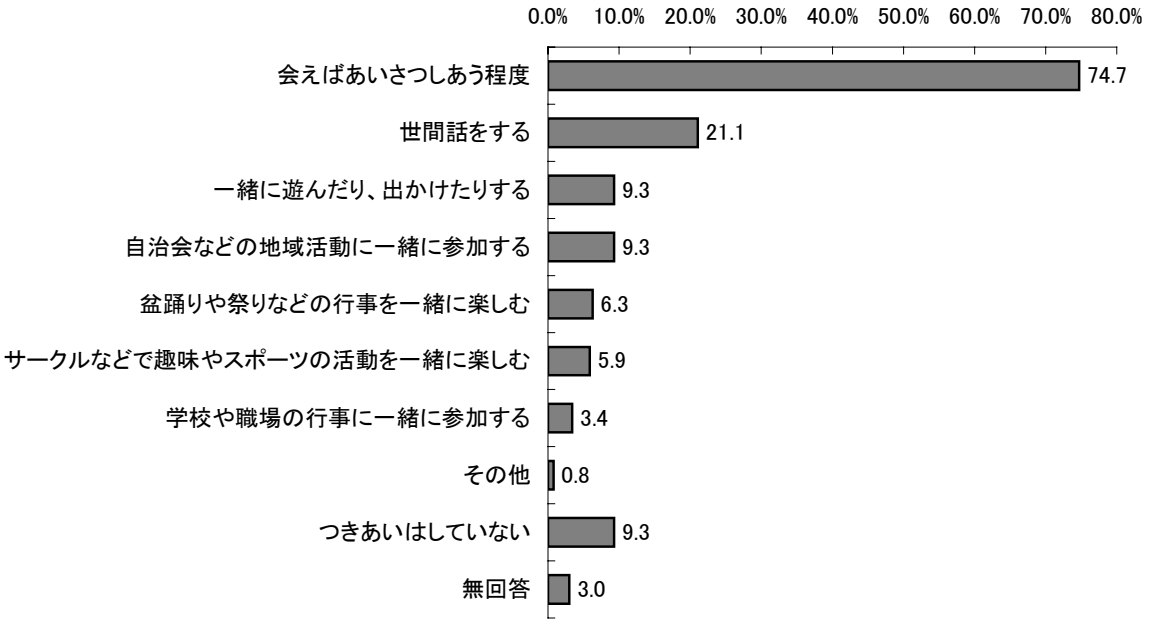
【図表 3-3-84　年齢別・現在の症状別・家族構成別　希望する将来の暮らし方】（%）

		調査数（人）［n］	今の場所で暮らし続けたい	独立して一人で暮らしたい	別居している家族や親族と暮らしたい	福祉施設に入所したい	グループホーム等で仲間と暮らしたい	その他	わからない	無回答
全　体		237	55.7	8.0	5.9	3.4	3.0	5.5	15.2	3.4
年齢別	１７歳以下	8	12.5	25.0	－	－	－	－	62.5	－
	１８～２９歳	33	48.5	18.2	6.1	－	－	15.2	9.1	3.0
	３０～３９歳	33	42.4	15.2	6.1	3.0	6.1	15.2	12.1	－
	４０～４９歳	50	54.0	8.0	10.0	－	－	4.0	18.0	6.0
	５０～５９歳	54	61.1	1.9	5.6	7.4	3.7	－	16.7	3.7
	６０～６４歳	22	68.2	－	9.1	9.1	4.5	－	9.1	－
	６５歳以上	30	76.7	－	－	3.3	3.3	3.3	10.0	3.3
	無回答	7	42.9	14.3	－	－	14.3	－	14.3	14.3
現在の症状別	回復	116	61.2	8.6	3.4	1.7	1.7	6.0	14.7	2.6
	変化なし	64	54.7	6.3	6.3	3.1	3.1	6.3	18.8	1.6
	悪化	14	42.9	7.1	7.1	21.4	7.1	－	7.1	7.1
	症状不安定	35	48.6	11.4	11.4	2.9	5.7	5.7	11.4	2.9
	無回答	8	37.5	－	12.5	－	－	－	25.0	25.0
家族構成別	一人暮らし	33	42.4	－	9.1	12.1	6.1	9.1	21.2	－
	夫婦のみ	37	81.1	－	5.4	－	－	－	10.8	2.7
	父母等の家族と同居	160	53.1	11.9	5.6	2.5	3.1	6.3	13.8	3.8
	家族以外の人と同居	5	60.0	－	－	－	－	－	40.0	－
	無回答	2	－	－	－	－	－	－	50.0	50.0

（４）地域の人とのつきあい

問３０　あなたは、ふだん地域の方とどのようなおつきあいをしていますか。（○はあてはまるものすべて）

【図表 3-3-85　地域の人とのつきあい】（ｎ＝237）



地域の人とのつきあいについては、「会えばあいさつしあう程度」（74.7%）が７割を超えて最も多く、次いで「世間話をする」（21.1%）となっている。

年齢別にみると、すべての年齢層において「会えばあいさつしあう程度」が最も多いが、40・50 歳代では他の年齢層に比べて「世間話をする」の割合が高い。また、30～50 歳代では「つきあいはしていない」が１割を超えている。

現在の症状別にみると、いずれの状態像においても「会えばあいさつしあう程度」が最も多いが、回復傾向にある人では他に比べて「一緒に遊んだり、出かけたりする」（14.7%）の割合が高い。

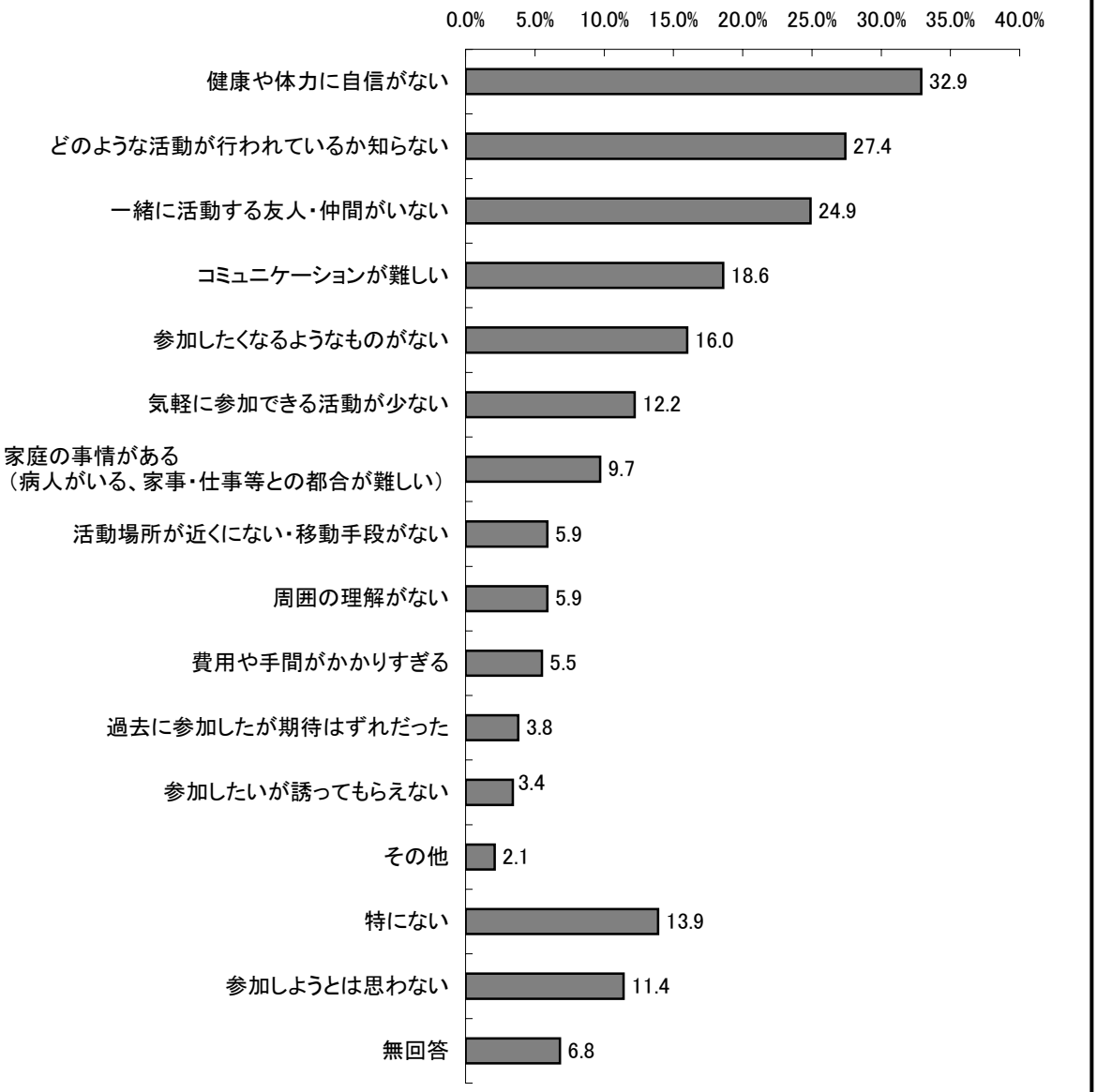
【図表 3-3-86　年齢別・現在の症状別　地域の人とのつきあい】（%）

		調査数［ｎ］（人）	会えばあいさつしあう程度	世間話をする	一緒に遊んだり、出かけたりする	自治会などの地域活動に一緒に参加する	盆踊りや祭りなどの行事を一緒に楽しむ	サークルなどで趣味やスポーツの活動を一緒に楽しむ	学校や職場の行事に一緒に参加する	その他	つきあいはしていない	無回答
全　体		237	74.7	21.1	9.3	9.3	6.3	5.9	3.4	0.8	9.3	3.0
年齢別	１７歳以下	8	75.0	－	50.0	12.5	25.0	25.0	25.0	－	－	－
	１８～２９歳	33	72.7	6.1	9.1	6.1	－	6.1	3.0	3.0	9.1	3.0
	３０～３９歳	33	78.8	6.1	3.0	6.1	3.0	6.1	3.0	－	15.2	3.0
	４０～４９歳	50	64.0	34.0	14.0	14.0	4.0	4.0	4.0	2.0	12.0	6.0
	５０～５９歳	54	74.1	29.6	9.3	11.1	11.1	5.6	3.7	－	11.1	－
	６０～６４歳	22	90.9	13.6	－	4.5	4.5	－	－	－	4.5	－
	６５歳以上	30	76.7	30.0	6.7	10.0	10.0	10.0	－	－	3.3	3.3
	無回答	7	85.7	14.3	－	－	－	－	－	－	－	14.3
現在の症状別	回復	116	75.0	23.3	14.7	9.5	6.9	7.8	5.2	－	7.8	2.6
	変化なし	64	67.2	17.2	3.1	6.3	9.4	6.3	1.6	1.6	14.1	1.6
	悪化	14	92.9	21.4	7.1	7.1	－	－	－	－	7.1	－
	症状不安定	35	85.7	22.9	5.7	11.4	2.9	－	2.9	2.9	5.7	2.9
	無回答	8	50.0	12.5	－	25.0	－	12.5	－	－	12.5	25.0

（５）地域活動に参加するときに妨げとなること

問３１　あなたが地域の行事や活動に参加しようとした場合、そのさまたげとなることはありますか。（○はあてはまるものすべて）

【図表 3-3-87　地域活動に参加するときに妨げとなること】（ｎ＝237）



地域の行事や活動に参加するときに妨げとなることは、「健康や体力に自信がない」（32.9%）が最も多く、次いで「どのような活動が行われているか知らない」（27.4%）、「一緒に活動する友人・仲間がいない」（24.9%）となっている。また、「特にない」が 13.9%、「参加しようとは思わない」が 11.4%となっている。

年齢別にみると、18 歳～30 歳代では他の年齢層に比べて「どのような活動が行われているか知らない」や「一緒に活動する友人・仲間がいない」、「コミュニケーションが難しい」、「参加したくなるようなものがない」などの割合が高い。

【図表 3-3-88　年齢別・現在の症状別　地域活動に参加するときに妨げとなること】（%）

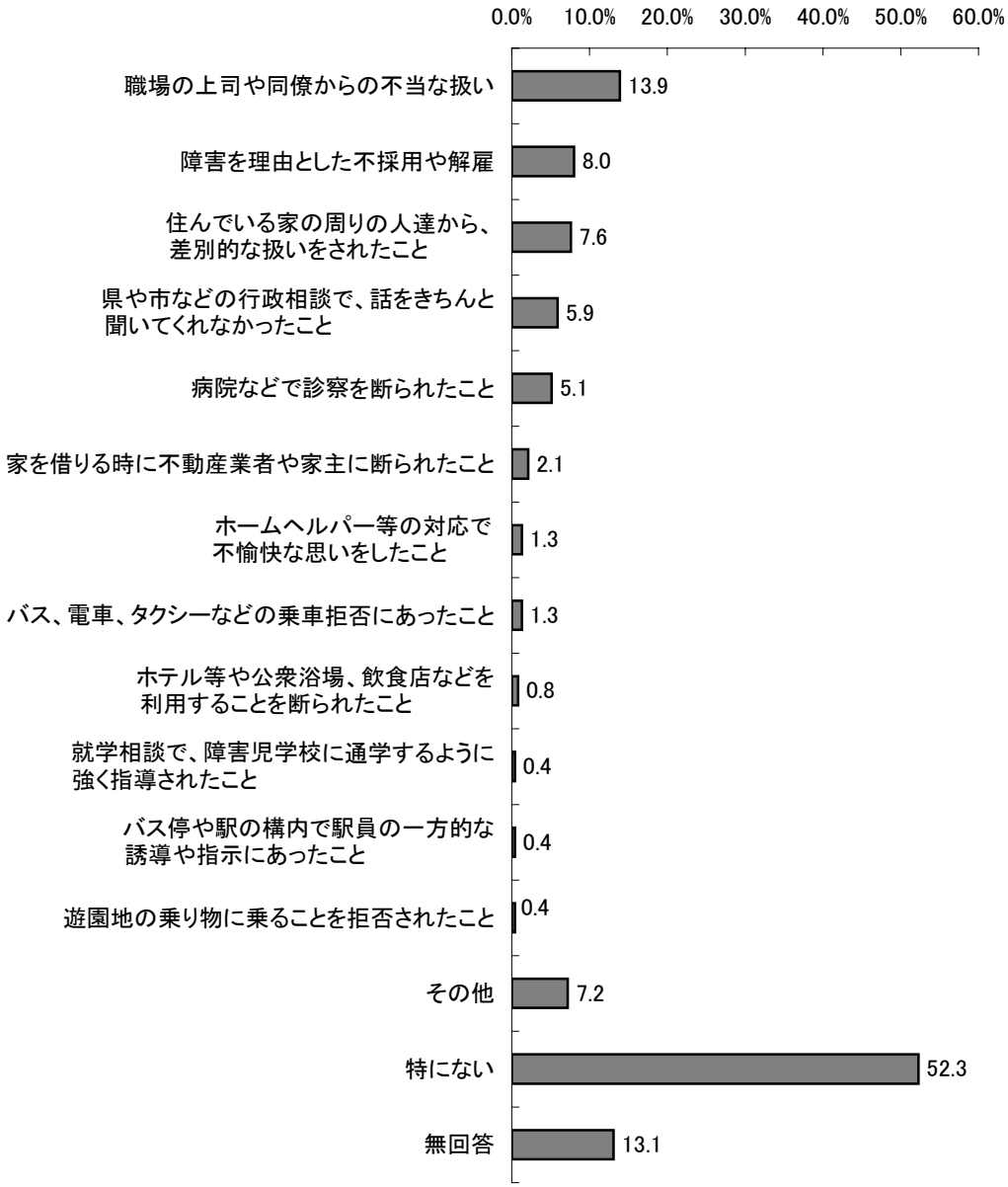
		調査数［n］（人）	健康や体力に自信がない	どのような活動が行われているか知らない	一緒に活動する友人・仲間がいない	コミュニケーションが難しい	参加したくなるようなものがない	気軽に参加できる活動が少ない	家庭の事情がある（病人がいる、家事・仕事等との都合が難しい）	活動場所が近くにない・移動手段がない
全　体		237	32.9	27.4	24.9	18.6	16.0	12.2	9.7	5.9
年齢別	１７歳以下	8	12.5	－	－	12.5	－	－	－	－
	１８～２９歳	33	36.4	45.5	39.4	33.3	27.3	21.2	9.1	15.2
	３０～３９歳	33	30.3	45.5	39.4	36.4	24.2	15.2	9.1	9.1
	４０～４９歳	50	26.0	24.0	26.0	14.0	12.0	12.0	12.0	2.0
	５０～５９歳	54	33.3	22.2	14.8	14.8	20.4	13.0	11.1	7.4
	６０～６４歳	22	27.3	22.7	27.3	22.7	9.1	13.6	13.6	－
	６５歳以上	30	50.0	16.7	16.7	－	3.3	－	3.3	3.3
	無回答	7	42.9	14.3	14.3	－	14.3	14.3	14.3	－
別現在の症状	回復	116	33.6	24.1	22.4	15.5	15.5	6.9	7.8	6.9
	変化なし	64	31.3	32.8	28.1	20.3	15.6	23.4	10.9	3.1
	悪化	14	50.0	28.6	28.6	28.6	21.4	21.4	28.6	21.4
	症状不安定	35	28.6	31.4	28.6	22.9	20.0	8.6	8.6	2.9
	無回答	8	25.0	12.5	12.5	12.5	－	－	－	－

		調査数［n］（人）	周囲の理解がない	費用や手間がかかりすぎる	過去に参加したが期待はずれだった	参加したいが誘ってもらえない	その他	特にない	参加しようとは思わない	無回答
全　体		237	5.9	5.5	3.8	3.4	2.1	13.9	11.4	6.8
年齢別	１７歳以下	8	－	－	－	－	12.5	62.5	－	－
	１８～２９歳	33	12.1	9.1	6.1	9.1	12.1	12.1	6.1	3.0
	３０～３９歳	33	9.1	12.1	3.0	－	－	－	12.1	9.1
	４０～４９歳	50	10.0	－	2.0	4.0	－	14.0	16.0	10.0
	５０～５９歳	54	1.9	9.3	7.4	1.9	－	14.8	5.6	3.7
	６０～６４歳	22	4.5	4.5	－	4.5	－	18.2	13.6	4.5
	６５歳以上	30	－	－	3.3	－	－	16.7	20.0	10.0
	無回答	7	－	－	－	14.3	－	－	14.3	14.3
別現在の症状	回復	116	3.4	5.2	4.3	1.7	2.6	19.8	11.2	4.3
	変化なし	64	7.8	6.3	3.1	7.8	1.6	9.4	9.4	4.7
	悪化	14	14.3	14.3	7.1	7.1	7.1	14.3	14.3	－
	症状不安定	35	8.6	2.9	2.9	－	－	5.7	14.3	11.4
	無回答	8	－	－	－	－	－	－	12.5	50.0

（６）差別的な扱いを受けたり、いやな思いをした経験の有無

問３２　あなたはこれまでに次のような差別的な扱いを受けたり、いやな思いをしたことがありますか。（○はあてはまるものすべて）

【図表 3-3-89　差別的な扱いを受けたり、いやな思いをした経験の有無】（ｎ＝237）



差別的な扱いを受けたり、いやな思いをした経験については「特にない」（52.3%）が半数を超えて最も多いが、具体的な内容では「職場の上司や同僚からの不当な扱い」（13.9%）が最も多く、1割を超えている。

年齢別にみても、すべての年齢層で「特にない」が最も多いが、いやな思い等をした内容は、18～29歳では「職場の上司や同僚からの不当な扱い」（24.2%）が最も多く、30歳代では「障害を理由とした不採用や解雇」（18.2%）が最も多い。

現在の症状別にみると、いずれの状態においても「特にない」が最も多いが、悪化傾向にある人では他に比べて全般的に割合が高い。

【図表 3-3-90　年齢別・現在の症状別　差別的な扱いを受けたり、いやな思いをした経験の有無】（%）

		調査数［ｎ］（人）	職場の上司や同僚からの不当な扱い	障害を理由とした不採用や解雇	住んでいる家の周りの人達から、差別的な扱いをされたこと	県や市などの行政相談で、話をきちんと聞いてくれなかったこと	病院などで診察を断られたこと	家を借りる時に不動産業者や家主に断られたこと	ホームヘルパー等の対応で不愉快な思いをしたこと
全　体		237	13.9	8.0	7.6	5.9	5.1	2.1	1.3
年齢別	１７歳以下	8	－	－	－	－	－	－	－
	１８～２９歳	33	24.2	6.1	15.2	3.0	12.1	3.0	－
	３０～３９歳	33	15.2	18.2	15.2	3.0	6.1	6.1	3.0
	４０～４９歳	50	14.0	12.0	8.0	10.0	6.0	2.0	4.0
	５０～５９歳	54	14.8	7.4	1.9	7.4	3.7	－	－
	６０～６４歳	22	9.1	－	9.1	4.5	－	4.5	－
	６５歳以上	30	－	－	3.3	6.7	3.3	－	－
	無回答	7	42.9	14.3	－	－	－	－	－
現在の症状別	回復	116	12.1	5.2	8.6	4.3	2.6	0.9	0.9
	変化なし	64	15.6	10.9	4.7	7.8	7.8	－	－
	悪化	14	21.4	21.4	14.3	14.3	14.3	21.4	14.3
	症状不安定	35	17.1	8.6	8.6	5.7	5.7	2.9	－
	無回答	8	－	－	－	－	－	－	－

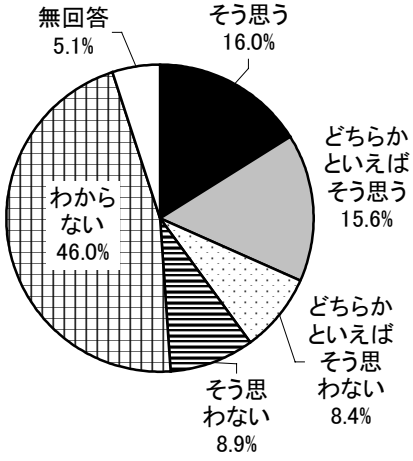
		調査数［ｎ］（人）	バス、電車、タクシーなどの乗車拒否にあったこと	ホテル等や公衆浴場、飲食店などを利用することを断られたこと	就学相談で、障害児学校に通学するように強く指導されたこと	バス停や駅の構内で駅員の一方的な誘導や指示にあったこと	遊園地の乗り物に乗ることを拒否されたこと	その他	特にない	無回答
全　体		237	1.3	0.8	0.4	0.4	0.4	7.2	52.3	13.1
年齢別	１７歳以下	8	－	－	－	－	－	12.5	87.5	－
	１８～２９歳	33	3.0	3.0	3.0	－	3.0	15.2	39.4	15.2
	３０～３９歳	33	－	－	－	－	－	9.1	48.5	9.1
	４０～４９歳	50	－	－	－	－	－	6.0	48.0	16.0
	５０～５９歳	54	3.7	－	－	1.9	－	1.9	55.6	11.1
	６０～６４歳	22	－	4.5	－	－	－	－	63.6	9.1
	６５歳以上	30	－	－	－	－	－	13.3	56.7	20.0
	無回答	7	－	－	－	－	－	－	42.9	14.3
現在の症状別	回復	116	0.9	0.9	－	－	－	8.6	56.0	12.9
	変化なし	64	－	－	－	－	－	3.1	59.4	6.3
	悪化	14	7.1	7.1	7.1	－	7.1	14.3	50.0	－
	症状不安定	35	2.9	－	－	2.9	－	8.6	34.3	17.1
	無回答	8	－	－	－	－	－	－	25.0	75.0

９．福祉全般について

（１）ノーマライゼーションのまちづくり

問３３　「障害がある人もない人も、ともに生きていくことができる社会こそ普通の社会である。障害がある人も職場で一緒に働いていたり、地域活動やいろいろな催し物にともに参加し、行動できるような社会にすべきである。」という考え方を一般に『ノーマライゼーション』と呼びます。久留米市は、この『ノーマライゼーション』の考え方を活かしたまちづくりをしていると思いますか。（○は１つだけ）

【図表 3-3-91　ノーマライゼーションのまちづくり】（ｎ＝237）



久留米市がノーマライゼーションを活かしたまちづくりをしているかという問に対しては、「わからない」（46.0%）との回答が最も多い。ノーマライゼーションを活かしたまちづくりをしていると思っている人は 31.6%（「そう思う」:16.0%、「どちらかといえばそう思う」:15.6%）、思わない人は 17.3%（「どちらかといえばそう思わない」: 8.4%、「そう思わない」: 8.9%）となっている。

年齢別にみると、ノーマライゼーションを活かしたまちづくりをしているとは思わない人の割合は、30 歳代（30.3%）で最も高く、その中でも「そう思わない」（21.2%）が 2 割を超えて高い。

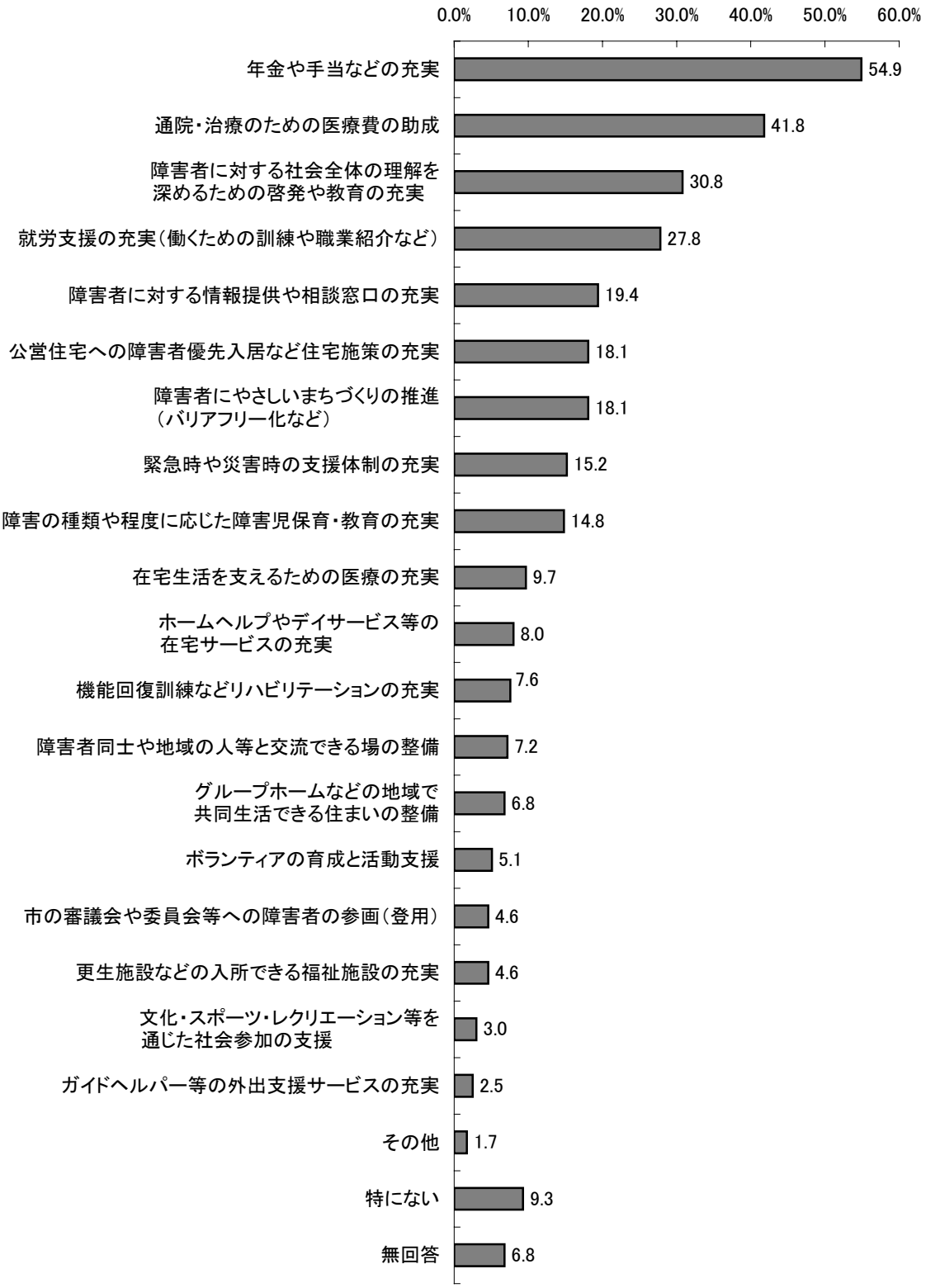
【図表 3-3-92　年齢別・現在の症状別　ノーマライゼーションのまちづくり】（%）

		調査数［ｎ］（人）	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	わからない	無回答
全　体		237	16.0	15.6	8.4	8.9	46.0	5.1
年齢別	１７歳以下	8	12.5	25.0	12.5	12.5	37.5	－
	１８～２９歳	33	18.2	15.2	6.1	12.1	45.5	3.0
	３０～３９歳	33	9.1	15.2	9.1	21.2	39.4	6.1
	４０～４９歳	50	16.0	18.0	14.0	14.0	36.0	2.0
	５０～５９歳	54	9.3	16.7	7.4	1.9	55.6	9.3
	６０～６４歳	22	27.3	18.2	9.1	－	40.9	4.5
	６５歳以上	30	26.7	10.0	3.3	3.3	53.3	3.3
	無回答	7	14.3	－	－	－	71.4	14.3
現在の症状別	回復	116	19.8	19.8	8.6	6.9	42.2	2.6
	変化なし	64	14.1	10.9	12.5	10.9	46.9	4.7
	悪化	14	7.1	14.3	7.1	7.1	64.3	－
	症状不安定	35	14.3	11.4	2.9	14.3	48.6	8.6
	無回答	8	－	12.5	－	－	50.0	37.5

（２）障害者福祉施策として重点的に進めるべきこと

問３４　今後、障害がある人の自立と福祉の向上のための支援として、久留米市はどのようなことを重点的に進めるべきだと考えますか。（○は５つまで）

【図表 3-3-93　障害者福祉施策として重点的に進めるべきこと】（ｎ＝237）



障害者福祉施策として久留米市が重点的に進めるべきことは、「年金や手当などの充実」（54.9%）が最も多く、次いで「通院・治療のための医療費の助成」（41.8%）、「障害者に対する社会全体の理解を深めるための啓発や教育の充実」（30.8%）、「就労支援の充実（働くための訓練や職業紹介など）」（27.8%）、「障害者に対する情報提供や相談窓口の充実」（19.4%）となっている。

現在の症状別にみると、いずれの状態像においても「年金や手当などの充実」が最も多いが、悪化傾向にある人では他に比べて「グループホームなどの地域で共同生活できる住まいの整備」（21.4%）や「更生施設などの入所できる福祉施設の充実」（14.3%）、「障害者に対する情報提供や相談窓口の充実」（35.7%）の割合が高い。

ノーマライゼーションを活かしたまちづくりに対する評価別にみると、久留米市がノーマライゼーションを活かしたまちづくりをしているとは思わない人は、そう思う人に比べて「障害者に対する社会全体の理解を深めるための啓発や教育の充実」（53.7%）や「障害者に対する情報提供や相談窓口の充実」（31.7%）などの割合が高い。

【図表 3-3-94　年齢別・現在の症状別・ノーマライゼーションに対する評価別
障害者福祉施策として重点的に進めるべきこと】（%）

		調査数［n］（人）	年金や手当などの充実	通院・治療のための医療費の助成	障害者に対する社会全体の理解を深めるための啓発や教育の充実	就労支援の充実（働くための訓練や職業紹介など）	障害者に対する情報提供や相談窓口の充実	公営住宅へ先入居など住宅施策の障害者優	障害者にやさしいまちづくりの推進（バリアフリー化など）
全　体		237	54.9	41.8	30.8	27.8	19.4	18.1	18.1
年齢別	１７歳以下	8	37.5	25.0	12.5	12.5	25.0	－	50.0
	１８～２９歳	33	51.5	51.5	27.3	42.4	27.3	24.2	15.2
	３０～３９歳	33	45.5	42.4	42.4	33.3	24.2	21.2	33.3
	４０～４９歳	50	60.0	42.0	34.0	42.0	22.0	20.0	14.0
	５０～５９歳	54	63.0	33.3	27.8	22.2	18.5	16.7	9.3
	６０～６４歳	22	63.6	54.5	36.4	13.6	13.6	9.1	22.7
	６５歳以上	30	40.0	43.3	23.3	3.3	6.7	16.7	16.7
	無回答	7	71.4	28.6	28.6	42.9	14.3	28.6	14.3
現在の症状別	回復	116	54.3	44.8	34.5	31.9	20.7	17.2	21.6
	変化なし	64	53.1	42.2	26.6	25.0	17.2	20.3	17.2
	悪化	14	50.0	35.7	28.6	28.6	35.7	14.3	14.3
	症状不安定	35	62.9	40.0	31.4	25.7	17.1	20.0	14.3
	無回答	8	50.0	12.5	12.5	－	－	12.5	－
ノーマライゼーションに対する評価別	思う	75	65.3	42.7	41.3	32.0	21.3	18.7	24.0
	思わない	41	58.5	41.5	53.7	39.0	31.7	22.0	29.3
	わからない	109	51.4	45.0	18.3	22.9	14.7	18.3	10.1
	無回答	12	8.3	8.3	－	8.3	8.3	－	16.7

		調査数［ｎ］（人）	緊急時や災害時の支援体制の充実	障害の種類や程度に応じた障害児保育・教育の充実	在宅生活を支えるための医療の充実	ホームヘルプやデイサービス等の在宅サービスの充実	機能回復訓練などリハビリテーションの充実	障害者同士や地域の人等と交流できる場の整備	グループホームなどの地域で共同生活できる住まいの整備
全　体		237	15.2	14.8	9.7	8.0	7.6	7.2	6.8
年齢別	１７歳以下	8	37.5	37.5	12.5	－	12.5	－	12.5
	１８～２９歳	33	18.2	12.1	6.1	3.0	15.2	12.1	3.0
	３０～３９歳	33	18.2	12.1	3.0	6.1	6.1	9.1	12.1
	４０～４９歳	50	8.0	14.0	10.0	2.0	8.0	8.0	－
	５０～５９歳	54	14.8	16.7	11.1	13.0	－	7.4	9.3
	６０～６４歳	22	4.5	27.3	4.5	18.2	18.2	9.1	9.1
	６５歳以上	30	20.0	6.7	20.0	13.3	6.7	－	10.0
	無回答	7	28.6	－	14.3	－	－	－	－
現在の症状別	回復	116	15.5	12.9	11.2	7.8	6.9	6.9	6.9
	変化なし	64	21.9	17.2	9.4	10.9	14.1	6.3	3.1
	悪化	14	14.3	28.6	7.1	－	7.1	14.3	21.4
	症状不安定	35	－	14.3	5.7	5.7	－	8.6	5.7
	無回答	8	25.0	－	12.5	12.5	－	－	12.5
ノーマライゼーションに対する評価別	思う	75	13.3	17.3	10.7	10.7	9.3	8.0	6.7
	思わない	41	17.1	19.5	9.8	9.8	12.2	9.8	4.9
	わからない	109	17.4	12.8	10.1	6.4	5.5	5.5	8.3
	無回答	12	－	－	－	－	－	8.3	－

		調査数［ｎ］（人）	ボランティアの育成と活動支援	市の審議会や委員会等への障害者の参画（登用）	更生施設などの入所できる福祉施設の充実	文化・スポーツ・レクリエーション等を通じた社会参加の支援	ガイドヘルパー等の外出支援サービスの充実	その他	特にない	無回答
全　体		237	5.1	4.6	4.6	3.0	2.5	1.7	9.3	6.8
年齢別	１７歳以下	8	－	－	－	－	－	－	－	12.5
	１８～２９歳	33	6.1	6.1	－	6.1	3.0	－	15.2	3.0
	３０～３９歳	33	3.0	6.1	6.1	6.1	3.0	9.1	3.0	6.1
	４０～４９歳	50	8.0	4.0	－	2.0	2.0	－	12.0	6.0
	５０～５９歳	54	3.7	7.4	7.4	1.9	3.7	－	7.4	9.3
	６０～６４歳	22	4.5	－	9.1	－	－	－	9.1	－
	６５歳以上	30	6.7	3.3	10.0	－	3.3	3.3	13.3	10.0
	無回答	7	－	－	－	14.3	－	－	－	14.3
現在の症状別	回復	116	3.4	6.0	5.2	1.7	0.9	1.7	8.6	4.3
	変化なし	64	9.4	3.1	4.7	4.7	3.1	3.1	9.4	6.3
	悪化	14	7.1	7.1	14.3	7.1	－	－	14.3	－
	症状不安定	35	－	2.9	－	2.9	2.9	－	11.4	11.4
	無回答	8	12.5	－	－	－	25.0	－	－	37.5
ノーマライゼーションに対する評価別	思う	75	2.7	8.0	5.3	4.0	5.3	2.7	5.3	1.3
	思わない	41	9.8	7.3	4.9	－	－	－	12.2	－
	わからない	109	5.5	1.8	4.6	3.7	1.8	1.8	11.0	5.5
	無回答	12	－	－	－	－	－	－	8.3	75.0

第４章　考察

第４章　考察

実態調査の結果と考察

福岡県立大学教授　鬼﨑信好

今回の調査は、久留米市内に居住する障害者を対象に実施された。調査対象は、いずれも無作為に抽出した①身体障害者手帳を有する身体障害者(児童も含む-以下、「身体障害者」と略す。)-3,000 サンプル、②療育手帳を有する知的障害者(児童も含む-以下、「知的障害者」と略す。)-500 サンプル、③通院医療費公費負担制度を利用している精神障害者-500 サンプルの合計4,000名の方であった。有効回答は、身体障害者が1,890名-63.0%、知的障害者306名-61.2%、精神障害者 237 名-47.4%であった。調査方法が郵送法により実施されたことを考慮すると、かなりの回答率となった。このことは、本市における今後の障害者福祉施策の展開を図る上で、貴重なデータが得られたことになる。

以下、今回の調査結果から全体的な特徴を整理する。

１．年齢

（１）身体障害者

調査結果(N=1,890)をみると、回答者の年齢は 65 歳以上が 62.1%と 6 割を超えており、身体障害が「加齢・老化→傷病→治療･入院→障害」というプロセスを経る場合が多いことを確認できる（障害を有するようになった時期は、65 歳以上が 25.0%と最も多く、次いで 17 歳以下が 18.1%と続く。回答結果を 50 歳以上でまとめれば、半数(51.6%)を超える(50～59 歳-16.2%、60～64 歳-10.4%、65 歳以上-25.0%)。これに 40～49 歳の 9.9%を加えると、6 割を超える(61.5%))。その意味では、高齢期の予防的サービスと高齢者一人ひとりの日々の取組みも重要といえよう。

（２）知的障害者

調査結果をみると、40 歳以上の者が 29.7%であり、39 歳以下の者が 66.6%と、年齢的な広がりがある。知的障害は出生前後の何らかの原因による場合が多く、まずは妊娠中のハイリスク要因の予防、新生児の先天性代謝異常等検査、乳幼児健診、早期療育体制の充実等が重要となる。また、60 歳以上の者が 6.2%存在することを踏まえれば、全体的に老化に伴う生活課題への対応策も重要となる。かつては知的障害者は短命であるという指摘がなされた時代があったが、今日ではその様なことは全くなく、むしろ知的障害者の生涯にわたる支援体制の充実が求められているのである。

（３）精神障害者

調査結果をみると、回答者の年齢は思春期後期以降において満遍なく分布している。したがって、それぞれの年齢段階においての支援体制の充実が求められる。また、60 歳以上の者が 2 割(22.0%)を超えており、精神障害者の場合も高齢期の生活支援が課題のひとつといえる。

２．障害の種類･程度

（１）身体障害者

回答結果をみると、障害が重度の１級及び２級の者が５割弱(47.2%)となっており、中度である３級･4 級が３割強(32.9%)、軽度の５級・6 級が 15.5%である。障害の種類をみると、肢体不自由が 44.9%と最も多く、次いで内部障害が 24.8%、聴覚･平衡機能障害 11.5%、視覚障害 7.6%、音声・言語・そしゃく機能障害 2.0%と続き、身体障害が加齢と密接に関連していることが推察できる。

視覚障害は 7.6%と数値的には低いものの、視覚障害という障害の部位を踏まえれば、特に就業面でのハンディキャップなどを有することが多いので、生活面での十分な支援が求められることはいうまでもない。

（２）知的障害者

知的障害の程度は重度(A)が過半数(57.5%)を超えている。また、身体障害者手帳の所持者が 94 名であり、知的障害者回答者総数(N=306)の 3 割(30.7%)に相当する。身体障害者手帳の所持者は、30 歳代 36.2%、40 歳代 32.4%、50 歳代 37.1%、60 歳代前半 50.0%、60 歳代後半以上 54.5%という具合に、加齢とともにその割合が高くなっており、重複障害を有する者が多くなっている。

（３）精神障害者

精神障害者の 6 割弱(57.8%)が精神科･神経科に入院の経験があり、現在の受診状況は、月に 2～3 回が 4 割(39.2%)となっている。精神障害者保健福祉手帳の所持者は 3 割弱(28.3%)にとどまっている。

３．居住形態と同居家族

（１）身体障害者

居住形態は年齢や障害の程度等によって大きく影響されるが、身体障害者の回答結果をみると、福祉施設で生活をしている者が 8.2%で、無回答の者(2.9%)を除けば、9 割弱(88.9%-1,681 名)が在宅生活者という結果である。この場合の同居家族（複数回答）は、配偶者(48.9%)、子ども･孫(36.9%)が多い。

しかし、一人暮らしが１割を超えていること(11.2%)にも留意したい。身体障害者の多くが高齢者が占めている調査結果を踏まえれば、在宅で生活をしている障害者が多くなっており、結果として一人暮らしの身体障害者の割合が高くなる傾向がある。

（２）知的障害者

知的障害者の回答結果によると、福祉施設で生活している者が 24.5%となっており、グループホームなどが 2.9%であり、他は持ち家等の在宅が 7 割弱(68.1%)である。

（３）精神障害者

精神障害者はグループホームなどの 1.7%と無回答 1.3%を除き、ほとんどの者(94.9%)が在宅である。

調査結果をみる限り、知的障害者の福祉施設入所の割合は相対的に高くなっている。

４．経済状況

（１）身体障害者

経済生活の面では、全体結果を見ると、自分の年金・手当が中心であると回答する者が半数を超えている(54.7%)。以下、家族の収入が 2 割(20.2%)、家族の年金・手当(10.8%)、自分の収入(9.0%)の順となっている。これを年齢別にみると、17 歳以下の者は、当然のことながら、家族の収入と回答する者が 85.7%と最も多い。逆に稼動年齢層である 30 歳代、40 歳代では自分の収入がそれぞれ 39.1%、34.2%となっており、自分の年金･手当(30 歳代-39.1%、40 歳代-27.4%)とほぼ同じか、それよりも多くなっている。しかし、50 歳代以上では自分の年金･手当が最も多くなる。

（２）知的障害者

自分の年金･手当が 44.1%、家族の収入が 35.3%、家族の年金･手当 9.2%の順となっており、自分の収入は 3.9%と低い数値である。これを年齢別にみると、年齢が上がるにつれて、自分の年金･手当の占める割合が高くなる傾向が見られる（18～29 歳 34.4%、30 歳代 63.8%、40 歳代 62.2%、50 歳代 71.4%、60 歳代前半 75.0%、65 歳以上 81.8%となっている)。ただし、これは本人の年金・手当が加齢とともに増額されるのではなく、家族の収入が減少することにより、相対的に比率が高まっているものと思われる。

（３）精神障害者

自分の年金･手当が 4 割弱(39.2%)、家族の収入 3 割弱(27.8%)、家族の年金･手当 13.9%、自分の収入が 13.1%となっている。

今回の調査結果をみる限り、障害者に共通していることは「自分の年金･手当」を柱にそれを補う形で家族の収入または年金･手当によって、生活を営んでいる場合が多いということになる。知的障害者の場合、就労による自分の収入が生活費中心になることは少ないといえる。

５．日常生活の自立度と外出状況

（１）身体障害者

身体障害者の日常生活面に関する回答結果をみると、日常生活動作（ＡＤＬ）の 11 項目に関しては、全体的には「一人でできる」と回答した者が最も多い。これを項目ごとにみると、日常的な面での身辺処理(身の回りの動作)は比較的に自立できる者が多いが、外出等では「一人でできる」と回答する者の割合が低くなる。

「一人でできる」と回答する者の割合が高い項目は、食事（69.5%）、歯磨き（66.9%）、洗顔（66.6%）、トイレ（65.4%）、意思の伝達（64.5%）、室内での移動（62.4%）、着替え（60.4%）となっている。これらとは逆に、外出(46.4%)、車の乗降(51.4%)、文字･書類の記入(50.6%)、入浴（56.6%）などの項目が相対的に低くなっている。この結果と関連するわけであるが、「介助」（一部介助＋全面介助)が必要な者の割合を高い順に整理すると、外出（37.0%）、文字･書類の記入（32.0%）、車の乗降（29.7%）、入浴（28.1%）、着替え（22.0%）という結果であり、3 割前後の者が介助を必要としていることになる。

要介助の項目と障害の部位との集計結果をみると、視覚障害は文字･書類の記入（63.9%）、外出（55.6%）、車の乗降（40.3%）の順で介助を必要とする結果となっている。聴覚･平衡機能障害では外出（33.0%）、文字･書類の記入（30.3%）、意思の伝達（27.5%）。音声･言語･そしゃく機能障害では文字･書類の記入（50.0%）、意思の伝達（47.4%）、外出（39.5%）、車の乗降(28.9%)。肢体不自由では外出(43.9%)、車の乗降(39.2%)、文字･書類の記入(36.1%)、着替え（33.3%）の順になっている。内部障害の身辺自立度合いは比較的高い。

（２）知的障害者

知的障害者の場合、日常生活動作 10 項目の内、「一人でできる」とする項目は、室内での移動(69.0%)、食事(61.8%)、トイレ(58.8%)、洗顔(55.6%)、着替え(52.0%)、歯磨き(50.7%)などが高い。その反面、「要介助」（アドバイスと介助が必要＋全面介助が必要の合計)は、文字の記入(62.4%)、外出(59.5%)、意思の伝達(53.3%)などの順で多くなっている。知的障害者（Ｎ＝306)で身体障害者手帳を有する者が 94 名存在しており、その内の半分強(54.2%)が重度(1 級、2 級)であることを忘れてはならない。これらの者は要介助の状態であり、身体面の介助が必要ということになる。

（３）精神障害者

精神障害者は、日常生活動作の 7 項目のいずれにおいても「一人でできる」と回答する割合が最も多かった。項目の多い順に記すと、服薬管理(68.4%)、金銭管理(55.3%)、買い物(53.6%)、洗濯(51.9%)などである。逆に、「要援助」（時々アドバイスや援助が必要＋全面的にアドバイスや援助が必要)は、食事のしたく(37.1%)、健康管理(33.3%)、金銭管理(24.9%)などで相対的に高くなっている。特に、洗濯や食事のしたくについては、男性が女性のよりも要援助の割合が高くなっていて、性差がみられる。

６．就労

就労状況は、働いていると回答する者の割合は、精神障害者(29.5%)、知的障害者(27.8%)、身体障害者(19.8%)の順である。就労率は、障害の部位や年齢等によって異なることが多い。

（１）身体障害者

身体障害の部位別の就業形態・仕事の種類をみると、視覚障害は商工サービス自営が 36.7%と最も多く、聴覚･平衡機能障害は常雇い(正社員･正職員)と臨時･パート･アルバイトなどが共に 30.4%、音声･言語・そしゃく機能障害では授産施設・共同作業所などが 40.0%、内部障害は常雇い（正社員・正職員）が 33.0%と最も多い。仕事の見つけ方は、「自営などで探す必要がなかった」が 26.4%と最も多く、次いで「自分で探した」(18.9%)、以下、「知人･縁故関係」(15.7%)、「公共職業安定所」(9.9%)などとなっている。勤労所得は 3～7 万円未満が 15.2%と最も多いが、かなり分散した結果となっている。11 万円で区切ってみると、11 万円未満が 46.1%、11 万円以上が 43.8%とかなり接近している。ただ、1 万円未満が 7.7%、1～3 万円未満が 8.8%と存在している。

仕事上の悩みや困っていることに関する回答結果をみると、「特にない」が 40.0%になっているものの、「収入が少ない」(34.7%)、「通院や病気･障害を理由に休みを取ることが難しい」(7.2%)、「障害がない人と比べて、仕事の内容や昇進などに差がある」(5.3%)などを挙げている。

仕事をする上での必要な条件整備について回答を求めた。全体結果は、「特にない」(29.5%)や無回答(25.1%)を除けば、「障害にあった仕事であること」(20.8%)、「周囲が自分を理解してくれること」(16.7%)、「自宅で仕事ができること」(12.4%)、「通院などの保障があること」(9.9%) を求める回答が見られた。ただ、身体障害の程度や部位によって微妙に異なっているので、注意をしなければならない。

（２）知的障害者

知的障害者の場合は、授産施設･共同作業所などが 60.0%、臨時･パート･アルバイトなど 18.8%、常雇い(正社員･正職員)8.2%である。療育手帳所持者の障害の程度別にみると、療育手帳Ａでは授産施設･共同作業所などが 82.9%と多く、療育手帳Ｂでは授産施設・共同作業所などが 42.9%と低くなり、臨時･パート･アルバイトなどが 31.0%、常雇い（正社員・正職員）14.3%と分散する。このように障害の程度･重さによってかなり異なっている。勤労所得は 1 万円未満が 45.9%と半分近くを占めている。11 万円未満は 8 割弱(78.8%)となっている。この結果をみる限り、経済的自立は現実的にはかなり厳しいものがあるといわざるを得ない。

仕事上の悩みや困っていることの回答結果をみると、「収入が少ない」が 37.6%と最も多く、「職場でのコミュニケーションがうまくとれない」(18.8%)、「障害への理解が得にくく、人間関係がむずかしい」(14.1%)を挙げる者が多い。

仕事をする上での必要な条件整備について回答を求めた。「障害にあった仕事であること」(42.8%)、「周囲が自分を理解してくれること」(41.2%)、「職場によい指導者や先輩がいること」(33.0%)、「ジョブコーチなど職場に慣れるまで援助してくれる制度があること」

（29.1%）、「共同作業所や授産施設など福祉的就労の場を確保すること」（25.8%）、「通勤手段があること」（24.5%）などを求める傾向がみられた。知的障害者の回答結果を見る限り、就労への関心はかなり高いものがあるといえよう。

（３）精神障害者

精神障害者の回答結果をみると、就業形態・仕事の種類は臨時･パート･アルバイトなど 31.4%、常雇い(正社員･正職員)27.1%、商工サービス自営 14.3%、農業･林業･漁業 10.0%、授産施設･共同作業所など 8.6%の順である。仕事を見つけた方法は、「自分で探した」21.4%、「自営などで探す必要がなかった」20.0%、「新聞･雑誌の求人広告」17.1%、「公共職業安定所」15.7%、「知人･縁故関係」11.4%の順位になっている。勤労所得は 20～30 万円未満が 2 割強(22.9%)と最も多く、11 万円未満は 55.7%、11 万円以上は 41.4%である。これをもう少し記すと、1 万円未満、1～3 万円未満は共に 10.0%をこえることも忘れてはならない。

仕事上の悩みや困っていることでは、「収入が少ない」（55.7%）、「通院や病気･障害を理由に休みを取ることが難しい」（22.9%）、「職場までの通勤がたいへん」（20.0%）、「仕事の内容が難しく、覚えるのがたいへん」（12.9%）、「職場でのコミュニケーションがうまくとれない」(11.4%)などとなっている。

仕事をする上での必要な条件整備について回答を求めた。「周囲が自分を理解してくれること」（37.1%）、「通院などの保障があること」（30.8%）、「職場によい指導者や先輩がいること」（30.8%）、「勤務時間や日数の短縮」（27.0%）、「賃金が妥当であること」（22.8%）、「障害にあった仕事であること」（21.9%）などとなっている。

７．福祉施設入所（利用）者

（１）身体障害者

福祉施設入所者は 8.2%を占めており、重度障害者で施設入所者は 1 割強（1 級 12.2%、2 級 12.8%）である。年齢別でみると、18～29 歳の者の施設入所の割合が 15.0%と高い。また、65 歳以上の者は介護保険施設への入所の割合が高く（66.1%）、これにその他の高齢者向け施設（18.8%）を加えると、84.9%となる。

施設入所者の満足度は、「満足」（満足 35.5%＋どちらかといえば満足 41.9%）が 77.4%である。しかし、「不満」（どちらかといえば不満 7.1%＋不満 2.6%）が 1 割（9.7%）存在している。

将来の暮らし方を尋ねてみたところ、「今の施設で暮らし続けたい」が 6 割（61.3%）で、次いで「家族や親族と暮らしたい」は 16.8%である。「独立して一人で暮らしたい」（3.2%）や「グループホーム等で仲間と暮らしたい」（1.3%）という回答は低い。これを施設種類別でみると、総じて今の施設で暮らしたいという希望が多くなっている。

今年度から施行された障害者自立支援法を踏まえて考えると、在宅生活への支援がサービスの潮流となると考えられるが、福祉施設入所者は地域生活に移行するための条件をどのように考えているのだろうか。回答結果をみると、「昼間の介護を頼める人がいること」（29.0%）、「夜間の介護を頼める人がいること」（28.4%）、「食事の心配をしなくていいこと」（25.8%）、

「主治医や医療機関が近くにあること」（21.9%）などが上位になっている。これを障害の程度別でみると、障害が重度な者ほど、介護者の存在（昼間、夜間を含む）が重要と考えている。

総じていえることは、障害者が在宅生活を営む条件とは、介護者の確保、配食サービスの充実、主治医･医療機関の存在、家事援助等の配慮といえる。

（２）知的障害者

福祉施設の入所先は、知的障害者更生施設が約 7 割（69.3%）で、知的障害児のための入所施設 10.7%、知的障害者授産施設 9.3%と続く。福祉施設の満足度は、「満足」が 36.0%、「どちらかといえば満足」33.3%でこれを合わせると、7 割（69.3%）の者が一応満足していることになる。しかし、身体障害者の施設入所者と同じように、不満を 14.7%（どちらかといえば不満 10.7%＋不満 4.0%）の者が持っている。

施設入所者の将来の暮らし方は、「家族や親族と暮らしたい」が 1 割（10.7%）あるものの、「今の施設で暮らし続けたい」56.0%、「別の施設に移りたい」5.3%、「グループホーム等で仲間と暮らしたい」5.3%と回答している。グループホームは居住系のサービスといえるが、これを便宜的に入所施設の一種と考えれば、入所施設の利用意向はかなり強いといえる。

地域生活に移行するための条件に関する回答結果をみると、かなり分散した結果がみられるが、「食事の心配をしなくていいこと」（33.3%）、「昼間の介護を頼める人がいること」（21.3%）、「掃除や洗濯等の家事の手伝いを頼める人がいること」（18.7%）、「生活するのに十分な収入があること」（18.7%）などが続く。特に、知的障害者の場合は勤労所得が少ない者が多く、障害基礎年金等で生活をしていくことは困難な場合が多い。

８．介護者

（１）身体障害者

在宅の身体障害者（Ｎ＝1,681）の介護者を尋ねたところ、配偶者が最も多く 35.7%、次いで子ども･孫 13.5%、父母 6.4%、ホームヘルパーなど 4.0%となっている。性別でみると、男性は、配偶者が半分（50.6%）、子ども･孫 7.1%、ホームヘルパーなど 2.4%であるものの、女性は、配偶者が 20.0%にとどまり、その分だけ子ども･孫（20.1%）、ホームヘルパーなど 5.5%などに分散している。

主な介護者が介護できなくなった時の代わりの方法は、家族（同居家族に頼む 28.0%、別居家族･親せきに頼む 16.2%）と制度の活用（施設や病院に頼む 19.5%、ホームヘルパー等に頼む 13.9%）に分かれる。

（２）知的障害者

在宅の知的障害者（Ｎ＝223）の主な介護者は、今回調査対象である 17 歳以下が 73 名と多いこともあり、父母の占める割合が高くなっている（全体-71.3%、17 歳以下に限れば 94.5%となる）。以下、配偶者 4.5%、兄弟姉妹 4.5%、ホームヘルパーなど 2.2%となっている。問題は父母が高齢になったときのことにある。この点は久留米市だけの問題ではなく、知的障害者を抱える保護者共通の悩みであり、福祉行政の共通的課題でもある。

９．福祉サービスの利用状況と利用意向

（１）身体障害者

現在の福祉サービス利用状況と将来の利用意向について回答を求めたところ、項目によって異なるものの、半数前後が無回答であった。現在利用されているサービスは、「デイサービス・デイケア」が 10.7%、「ホームヘルプ」が 9.1%、「日常生活用具の給付」6.0%、「福祉施設」4.9%、「外出支援」4.2%、「ショートステイ」と「生活自立のための訓練・支援」が共に 2.5%であった。

今後の利用意向（近いうち、5 年以内に利用したい＋将来、必要なときがきたら利用したい）の回答結果をみると、「日常生活用具の給付」25.8%、「ホームヘルプ」25.4%、「市役所・生活支援センター等の相談窓口」24.1%、「外出支援」23.1%などが多い。年齢別にみると、17 歳以下では全般的にサービス利用意向は高い。

（２）知的障害者

現在のサービス利用状況は、「福祉施設」が最も多くて 14.4%､順に「ショートステイ」12.4%、「生活自立のための訓練・支援」10.5%、「デイサービス・デイケア」8.8%、「ホームヘルプ」6.5%、「市役所・生活支援センター等の相談窓口」6.5%、「就労訓練・就労継続支援」5.9%などの順である。

サービスの利用意向（近いうち、5 年以内に利用したい＋将来、必要なときがきたら利用したい）は、「外出支援」34.3%、「市役所・生活支援センター等の相談窓口」32.4%、「就労訓練・就労継続支援」31.7%、「生活自立のための訓練・支援」31.0%、「ホームヘルプ」29.4%などが高くなっている。

（３）精神障害者

精神障害者のサービス利用状況は、「デイサービス・デイケア」が 10.1%と最も多く、次いで「ホームヘルプ」4.2%、「市役所・生活支援センター等の相談窓口」3.0%などとなっている。

サービス利用意向（近いうち、5 年以内に利用したい＋将来、必要なときがきたら利用したい）は、「市役所・生活支援センター等の相談窓口」29.5%、「ホームヘルプ」26.6%、「外出支援」21.9%、「生活自立のための訓練・支援」21.9%、「就労訓練・就労継続支援」21.1%などとなっている。

１０．情報収集と災害時対策

（１）身体障害者

福祉に関する情報の入手先（方法）は、「市や県の広報紙・チラシ・ホームページなど」32.8%、「家族・友人・知人」20.2%、「病院・診療所・薬局など」17.6%、「テレビ・ラジオ」17.6%、「市や県等の窓口」17.2%、「新聞・雑誌」17.1%などとなっている。年齢別でみると、インターネットやパソコン通信は 18～29 歳で 20.0%と高いが、総じていえば、かなり多様な媒体によって福祉情報を入手している傾向がみられる。

福祉情報の入手状況に関しては、普通と感じている者が 28.5%となっている反面、不十分と感じている者（どちらかといえば不十分 22.1%＋不十分 16.0%）が 38.1%となっていることを踏まえれば、今後の広報方法の工夫も考える必要がある。

災害時に頼れる人の有無に関しては、「頼れる人がいる」が 7 割（70.8%）、「いない」23.1%となっており、その内訳は「同居の家族」が 7 割(70.9%)、「近居の家族・親戚」が 2 割(21.0%)、「施設の職員や仲間」10.8%などとなっている。これを家族構成別にみると、一人暮らしの者（Ｎ＝189）は「いる」46.0%、「いない」48.1%となっており、災害時等の対応策の検討が必要と考えられる。

災害時に心配なことは、「安全なところまで、すぐ避難することができない」30.7%、「避難所で障害にあった対応をしてくれるか心配である」28.0%、「正確な情報がなかなか流れてこない」21.2%などとなっている。

（２）知的障害者

知的障害者の場合の福祉に関する情報の入手先は、入所施設、通所施設を含めて福祉施設利用者が多いこともあって、福祉施設職員 33.3%、市や県の広報紙・チラシ・ホームページなど 26.5%、家族・友人・知人 26.1%、市や県等の窓口 18.0%、生活支援センター12.7%などが多い。療育手帳別（障害の程度別）にみると、療育手帳Ｂの方がＡよりも生活支援センターから福祉情報を入手する者の割合が高い（療育手帳Ａ9.7%，療育手帳Ｂ19.1%）。

災害時に頼れる人の有無に関しては、「いる」が 8 割弱（78.1%）、「いない」17.0%である。「いる」場合は、「同居の家族」が 6 割強（61.5%）、「施設の職員や仲間」34.3%、「近居の家族・親戚」13.8%などとなっている。

（３）精神障害者

精神障害者の場合の情報入手先は、「病院・診療所・薬局など」39.7%、「家族・友人・知人」22.4%、「市や県の広報紙・チラシ・ホームページなど」18.6%、「市や県等の窓口」14.8%などとなっている。

災害時に頼れる人の有無については、「いる」65.8%、「いない」30.4%となっており、その内訳は「同居の家族」74.4%、「近居の家族・親戚」26.9%などである。家族と同居している場合は、同居家族の割合が高い（夫婦のみ 91.7%、父母等の家族と同居 84.7%）。

１１．行政に望むこと

（１）身体障害者

身体障害者の地域の人とのつきあい程度（複数回答）は、「会えばあいさつしあう程度」が 6 割（60.0%）、が最も多く、「世間話をする関係」は 35.4%である。また、「つきあいはしていない」は 7.8%である。この結果をみる限り、一定の関係は成立しているといえよう。

久留米市がノーマライゼーションのまちづくりをすすめているか否かについて尋ねたところ、「わからない」が 4 割（42.7%）と最も多いが、「進めていると思う」（そう思う 13.5%＋どちらかといえばそう思う 14.1%）が 27.6%であった。また、困っていることや将来の不安・

悩みに関しては、「障害･健康上の心配･悩み」51.4%、「経済的な不安」38.9%、「将来の生活が不安」26.6%などが上位になっている。

これらのことを踏まえて、身体障害者が求める行政への要望について整理する。障害者福祉施策として重点的に進めるべきことに関して回答（複数回答）を求めたところ、「年金や手当などの充実」48.3%、「医療費の助成」31.1%、「障害者にやさしいまちづくりの推進」25.4%、「障害者に対する社会全体の理解を深めるための啓発･教育の充実」23.8%、「緊急時や災害時の支援体制の充実」20.3%、「リハビリテーションの充実」17.1%、「情報提供や相談窓口の充実」17.0%、「就労支援の充実」16.9%などとなっている。

障害の部位別にみると、年金・手当などの充実を求める回答は共通して最も多いが、障害の部位に応じて微妙に差が見られる。例えば、視覚障害、聴覚･平衡機能障害、肢体不自由を有する者は、緊急時や災害時の支援体制を求める割合がやや高くなっている（視覚障害 20.8%、聴覚･平衡機能障害 21.1%、肢体不自由 22.1%）が、音声･言語・そしゃく機能障害では 7.9%である。その反面、音声･言語・そしゃく機能障害は医療費の助成が 36.8%とやや高くなっている。

（２）知的障害者

知的障害者の困っていること･将来に対する不安や悩みは、「将来の生活が不安」39.5%、「障害･健康上の心配･悩み」35.9%、「経済的な不安」35.6%などが挙げられる。地域の人とのつきあいの程度（複数回答）は、「会えばあいさつしあう程度」42.8%、「入所･通所している施設の行事等で交流する」34.6%などであるが、「つきあいはしていない」が 2 割弱（19.3%）いることも留意しておきたい。

平成 12 年度から本格的に導入された地域福祉権利擁護事業及び成年後見制度に関する認知度は、「知っている」が 1 割（9.8%）に止まっており、「知らない」が 5 割（49.0%）、「聞いたことはあるが、詳しくは知らない」3 割（29.7%）である。これらの制度の利用意向は、「わからない」（43.8%）が最も多く、「今は必要ないが、将来利用してみたい」が 34.6%である。ちなみに、「利用している」2.9%、「すぐにでも利用したい」2.3%である。

また、ノーマライゼーションのまちづくりに関しては、「わからない」が 4 割（40.2%）、肯定的回答（そう思う 10.5%＋どちらかといえばそう思う 16.7%）が 27.2%である。

以上のことを踏まえて、行政への要望について整理する。

行政施策への要望は、「年金･手当などの充実」53.3%、「就労支援の充実」35.0%。「障害者に対する社会全体の理解を深めるための啓発･教育の充実」30.4%、「障害の種類や程度に応じた障害児保育･教育の充実」25.2%、「医療費の助成」21.6%、「障害者にやさしいまちづくりの推進」20.3%、「グループホームなどの地域で共同生活できる住まいの整備」19.6%、「入所施設の充実」19.3%、「緊急時･災害時の支援体制の充実」19.0%、「情報提供･相談窓口の充実」17.6%などとなっている。

年齢別にみると、17 歳以下では、「就労支援の充実」59.5%、「障害児保育･教育の充実」52.7%などが高くなっている。

（３）精神障害者

地域の人とのつきあいの程度（複数回答）は、「会えばあいさつしあう程度」74.7%、「世間

話をする」21.1%、「つきあいはしていない」9.3%などとなっている。希望する暮らし方は、「今の場所で暮らしたい」が 55.7%と最も多く、「独立して一人で暮らしたい」8.0%、「別居している家族･親族と暮らしたい」5.9%などとなっている。

充実した生活を送るために必要な支援は、「24 時間いつでも相談できる体制や身近な相談相手」28.7%、「公営住宅の優先入居･家賃の減額や免除制度」24.1%、「昼間の行き場所（デイケアなど)」16.5%、「配食サービス」16.0%、「アパート等を借りるときの公的保証人制度」14.3%、「地域生活支援センターでの支援」13.5%などとなっている。

困っていること･将来に対する不安や悩みに関しては、「経済的な不安」が 57.0%と最も多く、「将来の生活が不安」46.4%、「障害や健康上の心配･悩み」41.8%、「生きがいを見いだせない」14.8%、「結婚問題の不安･悩み」11.4%、「住まいの不満･悩み」11.0%などとなっている。悩みの相談相手は、「家族」52.7%、「病院･診療所の医師や看護師など」48.5%、「知人･友人･近所の人」21.9%などとなっている。

以上の結果を踏まえて、行政への要望を整理すると、「年金･手当などの充実」54.9%、「医療費の助成」41.8%、「障害者に対する社会全体の理解を深めるための啓発･教育の充実」30.8%、「就労支援の充実」27.8%、「情報提供・相談窓口の充実」19.4%、「公営住宅への優先入居などの住宅施策の充実」18.1%、「障害者にやさしいまちづくりの推進」18.1%などとなっている。

参考資料

久留米市
保健福祉サービスニーズ・実態調査
（調査票Ａ）

【ご協力のお願い】

日頃から久留米市の福祉向上にご協力をいただきまして、ありがとうございます。

久留米市では、平成７年度に「第２次障害者福祉長期行動計画」を策定し、障害のある方が、地域で安心して生活できるように様々な取り組みを進めてきましたが、この度、この計画を見直すこととなりました。

この調査は、計画見直しの基礎資料とするため、市内にお住まいの身体障害者手帳をお持ちの方（約3，000人）に、日常生活の状況やご要望などをおうかがいするために行うものです。

なお、この調査票にお名前を書く必要はなく、調査結果は「久留米市の障害者の○○%がこのような要望を持っている」というふうに、すべて統計的な処理にのみ使用します。したがって、あなたのお名前や回答の内容が他の人に知られることはありませんので、安心してお答えください。

お忙しいところお手数をおかけいたしますが、ご理解とご協力をお願いいたします。

平成１８年１月

久留米市長　江藤　守國

記入にあたってのご注意

- この調査票は、できる限りあて名のご本人がお答えください。なお、あて名のご本人が18歳未満の方については、保護者の方にお答えいただく質問もありますので、ご注意ください。
- ご本人の回答や記入が難しい場合は、主に介助されている方や、ご家族の方が、ご本人と相談したり、ご本人の立場にたってお答えください。
- 鉛筆またはボールペンでご記入ください。
- 回答は、あてはまる項目を選んで、その番号を○印で囲んでください。
- 質問によっては、回答していただく方が限られる場合がありますので、ことわり書きの指示に従ってお答えください。
- 調査票の記入が終わったら、1月20日までに、同封の返信用封筒に入れて、ポストに入れてください（住所やお名前を書く必要はありません）。

【調査に関するお問い合わせ先】

久留米市健康福祉部障害者福祉課　　電　話：0942－30－9035

保健福祉サービスニーズ・実態調査担当　　ＦＡＸ：0942－30－9752

あなた自身のことについて、おたずねします

問１　あなたの性別、年齢についておたずねします。

（１）性別	１．男性　　２．女性
（２）年齢	満（　　）歳

問２　あなたの生活費は、主に、次のどれによってまかなわれていますか。（○は１つだけ）

１．自分の年金や手当	２．自分の就労等による収入
３．家族の年金や手当	４．家族の就労等による収入
５．その他（　　）	

問３　あなたの障害の程度は、「身体障害者手帳」では何級でしょうか。（○は１つだけ）

等級の数字に○印 ⟶ １　２　３　４　５　６　級

問４　あなたの身体障害者手帳に記載されたもののうち、主な障害はどれですか。（○は１つだけ）

１．視覚	２．聴覚	３．平衡機能
４．音声・言語・そしゃく機能	５．上肢	６．下肢
７．右または左 上下肢	８．両上下肢	９．体幹
１０．心臓	１１．腎臓	１２．呼吸器
１３．ぼうこう	１４．直腸	１５．小腸
１６．その他（　　）		

問４－１　（主な障害が５～９までの方へ）障害の原因となった傷病名は何でしょうか。（○１つだけ）

１．脳性マヒ	２．脊椎性小児マヒ	３．脊椎損傷
４．進行性筋萎縮症	５．脳血管障害	６．骨関節疾患
７．リウマチ性疾患	８．特定疾患	９．その他の病気
１０．わからない	１１．病気ではない	（　　）

問５　問４で回答した障害の主な原因は何ですか。（○は１つだけ）

１．出生時	２．病気
３．交通事故	４．労働災害
５．戦災・戦傷	６．スポーツその他の事故
７．その他（　　）	８．わからない

問６　問４で回答した障害の他に、「重複する障害」がありますか。（○はあてはまるものすべて）

１．視覚	２．聴覚	３．平衡機能
４．音声・言語・そしゃく機能	５．上肢	６．下肢
７．右または左上下肢	８．両上下肢	９．体幹
１０．心臓	１１．腎臓	１２．呼吸器
１３．ぼうこう	１４．直腸	１５．小腸
１６．その他（　　）		

問７　あなたが障害を受けた時期はいつですか[最初に障害が発生したときの満年齢をお答えください。疾患の場合は発病時を意味します]。

満（　　）歳のころ

問８　「療育手帳」は持っていますか。

１．持っている	２．持っていない

【４０歳以上の方のみお答えください】

問９　介護保険の要介護認定を受けていますか。（○は１つだけ）

１．「要支援」と認定	２．「要介護１」と認定
３．「要介護２」と認定	４．「要介護３」と認定
５．「要介護４」と認定	６．「要介護５」と認定
７．要介護認定を受けて「非該当」になった	８．要介護認定は受けていない

生活状況についておたずねします

問１０　あなたは、次のような動作が一人でできますか。①から⑪までのそれぞれの項目について、あてはまるものに１つずつ○をつけてください。※補装具を使用した状態でお答えください。

	一人でできる	不自由だが一人でできる	一部介助が必要	全面介助が必要
①一人で食事をとることができますか	1	2	3	4
②一人でトイレ（排せつ）ができますか	1	2	3	4
③一人で着替えができますか	1	2	3	4
④一人で顔を洗えますか	1	2	3	4
⑤一人で歯を磨けますか	1	2	3	4
⑥一人でお風呂に入れますか	1	2	3	4
⑦一人で室内を移動できますか	1	2	3	4
⑧一人で外出ができますか	1	2	3	4
⑨一人で車の乗り降りができますか	1	2	3	4
⑩一人で意思の伝達ができますか	1	2	3	4
⑪一人で文字や書類を書けますか	1	2	3	4

問１１　あなたの現在のお住まいは次のどれですか。（○は１つだけ）

１．福祉施設　⇒問12～15へ
２．自分や家族の持ち家
３．民間の借家や賃貸アパート・マンションなど
４．市営・県営住宅、公社・公団住宅
５．社宅や会社の寮、官公社などの住宅
６．その他（　　）

⇒問16～19へ

問１２から問１５は、福祉施設に入所している方のみお答えください

問１２　現在入所している施設の種類は次のどれですか。（○は１つだけ）

1．身体障害者療護施設
2．身体障害者更生施設
3．身体障害者授産施設
4．身体障害者福祉ホーム
5．身体障害児のための入所施設（肢体不自由児施設、重症心身障害児施設など）
6．介護保険施設（特別養護老人ホーム、老人保健施設、介護療養型医療施設）
7．その他の高齢者向け施設（養護老人ホーム、軽費老人ホームなど）
8．その他（　　）

問１３　現在入所している施設での生活に満足していますか。（○は１つだけ）

1．満足
2．どちらかといえば満足
3．どちらかといえば不満
4．不満
5．わからない

問１４　あなたは、将来、どのように暮らしたいですか。（○は１つだけ）

1．今の施設で暮らし続けたい
2．別の福祉施設に移りたい
3．独立して一人で暮らしたい
4．家族や親族と暮らしたい
5．グループホーム等で仲間と暮らしたい
6．その他（　　）
7．わからない

問１５　あなたは、どのような条件が整えば、自宅や地域で生活できると思いますか。（○は３つまで）

1．昼間の介護を頼める人がいること
2．夜間の介護を頼める人がいること
3．食事の心配をしなくていいこと（配食サービスがあるなど）
4．掃除や洗濯等の家事の手伝いを頼める人がいること
5．デイサービスや共同作業所等に通えること
6．ショートステイなど緊急時に宿泊できるところがあること
7．ガイドヘルパーやリフト付自動車・寝台車等の外出支援のサービスがあること
8．主治医や医療機関が近くにあること
9．生活するのに十分な収入があること
10．家族と同居できること
11．グループホーム等の仲間と共同生活できる場があること
12．地域で何でも相談できる相談員や相談窓口があること
13．その他（　　）
14．特にない

問１６から問１９は、福祉施設以外のところで生活されている方のみお答えください

問１６　あなたは、現在、どなたと同居していますか。（○はあてはまるものすべて）

1．配偶者
2．父母
3．祖父母
4．兄弟姉妹
5．子ども・孫（子ども・孫の配偶者含む）
6．その他の家族・親族
7．家族以外の人
8．その他（　　）
9．いない（一人暮らし）

問１７　あなたは身の回りの世話を、主にどなたにしてもらっていますか。（○は１つだけ）

1．配偶者
2．父母
3．祖父母
4．兄弟姉妹
5．子ども・孫（子ども・孫の配偶者含む）
6．その他の家族・親族
7．家族以外の同居人
8．ホームヘルパー・家政婦など
9．ボランティアなど
10．その他（　　）
11．必要だが世話をしてくれる人がいない
12．世話をしてもらう必要がない

問１７－１　（問１７で１～９のいずれかを選んだ方のみお答えください）身の回りの世話をしている方が、万一病気や事故などで、一時的にお世話をすることができなくなったとした場合、どうしますか。（○は１つだけ）

1．同居家族に頼む
2．別居家族や親せきに頼む
3．友人・知人に頼む
4．近所の人に頼む
5．ホームヘルパー等に頼む
6．ボランティアに頼む
7．介助者を雇う
8．施設（短期入所）や病院に頼む
9．その他（　　）
10．特に考えていない
11．必要がない

問１８　現在の住まいで、使い勝手が悪いところや、改造したい（してほしい）ところはありますか。（○はあてはまるものすべて）

1．風呂の段差の解消、すべり止め、手すりの取り付け
2．トイレの洋式化、手すりの取り付け
3．玄関の段差解消
4．廊下や各部屋の段差解消
5．畳や部屋の床をフローリング化
6．洗面台や流し（調理台）を低くする
7．その他（　　）
8．特にない

問１９　あなたは、将来、どのように暮らしたいですか。（○は１つだけ）

１．今の場所で暮らし続けたい	２．福祉施設に入所したい
３．独立して一人で暮らしたい	４．別居している家族や親族と暮らしたい
５．グループホーム等で仲間と暮らしたい	６．その他（　　）
７．わからない	

就労についておたずねします

問２０　あなたは現在仕事をしていますか。

１．仕事をしている（授産施設・共同作業所等を含む）　⇒問20-1～4 へ
２．仕事をしていない　⇒問20-5 へ

問２０－１　（仕事をしている方のみお答えください）あなたはどのような仕事をしていますか。（○は１つだけ）

１．農業・林業・漁業（家族従業を含む）
２．商工サービス自営（家族従業を含む）
３．会社役員・団体役員など
４．常雇い（正社員・正職員）
５．臨時・パート・アルバイトなど
６．授産施設・共同作業所など
７．その他（　　）

問２０－２　（仕事をしている方のみお答えください）仕事はどのような方法で見つけましたか。（○は１つだけ）

１．公共職業安定所（ハローワーク）	２．学校の紹介
３．病院や施設等からの紹介	４．市役所等の行政からの紹介
５．生活支援センター（ピアくるめ等）	６．障害者雇用支援センター
７．新聞・雑誌の求人広告	８．知人・縁故関係
９．自分で探した	１０．その他（　　）
１１．自営などで探す必要がなかった	

問２０－３　（仕事をしている方のみお答えください）あなたが仕事で得る月収は平均してみておよそいくらくらいですか。（○は１つだけ）

１．1万円未満	２．1～3万円未満	３．3～7万円未満
４．7～11万円未満	５．11～15万円未満	６．15～20万円未満
７．20～30万円未満	８．30万円以上	

問２０－４　（仕事をしている方のみお答えください）仕事のことで悩んでいることや困っていることがありますか。（○はあてはまるものすべて）

１．収入が少ない
２．通院や病気・障害を理由に休みを取ることが難しい
３．勤務時間の長さや時間帯が自分にあわない
４．仕事の内容が自分にあわない
５．仕事の内容が難しく、覚えるのがたいへん
６．職場でのコミュニケーションがうまくとれない
７．障害への理解が得にくく、人間関係がむずかしい
８．職場の設備が不十分で障害者にあっていないため使いにくい
９．職場までの通勤がたいへん
１０．障害がない人と比べて、仕事の内容や昇進などに差がある
１１．その他（　　）
１２．特にない

問２０－５　（仕事をしていない方のみお答えください）仕事をしていないのは、主にどのような理由によりますか。（○は１つだけ）

１．在学中である
２．家事をしている
３．通勤手段はあるが、疾病・障害にあった仕事がない
４．疾病・障害にあった通勤手段がない
５．疾病・障害・高齢などで仕事ができない
６．適当な仕事がない
７．仕事をしようとは思わない
８．求職中である
９．職業訓練を行う機会がない
１０．その他（　　）
１１．特に理由はない

問２１　（仕事をしている方もしていない方もお答えください）
あなたが仕事をするうえで、どのような条件整備が必要ですか。（○はあてはまるものすべて）

１．勤務時間や日数の短縮	
２．通勤手段があること	
３．通院などの保障があること	
４．自宅で仕事ができること	
５．賃金が妥当であること	
６．障害にあった仕事であること	
７．職業訓練などで就労のための技術を身につけること	
８．※ジョブコーチ（職場適応援助者）など職場に慣れるまで援助してくれる制度があること	
９．勤務場所に障害者用の設備・機器が整っていること	
１０．周囲が自分を理解してくれること	
１１．職場によい指導者や先輩がいること	
１２．共同作業所や授産施設など福祉的就労の場を確保すること	
１３．その他（　　）	
１４．特にない	

※ジョブコーチ（職場適応援助者）とは、障害のある方の働いている職場へ付き添い、職場の中で人間関係や労働習慣の習得、コミュニケーションの仲立ちなどをお手伝いし、一人で仕事ができるまで手助けする指導員のことです。事業所の方に対する受け入れ体制整備等の助言も行います。

外出についておたずねします

問２２　あなたは、ふだん、外出したいと思うところに、外出できていますか。※家族やガイドヘルパー等のつきそい（外出支援）が必要な方は、つきそいがある状態としてお答えください。（○は１つだけ）

１．できている	２．どちらかといえば、できている
３．どちらかといえば、できていない	４．できていない

問２３　外出の時の移動手段は何ですか。（○はあてはまるものすべて）

１．JR・電車	２．バス	３．タクシー
４．自家用車	５．自転車・バイク	６．車いす
７．徒歩	８．その他（　　）	

問２４　外出するとき、あなたはどのようなことに不便や困難を感じることが多いですか。
（○は３つまで）

１．歩道や建物に階段、段差が多い	
２．視覚障害者用の信号機、点字ブロックなどの設備が少ない	
３．車いすで利用できる交通機関が少ない	
４．駐車場が少ない	
５．障害者用トイレが少ない	
６．歩道や横断歩道などで危険を感じる	
７．エレベーター、エスカレーターが設置されている施設が少ない	
８．道路に自転車などの障害物が多い	
９．付き添いをする人がいない	
１０．困った時、まわりの人が助けてくれない	
１１．まわりの人の目が気になる	
１２．外出に経費がかかりすぎる	
１３．その他（　　）	
１４．特にない	

福祉サービスについておたずねします

問２５　①～⑫の福祉サービスについて、あてはまるものにそれぞれ１つだけ○をつけてください。また、①～④のサービスで、「1（現在利用している）」または「2（近いうちに[5年以内くらい]利用したい）」に○をつけた方は、その下の（　）内に、利用している、または利用したいと思うサービス日数や時間数を記入してください。

	現在利用している	近いうちに(5年以内くらい)利用したい	将来、必要なときがきたら利用したい	利用したいとは思わない・必要ない	わからない
【①～④の記入例】 ※「1」「2」に○をつけた方は、日数や時間数も記入してください	1 月（4）日	2 月（　）日	3	4	5
【⑤～⑫の記入例】	1	2	3	4	5
①ホームヘルパー等による介護や日常生活への支援（ホームヘルプ）	1 週（　）時間	2 週（　）時間	3	4	5
②外出時のつきそいや支援	1 月（　）日	2 月（　）日	3	4	5
③通いで訓練などを受けるサービス（デイサービスやデイケア）	1 月（　）日	2 月（　）日	3	4	5
④施設に短期間入所するサービス（ショートステイ）	1 月（　）日	2 月（　）日	3	4	5
⑤グループホームや※ケアホーム等での共同生活	1	2	3	4	5
⑥福祉施設への入所	1	2	3	4	5
⑦生活自立のための訓練や支援	1	2	3	4	5
⑧働くための訓練や働き続けるための支援	1	2	3	4	5
⑨市役所や生活支援センター（ピアくるめ等）等の相談窓口	1	2	3	4	5
⑩日常生活用具の給付	1	2	3	4	5
⑪点字・朗読・手話等のコミュニケーション支援	1	2	3	4	5
⑫その他 （　　）	1	2	3	4	5

※ケアホーム：入浴や排せつ、食事等の介護その他の日常生活上の世話を受けながら、少人数で共同で生活する住まい。

情報収集についておたずねします

問２６　福祉サービスや福祉制度の情報をどこから得ていますか。（○はあてはまるものすべて）

１．市や県等の窓口	２．市や県の広報紙やチラシ、ホームページなど
３．生活支援センター（ピアくるめ等）	４．障害者相談員や民生委員・児童委員
５．障害者団体	６．家族や友人・知人
７．入所・通所している福祉施設の職員	８．ボランティア等の福祉団体
９．ホームヘルパーや訪問看護師など	１０．病院・診療所・薬局など
１１．学校・職場	１２．新聞・雑誌
１３．テレビ・ラジオ	１４．インターネットやパソコン通信
１５．その他（　　）	１６．特にない

問２７　福祉に関する情報を十分に入手できていますか。（○は１つだけ）

１．十分	２．どちらかといえば十分
３．普通	４．どちらかといえば不十分
５．不十分	６．わからない

問２８　家庭や職場などでインターネットを利用することがありますか。（○はあてはまるものすべて）

１．パソコンで利用している	２．携帯電話で利用している
３．インターネット対応の一般電話で利用している	４．利用しない

問２８－１　（問２８で１～３のいずれかを選んだ方のみお答えください）インターネットをどのようなことに利用していますか。（○はあてはまるものすべて）

１．電子メールの送受信	２．生活や趣味、仕事等に関する情報収集
３．チャットや掲示板等への参加	４．電子商取引（買い物や銀行取引など）
５．ホームページ作成	６．その他（　　）

災害対策についておたずねします

問２９　地震や台風等の大きな災害が起きた場合に、安全の確保などで頼れる人が身近にいますか。

１．いる	２．いない

問２９－１　（問２９で「１．いる」と答えた方のみお答えください）それはどなたですか。（○はあてはまるものすべて）

１．同居の家族	２．近所の別居家族や親戚
３．近所の友人・知人	４．民生委員・児童委員
５．施設の職員や仲間	６．その他（　　）

問３０　地震や台風等の大きな災害が起きた場合、どのようなことが心配ですか。（○は３つまで）

１．正確な情報がなかなか流れてこない	
２．救助を求めることができない	
３．救助を求めてもすぐ来てくれる人がいない	
４．安全なところまで、すぐ避難することができない	
５．まわりの人とのコミュニケーションがとれない	
６．被害状況や避難所の場所、物資の入手方法等がわからない	
７．避難所で障害にあった対応をしてくれるか心配である	
８．必要な薬が手に入らない、治療を受けられない	
９．補装具や日常生活用具が使えなくなる	
１０．酸素ボンベや吸引器、人工呼吸器等が使えなくなる	
１１．その他（　　）	
１２．特にない	

生活全般についておたずねします

問３１　現在の生活の中で困っていることや、将来に対する不安・悩みなどはありますか。（○は３つまで）

１．経済的な不安	２．障害や健康上の心配、悩み
３．住まいの不満、悩み	４．仕事の不満または働く場がない
５．結婚問題の不安、悩み	６．友達がいない
７．家庭内の問題	８．将来の生活が不安
９．周囲の人の理解がない	１０．身辺の世話がかかる
１１．通院、通勤、通学が困難	１２．生きがいを見いだせない
１３．財産の管理が心配	１４．その他（　　）
１５．特にない	

問３２　生活の中で困っていることや、将来に対する不安や悩みを誰（どこ）に相談していますか。（○はあてはまるものすべて）

１．市や県等の職員	２．生活支援センター（ピアくるめ等）の職員等
３．障害者相談員や民生委員・児童委員	４．障害者団体
５．家族	６．友人・知人、近所の人
７．ボランティア等の福祉団体	８．入所・通所している福祉施設の職員
９．ホームヘルパーや訪問看護師など	１０．病院・診療所の医師や看護師など
１１．学校・職場の関係者	１２．その他（　　）
１３．相談する人がいない	

問３３　あなたは、ふだん地域の方とどのようなおつきあいをしていますか。（○はあてはまるものすべて）

１．会えばあいさつしあう程度	
２．世間話をする	
３．一緒に遊んだり、出かけたりする	
４．自治会などの地域活動に一緒に参加する	
５．盆踊りや祭りなどの行事を一緒に楽しむ	
６．サークルなどで趣味やスポーツの活動を一緒に楽しむ	
７．学校や職場の行事に一緒に参加する	
８．入所・通所している施設の行事等で交流する	
９．その他（　　）	
１０．つきあいはしていない	

問３４　あなたが地域の行事や活動に参加しようとした場合、そのさまたげとなることはありますか。（○はあてはまるものすべて）

1．どのような活動が行われているか知らない
2．費用や手間がかかりすぎる
3．気軽に参加できる活動が少ない
4．一緒に活動する友人・仲間がいない
5．家庭の事情がある（病人がいる、家事・仕事等との都合が難しい）
6．活動場所が近くにない・移動手段がない
7．健康や体力に自信がない
8．コミュニケーションが難しい
9．周囲の理解がない
10．参加したくなるようなものがない
11．参加したいが誘ってもらえない
12．過去に参加したが期待はずれだった
13．その他（　　）
14．特にない
15．参加しようとは思わない

問３５　あなたはこれまでに次のような差別的な扱いを受けたり、いやな思いをしたことがありますか。（○はあてはまるものすべて）

1．病院などで診察を断られたこと
2．県や市などの行政に相談に行ったとき、あなたの話をきちんと聞いてくれなかったこと
3．就学相談に行った時、障害児学校に通学するように強く指導されたこと
4．障害を理由とした不採用や解雇
5．職場の上司や同僚からの不当な扱い
6．ホームヘルパーやガイドヘルパーなどの対応で不愉快な思いをしたこと
7．入所・通所している施設の職員の対応で不愉快な思いをしたこと
8．バス停や駅の構内で駅員の一方的な誘導や指示にあったこと
9．バス、電車、タクシーなどの乗車拒否にあったこと
10．家を借りる時に不動産業者や家主に断られたこと
11．遊園地の乗り物に乗ることを拒否されたこと
12．ホテル・旅館、公衆浴場、飲食店などを利用することを断られたこと
13．住んでいる家の周りの人達から、差別的な扱いをされたこと
14．その他（　　）
15．特にない

福祉全般についておたずねします

問３６　「障害がある人もない人も、ともに生きていくことができる社会こそ普通の社会である。障害がある人も職場で一緒に働いていたり、地域活動やいろいろな催し物にともに参加し、行動できるような社会にすべきである。」という考え方を一般に『ノーマライゼーション』と呼びます。久留米市は、この『ノーマライゼーション』の考え方を活かしたまちづくりをしていると思いますか。（○は１つだけ）

1．そう思う　　2．どちらかといえばそう思う
3．どちらかといえばそう思わない　　4．そう思わない
5．わからない

問３７　今後、障害がある人の自立と福祉の向上のための支援として、久留米市はどのようなことを重点的に進めるべきだと考えますか。（○は５つまで）

1．障害者に対する社会全体の理解を深めるための啓発や教育の充実
2．障害の種類や程度に応じた障害児保育・教育の充実
3．市の審議会や委員会等への障害者の参画（登用）
4．就労支援の充実（働くための訓練や職業紹介、働く場の確保、就労後の指導や支援など）
5．年金や手当などの充実
6．公営住宅への障害者優先入居など住宅施策の充実
7．グループホームなどの地域で共同生活できる住まいの整備
8．機能回復訓練などリハビリテーションの充実
9．在宅生活を支えるための医療の充実
10．通院・治療のための医療費の助成
11．ホームヘルプやデイサービス等の在宅サービスの充実
12．ガイドヘルパー等の外出支援サービスの充実
13．更生施設などの入所できる福祉施設の充実
14．障害者に対する情報提供や相談窓口の充実
15．障害者同士や地域の人等と交流ができる場の整備
16．ボランティアの育成と活動支援
17．文化・スポーツ・レクリエーション等を通じた社会参加の支援
18．緊急時や災害時の支援体制の充実
19．障害者にやさしいまちづくりの推進（公共施設や民間施設、公共交通機関、道路等の※バリアフリー化や※ユニバーサルデザイン化）
20．その他（　　）
21．特にない

※バリアフリー：バリアフリーとは、バリア（障壁）をなくすという意味です。この場合は、建物内の段差を無くしたり、出入口や廊下の幅員を広げるなど、障害者や高齢者などが生活しやすい環境をつくるために、支障となる物理的なバリア（障壁）を取り除くことを意味します。

※ユニバーサルデザイン：バリア（障壁）を除去するというバリアフリーの考え方に対して、あらかじめ障害の有無や年齢、性別、人種等にかかわらず様々な人々が利用しやすいように都市や生活環境をデザインするという考え方のことです。

ここからは、障害があるお子さん（１８歳未満）のことについて、保護者の方におたずねします。

１８歳以上の方は、２０ページに進んでください。

問３８　お子さんの障害について、どこで診断・判定を受けてはっきりしたことがわかりましたか。（○は１つだけ）

１．病院・医院	２．児童相談所
３．肢体不自由児施設	４．保健福祉環境事務所
５．その他（　　）	

問３９　お子さんの障害の状況について、診断・判定を受けた頃、ご家族の皆さんには、どんな苦労、悩み、不安がありましたか。（○は３つまで）

１．障害のことや福祉の制度についての情報が少なかった
２．具体的な相談相手がなかった
３．制度的な検診を早くに実施してほしかった
４．保健福祉環境事務所・病院など専門機関でもっと指導してほしかった
５．適切な療育施設がほしかった
６．適切な医療機関がほしかった
７．子どもの介護・介助の手助けがほしかった
８．家族が働いているため、仕事上に問題が生じた
９．医療費に悩んだ
１０．その他（　　）
１１．特にない

問４０　お子さんの今後の生活や療育、訓練について、どのような希望をお持ちですか。（○は１つだけ）

１．家庭から、治療、訓練を受けられる施設に通わせたい
２．家庭から、治療、訓練を受けられる病院に通わせたい
３．治療、訓練を受けられる施設に入所させたい
４．治療、訓練を受けられる病院に入院させたい
５．その他（　　）
６．特に希望はない

問４１　お子さんは、現在、日中どのように過ごしていますか。または、就学されている学校は、次のうちどれにあたりますか。（○は１つだけ）

未就学	１．保育園	２．幼稚園
	３．通園施設	４．その他（　　）
	５．どこにも通わず、自宅にいる	
小学校（部）	６．普通学級	７．障害児学級
	８．養護学校	９．盲学校
	１０．ろう学校	１１．訪問教育
中学校（部）	１２．普通学級	１３．障害児学級
	１４．養護学校	１５．盲学校
	１６．ろう学校	１７．訪問教育
高校（部）	１８．普通学校	１９．養護学校
	２０．盲学校	２１．ろう学校
専門学校など	２２．専門学校	２３．職業訓練校
	２４．その他（　　）	

問４２　通学中または卒業（卒園）された方におたずねします。次の（1）～（5）のそれぞれにお答えください。

（１）　希望通りの学校や園に入学（入園）できましたか。（○は１つだけ）

１．できた
２．できなかった（理由を具体的に　　）

（２）　入学するにあたって何か条件をつけられましたか。（○は１つだけ）

１．条件なし
２．条件あり（条件を具体的に　　）

（３）　先生の理解はありますか。（○は１つだけ）

１．理解がある
２．まあまあ理解がある
３．理解がない

（４）　友達の理解はありますか。（○は１つだけ）

１．理解がある
２．まあまあ理解がある
３．理解がない

（５）　次のような教育に関する要望がありますか。（○は３つまで）

１．学校教育におけるノーマライゼーションの推進
２．本人が希望する学校に入れるなど、個人のニーズに応じた教育
３．専門知識を持った教職員の加配
４．職業教育の充実
５．障害に関する理解向上
６．ことばの教室など通級制度の充実
７．学校への訪問看護師の派遣
８．障害児学級の教員配置の見直し
９．進路指導の充実
１０．その他（　　）
１１．特にない

問４３　お子さんを育てていくうえで、困っていることや将来に対する不安、悩みなどはありますか。（○は３つまで）

１．教育・学習のこと
２．学友のこと
３．経済上の問題
４．親の死後、子どもの世話をする人がいないこと
５．親の病気、その他で一時的に子どもをみることができないこと
６．自分の時間が持てないこと
７．自分の健康状態
８．本人の健康状態
９．兄弟姉妹の問題
１０．住宅や居室
１１．就職
１２．結婚
１３．社会の無理解
１４．家族の無理解
１５．その他（　　）
１６．特にない

ご協力ありがとうございました。

障害者福祉について、あなたがお考えになっていることがありましたら、
ご自由にお書きください。

◎この調査票はどなたが回答・記入しましたか。

1．本人が全部回答または記入した
2．他の人が本人の意思を確認しながら記入した
3．本人の意思を確認するのは困難であり、他の人が回答または記入した
4．その他（　　）

久留米市
保健福祉サービスニーズ・実態調査
（調査票Ｂ）

【ご協力のお願い】

日頃から久留米市の福祉向上にご協力をいただきまして、ありがとうございます。

久留米市では、平成７年度に「第２次障害者福祉長期行動計画」を策定し、障害のある方が、地域で安心して生活できるように様々な取り組みを進めてきましたが、この度、この計画を見直すこととなりました。

この調査は、計画見直しの基礎資料とするため、市内にお住まいの療育手帳をお持ちの方（約５００人）に、日常生活の状況やご要望などをおうかがいするために行うものです。

なお、この調査票にお名前を書く必要はなく、調査結果は「久留米市の障害者の○○%がこのような要望を持っている」というふうに、すべて統計的な処理にのみ使用します。したがって、あなたのお名前や回答の内容が他の人に知られることはありませんので、安心してお答えください。

お忙しいところお手数をおかけいたしますが、ご理解とご協力をお願いいたします。

平成１８年１月

久留米市長　江藤　守國

記入にあたってのご注意

- この調査票は、できる限りあて名のご本人がお答えください。なお、あて名のご本人が18歳未満の方については、保護者の方にお答えいただく質問もありますので、ご注意ください。
- ご本人の回答や記入が難しい場合は、主に介助されている方や、ご家族の方が、ご本人と相談したり、ご本人の立場にたってお答えください。
- 鉛筆またはボールペンでご記入ください。
- 回答は、あてはまる項目を選んで、その番号を○印で囲んでください。
- 質問によっては、回答していただく方が限られる場合がありますので、ことわり書きの指示に従ってお答えください。
- 調査票の記入が終わったら、1月20日までに、同封の返信用封筒に入れて、ポストに入れてください（住所やお名前を書く必要はありません）。

【調査に関するお問い合わせ先】
久留米市健康福祉部障害者福祉課　　電　話：0942－30－9035
保健福祉サービスニーズ・実態調査担当　　ＦＡＸ：0942－30－9752

あなた自身のことについて、おたずねします

問１　あなたの性別、年齢についておたずねします。

（1）性別	1．男性　　2．女性
（2）年齢	満（　　）歳

問２　あなたの生活費は、主に、次のどれによってまかなわれていますか。（○は１つだけ）

1．自分の年金や手当　　2．自分の就労等による収入
3．家族の年金や手当　　4．家族の就労等による収入
5．その他（　　）

問３　あなたの「療育手帳」の判定は、次のどれですか。（○は１つだけ）

1．A　　2．A1　　3．A2　　4．A3
5．B　　6．B1　　7．B2

問４　あなたが療育手帳の交付を受けたのは何歳のころですか。

満（　　）歳のころ

問５　あなたは「身体障害者手帳」を持っていますか。

1．持っている　　2．持っていない

問５－１　（身体障害者手帳を持っている方のみお答えください）「身体障害者手帳」による等級は次のどれですか。

等級の数字に○印 ⟶ 1　2　3　4　5　6　級

問５－２　（身体障害者手帳を持っている方のみお答えください）どのような障害（障害の部位）ですか。（○はあてはまるものすべて）

1．視覚	2．聴覚	3．平衡機能
4．音声・言語・そしゃく機能	5．上肢	6．下肢
7．右または左上下肢	8．両上下肢	9．体幹
10．心臓	11．腎臓	12．呼吸器
13．ぼうこう	14．直腸	15．小腸

16．その他（　　）

問６　次の診断を受けたことがありますか。（○はあてはまるものすべて）

１．ダウン症	２．自閉症	３．情緒障害
４．精神発達遅滞	５．脳性マヒ	６．小児マヒ
７．てんかん	８．その他（　　）	９．診断はでていない

【４０歳以上の方のみお答えください】

問７　介護保険の要介護認定を受けていますか。（○は１つだけ）

１．「要支援」と認定	２．「要介護１」と認定
３．「要介護２」と認定	４．「要介護３」と認定
５．「要介護４」と認定	６．「要介護５」と認定
７．要介護認定を受けて「非該当」になった	８．要介護認定は受けていない

生活状況についておたずねします

問８　あなたは、次のような動作が一人でできますか。①から⑩までのそれぞれの項目について、あてはまるものに１つずつ○をつけてください。※補装具を使用した状態でお答えください。

	一人でできる	ｱﾄﾞﾊﾞｲｽがあれば一人でできる	ｱﾄﾞﾊﾞｲｽと介助が必要	全面介助が必要
①一人で食事をとることができますか	1	2	3	4
②一人でトイレ（排せつ）ができますか	1	2	3	4
③一人で着替えができますか	1	2	3	4
④一人で顔を洗えますか	1	2	3	4
⑤一人で歯を磨けますか	1	2	3	4
⑥一人でお風呂に入れますか	1	2	3	4
⑦一人で室内を移動できますか	1	2	3	4
⑧一人で外出ができますか	1	2	3	4
⑨一人で意思の伝達ができますか	1	2	3	4
⑩一人で自分の考え等を文字で書くことができますか	1	2	3	4

問９　あなたの現在のお住まいは次のどれですか。（○は１つだけ）

１．福祉施設　⇒問10～13へ
２．自分や家族の持ち家
３．民間の借家や賃貸アパート・マンションなど
４．市営・県営住宅、公社・公団住宅
５．社宅や会社の寮、官公社などの住宅
６．グループホームなどの共同生活ができる住まい
７．その他（　　）

⇒問14～17へ

問１０から問１３は、福祉施設に入所している方のみお答えください

問１０　現在入所している施設の種類は次のどれですか。（○は１つだけ）

１．知的障害者更生施設	２．知的障害者授産施設
３．知的障害者福祉ホーム	４．知的障害者通勤寮
５．知的障害児のための入所施設（知的障害児施設、重症心身障害児施設など）	
６．介護保険施設（特別養護老人ホーム、老人保健施設、介護療養型医療施設）	
７．その他の高齢者向け施設（養護老人ホーム、軽費老人ホームなど）	
８．その他（　　）	

問１１　現在入所している施設での生活に満足していますか。（○は１つだけ）

１．満足	２．どちらかといえば満足	３．どちらかといえば不満
４．不満	５．わからない	

問１２　あなたは、将来、どのように暮らしたいですか。（○は１つだけ）

１．今の施設で暮らし続けたい	２．別の福祉施設に移りたい
３．独立して一人で暮らしたい	４．家族や親族と暮らしたい
５．グループホーム等で仲間と暮らしたい	６．その他（　　）
７．わからない	

問１３　あなたは、どのような条件が整えば、自宅や地域で生活できると思いますか。
（○は３つまで）

１．昼間の介護を頼める人がいること
２．夜間の介護を頼める人がいること
３．食事の心配をしなくていいこと（配食サービスがあるなど）
４．掃除や洗濯等の家事の手伝いを頼める人がいること
５．デイサービスや共同作業所等に通えること
６．ショートステイなど緊急時に宿泊できるところがあること
７．ガイドヘルパーやリフト付自動車・寝台車等の外出支援のサービスがあること
８．主治医や医療機関が近くにあること
９．生活するのに十分な収入があること
１０．家族と同居できること
１１．グループホーム等の仲間と共同生活できる場があること
１２．地域で何でも相談できる相談員や相談窓口があること
１３．その他（　　）
１４．特にない

問１４から問１７は、福祉施設以外のところで生活されている方のみお答えください

問１４　あなたは、現在、どなたと同居していますか。（○はあてはまるものすべて）

１．配偶者
２．父母
３．祖父母
４．兄弟姉妹
５．子ども・孫（子ども・孫の配偶者含む）
６．その他の家族・親族
７．家族以外の人
８．その他（　　）
９．いない（一人暮らし）

問１５　あなたは身の回りの世話を、主にどなたにしてもらっていますか。（○は１つだけ）

１．配偶者
２．父母
３．祖父母
４．兄弟姉妹
５．子ども・孫（子ども・孫の配偶者含む）
６．その他の家族・親族
７．家族以外の同居人
８．ホームヘルパー・家政婦など
９．ボランティアなど
１０．その他（　　）
１１．必要だが世話をしてくれる人がいない
１２．世話をしてもらう必要がない

問１５－１　（問１５で１～９のいずれかを選んだ方のみお答えください）身の回りの世話をしている方が、万一病気や事故などで、一時的にお世話をすることができなくなったとした場合、どうしますか。（○は１つだけ）

１．同居家族に頼む
２．別居家族や親せきに頼む
３．友人・知人に頼む
４．近所の人に頼む
５．ホームヘルパー等に頼む
６．ボランティアに頼む
７．介助者を雇う
８．施設（短期入所）や病院に頼む
９．その他（　　）
１０．特に考えていない
１１．必要がない

問１６　現在の住まいで、使い勝手が悪いところや、改造したい（してほしい）ところはありますか。（○はあてはまるものすべて）

１．風呂の段差の解消、すべり止め、手すりの取り付け
２．トイレの洋式化、手すりの取り付け
３．玄関の段差解消
４．廊下や各部屋の段差解消
５．畳や部屋の床をフローリング化
６．洗面台や流し（調理台）を低くする
７．その他（　　）
８．特にない

問１７　あなたは、将来、どのように暮らしたいですか。（○は１つだけ）

１．今の場所で暮らし続けたい
２．福祉施設に入所したい
３．独立して一人で暮らしたい
４．別居している家族や親族と暮らしたい
５．グループホーム等で仲間と暮らしたい
６．その他（　　）
７．わからない

就労についておたずねします

問１８　あなたは現在仕事をしていますか。

１．仕事をしている（授産施設・共同作業所等を含む）　⇒問18-1～4 へ
２．仕事をしていない　⇒問18-5 へ

問１８－１　（仕事をしている方のみお答えください）あなたはどのような仕事をしていますか。（○は１つだけ）

１．農業・林業・漁業（家族従業を含む）
２．商工サービス自営（家族従業を含む）
３．会社役員・団体役員など
４．常雇い（正社員・正職員）
５．臨時・パート・アルバイトなど
６．授産施設・共同作業所など
７．その他（　　）

問１８－２　（仕事をしている方のみお答えください）仕事はどのような方法で見つけましたか。（○は１つだけ）

１．公共職業安定所（ハローワーク）
２．学校の紹介
３．病院や施設等からの紹介
４．市役所等の行政からの紹介
５．生活支援センター（ピアくるめ等）
６．障害者雇用支援センター
７．新聞・雑誌の求人広告
８．知人・縁故関係
９．自分で探した
１０．その他（　　）
１１．自営などで探す必要がなかった

問１８－３　（仕事をしている方のみお答えください）あなたが仕事で得る月収は平均しておよそいくらくらいですか。（○は１つだけ）

１．1万円未満
２．1～3万円未満
３．3～7万円未満
４．7～11万円未満
５．11～15万円未満
６．15～20万円未満
７．20～30万円未満
８．30万円以上

問１８－４　（仕事をしている方のみお答えください）仕事のことで悩んでいることや困っていることがありますか。（○はあてはまるものすべて）

１．収入が少ない
２．通院や病気・障害を理由に休みを取ることが難しい
３．勤務時間の長さや時間帯が自分にあわない
４．仕事の内容が自分にあわない
５．仕事の内容が難しく、覚えるのがたいへん
６．職場でのコミュニケーションがうまくとれない
７．障害への理解が得にくく、人間関係がむずかしい
８．職場の設備が不十分で障害者にあっていないため使いにくい
９．職場までの通勤がたいへん
１０．障害がない人と比べて、仕事の内容や昇進などに差がある
１１．その他（　　）
１２．特にない

問１８－５　（仕事をしていない方のみお答えください）仕事をしていないのは、主にどのような理由によりますか。（○は１つだけ）

１．在学中である
２．家事をしている
３．通勤手段はあるが、疾病・障害にあった仕事がない
４．疾病・障害にあった通勤手段がない
５．疾病・障害・高齢などで仕事ができない
６．適当な仕事がない
７．仕事をしようとは思わない
８．求職中である
９．職業訓練を行う機会がない
１０．その他（　　）
１１．特に理由はない

問１９　（仕事をしている方もしていない方もお答えください）
あなたが仕事をするうえで、どのような条件整備が必要ですか。（○はあてはまるものすべて）

１．勤務時間や日数の短縮	
２．通勤手段があること	
３．通院などの保障があること	
４．自宅で仕事ができること	
５．賃金が妥当であること	
６．障害にあった仕事であること	
７．職業訓練などで就労のための技術を身につけること	
８．※ジョブコーチ（職場適応援助者）など職場に慣れるまで援助してくれる制度があること	
９．勤務場所に障害者用の設備・機器が整っていること	
１０．周囲が自分を理解してくれること	
１１．職場によい指導者や先輩がいること	
１２．共同作業所や授産施設など福祉的就労の場を確保すること	
１３．その他（　　）	
１４．特にない	

※ジョブコーチ（職場適応援助者）とは、障害のある方の働いている職場へ付き添い、職場の中で人間関係や労働習慣の習得、コミュニケーションの仲立ちなどをお手伝いし、一人で仕事ができるまで手助けする指導員のことです。事業所の方に対する受け入れ体制整備等の助言も行います。

外出についておたずねします

問２０　あなたは、ふだん、外出したいと思うところに、外出できていますか。※家族やガイドヘルパー等のつきそい（外出支援）が必要な方は、つきそいがある状態としてお答えください。（○は１つだけ）

１．できている	２．どちらかといえば、できている
３．どちらかといえば、できていない	４．できていない

問２１　外出の時の移動手段は何ですか。（○はあてはまるものすべて）

１．JR・電車	２．バス	３．タクシー
４．自家用車	５．自転車・バイク	６．車いす
７．徒歩	８．その他（　　）	

問２２　外出するとき、あなたはどのようなことに不便や困難を感じることが多いですか。
（○は３つまで）

１．歩道や建物に階段、段差が多い	
２．視覚障害者用の信号機、点字ブロックなどの設備が少ない	
３．車いすで利用できる交通機関が少ない	
４．駐車場が少ない	
５．障害者用トイレが少ない	
６．歩道や横断歩道などで危険を感じる	
７．エレベーター、エスカレーターが設置されている施設が少ない	
８．道路に自転車などの障害物が多い	
９．付き添いをする人がいない	
１０．困った時、まわりの人が助けてくれない	
１１．まわりの人の目が気になる	
１２．外出に経費がかかりすぎる	
１３．その他（　　）	
１４．特にない	

福祉サービスについておたずねします

問２３　①～⑫の福祉サービスについて、あてはまるものにそれぞれ１つだけ○をつけてください。また、①～④のサービスで、「1（現在利用している）」または「2（近いうちに[5年以内くらい]利用したい）」に○をつけた方は、その下の（　）内に、利用している、または利用したいと思うサービス日数や時間数を記入してください。

	現在利用している	近いうちに(5年以内くらい)利用したい	将来、必要なときがきたら利用したい	利用したいとは思わない・必要ない	わからない
【①～④の記入例】 ※「1」「2」に○をつけた方は、日数や時間数も記入してください	(1) 月（4）日	2 月（　）日	3	4	5
【⑤～⑫の記入例】	1	2	3	(4)	5
①ホームヘルパー等による介護や日常生活への支援（ホームヘルプ）	1 週（　）時間	2 週（　）時間	3	4	5
②外出時のつきそいや支援	1 月（　）日	2 月（　）日	3	4	5
③通いで訓練などを受けるサービス（デイサービスやデイケア）	1 月（　）日	2 月（　）日	3	4	5
④施設に短期間入所するサービス（ショートステイ）	1 月（　）日	2 月（　）日	3	4	5
⑤グループホームや※ケアホーム等での共同生活	1	2	3	4	5
⑥福祉施設への入所	1	2	3	4	5
⑦生活自立のための訓練や支援	1	2	3	4	5
⑧働くための訓練や働き続けるための支援	1	2	3	4	5
⑨市役所や生活支援センター（ピアくるめ等）等の相談窓口	1	2	3	4	5
⑩日常生活用具の給付	1	2	3	4	5
⑪点字・朗読・手話等のコミュニケーション支援	1	2	3	4	5
⑫その他 （　　）	1	2	3	4	5

※ケアホーム：入浴や排せつ、食事等の介護その他の日常生活上の世話を受けながら、少人数で共同で生活する住まい。

問２４　障害がある方が、地域で自立して生活できるように、ご本人の意思に基づいて、福祉サービスの利用手続きや生活費・財産管理のお手伝いなどをする制度として、「地域福祉権利擁護事業」や「成年後見制度」があります。あなたはこのような制度や事業をご存知ですか。（○は１つだけ）

１．知っている	２．聞いたことはあるが、くわしくは知らない
３．知らない	

問２５　「地域福祉権利擁護事業」や「成年後見制度」を利用したいと思いますか。（○は１つだけ）

１．利用している	２．すぐにでも利用したい
３．今は必要ないが、将来利用してみたい	４．利用したくない
５．わからない	

情報収集についておたずねします

問２６　福祉サービスや福祉制度の情報をどこから得ていますか。（○はあてはまるものすべて）

１．市や県等の窓口	２．市や県の広報紙やチラシ、ホームページなど
３．生活支援センター（ピアくるめ等）	４．障害者相談員や民生委員・児童委員
５．障害者団体	６．家族や友人・知人
７．入所・通所している福祉施設の職員	８．ボランティア等の福祉団体
９．ホームヘルパーや訪問看護師など	１０．病院・診療所・薬局など
１１．学校・職場	１２．新聞・雑誌
１３．テレビ・ラジオ	１４．インターネットやパソコン通信
１５．その他（　　）	１６．特にない

問２７　福祉に関する情報を十分に入手できていますか。（○は１つだけ）

１．十分	２．どちらかといえば十分
３．普通	４．どちらかといえば不十分
５．不十分	６．わからない

問２８　家庭や職場などでインターネットを利用することがありますか。（○はあてはまるものすべて）

１．パソコンで利用している	２．携帯電話で利用している
３．インターネット対応の一般電話で利用している	４．利用しない

問２８－１　（問２８で１～３のいずれかを選んだ方のみお答えください）インターネットをどのようなことに利用していますか。（○はあてはまるものすべて）

１．電子メールの送受信	２．生活や趣味、仕事等に関する情報収集
３．チャットや掲示板等への参加	４．電子商取引（買い物や銀行取引など）
５．ホームページ作成	６．その他（　　）

災害対策についておたずねします

問２９　地震や台風等の大きな災害が起きた場合に、安全の確保などで頼れる人が身近にいますか。

１．いる	２．いない

問２９－１　（問２９で「１．いる」と答えた方のみお答えください）それはどなたですか。（○はあてはまるものすべて）

１．同居の家族	２．近所の別居家族や親戚
３．近所の友人・知人	４．民生委員・児童委員
５．施設の職員や仲間	６．その他（　　）

問３０　地震や台風等の大きな災害が起きた場合、どのようなことが心配ですか。（○は３つまで）

１．正確な情報がなかなか流れてこない	
２．救助を求めることができない	
３．救助を求めてもすぐ来てくれる人がいない	
４．安全なところまで、すぐ避難することができない	
５．まわりの人とのコミュニケーションがとれない	
６．被害状況や避難所の場所、物資の入手方法等がわからない	
７．避難所で障害にあった対応をしてくれるか心配である	
８．必要な薬が手に入らない、治療を受けられない	
９．補装具や日常生活用具が使えなくなる	
１０．酸素ボンベや吸引器、人工呼吸器等が使えなくなる	
１１．その他（　　）	
１２．特にない	

生活全般についておたずねします

問３１　現在の生活の中で困っていることや、将来に対する不安・悩みなどはありますか。（○は３つまで）

１．経済的な不安	２．障害や健康上の心配、悩み
３．住まいの不満、悩み	４．仕事の不満または働く場がない
５．結婚問題の不安、悩み	６．友達がいない
７．家庭内の問題	８．将来の生活が不安
９．周囲の人の理解がない	１０．身辺の世話がかかる
１１．通院、通勤、通学が困難	１２．生きがいを見いだせない
１３．財産の管理が心配	１４．その他（　　）
１５．特にない	

問３２　生活の中で困っていることや、将来に対する不安や悩みを誰（どこ）に相談していますか。（○はあてはまるものすべて）

１．市や県等の職員	２．生活支援センター（ピアくるめ等）の職員等
３．障害者相談員や民生委員・児童委員	４．障害者団体
５．家族	６．友人・知人、近所の人
７．ボランティア等の福祉団体	８．入所・通所している福祉施設の職員
９．ホームヘルパーや訪問看護師など	１０．病院・診療所の医師や看護師など
１１．学校・職場の関係者	１２．その他（　　）
１３．相談する人がいない	

問３３　あなたは、ふだん地域の方とどのようなおつきあいをしていますか。（○はあてはまるものすべて）

１．会えばあいさつしあう程度
２．世間話をする
３．一緒に遊んだり、出かけたりする
４．自治会などの地域活動に一緒に参加する
５．盆踊りや祭りなどの行事を一緒に楽しむ
６．サークルなどで趣味やスポーツの活動を一緒に楽しむ
７．学校や職場の行事に一緒に参加する
８．入所・通所している施設の行事等で交流する
９．その他（　　）
１０．つきあいはしていない

問３４　あなたが地域の行事や活動に参加しようとした場合、そのさまたげとなることはありますか。（○はあてはまるものすべて）

１．どのような活動が行われているか知らない
２．費用や手間がかかりすぎる
３．気軽に参加できる活動が少ない
４．一緒に活動する友人・仲間がいない
５．家庭の事情がある（病人がいる、家事・仕事等との都合が難しい）
６．活動場所が近くにない・移動手段がない
７．健康や体力に自信がない
８．コミュニケーションが難しい
９．周囲の理解がない
１０．参加したくなるようなものがない
１１．参加したいが誘ってもらえない
１２．過去に参加したが期待はずれだった
１３．その他（　　）
１４．特にない
１５．参加しようとは思わない

問３５　あなたはこれまでに次のような差別的な扱いを受けたり、いやな思いをしたことがありますか。（○はあてはまるものすべて）

１．病院などで診察を断られたこと
２．県や市などの行政に相談に行ったとき、あなたの話をきちんと聞いてくれなかったこと
３．就学相談に行った時、障害児学校に通学するように強く指導されたこと
４．障害を理由とした不採用や解雇
５．職場の上司や同僚からの不当な扱い
６．ホームヘルパーやガイドヘルパーなどの対応で不愉快な思いをしたこと
７．入所・通所している施設の職員の対応で不愉快な思いをしたこと
８．バス停や駅の構内で駅員の一方的な誘導や指示にあったこと
９．バス、電車、タクシーなどの乗車拒否にあったこと
１０．家を借りる時に不動産業者や家主に断られたこと
１１．遊園地の乗り物に乗ることを拒否されたこと
１２．ホテル・旅館、公衆浴場、飲食店などを利用することを断られたこと
１３．住んでいる家の周りの人達から、差別的な扱いをされたこと
１４．その他（　　）
１５．特にない

福祉全般についておたずねします

問３６　「障害がある人もない人も、ともに生きていくことができる社会こそ普通の社会である。障害がある人も職場で一緒に働いていたり、地域活動やいろいろな催し物にともに参加し、行動できるような社会にすべきである。」という考え方を一般に『ノーマライゼーション』と呼びます。久留米市は、この『ノーマライゼーション』の考え方を活かしたまちづくりをしていると思いますか。（○は１つだけ）

１．そう思う	２．どちらかといえばそう思う
３．どちらかといえばそう思わない	４．そう思わない
５．わからない	

問３７　今後、障害がある人の自立と福祉の向上のための支援として、久留米市はどのようなことを重点的に進めるべきだと考えますか。（○は５つまで）

１．障害者に対する社会全体の理解を深めるための啓発や教育の充実
２．障害の種類や程度に応じた障害児保育・教育の充実
３．市の審議会や委員会等への障害者の参画（登用）
４．就労支援の充実（働くための訓練や職業紹介、働く場の確保、就労後の指導や支援など）
５．年金や手当などの充実
６．公営住宅への障害者優先入居など住宅施策の充実
７．グループホームなどの地域で共同生活できる住まいの整備
８．機能回復訓練などリハビリテーションの充実
９．在宅生活を支えるための医療の充実
１０．通院・治療のための医療費の助成
１１．ホームヘルプやデイサービス等の在宅サービスの充実
１２．ガイドヘルパー等の外出支援サービスの充実
１３．更生施設などの入所できる福祉施設の充実
１４．障害者に対する情報提供や相談窓口の充実
１５．障害者同士や地域の人等と交流ができる場の整備
１６．ボランティアの育成と活動支援
１７．文化・スポーツ・レクリエーション等を通じた社会参加の支援
１８．緊急時や災害時の支援体制の充実
１９．障害者にやさしいまちづくりの推進（公共施設や民間施設、公共交通機関、道路等の※バリアフリー化や※ユニバーサルデザイン化）
２０．その他（　　）
２１．特にない

※バリアフリー：バリアフリーとは、バリア（障壁）をなくすという意味です。この場合は、建物内の段差を無くしたり、出入口や廊下の幅員を広げるなど、障害者や高齢者などが生活しやすい環境をつくるために、支障となる物理的なバリア（障壁）を取り除くことを意味します。

※ユニバーサルデザイン：バリア（障壁）を除去するというバリアフリーの考え方に対して、あらかじめ障害の有無や年齢、性別、人種等にかかわらず様々な人々が利用しやすいように都市や生活環境をデザインするという考え方のことです。

ここからは、障害があるお子さん（１８歳未満）のことについて、保護者の方におたずねします。
１８歳以上の方は、２０ページに進んでください。

問３８　お子さんの障害について、どこで診断・判定を受けてはっきりしたことがわかりましたか。（○は１つだけ）

１．病院・医院	２．児童相談所
３．肢体不自由児施設	４．保健福祉環境事務所
５．その他（　　）	

問３９　お子さんの障害の状況について、診断・判定を受けた頃、ご家族の皆さんには、どんな苦労、悩み、不安がありましたか。（○は３つまで）

１．障害のことや福祉の制度についての情報が少なかった
２．具体的な相談相手がなかった
３．制度的な検診を早くに実施してほしかった
４．保健福祉環境事務所・病院など専門機関でもっと指導してほしかった
５．適切な療育施設がほしかった
６．適切な医療機関がほしかった
７．子どもの介護・介助の手助けがほしかった
８．家族が働いているため、仕事上に問題が生じた
９．医療費に悩んだ
１０．その他（　　）
１１．特にない

問４０　お子さんの今後の生活や療育、訓練について、どのような希望をお持ちですか。（○は１つだけ）

１．家庭から、治療、訓練を受けられる施設に通わせたい
２．家庭から、治療、訓練を受けられる病院に通わせたい
３．治療、訓練を受けられる施設に入所させたい
４．治療、訓練を受けられる病院に入院させたい
５．その他（　　）
６．特に希望はない

問４１　お子さんは、現在、日中どのように過ごしていますか。または、就学されている学校は、次のうちどれにあたりますか。（○は１つだけ）

未就学	１．保育園 ３．通園施設 ５．どこにも通わず、自宅にいる	２．幼稚園 ４．その他（　　）
小学校（部）	６．普通学級 ８．養護学校 １０．ろう学校	７．障害児学級 ９．盲学校 １１．訪問教育
中学校（部）	１２．普通学級 １４．養護学校 １６．ろう学校	１３．障害児学級 １５．盲学校 １７．訪問教育
高校（部）	１８．普通学校 ２０．盲学校	１９．養護学校 ２１．ろう学校
専門学校など	２２．専門学校 ２４．その他（　　）	２３．職業訓練校

問４２　通学中または卒業（卒園）された方におたずねします。次の（１）～（５）のそれぞれにお答えください。

（１）　希望通りの学校や園に入学（入園）できましたか。（○は１つだけ）

１．できた
２．できなかった（理由を具体的に　　）

（２）　入学するにあたって何か条件をつけられましたか。（○は１つだけ）

１．条件なし
２．条件あり（条件を具体的に　　）

（３）　先生の理解はありますか。（○は１つだけ）

１．理解がある
２．まあまあ理解がある
３．理解がない

（４）　友達の理解はありますか。（○は１つだけ）

１．理解がある
２．まあまあ理解がある
３．理解がない

（５）　次のような教育に関する要望がありますか。（○は３つまで）

１．学校教育におけるノーマライゼーションの推進
２．本人が希望する学校に入れるなど、個人のニーズに応じた教育
３．専門知識を持った教職員の加配
４．職業教育の充実
５．障害に関する理解向上
６．ことばの教室など通級制度の充実
７．学校への訪問看護師の派遣
８．障害児学級の教員配置の見直し
９．進路指導の充実
１０．その他（　　）
１１．特にない

問４３　お子さんを育てていくうえで、困っていることや将来に対する不安、悩みなどはありますか。（○は３つまで）

１．教育・学習のこと
２．学友のこと
３．経済上の問題
４．親の死後、子どもの世話をする人がいないこと
５．親の病気、その他で一時的に子どもをみることができないこと
６．自分の時間が持てないこと
７．自分の健康状態
８．本人の健康状態
９．兄弟姉妹の問題
１０．住宅や居室
１１．就職
１２．結婚
１３．社会の無理解
１４．家族の無理解
１５．その他（　　）
１６．特にない

ご協力ありがとうございました。

障害者福祉について、あなたがお考えになっていることがありましたら、ご自由にお書きください。

◎この調査票はどなたが回答・記入しましたか。

1．本人が全部回答または記入した
2．他の人が本人の意思を確認しながら記入した
3．本人の意思を確認するのは困難であり、他の人が回答または記入した
4．その他（　　）

久留米市
保健福祉サービスニーズ・実態調査
（調査票Ｃ）

【ご協力のお願い】

日頃から久留米市の福祉向上にご協力をいただきまして、ありがとうございます。

久留米市では、平成７年度に「第２次障害者福祉長期行動計画」を策定し、障害のある方が、地域で安心して生活できるように様々な取り組みを進めてきましたが、この度、この計画を見直すこととなりました。

この調査は、計画見直しの基礎資料とするため、通院医療費公費負担制度を利用されている方（約５００人）に、日常生活の状況やご要望などをおうかがいするために行うものです。

なお、この調査票にお名前を書く必要はなく、調査結果は「久留米市の障害者の○○％がこのような要望を持っている」というふうに、すべて統計的な処理にのみ使用します。したがって、あなたのお名前や回答の内容が他の人に知られることはありませんので、安心してお答えください。

お忙しいところお手数をおかけいたしますが、ご理解とご協力をお願いいたします。

平成１８年１月

久留米市長　江藤　守國

記入にあたってのご注意

- この調査票は、できる限りあて名のご本人がお答えください。
- ご本人の回答や記入が難しい場合は、主に介助されている方や、ご家族の方が、ご本人と相談したり、ご本人の立場にたってお答えください。
- 鉛筆またはボールペンでご記入ください。
- 回答は、あてはまる項目を選んで、その番号を○印で囲んでください。
- 質問によっては、回答していただく方が限られる場合がありますので、ことわり書きの指示に従ってお答えください。
- 調査票の記入が終わったら、1月 20 日までに、同封の返信用封筒に入れて、ポストに入れてください（住所やお名前を書く必要はありません）。

【調査に関するお問い合わせ先】

久留米市健康福祉部障害者福祉課　　電　話：0942－30－9035

保健福祉サービスニーズ・実態調査担当　　ＦＡＸ：0942－30－9752

あなた自身のことについて、おたずねします

問１　あなたの性別、年齢についておたずねします。

（１）性別	１．男性　　２．女性
（２）年齢	満（　　）歳

問２　あなたは、どなたと同居していますか。（○はあてはまるものすべて）

１．配偶者　　２．父母
３．祖父母　　４．兄弟姉妹
５．子ども・孫（子ども・孫の配偶者含む）　　６．その他の家族・親族
７．家族以外の人　　８．その他（　　）
９．いない（一人暮らし）

問３　あなたの生活費は、主に、次のどれによってまかなわれていますか。（○は１つだけ）

１．自分の年金や手当　　２．自分の就労等による収入
３．家族の年金や手当　　４．家族の就労等による収入
５．その他（　　）

問４　あなたの現在のお住まいは次のどれですか。（○は１つだけ）

１．自分や家族の持ち家　　２．民間の借家や賃貸アパート・マンションなど
３．市営・県営住宅、公社・公団住宅　　４．社宅や会社の寮、官公社などの住宅
５．グループホームなどの共同生活ができる住まい
６．その他（　　）

問５　あなたが初めて精神科・神経科を受診したのは、何歳のころですか。

満（　　）歳のころ

問６　これまでに精神科・神経科に入院したことがありますか。

１．ある　　２．ない

問６－１　（精神科・神経科に入院したことがある方のみお答えください）何年くらい入院しましたか。２回以上入院した方はおおよそで結構ですから、合計した入院期間を答えてください。（○は１つだけ）

１．６か月～１年未満　　２．１～５年未満
３．５～１０年未満　　４．１０年以上

問７　現在の受診回数は、どれくらいですか。（○は１つだけ）

１．週に１回以上	２．月に２～３回
３．月に１回	４．年に数回
５．その他（　　）	

心身の状況や日常生活についておたずねします

問８　あなたの今の症状はいかがですか。（○は１つだけ）

１．かなり良くなってきている
２．少しずつ良くなってきている
３．あまり変化がない
４．少しずつ悪くなっている
５．かなり悪くなっている
６．良くなったり悪くなったりと不安定である

問９　あなたは、精神的に急に具合が悪くなり、誰かの支援が必要になった場合、家族・親族以外では、誰（どこ）に相談しますか。（○はあてはまるものすべて）

１．主治医やかかりつけの医療機関	２．保健福祉環境事務所や市役所の相談窓口
３．生活支援センター（ピアくるめ等）の職員や※ピアカウンセラー	
４．友人・知人、近所の人	５．保健師
６．ホームヘルパーや訪問看護師など	７．その他（　　）
８．相談するところがない	９．相談しない

※障害がある人が自らの経験を活かして同じ障害がある人の相談にのることを「ピアカウンセリング」といい、「ピアカウンセラー」とはその相談相手となる人のことをさします。

問１０　あなたは、次のようなことが一人でできますか。①から⑦までのそれぞれの項目について、あてはまるものに１つずつ○をつけてください。

	一人でできる	上手ではないが一人できる	時々ｱﾄﾞﾊﾞｲｽや援助が必要	全面的にｱﾄﾞﾊﾞｲｽや援助が必要
①部屋の掃除や整理整とん	1	2	3	4
②衣類の洗濯	1	2	3	4
③日用品などの買い物	1	2	3	4
④食事のしたく	1	2	3	4
⑤服薬管理	1	2	3	4
⑥金銭の管理	1	2	3	4
⑦健康管理	1	2	3	4

問１１　あなたは主に平日の日中はどのように過ごしていますか。（○は１つだけ）

１．仕事に行く
２．仕事に就くための訓練に行く（職業安定所で紹介された職業訓練や保健福祉環境事務所で紹介された事業所など）
３．作業所や授産施設などの作業訓練や生活指導を行う通所施設に行く
４．病院のデイケアに行く
５．生活支援センター（ピアくるめ等）を利用する
６．学校に行く
７．家で過ごす
８．仲間同士で自由に過ごす（仲間同士の集まりなどに参加している）
９．その他（　　）

問１２　あなたは将来の日常生活として、どのようなものを望んでいますか。（○はあてはまるものすべて）

１．いまの家族とずっと暮らしたい
２．結婚したい
３．一人で暮らしたい
４．友達と一緒に暮らしたい
５．障害者同士で生活ができるグループホーム等で暮らしたい
６．病院のデイケアに通いたい
７．共同作業所や授産施設などに通いたい
８．障害をかくさずに働きたい
９．障害をかくしてでも働きたい
１０．自分の収入だけで暮らしたい
１１．薬に頼らなくてもよい生活をしたい
１２．趣味や娯楽を楽しみたい
１３．資格をとったり教養を高めるような生活をしたい
１４．ボランティア活動をしたい
１５．その他（　　）
１６．特に望むものはない

就労についておたずねします

問１３　あなたは現在仕事をしていますか。

１．仕事をしている（授産施設・共同作業所等を含む）⇒問 13-1～4 へ
２．仕事をしていない　⇒問 13-5 へ

問１３－１　（仕事をしている方のみお答えください）あなたはどのような仕事をしていますか。（○は１つだけ）

１．農業・林業・漁業（家族従業を含む）　２．商工サービス自営（家族従業を含む）
３．会社役員・団体役員など　４．常雇い（正社員・正職員）
５．臨時・パート・アルバイトなど　６．授産施設・共同作業所など
７．その他（　　）

問１３－２　（仕事をしている方のみお答えください）仕事はどのような方法で見つけましたか。（○は１つだけ）

１．公共職業安定所（ハローワーク）　２．学校の紹介
３．病院や施設等からの紹介　４．市役所等の行政からの紹介
５．生活支援センター（ピアくるめ等）　６．障害者雇用支援センター
７．新聞・雑誌の求人広告　８．知人・縁故関係
９．自分で探した　１０．その他（　　）
１１．自営などで探す必要がなかった

問１３－３　（仕事をしている方のみお答えください）あなたが仕事で得る月収は平均しておよそいくらくらいですか。（○は１つだけ）

１．1 万円未満　２．1～3 万円未満　３．3～7 万円未満
４．7～11 万円未満　５．11～15 万円未満　６．15～20 万円未満
７．20～30 万円未満　８．30 万円以上

問１３－４　（仕事をしている方のみお答えください）仕事のことで悩んでいることや困っていることがありますか。（○はあてはまるものすべて）

１．収入が少ない
２．通院や病気・障害を理由に休みを取ることが難しい
３．勤務時間の長さや時間帯が自分にあわない
４．仕事の内容が自分にあわない
５．仕事の内容が難しく、覚えるのがたいへん
６．職場でのコミュニケーションがうまくとれない
７．障害への理解が得にくく、人間関係がむずかしい
８．職場の設備が不十分で障害者にあっていないため使いにくい
９．職場までの通勤がたいへん
１０．障害がない人と比べて、仕事の内容や昇進などに差がある
１１．その他（　　）
１２．特にない

問１３－５　（仕事をしていない方のみお答えください）仕事をしていないのは、主にどのような理由によりますか。（○は１つだけ）

１．在学中である
２．家事をしている
３．症状が重く仕事ができない
４．疾病や障害にあった適当な仕事がない
５．仕事をしようとは思わない
６．求職中である
７．職業訓練を行う機会がない
８．その他（　　）
９．特に理由はない

問１４　（仕事をしている方もしていない方もお答えください）
あなたが仕事をするうえで、どのような条件整備が必要ですか。（○はあてはまるものすべて）

１．勤務時間や日数の短縮
２．通勤手段があること
３．通院などの保障があること
４．自宅で仕事ができること
５．賃金が妥当であること
６．障害にあった仕事であること
７．職業訓練などで就労のための技術を身につけること
８．※ジョブコーチ（職場適応援助者）など職場に慣れるまで援助してくれる制度があること
９．勤務場所に障害者用の設備・機器が整っていること
１０．周囲が自分を理解してくれること
１１．職場によい指導者や先輩がいること
１２．共同作業所や授産施設など福祉的就労の場を確保すること
１３．その他（　　）
１４．特にない

※ジョブコーチ（職場適応援助者）とは、障害のある方の働いている職場へ付き添い、職場の中で人間関係や労働習慣の習得、コミュニケーションの仲立ちなどをお手伝いし、一人で仕事ができるまで手助けする指導員のことです。事業所の方に対する受け入れ体制整備等の助言も行います。

外出についておたずねします

問１５　あなたは、ふだん、外出したいと思うところに、外出できていますか。（○は１つだけ）

１．できている　　２．どちらかといえば、できている
３．どちらかといえば、できていない　　４．できていない

問１６　外出の時の移動手段は何ですか。（○はあてはまるものすべて）

１．JR・電車　　２．バス　　３．タクシー
４．自家用車　　５．自転車・バイク　　６．車いす
７．徒歩　　８．その他（　　）

福祉サービスなどについておたずねします

問１７　あなたは「精神障害者保健福祉手帳」を持っていますか。

１．持っている　　２．持っていない

問１７－１　（精神障害者保健福祉手帳を持っている方のみお答えください）「精神障害者保健福祉手帳」による等級は次のどれですか。

等級の数字に○印 ⟶ １　２　３　級

問１７－２　（精神障害者保健福祉手帳を持っていない方のみお答えください）精神障害者保健福祉手帳を持っていない主な理由は何ですか。（○は１つだけ）

１．利用価値（メリット）が少ないから　　２．障害を知られたくないから
３．手続きがわずらわしいから　　４．自分は対象外であると思うから
５．その他（　　）

問１８　①～⑩の福祉サービスについて、あてはまるものにそれぞれ１つだけ○をつけてください。また、①～④のサービスで、「1（現在利用している）」または「2（近いうちに[5 年以内くらい]利用したい）」に○をつけた方は、その下の（　）内に、利用している、または利用したいと思うサービス日数や時間数を記入してください。

	現在利用している	近いうちに(5年以内くらい）利用したい	将来、必要なときがきたら利用したい	利用したいとは思わない・必要ない	わからない
【①～④の記入例】 ※「1」「2」に○をつけた方は、日数や時間数も記入してください	(1) 月（4）日	2 月（　）日	3	4	5
【⑤～⑩の記入例】	1	2	3	(4)	5
①ホームヘルパー等による介護や日常生活への支援（ホームヘルプ）	1 週（　）時間	2 週（　）時間	3	4	5
②外出時のつきそいや支援	1 月（　）日	2 月（　）日	3	4	5
③通いで訓練などを受けるサービス（デイサービスやデイケア）	1 月（　）日	2 月（　）日	3	4	5
④施設に短期間入所するサービス（ショートステイ）	1 月（　）日	2 月（　）日	3	4	5
⑤グループホームや※ケアホーム等での共同生活	1	2	3	4	5
⑥福祉施設への入所	1	2	3	4	5
⑦生活自立のための訓練や支援	1	2	3	4	5
⑧働くための訓練や働き続けるための支援	1	2	3	4	5
⑨市役所や生活支援センター（ピアくるめ等）等の相談窓口	1	2	3	4	5
⑩その他 （　　）	1	2	3	4	5

※ケアホーム：入浴や排せつ、食事等の介護その他の日常生活上の世話を受けながら、少人数で共同で生活する住まい。

問１９　今後、あなたがさらに充実した生活を送るためには、どのような支援が必要だと思いますか。（○はあてはまるものすべて）

１．昼間の行き場所（デイケア・当事者グループの集まりなど）
２．公営住宅への優先入居や家賃の減額・免除制度
３．アパートや借家を借りるときの公的保証人制度
４．掃除や料理、洗濯などを支援してくれるホームヘルパーの派遣
５．配食提供サービス
６．24 時間いつでも相談できる体制や身近な相談相手（精神保健福祉ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ、当事者ｸﾞﾙｰﾌﾟ）
７．地域生活支援センターでの支援（仲間との交流の場の提供や、情報提供・相談など）
８．ショートステイ（短期宿泊施設）
９．共同作業所や授産施設など福祉的就労の場の確保
１０．その他（　　）
１１．特にない

問２０　障害がある方が、地域で自立して生活できるように、ご本人の意思に基づいて、福祉サービスの利用手続きや生活費・財産管理のお手伝いなどをする制度として、「地域福祉権利擁護事業」や「成年後見制度」があります。あなたはこのような制度や事業をご存知ですか。（○は１つだけ）

１．知っている　　２．聞いたことはあるが、くわしくは知らない
３．知らない

問２１　「地域福祉権利擁護事業」や「成年後見制度」を利用したいと思いますか。（○は１つだけ）

１．利用している　　２．すぐにでも利用したい
３．今は必要ないが、将来利用してみたい　　４．利用したくない
５．わからない

情報収集についておたずねします

問２２　福祉サービスや福祉制度の情報をどこから得ていますか。（○はあてはまるものすべて）

１．市や県等の窓口　　２．市や県の広報紙やチラシ、ホームページなど
３．生活支援センター（ピアくるめ等）　　４．障害者相談員や民生委員・児童委員
５．障害者団体　　６．家族や友人・知人
７．ボランティア等の福祉団体　　８．ホームヘルパーや訪問看護師など
９．病院・診療所・薬局など　　１０．学校・職場・福祉施設
１１．新聞・雑誌　　１２．テレビ・ラジオ
１３．インターネットやパソコン通信　　１４．その他（　　）
１５．特にない

問２３　福祉に関する情報を十分に入手できていますか。（○は１つだけ）

１．十分	２．どちらかといえば十分
３．普通	４．どちらかといえば不十分
５．不十分	６．わからない

問２４　家庭や職場などでインターネットを利用することがありますか。（○はあてはまるものすべて）

１．パソコンで利用している	２．携帯電話で利用している
３．インターネット対応の一般電話で利用している	４．利用しない

問２４－１　（問２４で１～３のいずれかを選んだ方のみお答えください）インターネットをどのようなことに利用していますか。（○はあてはまるものすべて）

１．電子メールの送受信	２．生活や趣味、仕事等に関する情報収集
３．チャットや掲示板等への参加	４．電子商取引（買い物や銀行取引など）
５．ホームページ作成	６．その他（　　）

災害対策についておたずねします

問２５　地震や台風等の大きな災害が起きた場合に、安全の確保などで頼れる人が身近にいますか。

１．いる	２．いない

問２５－１　（問２５で「１．いる」を選んだ方のみお答えください）それはどなたですか。（○はあてはまるものすべて）

１．同居の家族	２．近所の別居家族や親戚
３．近所の友人・知人	４．民生委員・児童委員
５．その他（　　）	

問２６　地震や台風等の大きな災害が起きた場合、どのようなことが心配ですか。（○は３つまで）

１．正確な情報がなかなか流れてこない
２．救助を求めることができない
３．救助を求めてもすぐ来てくれる人がいない
４．安全なところまで、すぐ避難することができない
５．まわりの人とのコミュニケーションがとれない
６．被害状況や避難所の場所、物資の入手方法等がわからない
７．避難所で障害にあった対応をしてくれるか心配である
８．必要な薬が手に入らない、治療を受けられない
９．その他（　　）
１０．特にない

生活全般についておたずねします

問２７　現在の生活の中で困っていることや、将来に対する不安・悩みなどはありますか。（○は３つまで）

１．経済的な不安	２．障害や健康上の心配、悩み
３．住まいの不満、悩み	４．仕事の不満または働く場がない
５．結婚問題の不安、悩み	６．友達がいない
７．家庭内の問題	８．将来の生活が不安
９．周囲の人の理解がない	１０．身辺の世話がかかる
１１．通院、通勤、通学が困難	１２．生きがいを見いだせない
１３．財産の管理が心配	１４．その他（　　）
１５．特にない	

問２８　生活の中で困っていることや、将来に対する不安や悩みを誰（どこ）に相談していますか。（○はあてはまるものすべて）

１．市や県等の職員	２．生活支援センター（ピアくるめ等）の職員等
３．障害者相談員や民生委員・児童委員	４．障害者団体
５．家族	６．友人・知人、近所の人
７．ボランティア等の福祉団体	８．ホームヘルパーや訪問看護師など
９．病院・診療所の医師や看護師など	１０．学校・職場・福祉施設の関係者
１１．その他（　　）	１２．相談する人がいない

問２９　あなたは、将来、どのように暮らしたいですか。（○は１つだけ）

１．今の場所で暮らし続けたい	２．福祉施設に入所したい
３．独立して一人で暮らしたい	４．別居している家族や親族と暮らしたい
５．グループホーム等で仲間と暮らしたい	６．その他（　　）
７．わからない	

問３０　あなたは、ふだん地域の方とどのようなおつきあいをしていますか。（○はあてはまるものすべて）

１．会えばあいさつしあう程度
２．世間話をする
３．一緒に遊んだり、出かけたりする
４．自治会などの地域活動に一緒に参加する
５．盆踊りや祭りなどの行事を一緒に楽しむ
６．サークルなどで趣味やスポーツの活動を一緒に楽しむ
７．学校や職場の行事に一緒に参加する
８．その他（　　）
９．つきあいはしていない

問３１　あなたが地域の行事や活動に参加しようとした場合、そのさまたげとなることはありますか。（○はあてはまるものすべて）

１．どのような活動が行われているか知らない
２．費用や手間がかかりすぎる
３．気軽に参加できる活動が少ない
４．一緒に活動する友人・仲間がいない
５．家庭の事情がある（病人がいる、家事・仕事等との都合が難しい）
６．活動場所が近くにない・移動手段がない
７．健康や体力に自信がない
８．コミュニケーションが難しい
９．周囲の理解がない
１０．参加したくなるようなものがない
１１．参加したいが誘ってもらえない
１２．過去に参加したが期待はずれだった
１３．その他（　　）
１４．特にない
１５．参加しようとは思わない

問３２　あなたはこれまでに次のような差別的な扱いを受けたり、いやな思いをしたことがありますか。（○はあてはまるものすべて）

１．病院などで診察を断られたこと
２．県や市などの行政に相談に行ったとき、あなたの話をきちんと聞いてくれなかったこと
３．就学相談に行った時、障害児学校に通学するように強く指導されたこと
４．障害を理由とした不採用や解雇
５．職場の上司や同僚からの不当な扱い
６．ホームヘルパーやガイドヘルパーから子ども扱いされるなど不愉快な思いをしたこと
７．バス停や駅の構内で駅員の一方的な誘導や指示にあったこと
８．バス、電車、タクシーなどの乗車拒否にあったこと
９．家を借りる時に不動産業者や家主に断られたこと
１０．遊園地の乗り物に乗ることを拒否されたこと
１１．ホテル・旅館、公衆浴場、飲食店などを利用することを断られたこと
１２．住んでいる家の周りの人達から、差別的な扱いをされたこと
１３．その他（　　）
１４．特にない

福祉全般についておたずねします

問３３　「障害がある人もない人も、ともに生きていくことができる社会こそ普通の社会である。障害がある人も職場で一緒に働いていたり、地域活動やいろいろな催し物にともに参加し、行動できるような社会にすべきである。」という考え方を一般に『ノーマライゼーション』と呼びます。久留米市は、この『ノーマライゼーション』の考え方を活かしたまちづくりをしていると思いますか。（○は１つだけ）

１．そう思う　　２．どちらかといえばそう思う
３．どちらかといえばそう思わない　　４．そう思わない
５．わからない

問３４　今後、障害がある人の自立と福祉の向上のための支援として、久留米市はどのようなことを重点的に進めるべきだと考えますか。（○は５つまで）

１．障害者に対する社会全体の理解を深めるための啓発や教育の充実
２．障害の種類や程度に応じた障害児保育・教育の充実
３．市の審議会や委員会等への障害者の参画（登用）
４．就労支援の充実（働くための訓練や職業紹介、働く場の確保、就労後の指導や支援など）
５．年金や手当などの充実
６．公営住宅への障害者優先入居など住宅施策の充実
７．グループホームなどの地域で共同生活できる住まいの整備
８．機能回復訓練などリハビリテーションの充実
９．在宅生活を支えるための医療の充実
１０．通院・治療のための医療費の助成
１１．ホームヘルプやデイサービス等の在宅サービスの充実
１２．ガイドヘルパー等の外出支援サービスの充実
１３．更生施設などの入所できる福祉施設の充実
１４．障害者に対する情報提供や相談窓口の充実
１５．障害者同士や地域の人等と交流ができる場の整備
１６．ボランティアの育成と活動支援
１７．文化・スポーツ・レクリエーション等を通じた社会参加の支援
１８．緊急時や災害時の支援体制の充実
１９．障害者にやさしいまちづくりの推進（公共施設や民間施設、公共交通機関、道路等の※バリアフリー化や※ユニバーサルデザイン化）
２０．その他（　　）
２１．特にない

※バリアフリー：バリアフリーとは、バリア（障壁）をなくすという意味です。この場合は、建物内の段差を無くしたり、出入口や廊下の幅員を広げるなど、障害者や高齢者などが生活しやすい環境をつくるために、支障となる物理的なバリア（障壁）を取り除くことを意味します。

※ユニバーサルデザイン：バリア（障壁）を除去するというバリアフリーの考え方に対して、あらかじめ障害の有無や年齢、性別、人種等にかかわらず様々な人々が利用しやすいように都市や生活環境をデザインするという考え方のことです。

ご協力ありがとうございました。

障害者福祉について、あなたがお考えになっていることがありましたら、
ご自由にお書きください。

◎この調査票はどなたが回答・記入しましたか。

1．本人が全部回答または記入した
2．他の人が本人の意思を確認しながら記入した
3．本人の意思を確認するのは困難であり、他の人が回答または記入した
4．その他（　　）